大正八年十二月十二日印刷
大正八年十二月十五日發行

編輯兼發行者　早稻田大學出版部
右代表者　種村宗八
東京府豐多摩郡戸塚町大字下戸塚五十八番地

印刷者　渡邊八太郎
東京市牛込區榎町七番地

印刷所　日清印刷株式會社

發行所　東京市牛込區早稻田
振替東京一一二三番
早稻田大學出版部

傳曰、蘭根與白芷、漸之滫中、君子不近、庶人不服者、所以漸然也、

【講義】大將軍霍光は、天子の政を輔け、公卿大臣と議して曰く、燕王旦は過失を改めず、悔悟せず、惡を行ひて變ぜずと、是に於て、法を修め直斷し、誅罰を行ふ、燕王旦は自殺し、國亡ぶ、前年孝武帝が授けたる策文の指意の如く、其の禍は怨を作すより生じたり、法官は燕王旦の妻子を誅せんと請ふ、孝昭帝は其の骨肉の親なるが爲めに、之を刑するに忍びず、燕王旦の妻子を寬赦し、免して庶人と爲したり、書傳に曰く、蘭根と白芷とは香草なり、然れども、之を米汁の中に浸し置けば、香氣消滅す、故に、君子は之を近けず、庶人は之を服用せずと、蓋し物は四圍の事情に由り、漸次に其の質を變ずるを謂ふなり、

【字解】白芷、香草なり、漸、浸すなり、滫、米を洗ひたる濁水なり、

宣帝初立、推恩宣德、以本始元年中、盡復封燕王旦兩子、一子爲安定侯、立燕故太子建、爲廣陽王、以奉燕王祭祀、

【講義】孝宣帝始めて立ち、恩を推して德を宣べ、本始元年中を以て、復た燕王旦の兩子を封じ、一子を安定侯と爲す、而して燕の故の太子建を立て、廣陽王と爲し、以て燕王の祭祀を奉ぜしむ、

【字解】安定、今の直隸保定府に屬す、廣陽、故の燕王の領邑中に在り、今の直隸順天府良鄉縣なり、

史記國字解第四卷　終

是れ天子の宗族を正す爲めなり、而して外藩の諸侯に天子と同姓の大夫を置く、是れ異姓の宗族を正す爲めなり、周公は成王を輔けて、其の兩弟を誅せり、兩弟は天子の骨肉なれども、其の罪を正して之を罰したり、故に、周は治る、孝武帝の時に、尚能く王を寛容したり、今や皇上始めて立ち、年幼にして春秋に富む、未だ政事を執るに及ばず、大臣に委任す、古昔誅罰を行ふは、父母の情愛を顧みず、法を正して之を斷す、故に、天下治る、方今大臣は天子の政を輔く、故に法を奉じて直行し、敢て顧慮する所無し、恐くは王を寛容する能はざらん、王は宜しく自ら謹むべし、自ら求めて身死し、國滅し、天下の笑と爲る勿れ、

【字解】 公戶滿意、太中大夫の氏名なり、閑雅、文字の意義なり、富于春秋、年幼の形容語なり、阿、媚びて曲げ行ふこと、

於レ是燕王旦、乃恐懼服レ罪、叩頭謝レ過、大臣欲レ和二合骨肉一、難三傷レ之以二法一、

【講義】 是に於て、燕王旦は恐懼し罪に服し、叩頭して過失を謝す、漢廷の大臣は、天子の宗族を和合せんと欲し、法律を以て之を傷害することを憚り、遂に燕王を寛容す、

其後、旦復與二左將軍上官桀等一謀レ反、宣言曰、我次二太子一、太子不レ在、我當レ立、大臣共抑レ我云云、

【講義】 其の後、燕王旦は復た左將軍上官桀等と謀叛し、宣言して曰く、我は太子に次ぐ、故に、太子存在せざれば、我は天子たるべし、然るに、大臣は相依りて、我を抑制す云云、

【字解】 上官桀、氏名なり、此の段は漢書の武五子傳を參看すべし、

大將軍光輔レ政、與二公卿大臣一議曰、燕王旦不レ改レ過悔レ正、行レ惡不レ變、於レ是脩レ法直斷、行二罰誅一、旦自殺、國除、如二其策指一、有司請レ誅二旦妻子一、孝昭以二骨肉之親一、不レ忍レ致レ法、寛二赦旦妻子一、免爲二庶人一、

【講義】漢使が燕王に見ゆる第一日に、宗正は宗室諸劉の族籍を掌る所の官職なるを以て、先づ燕王に見えて、爲めに事を列べて陳述し、孝昭帝は實に孝武帝の子なりとの狀態を明にす、

侍御史乃復見王、責之以正法、問王、欲發兵、罪名明白、當坐之、漢家有正法、王犯纖介小罪過、即行法直斷耳、安能寬王、驚動以文法、王意益下、心恐、

【講義】第二日に至り、侍御史は乃ち復た燕王に見えて、之を責むるに正法を以てし、王に問ひ曰く、兵を發せんと欲すれば、罪名明白なり、刑に當るべし、漢家は正法有り、王が細小なる罪過を犯すも、直に法を以て處斷せんのみ、何ぞ能く王を寬容するを得んやと、斯く陳述し、王を驚動するに法律を以てす、是に於て、燕王は意益、下り、心中に恐懼す、

【字解】坐、刑罰に當ること、纖介、細小なり、文法、法律なり、

公戶滿意習于經術、最後見王、稱引古今通義、國家大禮、文章爾雅、謂王曰、古者天子、必內有異姓大夫、所以正骨肉也、外有同姓大夫、所以正異族也、周公輔成王、誅其兩弟、故治、武帝在時、尚能寬王、今昭帝始立、年幼、富于春秋、未臨政、委任大臣、古者誅罰、不阿親戚、故天下治、方今大臣輔政、奉法直行、無敢所阿、恐不能寬王、王可自謹、無自令身死國滅、爲天下笑、

【講義】第三日に至り、太中大夫公戶滿意は、進み見ゆ、蓋し公戶滿意は經術に通曉したるを以て、最後に燕王に見えたるなり、乃ち古今の通義及び國家の大禮及び文章字義の正解を稱引し、燕王に謂ひ曰く、古昔天子は、必らず中央の帝城に異姓の大夫を置く、

有爭心、不讓之端見矣、於是使使卽斬其使者於闕下、

【講義】既にして孝武帝は年老いて、太子は不幸に薨去し、未だ太子を立てず、是の時に當り、燕王旦の使來り、上書し、燕が長安に入り、宮城に宿衛せんことを請ふ、孝武帝は其の書を觀て、之を地に拋ち、怒り曰く、子を生めば、之を齊魯禮義の鄕に置くを至當とす、乃ち之を燕趙に置く、果して爭心を生じ、相讓らざる端緒の見ゆる有りと、是に於て、使者を發し、直に燕王の使者を漢の北闕の下に斬る、

會武帝崩、昭帝初立、旦果作怨、而望大臣、自以長子當立、與齊王子劉澤等謀爲叛逆、出言曰、我安得弟在者、今立者、乃大將軍子也、欲發兵、事發覺當誅、昭帝緣恩寬忍、抑案不揚、公卿使大臣請、遣宗正與太中大夫公戶滿意、御史二人、偕往使燕、風喩之、到燕各異日、更見責王、

【講義】孝武帝崩御し、孝昭帝始めて立つに至り、燕王は遂に孝武帝の豫想の如く、怨を生じて、大臣を怨望し、自から謂ふ、我は先帝の長子なり、帝位に上るを至當とすと、乃ち齊王の子劉澤等と叛逆を爲すを謀り、宣言して曰く、新帝は先帝の子なりと稱せらる、然れども、我は之を知らず、我は何ぞ弟の存在するを得んや、今の立ちたるものは、是れ大將軍の子なりと、因て兵を發せんと欲す、事件發覺し、其の罪は誅に當る、孝昭帝は恩に緣り寬忍し、案件を抑へて發表せず、公卿は、大臣をして請はしめ、宗正及び太中大夫公戶滿意及び御史を發遣し、三人共に往き、燕に使して燕王に風喩することを命ず、三人乃ち燕に到り、各其の日を異にし、相代り見えて、燕王を責む、

【字解】安、何なり、大將軍、霍光なり、御史二人、公戶滿意と御史とを倂せて二人なり、宗正を倂せて三人と爲る、風、諷なり、

宗正者主宗室諸劉屬籍、先見王爲列陳道昭帝實武帝子狀、

に自殺し、國亡ぶ、

【字解】 祝詛、咒詛なり、

燕土墝埆、北迫匈奴、其人民勇而少慮、故誡之曰、葷粥氏、無有孝行、而禽獸心、以竊盜、侵犯邊民、朕詔將軍、往征其罪、萬夫長、千夫長、三十有二君、皆來降旗奔師、葷粥徙域遠處、北州以安矣、悉若心、無作怨者、勿使從俗以怨望也、無俷德者、勿使上背德也、無廢備者、無乏武備、常備匈奴也、非教士、不得從徵者、言非習禮義、不得在于側也、

【講義】 燕は土地瘦せて惡し、北方に匈奴に接す、其の人民は勇にして思慮に乏し、故に、之を戒めて曰く、北狄は孝行を知らず、禽獸の心を以て、竊盜し、邊境の民を侵害す、朕は將軍に詔し、往きて其の罪を征伐せしむ、是に於て、萬夫の長も、千夫の長も、凡て三十二君は來り服し、其の旗を降し偃せて、漢軍に奔り歸す、北狄は居所を徙して、遠く、潛み、北州は安穩と爲れりと、其の告諭の中に、汝の心を盡し怨を作す勿れといふは、是れ民俗に從ひ怨望を作さしむる勿れとの意なり、德を敗る勿れといふは、是れ上をして德に背かしむる勿れとの意なり、備を廢する勿れといふは、是れ武備を乏しくせず、常に匈奴に備へよとの意なり、教習の士に非ざれば、徵に從ふを得ずといふは、是れ禮義を習ひたる士に非れば、王の側に置くを得ずとの意なり、

【字解】 墝埆、ゲウカクと讀む、瘦せて石多き地なり、葷粥、クンイクと讀む、北狄の一種なり、奔師、漢軍に來り降ること、若、汝なり、俷、敗るなり、

會武帝年老長、而太子不幸薨、未有所立、而旦使來上書、請身入宿衞於長安、孝武見其書、擊地怒曰、生子當置之齊魯禮義之鄉、乃置之燕趙、果

朝陽侯と爲し、一子を平曲侯と爲し、一子を南利侯と爲す、而して最も其の末子弘を愛し、之を立てゝ高密王と爲す、

【字解】朝陽、今の河南南陽府に屬す、平曲、今の江蘇海州に屬す、南利、今の河南汝寧府に屬す、高密、今の山東萊州府に在り、

其後胥果作威福、通楚王使者、楚王宣言曰、我先元王高帝少弟也、封三十二城、今地邑益少、我欲與廣陵王共發兵云、廣陵王爲上、我復王楚三十二城、如元王時、事發覺、公卿有司請行罰誅、天子以骨肉之故、不忍致法於胥、下詔書無治廣陵王、獨誅首惡楚王、傳曰、蓬生麻中、不扶自直、白沙在泥中、與之皆黑者、土地敎化使之然也、

【講義】然るに、其の後に至り、廣陵王胥は孝武帝の豫想の如く、威福を貪らんと欲し、楚王の使者に私通す、楚王は宣言して曰く、我先元王は、高帝の少弟なり、三十二城に封ぜらる、今や封邑は益〻減少したり、我は廣陵王と共に、兵を發せんと欲すと、乃ち云ふ、廣陵王を皇上と爲さん、我は復た楚の三十二城に王たること、元王の時の如くなるを得んと、既にして其の叛逆の事は、發覺す、漢廷の公卿有司は、誅罰を行はんと請ふ、天子は血緣最も近き故を以て、刑を廣陵王に加ふるに忍びず、詔書を下し、廣陵王胥を處分すること無からしむ、而して唯其の首惡なる楚王を誅殺したり、書傳に曰く、曲りたる蓬も、眞直なる麻の中に生ずれば、之を扶持せざるも、自然に蓬をして眞直ならしむ、白き沙も、汚れたる泥の中に在れば、其の泥と共に黑く汚ると、今廣陵王が吳越の風氣を受けて、輕躁に赴きたるは、蓋し土地敎化の然らしむる所なり、

其後、胥復祝詛、謀反、自殺、國除、

【講義】其の後、廣陵王胥は復た呪詛し、謀反し、遂

勿使因輕以倍義也、

【講義】 夫れ廣陵王の封土は、吳越の地に在り、其の民は精銳にして、輕躁なり、故に、之を戒めて曰く、江湖の域は、其の人心輕躁なり、揚州の民は、其の封疆の形勢を恃みて、自から傲り、夏、殷、周の三代に於ても、之を要服の地として、天子より迫り要し、纔に能く中國の風俗に從はしめたるのみ、未だ大に政敎を布くに及ばず、意を以て之を統御したるに過ぎず、愚昧なる勿れ、逸樂を好む勿れ、小人を近くる勿れ、之を法とせよ、之を則とせよ、長く逸樂、馳騁、弋獵、淫康を好む勿れ、以て小人を近くる勿れ、常に法度を念へば、耻辱を免るを得んと、蓋し吳越三江五湖の地は、魚鹽の利有り、銅山の富有り、天下の仰ぎ瞻る所なり、故に、之を戒めて曰く、臣は福を作さずと、是れ財幣を行使することを濫にする勿れ、賞賜を厚く施す勿れ、財幣賞賜を以て、聲譽を買ふ勿れ、聲譽を買ひて、四方人士の歸依する所と爲る勿れといふに在り、且つ戒めて曰く、臣は威を作さずと、是れ人民の輕躁なるに因り、以て義に背くに至らしむる勿れといふに在り、

【字解】 保疆、地勢を恃むなり、侗、愚昧なり、佚、逸樂なり、宵、小なり、邪なり、騁、テイと讀む、馳せ廻るなり、弋、ヨクと讀む、繳射なり、康、樂しみなり、輕、輕躁なり、倍、背くこと、

會孝武帝崩、孝昭帝初立、先朝廣陵王胥、厚賞賜金錢財幣、直三千餘萬、益地百里、邑萬戶、會昭帝崩、宣帝初立、緣恩行義、以本始元年中、裂漢地、盡以封廣陵王胥四子、一子爲朝陽侯、一子爲平曲侯、一子爲南利侯、最愛少子弘、立以爲高密王、

【講義】 既にして、孝武帝崩御し、孝昭帝始めて立つ、乃ち先づ廣陵王胥を長安に入朝せしめ、厚く金錢財幣を賞賜す、其の價三千餘萬に及ぶ、且つ地百里を增封し、邑萬戶を增し與ふ、其の後、孝昭帝崩御し、孝宣帝始めて立つ、復た恩に緣り義を行ひ、本始元年を以て、漢の地を裂き、廣陵王胥の四子を封じ、一子を

此の詔命は尋常の例と思ふ勿れ、凡そ人は德を好むときに、其の心能く明にして、顯光有り、若しも義に鬪らざるときには、君子をして怠慢せしむるに至らん、汝の心を盡して、誠に其の中正の道を執るべし、斯くすれば、天與の福祿は長く至らん、若しも過失有り、不善を行ふときは、乃ち汝の國に凶ならん、汝の身に害有らんと、是に於て、齊王の國は、左右の輔佐を以て、維持するに禮義を以てしたり、故に、其の王は不幸にして、中年早く死したるも、其の身を全くして、過失無きを得たること、此の策文の意の如し、書傳に曰く、青は藍より採りて製出す、然れども、其の成りたる青の質は、原料の藍よりも青しと、是れ教化の然るを致すを謂ふなり、

【字解】 恭、愼み守ること、若、而、兩字とも汝なり、

遠哉、賢主昭然獨見、誡齊王以愼內、誡燕王以無作怨無俷德、誡廣陵王以愼外無作威與福、

【講義】 嗟、其の志慮遠大なるかな、賢主は昭然として獨り能く見る、故に齊王を戒むるに、內政を愼むことを以てし、燕王を戒むるに、怨を作す勿れ、德を敗る勿れといふを以てす、廣陵王を戒むるに、外事を愼むを以てし、且つ威福を貪ること勿れといふを以てす、

【字解】 誡、訓戒なり、俷、敗るなり、此の段は前節の三王封建の策文を參看すべし、

● 夫廣陵在吳越之地、其民精而輕、故誡之曰、江湖之間、其人輕心、揚州保疆、三代之時、迫要使從中國俗服、不大及以政教、以意御之而已、無侗好佚、無邇宵人、維法是則、無長好佚樂馳騁弋獵淫康、而近小人、常念法度、則無羞辱矣、三江五湖、有魚鹽之利、銅山之富、天下所仰、故誡之曰、臣不作福者、勿使行財幣、厚賞賜、以立聲譽、爲四方所歸也、又曰、臣不作威者、

爲レ社、此始受二封于天子一者也、此之謂二主土一、主土者立レ社而奉レ之也、

【講義】 策文に謂ふ所の此の土を受けしむとは、其の意如何、曰く、諸侯王の始めて封建せられたるものは、必らず土を天子の社に受け、其の領國に歸りて之を立て以て國社と爲す、歳時伏臘を以て、之を祠る、春秋の大傳に曰く、天子の國には、泰社有り、東方を青とし、南方を赤とし、西方を白とし、北方を黑とし、上方を黄とす、故に、東方に封を受けんとするものは、青土を取り、南方には赤土を取り、西方には白土を取り、北方には黑土を取り、上方には黄土を取る、各其の色の物を取り、之を包むに白茅を以てし、之を祠りて社と爲す、此れ始めて封土を天子より受くる例式なり、此を主土と稱す、主土とは、社を立て之を奉ずることを謂ふなり、

【字解】 歳時、春秋伏獵なり、上方、中央なり、帝王の首都なり、裹、包むなり、

朕承二祖考一、祖者先也、考者父也、維稽古、維者度也、念也、稽者當也、當二順古一之道一也、

【講義】 朕は祖考より承くとの意は、何ぞや、曰く、祖は先なり、考は父なり、維稽古とは、何ぞや、曰く、維とは度ることをいひ、念ふことをいふ、稽とは當ることをいふ、是れ古の道に當り順ふことを期する意なり、

齊地多二變詐一、不レ習二於禮義一、故戒レ之曰、恭二朕之詔一、唯命不レ可レ爲レ常、人之好レ德、能明顯光、不レ圖二于義一、使二君子怠慢一、悉若二心一信執二其中一、天祿長終、有レ過不レ善乃凶二于而國一、而害二于若身一、齊王之國、左右維持、以二禮義一不幸中年早夭、然全レ身無レ過、如二其策意一、傳曰、靑采二出於藍一、而質靑二於藍一者、敎使レ然也、

【講義】 齊の地は其の人民變詐多し、禮義に習はず、故に、之を戒めて曰く、朕の詔命を愼み守るべし、唯

り、敖倉の積穀有り、天下の要衝なり、漢國の大都なり、先帝以來其の子を洛陽に王としたること無し、洛陽を除き去れば、餘の地は皆可なりと、王夫人は之を聞きて答へず、

【字解】安所、何處なり、雒陽、洛陽なり、阨、アイと讀む、要塞をいふ、

武帝曰、關東之國、無大於齊者、齊東負海、而城郭大、古時獨臨菑、中十萬戶、天下膏腴地、莫盛于齊者矣、王夫人以手擊頭、謝曰、幸甚、王夫人死、而帝痛之、使使者拜之、曰、皇帝謹使使太中大夫明、奉璧一、賜夫人、爲齊王太后、子閎王齊、年少、無有子、立不幸早死、國絕爲郡、天下稱齊不宜王云、

【講義】孝武帝は乃ち王夫人に謂ひ曰く、關東の國は、齊よりも大なるもの無し、齊は東に海を負ひて、城郭壯大なり、古時に於て、十萬戶の大都は、獨り齊の臨菑を見るのみ、蓋し天下肥沃豐富の地は、齊よりも盛なるもの無しと、王夫人は手を以て頭を擊ち謝して曰く、幸甚しと、既にして王夫人死す、帝は之を痛み、使者をして之を拜せしめて、曰く、皇帝は謹みて使者太中大夫明をして、璧一を奉じ、夫人に賜ひ、齊王の太后と爲らしむと、然るに、子閎は齊に王と爲り年少にして子無し、不幸にして早く死し、國絕え亡び、郡と爲る、故に天下は齊を稱して、王に宜しからざる地なりといふと傳へらる、

所謂受此土者、諸侯王始封者、必受土於天子之社、歸立之、以爲國社、以歲時祠之、春秋大傳曰、天子之國有泰社、東方靑、南方赤、西方白、北方黑、上方黃、故將封于東方者、取靑土、封于南方者、取赤土、封于西方者、取白土、封于北方者、取黑土、封于上方者、取黃土、各取其色物、裹以白茅、封以、

夫賢主所作、固非淺聞者所能知、非博聞彊記君子者、所不能究竟其意、至其次序、分絕、文字之上下、簡之參差、長短、皆有意、人莫之能知、謹論次其眞草詔書、編于左方、令覽者自通其意、而解說之、

【講義】 夫れ賢主の作りたる文辭は、淺聞者の能く知る所に非ず、博聞彊記なる君子に非れば、其の意を究め盡す能はず、其の文旨の次序する所も、分絕する所も、文字の上下排置も、文簡の高低長短も、皆賢主が意を用ひたる所なり、他人は能く之を知るもの無し、謹みて玆に其の詔書の原本を論列して、下文に編す、以て覽者をして自ら其の意に通じ、解說するを得しむ、

【字解】 彊、强なり、簡、詔書を書する竹札なり、參差、シンシと讀む、大小高低の貌なり、眞草、書類の原本をいふ、左方、下文なり、

○王夫人者、趙人也、與衞夫人並幸武帝、而生子閎、閎且立爲王、時其母病、武帝自臨問之曰、子當爲王、欲安所置之、王夫人曰、陛下在、妾又何等可言者、帝曰、雖然、意所欲、欲于何所王之、王夫人曰、願置之雒陽、武帝曰、雒陽有武庫、敖倉、天下衝阨、漢國之大都也、先帝以來無子王於雒陽者、去雒陽、餘盡可、王夫人不應、

【講義】 王夫人は、趙の人なり、衞夫人と並に武帝に幸せられて、子閎を生む、閎が王に封ぜられんとする時に、其の母なる王夫人は病に臥す、孝武帝は自から病室に臨御し、之に問ひ曰く、汝の子は王たるべし、何處に之を置かんと欲するかと、王夫人曰く、陛下在り、妾は何の言ふべき有らんや、帝曰く、然りと雖も、汝の意の希望有らん、何處を希望するか、王夫人曰く、願くは之を洛陽に置かん、帝曰く、洛陽は武庫有

然れども、三王を封建するに當り、天子は恭讓し、群臣は義を守る、其の上諭及び奏請の文辭、共に爛然たり、甚だ觀るべきなり、是を以て、之を世家に附す、

【字解】 彊、封ひ界を立つるなり、親親、其の親しむべき所を親みて、宗族相和するをいふ、埶、勢なり、彊、強きなり、爛然、光彩有る貌、

褚先生曰、臣幸得以文學爲侍郎、好覽觀太史公之列傳、列傳中、稱三王世家文辭可觀、求其世家、終不能得、竊從長老好故事者、取其封策書、編列其事、而傳之、令後世得觀賢主之指意、

【講義】 褚先生曰く、臣は幸に文學を以て侍郎と爲るを得たり、好みて太史公の列傳を覽觀す、其の列傳の中に稱して曰く、三王の世家は文辭の觀るべきもの有りと、臣は是に由り、其の謂はゆる三王の世家を求む、然れども、終に之を得る能はず、是に於て、竊に長老の深く故事を好むものに從ひ、三王封建に關する策書を取り、其の事を編列して之を傳へ、後世をして賢主の指意を觀るを得しむ、

【字解】 此の段より、此の篇の終末に至るまで、總て褚先生の文なり、侍郎、次官の如し、

蓋聞、孝武帝之時、同日而倶拜三子、爲王、封一子於齊、一子於廣陵、一子於燕、各因子才力智能及土地之剛柔、人民之輕重、爲作策、以申戒之、謂王、世爲漢藩輔、保國治民、可不敬與、王其戒之、

【講義】 蓋し聞く、孝武帝の時に、同日にして三皇子を並び立て、王と爲す、即ち齊に、廣陵に、燕に、各其の皇子を封建し、其の新王の才力智能及び土地の剛柔人民の輕重に因り、爲めに策文を作り、以て之を諭し戒む、乃ち新王に告げて曰く、世世能く漢の藩輔と爲りて、違ふ勿れ、國を保ち民を治むることは、敬まざるべけんや、王其れ之を戒愼せよと、

は、敬まざるべけんや、王其れ之を戒愼せよ、

【字解】 廣陵、今の江蘇揚州府に在り、赤社、南方の社なり、維稽、度り當てるなり、五湖、南方の地を汎稱す、揚州、廣陵なり、疆、境なり、要服、王城より五百里外の地方にして、政法の行き屆かざる所をいふ、戰戰兢兢、恐れ愼む貌なり、侗、愚なる貌なり、宵人、小人なり、靡、無しなり、佚、逸なり、羞、辱なり、艾、治むなり、

右、廣陵王策、

【講義】 右の文は、廣陵王を封建したるときに、天子の告諭なり其の要旨は、威福を貪る勿れといふに在り、然れども、廣陵王は立つこと六十四年にして、遂に威福を貪らんと圖り、事敗れて、自殺す、

太史公曰、古人有言曰、愛之欲其富、親之欲其貴、故王者疆土建國、封立子弟、所以褒親親、序骨肉、尊先祖、貴支體、廣同姓於天下也、是以形勢彊、而王室安、自古至今、所由來久矣、非有異也、故弗論著也、燕齊之事、無足采者、然封立三王、天子恭讓、群臣守義、文辭爛然、甚可觀也、是以附之世家、

【講義】 太史公曰く、古人の言に云ふ、之れ人を愛すれば其富まんことを希望し、之を親めば其の貴からんことを希望すと、故に、王者は土を疆りて國を建て、子弟を封じ立つ、是れ宗族の相親しむ道を褒め、父子兄弟を列べ整へ、先祖を尊び、分家支體を貴くし、同姓を天下に廣むる爲に設けたる法制なり、是を以て、形勢强くして天子の家は安全と爲る、古昔より今日に至るまで、由來する所は久し、異變有るに非ず、故に、論著せず、燕、齊の事は採錄するに足るもの無し、

右、燕王策

【講義】　右の文は、燕王を封建したるときに、天子の告諭なり、其の要旨は、怨を作す勿れ、德を敗る勿れといふに在り、然れども、燕王は立つこと三十年にして、遂に怨を作し、德を敗り、自殺し、其の國は絶滅したり、

維六年四月乙巳、皇帝使御史大夫湯廟立子胥、爲廣陵王、曰、於戲小子胥、受茲赤社、朕承祖考、維稽古、建爾國家、封于南土、世爲漢藩輔、古人有言曰、大江之南、五湖之間、其人輕心、揚州保疆、三代要服、不及以政、於戲悉爾心、戰戰兢兢、乃惠乃順、毋侗好佚、毋邇宵人、維法維則、書云臣不作威、不作福、靡有後羞、於戲保國艾民、可不敬與、王其戒之、

【講義】　維れ元狩六年四月二十八日、孝武皇帝は御史大夫湯をして、宗廟に至り、子胥を立て、廣陵王と爲さしむ、曰く、嗟小子胥よ、此の南方の社を受けしむ、余は先帝より承け、古の道を度り、之に當るを期す、故に、汝の國家を建て、南土に封ず、世世能く漢の藩輔と爲りて、違ふ勿れ、古人の言に曰く、大江の南方、五湖の地方、其の民心輕躁なり、揚州の人は、其の境域の形勢を恃みて、自から傲り、之を治むるに難し、夏、殷、周の三代に於ても、之を要服の地として、未だ善く政法を布くを得ず、嗟汝の心を盡し、戰戰兢兢として、恐れ愼み、惠を施し行を順にせよ、愚昧なる勿れ、逸樂を好む勿れ、小人を近くる勿れ、之を法とせよ、之を則とせよ、尚書に曰く、臣は威を作す勿れ、臣は福を作す勿れ、臣は威と福とを貪らざるときに、後日の恥辱を免ると、嗟國を保ち民を治むること

く、國は絶滅したり、

維六年四月乙巳、皇帝使御史大夫湯、廟立子旦、爲燕王、曰、於戲小子旦、受茲玄社、朕承祖考、維稽古、建爾國家、封于北土、世爲漢藩輔、於戲葷粥氏、虐老獸心、侵犯寇盜、加以姦巧邊萠、於戲朕命將率、徂征厥罪、萬夫長千夫長、三十有二君、皆來降旗、奔師、葷粥徙域、北州以綏、悉爾心、毋作怨、毋俷德、毋乃廢備、非敎士、不得從徵、於戲保國艾民、可不敬與、王其戒之、

【講義】 維れ元狩六年四月二十八日、孝武帝は、御史大夫湯をして宗廟に至り、子旦を立て燕王と爲さしむ、曰く、嗟小子旦よ、此の北方の社を受けしむ、余は先帝より承け、古の道を度り、之に當るを期す、故に、汝の國家を建て、北土に封ず、世世能く漢の藩輔と爲りて、違ふ勿れ、嗟北狄は老人を虐待して、獸心有り、漢士を侵犯して寇盜を爲す、之に加へて、北方には姦巧なる邊境の民有り、嗟我は將帥に命じて、往き其の罪を征せしむ、是に於て、萬夫の長も、千夫の長も、三十二君皆來り降參し、旗を偃せ漢軍に奔りて、服從す、北狄は其の居所を徙して、北州安穩に歸したり、故に、汝は此の土を治むるに、能く汝の心を盡すべし、怨を作す勿れ、德を敗る勿れ、北狄に向ひて、武備を廢する勿れ、士民に就きて、敎習を怠る勿れ、敎習を經たる士に非ざれば、徵發に從ふに足らず、嗟國を保ち民を治むること、敬まざるべけんや、王其れ之を戒めよ、之を愼めよ、

【字解】 玄社、北方の社なり、維稽、度り當つるなり、葷粥氏、北狄の名なり、萠、民庶なり、率、帥なり、徂、往くなり、綏、安なり、俷、敗るなり、艾、治むるなり、

嚴正を守り、敢て違ふこと無からしむ、

維六年四月乙巳、皇帝使御史大夫湯、廟立子閎、爲齊王、曰、於戲小子閎、受茲青社、朕承祖考、維稽古、建爾國家、封于東土、世爲漢藩輔、於戲念哉、恭朕之詔、惟命不于常、人之好德、克明顯光、義之不圖、俾君子怠、悉爾心、允執其中、天祿永終、厥有愆、不臧、乃凶于而國、害于爾躬、於戲保國艾民、可不敬與、王其戒之、

【講義】 孝武帝は乃ち三皇子を封じ建つ、維れ元狩六年四月二十八日、皇帝は御史大夫湯をして、宗廟に至り、子閎を立て、齊王と爲さしむ、曰く、嗟小子閎よ、汝に此の東方の社を受けしむ、余は先帝より承けて、古の道を度り、之に當るを期す、故に、汝の國家を建て、東土に封ず、世世能く漢の藩輔と爲りて、違ふ勿れ、嗟念へ余の詔を恭しく愼めよ、惟れ命は重し、尋常の小事に非ず、蓋し人は德を好むときに、心能く明にして顯光有り、然れども、義を圖らざれば、君子皆怠りて、我に歸附するもの無きに至る、故に、汝の心を悉くし、誠に其の中正の道を守るべし、斯くすれば、天與の福祿は長く來る、若しも過失有り、不善を行ふときには、汝の國に凶ならん、汝の躬に害有らん、嗟國を保ち民を治むることは、敬まざるべけんや、王其れ之を戒愼せよ、

【字解】 乙巳、四月二十八日なり、於戲、嗟なり、青社、東方社なり、維、度るなり、稽、當るなり、俾、使なり、允、誠なり、愆、過失なり、臧、善なり、而、汝なり、艾、治むなり、與、乎なり、祖考、先帝を概稱す、

右、齊王策、

【講義】 右の文は、齊王を封建したるときに、天子の告諭なり、其の要旨は內政を愼むに在り、然れども、齊王は立つ八年にして死し、其の後嗣無

制曰可、

【講義】是に於て、孝武帝は此の奏請を裁可したり、

四月丙申奏未央宮、太僕臣賀行御史大夫事、昧死言、太常臣充言、卜入四月二十八日乙巳、可立諸侯王、臣昧死奏輿地圖、請所立國名、禮儀別奏、臣昧死請、制曰、立皇子閎爲齊王、旦爲燕王、胥爲廣陵王、

【講義】皇子封建の事は、裁可を得たるを以て、太僕乘御史大夫事務取扱公孫賀、四月十九日未央宮に奏上して曰く、臣賀昧死し言ふ、太常臣充の言に依れば、龜卜に於て、四月二十八日を吉日とす、故に、此の日に入りて、諸侯王を立つべしと云へり、臣昧死し地圖を奏上す、因て其の封建する所の國名を裁定せられんことを請ふ、其の禮儀は別に奏上せん、臣昧死し請ふと、是に於て、孝武帝は制して曰く、其れ皇子閎を立て、齊王と爲せよ、皇子旦を立て、燕王と爲せよ、皇子胥を立て、廣陵王と爲せよ、

【字解】丙申、元狩六年四月十九日なり、乙巳、四月二十八日なり、輿地、天を蓋天と稱し、地を輿地といふ、蓋は覆ふなり、輿は載するなり、

四月丁酉、奏未央宮、六年四月戊寅朔癸卯、御史大夫湯下丞相、丞相下中二千石、二千石下郡太守諸侯相丞、書從事、下當用者、如律令、

【講義】是に於て、御史大夫張湯は、四月二十日を以て、未央宮に奏上し曰く、元狩六年四月朔日を戊寅とす、其の月癸卯卽ち二十六日を以て、御史大夫臣湯は之を丞相に下し、丞相は、之を中二千石に下し、二千石は之を郡太守、諸侯の相及び丞に下す、皆其の書に從ひ事を執り、其の用ふべきものに下す、律令の如く

るを言ふ、故に、臣謹みて御史大夫臣湯、中二千石二千石諫大夫博士臣慶等と共に議し、昧死して、皇子臣閎等を諸侯王に封建せんことを奏請せり、

【字解】　癸未、元狩六年四月六日なり、行御史大夫事、臣公孫賀の兼官なり、御史大夫の事務を取扱ふこと、行宗正事、臣任安の兼官なり、宗正の事務を取扱ふこと、太僕、侍從長の如きもの、太常、典禮の長官なり、宗正、皇族の取締官なり、臣慶、臣石慶なり、

陛下讓文武、躬自切及皇子未教、羣臣之議、儒者稱其術、或誖其心、陛下固辭弗許、家皇子爲列侯、臣靑翟等竊與列侯臣壽成等二十七人議、皆曰、以爲尊卑失序、高皇帝建天下、爲漢太祖、王子孫、廣支輔、先帝法則弗改、所以宣至尊也、臣請令史官擇吉日、具禮儀、上御史奏輿地圖、他皆如前故事、

【講義】　丞相莊靑翟等の奏文は、尙進みて皇子封建の日を定むることを陳べて曰く、臣等の奏請に對し、陛下は文武の盛德を謙讓し、親から皇子の未だ敎育を完成せざるを論じ、群臣の奏請も、儒者の稱說も、其の心に戾るが如く、固く辭して許さず、皇子を家とし、之を封建せずして、列侯と爲さんとす、是に於て、臣靑翟等は、竊に列侯臣壽成等二十七人と議す、皆曰く、是れ尊卑の序を失ふものなり、高皇帝は天下を建て、漢の太祖たり、子孫を王として支族の輔佐を廣む、先帝の法則を改めざるは、至尊の道を宣ぶる所以なりと、是の故に、臣は請ふ、史官をして吉日を擇び、禮儀を備へ、以て奏上せしめん、御史をして封建の地圖を奏上せしめん、其の他の手續は、皆從前の故事の如くせんと、

【字解】　切及、深く論及すること、支輔、支族を以て宗家を輔佐すること、先帝、高祖を指す、

國を擧げ、漢の軍に服從す、陛下は此の匈奴等の支給を以て、輿械の費を支拂ひ、之を漢士の民に賦課せず、御府の藏畜を盡く出して、大兵車の將士を賞す、更に禁倉を開き、以て貧窮者を賑恤し、從來兵戍の卒を半數に減じ、百蠻の君長は、風化に從はざる無し、流澤を承けざる無し、聖意に稱はざる無し、遠方異俗の民は、譯語を重ねて來朝し、聖澤は漢土の外に遍く及ぶ、故に、珍獸至り、嘉穀興り、天心が陛下の盛德に應ずること甚だ彰る、今日諸侯の庶子は封ぜられて、諸侯王に至る、然るに、皇子を家として、列侯と爲すは、何ぞや、臣青翟、臣湯等は、竊に伏して之を熟計す、皆思考して曰く、尊卑の序を失ひ天下をして望を失はしむるは、不可なりと、是の故に、臣は臣閎、臣旦、臣胥を以て、諸侯王に封建せんことを請ふ、

【字解】　表裏、並び用ふること、彊暴、強暴なり、極、遠なり、北海、謂はゆる翰海なり、匈奴傳を參看すべし、湊、至るなり、月氏、西戎の國名なり、匈奴傳を參看すべし、元戎、大兵車なり、支子封至諸侯王、六安王、眞定王、泗水王の如きをいふ、五宗世家を參看すべし、

四月癸未、奏未央宮、留中不下、丞相臣青翟、太僕臣賀、行御史大夫事、太常臣充、太子太傅臣安、行宗正事、昧死言、臣青翟等、前奏、大司馬臣去病上疏、言皇子未有號位、臣謹與御史大夫臣湯、中二千石二千石諫大夫博士臣慶等、昧死、請立皇子臣閎等、爲諸侯王、

【講義】　右の奏文は宮中に留りて、其の裁可は未だ下らず、是に於て、丞相莊青翟等は、四月六日を以て、復た未央宮に奏上す、其の文に曰く、丞相臣青翟、太僕兼御史大夫事務取扱臣賀、太常臣充、太子太傅宗正事務取扱臣安、昧死し言ふ、臣青翟等、前日奏上して曰く、大司馬臣去病の上疏に、皇子が未だ號位有らざ

襁褓、而立爲諸侯王、奉承天子、爲萬世法則不可易、

【講義】丞相莊靑翟等の奏文は、尙其の說を進めて曰く、太古伏羲、炎帝、黃帝、堯、舜の五帝は、各〻其の制度を異にす、周は公、侯、伯、子、男の五等を爵とす、春秋戰國は、公、侯、伯の三等とす、皆其の時に因り、尊卑を定む、漢興りて高皇帝は、亂世を鎭めて、之を正道に復す、至德を明にして、海內を治む、諸侯を封建する爵位は、王と列侯との二等なり、皇子は幼少なるも、或は立てゝ諸侯王と爲し、天子に奉承せしむ、是れ萬世の法たり、變易するを得ず、

【字解】五等、公、侯、伯、子、男なり、三等、公、侯、伯なり、二等、王、侯なり、繈褓、幼兒の衣服なり、

陛下躬親仁義、體行聖德、表裏文武、顯慈孝之行、廣賢能之路、內褒有德、外討彊暴、極臨北海、西湊月氏、匈奴西域、擧國奉師、輿械之費、不賦于民、虛御府之藏、以賞元戎、開禁倉、以賑貧窮、減戍卒之半、百蠻之君、靡不鄉風、承流稱意、遠方殊俗、重譯而朝、澤及方外、故珍獸至、嘉穀興、天應甚彰、今諸侯支子封至諸侯王、而家皇子爲列侯、臣靑翟、臣湯等、竊伏熟計之、皆以爲尊卑失序、使天下失望、不可、臣請立臣閎、臣旦、臣胥、爲諸侯王、

【講義】丞相莊靑翟等の奏文は、更に進みて現在皇子封建の必要を論じて曰く、今や陛下は躬に仁義を守り、體に聖德を行ひ、文武を兼ね用ふ、慈孝の行を顯し、賢能の路を廣め、內に有德を褒め、外に强暴を討ち、北は翰海に臨み、西は月氏に至り、匈奴西域は

云、以列侯可、臣青翟、臣湯、博士臣將行等、伏聞、康叔親屬有十、武王繼體、周公輔成王、其八人皆以祖考之尊、建爲大國、康叔之年幼、周公在三公之位、而伯禽據國於魯、蓋爵命之時、未至成人、康叔後扞祿父之難、伯禽殄淮夷之亂、

【講義】是に於て、丞相莊青翟等は、四月朔日を以て、更に未央宮に奏上す、其文に曰く、丞相臣青翟、御史大夫臣湯、昧死し言ふ、臣青翟等は、列侯吏二千石、諫大夫博士臣慶等と議し、昧死し以て皇子を諸侯王と爲さんことを奏請したるに、陛下は制して、康叔兄弟云云、列侯を以て可なりの命を賜ふ、臣青翟、臣湯、博士將行等は、是に由り、復奏請す、臣等は伏して聞く、康叔は兄弟十人有り、武王は先王の體を繼ぎて嗣と爲り、周公は成王を輔佐し、其の他の八人は、皆祖父の尊きを以て、大國に封建せらる、而して康叔は年幼なり、周公は大臣の位に在りて國に就かず、少年の伯禽は、其の封建を受けたる魯國に據る、蓋し其の爵命の時は、康叔も、伯禽も、皆未だ成人に至らず、然れども、康叔は後日に能く祿父の叛亂を防ぎ、伯禽は能く淮夷の騷動を鎭めたり、故に、幼少の皇子を封建するも、國を治むるに足る、

【字解】戊寅、孝武帝の元狩六年四月朔日なり、前の上奏後の第二日なり、云云、是れ康叔親屬と以列侯可との間に於ける五十二字を略したるなり、此の今文は掲げて、前後に在り、扞、防ぐなり、殄、殺すなり、鎭定すること、伯禽、康叔、魯衛の兩世家を參看すべし、

昔五帝異制、周爵五等、春秋三等、皆因時而序尊卑、高皇帝撥亂世、反之正、昭至德、定海内、封建諸侯、爵位二等、皇子或在襁

す、因て百餘國は建てられたり、然るに、陛下が皇子を王に封せず、之を家として列侯と爲すときは、尊卑相踏み越えて、列位は序を失はん、是れ統を萬世に垂るゝ道に非ず、故に、諸皇子を王と爲すべし、臣は請ふ、臣閎、臣旦、臣胥を諸侯王に立てんことを、

【字解】丙子、三月二十九日なり、第一奏の翌日なり、嬰齊、竇嬰、尹齊なり、賀安、前節に在り、祖考、祖父なり、咸、皆なり、支子、庶子なり、緒、道なり、蕭文終、蕭何なり、平津侯、公孫弘なり、六親、父母兄弟妻子なり、錫、賜ふなり、

三月丙子奏未央宮、制曰、康叔親屬有十、而獨尊者褒有德也、周公祭天命郊、故魯有白牡騂剛之牲、羣公不毛、賢不肖差也、高山仰之、景行嚮之、朕甚慕焉、所以抑未成家以列侯可、

【講義】三月二十九日、丞相莊青翟等が未央宮に奏上したる時に、孝武帝は制して曰く、康叔は周に於て兄弟十人の中に在り、獨り尊顯を得たるは、其の有德を褒められたるなり、周公は天を祭り郊祭を命ぜらる故に、魯は白き牡及び赤き牡の牲を用ふ、他の群公は牲の毛色を定めず、是れ兄弟の中に於て、賢愚の差有ればなり、詩に云ふ、高山は仰ぎ瞻るべし、大道は向ひ往くべし、余は甚だ此の周の制を慕ふ、是れ敎化の未だ成らざる少年の家を抑ふる所以なり、諸皇子を遇するは、列侯を以て可なりとす、

【字解】康叔、衞の世家に詳なり、周公、魯の世家に在り、騂剛、赤き牡なり、不毛、赤に非ず、白に非ず、一定せざるなり、景行、大路なり、

四月戊寅、奏未央宮、丞相臣靑翟、御史大夫臣湯昧死言、臣靑翟等與列侯吏二千石諫大夫博士臣慶等議、昧死奏請立皇子爲諸侯王、制曰、康叔親屬云

職、奉貢祭、支子不得奉祭宗祖、禮也、封建使守藩國、帝王所以扶德施化、陛下奉承天統、明開聖緒、尊賢顯功、興滅繼絶、續蕭文終之後于酇、褒厲羣臣平津侯等、昭六親之序、明天地之屬、使諸侯王封君、得推私恩、分子弟戸邑、錫號尊建、百有餘國、而家皇子、爲列侯、則尊卑相踰、列位失序、不可以垂統于萬世、臣請立臣閎、臣旦、臣胥、爲諸侯王、

【講義】是に於て、丞相莊青翟等は、再び議を重ね、三月二十九日を以て、復た未央宮に奏上す、其の文に曰く、丞相臣青翟、御史大夫臣湯、昧死し上言す、臣謹みて列侯臣嬰齊、中二千石二千石臣賀、諫大夫博士臣安等と議す、曰く、伏して聞く、周は八百の諸侯を封じ、姫姓を竝べ建つ、以て天子を奉承せしむ、衞の康叔は祖父を以て顯れ、魯の伯禽は周公を以て立つ、皆建國の諸侯たり、以て相傳へて天子の輔佐と爲り、百官は朝憲を奉じ、各其の職に遵ひ、國家の統治完備したり、竊に思考するに、諸侯を竝べ建つることが、國土の神靈を尊重する所以にして、天子の德化を普及ならしむる所以なりとの言は、四海の諸侯が、各其の職を以て、天子の爲めに貢祭を奉ずるを指すなり、夫れ庶子は宗祖を奉祭するを得ずとの事は、禮制なり、然れども、諸皇子を封建して、藩國を守らしむる事は、帝王が德澤を扶くる所以なり、風化を布く所以なり、今や陛下は天統を奉承し、明に聖道を開き、賢を尊び功を賞し、滅びたるを興し、絶えたるを繼ぎ、酇侯蕭文終の後嗣を續ぎ立て、群臣平津侯等を褒め勵まし、父母兄弟妻子の倫序を明にし、天地の相屬する所を昭にす、斯くして諸侯王封君に向ひては、彼等に許すに、其の私恩を推し廣め、其の子弟に戸邑を分與し、稱號を授け、尊び建つる事を得る特權を以て

建諸侯、所以重社稷、朕無聞焉、且天非爲君生民也、朕之不德、海內未洽、乃以未教成者、彊君連城、卽股肱何勸、其更議、以列侯家之、

【講義】孝武帝は、此の奏上を聞き命を下して曰く、皇子を王とするは不可なり、蓋し聞く、周は八百の諸侯を封じ、姬姓を並べて建つ、然れども、子爵男爵の或る者は、獨立に非ず、附屬の國たり、禮制に依れば、庶子は祭ること無しと云ふ、然るに、諸侯を竝べ建つること、是れ國土の神靈を尊重する所以なりとの說は、余の未だ聞かざる所なり、且つ夫れ天は君の爲めに民を生ずるに非ず、余は不德にして海內未だ恩を遍くせず、此の時に當り、未だ敎育を完成せざる少年を擧げ、强ひて之を連城の封域に君とせば、何を以て余の股肱たる大臣を奬勵するを得んや、其れ更に議し、國を建つることを止め、列侯を以て之を家とせよ、

【字解】姬姓、周の諸皇子なり、附庸、小國にして他の大諸侯に附屬するもの、彊、强なり、連城、數縣なり、股肱、大臣なり、

三月丙子、奏未央宮、丞相臣靑翟、御史大夫臣湯、昧死言、臣謹與列侯臣嬰齊、中二千石二千石臣賀、諫大夫博士臣安等、議曰、伏聞、周封八百、姬姓並列、奉承天子、康叔以祖考顯、而伯禽以周公立、咸爲建國諸侯、以相傳爲輔、百官奉憲、各遵其職、而國統備矣、竊以爲、並建諸侯、所以重社稷者、四海諸侯、各以其

れば明なり、

制曰、下御史、臣謹與中二千石二千石臣賀等議、古者裂地立國、並建諸侯、以承天子、所以尊宗廟、重社稷也、今臣去病上疏、不忘其職、因以宣恩、乃道天子卑讓、自貶以勞天下、慮皇子未有號位、臣青翟、臣湯等、宜奉義遵職、愚憧而不逮事、方今盛夏吉時、臣青翟、臣湯等昧死、請立皇子臣閎、臣旦、臣胥、爲諸侯王、昧死、請所立國名、

【講義】丞相莊青翟等は、倘其の説を進めて曰く、此の去病の上書に就き、陛下は御史に下し議せしむとの命有り、故に、臣は謹みて中二千石二千石の臣賀等と議す、乃ち惟ふに、古昔天子が地を分ち與へて國を立て、諸侯を並び建て、以て天子の命を承けしめたるは、是れ天子の宗廟を尊ぶ所以なり、國土の神靈を重んずる所以なり、今や臣去病が上書は其の職分を忘れず、因り以て聖恩を宣ぶ、乃ち言ふ、天子は自ら卑しくして人に讓り、以て天下を慰勞す、然るに、皇子は未だ號位を得ず、臣は之を憂慮すと、此の去病の言ふ所は、實に至當なり、臣青翟、臣湯等は、宜しく義を奉じ職に遵ふべし、然るに、愚昧にして未だ其の事を行ふに至らず、爰に去病の言を聽きて、恐懼に堪へず、方今盛夏の吉日良時なり、臣青翟、臣湯等昧死して、皇子臣閎、皇子臣旦、皇子臣胥を、諸侯王に封ぜんことを請ふ、臣等昧死して、其の新に立つる所の國名を請ふ、

【字解】賀、公孫賀なり、社稷、其の國土の神を祭ること、憧、ショウと讀む、愚昧なること、

制曰、蓋聞周封八百、姬姓並列、或子男附庸、禮支子不祭云、並

と、行間、軍陣なり、暴、暴なり、干、犯すなり、虧、貶、損、三字同義に用ふ、減ずること、

三月乙亥、御史臣光、守尚書令、奏未央宮、制曰、下御史、六年三月戊申朔乙亥、御史臣光、守尚書令、丞、非、下御史、書到言、丞相臣青翟、御史大夫臣湯、太常臣充、大行令臣息、太子少傅臣安、行宗正事、昧死上言、

【講義】 孝武帝の元狩六年三月朔日は戊申なり、其の二十八日乙亥を以て御史兼尚書令臣光は、此の大司馬霍去病の上疏を未央宮に奏進す、帝は命じて曰く、之を御史に下し議せしむと、是に於て、御史兼尚書令臣光及び丞非は、其の日を以て、直に之を丞相御史大夫等に報ず、是に由り、丞相臣青翟、御史大夫臣湯、太常臣充、大行臣息及び太子少傅、兼宗正事務取扱臣安は、昧死し上言し、以て大司馬霍去病が上疏の文意を陳ぶ、

【字解】 三月、孝武帝の元狩六年三月なり、乙亥、三月二十八日なり、此の月は戊申を以て朔日とするに由り、此の日取りとなる、守尚書令、兼尚書令といふこと、兼官を本人の名の下に書するは、漢廷の書式なり、丞非、非といふは、御史の下に在る丞の人名なり、青翟、莊青翟なり、湯、張湯なり、充、趙充なり、息、李息なり、安、任安なり、行宗正事、宗正の事を兼ね行ふなり、行といふは心得といふが如し、太常、宮中の典禮を掌る、大行令、式部官の如くにして、賓客の接待に當る、宗正、皇族を取締る、

大司馬去病上疏曰、陛下過聽云云、唯願陛下幸察、

【講義】 丞相青翟等曰く、大司馬去病の上書には、陛下云云の文有り、

【字解】 此の段には、霍去病の上書、陛下過聽より唯願陛下幸察の全文を掲ぐ、本篇の冒頭に於ける如し、云云の兩字は一百十一字となる、是れ冒頭の文を觀

皇帝陛下、陛下過聽、使臣去病待罪行間、宜專邊塞之思慮、暴骸中野、無以報、乃敢惟他議以干用事者、誠見陛下憂勞天下、哀憐百姓、以自忘、虧膳貶樂、損郎員、皇子賴天、能勝衣、趨拜、至今無號位師傅官、陛下恭讓不恤、群臣私望、不敢越職而言、臣竊不勝犬馬心、昧死願、陛下詔有司、因盛夏吉時、定皇子位、唯陛下幸察、臣去病昧死再拜、以聞皇帝陛下、

【講義】 大司馬臣去病昧死再拜して、皇帝陛下に上言す、陛下は誤りて人の言を聽き、臣去病の愚昧なるを顧みず、擧げて之を軍陣に用ひらる、臣は唯邊塞の思慮を專にし、骨を中野に晒し、以て奉公を圖ると雖も、此の寵遇の恩に報ずるに足らず、然るに、敢て軍事以外の事を議し、以て政務官の權限を犯すは、甚だ恐懼に堪へず、然りと雖も、臣が微衷の存する所は、請ふ敬みて之を陳べん、誠に知る、陛下は今方に天下を憂勞し、衆民を哀憐し、以て自から聖躬を忘れ、食膳を減じ、音樂を減じ、郎官を減じ、總て儉素に從ふ、而して皇子は天道に賴り、能く衣に勝へて趨り拜す、然るに、今日に至るも、皇子は號位無し、師傅の官無し、蓋し陛下は士民に恭讓して、皇子を憂ふるに遑無し、群臣は私に皇子の號位を希望するも、敢て越權の言を陳ぶるもの無し、臣は竊に犬馬の心に勝へず、故に、昧死以て願ふ、陛下が當該の官に詔し、盛夏の吉日良時を以て、皇子の號位を定めんことを、唯陛下幸に之を察せよ、臣去病昧死再拜、以て皇帝陛下に奏上す、

【字解】 大司馬、大將軍の如し、去病、霍去病なり、昧死、愚にして死罪を犯すこと、待罪、官職に任ずるこ

なり、

太史公曰、高祖時諸侯皆賦、得自除内史以下、漢獨爲置丞相、黄金印、諸侯自除御史、廷尉正、博士、擬于天子、自呉楚反後、五宗王世、漢爲置二千石、去丞相、曰相、銀印、諸侯獨得食租稅、奪之權、其後諸侯貧者、或乘牛車也、

【講義】太史公曰く、高祖の時に當り、諸侯は皆自から租稅を徴收し、自分の選拔を以て、内史以下の諸官を任用するを得たり、漢の朝廷より命ずる所は、唯諸侯の爲めに丞相を送り置くのみ、之に黄金の印を授けたり、諸侯は自から御史、廷尉正、博士を任用し、以て天子に擬似したり、然るに、呉楚の叛亂以後、五宗十三國の王たる時代に至りては、漢の朝廷より諸侯の爲めに、二千石の長吏を置き、丞相を罷めて、相を置く、之に銀印を授く、政事は總て漢の朝廷に依りて行はれ、諸侯は唯其の國の租稅を賜はるのみ、其の政事の權能は、奪ひ去られたり、其の後、諸侯の貧者は、牛車に乘るもの有る程に衰へたり、

【字解】賦、租稅を民庶に賦課すること、除、任用すること、丞相、相國、丞相、相の三級中、相國を最上とす、御史、執法の長官なり、廷尉の上に在り、廷尉は裁判の長官なり、

三王世家第三十

【講義】三王とは、孝武帝の皇子齊王、燕王及び廣陵王なり、此の篇は、史記の亡失したる十篇の中に在りて、褚少孫の補修に係ると稱せらる、然れども、史記の原文も、亦此の如きに過ぎざるべしとの説有り、

大司馬臣去病昧死再拜、上疏

滅するに至る、吾甚だ之を憫む、其れ憲王の子平を三萬戸に封じ、眞定王とせよ、憲王の子商を三萬戸に封じ、泗水王とせよ、

【字解】 夭、早死なり、適、嫡子なり、孽、庶子なり、眞定、常山國の舊領より一部を保留したるものなり、今の直隷正定府正定縣に屬す、泗水、今の江蘇海州に在り、

○眞定王平、以元鼎四年、用常山憲王子、爲眞定王、泗水思王商、以元鼎四年、用常山憲王子、爲泗水王、十一年卒、子哀王安世立、十一年卒、無子、於是、上憐泗水王絕、乃立安世弟賀、爲泗水王、

【講義】 眞定王平は孝武帝の元鼎四年を以て、常山憲王の子なるに由り、眞定王と爲る、泗水思王商は眞定王の封を得たると同年に、是れも常山憲王の子なるに由り、泗水王と爲り、十一年に卒す、子哀王安世立つ、哀王は十一年に卒す、子無し、是に於て、孝武帝は泗水王の絕滅を憐み、安世の弟賀を立て、泗水王と爲す、

右四國本王、皆王夫人兒姁子也、

【講義】 右廣川、膠東、淸河、常山、四國の始王は、皆王夫人兒姁の子なり、

其後、漢益封其支子、爲六安王泗水王二國、凡兒姁子孫、於今爲六王、

【講義】 其の後、漢は更に其の支子を封じ、六安王、泗水王と爲し、此の兩國は、總て王夫人兒姁の子孫なるを以て、上文の四國は、今に於て竟に六國と爲れり、

【字解】 六安、泗水、前段に詳述せり、支子、庶子

笞掠、擅出漢所疑囚者、有司請誅憲王后修及王勃、

【講義】是に於て、孝武帝は大行張騫を遣り、王后を驗問し常山王勃をも問ひ責む、騫は遂に王勃が姦淫に關係したる諸證據物を追徵せんことを請ふ、然るに、王勃は之を匿したり、漢の吏は其の證據人物の逮捕を求むること急なり、王勃は其の證據を隱蔽せんが爲めに、人を遣り、漢の疑問とする罪囚を出し、之を笞擊して、亡げ去らしめたり、漢の法官は因て王后修及び王勃を誅殺せんと請ふ、

【字解】大行、式部官にして接待掛りの如きもの、證左、證據物なり、人をも含む、勃太急、太急勃の顚倒なり、太急は上句に屬し、勃は下句に屬す、擊笞掠、笞刑なり、擅、專斷すること、

上以修素無行、使勃陷之罪、勃無良師傅、不忍誅、有司請廢王后修、徙王勃、以家屬處房陵、上許之、勃王數月、遷于房陵、國絕、

【講義】孝武帝は曰く、王后修は本來其の行ふ所惡し、勃をして罪に陷らしむ、然れども、王勃は賢良なる師傅無きに由り、此に至れるのみ、之を誅するに忍びずと、是に於て、漢の法官は、王后修を廢し、王勃を徙し、其の家屬を以て、蜀の房陵に居らしめんと請ふ、帝は之を許す、勃は王たること數月にして、房陵の荒僻に遷され、其の國は絕滅したり、

月餘、天子爲最親、乃詔有司曰、常山憲王早夭、后妾不和、適孼誣爭、陷于不義、以滅國、朕甚憫焉、其封憲王子平三萬戶、爲眞定王、封子商三萬戶、爲泗水王、

【講義】常山國亡びて一月餘に及び、孝武帝は其の最も親しき皇族なるを以て、當該の官に詔し、曰く、常山の憲王は早く死し、其の后と妾とは和合せず、嫡子と庶子とは相誣ひて爭ひ、不義に陷り、以て國を

も、太子勃は自から藥を試飲せず、病室に留宿せず、憲王薨去の後に、王后修及び太子は乃ち至る、

【字解】娼、バウと讀む、一の女が他の女を妬むこと、輙、何時もなり、不常侍病、大概は侍せざること、

憲王雅不以長子梲爲人數、及薨、又不分與財物、郎或說太子王后、令諸子與長子梲共分財物、太子王后不聽、太子代立、又不收恤梲、梲怨王后太子、

【講義】憲王は本來其の長子梲を以て、人の數と爲さず、其の薨去に及ぶも、財物を分與せず、宮中の郎官は、或は太子王后に說き、長子梲をして諸子と共に、財物を分つことを得しめんと諫る、然れども、太子王后は之を聽かず、太子は代り立ち王と爲る、遂に梲を救恤せず、梲は王后王勃を怨望す、

【字解】郎、宮中の事務官なり、雅、素なり、

漢使者視憲王喪、梲自言、憲王病時、王后太子不侍、及薨、六日出舍、太子勃私姦、飲酒、博戲、擊筑、與女子載、馳環城、過市、入牢視囚、

【講義】漢の使者來りて憲王の喪を視る、梲は進みて曰く、憲王が病に在る時に、王后太子は病牀に侍せず、薨去の後六日に至りて王后太子は其の自分の舍を出でたり、太子勃は私に姦淫し、酒を飮み、博戲し、筑を擊ち、女子と共に車に乘り、城を馳せ巡り、子を過ぎ、牢獄に入り、罪囚を縱覽すと、

【字解】筑、琴に似たる樂器なり、竹を以て彈ず、載、乘るなり、

天子使大行騫驗王后、及問王勃、請逮勃所與奸諸證左、王又匿之、吏求捕勃太急、使人致擊

【字解】清河、今の直隷廣平府に屬す、

○常山憲王舜、以孝景中五年、用皇子、爲常山王、舜最親景帝少子、驕怠多淫、數犯禁、上常寛釋之、立三十二年卒、太子勃代立爲王、

【講義】王夫人兒姁の第四子常山の憲王舜は、孝景帝の十二年を以て、皇子なるに由り、常山王と爲る、孝景帝の末子なるを以て、最も親愛せらる、然れども、驕怠にして多く色に淫し、法禁を犯すこと屢なり、天子は常に之を寛容す、其の立つこと三十二年にし、卒す、太子勃は代り立ち、王と爲る、

【字解】常山、趙の隣なり、今の直隷正定府に屬す、

初、憲王舜、有所不愛姫、生長男梲、梲以母無寵故、亦不得幸于王、王后修生太子勃、王内多所幸姫、生子平、子商、王后希得幸、

【講義】是より先に、憲王舜は愛せざる姫有り、長男梲を生む、梲は其の母が憲王の愛無きに由り、亦憲王に寵幸せられず、王后修は太子勃を生む、然れども、憲王は後宮に寵愛する姫多し、子平を生み、子商を生む、而して王后修は幸を得ること稀なり、

【字解】王王后、而王后の誤なり、

及憲王病甚、諸幸姫常侍病、故王后亦以妬媢、不常侍病、輒歸舍、醫進藥、太子勃不自嘗藥、又不宿留侍病、及王薨、王后太子乃至、

【講義】憲王の病重きに及び、其の寵幸の諸姫は、常に病牀に侍す、故に、王后修は嫉妬を以て、多く病牀に侍せず、何時も舍に歸る、侍醫が藥を進むるときに

は膠東王に關連す、然るに、寄は孝武帝に於て最も親し、故に、意中に感傷し、病を發して死す、敢て後嗣を定めず、

【字解】 最親、王皇后の子は、孝武帝なり、王皇后の妹は、王夫人なり、而して王夫人の子は、膠東王なり、

於是、上問寄有長子者、名賢、母無寵、少子名慶、母愛幸、寄常欲立之、爲不次、因有過、遂無言、上憐之、乃以賢爲膠東王、奉康王嗣、而封慶于故衡山地、爲六安王、膠東王賢立、十四年卒、謚爲哀王、子慶爲王、六安王慶、以元狩二年、用膠東康王子、爲六安王、

【講義】 是に於て、孝武帝は膠東王の後嗣たるべきものを問ふ、寄は長子有り、賢と曰ふ、其の母は寄の寵無し、末子を慶と曰ふ、其の母は寄に愛幸せらる、寄は常に末子を立てんと欲す、然れども、順序を失ふと思へり、今や寄は自分の過失有るに由り、遂に後嗣の事を言はず、孝武帝は之を聞きて、憐察し、長子賢を以て、膠東王と爲し、康王の嗣を奉ぜしめ、末子慶を故の衡山王の地に封じ、六安王と爲す、膠東王賢は立ちて十四年に卒す、謚し哀王と爲す、子慶は嗣ぎて王と爲る、六安王慶は孝武帝の元狩二年を以て、膠東の康王の子なるに由り、六安王と爲る、

【字解】 六安、今の安徽六安州なり、

○清河哀王乘、以孝景中三年、用皇子、爲清河王、十二年卒、無後、國除、地入于漢、爲清河郡、

【講義】 王夫人兒姁の第三子清河の哀王乘は、孝景帝の十年を以て、皇子なるに由り、清河王と爲り、十二年に卒す、後嗣無し、國は除かれ、其の地は漢に入り、清河郡と爲る、

用皇子、爲廣川王、十二年卒、子齊立爲王、齊有幸臣桑距、已而有罪、欲誅距、亡、王因禽其宗族、距怨王、乃上書、告王齊與同產姦、自是之後王齊數上書、告言漢公卿及幸臣所忠等、

【講義】王夫人兒姁の長子廣川の惠王越は、孝景帝の九年を以て、皇子なるに由り、廣川王と爲る、十二年に卒す、子齊立ち王と爲る、齊は寵幸の臣桑距有り、既にして桑距は罪を犯す、齊は之を誅殺せんと欲す、距は逃げ去る、齊は乃ち距の宗族を捕ふ、是に於て、距は齊を怨み、漢廷に上書して告發し曰く、廣川王齊は、同產と姦淫すと、是より後に、廣川王齊は屢上書して、漢の公卿及び漢の寵臣所忠等の罪狀を告發す、

【字解】廣川、趙王彭祖が、孝景帝の二年に封ぜられたる地なり、中二年、孝景帝の九年なり、所忠、氏名なり、禽、捕ふこと、

○膠東康王寄、以孝景中二年、用皇子、爲膠東王、二十八年卒、

【講義】王夫人兒姁の第二子膠東の康王寄は、孝景帝の九年を以て、皇子なるに由り、膠東王と爲り、二十八年に卒す、

【字解】膠東、今の山東萊州府平度州に屬す、

淮南王謀反時、寄微聞其事、私作樓車鏃矢戰守備、候淮南之起、及吏治淮南之事、辭出之、寄於上最親、意傷之、發病而死、不敢置後、

【講義】是より先に、淮南王が謀叛の時に、膠東王寄は、微に其の事を聞く、乃ち樓車鏃矢を密造し、戰守の備を爲し以て淮南の起つを待つ、既にして淮南敗れ、漢廷の吏が淮南の事を處置するに及び、其の罪跡

天子を佐けず、衆民を撫育せず、何を以て藩臣と稱するを得んと、中山王は立ちて四十二年に卒す、子哀王昌立つ、一年に卒す、子昆侈は代りて、中山王と爲る、

右二國本王、皆賈夫人之子也、

【講義】 右趙、中山、兩國の始王は、皆賈夫人の子なり、

○長沙定王發、發之母唐姬、故程姬侍者、景帝召程姬、程姬有所辟、不願進、而飾侍者唐兒、使夜進、上醉不知、以爲程姬、而幸之、遂有身、已乃覺非程姬也、及生子、因命曰發、以孝景前二年、用皇子、爲長沙王、以其母微無寵故王卑濕貧國、立二十七年卒、子康王庸立、二十八年卒、子鮒鮈立、爲長沙王、

【講義】 唐姬の子長沙の定王發は、程姬の侍者唐姬が、一夕の幸を以て生る、蓋し孝景帝が程姬を召したる時に、程姬は月事有り、進むを願はず、侍者唐兒を飾り、深夜に進ましむ、帝は醉ひて知らず、程姬なりと思惟し、之を寵幸す、遂に懷姙す、既にして帝は其の程姬に非ざるを覺る、其の子を生むに及び、因て命じ發と曰ふ、發は孝景帝の二年を以て、皇子なるに由り、長沙王と爲る、其の母が微賤にして寵愛無きに由り、發は卑濕なる貧國に王たり、立つ二十七年に卒す、子康王庸立つ、二十八年に卒す、子鮒鮈立ちて、長沙王と爲る、

【字解】 長沙、今の湖南長沙府に屬す、

右一國本王、唐姬之子也

【講義】 右長沙一國の始王は、唐姬の子なり、

○廣川惠王越、以孝景中二年、

【講義】趙王彭祖は淖姬を寵幸したり、淖姬とは故の江都の易王が寵姬にして、易王の子建が盜みて姦淫したる姬なり、彭祖は宮室を飾ることを好まず、福利を求むることを好まず、吏事を爲すを好む、因て上書して國事の盜賊を監督せんことを願ひ、每夜走卒を率ゐて、趙都なる邯鄲の中を巡察す、諸使及び通過の客は、彭祖が險邪なるを恐れて、邯鄲に留るを敢てするもの無し、彭祖の太子丹は、其の女及び同產の姊と姦淫し、其の客江充と仲惡し、江充は丹の事を漢廷に告發す、丹は此の故を以て、太子を廢せられ、趙は更に太子を立つ、

【字解】禨祥、星の運行に順ひ、禍福を推して、其の福を求むること、禨は禍なり、祥は福なり、行徼、カウケウと讀む、巡察すること、陂、邪なり、

○中山靖王勝、以孝景前三年、用皇子、爲中山王、十四年、孝景帝崩、勝爲人樂酒好內、有子枝屬百二十餘人、

【講義】賈夫人の第二子中山の靖王勝は、孝景帝の三年を以て、皇子なるに由り、中山王と爲る、其の王たる十四年にして、孝景帝崩御す、勝は天性酒色を好み、子孫眷族百二十餘人を成す、

【字解】中山、今の直隸定州に在り、內、後宮なり、

常與兄趙王相非曰、兄爲王、專代吏治事、王者當日聽音樂聲色、趙王亦非之曰、中山王徒日淫、不佐天子、拊循百姓、何以稱爲藩臣、立四十二年卒、子哀王昌立、一年卒、子昆侈代爲中山王、

【講義】中山王は常に兄趙王と相誹り曰く、兄は王たれども、專ら吏に代りて、事を執る、何ぞや、王者は日に音樂を聽き、聲と色とを樂しむべきのみと、趙王は亦中山王を誹り曰く、中山王は唯荒淫して日を送る、

書して、之を告發し、郡守を汚すに、姦利の事を以てす、

【字解】 皁、サウと讀む、黑色の賤しき仕立なり、輒、何時もなり、

彭祖立五十餘年、相二千石、無能滿二歲、輒以罪去、大者死、小者刑、以故、二千石莫敢治、而趙王擅權、使使即縣、爲賈人權會、入多於國經租稅、以是、趙王家多金錢、然所賜諸姬子、亦盡之矣、

【講義】 彭祖は立つこと五十餘年にして、趙の國相及び郡守は、能く二年の任期を畢るもの無し、國相郡守は、趙の任に來る每に、必らず罪を以て去る、其の大罪の者は死刑に遭ひ、小罪の者も刑罰を免れず、故を以て郡守は、敢て政事を執る能はず、而して趙王彭祖は獨り權を專にす、乃ち使を發し趙の諸縣に就きて、商人の賣買する間に立ち、仲介者と爲り、其の手數料を徵收せしむ、其の歲入の額は、趙國の經常租稅よりも多し、是に由り、趙王の家は金錢多し、然れども其の賜を受けたる寵姬諸子は、亦之を費消し盡せり、

【字解】 權會、謂はゆる仲買なり、賣買の手數料を取ること、國經、國の經常なり、

彭祖取故江都易王寵姬王建所盜與姦淖姬者、爲姬、甚愛之、彭祖不好治宮室機祥、好爲吏事、上書願督國中盜賊、常夜從走卒、行徼邯鄲中、諸使過客、以彭祖險陂、莫敢留邯鄲、其太子丹與其女及同產姉姦、與其客江充有郤、充告丹、丹以故廢、趙更立太子、

皇子、爲廣川王、趙王遂反、破後、彭祖王廣川四年、徙爲趙王、十五年、孝景帝崩、彭祖爲人、巧佞卑諂、足恭而心刻深、好法律、持詭辯以中人、彭祖多內寵姬及子孫、

【講義】 賈夫人の長子趙王彭祖は、孝景帝の二年を以て、皇子なるに由り、廣川王と爲る、趙王遂が叛亂して破れたる後に、彭祖は廣川に王たること、四年にして徙り、趙王と爲る、趙王の十五年に、孝景帝崩御す、彭祖は天性巧佞にして、卑しく人に諂ひ、擧動は恭敬にして、心術は慘酷なり、法律を好み、詭詐の辯舌を以て、人を中傷す、其の後宮には、寵幸の美人多し、子孫も多し、

【字解】 廣川、趙の隣なり、今の直隷冀州に屬す、足恭、擧動の敬み愼むこと、刻深、苛刻にして殘忍なること、詭、欺くこと、

相、二千石、欲奉漢法以治、則害于王家、是以每相、二千石至、彭祖衣皁布衣、自行迎、除二千石舍、多設疑事、以作動之、得二千石失言中忌諱、輒書之、二千石欲治者、則以此迫劫、不聽、乃上書、告、及汙以姦利事、

【講義】 國相及び郡守は、趙國に於て政事を執り、漢法に依らんと欲すれば、趙王の家に害有り、是を以て、國相郡守が趙に至る每に、彭祖は黑き布の野服を着け、自から行き迎へて郡守の舍を掃除し、多く疑事を設けて、新參の郡守を動作せしむ、斯くして郡守の失言に由り、忌諱に觸るゝものを得たる時には、其の事を記錄し、郡守が政事を行はんとするに當り、趙王は此の忌諱に觸れたる事を擧げて、郡守を脅迫し、郡守が之を聽かざるときには、漢廷に上

【字解】郎、王宮の事務官なり、後宮、宮女なり、禽、捕なり、訾省、貲財を省み、記錄するなり、財物を整理すること、訾は貲に通ず、衞、守衞なり、

數變名姓、爲布衣、之他郡國、

【講義】膠西王端は、斯の如くして屢其の姓名を變じ、無官の民と爲り、他の郡國を巡歷す、

相二千石、往者、奉漢法以治、端輒求其罪告之、無罪者詐藥殺之、所以設詐究變、彊足以距諫、智足以飾非、相二千石、從王治、則漢繩以法、故膠西小國、而所殺傷二千石甚衆、立四十七年卒、竟無男代後、國除、地入于漢、爲膠西郡、

【講義】國相及び郡守は、漢命を受けて膠西に往き、漢法を以て、政事を行へば、膠西王端は、其の國相及び郡守の罪を求めて、之を告發し、其の罪無きものを觀れば、詐りて之を藥殺す、是れ端が詐を設け變を極むる所以なり、蓋し端は、其の剛强なること、能く他人の諫を距むに足り、其の智慮あること、能く自分の邪を飾るに足る、是に於て、國相郡守は、膠西王の意に從ひ、政事を行へば、漢は之を責むるに漢の法を以てす、故に膠西は小國なれども、其の王が自分の意思に由り、殺傷したる郡守、甚だ多し、膠西王端は、立つこと四十七年にして卒す、竟に男子の代り立つもの無し、國は除かれ、其の領地は漢に入り、膠西郡と爲る、

【字解】輒、何時もなり、告、漢廷へ告ぐるなり、藥、毒なり、彊、强に同じ、二千石、郡守なり、繩、正すなり、膠西、今の山東萊州府膠州なり、

右三國本王、皆程姬之子也、

【講義】右魯、江都、膠西三國の始王は、皆程姬の子なり、

○趙王彭祖、以孝景前二年、用

なり、訊、問ひ質すこと、

○膠西于王端、以孝景前三年、呉楚七國反、破後、端用皇子、爲膠西王、端爲人賊戾、又陰痿、一近婦人、病之數月、

【講義】程姫の第三子膠西の于王端は、孝景帝の三年、呉楚七國の叛亂鎭定したる後に、皇子なるを以て、膠西王に封ぜらる、端は天性賊戾なり、然れども、陰痿なり、婦人を御する能はず、一たび婦人に接すれば、病むこと數月なり、

而有愛幸少年爲郎、爲郎者頃之、與後宮亂、端禽滅之、及殺其子母、數犯上法、漢公卿數請誅端、天子爲兄弟之故、不忍、而端所爲滋甚、有司再請、削其國、去大半、端心慍、遂爲無訾省、府庫壞漏、盡腐財物、以巨萬計、終不得收徙、令吏毋得收租賦、端皆去衞、封其宮門、從一門出游、

【講義】然るに、膠西王端は、少年を愛幸す、其の愛幸せられたる少年は、郎官たること數月にして、忽ち後宮の婦人と淫亂す、端は怒りて、其の少年を捕へ誅し、其の母子を併せ殺す、且つ漢の法を犯すこと屢なり、漢の公卿は端を誅せんと請ふ、孝武帝は兄弟の故を以て、之を殺すに忍びず、然るに、端の爲す所は益々甚し、漢の吏は再び天子に請ひて、端の國を削り、其の大部分を除き去る、是に於て、端は心中に憤怒し、遂に其の殘餘の領地より收入する資財を視錄せず、府庫は頽敗し、雨漏りて盡く財物を腐す、萬萬を以て計る、其の巨額の財貨も、之を收め運ぶを得ず、吏をして租税を取り入るゝことを得ざらしむ、端は乃ち宿衞の人を盡く罷め去り、其の宮門を皆封鎖し、唯一門を開きて、此より出遊す、

所幷、卽陰作兵器、而時佩其父所賜將軍印、載天子旗、以出、易王死未葬、建有所說易王寵美人淖姬、夜使人迎、與姦服舍中、

【講義】淮南王衡山王等が謀叛の時に、江都王建は、頗る其の謀を與り聞く、自から思考す、吾領地は淮南に近し、恐くは一旦兵起るときに、吾江都は淮南に幷合せられんと、乃ち内密に兵器を作り、或る時には其の父が天子より賜ひたる將軍の印を佩び、天子の旌旗を建て、以て外出す、易王死して未だ葬らざる喪服の中に、江都王建は其の愛する所の淖姬に姦淫したり、蓋し淖姬は易王の寵幸したる美人なり、然るに、江都王建は夜に乘じて人を遣り、淖姬を迎へしめ、服舍の中に姦淫を敢てしたり、

淮南事發、治黨與、頗及江都王建、建恐、因使人多持金錢、事絕其獄、而又信巫祝、使人禱祠妄言、建又盡與其姊弟姦、事既聞、漢公卿請捕治建、天子不忍、使大臣卽訊王、王服所犯、遂自殺、國除、地入於漢、爲廣陵郡、

【講義】淮南の事件發覺するに及びて、漢廷は其の黨與を處置す、事は頗る江都王建に關係す、建恐る、因て人を長安に遣り、多く金錢を持ち往かしめ、其の罪跡を絕つことを力めしむ、而して建は巫祝を信じ、之に祈禱して建の無罪なることを妄言せしむ、然れども、建は盡く其の姊及び妹と姦淫し、益〻其の罪を增したり、事は既に奏上せらる、漢の公卿は建を捕へんことを請ふ、孝武帝は之を憐み、大臣を遣り、建に問訊せしむ、建は遂に犯罪に服し、自殺す、國は除かれ、其の地は漢に入り、廣陵郡と爲る、

【字解】巫祝、巫なり、弟、妹なり、名を徵臣といふ、蓋侯の子の婦たり、易王の喪に由り、江都に來りたる

は代り王と爲る、此の王は當初に於て、音樂、輿馬を好み、晩年に至りては、吝嗇と爲り、唯財貨の足らざるを恐る、

【字解】 苑囿、花園と動物園となり、季年、晩節、共に晩年といふこと、

○江都易王非、以孝景前二年、用皇子、爲汝南王、呉楚反時、非年十五、有材力、上書願擊呉、景帝賜非將軍印、擊呉、呉已破、二歲徙爲江都王、治呉故國、以軍功、賜天子旌旗、

【講義】 程姫の第二子江都の易王非は、孝景帝の二年に、皇子なるに由り、汝南王と爲る、呉楚叛亂の時に、非は年十五なり、材幹氣力有り、上書して呉を擊つことを願ふ、孝景帝は非に將軍の印を賜ひ、呉を擊つ、呉破れて二年に、汝南王は徙りて江都王と爲り、呉の故國を領ず、軍功を以て、天子の旌旗を賜ふ、

【字解】 汝南、今の河南汝寧府に屬す、江都、今の江蘇揚州府江都縣なり、

元光五年、匈奴大入漢爲賊、非上書、願擊匈奴、上不許、非好氣力、治宮觀、招四方豪傑、驕奢甚、立二十六年卒、子建立爲王、七年自殺、

【講義】 孝武帝の元光五年に、匈奴は大に漢に入り、賊を作す、江都王非に上書して、匈奴を擊たんと願ふ、孝武帝は之を許さず、江都王は氣力を好み、宮殿樓閣を造り、四方の豪傑を招き、驕奢甚し、其の立つこと二十六年にして卒す、子建立つ、其の王たること七年にして自殺す、

淮南衡山謀反時、建頗聞其謀、自以爲國近淮南、恐一日發爲

吾王は歸らず、

【字解】 壖垣、センエンと讀む、靈廟の墻の外を環る垣なり、祖、道路の神を祭りて、旅途の安全を祈るなり、江陵、今の湖北荊州府江陵縣なり、

榮至、詣中尉府簿、中尉郅都責訊王、王恐自殺、葬藍田、燕數萬銜土、置冢上、百姓憐之、榮最長、死無後、國除、地入於漢、爲南郡、

【講義】 既にして、臨江王榮は、長安に至り、中尉府の按驗を受く、中尉郅都は、王を責め問ふ、王恐れて自殺す、之を藍田に葬る、燕數萬飛び來り、土を銜みて塚上に置く、衆民は之を憐む、榮は栗姬の子として年最も長じたり、然れども、太子より遷りたるを以て、兩弟よりも後れて封を得たり、死して後嗣無し、國は除かれ、其の地は漢に入り、南郡と爲る、

【字解】 簿、獄吏が執る所の罪狀を錄する札なり、郅都、著明なる酷吏の氏名なり、酷吏列傳に詳なり、藍田、今の陝西の藍田縣なり、

右三國本王、皆栗姬之子也、

【講義】 右河間、臨江、三國の始王は、皆栗姬の子なり、

○魯共王餘、以孝景前二年、用皇子、爲淮陽王、二年、吳楚反、破後以孝景前三年、徙爲魯王、好治宮室、苑囿、狗馬、季年好音、不喜詞辯、爲人吃、二十六年卒、子光代爲王、初好音、輿馬、晩節嗇、惟恐不足於財、

【講義】 程姬の長子魯の共王餘は、孝景帝の二年に皇子として淮陽王と爲る、二年にして吳楚の叛亂有り、吳楚の敗れたる後に、孝景帝の三年を以て、淮陽王は徙りて魯王と爲る、王は好みて宮室を造り、苑囿を設け、狗馬を畜ふ、晩年には音樂を好み、文辭議論を喜ばず、其の天性は口吃なり、二十六年卒す、子光

從之游、二十六年卒、子共王不害立、四年卒、子剛王基代立、十二年卒、子項王授代立、

【講義】栗姬の第二子河間の獻王德は、孝景の即位の二年を以て、皇子たるに由り、河間王に封ぜらる、王は儒學を好み、平常の衣服も、暫時の間隙も、必らず儒者の行に從ふ、故に、山東の諸儒は、王に從遊するもの多し、王は二十六年に卒す、子共王不害立つ、四年卒す、子剛王基は代り立つ、十二年卒す、子項王授は代り立つ、

【字解】河間、今の直隸河間府に屬す、前二年、始の二年なり、造次、暫時の間なり、

○臨江哀王閼于、以孝景帝前二年、用皇子爲臨江王、三年卒、無後、國除爲郡、

【講義】栗姬の第三子臨江の哀王閼于は、孝景帝の二年に、皇子として臨江王に封ぜらる、三年にして卒す、後嗣無し、國は除かれて郡と爲る、

【字解】臨江、今の江西臨江府に屬す、

○臨江閔王榮、以孝景前四年、爲皇太子、四歲廢、用故太子爲臨江王、四年坐侵廟壖垣爲宮、上徵榮、榮行、祖於江陵北門、既已上車、軸折車廢、江陵父老流涕竊言曰、吾王不反矣、

【講義】栗姬の長子臨江の閔王榮は、孝景帝の四年に皇太子と爲り、四年間にして廢せられ、故の太子たるに由り、臨江王に封ぜらる、其の王たること四年にして、祖廟の壖外の垣を破りて、王宮の構內に入らしめたる罪に當り、天子より召し寄せらる、王は出立に臨み、其の首都なる江陵の北門に於て、群臣より送られて、道路安全の祭を行ふ、祭儀畢りて、車に上れば、軸折れ車廢る、江陵の父老は、流涕し竊に言ひ曰く、

坐し、食氣平復す、

【字解】 説、悦ぶなり、立、直になり、飡、ソンと讀む、食なり、

故曰、不通經術、知古今之太禮、不可以爲三公及左右近臣、少見之人、如從管中闚天也、

【講義】 故に曰く、士は經術に通曉するを要し、古今の大禮を知悉するを要す、苟も然らざるものは、以て三公及び左右の近臣と爲すべからず、識見の淺少なる人は、細管の中より、天を闚き窺ふが如きのみ、

五宗世家第二十九

【講義】 五宗とは、五母の子をいふ、蓋し孝景帝の子は、十四人有り、一人は孝武帝と爲り、他の十三人は王と爲る、其の母五人有り、之を五個の宗親として、五宗と稱す、

孝景皇帝子、凡十三人、爲王、而母五人、同母者、爲宗親、

【講義】 孝景帝の子は、凡て十三人立ちて王と爲る、而して其の母は五人有り、同母者を、一宗の親とす、

栗姫子、曰榮、德、閼于、程姫子、曰餘、非、端、賈夫人子、曰彭祖、勝、唐姫子、曰發、王夫人兒姁子、曰越、寄、乘、舜、

【講義】 栗姫の子は、榮と曰ひ、德と曰ひ、閼于と曰ふ、程姫の子を、餘と曰ひ、非と曰ひ、端と曰ふ、賈夫人の子を、彭祖と曰ひ、勝と曰ふ、唐姫の子を、發と曰ふ、王夫人兒姁の子を、越と曰ひ、寄と曰ひ、乘と曰ひ、舜と曰ふ、

○河間獻王德、以孝景帝前二年、用皇子、爲河間王、好儒學、被服造次、必於儒者、山東諸儒、多

端頗見、太后不レ食、日夜泣不レ止、

【講義】刺客の劍は、袁盎の身に著きて離れず、漢の吏が之を檢視すれば、新に研ぎたる劍なり、因て之を長安の中の研工に問ふ、研工曰く、梁國の郎官某の子來りて、此の劍を研ぐことを命じたりと、是に由り、此の刺客が梁より出でたることを發覺し、使者を發して、之を追捕せしむ、但し梁王が殺さんと欲したる漢廷の大臣は十餘人有り、漢の文吏は、嚴密に其の本源を取調べ、梁王が謀叛の端緒は頗る現る、竇太后は食はず、日夜泣きて止まず、

【字解】削厲工、劍を研ぐ工人なり、郎、宮中の事務官なり、治、研ぐなり、治に非ず、

景帝甚憂レ之、問二公卿大臣一、大臣以爲遣二經術吏一往治レ之、乃可レ解、於レ是、遣二田叔呂季主一往治レ之、此二人皆通二經術一、知二大禮一、來還至二霸昌廐一、取レ火悉燒二梁之反詞一、但空手來對二景帝一、

【講義】孝景帝は太后の涕泣に就きて、甚だ之を憂慮し、公卿大臣に問ふ、大臣曰く、經術に通曉したる吏を遣り、之を處置せしむれば、解決するを得べしと、乃ち田叔、呂季主をして往き之を處置せしむ、此の兩人は皆能く經術に通じ、大禮を知る、其の處置を畢り、歸來して長安の東北なる霸昌廐に至り、火を以て盡く梁の謀叛に關係する書類を燒き棄て、唯空手にて來り、帝に對ふ、

景帝曰、何如、對曰、言梁王不レ知也、造爲レ之者、獨其幸臣羊勝、公孫詭之屬、爲レ之耳、謹以伏二誅死一、梁王無レ恙也、景帝喜說曰、急趨謁二太后一、太后聞レ之、立起坐、湌氣平復、

【講義】孝景帝は乃ち田叔、呂季主に問ひ曰く、事實は如何、兩人對へて曰く、梁王は之を知らず、之を造り爲したるものは、唯梁王が寵幸の臣なる羊勝、公孫詭の徒のみ、然るに、是等の徒は謹みて誅に伏し死せり、梁王は無事なりと、帝悅び曰く、急に趨り太后に謁せよと、既にして太后は兩人の奏上を聞き、忽ち起

く、我は父の後に代るべしと、卽ち兄の子を刺し殺す、故を以て宋國は亂れて禍絕えず、是の故に、春秋の書に曰く、君子は正道に順ひ居るを大とす、宋國の禍は、宣公が弟を立てたるより生ずと、斯の如き次第なるを以て、臣は請ふ、太后に拜謁して、之を言上せん、

袁盎等入見太后、太后言欲立梁王、梁王卽終、欲誰立、太后曰、吾復立帝子、袁盎等以宋宣公不立正、生禍、禍亂後五世不絕、小不忍、害大義狀報太后、太后乃解說、卽使梁王歸就國、

【講義】是に於て、袁盎等諸大臣は太后の宮に入り、謁見す、太后曰く、梁王を立てんと欲す、袁盎等曰く、梁王が若し歿せば、誰をか立てんと欲する、太后曰く、吾復た帝の子を立てん、袁盎等は乃ち宋の禍を告げて曰く、宋の宣公は、正統の子を立てず、遂に禍亂を生じ、其の亂は後五代に及ぶまで絕えず、故に、今に於て小事を忍びざるときは、終に大義を害するに至ると、太后は之を聽きて、其の理を解し、乃ち梁王に說きて、其の領國に歸り就かしむ、

而梁王聞其議出于袁盎諸大臣所、怨望、使人來殺袁盎、袁盎顧之曰、我所謂袁將軍者也、公得毋誤乎、刺者曰、是矣、刺之置其劍、

【講義】然るに、梁王は其の議論が袁盎諸大臣の所より出でたるを聞き、之を怨望し、刺客を發し、袁盎を伺はしむ、袁盎は其の刺客を顧みて曰く、我は謂はゆる袁將軍なり、公は誤りたるに非ざるかと、刺客曰く、袁將軍は我の伺ふ所なりと、乃ち之を刺殺し、其の刺したる劍を留め置きたり、

劍著身、視其劍、新治、問長安中削厲工、工曰、梁郎某子來治此劍、以此知而發覺之、發使者捕逐之、獨梁王所欲殺大臣十餘人、文吏窮本之、謀反

梁王爲帝太子、帝問其狀、袁盎對曰、殷道親親者、立弟、周道尊尊者、立子、殷道質、質者法天、親其所親、故立弟、周道文、文者法地、尊者敬也、敬其本始、故立長子、周道太子死、立適孫、殷道太子死、立其弟、帝曰、於公何如、

【講義】是に於て、孝景帝は袁盎諸大臣の能く經術に通じたるものを召し、曰く、太后は親を親とし尊を尊とすといふ、是れ何の謂ひぞやと、諸大臣皆對へて曰く、太后は梁王を以て、帝の太子と爲さんとの希望なりと、帝は其の事態を問ふ、袁盎對へて曰く、殷道は親を親とすと云ふ、是れ弟を立つるを謂ふなり、周道は尊を尊とすと云ふ、是れ子を立つるを謂ふなり、蓋し殷道は實質を貴ぶ、實質は天の自然なるに遵據す、其の親しむ所を親しむ、故に、弟を立て嗣子とす、周道は文華を貴ぶ、文華は法則に遵據す、尊とは敬の意なり、本始たる祖先を敬す、故に、長子を立て嗣子とす、是の故に、周道は太子死すれば、嫡孫を立つる事とす、殷道は太子死すれば、其の弟を立つる事とすと、孝景帝曰く、公に於ては何れを取るか、

【字解】適、嫡なり、其弟、自身の弟なり、公、袁盎を指す、

皆對曰、方今漢家法周、周道不得立弟、當立子、故春秋所以非宋宣公、宋宣公死、不立子而與弟、弟受國死、復反之、與兄之子、弟之子爭之、以爲我當代父後、卽刺殺兄子、以故國亂、禍不絶、故春秋曰、君子大居正、宋之禍、宣公爲之、臣請見太后白之、

【講義】袁盎諸大臣皆對へて曰く、方今漢家は周道に從ふ、周道弟を立つるを得ず、子を立つべし、其の故は何ぞや、春秋の書が、宋の宣公を誹る所以なり、宋の宣公は死に臨み、其の子を立てずして、自分の弟を立つ、弟は國を受けて死するときに、復た國を返上して兄の子に與ふ、然るに、弟の子は之を爭ひて曰

孝、非二惡言一也、

【講義】今日漢の儀法に依れば、諸侯王の朝見して、正月を賀するは、常に一王と四侯と倶にす、其の朝見は、十餘歳の間に、一たび至る、然るに、梁王は常に連年入朝し、謁見して久しく滯京す、鄙語に曰く、驕る子は孝ならずと、是れ的評なり、

【字解】比年、連年なり、驕子、驕りて慢心したる子なり、惡言、不當の言なり、

故、諸侯王當下爲置二良師傅、相忠言之士上、如二汲黯、韓長孺等一、敢直言極諫、安得レ有二患害一、

【講義】故に、諸侯王は之が爲めに、良師傅、賢相及び忠言の士を置くべし、汲黯、韓長孺等の如く、敢て直言極諫するもの有らば、何ぞ患害を生ずること有らんや、

【字解】汲黯、韓長孺、各〻其の列傳有り、就て看るべし、

蓋聞、梁王西入朝、謁二竇太后一、燕見與二景帝一俱、侍二坐於太后前一、語言私說、太后謂レ帝曰、吾聞殷道親レ親、周道尊レ尊、其義一也、安車大駕、用二梁孝王一爲レ寄、景帝跪レ席擧レ身、曰、諾、罷レ酒出、

【講義】蓋し聞く、梁王が西行して入朝し、竇太后に謁し、孝景帝と共に宴飮し、太后の前に侍坐するや、母子兄弟の私情を以て、談話す、太后は帝に謂ひ曰く、吾の聞く所に依れば、殷の道は親を親とす、周の道は尊を尊とす、と、是れ其の法は異なるも、其の義は同じ、若しも安車大駕の事有らば、梁王を以て國家を委託する人と爲せよ、帝は席に跪き身を擧げて曰く、諾すと、宴罷みて出づ、

【字解】燕、宴なり、親親尊尊、次の節に解義あり、安車大駕、皇帝の崩御をいふ、此の段の太后の語は、明言せざる間に、其の眞情を述ぶ、其の意味は、次の文に明なり、

帝召下袁盎諸大臣通二經術一者上、曰、太后言如レ是、何謂也、皆對曰、太后意欲レ立二

璧玉、賀正月、法見、後三日、爲王置酒、賜金錢財物、後二日復入小見、辭去、凡留長安、不過二十日、小見者燕見于禁門內、飮於省中、非士人所得入也、

【講義】 且つ夫れ諸侯王が、天子に朝見するに就て、漢法は四度の謁見を許すのみ、第一は、始めて京に到り、帝城に入り小見す、第二は、正月の元旦に於て皮、薦、璧玉を獻上し、以て正月を賀し、法見す、第三は、法見の後三日に、天子より饗應せられ、金錢財物を賜ふ、第四は、饗應の後二日、復た帝城に入り小見す、斯の如くして後に辭し去る、故に、諸侯王は凡て長安に留ること二十日に過ぎず、小見と雖も、宴を賜ひ、禁門の內に謁見し、省中に飮む、其の席は士人の入るを得る所に非ず、

今梁王西朝、因留、且半歲、入與人主同輦、出與同車、示風以大言、而實不與、令出怨言謀畔逆、乃隨而憂之、不亦遠乎、非大賢人、不知退讓、

【講義】 然るに、梁王は西行して、漢京に入朝すれば、因て留ること半年ならんとす、其の宮城の出入には、人主と輦車を同くし、尊榮を極めたり、然るに、之に諷じ示すに、皇位繼承の大言を以てし、而して其の實は之を與へず、竟に梁王をして怨言を出さしめ、其の叛逆を謀らしむ、乃ち其の叛逆に隨ひ、之を憂慮す、亦誤りならずや、蓋し人は大賢に非ざるときには、退讓の禮範を知らず、梁王が驕侈より叛亂に赴きたるも、宜なり、

【字解】 且、將なり、入輦出車、出入の時に、天子と同車することとなり、出入の兩字を分ちたるは、文を飾りたるのみ、示風、諷示なり、畔、叛なり、遠、誤りなり、實際の計に疏遠なるをいふ、

今漢之儀法、朝見賀正月者、常一王與四侯俱朝見、十餘歲一至、今梁王常比年入朝見、久留、鄙語曰、驕子不

【字解】燕、宴なり、說、エツと讀む、悅ぶこと、適、嫡なり、不說、機嫌を損ずること、

故成王與小弱弟立樹下、取一桐葉以與之曰、吾用封汝、周公聞之、進見曰、天王封弟、甚善、成王曰、吾直與戲耳、周公曰、人主無過擧、不當有戲言、言之必行之、於是乃封小弟以應縣、是後成王沒齒、不敢有戲言、言必行之、孝經曰、非法不言、非道不行、此聖人之法言也、

【講義】是の故に、天子は一時の坐興の言を爲すことを戒む、古昔、周の成王は幼弟と共に、樹下に立ちたる時に、桐の一葉を取りて、之を幼弟に與へ、曰く、吾は以て汝を封ぜんと、周公は之を聞き、進み謁見して曰く、天子は弟を封ず、甚だ善しと、成王曰く、吾は唯弟と戲れたるのみと、周公曰く、人主は誤りて人を擧用すること無し、戲言有るべからず、之を言へば必らず之を行ふと、是に於て、成王は幼弟を應縣に封ず、此の後、成王は終生戲言を發せず、言へば必らず之を行ひたり、孝經に曰く、法に非ざれば言はず、道に非ざれば行はずと、是れ聖人の法言なり、

【字解】小弱、幼なり、用、以てなり、直、唯なり、沒齒、終身なり、應縣、今の河南汝州に屬す、此の段の叙事は、晉の世家に於ける唐叔虞の條と異同有り、兩文を併せ觀て玩味すべし、

今主上、不宜出好言於梁王、梁王上有太后之重、驕蹇日久、數聞景帝好言、千秋萬世之後傳王、而實不行、

【講義】故に、主上は好言を梁王に出すべからず、梁王は上に太后の威重を擁し、驕傲なること既に久し、幾度も帝が好言を以て、死後に位を傳ふといふを聞き、其の實の手續きが行はれざるを觀て、漸く怨望を生じたり、

又諸侯王朝見天子、漢法凡當四見耳、始到入小見、到正月朔旦奉皮薦

竊以爲、今梁孝王怨望、欲爲不善者、事從中生、

【講義】臣は竊に思惟す、梁の孝王が漢廷を怨望して、不善を爲さんと欲するに至れるは、必らずしも孝王の邪心に由ると謂ふを得ず、蓋し其の事は漢廷の中より起れり、

今太后女主也、以愛少子故、欲令梁王爲太子、大臣不時正言其不可狀、阿意治小、私說意、以受賞賜、非忠臣也、齊如魏其侯竇嬰之正言也、何以有後禍、

【講義】其の時に當り、竇太后は女主なり、梁王は竇太后の末子なり、故に、太后は末子を愛するに由り、梁王を以て太子と爲さんと欲す、然るに、大臣は其の時に於て、其の事の不可なるを直言せず、皆太后の意を迎へて、之に媚び、小事を修めて、私に太后の意を悅ばせ、以て賞賜を受くるに力めたり、是れ忠臣に非ず、若しも大臣が均しく魏其侯竇嬰の直言せしが如くせば、梁王は早く太子たる希望を斷念せん、何ぞ後日の禍を成すこと有らんや、

【字解】少子、末子なり、阿、オモネルと訓ず、媚び諂ふこと、說、悅ぶなり、

景帝與王燕見、侍太后飮、景帝曰、千秋萬歲之後、傳王、太后喜說、竇嬰在前、據地、言曰、漢法之約、傳子適孫、今帝何以得傳弟擅亂高帝約乎、於是、景帝默然無聲、太后意不說、

【講義】孝景帝は梁王と共に太后に侍して宴飮す、帝曰く、吾の死後は位を王に傳へんと、太后滿悅す、此の時に、竇嬰は御前に在り、席に拜伏して言ひ曰く、漢法の約する所は、子に傳へ、子無ければ嫡孫に傳ふるに在り、帝は何を以て弟に傳ふるを得んや、若しも弟に傳ふるときは、是れ擅に高帝の約を亂すものなりと、是に於て、孝景帝は默然として言はず、太后は意中に悅ばず、

孝景中六年、爲山陽王、九年卒、無子、國除、地入于漢、爲山陽郡、

【講義】山陽の哀王定は、梁の孝王の第四子なり、孝景帝の十三年を以て、山陽王と爲り、九年にして卒す、子無し、國は除かれ、其の領地は漢に入り、山陽郡と爲る、

○濟陰哀王不識者、梁孝王子、以孝景中六年、爲濟陰王、一歲卒、無子、國除、地入于漢、爲濟陰郡、

【講義】濟陰の哀王不識は、梁の孝王の第五子なり、孝景帝の十三年を以て、濟陰王と爲り、一年にして卒す、子無し、國は除かれ、其の領地は漢に入り、濟陰郡と爲る、

太史公曰、梁孝王雖以親愛之故、王膏腴之地、然會漢家隆盛、百姓殷富、故能植其財貨、廣宮室、車服擬於天子、然亦僭矣、

【講義】太史公曰く、梁の孝王は天子に親愛せられたる故を以て、膏腴豐饒の地に王と爲り、榮華を極めたり、然れども、其の時に當り、漢家隆盛にして、衆民殷富なるに由り、能く梁の財貨を積み成し、宮室を廣め大にし、車服の盛儀を天子に擬似するに至れり、以て好運の際會を見るべし、然りと雖も、梁王の驕奢も、亦僭越なり、

【字解】膏腴、肥沃なり、植、積み成すなり、藏殖をいふ、僭、其の身分を越えて、擅に尊位に居ること、

褚先生曰、臣爲郎時、聞之於宮殿中老郎吏好事者、稱道之也、

【講義】褚先生曰く、臣が郎官として奉仕したる時に當り、宮殿の中に老郎吏の好事者有り、臣は此の好事者に就きて、其の稱說する所を聞けり、

【字解】此の段より、下の文は、褚少孫の補遺に係る、

陵、地入于漢、爲郡、

【講義】濟川王明は、梁の孝王の第二子なり、曩に桓邑侯たり、孝景帝の十三年に、濟川王と爲る、齡七歲なり、既にして、王は其の王城の警護武官を射殺したる罪に當る、漢の法官は、王を誅殺せんと請ふ、然れども、孝景帝は之を殺すに忍びず、明を廢して庶民と爲し、蜀の房陵に遷り居らしむ、濟川の地は漢に入り、郡と爲る、

【字解】中六年、孝景帝の十三年なり、中尉、濟川の王城を警護する武官なり、

○濟東王彭離者、梁孝王子、以孝景中六年、爲濟東王、二十九年、彭離驕悍、無人君禮、昏暮私與其奴亡命少年數十人、行剽、殺人取財物、以爲好、所殺發覺者百餘人、國皆知之、莫敢夜行、所殺者子上書言、漢有司請誅、上不忍、廢以爲庶人、遷上庸、地入于漢、爲大河郡、

【講義】濟東王彭離は、梁の孝王の第三子なり、孝景帝の十三年を以て、濟東王と爲る、彭離は王として二十九年を歷たり、然れども、其の天性驕悍なり、人君たる禮無し、暮夜に至れば、私に其の家奴及び亡命したる少年數十人を伴ひ行きて、剽盜し、人を殺し、財物を奪ひ、以て其の惡事なるを覺らず、其の殺害の露顯したるもの百餘人に及び、國人は皆之を知り、敢て夜行するもの無し、其の殺されたるものゝ子は、上書して其の事を告ぐ、是に於て、漢の吏は誅殺を請ふ、然れども、孝武帝は之を憐み、其の死を赦し、廢して庶民と爲し、蜀の上庸に遷り居らしむ、濟東の地は、漢に入り、大河郡と爲る、

【字解】行剽、追剝なり、好、自から良き事とするなり、惡事を覺らず、

○山陽哀王定者、梁孝王子、以

以て梁國に屬する郡守を責む、是に於て、郡守以下の諸吏は、類犴反を求むること急なり、遂に其の父母を捕ふ、然るに類犴反は、梁國の祕密を知るに由り、乃ち梁の變事を漢廷に上書し、委細に告げて曰く、臣は梁王と其の祖母とが、金樽を爭ひし事情を知ると、此の時に漢の丞相以下諸官も、委細に梁の陰事を知る、故に、此の事を以て梁の長吏を害せんと欲し、此の類犴反の書を孝武帝に奏上したり、

【字解】睢陽、河南の睢陽なり、梁の根據地なり、類犴、ルヰガンと讀む、反の氏なり、淮陽、睢陽に近き漢の郡なり、二千石、漢廷より置きたる郡守なれども、梁國に於ては警察の長吏なり、親戚、父母なり、聞、奏上すること、

天子下吏驗問、有之、公卿請廢襄爲庶人、天子曰、李太后有淫行、而梁王襄無良師傅、故陷不義、乃削梁八城、梟任王后首于市、梁餘尚有十城、襄立三十九年卒、謚爲平王、子無傷立爲梁王也、

【講義】是に於て、孝武帝は吏に命じ吟味せしむ、其の事實の確なるを知れり、公卿乃ち曰く、請ふ梁王襄を廢して庶民と爲さんと、然れども、孝武帝曰く、李太后は淫亂の行爲有り、而も梁王襄は師傅の良きもの無し、故に、此の不義に陷るのみと、乃ち梁王襄を赦し、唯梁の八城を削り、任王后の首を市に梟したり、因て梁は尚十城を保留するを得たり、梁王襄は立ちて三十九年に卒す、謚して平王と曰ふ、子無傷立ちて、復た梁王たり、

【字解】驗問、按驗なり、吟味して罪を證明すること、梟、獄門に懸けて首を晒すこと、

○濟川王明者、梁孝王子、以桓邑侯、孝景中六年、爲濟川王、七歲坐射殺其中尉、漢有司請誅、天子弗忍誅、廢明爲庶人、遷房

后は門を爭ひ、指を門の扉に挾み笮られ、遂に漢の使者を見るを得ず、

【字解】 罍樽、前段に解せり、措、笮るなり、挾まれて拔き取れざること、

李太后亦私與食宮長及郎中尹霸等、士通亂、而王與任王后、以此使人風止李太后、李太后內有淫行、亦已、後病薨、病時任后未嘗請病、薨、又不持喪、

【講義】 李太后も淫亂の行爲有り、私に食宮の長官及び郎中の尹霸等と、情を通じて亂る、平王は任王后と共に、人をして此の事を李太后は諷諫し、之を止めしむ、是に於て、李太后は內に淫行有ることも、終に止む、後に病み薨ず、其の病中に於て、任王后は未だ嘗て病を問はず、其の薨じたるも喪に服せず、

【字解】 郎中、宮中の事務官なり、等士、士は衍字なり、等の一字と見るべし、風、諷なり、暗に告ぐること、請、候ふなり、見舞ふこと、

元朔中、睢陽人類犴反者、人有辱其父、而與淮陽太守客出同車、太守客出下車、類犴反殺其仇於車上而去、淮陽太守怒、以讓梁二千石、二千石以下求反甚急、執反親戚、反知國陰事、乃上變事、具告知王與大母爭樽狀、時丞相以下具知之、欲以傷梁長吏、其書聞天子、

【講義】 孝武帝の元朔年中に、類犴反といふもの有り、睢陽の人なり、或る者に其の父を辱しめらる、類犴反は淮陽郡の太守の客と車を同くして出づ、淮陽郡の太守の客が、車を下り去りたる後に、類犴反は其の父の仇を車上に殺して去る、淮陽郡の太守は怒り、

襄、

【講義】梁の平王襄の十四年に、金樽の事有り、蓋し平王の母を陳太后と曰ひ、共王の母を李太后と曰ふ、故に、李太后は平王の實祖母なり、而して平王の后は任氏なり、之を任王后と曰ふ、任王后は甚だ平王に寵愛せらる、

【字解】親大母、實祖母なり、親の字を離して用ひたるも意同じ、

初孝王在時、有罍樽、直千金、孝王誡後世、善保罍樽、無得以與人、任王后聞、而欲得罍樽、平王大母李太后曰、先王有命、無得以罍樽與人、他物雖百巨萬、猶自恣也、任王后絕欲得之、

【講義】是より先に、梁の孝王が在世の時に、金樽有り、千金の價なり、孝王は後世に戒めて曰く、善く金樽を保存せよ、之を他人に與ふるを許さずと、然るに、任王后は之を聞きて、金樽を得んと欲す、平王の祖母李太后曰く、先王は命有り、金樽を他人に與ふるを許さず、其の外の物ならば百萬萬と雖も、猶自ら隨意にするを得んと、然れども、任王后は甚だ之を得んと欲す、

【字解】罍樽、金を以て雲雷の象を畫き、之を刻して染附にしたる陶磁器の酒樽なり、絕、甚だなり、

平王襄、直使人開府、取罍樽、賜任王后、李太后大怒、漢使者來、欲自言、平王襄及任王后遮止、閉門、李太后與爭門措指、遂不得見漢使者、

【講義】平王は直に人をして、藏府を開き、金樽を取り、之を任王后に與へしむ、李太后は大に怒る、此の時に當り、漢の使者來る、李太后は自から之を言はんと欲す、平王及び任王后は遮り止め、門を閉づ、李太

す所を知らず、其姊なる長公主嫖と相談す、乃ち梁を分ちて五國と爲し、盡く孝王の男子五人を立て王と爲し、女子五人には皆其の私費を給する領地を賜ふ、因て此の事を太后に奏上す、太后は之を悅び、帝の爲めに自から一食を增したり、

【字解】湯沐邑、化粧料を支給する領地なり、說、悅ぶなり、加壹飡、食量を增すこと、喜びて健康と爲りたるをいふ、飡は飧に同じ、食することなり、餐に通じ用ふ、

梁孝王長子買爲梁王、是爲共王、子明爲濟川王、子彭離爲濟東王、子定爲山陽王、子不識爲濟陰王、孝王未死時、財以巨萬計、不可勝數、及死藏府餘黃金、尙四十餘萬斤、他財物稱是、梁共王三年景帝崩、共王立七年卒、子襄立、是爲平王、

【講義】梁の孝王の長子買を梁王と爲す、是を梁の共王と曰ふ、第二子明を濟川王と爲し、第三子彭離を濟東王と爲し、第四子定を山陽王と爲し、第五子不識を濟陰王と爲す、孝王の未だ死せざる時に、梁の財貨は萬萬を以て計る、數ふるに勝ふべからず、其の死に及び、藏府は黃金を餘すこと尙四十餘萬斤有り、其の他の財物は、此に相當したる巨額なり、梁の共王の三年に、孝景帝崩御し、共王は立ちて七年に卒す、子襄立つ、是を平王と曰ふ、

【字解】巨萬、萬萬なり、四十萬斤、六百四十萬兩なり、此の五王の領地は、次の梁、濟川、濟東、山陽、濟陰の各章に明なり、

梁平王襄十四年、母曰陳太后、共王母曰李太后、太后親平王之大母也、而平王之后姓任、曰任王后、任王后甚有寵於平王

帝も大に喜び相泣く、其の情愛は舊の如し、悉く王の從官を召して、關に入らしめたり、然れども、孝景帝は益、梁王を疏遠にし、復た車輦に同乗せず、

【字解】 布車、飾らざる車なり、斧質、斧鑕なり、斧にて斬る時に人を載せる臺を鑕といふ、

三十五年冬、復朝、上疏欲留、上弗許、歸國、意忽忽不樂、北獵良山、有獻牛足出背上、孝王惡之、六月中、病熱、六日卒、謚曰孝王、

【講義】 梁王の三十五年冬に、梁王は復た長安に入朝す、上疏して留らんと欲す、孝景帝は之を許さず、其の國に歸らしむ、梁王は歸りて後に、恍惚として喪失したるが如く、其の意樂しまず、北遊して良山に獵す、牛を獻ずるもの有り、其の牛は背の上に足有り、梁王は其の不祥なるを視て、之を惡む、遂に六月中を以て、熱を病み、六日を歷て卒す、謚して孝王と曰ふ、

【字解】 上疏、事情を列叙したる上書なり、忽忽、恍惚として氣の拔けたる貌なり、

孝王慈孝、毎聞太后病、口不能食、居不安寢、常欲留長安侍太后、太后亦愛之、及聞梁王薨、竇太后哭極哀、不食、曰、帝果殺吾子、景帝哀懼、不知所爲、與長公主計之、乃分梁爲五國、盡立孝王男五人爲王、女五人皆食湯沐邑、於是、奏之太后、太后乃說爲帝加壹飡、

【講義】 梁の孝王は慈孝なり、其母なる竇太后の病を聞く毎に、食する能はず、寢ぬる能はず、常に長安に留らんと欲す、蓋し太后に侍せんと欲するなり、太后も之を愛し、孝王の薨去を聞くに及び、太后の哭すること極めて哀し、食はずして曰く、豫想の如く、帝は吾子を殺したりと、孝景帝は之を聞きて哀懼し、爲

稍解、

【講義】是に於て、孝景帝は梁王を疑ふ、既にして賊を捕へ得たり、之を按問して、豫想の如く、梁の使ひし所なるを知り得たり、乃ち使を發し、其の使の車は前後相接して、梁を取調べしめ、公孫詭、羊勝を捕へんとす、然るに、公孫詭、羊勝は梁王の後宮に匿る、漢の使者は郡守を責めて、之を捕へんとする急なり、梁の相なる軒丘豹、及び梁の內史なる韓安國は、進みて王を諫む、王は乃ち勝と詭とをして皆自殺せしめ、之を出す、孝景帝は此に由り、梁王を怨望す、梁王恐る、乃ち韓安國をして、其の姉なる長公主嫖に由り、罪を竇太后に謝せしめ、然る後に釋され、孝景帝の怒も、少しく解くを得たり、

【字解】意、疑ふなり、逐、捕ふるなり、冠蓋、車の蓋なり、相望、相接すること、其の連り續くをいふ、覆按幾度も吟味し、取調ぶること、二千石、漢廷より置きたる郡守なり、

因上書、請朝、既至關、茅蘭說王使乘布車、從兩騎、入匿於長公主園、漢使使迎王、王已入關、車騎盡居外、不知王處、太后泣曰、帝殺吾子、景帝憂恐、於是、梁王伏斧質於闕下、謝罪、然後太后景帝大喜相泣、復如故、悉召王從官入關、然景帝益疏王、不同車輦矣、

【講義】梁王は因て上書し、入朝を請ふ、既にして函谷關に至る、梁の臣茅蘭は王に說き、裝飾無き車に乘らしめ、兩騎を從へて、關に入り、其の姉なる長公主嫖の園に匿れしむ、漢は使を發し王を迎ふ、然るに、王は既に關に入る、其の車騎は、盡く關外に在るも、王の所在を知るを得ず、竇太后は泣きて曰く、帝は吾子を殺すと、孝景帝は憂恐す、是に於て、梁王は闕下に至り、斧鑕に伏して死罪を請ふ、然る後に、太后も

等、有所關說於景帝、竇太后義格、亦遂不復言以梁王爲嗣事、由此以事秘、世莫知、乃辭歸國、

【講義】 其の年の十一月、孝景帝は栗太子を廢す、竇太后は心中に梁王を以て、後嗣と爲さんと欲す、然るに、大臣及び袁盎等は、孝景帝に之を止めて說く所有り、竇太后の議する所は止められ、漢廷は竟に復た梁王を皇嗣と爲すことを言はず、然れども、此の事は祕密に屬するを以て、世に之を知るもの無し、梁王は乃ち辭し、其の國に歸り去る、

【字解】 關說、事を防止して、其の理を說くなり、義、議なり、格、止むること、

其夏四月、上立膠東王爲太子、梁王怨袁盎及議臣、乃與羊勝、公孫詭之屬、陰使人刺殺袁盎、及他議臣十餘人、逐其賊、未得也、

【講義】 梁王が歸國したる夏四月、孝景帝は其の中子なる膠東王劉徹を立てゝ、太子と爲す、梁王は袁盎及び漢廷謀議の臣を怨む、是に於て、羊勝、公孫詭の徒と相謀り、陰に人をして袁盎、及び他の漢廷謀議の臣十餘人を刺殺さしむ、孝景帝は其の賊を追捕せしむ、然れども、未だ捕ぶるを得ず、

於是、天子意梁王、逐賊果梁使之、乃遣使冠蓋相望於道、覆按梁、捕公孫詭、羊勝、匿王後宮、使者責二千石、急、梁相軒丘豹及內史韓安國、進諫王、王乃令勝、詭皆自殺、出之、上由此怨望於梁王、梁王恐、乃使韓安國、因長公主、謝罪太后、然後得釋、上怒

府庫金錢、且百巨萬、珠玉寶器多於京師、

【講義】齊人羊勝、公孫詭、鄒陽の徒皆至る、公孫詭は奇邪の計多し、始めて王に謁見す、忽ち千金を賜ひ、其の官は中尉に至る、梁は之を號して、公孫將軍と曰ふ、梁は多く兵器を作る、弓、弩、矛等數十萬有り、而して府庫の金錢は、百萬萬ならんとす、珠玉寶器は、帝京よりも多し、

【字解】中尉、王城警護の武官なり、顯職とす、巨萬、萬萬なり、萬の萬倍といふ意にして、巨額を汎稱す、京師、帝京なり、

二十九年十月、梁孝王入朝、景帝使使持節、乘輿駟馬、迎梁王於闕下、既朝、上疏因留以太后親故、王入則侍景帝同輦、出則同車游獵、射禽獸上林中、梁之侍中、郎、謁者、著籍引出入天子殿門、與漢宦官無異、

【講義】梁王の二十九年十月に、梁王は入朝す、孝景帝は使をして節旄を持たしめ、天子の乘物に四馬を添へ、梁王を天子の門に迎へしむ、梁王は既に朝禮し、上書して宮中に留滯す、是れ竇太后の親愛なるを以てなり、梁王は宮城に入れば、孝景帝に侍して輦を同くし、宮城を出れば孝景帝と車を同くして遊獵し、禽獸を御苑の中に射る、是に於て、梁の侍從長以下宮內官は鑑札を帶びて、自由に天子の殿門を出入すること、漢宮の宮內官と異ならず、

【字解】節、特使の持つ旗なり、乘輿、天子の御車なり、駟馬、四馬なり、天子の副車は六馬を省略して、四馬とす、上林、上苑なり、御苑なり、侍中郎謁者、侍從長事務官式部官等の宮內官なり、籍引、入門の鑑札なり、宦官、近侍の官なり、

十一月、上廢栗太子、竇太后心欲以孝王爲後嗣、大臣及袁盎

膏腴豐饒の地を占む、北は山東の泰山を界とし、西は河南の陳留高陽に至る、四十餘城有り、其の城の多くは大縣に在り、而して孝王は竇太后の末子なり、故に、太后は深く之を愛幸し、賞賜は道ふに勝ふべからず、此の內外の事情は、孝王を驕らしむるに至れり、

於是、孝王築東苑、方三百餘里、廣睢陽城、七十里、大治宮室、爲複道、自宮連屬於平臺、三十餘里、得賜天子旌旗、出從千乘萬騎、東西馳獵、擬於天子、出言趕、入言警、招延四方豪桀、自山以東游說之士、莫不畢至、

【講義】 是に於て、孝王は東方の遊苑を造築す、四方三百餘里有り、河南の睢陽城を擴大して、七十里と爲す、大に宮室を修築し、閣道を造りて、之を王宮より平臺の離宮に連接すること、三十餘里に亙る、而して天子の旌旗を建つるを許され、出遊には千車萬騎を從へ、以て東西を馳せ獵し、天子に擬似す、其の出入には警蹕して、通行の民衆を警戒す、常に四方豪傑の士を招き寄せ、山東遊說の客は、畢く至らざる無し、

【字解】 複道、宮殿の間に通じたる上下二重の道なり、閣道ともいふ、三百餘里、本邦の五十餘里なり、然れども、是れ驕奢を叙したる誇張の言にして、實際五十餘里を占めたるに非ず、七十里も、三十餘里も、亦此の例に依るのみ、乘、車なり、出言趕入言警、出入警蹕といふべきを飾りて言ふのみ、出づるときに警も蹕も共に行ふなり、警は注意して戒むること、蹕は通行する人を制止すること、趕は蹕に同じ、桀、傑なり、自山以東、華山の東にして、謂はゆる中原の諸國を總稱す、

齊人羊勝、公孫詭、鄒陽之屬、公孫詭多奇邪計、初見王、賜千金、官至中尉、梁號之、曰公孫將軍、梁多作兵器、弩弓矛數十萬、而

二十四年入朝す、二十五年復た入朝す、是の時に、孝景帝は未だ太子を置かず、孝景帝は梁王武と宴飲し、嘗て從容として打寛ぎ、言ひ曰く、吾の死後には、位を王に傳へんと、梁王は之を辭謝し、其の確定の言に非ざるを知る、然れども、心の中に喜悅し、竇太后も同じく悅びたり、

【字解】比年、連年なり、燕、宴なり、至言、最上至極の言なり、確定の言を稱す、

其春、吳楚齊趙七國反、吳楚先擊梁棘壁、殺數萬人、梁孝王城守睢陽、而使韓安國張羽等、爲大將軍、以距吳楚、吳楚以梁爲限、不敢過、而西、與太尉亞夫等相距、三月、吳楚破、而梁所破殺虜、略與漢中分、

【講義】其の年の春、吳、楚、齊、趙七國の叛亂有り、吳楚は先づ梁の棘壁城を擊ち、數萬人を殺す、梁の孝王は睢陽に城守す、而して韓安國、張羽等を大將軍と爲し、以て吳楚を距ぐ、是に於て、吳楚は梁を以て限られ、敢て西方に通過するを得ず、太尉周亞夫等と相對抗すること三個月にして、吳楚は竟に破れたり、而して梁が破りたる所、及び殺虜したる所は、大略漢軍の功と相均し、

【字解】棘壁、地名なり、今の河南歸德府に屬す、睢陽、今の河南歸德府睢州なり、殺虜、殺戮と捕虜となり、中分、等分なり、

明年漢立太子、其後梁最親有功、又爲大國、居天下膏腴地、地北界泰山、西至高陽、四十餘城、皆多大縣、孝王竇太后少子也、愛之、賞賜不可勝道、

【講義】明年、漢は太子を立つ、其の後梁は最も漢室に親む、且つ最も功有り、其の國は廣大なり、天下の

年に卒す、諡して代の孝王と曰ふ、子登嗣ぎ立つ、是を代の共王と曰ふ、共王は立つこと二十九年、孝武帝の元光二年を以て卒す、子義立つ、是を代王と爲す、此の代王の十九年、漢は關を擴げ、常山を以て限界と爲す、因て代王を徙し、清河郡に王とす、清河王が代より徙りたるは、孝武帝の元鼎三年なり、

【字解】徙代王、代は關內に入りたるを以て、之を關外に徙したるなり、

初武爲淮陽王、十年而梁王勝卒、諡爲梁懷王、懷王最少子、愛幸異於他子、其明年徙淮陽王武、爲梁王、梁王之初王梁、孝文帝之十二年也、梁王自初王、通歷已十一年矣、

【講義】是より先に、武は淮陽王と爲り、十年にして梁王勝卒す、諡して梁の懷王と曰ふ、懷王は孝文帝の末子なるを以て、最も愛幸せられて、他の子に異なり、其の明年、淮陽王武を徙して梁王と爲す、此の梁王が始めて梁に王たるは、孝文帝の十二年なり、此の王が代に王たる時よりすれば、既に十一年を歷たり、

梁王十四年、入朝、十七年、十八年、比年入朝、留、其明年、乃之國、二十一年入朝、二十二年、孝文帝崩、二十四年入朝、二十五年、復入朝、是時上未置太子也、上與梁王燕飲、嘗從容言曰、千秋萬歲後、傳於王、王辭謝、雖知非至言、然心內喜、太后亦然、

【講義】梁王武の十四年に、梁王は漢に入朝す、十七年、十八年、連年入朝し、長安に滯留す、其の明年乃ち國に往く、二十一年入朝す、二十二年孝文帝崩御す、

や、然れども、亞夫は自己を以て足れりと思惟し、他を學ぶことを爲さず、節義を守るも、傲慢にして無禮なり、終に自ら窮困す、悲むべし、

梁孝王世家第二十八

梁孝王武者、孝文皇帝子也、而與孝景帝同母、母竇太后也、孝文帝凡四男、長子曰太子、是爲孝景帝、次子武、次子參、次子勝、

【講義】梁の孝王劉武は、孝文皇帝の子なり、孝景帝と其の母を同くす、母とは竇太后をいふ、蓋孝文帝は四男有り、長子を太子とす、是れ孝景帝なり、次子を武と曰ひ、第三子を參と曰ひ、第四子を勝と曰ふ、

【字解】梁、中原の要衝に在り、北は山東の泰山を境とし、西は河南の陳留縣高陽鄉を限とす、四十餘城有り、

孝文帝卽位二年、以武爲代王、以參爲太原王、以勝爲梁王、二歲徙代王、爲淮陽王、以代盡與太原王、號曰代王、參立十七年、孝文後二年卒、謚爲孝王、子登嗣立、是爲代共王、立二十九年、元光二年卒、子義立、是爲代王、十九年、漢廣關、以常山爲限、而徙代王、王淸河、淸河王徙以元鼎三年也、

【講義】孝文帝は卽位の二年に、第二子武を以て、代王と爲し、第三子參を以て、太原王と爲し、第四子勝を以て、梁王と爲す、後一年にして代王を徙し、淮陽王と爲し、代國を以て、盡く太原王に與ふ、之を號して代王と曰ふ、代王參は立ちて十七年、孝文帝の十八

年卒、諡爲共侯、子建德代侯、十三年爲太子太傅、坐酎金不善、元鼎五年、有罪國除、條侯果餓死、死後、景帝乃封王信爲蓋侯、

【講義】 其の家絶えたること一年、孝景帝は乃ち更に絳侯周勃の他の子周堅を封じ、平曲侯と爲し、絳侯の後を續がしむ、十九年にして卒す、諡して共侯と曰ふ、子建德は代り侯たり、十三年にして太子太傅と爲る、建德は孝武帝の元鼎五年を以て、獻上の黃金粗惡なる事に連累し、其の罪を以て國除かれ、家亡ぶ、前年、許氏の老母が言ひし如く、條侯周亞夫は餓死せり、其の後、孝景帝は皇后の兄なる王信を封じて、蓋侯としたり、

【字解】 平曲、東海郡の縣名なり、今の江蘇海州に屬す、酎金、天子の祭りに用ふる醇酒の料として、諸侯より獻上する金なり、坐酎金不善の五字は、元鼎五年の下に置きて、解すべし、蓋、カフと讀む、泰山郡の縣名なり、今の山東沂州府沂水縣に屬す、

太史公曰、絳侯周勃、始爲布衣時、鄙朴人也、才能不過凡庸、及從高祖定天下、在將相位、諸呂欲作亂、勃匡國家難、復之乎正、雖伊尹周公、何以加哉、亞夫之用兵、持威重、執堅刃、穰苴曷有加焉、足己而不學、守節不遜、終以窮困、悲夫、

【講義】 太史公曰く、絳侯周勃は當初無官の時に於て、鄙しき素樸の人なり、其の才能は凡庸に過ぎず、既に高祖に從ひ、天下を平定するに及びて、將相の顯位に上り、諸呂が亂を作さんと欲するに當り、周勃は國家の患難を匡救して、之を正道に恢復せり、其の大功は殷の伊尹、周の周公と雖も、何を以て加ふるを得んや、條侯周亞夫の兵を用ふるは、威重を持し、堅刃を執る、是れ齊の司馬穰苴と雖も、何ぞ勝るを得ん

條侯不對、

【講義】其の後、數月にして、條侯周亞夫の子は、父の爲めに、工官の製作したる鎧と楯と五百組を買ひたり、是れ葬儀に用ふべきものなり、此の時に、亞夫の子は、人夫を傭ひ、之を使役して、苦勞せしめ、其の傭錢を支拂はず、人夫は其の縣官の器を盜み買ひたるを知る、因て怒り、上書して變を告げ、周亞夫の子を訴ふ、其の事情は亞夫に連り汙る、既にして、書は孝景帝に奏上す、帝は之を獄吏に命ず、獄吏は記錄簿を執り、亞夫を責め問ふ、然れども、亞夫は答辯せず、

【字解】工官尙方、尙方局に納むる物品を製作する工官なり、尙方は天子の御物を置く所なり、被、組なり、庸、人夫なり、予、與ふなり、

景帝罵之曰、吾不用也、召詣廷尉、廷尉責曰、君侯欲反邪、亞夫曰、臣所買器、乃葬器也、何謂反邪、吏曰、君侯縱不反地上、卽欲反地下耳、吏侵之益急、初吏捕條侯、條侯欲自殺、夫人止之、以故不得死、遂入廷尉、因不食五日、嘔血死、國除、

【講義】孝景帝は之を罵り曰く、余は亞夫の答辯を用ひずと、更に召して亞夫を廷尉に詣らしむ、廷尉は亞夫を責めて曰く、君侯は叛せんと欲するかと、亞夫曰く、臣が買ふ所の器は、葬儀に用ふるものなり、何ぞ叛と謂はんやと、吏曰く、君侯は地上に叛せざるも、地下に於て叛せんと欲するのみと、吏は之を侵し辱しむること、益急なり、是より先に、吏が亞夫を捕へたるときに、亞夫は自殺せんと欲したるも、夫人に止められ、死するを得ず、遂に廷尉に入るに至れり、亞夫は因て憤慨に堪へず、食を絶つこと五日にして、血を吐き死す、其の國は除かれ、家亡ぶ、

絶一歲、景帝乃更封絳侯勃他子堅、爲平曲侯、續絳侯後、十九

のを勸めんと欲するなり、然るに、丞相周亞夫曰く、彼は其の主に背きて吾君に降る、吾君が之を侯に封ずるときは、何を以て人臣の節義を守らざるものを責めんや、孝景帝曰く、丞相の議す　所は、用ふべからずと、乃ち悉く徐盧等を封じ、列侯と爲す、是に於て、周亞夫は病を稱して家居し、孝景帝の十年に、病を以て丞相を免官す、

【字解】徐盧、氏名なり、容城侯に封ぜらる、中三年、孝景帝の十年なり、

頃之、景帝居禁中、召條侯、賜食、獨置大胾、無切肉、又不置櫡、條侯心不平、顧謂尚席、取櫡、景帝視而笑曰、此非不足君所乎、條侯免冠謝、上起、條侯因趨出、景帝以目送之曰、此怏怏者、非少主臣也、

【講義】其の後、數日にして、孝景帝は禁中に居り、條侯周亞夫を召して食を賜ふ、唯大肉を置く、細切したる肉無し、之に箸を置かず、亞夫は心に不平なり、因て給仕者を顧み、之に命じて箸を持ち來らしむ、帝は之を視て笑ひ曰く、此は君の所に足らざるかと、亞夫は冠を免して謝す、帝起ちて、亞夫は退出す、帝は之を目送して曰く、此れ怏怏として不平なる人なり、年少の君に事ふること難しと、

【字解】胾、シと讀む、大切の肉なり、櫡、箸なり、尚席、食堂の事務官なり、此非、此の一字と見るべし、非は衍字なり、趨出、普通の退出する貌なり、趨は足を疾く歩すること、是れ走るに非ず、怏怏、不平なる貌、

居無何、條侯子、爲父買工官尚方甲楯五百被、可以葬者、取庸苦之、不予錢、庸知其盜買縣官器、怒而上變、告子、事連汙條侯、書既聞上、上下吏、吏簿責條侯、

【講義】竇太后曰く、皇の兄なる王信は、侯と爲すべしと、孝景帝は辭讓して曰く、曩に南皮章武の兩侯は、先帝の時に、之を侯と爲さず、臣が位に卽くに及び、之を侯とせり、故に、王信は今日未だ之を封ずるを得ずと、竇太后曰く、人主は各〻其の時に應じて、事を行ふべきのみ、何ぞ必らずしも先例に依らん、竇長君は生存の時に於て、竟に侯と爲るを得ず、死後に至り、其の子を封ず、是に由り彭祖は、却て其の父に超え侯を得たり、吾は甚だ之を殘念とす、帝其れ速に王信を侯とせよと、帝曰く、請ふ丞相と之を議するを得んと、乃ち丞相を召して之を議せしむ、

【字解】此の事は、外戚世家に於ける竇太后の條下を參看すべし、顧、却てなり、趣、速なり、

亞夫曰、高帝約、非劉氏不得王、非有功不得侯、不如約、天下共擊之、今信雖皇后兄、無功、侯之非約也、景帝默然而止、

【講義】丞相周亞夫曰く、高皇帝は約を定めて曰ふ、劉氏に非ざるものは、王たるを得ず、有功者に非ざるものは、侯たるを得ず、若しも此の約に背くもの有らば、天下共同して之を擊つべしと、今や王信は皇后の兄なりと雖も、功無し、之を侯と爲すは、高皇帝の約に背くものなりと、孝景帝默然たり、此の事乃ち止む、

其後、匈奴王徐盧等五人降、景帝欲侯之、以勸後、丞相亞夫曰、彼背其主、降陛下、陛下侯之、則何以責人臣不守節者乎、景帝曰、丞相議不可用、乃悉封徐盧等、爲列侯、亞夫因謝病、景帝中三年、以病免相、

【講義】其の後、匈奴王徐盧等五人來り、降參す、孝景帝は之を侯に封ぜんと欲す、蓋し以て後に降るも

頭を千金に購求す、一月餘を經て、越人は吳王の頭を斬り、以て告ぐ、凡て相攻守すること三個月にして、吳楚は破れて平定せらる、

【字解】丹徒、會稽郡の縣名なり、今の江蘇鎮江府丹徒縣なり、弃、棄つなり、

於是、諸將乃以太尉計謀爲是、由此梁孝王與太尉有郤、歸復置太尉官、五歲遷爲丞相、景帝甚重之、景帝廢栗太子、丞相固爭之、不得、景帝由此疏之、而梁孝王每朝、常與太后言條侯之短、

【講義】是に於て、諸將は太尉周亞夫の計謀を以て、至當なりと思へり、然れども、是に由り、梁の孝王は周亞夫と相惡し、周亞夫凱旋して、漢廷は復た太尉の官を置く、五年にして、亞夫は遷り丞相と爲る、孝景帝は甚だ之を尊重す、既にして帝は栗太子を廢す、丞相は之を諫爭したるも聽かれず、帝は此の諫爭に由り、漸く周亞夫を疏遠にするに至れり、而して梁の孝王は入朝する每に、常に其の母なる竇太后と共に、條侯周亞夫の缺點を言ふ、

【字解】郤、隙なり、仲惡しきなり、栗太子、栗姬の子なるを以て、栗の字を冠したるのみ、

竇太后曰、皇后兄王信可侯也、景帝讓曰、始南皮、章武侯、先帝不侯、及臣卽位、乃侯之、信未得封也、竇太后曰、人主各以時行耳、自竇長君在時、竟不得侯、死後乃封其子彭祖顧得侯、吾甚恨之、帝趣侯信也、景帝曰、請得與丞相議之、丞相議之、

は兵略の便宜を守り、救援に赴くを承諾せず、是に於て、梁は上書して之を孝景帝に告ぐ、帝は使を發し、周亞夫に詔して、梁を救はしむ、然れども、亞夫は詔に從はず、壁を堅くして出でず、遂に輕騎の兵、弓高侯韓穨當等をして、吳楚の兵の後なる糧道を斷絕せしむ、是に於て、吳兵は糧に窮し、飢餓し、戰を挑發せんと圖ること屢なり、然れども、亞夫は終に出でず、

【字解】昌邑、今の山東萊州府昌邑縣なり、弓高侯、韓穨當の爵なり、弓高は今の直隸河間府阜城縣の西南に在り、

夜軍中驚、內相攻擊擾亂、至於太尉帳下、太尉終臥不起、頃之復定、後吳奔壁東南陬、太尉使備西北、已而其精兵果奔西北、不得入、吳兵既餓、乃引而去、太尉出精兵、追擊、大破之、

【講義】一夜太尉の軍中驚擾し、相互に攻擊して亂れ、太尉の帳下に至る、然れども、太尉周亞夫は靜に臥して起たず、暫時にして軍中復た安定す、其の後、吳兵は昌邑城壁の東南隅に奔り、集る、周亞夫は乃ち却て城壁の西北隅を防禦せしむ、既にして、吳の精兵は亞夫の豫想の如く、西北隅に奔り來る、然れども城に入るを得ず、吳兵は既に飢う、乃ち引きて去る、亞夫は精兵を出し、追擊して、大に之を破る、

【字解】內、軍中の人人なり、陬、隅なり、

吳王濞弃其軍、而與壯士數千人亡走、保於江南丹徒、漢兵因乘勝、遂盡虜之、降其兵、購吳王千金、月餘、越人斬吳王頭、以告、凡相攻守三月、而吳楚破平、

【講義】吳王濞は其の軍を棄て、壯士數千人と共に逃走し、江南の丹徒を保守す、漢兵は勝に乘じ、遂に盡く其の將を虜にし、其の兵卒を降參せしめ、吳王の

崩ずるに臨みて、太子を誡め曰く、國家若しも急難有らば、周亞夫は將軍として用ふべしと、既にして孝文帝崩じ、孝景帝は亞夫を車騎將軍と爲す、

【字解】 中尉、京畤守護の武官なり、將軍の下に在るものと異なり、卽、若なり、緩急、急難なり、

孝景三年、吳楚反、亞夫以中尉、爲太尉、東擊吳楚、因自請上曰、楚兵剽輕、難與爭鋒、願以梁委之、絕其糧道、乃可制、上許之、

【講義】 孝景帝の三年、吳楚の叛亂有り、周亞夫は中尉の官に在りながら、太尉と爲り、東進して、吳楚を伐つ、因て自から孝景帝に請ひ曰く、楚兵は強くして急なり、俄に鋒を爭ふことは難し、願くは梁を以て吳楚の手に委棄せよ、臣は吳楚の糧道を斷絕せしめん、斯くすれば、吳楚を制するを得べしと、天子は之を許す、

【字解】 太尉、陸軍大臣の如きものなり、是れ戰鬪の官に非ざるも、以て大將軍の事を行ふなり、剽輕、强くして疾きこと、

太尉既會兵滎陽、吳方攻梁、梁急請救、太尉引兵、東北走昌邑、深壁而守、梁日使使請太尉、太尉守便宜、不肯往、梁上書、言景帝、景帝使使詔救梁、太尉不奉詔、堅壁不出、而使輕騎兵、弓高侯等、絕吳楚兵後食道、吳兵乏糧、飢、數欲挑戰、終不出、

【講義】 太尉周亞夫は、既に兵を河南の滎陽に會す、吳は方に梁を攻む、梁は危急なり、援兵を請ふ、周亞夫は之を救はず、却て兵を引いて東北に進み、山東の昌邑に走り昌邑の城に據り、壁を深くして堅く守る、梁は日に使を發し救を周亞夫に請ふ、然れども、亞夫

に詔せしめて曰く、余は軍營に入り、將士を慰勞せんと欲すと、周亞夫乃ち言を傳へ、壁門を開かしむ、壁門の士吏は、天子に從屬する車騎に謂ひ曰く、將軍は規約を定めて云ふ、軍中には驅馳するを得ずと、

於是天子乃按轡徐行、至營、將軍亞夫持兵揖曰、介胄之士不拜、請以軍禮見、天子爲動、改容軾車、使人稱謝、皇帝敬勞將軍、成禮而去、既出軍門、羣臣皆驚、文帝曰、嗟乎此眞將軍矣、曩者霸上棘門軍、若兒戲耳、其將固可襲而虜也、至於亞夫、可得而犯邪、稱善者久之、

【講義】是に於て、孝文帝は轡を抑へて、靜に馬を進ませ、軍營に入る、將軍周亞夫は劍を持ちながら、立禮して曰く、武裝の士は拜せず、請ふ軍禮を以て謁見せんと、天子は因て感動し、容を改め軾に倚りて禮し、人をして謝辭を稱せしめ、曰く、皇帝は敬みて將軍を慰勞すと、禮を成して去る、既に軍門を出づ、群臣皆驚く、帝曰く、嗟呼是れ眞の將軍なり、曩の霸上、棘門の軍は、兒戲の如きのみ、此の兩將は、固に襲ひて虜にするを得べきなり、周亞夫に至りしは、犯すを得べけんやと、之を嘆稱すること久し、

【字解】按、抑ふるなり、轡、手綱なり、軾、車上の横木にして、車上より禮するときに、之に手を推す、介胄、鎧兜なり、

月餘、三軍皆罷、乃拜亞夫爲中尉、孝文且崩時、誡太子曰、即有緩急、周亞夫眞可任將兵、文帝崩、拜亞夫爲車騎將軍、

【講義】一個月餘にして、此の長安三面の防禦軍は解散せられ、周亞夫は中尉に任ぜられたり、孝文帝は

め、河内の郡守周亞夫を將軍と爲して、細柳に軍せしめ、以て匈奴に備へたり、

【字解】 後六年、孝文帝の第二十二年なり、宗正、皇族取締の長官なり、霸上、棘門、細柳、此の三陣營は、長安の帝城を守護する東北西の三面なり、蓋し霸上は東に在り、棘門は北に在り、細柳は西に在り、皆長安より二十里內外、即ち本邦の里程にて三里或は四里附近とす、

上自勞軍、至霸上及棘門軍、直馳入、將以下騎送迎、已而之細柳軍、軍士吏被甲、銳兵刃、彀弓弩、持滿、天子先驅至、不得入、先驅曰、天子且至、軍門都尉曰、將軍令曰、軍中聞將軍令、不聞天子之詔、

【講義】 孝文帝は親から軍を慰勞して霸上に至り、更に棘門に至る、此の兩處の軍營に於ては、皇帝の車が、直に馳せ入り、將軍以下の騎は、皆之を送迎したり、既にして皇帝は、細柳の軍營に至る、軍士、軍吏、皆鎧を着け、兵刄を銳くし、弓に矢を注け、十分其の弦を張り、嚴重に構へたり、天子の先驅者至るも、其の構內に入るを得ず、先驅者曰く、天子至らんとすと、然るに、軍門の都尉曰く、將軍は令して曰く、軍中には將軍の令を聞くのみ、天子の詔を聞かずと、

【字解】 彀、コウと讀む、弓に矢を注けて張ること、弩、大弓なり、ドと讀む、持滿、十分に張る貌なり、

居無何、上至、又不得入、於是、上乃使使持節、詔將軍、吾欲入勞軍、亞夫乃傳言、開壁門、壁門士吏、謂從屬車騎曰、將軍約、軍中不得驅馳、

【講義】 暫時にして、孝文帝至る、然れども軍門に入るを得ず、是に於て、帝は使を發し、節旄を持し、將軍

【字解】許負、許氏の老母なり、負は老婦の稱とす、許負は河內郡溫縣の人にして、人相を視るに精通し、漢の高祖より優遇せらる、秉、權柄なり、

亞夫笑曰、臣之兄、已代父侯矣、有如卒、子當代、亞夫何說侯乎、然既已貴如負言、又何說餓死、指示我、許負指其口曰、有從理入口、此餓死法也、

【講義】周亞夫は笑ひ曰く、臣の兄は既に父に代りて侯たり、其の死すること有るとも、兄の子が代り立つべし、亞夫は何ぞ侯を說くを得んや、然れども、既に能く貴くなること老母の言の如くならば、又何ぞ餓死を說くを得んや、試に其の理を我に指示せよと、許氏の老母は、乃ち亞夫の口を指して曰く、縱の線有り、口中に入る、此れ餓死の象なり、

【字解】從理、縱の線理なり、法、道なり、象なり、

居三歲、其兄絳侯勝之有罪、孝文帝擇絳侯子賢者、皆推亞夫、乃封亞夫、爲條侯、續絳侯後、

【講義】其の後三年にして、亞夫の兄なる絳侯勝之は罪有り、家亡ぶ、孝文帝は絳侯周勃の子にして賢なるものを選拔す、群臣は皆亞夫を推す、乃ち亞夫を封じ條侯と爲し、絳侯の後を續がしむ、

文帝之後六年、匈奴大入邊、乃以宗正劉禮爲將軍、軍霸上、祝茲侯徐厲爲將軍、軍棘門、以河內守亞夫爲將軍、軍細柳、以備胡、

【講義】孝文帝の二十二年、匈奴は大に漢の國境に侵入す、孝文帝は宗正劉禮を將軍と爲して、霸上に軍せしめ、祝茲侯徐厲を將軍と爲して、棘門に軍せし

て曰く、余は嘗て百萬の大軍に將たり、貴き身分なり、然れども、獄吏の貴きこと甚しきは、今始めて之を知れりと、

【字解】冒絮、頭巾なり、提、擲つこと、太后は心激したるに由り、手近に在る頭巾を投げ附けたるなり、綰、貫くなり、印を紐に附けて持つなり、璽、天子の玉印をいふ、天子未だ立たず、故に天子の印は大臣大將の手に在るなり、顧、却てなり、

絳侯復就國、孝文帝十一年卒、諡爲武侯、子勝之代侯、六歲尙公主、不相中、坐殺人、國除、絕一歲、文帝乃擇絳侯勃子賢者河內守亞夫、封爲條侯、續絳侯後、

【講義】絳侯周勃は、復た其の領地に歸り就く、遂に孝文帝の十一年を以て卒す、諡して武侯と曰ふ、子勝之は代り侯たり、齡六歲の時に、孝文帝の女を迎へて婦とせり、然れども、相和合せず、既にして勝之は殺人の罪に當り、國は除かれ、家絕えたり、後一年にして、孝文帝は周勃の子に就き、其の賢なる河內の郡守周亞夫を選拔し、之を封じて條侯と爲し、絳侯の後を續がしむ、

【字解】尙、人臣が天子の女を迎へて、妻とすること、公主、天子の女なり、條、渤海郡の縣名なり、葆、蓨の兩字皆通じ用ふ、今の直隸河間府景州の南に在り、

條侯亞夫、自未侯爲河內守時、許負相之、曰、君後三歲而侯、侯八歲爲將相、持國秉貴重矣、於人臣無兩、其後九歲、而君餓死、

【講義】條侯周亞夫が未だ侯と爲らず、河內の郡守に在職したる時に當り、許氏の老母は、其の人相を視て曰く、君は今後三年にして侯とならん、更に八年にして將軍宰相と爲り、國權を執り、貴寵の身分とならん、人臣として比類無し、其の後九年にして、君は餓死せん、

【講義】其の後、上書して漢廷に告ぐるもの有り、曰く、周勃は叛亂を謀ると、孝文帝は處置を廷尉に命ず、廷尉は其の事を長安の吏に命ず、是に於て、周勃を逮捕し、之を按問す、周勃は恐れて辯解の辭を置く能はず、獄吏は稍之を侵し辱しむ、周勃は千金を以て、獄吏に與ふ、獄吏は乃ち其の所持する木札の裏面に書し、之を周勃に示す、其の文に曰く、公主を以て證と爲せよと、蓋し公主とは孝文帝の女なり、周勃の嗣子勝之の婦たり、故に、獄吏は之を引きて證と爲すことを敎へたるなり、是より先に、周勃が封を增し賜を受けたる時に、皆之を薄太后の弟なる薄昭に與へたり、故に、此の繫獄の急迫したるに及びて、薄昭は周勃の爲めに、其の姊なる薄太后に言ふ所有り、薄太后も叛亂の事情無しと思へり、

【字解】廷尉、裁判の長官なり、牘、木の札なり、獄吏が持つもの、尙、臣下が天子の女を迎へて妻とすること、

文帝朝、太后以冒絮提文帝曰、絳侯綰皇帝璽、將兵於北軍、不以此時反、今居一小縣、顧欲反邪、文帝既見絳侯獄辭、乃謝曰、吏事方驗而出之、於是使使持節、赦絳侯、復爵邑、絳侯既出、曰、吾嘗將百萬軍、然安知獄吏之貴乎、

【講義】既にして、孝文帝は薄太后の宮に朝覲す、薄太后は頭巾を帝に擲ちて曰く、絳侯が繫ぐは何ぞや、絳侯は手に皇帝の御印を持ち、兵に北軍に將たり、此の權勢の自由なる時に於て、謀叛せず、然るに、今日一小縣に居りて叛せんと欲すといふは、信ずべからざる事なりと、此の時に當り、孝文帝は既に絳侯が獄中に言ふ所を聽き、其の無罪を知れり、乃ち薄太后に謝して曰く、獄吏の取調は無罪の證を得たり、請ふ之を放免せんと、是に於て、使を發し節旄を持ちて、獄に往き、絳侯を赦さしむ、因て其の爵祿領地を舊の如くにしたり、絳侯周勃は、既に獄を出で、自から嘆じ

【字解】斤、十六兩の目方なり、五千斤は八萬兩となる、食邑、封土なり、

歳餘、丞相平卒、上復以勃爲丞相、十餘月、上曰、前日吾詔列侯就國、或未能行、丞相吾所重、其率先之、乃免相就國、歳餘每河東守尉行縣至絳、絳侯勃自畏恐誅、常被甲、令家人持兵以見之、

【講義】其の後一年餘にして、丞相陳平卒す、孝文帝は復た周勃を以て丞相と爲す、其の官に在ること十餘月に及ぶ、孝文帝は周勃に謂ひ曰く、前日、余は列侯に詔して、皆其の領地に歸り居らしむ、然れども、未だ行く能はざるもの有り、丞相は余の重んずる所なり、其れ列侯に先き立ちて、領地に歸住せよと、乃ち丞相を免官して、周勃を河東の絳縣に還らしむ、後一年餘にして、河東郡の守尉が縣を巡視し、絳縣に至れば、其の至る度每に、周勃は自から誅殺に遭ふを畏れ、常に鎧を着け、家人をして武器を持たしめ、守尉に面會す、

【字解】率先、ソッセンと讀む、衆人の先頭に立ちて、前進の例を見すこと、

其後、人有上書告勃欲反、下廷尉、廷尉下其事長安、逮捕勃治之、勃恐、不知置辭、吏稍侵辱之、勃以千金與獄吏、獄吏乃書牘背、示之曰、以公主爲證、公主者孝文帝女也、勃太子勝之尚之、故獄吏教引爲證、勃之益封受賜、盡以予薄昭、及繫急、薄昭爲言薄太后、太后亦以爲無反事、

孝惠帝六年、置太尉官、以勃爲太尉、十歳呂后崩、呂祿以趙王爲漢上將軍、呂產以呂王爲漢相國、秉漢權、欲危劉氏、勃爲太尉、不得入軍門、陳平爲丞相、不得任事、於是、勃與平謀、卒誅諸呂、而立孝文皇帝、其語在呂后孝文事中、

【講義】孝惠帝の六年に、太尉の官を設置す、因て周勃を以て太尉と爲す、後十年を經て、呂太后崩御す、呂此の時に當り、呂祿は趙王にして漢の上將軍たり、呂產は呂王にして漢の相國たり、漢の政權を掌握し、劉氏を危くせんと欲す、故に、周勃は太尉たるも、軍門に入るを得ず、陳平は丞相たるも、政事を執るを得ず、是に於て周勃は陳平と謀り、竟に諸呂を誅滅して、孝文帝を立てたり、其の事は呂后孝文帝の兩本紀に載す、

文帝既立、以勃爲右丞相、賜金五千斤、食邑萬戶、居月餘、人或說勃曰、君既誅諸呂、立代王、威震天下、而君受厚賞、處尊位、以寵、久之、卽禍及身矣、勃懼、亦自危、乃謝請歸相印、上許之、

【講義】孝文帝既に立つ、周勃を以て右丞相と爲し、金五千斤を賜ひ、食邑萬戶を與へらる、其の後一個月を過ぎ、或る人は周勃に說きて曰く、君は既に諸呂を誅滅し、代王を迎へて帝と爲し、威勢は天下を震動す、而して君は厚賞を受け、尊位に居り、以て寵幸せらる、斯の如くして、久しきに彌れば、禍は身に至らんと、周勃は懼れ、亦自から危きを知る、乃ち病を稱し、右丞相の印を返上せんと請ふ、孝文帝は之を許したり、

石各三人、別破軍二、下城三、定郡五、縣七十九、得丞相、大將各一人、

【講義】燕王盧綰叛亂す、周勃は相國の官に在りながら、樊噲に代りて將たり、擊ちて薊城を降らしめ、盧綰の大將抵、丞相偃、郡守陘、太尉弱、及び御史大夫施を捕へ、渾都城を取り、其の士民を殺し、綰の軍を上蘭に破り、復た綰の軍を沮陽縣に擊破し、追ひて長城に至り、上谷郡の十二縣、右北平郡の十六縣、遼西遼東兩郡二十九縣、及び漁陽郡の二十二縣を平定す、蓋し周勃は前後總て高祖に從ひ出征し、相國一人、丞相二人及び將軍二千石各三人を捕へ得たり、而して別に軍を破ること二つ、城を降らしむること三つ、郡を定むること五つ、縣を取ること七十九なり、且つ丞相、大將、各一人を虜にしたり、

【字解】薊、燕國の首都なり、今の直隷順天府薊州に在り、渾都、上谷郡の縣名なり、今の直隷順天府昌平州に屬す、上蘭、今の直隷宣化府懷來縣中の地名なり、沮陽、上蘭に近し、最、總てといふ意なり、

勃爲人、木彊敦厚、高帝以爲可屬大事、勃不好文學、毎召諸生說士、東鄉坐而責之、趣爲我語、其椎少文如此、勃既定燕而歸、高祖已崩矣、以列侯事孝惠帝、

【講義】周勃は其の性質素樸敦厚なり、高祖は之を信じて國家の大事を托すべきものと思惟したり、周勃は文學を好まず、學者及び辯士を召す毎に、自身は東に向ひ、師の席に坐して、學者及び辯士を責めて曰く、速に我に語れよと、其の素樸にして文飾無きこと、總て此の類なり、周勃は既に燕を平定して、歸り來れば、高祖崩御の後なり、乃ち列侯として孝惠帝に事ふ、

【字解】木彊、素樸にして屈せざる貌なり、野人の樸直をいふ、諸生、學者なり、東鄉、師の席なり、趣、速なり、椎、素樸なり、

勃遷爲太尉、擊陳豨、屠馬邑、所將卒斬豨將軍乘馬絺、擊韓信陳豨趙利軍於樓煩、破之、得豨將宋最鴈門守圂、因轉攻得雲中守遫、丞相箕肆、將勳、定鴈門府十七縣雲中郡十二縣、因復擊豨靈丘、破之、斬豨、得豨丞相程縱、將軍陳武、都尉高肆、定代郡九縣、

【講義】周勃は遷りて太尉と爲り、陳豨を擊ち、馬邑縣城を取りて、其の士民を殺す、周勃が引率したる兵卒は、陳豨の將軍なる乘馬絺を斬る、周勃は遂に韓王信陳豨及び趙利の軍を、樓煩に擊ちて、之を破り、陳豨の將宋最と鴈門の太守圂とを捕へ得たり、因て轉戰し、雲中の太守遫、陳豨の丞相箕肆及び將軍勳を虜にし、鴈門郡の十七縣及び雲中郡の十二縣を平定す、因て復た豨を靈丘縣に擊ち、之を破りて、豨を斬り、豨の丞相程縱、將軍陳武及び都尉高肆を捕へて、代郡の九縣を平定す、

【字解】馬邑、鴈門郡の縣名なり、今の山西朔平府朔州に在り、乘馬絺、將軍の氏名なり、靈丘、代郡の縣名なり、今の山西大同府靈丘縣なり、代郡、戰國時代の代國なり、

燕王盧綰反、勃以相國代樊噲將、擊下薊、得綰大將抵、丞相偃、守陘、太尉弱、御史大夫施、屠渾都、破綰軍上蘭、復擊破綰軍沮陽、追至長城、定上谷十一縣、右北平十六縣、遼西遼東二十九縣、漁陽二十二縣、最從高帝、得相國一人、丞相二人、將軍二千

【講義】周勃は將軍の職を以て高祖に從ひ、叛者燕王臧荼を擊ち、之を易城の下に破る、此の時に、周勃が引率したる兵卒は、高祖の御前に於て、獨捷の功有り、因て周勃に爵列侯を賜ひ、符を剖きて與へられ、其の家は永世に斷絕すること無からしむ、河東の絳縣八千一百八十戶を食邑とし、號して絳侯と曰ふ、

【字解】易、易水なり、易水の上に、臧荼の居城有り、馳道、天子の行幸する道筋なり、多、獨力を以て捷を得たる功なり、絳、今の山西平陽府曲沃縣に屬す、

以將軍從高帝、擊反者韓王信於代、降下霍人、以前至武泉、擊胡騎、破之武泉北、轉攻韓信軍銅鞮、破之、還降太原六城、擊韓信胡騎晉陽下、破之、下晉陽、後擊韓信軍於硰石、破之、追北八十里、還攻樓煩三城、因擊胡騎平城下、所將卒、當馳道、爲多、

【講義】周勃は復た將軍の職を以て、高祖に從ひ、叛者韓王信を代國に擊ち、霍人縣を降參せしめ、以て進み、武泉縣に至り、胡騎を擊ち、之を武泉縣の北に破り、轉戰して韓王信が軍を銅鞮縣に攻め、之を破り、還りて太原の六城を降參せしめ、韓王信が胡騎を晉陽の城下に擊破し、晉陽を取り、後に韓王信が軍を硰石に擊破し、其の敗走を追ひ行くこと八十里にして還り、樓煩の三城を攻め、因て胡騎を平城の下に擊つ、此の時に、周勃が引率したる兵卒は、高祖の御前に於て、獨捷の功有り、

【字解】霍、サと讀む、霍人は太原郡の縣名なり、葰人縣といふもの是なり、今の山西代州繁時縣の南に在り、武泉、雲中郡の縣名なり、今の山西朔平府右玉縣に屬す、銅鞮、上黨郡の縣名なり、今の山西沁州の西南に在り、太原、晉陽、共に晉の世家に詳なり、硰石、樓煩縣の西北に在る地名なり、樓煩、雁門郡の縣名なり、今の山西代州崞縣に屬す、平城、陳丞相世家に詳なり、多、前段に解せり、

擊ち、上功たり、

【字解】 懷德、今の陝西同州府朝邑縣なり、槐里、秦の廢丘縣なり、今の陝西西安府興平縣の東南に在り、好時、今の陝西乾州に屬す、

北攻漆、擊章平、姚卬軍、西定汧、還下郿、頻陽、圍章邯廢丘、破西丞、擊盜巴軍、破之、攻上邽、東守嶢關、轉擊項籍、攻曲逆、最、還守敖倉、追項籍、籍已死、因東定楚地泗川東海郡、凡得二十二縣、還守雒陽櫟陽、賜與潁陰侯共食鍾離、

【講義】 周勃は北進して、漆縣を攻め、章平、姚卬の軍を擊ち、西征して汧縣を平定し、還りて郿、頻陽の兩縣を取り、章邯を廢丘に圍み、西縣の丞を破り、章邯の將なる盜巴が軍を擊破し、上邽縣を攻め、東進して嶢關を守り、遂に轉戰して項籍を擊ち、曲逆を攻めて、上功たり、還つて敖倉を守り、復た項籍を追ふ、籍死す、因て東征して、楚の地泗川郡、東海郡を平定す、凡て二十二縣を得たり、還りて洛陽櫟陽を守り、潁陽侯と共に鍾離の領邑を與へらる、

【字解】 漆、今の陝西邠州に在り、汧、今の陝西鳳翔府隴州の南に在り、郿、漆に近し、今の陝西郿縣なり、頻陽、今の陝西西安府富平縣の東北に在り、廢丘、前段に在る槐里なり、西、今の甘肅秦州に屬す、上邽、西縣に近し、嶢關、敖倉、泗川、東海、雒陽、櫟陽、皆蕭曹兩世家に詳なり、曲逆、陳丞相世家に詳記す、鍾離、楚の縣なり、今の安徽鳳陽府に屬す、

以將軍從高帝、擊反者燕王臧荼、破之易下、所將卒、當馳道、爲多、賜爵列侯、剖符、世世勿絕、食絳八千一百八十戸、號絳侯、

郡長、沛公拜勃爲虎賁令、以令從沛公定魏地、攻東郡尉於城武、破之、擊王離軍、破之、攻長社先登、攻頴陽緱氏、絕河津、擊趙賁軍尸北、南攻南陽守齮、破武關嶢關、破秦軍於藍田、至咸陽滅秦、

【講義】楚の懷王は沛公を封じ、武安侯と號せしめ、碭郡の長と爲す、沛公乃ち周勃を擧げて虎賁縣の令とす、周勃は囚て縣令の官を帶びながら、沛公に從ひ、魏の地を平定し、東郡の尉を城武に攻めて、之を破り、王離の軍を擊破し、長社を攻め、先登の功有り、頴陽、緱氏の兩縣を攻め、孟津の渡口を絕ち、趙賁の軍を尸鄉の北に擊ち、南方に轉戰して、南陽郡の太守齮を攻め、武關嶢關を連破し、秦軍を藍田に破り、遂に咸陽に至り、秦を滅するを得たり、

【字解】安武、武安に作るべし、城武、成武縣なり、今の山東曹州府に在り、長社、今の河南許州に屬す、頴陽、緱氏、兩縣の名なり、長社に近し、河津、今の河南の孟津縣に於ける渡口なり、趙賁、秦將なり、此の名はヒと讀む、ホンと讀まず、此の段は曹相國の世家を參看すべし、

項羽至、以沛公爲漢王、漢王賜勃爵、爲威武侯、從入漢中、拜爲將軍、還定三秦、至秦、賜食邑懷德、攻槐里、好畤、最、擊趙賁內史保於咸陽、最、

【講義】既にして、項羽は咸陽に至る、沛公を以て漢王と爲す、漢王は周勃に爵を授け、威武侯と爲す、周勃は漢王に從ひ、漢中に入り、將軍と爲り、復た漢王に從ひ、還りて雍、塞、翟の三秦を平定し、咸陽に至り、領地を秦の懷德縣に賜ふ、遂に進みて、槐里、好畤の兩縣を攻め、上功たり、更に趙賁の內史保を咸陽に

陶、襲取宛朐、得單父令、夜襲取臨濟、攻張以前至卷、破之、擊李由軍雍丘下、攻開封、先至城下、爲多、

【講義】周勃は尚進みて沛公に從ひ、蒙虞の兩縣を攻め、之を取り、秦將章邯が車騎を擊ちて、下功たり、魏の地を平定し、爰戚、東緡の兩縣より、栗に至るまでを攻めて、之を取り、齧桑を攻めて、先登の功有り、秦軍を東阿の城下に擊ちて、之を破り、追擊して濮陽に至り、甄城を取り、都關、定陶の兩縣を攻め、宛朐を襲取し、單父の縣令を捕獲し、夜に乘じて、臨濟を襲取し、壽張を攻め、以て進み卷に至り、之を破り、李由の軍を雍丘の城下に擊ち、開封を攻め、先づ城下に至り、獨捷の功有り、

【字解】殿、下功なり、多、獨力にて捷ちたる功なり、是は上功を最といふに對して稱す、先登、先づ敵城に入る功なり、蒙虞、今の河南歸德府に於ける兩縣なり、爰戚、東緡、兩縣の名なり、今の山東濟寧府に屬す、河南の東緡に非ず、栗、今の河南歸德府夏邑縣なり、齧桑、梁と彭城との中間に在る地名なり、阿下、齊の東阿の城下なり、濮陽、甄、都關、定陶、宛朐、單父、此の六縣、皆今の山東曹州府に屬す、臨濟、今の山東青州府に屬す、張、壽張縣なり、今の山東泰安府に屬す、卷、本篇の始に解せり、雍丘、開封、共に今の河南開封府に在り、

後章邯破殺項梁、沛公與項羽、引兵東如碭、自初起沛、還至碭、一歲二月、

【講義】其の後、章邯は破りて項梁を殺し、秦の兵勢强し、沛公は項羽と兵を引きて、東に還り、碭に往く、其の當初に、兵を沛に起してより、復た碭に還るまで、一年二個月を經たり、

【字解】碭、前章に解せり、此の段は項羽本紀を參看すべし、如、往くなり、

楚懷王封沛公、號安武侯、爲碭

絳侯周勃世家第二十七

絳侯周勃者沛人也、其先卷人、徙沛、勃以織薄曲爲生、常爲人吹簫給喪事、材官引彊、

【講義】絳侯周勃は、沛の人なり、其の祖先は、河南の滎陽に近き卷縣の人にして、江蘇の沛縣に徙りたり、周勃は蠶の牀を製するを以て、生活の業と爲し、常に人の爲めに簫を吹き、以て喪儀に從ふ、其の能く强弓を挽くを以て武官たり、

【字解】薄曲、蠶を養ふ牀なり、葦を以て織り造る、生、業なり、材官、武官なり、騎射の士をいふ、引彊、强き弓を挽くこと、

高祖之爲沛公初起、勃以中涓從攻胡陵、下方與、方與反、與戰、卻適、攻豐、擊秦軍碭東、還軍留及蕭、復攻碭破之、下下邑、先登、賜爵五太夫、

【講義】漢の高祖が沛公と爲り、始めて起るに及び、周勃は侍從職を以て從ひ、胡陵を攻め、方與を取り、方與の叛亂に遭ひ、方與と戰ひて敵を斥け、遂に豐を攻め、秦軍を碭の東に擊ち、還りて留及び蕭に軍し、復た碭を攻め、之を破り、下邑を取る、先登の功有り、五太夫の爵を授けらる、

【字解】中涓、侍從職の如きものなり、胡陵、方與、豐、碭、留、蕭、下邑、此の七縣皆漢の沛郡に屬し、今の江蘇徐州府に屬す、曹相國世家及び留侯世家に詳解せり、

攻蒙虞取之、擊章邯車騎殿、定魏地、攻爰戚、東緡、以往至栗取之、攻齧桑先登、擊秦軍阿下破之、追至濮陽、下甄城、攻都關、定

孫陳掌、以衞氏親貴戚、願得續封陳氏、然終不得、

【講義】陳平は嘗て曰く、我は陰謀多し、是れ道家の禁ずる所なり、吾の子孫が廢絶すれば畢る、之を救ふを得ず、其の終に復た起つ能はざるは、吾の陰謀多きに由るなり、然れども、其の後に至り、曾孫陳掌は大將軍衞青の女婿にして、天子の貴戚なるを以て、陳氏の舊封土を續がんことを願ひ出でたり、然るに竟に之を得るに至らず、陳平の豫言の如し、

太史公曰、陳丞相平、少時、本好黃帝老子之術、方其割肉俎上之時、其意固已遠矣、傾側擾攘楚魏之間、卒歸高帝、常出奇計、救紛糾之難、振國家之患、及呂后時、事多故矣、然平竟自脫、定宗廟、以榮名終、稱賢相、豈不善始善終哉、非知謀、孰能當此者乎、

【講義】太史公曰く、丞相陳平は其の年少の時に於て、本來黃帝老子の術を好めり、其の里社の幹事と爲り、祭肉を俎の上に割く時に當りて、其の意を用ふること固に既に大なり、既にして、楚魏兩國の間に逡巡し、勞苦し、竟に高祖に身を托し、常に計を出して、紛糾したる難を救ひ、國家の患を濟ふ、特に呂后の時に及びては、國事多端なり、然れども、陳平は竟に自から災害より脫出し、漢の宗廟を定め、榮名を以て終る、世に賢相と稱す、豈に始を善くせざらんや、終を善くせざらんや、智謀の士に非ざれば、誰か能く此に當らんや、

【字解】俎、俎なり、傾側、立つ能はず、傾きて仆れんとす、逡巡する貌なり、擾攘、紛れて安定するを得ず、勞苦する貌なり、攘も擾の如く、紛亂するをいふ、振、救ふなり、多故、多事なり、知謀、智謀なり、

右丞相大慚、出而讓陳平曰、君獨不素敎我對、陳平笑曰、君居其位、不知其任邪、且陛下卽問長安中盜賊數、君欲彊對邪、於是絳侯自知其能不如平遠矣、居頃之、絳侯謝病、請免相、陳平專爲一丞相、

【講義】是に於て、右丞相周勃は大に慙ぢ、退出して陳平を責めて曰く、君は本來其の對ふる所を我に敎へざるは、何ぞやと、陳平笑ひ曰く、君は其の位に居りながら、其の任務を知らざるか、且つ吾君が、若しも長安中の盜賊の數を問はゞ、此をも强ひて答へんと欲するかと、絳侯周勃は、竟に其の才能が陳平に及ばざることの遠きを自覺したり、其の後數日にして、周勃は病を稱し、請ひて右丞相を罷め、陳平專ら一丞相と爲りたり、

孝文帝二年、丞相陳平卒、謚爲獻侯、子共侯買代侯、二年卒、子簡侯恢代侯、二十三年卒、子何代侯、三十三年、何坐略人妻、棄市、國除、

【講義】孝文帝の二年、丞相陳平卒す、謚して獻侯と曰ふ、子共侯買は代り侯たり、二年にして卒す、子簡侯恢は代り侯たり、二十三年にして卒す、子何は代り侯たり、三十三年にして人の妻を奪ひたる罪に當り、誅殺せられ、國亡ぶ、

【字解】坐、罪に當ること、略、奪ひ取るなり、棄市、其の屍を市へ晒すなり、

始陳平曰、我多陰謀、是道家之所禁、吾世卽廢、亦已矣、終不能復起、以吾多陰禍也、然其後曾

【字解】錢穀、租稅なり、國庫の歳計なり、沾、濕なり、

於是、上亦問左丞相平、平曰、有主者、上曰、主者謂誰、平曰、陛下即問決獄、責廷尉、問錢穀、責治粟内史、

【講義】是に於て、孝文帝は之を左丞相陳平に問ふ、陳平曰く、其の主任者は別に在り、帝曰く、主任者は誰なるか、陳平曰く、吾君が若しも罪囚の裁決を問はゞ、廷尉を責めよ、租稅の出納を問はゞ、治粟内史を責めよ、

上曰、苟各有主者、而君所主者、何事也、平謝曰、主臣、陛下不知其駑下、使待罪宰相、宰相者上佐天子、理陰陽、順四時、下育萬物之宜、外鎭撫四夷諸侯、内親附百姓、使卿大夫各得任其職焉、孝文帝乃稱善、

【講義】孝文帝曰く、苟も各、其の主任者有らば、君が主任たるは何事ぞと、陳平乃ち謝して曰く、宰相は群臣を指導する主任に在り、吾君は臣平が下愚なるを察せず、罪を宰相に待たしむ、然れども、宰相は罪囚租稅の如き局部を治むるものに非ず、上に於ては、天子を輔け、陰陽の大氣を整へ、春夏秋冬の時候に順應して、政事を行ふに在り、下に於ては、禽獸草木等萬物の宜しきに適ひて、之を養育し、外に於ては、四方の夷狄及び諸侯を鎭撫し、内に於ては、衆民を和げ從はしめ、卿大夫百官をして、各其の職に適當なるを得しむ、是れ宰相の主任なりと、孝文帝は此の答辯に滿悅したり、

【字解】主臣、群臣の取締りなり、駑下、愚なるものなり、待罪、就官といふが如し、罪を宰相に待つとは、宰相と爲りたるをいふ、

す、
孝文帝立、以爲太尉勃、親以兵誅呂氏、功多、陳平欲讓勃尊位、乃病、謝、孝文帝初立、怪平病問之、平曰、高祖時、勃功不如臣平、及誅諸呂、臣功亦不如勃、願以右丞相讓勃、於是孝文帝乃以絳侯勃爲右丞相、位次第一、平徙爲左丞相、位次第二、賜平金千斤、益封三千戶、

【講義】孝文帝立ちて心に謂ふ、太尉周勃は親ら兵を以て呂氏を誅殺す、其の功多しと、陳平は周勃に尊位を讓らんと欲す、乃ち病を稱して官を辭謝す、孝文帝は即位の初め、陳平の病を怪しむ、因て之を問ふ、陳平曰く、高祖の時に於て、勃の功は臣に若かず、然れども、諸呂を誅するに及びては、臣の功は勃に若かず、故に願くは、右丞相を以て勃に讓らんと、是に於て、孝文帝は絳侯勃を以て、右丞相と爲す、位は第一に當る、而して陳平を徙して左丞相と爲す、位は第二に當る、陳平に金千斤を賜ひて、三千戶を增封す、

【字解】怪、怪むなり、斤、十六兩の目方なり、

居頃之、孝文皇帝既益明習國家事、朝而問右丞相勃曰、天下一歲決獄幾何、勃謝曰、不知、問天下一歲錢穀出入幾何、勃又謝不知、汗出沾背、愧不能對、

【講義】其の後、數月にして孝文帝は、既に益々國家の事に明習す、朝廷に於て、右丞相勃に問ひ曰く、天下一年間の罪囚裁決は幾人に達するかと、勃謝して曰く、知らず、帝は更に問ひ曰く、天下一年間の租稅出納は、何程に上るかと、勃復た知らずと謝す、汗出で背を沾し、自ら對ふる能はざるを慚ぢたり、

城より敗れて西走する時に、楚は漢の太上皇、及び呂后を取りて質と爲す、食其は執事の職を以て、呂后に侍す、其の後、漢王に從ひ、項籍を破りて、侯に封ぜらる、最も呂太后に寵幸せらる、其の相と爲りたるも、政事堂に赴かず、宮中に居り、呂太后に近侍す、百官は之に由り政事を執行したり、

【字解】 給事、事務官なり、中、宮內なり、呂后、呂太后、高后、皆同じ、

呂須、常以前陳平爲高帝謀執樊噲、數讒曰、陳平爲相非治事、日飲醇酒、戲婦女、陳平聞日益甚、呂太后聞之、私獨喜、面質呂須於陳平曰、鄙語曰、兒婦人口不可用、顧君與我何如耳、無畏呂須之讒也、

【講義】 呂后の妹なる呂須は、前日陳平が高祖の爲めに謀りて、其の樊噲を捕縛したる事を怨み、陳平を讒して曰く、陳平は相たるも國事を治むるに非ず、日に美酒を飲み、婦女に戲るゝのみと、陳平は此の讒言を聞き、日に益〻其の淫樂を甚しくす、呂后は之を聞き、陳平の畏るゝに足らざるを察し、私に獨り喜び、陳平に面會して、呂須の言ふ所を問ひ質し、曰く、俗語に小兒と婦女との語る所は、用ふるに足らずと云へり、顧ふに、君と我との意思如何に由るのみ、呂須の讒言を畏るゝ勿れ、

呂太后立諸呂爲王、陳平僞聽之、及呂太后崩、平與太尉勃合謀、卒誅諸呂、立孝文皇帝、陳平本謀也、審食其免相、

【講義】 呂太后は諸呂を立て王と爲す、陳平は僞りて之を聽く、呂太后の崩御に及び、陳平は太尉周勃と謀を合せ、終に諸呂を誅滅し、孝文皇帝を立つ、是れ陳平が本來の謀なり、呂氏亡びて審食其は相を免官

高祖に從ふに意無し、故に、雍齒に交り、功賞に後れて、晩年に安國侯の封爵を得たり、

【字解】 東鄕、東向なり、男は西に向ひ、女は東に向ふ、是れ喪の禮なり、

安國侯既爲右丞相、二歲、孝惠帝崩、高后欲立諸呂爲王、問王陵、王陵曰、不可、問陳平、陳平曰、可、呂太后怒、乃詳遷陵、爲帝太傅、實不用陵、陵怒、謝疾免、杜門、竟不朝請、七年而卒、

【講義】 安國侯王陵が右丞相と爲りて二年、孝惠帝崩御し、呂太后は諸呂を王に封ぜんと欲す、之を王陵に問ふ、王陵曰く不可なりと、呂太后は之を陳平に問ふ、陳平曰く可なりと、呂太后は王陵を怒り、佯りて之を右丞相より遷し、帝の太傅と爲す、其の實は王陵を用ひず、陵怒り疾と稱して、官を辭し去り、門を閉ぢて、春秋の朝禮にも出仕せず、七年を經て卒す、

【字解】 詳、佯なり、太傅、師傅なり、杜、閉づなり、朝請、春朝秋請なり、朝廷に伺候する禮なり、

陵之免丞相、呂太后乃徙平、爲右丞相、以辟陽侯審食其、爲左丞相、左丞相不治、常給事於中、食其亦沛人、漢王之敗彭城西、楚取太上皇、呂后爲質、食其以舍人侍呂后、其後從破項籍、爲侯、幸於呂太后、及爲相居中、百官皆因決事、

【講義】 王陵が右丞相を罷めたる時に、呂太后は陳平を徙して右丞相と爲し、辟陽侯審食其を以て左丞相と爲す、左丞相は政務を執らず、常に宮中に在りて呂太后の使令に與る、審食其も沛の人なり、漢王が彭

好直言、及高祖起沛、入至咸陽、陵亦自聚黨數千人、居南陽、不肯從沛公、及漢王之還攻項籍、陵乃以兵屬漢、

【講義】孝惠帝の六年に、相國曹參卒す、呂太后は安國侯王陵を以て右丞相と爲し、陳平を左丞相と爲す、王陵は本來沛の人なり、當初に於て、沛縣の勢力家たり、高祖は微賤なる時に於て、王陵を兄の如くに敬事したり、王陵は文事に乏し、意氣を主とし、直言を好む、高祖が沛より起り、秦に入り咸陽に至るに及び、王陵も自から黨數千人を聚めて、南陽に居り、沛公に從ふを喜ばず、漢王が漢中より還り、項籍を攻むるに及び、王陵は始めて其の兵を以て漢に屬したり、

【字解】高祖、沛公、漢王、皆漢の高帝を稱す、南陽、今の河南の南陽なり、

項羽取陵母、置軍中、陵使至、則東鄉坐陵母、欲以招陵、陵母既私送使者、泣曰、爲老妾語陵、謹事漢王、漢王長者也、無以老妾故持二心、妾以死送使者、遂伏劍而死、項王怒、烹陵母、陵卒從漢王、定天下、以善雍齒、雍齒高帝之仇、而陵本無意從高帝、以故晚封爲安國侯、

【講義】項羽は王陵の母を取り、軍中に置き、陵の使至れば、其の母を東に向ひ坐せしむ、蓋し其の死に臨むを示して、陵を招かんと欲するなり、陵の母は、私に陵の使者を送り、泣きて曰く、我の爲めに陵に語れ、謹み漢王に事へよと、漢王は仁厚の人なり、母の故を以て、二心を持する勿れ、我は死を以て使者を送ると、遂に劍に伏して自殺す、項王怒り、陵の母を烹る、而して陵は終に漢王に從ひ、天下を定め、雍齒に親み善し、雍齒は高祖の仇讐なり、然るに、陵は本來

車なり、

平行、聞高帝崩、平恐呂太后及呂嬃讒怒、乃馳傳先去、逢使者、詔平、與灌嬰屯於滎陽、平受詔、立復馳至宮、哭甚哀、因奏事喪前、呂太后哀之曰、君勞、出休矣、平畏讒之就、因固請得宿衛中、太后乃以爲郎中令、曰傅教孝惠、是後呂嬃讒、乃不得行、樊噲至、則赦復爵邑、

【講義】陳平は燕に往きて、高祖の崩御を聞き、呂太后及び呂嬃が怒りて讒言せんことを恐れ、乃ち驛車を馳せて、樊噲の檻車よりも、先に去り、長安に向ふ、其の途中に於て、漢の使者に逢ふ、使者は詔を傳へて曰く、灌嬰と共に、滎陽に屯せよと、陳平は此の詔を受けながら、滎陽に赴かずして、直に復た馳せ、長安に入り、帝宮に至り、哭する甚だ悲し、因て事を梓宮の前に奏上す、呂太后は之を憐み曰く、君勞せり、出で休息せよと、然れども、陳平は宮を退けば、讒言の成らんことを畏れ、因て固く請ひ、宮中に宿衛するを得たり、呂太后乃ち陳平を以て、郎中令と爲し、曰く、皇帝に師傅として善く敎へよと、斯くて後は呂嬃の讒言も行はるゝを得ず、樊噲歸り至る、呂太后は之を赦し、爵祿領地を舊に復らしめたり、

【字解】立、直になり、喪前、柩の前なり、郎中令、侍從長の如きもの、傅、師傅なり、孝惠、新皇帝の謚なり、史家が後に書するを以て、死後の名を生前に呼びたるのみ、

孝惠帝六年、相國曹參卒、以安國侯王陵、爲右丞相、陳平爲左丞相、王陵者故沛人、始爲縣豪、高祖微時、兄事陵、陵少文任氣、

勃代噲將、平至軍中、卽斬噲頭、

【講義】高祖は黥布を破りてより還り、負傷を病み、徐行して長安に至る、此の時に、燕王盧綰叛亂す、高祖は樊噲をして、相國の官に在りながら、兵に將とし、盧綰を攻めしむ、樊噲は既に出立す、忽ち之を讒するもの有り、曰く、樊噲は呂氏に黨すと、高祖乃ち怒り曰く、噲は吾の病を見て、我の死を希望するなりと、乃ち陳平の謀を用ひて、絳侯周勃を召し、詔を病牀の下に受けしむ、曰く、陳平速に驛傳を馳せ、勃を載せて行き、勃をして噲に代り將たらしめよ、而して陳平は軍中に至らば、直に噲が頭を斬れよと、

【字解】短惡、誹謗なり、亟、速なり、傳、驛遞の車、或は馬なり、此段は樊、酈、滕、灌列傳を參看すべし、

二人既受詔、馳傳、未至軍、行計之曰、樊噲帝之故人也、功多、且又乃呂后弟呂嬃之夫、有親且貴、帝以忿怒故、欲斬之、則恐後悔、寧囚而致上、上自誅之、未至軍、爲壇、以節召樊噲、噲受詔、卽反接載檻車、傳詣長安、而令絳侯勃代將、將兵定燕反縣、

【講義】陳平周勃は、既に詔を受け驛車を馳せ、未だ軍に至らず、途中に於て相謀り曰く、樊噲は吾君の舊友なり、功多し、且つ呂后の妹なる呂嬃の夫なり、近親にして寵貴なり、吾君は一旦忿怒して斬らんと欲するも、或は後悔せん、故に、之を囚へて吾君に送致し、吾君親から之を誅するに若かずと、是に於て、兩人は未だ軍に至らず、先づ壇を造り、特使を以て樊噲を召す、噲は詔を受けて至る、乃ち之を捕縛し、檻車に載せて、長安に遞送す、而して絳侯周勃を噲に代り將たらしむ、勃は乃ち兵に將として、燕の叛亂したる縣を平定したり、

【字解】傳、驛遞の車馬なり、故人、舊友なり、弟、妹なり、嬃、須に同じ、名なり、節、特使が持つ所の節旄なり、反接、兩手を背に縛ること、檻車、囚人を載する

食戸牖、

【講義】高祖は代國よりの歸途に、南巡して中山の曲逆を通過し、其の城に上り、其の市區の繁盛なるを望見して曰く、壯大なるかな、此の縣は比類少し、吾は天下を巡行して、獨り洛陽と此の曲逆との盛なるを見るのみと、乃ち顧みて御史に問ひ曰く、曲逆の戸口は幾何と、御史對へて曰く、秦の時には三萬餘戸なりしも、近頃兵亂屢起り、民に多く亡げ匿れ、今は五千戸と爲ると、是に於て、高祖は御史に詔し、改めて陳平を曲逆侯と爲し、盡く其の縣を領有せしめ、曩の戸牖郷を除きたり、

【字解】曲逆、今の直隷保定府完縣の東南に在り、御史、朝廷に在りて法を執る長官なり、見、現なり、

其後、常以護軍中尉、從攻陳豨及黥布、凡六出奇計、輒益邑、凡六益封、奇計或頗秘、世莫能聞也、

【講義】其の後、陳平は常に護軍中尉の官に在り、高祖に從ひて陳豨及び黥布を攻め、前後奇計を出すこと、凡そ六度にして、其の度毎に領地を益し、六回其の封を加へたり、然れども、其の奇計は或は祕密に附す、世に之を傳聞するもの無し、

【字解】六出奇計、(一)多く金を使用して間諜を楚軍に送り入るゝこと、(二)粗食を楚使に供したること、(三)滎陽の東門より女子を出したること、(四)漢王の足を踏み急要を示したること、(五)雲夢の僞遊、(六)平城の圍を脫す、

高帝從破布軍還、病創徐行、至長安、燕王盧綰反、上使樊噲以相國將兵攻之、既行、人有短惡噲者、高帝怒曰、噲見吾病、乃冀我死也、用陳平謀、而召絳侯周勃、受詔牀下曰、陳平亟馳傳、載

進、上曰、若子可謂不背本矣、乃復賞魏無知、

【講義】是に於て、陳平の爲めに符を剖き、世世其の爵祿を絶つこと無からしめ、之を戸牖侯と爲す、陳平は之を辭して曰く、此れ臣の功に非ずと、高祖曰く、吾は先生の謀計を用ひて、戰に勝ち敵の將を獲たり、是れ功に非ずして何ぞや、陳平曰く、魏無知の在るに非ざれば、臣は何ぞ進むを得んやと、高祖曰く、子の如きは本に背かずと謂ふべしと、乃ち復た魏無知を賞したり、

其明年、以護軍中尉、從攻反者韓王信於代、卒至平城、爲匈奴所圍、七日不得食、高帝用陳平奇計、使單于閼氏、圍以得開、高帝既出、其計秘、世莫得聞、

【講義】其の明年陳平は、護軍中尉の官に在り、高祖に從ひ叛者韓王信を代國に攻め、竟に平城に至る、匈奴に攻圍せられ、七日の間も食を得ず、此の時に、高祖は陳平の奇計を用ひ、單于の妻に贈遺し、纔に攻圍を開き脱するを得たり、高祖は既に出でて、其の奇計は祕密にせられ、世に之を傳聞するもの無し、

【字解】平城、代國の地なり、今の山西大同府大同縣の東に在り、單于、匈奴の王を稱す、閼氏、胭脂と字音相通ずるを以て用ふ、美女を稱す、因て匈奴の王の妻を、閼氏といふなり、

高帝、南過曲逆、上其城、望見其屋室甚大、曰、壯哉縣、吾行天下、獨見洛陽與是耳、顧問御史曰、曲逆戸口幾何、對曰、始秦時三萬餘戸、間者兵數起、多亡匿、今見五千戸、於是、乃詔御史、更以陳平、爲曲逆侯、盡食之、除前所

郊に出迎へ、拜謁せん、拜謁すれば、吾君は因て之を虜にす、此れ唯一力士の手を勞するのみと、高祖は之に從ふ、

【字解】巡狩、巡幸なり、第、唯なり、特、唯なり、

乃發使告諸侯、會陳、吾將南游雲夢、上因隨以行、行未至陳、楚王信果郊迎道中、高帝豫具武士、見信至、即執縛之、載後車、信呼曰、天下已定、我固當烹、高帝顧謂信曰、若毋聲、而反明矣、武士反接之、遂會諸侯于陳、盡定楚地、還至雒陽、赦信、以爲淮陰侯、而與功臣剖符定封、

【講義】是に於て、高祖は使を發し諸侯に告げて曰く、陳に會同せよ、吾は南遊して雲夢澤を觀んとすと、因て其の使に引き續き出遊す、未だ陳に到着せず、楚王韓信は陳平の豫想したる如く、道中に郊迎す、高祖は豫め武士を準備したり、韓信の至るを見て、之を捕縛せしめ、後車に載す、韓信は呼び曰く、天下既に平定したり、我は烹殺に遭ふべきのみと、高祖は顧みて韓信に謂ひ曰く、汝は聲を發する勿れ、汝の謀反は明なりと、武士は乃ち韓信の兩手を背に縛す、高祖は遂に諸侯を陳に會同し、盡く楚の地を平定し、還りて洛陽に至り、韓信を赦して、淮陰侯と爲す、而して諸功臣の功を論じ、符を剖き與へて、其の封土を定めたり、

【字解】若、汝なり、而反、汝の謀反なり、反接、兩手を背後に縛するなり、雒、洛なり、與、爲めになり、

於是、與平剖符、世世勿絶、爲戸牖侯、平辭曰、此非臣之功也、上曰、吾用先生謀計、戰勝剋敵、非功而何、平曰、非魏無知、臣安得

將は何と言ふかと、高祖乃ち委細に之を告ぐ、

【字解】亟、速なり、坑、與ひ殺すなり、豎子、賤しみて呼ぶ稱なり、云何、何如なり、

陳平曰、人之上書言信反、有知之者乎、曰未有、曰信知之乎、曰不知、陳平曰、陛下精兵孰與楚、上曰、不能過、平曰、陛下將用兵、有能過韓信者乎、上曰、莫及也、平曰、今兵不如楚精、而將不能及、而擧兵攻之、是趣之戰也、竊爲陛下危之、上曰、爲之奈何、

【講義】陳平曰く、人が上書して韓信の叛亂を告ぐるも、其の叛亂の狀態を知るもの有るか、高祖曰く、未だ有らず、陳平曰く、韓信は之を知るか、高祖曰く、余は其の如何を知らず、陳平曰く、吾君の精兵は楚と何れか多き、高祖曰く、楚に勝る能はず、陳平曰く、吾君の將にして兵を用ふること、能く韓信に勝るもの有るか、高祖曰く、韓信に及ぶもの無し、陳平曰く、今や兵は楚の精なるに若かず、而して將は及ぶ能はず、然るに、兵を擧げて之を攻む、是れ韓信に戰を促すなり、臣は竊に吾君の爲めに其の危きを恐ると、高祖曰く、果して然らば、之を爲す如何、

平曰、古者天子巡狩、會諸侯、南方有雲夢、陛下第出僞游雲夢、會諸侯於陳、陳楚之西界、信聞天子以好出游、其勢必無事、而郊迎謁、謁而陛下因禽之、此特一力士之事耳、高帝以爲然、

【講義】陳平曰く、古昔天子は天下を巡幸して、諸侯を會同せり、楚國には雲夢澤有り、吾君は唯出でゝ雲夢澤に遊ぶと詐り、諸侯を陳に會同せよ、陳は楚の西界なり、韓信は天子が平和の情好を以て出遊すと聞かば、其の事情居守するを得ず、必らず事無くして遠

王、從城西門夜出去、遂入關、收散兵復東、

【講義】 是に於て、陳平は夜に乘じ、女子二千人を滎陽城の東門より出し、漢王の降參するが如くす、楚は因て之を擊つ、陳平乃ち漢王と城の西門より夜に紛れて出で去る、漢王は遂に函谷關に入り、散兵を收めて、復た東征す、

其明年、淮陰侯破齊、自立爲齊王、使使言之漢王、漢王大怒而罵、陳平躡漢王、漢王亦悟、乃厚遇齊使、使張子房卒立信爲齊王、封平以戸牖鄕、用其奇計策、卒滅楚、常以護軍中尉從定燕王臧荼、

【講義】 其の明年、淮陰侯韓信は齊を破り自立して齊王と爲る、使をして之を漢王に報ぜしむ、漢王に大に怒りて罵る、陳平は漢王の足を踏みて、其の意を示す、漢王も亦悟る、乃ち怒を止めて、厚く齊の使を待遇し、張良を使節として、竟に韓信を齊王と爲さしむ、而して陳平を封ずるに、戸牖鄕を以てし、其の奇なる計策を用ひて、竟に楚を滅するを得たり、其の官は常に護軍中尉たり、復た漢王に從ひ、燕王臧荼を平定す、

【字解】 躡、踏むなり、事急なるを以て足を踏み、其の祕計を通じたるなり、

漢六年、人有上書告楚王韓信反、高帝問諸將、諸將曰、亟發兵坑豎子耳、高帝默然、問陳平、平固辭謝曰、諸將云何、上具告之、

【講義】 漢の六年、人有り上書して、楚王韓信叛亂すと告ぐ、高祖は之を諸將に問ふ、諸將曰く、速に兵を發し、豎子を襲殺せんのみと、高祖は默然たり、言ふ所無し、之を陳平に問ふ、陳平は固く辭謝し曰く、諸

項氏を滅せんと欲し、項氏の領地を分ちて、之に王たらんと欲すと、項羽は此の風評を聞きて、其の意中に鍾離昧等を信ぜざるに至れり、

【字解】縱、送り入ること、反間、間諜なり、果、此の方の豫想通りなり、

項王既疑之、使使至漢、漢王爲太牢具、擧進見楚使、卽詳驚曰、吾以爲亞父使、乃項王使、復持去、更以惡草具進楚使、楚使歸、具以報項王、項王果大疑亞父、

【講義】項王は既に楚の諸將を疑ふ、或る日に事有り、使を發し、漢營に至る、漢王は盛饌を具へて、之を擧げ進ましむ、其の接待の吏は楚の使を見て、佯り驚き曰く、吾は亞父の使なりと思ひしに、項王の使なりと、乃ち盛饌を持ち去り、之に代ふるに粗食を以てし、之を楚の使に進む、楚の使還り、委細に之を項王に報ず、項王は竟に大に亞父范增を疑ふに至れり、

【字解】太牢、牛、羊、豕を具へたる最も盛なる料理なり、詳、佯るなり、更、更ふるなり、惡草具、粗野なる下等料理なり、

亞父欲急攻下滎陽城、項王不信、不肯聽、亞父聞項王疑之、乃怒曰、天下事大定矣、君王自爲之、願請骸骨歸、歸未至彭城、疽發背而死、

【講義】亞父は急に滎陽城を攻め下さんと欲す、然れども、項王は亞父を信ぜず、故に、之を聽許せず、亞父は項王が自己を疑ふことを聞き、乃ち怒り曰く、天下の事は大に定る、君王自ら之を爲せ、臣願くは官を罷め去らんと、遂に國に歸る、未だ彭城に至らず、惡性の腫物が背部に生じて死す、

陳平乃夜出女子二千人滎陽城東門、楚因擊之、陳平乃與漢

は附かず、之に反して、大王は傲慢にして禮少し、故に、士の廉直にして節義有るものは來らず、然れども、大王は能く人を饒にするに、爵祿封土を以てす、故に、士の頑固に魯鈍にして利を貪り耻づることを知らざるもの、亦多く漢に歸依す、斯の如く楚漢には、各其の短所と長所と有り、故に、今の計として、若しも各其の兩短を去り、其の兩長を重ね用ふるときは、天下皆我の指圖に從ひて定らん、然りと雖も、大王は恣に人を侮る、故に、廉直節義の士を得る能はず、兩長を用ふること難し、別に楚を攪亂する策を求めざるべからず、臣の思慮する所を以てすれば、楚には攪亂するを得べき事情有り、彼の項王が股肱の臣は、范增、鍾離昧、龍且、周殷の輩のみ、是れ數人に過ぎず、故に、臣は此に楚の君臣を離間する策を試みんと欲す、大王が若しも能く數萬斤の金を出し棄つるならば、臣は間諜を楚の軍中に逆り、楚の君臣を離間せしめ、以て其の心を疑はしめん、項王は其の性質として意中に人を忌み、讒言を信用す、故に、君臣相疑ふときは、必らず内に於て相誅殺せん、漢は此の機に乘じて、兵を擧げ、之を攻撃せば、必らず楚を破るを得んと、是に於て、漢王は陳平の計を至當なりと思惟し、黃金四萬斤を出して、陳平に與へ、其の爲す所の自由に任せ、其の金の出入を問はず、

【字解】 重、憚るなり、客しむこと、兩短、楚の短所及び漢の短所なり、兩長、楚漢兩者の長所なり、骨鯁、股肱といふが如し、鯁は骾に同じ、堅實なること、亞父、范增なり、誠、若もなり、斤、十六兩の目方なり、四萬斤は六十四萬兩なり、

陳平既多以金縱反間於楚軍、宣言諸將鍾離昧等、爲項王將功多矣、然而終不得裂地而王、欲與漢爲一、以滅項氏、而分王其地、項羽果意不信鍾離昧等、

【講義】 陳平は既に多く金を使用して、間諜を楚軍に入らしめ、風評を傳へて曰く、楚の諸將鍾離昧等は、項王の將と爲り、功多し、然れども、終に封土を得ず、王と爲るを得ず、故に、漢と相結ばんと欲し、以て

謂陳平曰、天下紛紛、何時定乎、

【講義】其の後、楚は急に攻めて、漢の糧道を絶ち、漢王を河南の滎陽城に圍む、之を久くして漢王は憂慮し、滎陽より西を限りて、之を漢と爲すことの條件を以て、和を請ふ、然れども、項王は之を許さず、漢王は陳平に謂ひ曰く、天下紛紛として亂る、何の時に定るか、

【字解】甬道、兩側を高く蔽ひて、糧食の運搬を便にしたる道なり、

陳平曰、項王爲人、恭敬愛人、士之廉節好禮者、多歸之、至於行功爵邑重之、士亦以此不附、今大王慢而少禮、士廉節者不來、然大王能饒人以爵邑、士之頑鈍嗜利無恥者亦多歸漢、誠各去其兩短、襲其兩長、天下指麾則定矣、然大王恣侮人、不能得廉節之士、顧楚有可亂者、彼項王骨鯁之臣、亞父、鍾離昧、龍且、周殷之屬、不過數人耳、大王誠能出捐數萬斤金、行反間、間其君臣、以疑其心、項王爲人意忌信讒、必內相誅、漢因擧兵而攻之、破楚必矣、漢王以爲然、乃出黃金四萬斤、與陳平、恣所爲、不問其出入、

【講義】陳平曰く、項王は其の性質恭敬にして、人を愛す、故に、士の廉直にして節義有り禮を好むものは、多く之に歸依す、然れども、功を賞し、之に爵祿封土を與ふることに至りては、之を憚り吝む、故に、士

平曰、臣事魏王、魏王不能用臣說、故去事項王、項王不能信人、其所任愛、非諸項、卽妻之昆弟、雖有奇士、不能用、平乃去楚、聞漢王之能用人、故歸大王、臣躶身來、不受金、無以爲資、誠臣計畫、有可采者、顧大王用之、使無可用者、金具在、請封輸官、得請骸骨、漢王乃謝厚賜、拜爲護軍中尉、盡護諸將、諸將乃不敢復言、

【講義】 陳平對へて曰く、臣は魏王に事ふ、魏王は臣の說く所を用ふる能はず、故に、臣は去り、項王に事ふ、然るに、項王は人を信ずる能はず、其の信任し寵愛する所は、諸の項氏なり、或は妻の兄弟なり、此の外には奇士有りとも、之を用ふる能はず、臣乃ち楚を去る、而して漢王の能く人を用ふといふを聞き、大王に歸依したり、臣は本來裸にて來れり、故に金を受納せざれば、以て資料と爲すもの無し、若しも臣の計畫にして採用すべきもの有らば、願くは大王が之を用ひんことを、然れども、臣の計畫にして採用すべきものの無きに於ては、臣請ふ退き去らん、其の受納したる金は皆現存す、請ふ封じて之を官に送り納めん、因て官を罷め去るを得んと、漢王は此の辯解を聽きて滿悅し、乃ち謝し厚く物を陳平に賜ひ、之を任命して、護軍の中尉と爲し、盡く諸將を監護せしむ、諸將乃ち敢て復た言はず、

【字解】 昆弟、兄弟なり、躶、裸なり、不受金、不受金則の意なり、請骸骨、官を罷むること、

其後、楚急攻、絕漢甬道、圍漢王於滎陽城、久之、漢王患之、請割滎陽以西以和、項王不聽、漢王

り、魏に事へて用ひられず、逃げて楚に歸し、楚に於て計る所が成功せず、復た逃げて漢に歸すと、然るに、今日大王は之を高官に用ひ、諸軍を監護せしむ、近く聞く所に依れば、陳平は諸將より金を受け、其の金を多く贈るものには、善き地位を與へ、少く贈るものには、惡き地位を與ふと、蓋し陳平は反覆の亂臣なり、願くは大王の賢察有らんことをと、是に於て、漢王は疑を生じ、當初推擧したる魏無知を召して、之を責む、

【字解】 絳侯、周勃なり、咸、皆なり、未必有、有ることを必せず、或は無しとの意なり、讓、責むるなり、

無知曰、臣所言者能也、陛下所問者行也、今有尾生孝己之行、而無益於勝負之數、陛下何暇用之乎、楚漢相距、臣進奇謀之士、顧其計誠足以利國家不耳、且盜嫂受金、又何足疑乎、

【講義】 魏無知曰く、臣が陳平を推擧する時に言ひし所は、彼の才能なり、吾君の問ふ所は、彼の德行なり、今日戰國の急なるに當り、古昔の尾生孝己の如き德行有りとも、其の人が勝敗の術に益する所無からんには、吾君は何ぞ之を用ふるに暇有らんや、楚と漢との相距ぐに當り、臣が奇謀の士を進めたるは、其の計略が國家を利するに足るか否かを顧念するのみ、何ぞ其の私行を問はんや、且つ嫂を盜み金を受くる等の事は何ぞ疑ふに足らんや、

【字解】 尾生孝己、尾生は古の信を守りて身を亡したる愚直の人なり、孝己は殷の高宗の子にて、孝行の名高き人なり、

漢王召讓平曰、先生事魏不中、遂事楚而去、今又從吾游、信者固多心乎、

【講義】 漢王乃ち陳平を召し、之を責めて曰く、先生は魏に事へて用ひられず、遂に楚に事へ、復た去り、吾に從ひ遊ぶ、信實有るものは、固に心多きか、

與同載、反使監護軍長者、漢王聞之、愈益幸平、遂與東伐項王、至彭城、爲楚所敗、引而還、收散兵至滎陽、以平爲亞將、屬於韓王信、軍廣武、

【講義】漢王は陳平に問ひ曰く、子が楚に居りたるは何の官ぞ、陳平曰く都尉たりと、此の日漢王は直に陳平を擧げて、都尉と爲し、漢王の車に陪乘せしめ、諸軍を監督せしむ、是に於て、諸將は盡く喧噪して曰く、大王は一日楚の亡卒を得て、未だ其の才の高下を知らず、然るに、卽ち之に陪乘を命じて、同車し、却て此の新參者に諸軍の功勞者を監督せしむ、是れ其の理を得ずと、漢王は之を聞き、愈深く陳平を寵愛したり、遂に陳平と共に東進して、項羽を擊ち彭城に至り、楚に敗られ、軍を引きて還り、散亂の兵卒を收合し、河南の滎陽に至る、乃ち陳平を以て亞將と爲し、韓王信に屬せしめ、河南の廣武に軍す、

【字解】參乘、王の車に陪乘する職なり、典護、監察官なり、讙、噪ぐなり、載、乘るなり、

絳侯灌嬰等、咸讒陳平曰、平雖美丈夫、如冠玉耳、其中未必有也、臣聞、平居家時、盜其嫂、事魏不容、亡歸楚、歸楚不中、又亡歸漢、今日大王尊官之、令護軍、臣聞、平受諸將金、金多者得善處、金少者得惡處、平反覆亂臣也、願王察之、漢王疑之、召讓魏無知、

【講義】周勃灌嬰等は、皆陳平を讒して曰く、陳平は美丈夫なれども、冠を飾りたる玉の如し、外面の美なるのみ、其の中心の有る所は確實ならず、臣の聞く所に依れば、陳平は家に居る時に、其の嫂を盜みて姦せ

【講義】其の後、久しからず、漢王は攻めて殷王司馬卬を漢に降らしむ、項羽怒り、前日殷を平定したる將吏を誅せんとす、陳平は誅を恐れ、其の恩賜の金と官職の印とを密封し、使を以て之を項羽に返上せしめ、其の身は閒行して劍を杖き、逃亡し黄河を渡る、船人は其の美丈夫にして、獨行するを見るに由り、逃亡の將なるを疑ふ、因て思考す、其の腰纏の中に、金玉寶器有るべしと、之を目當にして、陳平を殺さんと欲す、陳平恐れて、衣を解き裸と爲り、船人を助けて船を刺し、勞動したり、船人乃ち其の所有品の無きを知り、事止む、

【字解】要、腰なり、刺、棹を使ふこと、

平遂至脩武降漢、因魏無知求見漢王、漢王召入、是時萬石君奮爲漢王中涓、受平謁、入見平、平等七人倶進、賜食、王曰、罷就舍矣、平曰、臣爲事來、所言不可以過今日、於是漢王與語而說之、

【講義】陳平は遂に河南の脩武に至り、漢に降參す、魏無知に因り、謁見を求む、漢王は召して入らしむ、是の時に、萬石君石奮は、侍從の小官たり、陳平の謁見を取り扱ひ、之を宮に入らしむ、陳平等七人共に進み、謁畢りて食を賜ふ、漢王曰く、退きて舍に就けよ、陳平曰く、臣は事有るが爲めに來れり、其の言ふべき所は今日を過すべからずと、是に於て、漢王は陳平と語りて、之を悦びたり、

【字解】中涓、侍從職の小官なり、萬石君石奮は、此の時に小童なり、未だ萬石君と爲らず、說、悦ぶなり、

問曰、子之居楚何官、曰、爲都尉、是日乃拜平、爲都尉、使爲參乘典護軍、諸將盡讙曰、大王一日得楚之亡卒、未知其高下、而卽

陳平は說を魏王に進む、然れども、聽かれず、或は讒言するもの有り、陳平乃ち逃げ去る、

【字解】 臨濟、今の山東青州府高苑縣に屬す、太僕、近侍の官なり、

久之、項羽略地、至河上、陳平往歸之、從入破秦、賜平爵卿、項羽之東王彭城也、漢王還定三秦而東、殷王反楚、項羽乃以平爲信武君、將魏王咎客在楚者以往擊降殷王而還、項王使項悍拜平爲都尉、賜金二十鎰、

【講義】 其の後數月を經て、項羽は地を侵略し、黃河の邊に至り、陳平は往きて之に歸し、項羽に從ひ關に入り、秦を破る、項羽は陳平に卿の爵位を授く、既にして項羽は東歸し、彭城に王たり、漢王は漢中より還りて、雍、塞、翟を平定し、兵を東に進む、殷王司馬卬は楚に背く、項羽は陳平を以て信武君と爲し、故の魏王咎の客にして現在楚に居るものを陳平に屬せしめ、以て往き擊つ、陳平は殷王を降參せしめて還り至る、項羽乃ち項悍をして陳平を擧げ、之を都尉に任ぜしむ、金二十鎰を下賜す、

【字解】 都尉、將軍の次に在る武官なり、鎰、二十四兩なり、

居無何、漢王攻下殷王、項王怒、將誅定殷者將吏、陳平懼誅、乃封其金與印、使使歸項王、而平身間行、杖劍亡渡河、船人見其美丈夫獨行、疑其亡將、要中當有金玉寶器、目之欲殺平、平恐乃解衣、裸而佐刺船、船人知其無有、乃止、

を貸し與へて、女を迎へしめ、酒肉の資料を給與し、以て其の婦を納る、此の時に、張老母は其の女孫を訓戒して曰く、貧賤なりとも、人に事へて謹むことを怠る勿れ、兄伯に事ふるは父に事ふる如くせよ、嫂に事ふるは母に事ふる如くせよ、

平既娶張氏女、齎用益饒、游道日廣、里中社、平爲宰、分肉食甚均、父老曰、善陳孺子之爲宰、平曰、嗟乎使平得宰天下、亦如是肉矣、

【講義】陳平は既に張氏の女を娶り、其の婦家より仕送りの物品益多く、家事饒にして、遊道も日に廣し、其の里中の春秋祭日に、陳平は其の幹事たり、其の社祭の肉を里人に分ち與ふること、甚だ公平なり、里中の長老皆曰く、甚だ善し、陳孺子の幹事たることと、陳平は之を聽き曰く、嗟我をして天下の幹事たるを得しめば、其の政事の公平なること、亦此の肉の如くならん、

【字解】齎用、仕送りの物品なり、孺子、年少きものを呼ぶ稱なり、里中社、二十五家を一里とし、其の里に社を建て、春秋に神を祭るなり、孔子世家　參看すべし、

陳涉起而王陳、使周市略定魏地、立魏咎爲魏王、與秦軍相攻於臨濟、陳平固已前謝其兄伯、從少年往事魏王咎於臨濟、魏王以爲太僕、說魏王、不聽、人或讒之、陳平亡去、

【講義】陳涉起りて陳に王たり、周市をして魏の地を征服せしむ、因て魏咎を立てゝ之を魏王と爲し、秦軍と山東の臨濟に相攻む、是より先に、陳平は既に其の兄伯に辭謝し、其の鄉の少年輩を率ゐて、往き魏王咎に臨濟に事ふ、魏王は陳平を擧げて、太僕と爲す、

邑中有喪、平貧侍喪、以先往後罷爲助、張負既見之喪所、獨視偉平、平亦以故後去、負隨平至其家、家乃負郭窮巷、以弊席爲門、然門外多有長者車轍、

【講義】里中に喪儀有れば、陳平は貧なるを以て、常に喪儀に從事し、早く往き後れて歸るを以て、其の家を助く、張老母は既に陳平を喪儀の所に見て、獨り之を視察し、陳平を偉なりと思惟す、陳平も此の故を以て後れ去る、張老母は陳平の後を追ひ、其の家に至る、家は城郭の後郊に於ける貧窮なる巷に在り、敝れたる席を以て門と爲す、然れども、其の門外には、多く有福者の車にて來れる跡有り、

【字解】負、老母なり、負郭、城を背にしたる田舍なり、長者車轍、安車の跡なり、有福者が安樂に乘る車の跡は、普通の荷車の跡と異なる、

張負歸、謂其子仲曰、吾欲以女孫予陳平、張仲曰、平貧不事事、一縣中盡笑其所爲、獨奈何予女乎、負曰、人固有好美如陳平、而長貧賤者乎、卒與女、

【講義】張老母は乃ち歸り、其の子張仲に謂ひ曰く、吾は女孫を以て、陳平に與へんと欲すと、張仲曰く、陳平は貧乏なり、然るに、產業を事と爲さず、此の縣の中に於て、皆其の所爲を嘲笑す、今獨り何ぞ彼に女を與へんやと、張老母曰く、人は固に好美なること陳平の如くにして、長く貧賤なるもの有るか、彼は終に顯達せんのみと、遂に女を與ふ、

爲平貧、乃假貸幣、以聘、予酒肉之資、以內婦、負誡其孫曰、毋以貧故、事人不謹、事兄伯如事父、事嫂如母、

【講義】陳平が貧乏なるに由り、張老母は乃ち貨幣

游學、

【講義】漢の丞相陳平は、河南の陽武縣戸牖郷の人なり、少年の時に、家貧なり、讀書を好む、家に田三十畝有り、兄伯と共に居る、伯は常に田を耕し、陳平を自由にして遊學せしむ、

【字解】陽武、今の河南懷慶府陽武縣の東南に在り、畝、百歩なり、三十畝は本邦の一町歩强なり、縱、自由にすること、

平爲人長、美色、人或謂陳平曰、貧何食而肥若是、其嫂嫉平之不視家生產、曰、亦食糠覈耳、有叔如此、不如無有、伯聞之、逐其婦而棄之、

【講義】陳平は其の身體長大にして、顏色美麗なり、或は之を嘲るもの有り、曰く、家貧なるに、何を食ひて肥ゆること此の如くなるかと、其の兄の妻は、陳平が家の產業を力めざるを惡み、曰く、彼も糠覈を食ふのみ、弟有るも此の如きは、無きに若かずと、伯兄は之を聞き、其の婦を逐ひ出して、之を棄てたり、

【字解】嫂、其の伯兄の妻なり、覈、カクと讀む、屑なり、叔、弟なり、伯仲叔季の順序にて、呼びたるなり、

及平長、可娶妻、富人莫肯與者、貧者平亦恥之、久之、戸牖富人、有張負、張負女孫、五嫁而夫輙死、人莫敢娶、平欲得之、

【講義】陳平は年長じ、妻を迎ふべきに當る、然れども、富人は之に女を與ふるを望まず、貧者の女は、陳平も之を迎ふるを恥づ、其の後久しくして、戸牖郷の富人張老母の女孫有り、五たび嫁して、其の夫は皆死す、世間敢て之を娶るもの無し、然るに、陳平は獨り之を得んと欲す、

【字解】負、老婦人を稱す、輙、何時なり、其の度每にといふ意なり、

太史公曰、學者多言無鬼神、然言有物、至如留侯所見老父予書、亦可怪矣、高祖離困者數矣、而留侯常有功力焉、豈可謂非天乎、上曰、夫運籌策帷帳之中、決勝千里外、吾不如子房、余以爲其人計魁梧奇偉、至見其圖、狀貌如婦人好女、蓋孔子曰、以貌取人、失之子羽、留侯亦云、

【講義】太史公曰く、學者多くは鬼神無しと言ふ、然れども、物怪有りと言ふ、張良が面會したる老人の兵書を與へし如き事に至りては、甚だ怪しむべきなり、蓋し高祖は困厄に罹ること屢なり、而して此の際に、張良は常に功力有り、豈に天の爲す所に非ずと謂ふ可けんや、高祖曰く、夫れ籌策を帷帳の中に運し、勝利を千里の外に決することに於て、余は子房に若かずと、故に、余は謂へらく、張良は其の人物必らず偉大にして奇異ならんと、然るに、其の圖畫を觀れば、狀貌は婦人好女の如し、蓋し孔子の語に之れ有り、曰く、貌を以て人を取れば、之を子羽に失ふと、余は張良に就きても、亦孔子の言を擧ばんとす、

【字解】物、物怪なり、離、罹るなり、怪、怪しむなり、筴、策に同じ、子房、張良の字なり、計、必らずなり、魁梧、偉大なり、子羽、澹臺滅明なり、行正しくして、貌惡し、其の行爲と容貌とが相反する甚しき人なり、仲尼弟子傳に詳なり、

陳丞相世家第二十六

陳丞相平者、陽武戸牖鄕人也、少時家貧、好讀書、有田三十畝、獨與兄伯居、伯常耕田、縱平、使

【字解】赤松子、神農時代の人なり、能く長生して、風雨を駕御す、辟、避くるなり、道引、導引に同じ、深呼吸の法なり、

會高帝崩、呂后德留侯、乃彊食之、曰、人生一世間、如白駒過隙、何至自苦如此乎、留侯不得已、彊聽而食、後八年卒、謚爲文成侯、子不疑代侯、

【講義】高祖崩御の後に呂后は張良を功德有りと思惟し、强ひて穀食せしめ曰く、人生一代の間は、白駒が戶隙を走り過ぐる如く、急速なり、故に、安樂に就くべきのみ、何ぞ自から苦しみ、穀食を避くるが如きに至るかと、是に於て、張良も已むを得ず、强ひて之を聽き穀食す、後八年にして卒す、謚して文成侯と曰ふ、子不疑は代り侯たり、

子房始所見下邳圯上老父、與太公書者、後十三年、從高帝過濟北、果見穀城山下黃石、取而葆祠之、留侯死、幷葬黃石冢、每上冢伏臘、祠黃石、留侯不疑、孝文帝五年、坐不敬、國除、

【講義】張良が當初に於て、下邳の土橋に遊び、面會したる彼の太公兵書の贈遺者たる老人は、其の後十三年を經て、仙跡を見るを得たり、蓋し張良が高祖に從ひ、濟北を通過したる時に、彼の老人の語りし如く、果して穀城山下に黃石を見たり、因て之を取り寶として、之を祠り、張良の死後には、張良をも此の黃石の塚に合葬し、塚を祭るべき夏冬の期節には、必らず此の黃石を祠りたり、留侯不疑は、孝文帝の五年に不敬の罪に當り、其の國を除かれ、家亡びたり、

【字解】下邳、濟北、穀城、皆本傳の初に解せり、圯、土橋なり、葆、寶なり、伏臘、六月十二月の祭儀の日なり、

る、戚夫人哀み泣きて涕を流す、高祖起ち去り、酒を罷む、竟に太子を易へざるは、是れ張良が本來此の四人を招きたる力なり、

【字解】若、汝なり、翮、カクと讀む、翼なり、就、成るなり、當可、可なり、矰繳、イグルミと訓ず、箭に絲を附けて射ること、閔、ケツと讀む、曲なり、噓唏、悲み泣くこと、

留侯從上擊代、出奇計馬邑下、及立蕭何相國、所與上從容言天下事甚衆、非天下所以存亡、故不著、

【講義】張良は高祖に從ひ、代國を擊つに當り、奇計を馬邑の城下に出せり、蕭何を漢の相國と爲す時に於ても、忠言を進めたり、其の他にも、高祖と心打解けて天下の事を論じたること、甚だ多し、然れども、皆天下の存亡に關する大事に非ず、故に此に記述せず、

【字解】馬邑、代の地なり、今の山西朔平府朔州に屬す、著、記載すること、

留侯乃稱曰、家世相韓、及韓滅、不愛萬金之資、爲韓報讐彊秦、天下振動、今以三寸舌、爲帝者師、封萬戶、位列侯、此布衣之極、於良足矣、願棄人間事、欲從赤松子游耳、乃學辟穀道引輕身、

【講義】張良は自から稱して曰く、吾家は累世韓王に事へて、其の相たり、韓の滅するに及び、萬金を愛惜せず、之を費用として、韓の爲めに仇を强秦に報じ、天下震動したり、今や三寸の舌を以て、帝者の師と爲り、萬戶に封ぜられ、列侯に位す、此れ無官の匹夫が、榮達の極度なり、我の身に於て、十分滿足なり、今より後には、人間の事を棄て、仙人赤松子に從ひ遊ばんと欲するのみと、乃ち仙術を學び、穀食を避け、呼吸を深くし、身體を輕くすることを力めたり、

來耳、上曰、煩公、幸卒調護太子、四人爲壽、已畢趨去、

【講義】四人皆曰く、吾君は士を輕視し善く罵る、臣等は義として其の辱を受けず、故に、恐れて逃れ匿る、竊に聞く、太子は仁孝恭敬なり、善く士を愛す、天下の人は皆景仰し、其の頸を延して、太子の爲めに死せんことを願はざるもの無しと、故に、臣等來るのみ、高祖曰く、公を煩勞せしむ、幸に終に太子を護り輔けよと、四人乃ち高祖を祝賀す、既に畢りて趨り去る、

上目送之、召戚夫人、指示四人者曰、我欲易之、彼四人輔之、羽翼已成、難動矣、呂后眞而主矣、戚夫人泣、

【講義】高祖は四人の退去するを目送し、戚夫人を召し、之を指示して曰く、余は太子を易へんと欲す、然るに、彼の四人は太子を輔く、羽翼既に成る、之を動かすこと難し、今より後に、呂后は眞に汝の主なりと、戚夫人は之を聽きて涕泣す、

【字解】目送、身は坐して、目のみ之を送るなり、而、汝なり、

上曰、爲我楚舞、吾爲若楚歌、歌曰、鴻鵠高飛、一擧千里、羽翮已就、橫絕四海、橫絕四海、當可奈何、雖有矰繳、尙安所施、歌數闋、戚夫人噓唏流涕、上起去、罷酒、竟不易太子者、留侯本招此四人之力也、

【講義】高祖は戚夫人に謂ひ曰く、我の爲めに楚舞せよ、余は汝の爲めに楚歌せんと、乃ち歌ひ曰く、鴻鵠高く飛ぶ、一たび擧りて千里に達す、羽翼既に成り、四海を橫絕す、之を奈何すべけん、弓矢有りと雖も、何の施す所か有らんと、其の歌ふこと數曲を終

益甚、愈欲易太子、留侯諫不聽、因疾不視事、叔孫太傅稱說、引古今、以死爭太子、上詳許之、猶欲易之、及燕置酒、太子侍、四人從太子、年皆八十有餘、鬚眉皓白、衣冠甚偉、

【講義】漢の十二年、高祖は黥布を擊破して歸る、病益重し、太子を易へんと欲すること愈切なり、張良は之を諫むれども聽かれず、高祖は病に因り、政事を視ず、太子太傅叔孫通は古今を引證して、稱說し、死を以て太子を爭ふ、高祖乃ち佯りて叔孫通に許せり、然れども、其の實は猶太子を易へんと欲す、宴飲に及び、太子侍坐す、四人は太子に從ふ、年皆八十餘なり、鬚眉皓白なり、衣冠甚だ偉なり、

【字解】詳、佯るなり、燕、宴飲なり、

上怪之問曰、彼何爲者、四人前對、各言名姓、曰、東園公、甪里先生、綺里季、夏黃公、上乃大驚曰、吾求公數歲、公辟逃我、今公何自從吾兒游乎、

【講義】高祖は之を怪み問ひ曰く、彼は何人ぞと、四人乃ち進み對へ、各其名姓を言ふ、曰く、東園公、甪里先生、綺里季、夏黃公と、高祖は之を聽き、大に驚き曰く、吾は公を求むること數年なれども、公は我を避け逃れたり、今何に由り、吾兒に從ひ遊ぶか、

【字解】怪、怪しむなり、前、進むなり、辟、避くるなり、

四人皆曰、陛下輕士善罵、臣等義不受辱、故恐而亡匿、竊聞太子爲人仁孝恭敬、愛士、天下莫不延頸欲爲太子死者、故臣等

るごと、

於是、呂澤立夜見呂后、呂后承間爲上、泣涕而言、如四人意、上曰、吾惟豎子固不足遣、而公自行耳、於是、上自將兵而東、羣臣居守、皆送至灞上、

【講義】是に於て、呂澤は其の夜直に呂后に謁見し、此の四人の言を告ぐ、呂后は乃ち皇上の間暇を伺ひ、涕泣して言ふ、四人の意の如くす、高祖曰く、吾も惟ふ豎子は固に遣るに足らず、我自から行かんのみと、高祖は遂に親ら將として東征す、群臣居守す、皆送り、霸水の邊に至る、

【字解】立、タチドコロニと訓ず、卽坐といふ意なり、豎子、太子を賤みて小生と稱したるなり、而公、乃公に同じ、我なり、灞上、霸上に同じ、上章に解せり、

留侯病、自彊起、至曲郵、見上曰、臣宜從、病甚、楚人剽疾、願上無與楚人爭鋒、因說上曰、令太子爲將軍、監關中兵、上曰、子房雖病、彊臥而傅太子、是時叔孫通爲太傅、留侯行少傅事、

【講義】張良は病む、然れども自から强ひて起ち、高祖の親征を送りて、長安の東なる曲郵に至る、乃ち拜謁して曰く、臣は從はんと欲するも、病重くして能はず、楚人は强くして急なり、願くは皇上が楚人と鋒を爭はず、靜に敵勢の挫折を待たんことを、因て說き曰く、太子をして將軍と爲り、關中の兵を監督せしめよと、高祖曰く、子房病むと雖も、强めて臥しながら、太子の傅と爲れよと、是の時に、叔孫通は太傅たり、張良は少傅の事務を執る、

【字解】剽疾、强くして急なり、彊、强むること、子房張良の字なり、

漢十二年、上從擊破布軍、歸、疾

【講義】是に於て、四人は建成侯呂澤に說き曰く、太子は兵に將として功有るも、位は益さず、功無くして還らば、此の事に由り、禍を受けん、且つ太子が共に往かんとする諸將は、皆嘗て皇上と共に、天下を平定したる猛將なり、然るに、今俄に太子をして此の猛將を統率せしむ、此れ羊をして狼に將たらしむるに異る無し、諸將皆太子の爲めに力を盡すを喜ばず、其の功無きは必定なり、臣聞く、母が寵愛を受くるときは、其の子は抱かると、今や戚夫人は日夜に侍御し、其の子趙王如意は、常に抱かれて皇上の前に在り、皇上曰く、終に愚なる子をして、吾の愛する子の上位に居らしめずと、故に、皇上が太子の位を代へんと欲することは、明白に確實なり、

【字解】梟將、惡く猛き將なり、

君何不急請呂后、承間爲上泣、言、黥布天下猛將也、善用兵、今諸將皆陛下故等夷、乃令太子將此屬、無異使羊將狼、莫肯爲用、且使布聞之、則鼓行而西耳、上雖病、彊載輜車、臥而護之、諸將不敢不盡力、上雖苦、爲妻子自彊、

【講義】四人は尙其の說を進めて曰く、前陳の次第なるを以て、今の計として、君何ぞ急に呂后に請ひ、皇上の間暇を伺ひ、呂后をして涕泣しながら、左の如く言はしめざるか、曰く、黥布は天下の猛將なり、善く兵を用ふ、而して今日、漢の諸將は皆皇上が舊時の同輩なり、然るに、太子をして此の徒に將たらしむ、此れ羊をして狼に將たらしむるに異ならず、必らず其の用と爲るを喜ばず、且つ黥布が此の事情を聞き知らば、鼓行して西に向はん、故に、皇上は病むと雖も、强ひて輜重の車に乘り、臥して東征し、諸將をして之を守護せしめば、諸將は必らず其の力を盡さん、皇上は病苦と雖も、妻子の爲めに、自ら勉めよと、

【字解】故、舊時なり、等夷、同等の輩なり、彊、勉む

ひ、字を宣明と曰ふ、夏黄公は姓を崔と曰ひ、名を廣と曰ひ、字を少通と曰ふ、甪里先生は姓を周と曰ひ、名を術と曰ひ、字を元道と曰ふ、誠、若しもなり、愛、客しむなり、安車、自由に坐乗し得る事なり、

於是、呂后令呂澤使人奉太子書、卑辭厚禮、迎此四人、四人至、客建成侯所、

【講義】是に於て、呂后は呂澤に命じ使を發し、太子の書を携へ、謙遜の辭を以て、招聘の禮を厚くし、此の四人を迎へしむ、四人至る、乃ち建成侯の邸に客たり、

漢十一年、黥布反、上病、欲使太子將往撃之、四人相謂曰、凡來者、將以存太子、太子將兵、事危矣、

【講義】漢の十一年黥布の叛亂有り、皇上は病む、因て太子をして兵に將とし、往き黥布を撃たしめんとす、四人相謂ひ曰く、吾輩が山を出で來りたるは、太子の地位を護持せんが爲めなり、然るに、太子が兵に將と爲るときは、事危し、

乃說建成侯曰、太子將兵有功、則位不益、太子無功還、則從此受禍矣、且太子所與俱諸將、皆嘗與上定天下梟將也、今使太子將之、此無異使羊將狼也、皆不肯爲盡力、其無功必矣、臣聞、母愛者子抱、今戚夫人日夜侍御、趙王如意常抱居前、上曰、終不使不肖子居愛子之上、明乎其代太子位必矣、

を易へんと欲す、君何ぞ安心して臥するを得んや、張良曰く、當初に於て、皇上は屢困急の中に在り、故に、幸に臣の策を用ひたり、今や天下安定す、愛情を以て太子を易へんと欲す、是れ父子の間の事なり、臣等の如きもの百餘人有りと雖も、何の益する所か有らん、

【字解】 安、何なり、筴、策に同じ、幸、張良に取りて幸なるをいふ、

◎

呂澤彊要曰、爲我畫計、留侯曰、此難以口舌爭也、顧上有不能致者、天下有四人、四人者年老矣、皆以爲上慢侮人、故逃匿山中、義不爲漢臣、然上高此四人、今公誠能無愛金玉璧帛、令太子爲書、卑辭安車、因使辯士固請、宜來、來以爲客、時時從入朝、令上見之、則必異而問之、問之、上知此四人賢、則一助也、

【講義】 呂澤は强ひて張良に要請し曰く、我の爲めに計畫せよ、張良曰く、此れ口舌を以て爭ひ難し、顧ふに皇上が權勢を以てするも、從來招致すること能はざる四人の隱士有り、此の四人は年老いたり、皆謂へらく皇上は人を輕侮すと、故に、山中に逃匿し、義として漢の臣と爲らず、然れども、皇上は此の四人を高尚なりとす、故に、今の計として、公が若しも能く金玉璧帛を愛惜せず、之を此の四人に贈り、太子をして書を作らしめ、我を卑下したる辭を以て、安車の禮を用ひ、辯士をして固く此の四人を招請せしめよ、斯くすれば、四人は必らず來らん、果して來らば、之を太子の客と爲し、時時之を從へて入朝し、皇上をして之を見知らしむ、然るときは、皇上必ず怪しみて、之を問はん、之を問へば、皇上は此の四人の賢なるを知る、是れ太子の一助なり、

【字解】 四人、謂はゆる商山の四皓なり、東園公、綺里季、夏黃公、甪里先生是なり、東園公は姓を唐と曰

【字解】左、東なり、右、西なり、胡苑、胡人の牧場を稱す、漕輓、委輸、共に運漕の事をいふ、金城、堅固なる城構へを稱す、天府、天より造りたる府庫なり、

於是、高帝卽日駕、西都關中、留侯從入關、留侯性多病、卽道引不食穀、杜門不出、歲餘、

【講義】是に於て、高祖は卽日車駕を發し、西に幸して關中に都す、張良は高祖に從ひ關に入る、張良は天質多病なり、因て深呼吸の法を行ひ、穀物を食はず、門を閉ぢて出でざること一年を過ぎたり、

【字解】道引、導引に同じ、呼吸を深くして、空氣を腹中に流通せしむること、杜、閉づなり、

上欲廢太子、立戚夫人子趙王如意、大臣多諫爭、未能得堅決者也、呂后恐、不知所爲、人或謂呂后曰、留侯善畫計筴、上信用之、

【講義】高祖は太子を廢せんと欲し、戚夫人の子趙王如意を太子と爲さんと欲す、大臣多く諫爭するも、未だ堅き決定を得る能はず、呂后恐る、然れども、其の爲す所を知らず、或る人は呂后に謂ひ曰く、張良は善く計策を建つ、皇上は之を信用す、張良を用ふれば可ならん、

【字解】夫人、女官の稱なり、筴、策に同じ、

呂后乃使建成侯呂澤、劫留侯曰、君常爲上謀臣、今上欲易太子、君安得高枕而臥乎、留侯曰、始上數在困急之中、幸用臣筴、今天下安定、以愛欲易太子、骨肉之間、雖臣等百餘人、何益、

【講義】呂后乃ち建成侯呂澤をして、張良を脅迫せしめ曰く、君は常に皇上の謀臣たり、今や皇上は太子

左右大臣、皆山東人、多勸上都雒陽、雒陽東有成皐、西有殽黽、倍河向伊雒、其固亦足恃、

【講義】劉敬は高祖に說きて曰く、關中に都せよと、高祖は之を疑ふ、是の時に當り、高祖の左右の侍臣、及び大臣は皆山東の人なり、多く高祖に勸めて洛陽に都せしめんとす、其の說に曰く、洛陽は東に成皐の險有り、西に殽黽の山有り、黃河に倚り、伊水洛水に向ふ、其の要害の堅固なるは、恃むに足ると、

留侯曰、雒陽雖有此固、其中小、不過數百里、田地薄、四面受敵、此非用武之國也、夫關中、左殽函、右隴蜀、沃野千里、南有巴蜀之饒、北有胡苑之利、阻三面而守、獨以一面東制諸侯、諸侯安定、河渭漕輓天下、西給京師、諸侯有變、順流而下、足以委輸、此所謂金城千里、天府之國也、劉敬說是也、

【講義】張良曰く、洛陽は此の要害の堅固を有するも、其の中の地は狹小なり、數百里に過ぎず、田野は薄く迫る、四面に敵を受くべし、此れ武を用ふる國に非ず、夫れ關中は、殽山及び函谷關を東にし、隴山及び蜀山を西にし、其の中央は沃土の田野千里に連る、而して南に巴蜀の物產豐饒なるを控へ、北に胡苑の牧畜多く利なるを有つ、地形は南北西の三面を要害として、自から守り、獨り東の一面を開きて、天下の諸侯を制御す、其の諸侯安定したる時には、黃河及び渭水の運送に由り、天下の貨物を遞して、西方京師に供給せしむべし、其の諸侯叛亂したる時には、此の河流に順ひ、東に下りて、戰時の用品を輸送するに足る、此れ謂はゆる金城千里、天成の寶庫たる國なり、劉敬の說は至當なり、

相聚り、叛亂を謀るのみ、

【字解】 屬安定、今新に安定すとの意なり、屬、コノゴロと訓ず、故人、故舊に同じ、恐又、又恐に作るべし、

上乃憂曰、爲之奈何、留侯曰、上平生所憎、羣臣所共知、誰最甚者、上曰、雍齒與我故、數嘗窘辱我、我欲殺之、爲其功多、故不忍、留侯曰、今急先封雍齒、以示羣臣、羣臣見雍齒封、則人人自堅矣、

【講義】 高祖乃ち憂慮して曰く、之を爲す如何、張良曰く、吾君が平生憎惡する所にして、群臣の共に知る所は、誰か最も甚しきものぞ、高祖曰く、雍齒は我と宿怨有り、數度我を窘め辱しめたり、我は之を殺さんと欲す、其の功多きに由り、之を殺すに忍びず、今に至れり、張良曰く、果して然らば、今急に先づ雍齒を封じ、以て群臣に示せよ、群臣が雍齒の封を得たるを覩ば、人人自ら安心せん、

【字解】 窘、追ひ詰めて苦しむること、堅、安心にして堅固となるなり、

於是、上乃置酒、封雍齒、爲什方侯、而急趣丞相御史、定功行封、羣臣罷酒、皆喜曰、雍齒尙爲侯、我屬無患矣、

【講義】 是に於て、高祖は置酒し、雍齒を封じ、什方侯と爲す、而して急に丞相御史を促し、功を定め封を行ふ、群臣は酒を罷め、皆喜び曰く、雍齒にして尙能く侯と爲る、我徒は患なし、

【字解】 什方、益州の縣名なり、今の四川成都府に屬す、趣、促すなり、

劉敬說高帝曰、都關中、上疑之、

六年、上已封大功臣二十餘人、其餘日夜爭功、不決、未得行封、上在雒陽南宮、從復道望見、諸將往往相與坐沙中語、上曰、此何語、留侯曰、陛下不知乎、此謀反耳、

【講義】 漢の六年、高祖は既に大功臣二十餘人を封ず、其の餘は日夜相互に功を爭ひ決せず、未だ封を行ふを得ず、高祖は洛陽の南宮に在り、閣道の上より望見すれば、諸將は屢相共に沙中に坐して語る、高祖曰く、此れ何をか語る、張良曰く、吾君は知らざるか、此れ叛亂を謀るのみ、

【字解】 雒、洛なり、復道、複道なり、閣道ともいふ、樓閣の上下に兩道を通じたるもの、

上曰、天下屬安定、何故反乎、留侯曰、陛下起布衣、以此屬取天下、今陛下爲天子、而所封皆蕭曹故人所親愛、而所誅者皆生平所仇怨、今軍吏計功、以天下不足偏封、此屬畏陛下不能盡封、恐又見疑平生過失及誅、故卽相聚謀反耳、

【講義】 高祖曰く、天下は今始めて安定したり、何の故に叛亂するか、張良曰く、吾君は無官の匹夫より身を起し、此の徒を率ゐて、天下を取る、今や吾君は天子たり、而して其の功を以て封を得たるものは、蕭何、曹參及び舊來の交友にして、吾君の親愛を受くるものなり、之に反して、其の誅殺に遭ふものは、皆其の平生仇讐として、怨を受けたるものなり、今日軍吏が戰功の人を計るに、天下廣しと雖も、悉く封ずるに足らず、故に、此の沙中に坐する徒は、吾君より封土の恩命を拜する能はざるを畏る、且つ其の平生の過失を疑はれて、誅死に遭はんことを恐る、故に、卽ち

說漢王、漢王用其計、諸侯皆至、語在項籍事中、

【講義】漢の四年、韓信は齊を破りて自から齊王と爲らんと欲す、漢王怒る、張良は漢王に說く、漢王乃ち張良を使として、韓信に齊王の印を授けしむ、其の事は載せて淮陰侯の傳中に在り、其の年の秋、漢王は楚を追ひ、陽夏の南に至り、戰の利を失ひ、固陵に於て壁を守る、而して諸侯は來會を期したるも、皆至らず、張良乃ち漢王に說く、漢王は張良の計を用ふ、是に於て、諸侯の兵皆至る、其の事は載せて項羽の本紀に在り、

【字解】陽夏、固陵、共に淮陽の縣名なり、今の河南陳州府太康縣及び淮寧縣に屬す、

漢六年正月、封功臣、良未嘗有戰鬪功、高帝曰、運籌策帷帳中、決勝千里外、子房功也、自擇齊三萬戶、

【講義】漢の六年正月、功臣の封土を定む、張良は未だ嘗て戰鬪の功有らず、高祖曰く、籌策を帷帳の中に運用し、勝利を千里の外に決定す、是れ張良の功なりと、因て齊の三萬戶を擇び、之を與へんとす、

【字解】子房、張良の字なり、自、因てなり、

良曰、始臣起下邳、與上會留、此天以臣授陛下、陛下用臣計、幸而時中、臣願封留足矣、不敢當三萬戶、乃封張良爲留侯、與蕭何等俱封、

【講義】張良曰く、當初に於て、臣は下邳より起り、留に至りて皇上に謁せり、此れ天命が臣を以て、吾君に授けたるなり、吾君が臣の計を用ひ、幸にして時に效果を擧げたり、臣願くは留に封ぜられんことを、臣は留を以て足る、敢て三萬戶に當らずと、乃ち張良を封じて留侯とす、蕭何等と同時に封を得たり、

【字解】下邳、留、上章に解釋せり、

り、遠く來りて吾君に從ひ遊ぶは、何の故ぞや、是れ唯日夜に功賞の土地を得んことを希望すればなり、然るに、今の時に於て、韓、魏、趙、齊、楚、燕の六國を復立し、其の後嗣を王とせば、天下の遊士は、各歸りて其の主に事へ、其の父母に從ひ、其の舊來の友に伴ひ、其の墳墓の地に還らん、斯くなる時には、吾君は誰と共に天下を取らん、是れ其の計の不可なる第八なり、

【字解】親戚、父母なり、故舊、舊き交友なり、徒、唯なり、咫尺、狹く小なること、些少の褒賞をいふ、

且夫楚唯無彊、六國立者、復撓而從之、陛下焉得而臣之、誠用客之謀、陛下事去矣、漢王輟食吐哺、罵曰、豎儒幾敗而公事、令趣銷印、

【講義】張良は八難を陳べ畢り、之に副へて曰く、且つ夫れ今の時に當り、天下は楚より強きもの無し、六國が立てば、復た必ず屈みて楚に從はん、吾君は何ぞ六國を臣下と爲すを得ん、六國は漢を去り、楚は益、强し、故に、客の愚計を用ふるときは、吾君の大事去らんと、是に於て、漢王は食を止め、其の口中の食物を吐き出し、罵りて曰く、淺學の小人は、吾の事業を敗らんとしたりと、乃ち速に六國の印を取消さしむ、

【字解】唯無彊、無強焉に同じ、尤も強しといふ意なり、焉得、何ぞ得んなり、誠、若しもなり、輟、止むなり、哺、口中の食物なり、豎儒、學者を卑しく看下げて呼ぶときの語なり、幾、近きなり、而公、乃公に同じ、我なり、趣、速なり、

漢四年、韓信破齊、而欲自立爲齊王、漢王怒、張良說漢王、漢王使良授齊王信印、語在淮陰事中、其秋、漢王追楚、至陽夏南、戰不利而壁固陵、諸侯期不至、良

と無きを示したり、今や吾君は、能く武を偃せ文を行ひ、再び兵を用ふること無きを期するか、漢王曰く、未だ能はず、張良曰く、是れ其の計の不可なる第五なり、

【字解】 革、兵車なり、軒、平常の車なり、倒置、偃せて用ひざること、干、楯なり、

休馬華山之陽、示以無所爲、今陛下能休馬無所用乎、曰未能也、其不可六矣、

【講義】 張良曰く、周武は戰馬を放ちて、之を華山の陽に休息せしめ、以て爲す所無きを天下に示したり、今や吾君は能く馬を休めて、用ふる所無きを期するか、漢王曰く、未だ能はず、張良曰く、是れ其の計の不可なる第六なり、

放牛桃林之陰、以示不復輸積、今陛下能放牛、不復輸積乎、曰未能也、其不可七矣、

【講義】 張良曰く、周武は牛を桃林の陰に放ち、以て再び兵糧輸送の事無きを示したり、今や吾君は、能く牛を放ちて、復た兵糧輸送の事無きを得るか、漢王曰く、未だ能はず、張良曰く、是れ其の計の不可なる第七なり、

且天下游士、離其親戚、棄墳墓、去故舊、從陛下游者、徒欲日夜望咫尺之地、今復六國、立韓、魏、燕、趙、齊、楚之後、天下游士、各歸事其主、從其親戚、反其故舊墳墓、陛下與誰取天下乎、其不可八矣、

【講義】 張良曰く、且つ夫れ今日天下の遊士が、其の父母を離れ、其の墳墓の鄕里を棄て、舊來の交友を去

之頭乎、曰未能也、其不可二也、

【講義】 張良曰く、周武が紂王を伐ちて、其の後嗣を宋國に封じたるは、其の力能く紂王の頭を得るを料り知ればなり、今や吾君は、能く項籍の頭を得るかと、漢王曰く、未だ能はず、張良曰く、此れ其の計の不可なる第二なり、

武王入殷、表商容之閭、釋箕子之拘、封比干之墓、今陛下能封聖人之墓、表賢者之閭、式智者之門乎、曰未能也、其不可三也、

【講義】 張良曰く、周武は殷に克ちて其の都に入り、賢者商容の里閭を旌表し、智者箕子の拘繫を釋き放し、聖人比干の墓地を環らし封ひたり、今や吾君は、能く聖人の墓を封じ、賢者の里を旌し、智者の門に禮するか、漢王曰く、未だ能はず、張良曰く、是れ其の計の不可なる第三なり、

【字解】 表、世界へ公表すること、閭、里の門なり、式、軾なり、車の上より禮すること、

發鉅橋之粟、散鹿臺之錢、以賜貧窮、今陛下能散府庫、以賜貧窮乎、曰未能也、其不可四矣、

【講義】 張良曰く、周武は鉅橋の米倉より穀物を發し、鹿臺の寶庫より金錢を出し、以て貧窮者に施與したり、今や吾君は能く府庫を開きて、其の貯蓄を貧民に散ずるか、漢王曰く、未だ能はず、張良曰く、是れ其の計の不可なる第四なり、

殷事已畢、偃革爲軒、倒置干戈、覆以虎皮、以示天下不復用兵、今陛下能偃武行文、不復用兵乎、曰未能也、其不可五矣、

【講義】 張良曰く、周武は殷に克ちて事畢れば、兵車を罷めて、平常の乗物を用ひ、武器を偃せて、之を覆ふに虎皮を以てし、天下に向ひて再び兵を用ふるこ

漢王方食、曰、子房前、客有爲我、計撓楚權者、具以酈生語告於子房曰、何如、

【講義】 漢王は酈食其の説を聽きて曰く、善し、速に六國の印を刻せよ、先生其の印を携へ行きて、之を佩用せしめよと、而して酈食其は未だ出立せず、張良は外より來謁す、漢王は方に食す、曰く、子房近く進め、此頃、客有り、我の爲めに楚の權勢を挫くことを計れりと、因て酈生の語を以て、張良に告げ、曰く何如、

【字解】 趣、速なり、客有、有客に作るべし、子房、張良の字なり、

良曰、誰爲陛下畫此計者、陛下事去矣、漢王曰、何哉、張良對曰、臣請藉前箸、爲大王籌之、

【講義】 張良曰く、誰か吾君の爲めに、此の愚計を畫するものぞ、吁吾君の大事は去らんと、漢王曰く、何の故ぞやと、張良曰く、臣請ふ御前の箸を借り、大王の爲めに之を籌り論ぜんと、遂に八個の難問を發す、

【字解】 前箸、王が食事せるを以て、其の前に置きたる箸なり、箸を用ひて語るは、謂はゆる灰に線を引く灰畫字の類にて、祕密の爲めにするなり、

曰、昔者湯伐桀、而封其後於杞者、度能制桀之死命也、今陛下能制項籍之死命乎、曰、未能也、其不可一也、

【講義】 張良曰く、古昔殷湯が桀王を伐ちて、其の後嗣を杞國に封じたるは、吾力を以て、能く桀王の死命を制することを料り知りたればなり、今吾君は、能く項籍の死命を制するか、漢王曰く、未だ能はず、張良曰く、是れ其の計の不可なる第一なり、

武王伐紂、封其後於宋者、度能得紂之頭也、今陛下能得項籍

れども、其の竟に能く楚を破りたるは、張良の豫想したる如く、此の黥布、彭越、韓信三人の力なり、張良は多病なり、未だ嘗て特に將と爲らず、常に畫策の臣たり、時時漢王に從ひ、戰に臨むのみ、

漢三年、項羽急圍漢王滎陽、漢王恐憂、與酈食其謀撓楚權、食其曰、昔湯伐桀、封其後於杞、武王伐紂、封其後於宋、今秦失德棄義、侵伐諸侯社稷、滅六國之後、使無立錐之地、陛下誠能復立六國後世、畢已受印、此其君臣百姓、必皆戴陛下之德、莫不鄉風慕義、願爲臣妾、德義已行、陛下南鄉稱霸、楚必斂衽而朝、

【講義】 漢の三年、項羽は急に漢王を河南の滎陽に圍む、漢王恐れ憂ふ、乃ち酈食其と楚の權勢を撓かんことを謀る、酈食其曰く、古昔殷湯が桀王を伐つや、其の後嗣を杞國に封ず、周武が紂王を伐つや、其の後嗣を宋國に封ず、今や秦は德を失ひ義を棄て、諸侯の社稷を侵伐し、韓、魏、趙、齊、楚、燕の後嗣を滅し、立錐の地をも殘存せしめず、此の時に當り、吾君が若しも能く此の滅びたる六國の後嗣を復立せしめ、盡く既に其の國主たる印を受くるに至らば、其の君臣及び衆民は、必らず皆吾君の德を戴かん、吾君の風に向ひ從ひ、吾君の義を喜び慕ひ、吾君の臣妾たるを願はざるもの無からん、斯くして、德義既に行はる、吾君は南面して霸を稱し、楚は必らず衽を斂め禮を恭しくして、吾君の下に來り朝せん、

【字解】 撓、挫くなり、屈めること、社稷、國家なり、其の國土の神を祭ること、立錐、極小なり、誠、若しもなり、鄉、向ふなり、

漢王曰、善、趣刻印、先生因行佩之矣、食其未行、張良從外來謁、

漢王下馬踞鞍而問曰、吾欲捐關以東等弃之、誰可與共功者、良進曰、九江王黥布楚梟將、與項王有郄、彭越與齊王田榮反梁地、此兩人可急使、而漢王之將、獨韓信可屬大事當一面、卽欲捐之、捐之此三人、則楚可破也、

【講義】　漢王は馬を下り鞍に踞し問ひ曰く、余は函谷關より東方の諸國を棄てんと欲す、均しく之を棄つ、誰か能く我と功を共にするに足るものぞと、張良進み對へて曰く、黥布、彭越、韓信の三人可なり、夫れ九江王黥布は楚の梟將なり、然るに、項王と仲惡し、彭越は齊王田榮と共に梁の地に叛亂す、此の兩人は急に使ふべし、而して漢王の將は、獨り韓信能く大事を委囑して、一面に當らしむるに足る、故に、王が關東を棄てんと欲せば、之を此の三人に棄てよ、然るときは、楚を破るを得べし、

【字解】　捐、弃、此の兩字は共に棄と同義なり、捐も弃も、自分の手に取らずして、他人に授け與ふる意なり、關以東、謂はゆる山東諸國なり、等、均しくなり、梟、惡く猛きなり、郄、隙なり、卽、若なり、

漢王乃遣隨何說九江王布、而使人連彭越、及魏王豹反、使韓信將兵擊之、因擧燕、代、齊、趙、然卒破楚者、此三人力也、張良多病、未嘗特將也、常爲畫策臣、時時從漢王、

【講義】　漢王乃ち隨何をして九江王黥布に說かしめ、別に人を遣り、彭越に連和せしむ、此の時に、魏王豹は漢に背く、因て韓信をして兵に將とし、魏を擊たしめ、遂に魏、趙、代、燕、齊の五國を取るを得たり、然

【講義】張良は乃ち漢王に說きて曰く、王は其の通過する所の棧道を燒絕すべし、以て天下に向ひ東歸の心無きを示し、項王を安心せしめよと、漢王乃ち張良をして韓に還らしめ、其の途中通行に從ひ、棧道を燒絕せしむ、斯くして張良は韓に至れり、

【字解】何不可しといふ如し、棧道、山の險崖に架したる橋の如き路なり、固、安んずること、

韓王成以良從漢王故、項王不遣成之國、從與俱東、良說項王曰、漢王燒絕棧道、無還心矣、乃以齊王田榮反書、告項王、項王以此無西憂漢心、而發兵北擊齊、

【講義】韓王成は、其の司徒張良が漢王に從ふに由り、項王の意に適はず、項王は韓王成をして國に往かしめず、之を伴ひ東歸す、此の時に、張良は楚に至り、項王に說きて曰く、漢王は棧道を燒絕して、東歸の心無しと、乃ち齊王田榮が楚に背反する書を以て、項王に告ぐ、項王は此を以て西方に漢を憂慮すること無し、遂に兵を發し北征し、齊を擊つ、

項王竟不肯遣韓王、乃以爲侯、又殺之彭城、良亡間行歸漢王、漢王亦已還、定三秦矣、復以良爲成信侯、從東擊楚、至彭城、漢敗而還、至下邑、

【講義】項王は、竟に韓王成を其の國に遣ることに就きて、承知せず、之を侯と爲し、遂に彭城に於て、之を殺したり、張良乃ち亡げて間行し、漢王に從ふ、此の時に、漢王も既に還りて雍、塞、翟の三秦を平定したり、漢王は張良を以て成信侯と爲し、成信侯は漢王に從ひ、東征して、彭城に至る、漢軍敗れて還り、河南の下邑に至る、

【字解】下邑、今の河南歸德府夏邑縣なり、

公與飲爲壽、結賓婚、令項伯具言沛公不敢倍項羽、所以距關者、備他盜也、及見項羽後解、語在項羽事中、

【講義】張良乃ち强ひて項伯に要請す、項伯は沛公に面會す、沛公は項伯と共に飲み、項伯の爲めに壽觴を進め、兄弟の緣を結び、因て項伯に委囑し、項羽に言はしめて曰く、沛公は敢て項羽に背かず、其の關門を閉ぢたるは、他の盜に備へたるのみと、遂に沛公が項羽に面會するに及びて、此の事は和解するを得たり、其の語は項羽の本紀に掲載す、

【字解】賓婚、兄弟分の契約なり、具、委細なり、倍、背くなり、

漢元年正月、沛公爲漢王、王巴蜀、漢王賜良金百鎰珠二斗、良具以獻項伯、漢王亦因令良厚遺項伯、使請漢中地、項王乃許之、遂得漢中地、漢王之國、良送至褒中、遣良歸韓、

【講義】漢の元年正月、沛公は漢王と爲り、巴蜀に王たり、漢王は張良に金百鎰珠二斗を與ふ、張良は之を擧げて項伯に獻ず、漢王も因て張良に托し、厚く項伯に贈遺せしめ、以て漢中の地を請はしむ、項王は之を許す、漢王は遂に漢中の地を得たり、乃ち國に往く、張良は送りて褒中に至る、漢王は張良をして韓に歸らしむ、

【字解】鎰、二十四兩なり、漢中、今の陝西漢中府なり、褒中、今の漢中府褒成縣に屬す、

良因說漢王曰、王何不燒絕所過棧道、示天下無還心、以固項王意、乃使良還行、燒絕棧道、良至韓、

り、資、身を處する資料なり、霸上、霸陵なり、霸水に近き高陵の地なり、今の陝西西安府臨潼縣に屬す、

項羽至鴻門下、欲擊沛公、項伯乃夜馳入沛公軍、私見張良、欲與俱去、良曰、臣爲韓王送沛公、今事有急、亡去不義、乃具以語沛公、沛公大驚曰、爲將奈何、

【講義】項羽は函谷關より入り、新豐の鴻門の下に至り、沛公を擊たんと欲す、項伯乃ち夜馳せて沛公の軍に至り、私に張良に面會し、相共に去らんと欲す、張良曰く、臣は韓王の爲めに、沛公を送る、今や事の急なるに遭ふ、乃ち亡げ去るは不義なりと、因て詳細に沛公に語る、沛公は大に驚き曰く、之を奈何せんか、

【字解】鴻門、今の陝西西安府臨潼縣の東に在り、阪口の名なり、具、委細なり、

良曰、沛公誠欲倍項羽邪、沛公曰、鯫生教我、距關無內諸侯、秦地可盡王、故聽之、良曰、沛公自度能却項羽乎、沛公默然良久、曰、固不能也、今爲奈何、

【講義】張良曰く、沛公は項羽に背かんと欲するか、沛公曰く、小生有り、我に教へて曰く、函谷關を距ぎ、諸侯を入らしむる勿れ、秦の地は我手に歸し、之に王たるを得んと、故に、此の說を用ひて、關を閉ぢたるのみと、張良曰く、沛公自から料るに、其の力は能く項羽を斥くるに足るか、沛公默然たり、稍暫くして曰く、實に項羽を斥くる能はず、今に於て、之を奈何せん、

【字解】倍、背くなり、鯫、小魚なり、鯫生とは客の賤しきものを稱す、

良乃固要項伯、項伯見沛公、沛

く、此れ獨り其の將が叛かんと欲するのみ、或は士卒の從はざる患有らん、若しも士卒の從はざる時は、必らず危し、故に、今の計としては、秦軍の懈怠したるに乘じ、之を擊つに如かず、

沛公乃引兵、擊秦軍、大破之、遂北至藍田、再戰、秦兵竟敗、遂至咸陽、秦王子嬰降沛公、沛公入秦宮、宮室、帷帳、狗馬、重寶、婦女、以千數、意欲留居之、樊噲諫沛公出舍、沛公不聽、

【講義】沛公は此の計を用ひ、兵を引きて秦軍を擊ち、大に之を破る、遂に北進して藍田に至り、再び戰ふ、竟に秦兵を敗り、咸陽に至る、秦王子嬰は沛公に降る、沛公は秦の宮に入る、宮室、帷帳、狗馬、重寶、婦女、皆完く存在し、婦女は千人を超えたる多數なり、故に、沛公は此に留り居らんと欲す、樊噲沛公を諫め、宮を出で舍らしめんと圖る、然れども、沛公は之を聽かず、

良曰、夫秦爲無道、故沛公得至此、夫爲天下除殘賊、宜縞素爲資、今始入秦、卽安其樂、此所謂助桀爲虐、且忠言逆耳、利於行、毒藥苦口、利於病、願沛公聽樊噲言、沛公乃還、軍霸上、

【講義】張良は乃ち沛公に謂ひ曰く、夫れ秦は無道を爲す、故に、沛公は此に至るを得たり、今や天下の爲めに賊害を除き去る、沛公は儉素を以て身を處すべし、然るに、秦に入れば忽ち其の安樂を取る、此れ謂はゆる桀を助けて暴虐を爲すものなり、且つ夫れ忠言は耳に逆ふも行に利有り、毒藥は口に苦きも病に利有り、願くは沛公が樊噲の言に聽かんことをと、沛公は此の說を納れ、乃ち還りて霸水の邊に軍す、

【字解】殘、害なり、縞素、儉素なり、奢らざる衣服な

め下し、更に西して武關に入る、

【字解】 雒陽、洛陽なり、轘轅、今の河南偃師縣の南に於ける險道なり、陽翟、今の河南開封府禹州なり、宛、今の河南南陽府南陽縣なり、武關、今の陝西商州に屬す、

沛公欲以兵二萬人擊秦嶢下軍、

【講義】 沛公は兵二萬人を以て、秦の嶢關の下に於ける軍を擊たんと欲す、

【字解】 嶢下、秦の藍田關を嶢關と稱す、下は關の下をいふ、

良說曰、秦兵尙彊、未可輕、臣聞、其將屠者子、賈豎易動以利、願沛公且留壁、使人先行、爲五萬人具食、益爲張旗幟諸山上、爲疑兵、令酈食其持重寶啗秦將、

【講義】 張良は沛公に說きて曰く、秦の兵は尙强し、未だ輕視すべからず、臣聞く、現在嶢關を守る將軍は、屠者の子なりと、夫れ屠者の如き商人は、之を動すに利を以てすること易し、願くは暫く此に滯留して、壁を守り、先づ人を遣り、五萬人の食物を備へ置かしめ、益、多く旗幟を諸山の上に張りて、疑兵を爲し、酈食其をして、重寶を持し、之を秦の將軍に與へしめよ、

【字解】 彊、强なり、賈豎、商人なり、啗、利益を與ふること、

秦將果畔、欲連和俱西襲咸陽、沛公欲聽之、良曰、此獨其將欲叛耳、恐士卒不從、不從必危、不如因其解擊之、

【講義】 沛公乃ち張良の計に從ふ、秦の將軍は豫想の如く、秦に背きて、沛公と連和し、共に西に向ひ、咸陽を襲はんと欲す、沛公は之を聽かんと欲す、張良曰

し、常に其の策を用ふ、張良は他人に向ひて、此の說を述ぶるも、之を省みるもの無し、獨り沛公に用ひらる、故に張良曰く、沛公は天授の神智に近しと、遂に意を決して、沛公に從ふ、復た景駒の所に往かず、

【字解】 廐將、楚の武官の名なり、殆、近きなり、

及沛公之薛、見項梁、項梁立楚懷王、良乃說項梁曰、君已立楚後、而韓諸公子橫陽君成賢、可立爲王、益樹黨、項梁使良求韓成、立以爲韓王、以良爲韓申徒、與韓王將千餘人、西略韓地、得數城、秦輒復取之、往來爲游兵潁川、

【講義】 既にして沛公は薛に往き、項梁に面會す、項梁は楚の懷王を立つ、張良乃ち項梁に說きて曰く、君既に楚の後を立てたり、今や韓の諸公子橫陽君韓成は賢なり、之を立てゝ韓王と爲し、以て益、秦に反對の黨を建つべしと、是に於て、項梁は張良をして韓成を求めしめ、之を立て、韓王と爲し、張良を韓の司徒と爲す、張良乃ち韓王と共に、千餘人に將として西征し、韓の地を侵略し、數城を得たり、然れども、忽ち復た秦に奪ひ取らる、張良は往來して潁川に游兵を爲す、

【字解】 申徒、司徒なり、大臣なり、潁川、今の河南開封府に屬す、

沛公之從雒陽南、出轘轅、良引兵從沛公、下韓十餘城、擊破楊熊軍、沛公乃令韓王成留守陽翟、與良俱南、攻下宛、西入武關、

【講義】 沛公が洛陽より南進して、轘轅の道筋に出づる時に當り、張良は兵を引きて、韓の十餘城を取り、擊ちて秦の將揚熊が軍を破る、沛公乃ち韓王成をして陽翟を留守せしめ、張良と共に南進し、宛城を攻

者の師と爲らん、後十年に興らん、十三年に孺子は我を見ん、濟北の穀城山下の黃石は、卽ち我なりと、遂に去る、他の言無し、復た見えず、

【字解】 穀城山、今の山東泰安府東阿縣に在り、黃山と稱するもの是なり、

旦日、視其書、乃太公兵法也、良因異之、常習誦讀之、居下邳、爲任俠、項伯常殺人、從良匿、

【講義】 明朝其の書を視れば、太公望の兵法なり、張良は因て之を異とし、常に習ひ、之を誦讀す、遂に下邳に居り、任俠を爲す、是の時に當り、項伯は嘗て人を殺し、張良に從ひ匿れ居たり、

【字解】 旦日、朝なり、常殺、嘗て殺すなり、

後十年、陳涉等起兵、良亦聚少年百餘人、景駒自立、爲楚假王、在留、良欲往從之、道遇沛公、沛公將數千人、略地下邳西、遂屬焉、

【講義】 後十年、陳涉等は兵を起す、張良も少年百餘人を聚む、是の時に當り、景駒は自立し、楚の假王と爲りて留に在り、張良は往き之に從はんと欲す、途中に於て、沛公に遇ふ、沛公は數千人に將として、下邳の西を侵略す、張良は遂に沛公に屬す、

【字解】 留、今の江蘇徐州府沛縣の東南に在り、下邳前章に解せり、

沛公拜良爲廐將、良數以太公兵法說沛公、沛公善之、常用其策、良爲他人言、皆不省、良曰、沛公殆天授、故遂從之、不去見景駒、

【講義】 沛公は張良を擧げて、廐將と爲す、張良は屢太公の兵法を以て、沛公に說く、沛公は之を善しと

驚、隨目之、父去里所、復還、曰、孺子可敎矣、後五日平明、與我會此、良因怪之、跪曰、諾、

【講義】老人曰く、我に履せよと、張良は既に老人の爲めに履を取る、因て長跪して之を老人に穿たしむ、老人は足を以て之を受け、笑ひて去る、張良は殊に大に驚き、其の去るに就き、之を目送す、老人は去ること一里程にして、復た還り來り曰く、孺子敎ふべし、後五日早朝に、我と此に會せよと、張良は因て之を怪み、跪きて曰く、諾すと、

【字解】業、既になり、里所、五六町程なり、所は程なり、平明、早朝なり、怪、怪しむなり、

五日平明、良往、父已先在、怒曰、與老人期、後何也、去、曰、後五日早會、五日雞鳴良往、父又先在、復怒曰、後何也、去、曰、後五日復早來、

【講義】後五日、早朝に張良は土橋に至る、老人は既に先づ在り、怒り曰く、老人と期を約す、然るに、後れたるは何の故ぞと、乃ち去る、老人は去るに臨みて曰く、後五日再び會せよと、其の期日に至り、雞鳴の時に、張良往く、然るに、老人復た先づ在り、復た怒り曰く、後れたるは何ぞやと、乃ち去る、曰く、後五日、復た早く來れ、

五日、良夜未半、往、有頃父亦來、喜曰、當如是、出一編書曰、讀此則爲王者師矣、後十年興、十三年孺子見我、濟北穀城山下黃石、卽我矣、遂去、無他言、不復見、

【講義】後五日、張良は夜未だ半ならずして往く、暫時にして老人も來る、乃ち喜び曰く、是の如くなるべしと、懷より一編の書を出して曰く、此を讀まば、王

力士、爲鐵椎、重百二十斤、秦皇帝東游、良與客狙擊秦皇帝博浪沙中、誤中副車、秦皇帝大怒、大索天下、求賊甚急、爲張良故也、

【講義】張良は嘗て禮を淮陽に學び、遂に東遊して倉海君に遭ふ、力士一人を得たり、其の力士は能く鐵槌の重量百二十斤のものを揮ふ、秦の皇帝の東遊するに當り、張良は此の鐵槌の客と共に、秦の皇帝を博浪沙中に狙撃す、然れども、誤りて副車に中つ、秦の皇帝は大に怒り、大に天下に索め、賊を求むること甚だ急なり、蓋し張良が爲めの故なり、

【字解】淮陽、今の河南陳州に屬す、倉海、滄海なり、倉海君は東夷の長なり、椎、槌なり、百二十斤、凡そ二千兩の重量なり、博浪沙、今の河南陽武縣の南に在り、

良乃更名姓、亡匿下邳、良嘗閒從容、步游下邳圯上、有一老父、衣褐至良所、直墮其履圯下、顧謂良曰、孺子下取履、良愕然、欲毆之、爲其老彊忍、下取履、

【講義】張良は乃ち名姓を改め、亡げて下邳に匿れ、閒暇に乘じ、從容として、下邳の土橋の邊に步し遊ぶ、忽ち一老人有り、賤しき衣を着て、張良の所に來り、直に其の穿きたる履を土橋の下に落し、顧みて張良に謂ひ曰く、孺子よ、下りて履を拾ひ取れと、張良愕然たり、之を撲たんと欲す、然れども其の老人なるに由り、強ひて忍び、橋下に至りて履を取る、

【字解】更、更なり、下邳、今の江蘇徐州府邳州なり、從容、心靜なる貌なり、褐、賤者の衣なり、圯、土橋なり、孺子、年少者を呼ぶ稱なり、毆、撲つなり、彊、強なり、

父曰、履我、良業爲取履、因長跪履之、父以足受、笑而去、良殊大

滅せられたる後に於て、列侯の成功者は、唯獨り曹參のみ生存して其の名を揚げたり、曹參は漢の相國と爲り、淸靜無爲の政を行ひ、其の言ふ所は極めて道に合ふ、然れども、其の治平を得たるは、要するに當時の人民が、秦の苛酷なる法制に苦しみたる後にして、曹參は此の休息を希望する人民と共に、淸靜無爲の政事に休息したるのみ、故に、天下皆曹參が政道の美を稱するに至れり、

【字解】離、罹るなり、就き苦しむをいふ、

畱侯世家第二十五

畱侯張良者、其先韓人也、大父開地、相韓昭侯、宣惠王、襄哀王、父平相釐王、悼惠王、悼惠王二十三年、平卒、卒二十歲、秦滅韓、

【講義】畱侯張良は、其の祖先を韓人とす、蓋し張良の祖父を開地と曰ふ、開地は韓の昭侯、宣惠王、襄哀王に事へて、宰相たり、張良の父を平と曰ふ、平は韓の釐王、悼惠王に事へて、宰相たり、悼惠王の二十三年に、平卒す、其後二十年にして、秦は韓を滅したり、

【字解】畱、今の江蘇徐州府沛縣の東南に在り、畱に同じ、大父、祖父なり、

良年少、未宦事韓、韓破、良家僮三百人、弟死不葬、悉以家財求客刺秦王、爲韓報仇、以大父父五世相韓故、

【講義】張良は年少し、未だ韓に仕官せず、韓の破れたる時に張良は猶家僮三百人を有す、然れども、其の弟の死したるをも葬らず、悉く家財を舉げて、客を求め、其の客の手を借りて、秦王を刺さんと欲し、韓の爲めに仇を復せんと欲す、蓋し其の祖及び父が、韓の五代の君に宰相たりしを以ての故なり、

良嘗學禮淮陽、東見倉海君、得

孝文帝立、免爲侯、立二十九年卒、謚爲靜侯、子奇代侯、立七年卒、謚爲簡侯、子時代侯、時尙平陽公主、生子襄、時病癘歸國、立二十三年卒、謚夷侯、子襄代侯、襄尙衞長公主、生子宗、立十六年卒、謚爲共侯、子宗代侯、征和二年中、宗坐太子死、國除、

【講義】平陽侯曹窋は、呂太后の時に御史大夫たり、孝文帝立ちて曹窋は官を免じ、單に侯として立つ、二十九年に卒す、謚して靜侯と曰ふ、子奇は代り立つ、七年に卒す、謚して簡侯と曰ふ、子時は代りて侯たり、曹時は平陽公主を妻とし、子襄を生む、既にして癘を病み、河東の平陽に歸る、其の立つ二十三年に卒す、夷侯と謚す、子襄は代り侯たり、子襄は衞長公主を妻とす、子宗を生む、其の立つ、十六年に卒す、謚して共侯と曰ふ、子宗代りて侯たり、孝武帝の征和二年中、曹宗は太子據の死罪に連累し、侯を廢せられ、家亡ぶ、

【字解】尙、天子の女を迎へて妻とすること、癘、レイと讀む、癩なり、太子死、孝武帝の太子據が謀反の事なり、

太史公曰、曹相國參、攻城野戰之功、所以能多若此者、以與淮陰侯俱、及信已滅、而列侯成功、唯獨參擅其名、參爲漢相國、淸靜極言合道、然百姓離秦之酷、後參與休息無爲、故天下俱稱其美矣、

【講義】太史公曰く、曹相國參が攻城野戰の功に於て、能く此の如く多きを致したる所以は、何ぞや、蓋し淮陰侯と俱にしたるを以てなり、淮陰侯韓信の誅

觀臣能孰與蕭何賢、上曰、君似不及也、參曰、陛下言之是也、且高帝與蕭何定天下、法令既明、今陛下垂拱、參等守職、遵而勿失、不亦可乎、惠帝曰、善、君休矣、

【講義】相國が參朝の時に、孝惠帝は曹參を責めて曰く、窋に就きて、何事を處分したるか、此の頃の言は、余が窋に命じ、君を諫めしめたるのみと、曹參は乃ち冠を免ぎ謝して曰く、吾君は自から聖武を察するに、高帝と何れか勝る、孝惠帝曰く、余は何ぞ敢て先帝に比するに足らんや、曹參曰く、吾君は臣を觀るに、蕭何と何れか勝る、孝惠帝曰く、君は及ばざるに似たり、曹參曰く、吾君の言は至當なり、顧ふに高帝は蕭何と天下を定む、法令は既に明なり、故に、今に於て吾君は安坐して位を守り、參等も亦安坐して職を守り、從來の法令に遵據して、失はざるを期す、亦可ならずや、孝惠帝曰く、善し、君休息せよ、

【字解】朝、朝觀の禮をいふ、胡、何なり、治、處置すること、安、何なり、且、顧なり、垂拱、衣を垂れ手を拱き安坐すること、

參爲漢相國、出入三年卒、諡懿侯、子窋代侯、百姓歌之曰、蕭何爲法、顜若畫一、曹參代之、守而勿失、載其淸淨、民以寧一、

【講義】曹參は漢の相國と爲り、出入する三年にして卒す、懿侯と諡す、子窋代り侯たり、人民は之を歌ひ曰く、蕭何が法制を爲りたること明白にして、一の字を引きたる如く、民心に理解せしめたり、曹參は蕭何に代り、從來の法制を守りて、失ふこと無し、其の淸淨無爲なる政事を行ひ、人民は安寧に和合したり、

【字解】顜、明白なること、法令の意味が能く民に通曉するをいふ、載、施行すること、

平陽侯窋、高后時爲御史大夫、

を園中に取り、此に坐を張りて飲み、自身も歌呼し、醉吏と相和して樂みたり、曹參は平生吏僚の細き過失有るものを觀れば、專ら之を掩ひ匿せり、故に、府中無事なり、

【字解】 按、取調べ問ひ責むるなり、覆蓋、フガイと讀む、掩ひ匿すに似たり、

參子窋爲中大夫、惠帝怪相國不治事、以爲豈少朕與、乃謂窋曰、若歸試私從容問而父曰、高帝新棄群臣、帝富於春秋、君爲相、日飲無所請事、何以憂天下乎、然無言吾告若也、窋既洗沐、歸、間侍、自從其所諫參、參怒而笞窋二百、曰趣入侍、天下事、非若所當言也、

【講義】 曹參の子窋は中大夫たり、宮中に近侍す、孝惠帝は相國曹參が政事を視ざるを怪み、自ら謂ふ、是れ余が少年なるを以て勉强せざるかと、乃ち窋に謂ひ曰く、汝歸らば試に私に打ち解けて汝の父に問へ、高祖は新に崩御し、皇帝は年少し、然るに、君は相國と爲りて、日に酒を飲み事を請ふ所無し、何を以て天下を憂へんやと、然れども、此の問は余が汝に告げしと言ふ勿れと、是に於て、窋は洗沐の休暇を以て家に歸り、靜に父に侍す、因て皇帝の命に從ひ、曹參を諫む、參は之を怒り、窋を笞つ二百に及ぶ、曰く疾く宮に入り侍せよ、天下の事は、汝の言ふべき所に非ず、

【字解】 怪、怪むなり、若、汝なり、從容、心靜に打ち寛ぎたる貌なり、棄群臣、君の死すること、富於春秋、年少し、洗沐、官吏の休暇を賜ひ家に歸ること、

至朝時、惠帝讓參曰、與窋胡治乎、乃者我使諫君也、參免冠謝曰、陛下自察聖武、孰與高帝、上曰、朕乃安敢望先帝乎、曰、陛下

刻深、欲務聲名者、輒斥去之、日夜飮醇酒、卿大夫已下吏及賓客、見參不事事、來者皆欲有言、至者參輒飮以醇酒、間之、欲有所言、復飮之、醉而後去、終莫得開說、以爲常、

【講義】曹參は、既に清淨無爲を以て治を爲す、故に、郡國の吏中より文辭に飾無き、德行有るものを擇び、之を召し用ひて、丞相の秘書官と爲す、而して吏の法を言ふこと嚴密を力め、以て自分の聲名を揚げんと圖るものは、皆之を斥け去る、斯くして曹參は日夜醇酒を飮み、政事を視ず、卿大夫以下諸官吏及び賓客が、之を憂慮して、曹參の前に來り、言ふ所有らんと欲すれば、曹參は何時にても、之に飮ましむるに、醇酒を以てす、暫時を經て、復た言はんとすれば、復た飮ましむ、是に於て、其の來りて言はんと欲したるものも、醉ひて去る、終に其の說を開く能はず、是を常例としたり、

【字解】木詘、辯拙く飾無きこと、文辭、法律及び辯舌を指す、長者、德厚き人なり、除、用ふること、刻深、嚴酷なり、輒、スナハチと訓ず、何時にても といふ意なり、至者、至則なり、間之、暫時なり、

相舍後園、近吏舍、吏舍日飮歌呼、從吏惡之、無如之何、乃請參游園中、聞吏醉歌呼、從吏幸相國召按之、乃反取酒、張坐飮、亦歌呼與相應和、參見人之有細過、專掩匿覆蓋之、府中無事、

【講義】相國の官邸に後園有り、吏の舍に近し、吏の舍に日に酒を飮み、歌呼するもの有り、相國の從吏は、之を惡むも制止する能はず、因て曹參に請ひ、園中に遊ばしむ、從吏は相國が吏の醉歌を聞きて、之を召出し驗問せんことを期待す、然るに、曹參は却て酒

治無大於此者乎、參曰、不然、夫獄市者、所以并容也、今君擾之、姦人安所容也、吾是以先之、

【講義】 孝惠帝の二年に、蕭何卒す、曹參は之を聞き、其の邸の執事役に告げて、出立の旅裝を急ぎ、準備せしめ曰く、余は漢廷に入り、宰相と爲らんとすと、其の後、久しからず、果して使者の來り召すに遭ふ、曹參乃ち齊を去る、其の去るに臨み、後任の齊相に囑して曰く、齊の牢獄の事を以て寄托す、必らず愼むべし、之を擾す勿れと、後任の齊相曰く、治道は牢獄を愼むことより大なるもの無きかと、曹參曰く、然らず、他に大なるもの有り、然れども、牢獄は姦邪の大小を兼ね容るゝ所なり、故に、君が之を擾すに於ては、姦人は身を容るゝ所無く、亂階を激成するに至らん、吾は是を以て、先づ牢獄を愼むことを言ふなりと、

【字解】 舍人、貴人の邸に於ける執事役なり、趣、急なり、治、支度を整ふること、行、旅裝なり、居無何、居ることは其の後といふが如し、イクバクモナクは久しからずなり、獄市、訴訟事件なり、擾、嚴密に過ぎて獄事を攪亂すること、

參始微時、與蕭何善、及爲將相、有郤、至何且死、所推賢唯參、參代何爲漢相國、擧事無所變更、一遵蕭何約束、

【講義】 曹參は微賤なる時に於て、蕭何と親交有り、將相と爲るに及びて仲惡し、然れども、蕭何が死に臨みて推擧したるは、曹參のみ、故に、曹參は蕭何に代りて漢廷の相國と爲る、其の事を擧ぐるや變更する所無し、一に蕭何の規制に遵據したり、

【字解】 郤、隙なり、交絶ゆるなり、且、將なり、變、更なり、

擇郡國吏、木詘於文辭、重厚長者、卽召除爲丞相史、吏之言文

參之相齊、齊七十城、天下初定、悼惠王富於春秋、參盡召長老諸生、問所以安集百姓如齊故俗、諸儒以百數、言人人殊、參未知所定、

【講義】曹參が齊に丞相たるに當り、齊は七十城有り、天下始めて定り、悼惠王は年少し、曹參は乃ち盡く長老諸生を召して、之に問ふに、人民を安集し、齊の舊俗に從ふ所以を以てす、諸儒は百餘に及ぶ多數なるも、人人の言ふ所相異なり、曹參は未だ決定する所を知らず、

【字解】富於春秋、年少なり、如、從ふなり、

聞膠西有蓋公善治黃老言、使人厚幣請之、既見蓋公、蓋公爲言、治道貴清靜而民自定、推此類具言之、參於是避正堂、舍蓋公焉、其治要用黃老術、故相齊九年、齊國安集、大稱賢相、

【講義】忽ち聞く、膠西に蓋公と曰ふもの有り、善く黃帝老子の言を知ると、曹參は乃ち人　幣禮を厚くして、之を招請せしむ、既に　て蓋公に面會す、蓋公は曹參の爲めに言ふ、治道は清靜を貴ぶ、斯くすれば、民は自から安定すと、此の類を推して、詳細に之を言ふ、是に於て、曹參自身正堂を避けて、此に蓋公を舍く、其の政治の要は、黃帝老子の術を用ふ、故に、曹參は齊に相公たること九年にして、齊國は安集し、大に賢相と稱せられたり、

惠帝二年、蕭何卒、參聞之、告舍人趣治行、吾將入相、居無何、使者果召參、參去、屬其後相曰、以齊獄市爲寄、愼勿擾也、後相曰、

平陽萬六百三十戶、號曰平陽侯、除前所食邑、

【講義】高祖は其の長子劉肥を以て齊王と爲す、因て曹參を齊の相國と爲す、高祖の六年に、曹參は爵列侯を授けられ、他の諸侯と均しく符を剖きて與へられ、世世其の家の絶ゆること無き身分と爲れり、其の領邑は河東の平陽縣に一萬六百三十戶を賜ひ、平陽侯と號す、而して曩に賜りたる領邑を除き去る、

【字解】平陽、今の山西平陽府臨汾縣の西南に在り、

以齊相國、擊陳豨將張春軍、破之、黥布反、參以齊相國、從悼惠王、將兵車騎十二萬人、與高祖、會、擊黥布軍、大破之、南至蘄、還定竹邑、相、蕭、留、

【講義】曹參は齊の相國として出征し、陳豨の將張春が軍を擊破す、既にして黥布の叛亂有り、曹參は復た齊の相國として、悼惠王に從ひ、車兵騎兵十二萬人に將とし、高祖と會して、黥布の軍を擊ち、大に之を破り、南進して沛郡の蘄縣に至り、還りて其の附近なる竹邑、相、蕭、留の四縣を平定す、

參功、凡下二國縣一百二十二、得王二人、相三人、將軍六人、大莫敖、郡守、司馬、侯、御史各一人、孝惠帝元年、除諸侯相國法、更以參爲齊丞相、

【講義】曹參の功は、大畧魏の五十二縣、齊の七十縣、之を合計して、二國の縣一百二十二を降し得たるに在り、且つ王二人、相三人、將軍六人、大莫敖、郡守、司馬、侯、御史各一人を得たるに在り、孝惠帝の元年に、諸侯に相國を置く制度を罷む、故に改めて、曹參を齊の丞相と爲す、

【字解】大莫敖、楚國の官名なり、卿の位に在り、更、更なり、

漯陰、平原、鬲、盧、已而從韓信、擊龍且軍於上假密、大破之、斬龍且、虜其將軍周蘭、定齊、凡得七十餘縣、得故齊王田廣、相田光、其守相許章及故齊膠東將軍田既、

【講義】 既にして、韓信は趙を破り相國と爲り、東進して齊を擊つ、曹參は右丞相として韓信に屬し、齊を攻めて、其の歷城の下に於ける軍を破り、遂に齊王の首都なる臨菑を取り、還りて濟北郡を平定し、其の附近なる著、漯陰、平原、鬲、盧の五縣を攻む、復た韓信に從ひ、楚の龍且が軍を上假密に擊ちて、大に之を破り、龍且を斬り、其の將軍周蘭を虜にし、齊を平定し、凡て七十餘縣を得たり、且つ故の齊王田廣、齊相田光及び齊の守相許章を獲たり、故の齊の膠東の將軍田既は戰死せり、

【字解】 歷下、山東濟南の歷城の下をいふ、上假密、今の山東萊州府に屬す、

韓信爲齊王、引兵詣陳、與漢王共破項羽、而參留平齊未服者、項籍已死、天下定、漢王爲皇帝、韓信徙爲楚王、齊爲郡、參歸漢相印、

【講義】 韓信は齊王と爲り、兵を引きて陳に至り、漢王と共に項羽を破る、此の時に、曹參は齊に滯留し、齊の未だ服せざるものを平定す、項羽は既に死し、天下始めて定る、漢王は皇帝と爲り、韓信は徙りて楚王と爲る、是に於て、齊は漢の郡と爲る、曹參は漢の丞相たる印を返上す、

高帝以長子肥、爲齊王、而以參爲齊相國、以高祖六年、賜爵列侯、與諸侯剖符、世世勿絕、食邑

王母妻子、盡定魏地、凡五十二城、賜食邑平陽、

【講義】高祖の三年に、曹參は假の左丞相と爲り、關中に入り兵を屯すること月餘に及び、魏王豹は漢に背く、曹參乃ち假の左丞相として出征し、別に韓信と共に東進し、魏の將軍孫遬が軍を東張に攻めて、大に之を破る、因て安邑を攻め、魏の將王襄を捕へ、魏王を曲陽に撃つ、遂に魏軍を追ひ、武垣に至り、魏王を虜にし、平陽を取る、且つ魏王の母妻及び子を捕へ、盡く魏の地を平定す、凡そ五十二城を收め得たり、漢王は乃ち曹參に平陽の地を授く、

【字解】東張、今の山西蒲州虞郷縣の西北に在り、安邑、曲陽、平陽、武垣、皆魏の要地なり、魏豹彭越の列傳を參看すべし、

因從韓信、擊趙相國夏説軍於鄔東、大破之、斬夏説、韓信與故常山王張耳、引兵下井陘、擊成安君、而令參還圍趙別將戚將軍於鄔城中、戚將軍出走、追斬之、乃引兵詣敖倉漢王之所、

【講義】曹參は乃ち韓信に從ひ、趙の相國夏説が軍を鄔縣の東に撃ち、大に之を破り、夏説を斬る、是に於て、韓信は故の常山王張耳と共に、兵を引き井陘の險路を下りて、成安君陳餘を撃つ、而して韓信は曹參をして兵を旋し、趙の別將戚將軍を鄔城に圍ましむ、戚將軍出で走る、曹參は追ひて之を斬り、遂に兵を引きて敖倉に至り、漢王の陣所に參す、

【字解】鄔、今の山西汾州府介休縣の東北に在り、井陘、張耳、陳餘の列傳に詳なり、敖倉、河南の成皐に在り米倉を設けたる要地なり、

韓信已破趙、爲相國、東擊齊、參以右丞相屬韓信、攻破齊歷下軍、遂取臨菑、還定濟北郡、攻著、

陝西漢中府沔縣の東に在り、廢丘、槐里縣なり、今の陝西西安府興平縣の東南に在り、臨晉關、今の山西蒲州臨晉縣に在り、脩武、今の河南懷慶府修武縣の東南に在り、圍津、謂はゆる白馬津なり、今の河南滑縣の東に在り、定陶、碭、蕭、彭城、項羽本紀を參看すべし、

參以中尉圍取雍丘、王武反於黃、程處反於燕、往擊盡破之、柱天侯反於衍氏、又進破取衍氏、擊羽嬰於昆陽、追至葉、還攻武彊、因至滎陽、參自漢中爲將軍中尉、從擊諸侯及項羽、敗還至滎陽、凡二歲、

【講義】曹參は中尉として、漢兵を率ゐ河南の雍丘を圍み攻めて、之を取る、是の時に當り、漢は振はず、故に、漢の兩將王武程處は、竝に河南に於て漢に叛し、王武は黃縣に據り、程處は燕縣に據る、曹參は乃ち往き擊ちて、盡く之を破る、既にして柱天侯は魏の衍氏縣に據りて、漢に背反す、曹參は進み破りて、衍氏縣を取る、遂に羽嬰を昆陽に擊ち、之を追ひ葉縣に至り、還りて武彊を攻め、因て滎陽に至る、蓋し曹參は漢中より將軍と爲り、中尉と爲り、漢王に從ひて、諸侯及び項羽を擊ち、敗れ還り、滎陽に至るまで、凡そ二年に彌れり、

【字解】雍丘、今の河南開封府杞縣なり、黃、燕、兩縣は雍丘に近し、衍氏、昆陽、葉、武彊、皆今の河南の南陽開封兩府に亙る要地なり、滎陽に近し、

高祖三年、拜爲假左丞相、入屯兵關中、月餘魏王豹反、以假左丞相、別與韓信、東攻魏將軍孫遬軍東張、大破之、因攻安邑、得魏將王襄、擊魏王於曲陽、追至武垣、生得魏王豹、取平陽、得魏

賁內史保軍、破之、東取咸陽、更命曰新城、

【講義】此の三秦を擊つに當り、曹參は最初に下辯道の故道、雍、斄、三縣を攻め、章平が軍を好畤の南に擊破し、好畤を圍み壤鄕を取る、遂に雍、塞、翟の聯合軍を壤鄕の東方及び高櫟鄕に擊破し、復た章平を圍む、章平は好畤を出で走る、曹參は乃ち趙賁の內史保が軍を擊ち、之を破り、東進して、咸陽を取り、其の名を改めて新城と曰ふ、

【字解】下辯、漢中より咸陽に至る路筋の名なり、故道、縣名なり、今の陝西漢中府鳳縣の西北に在り、雍、斄、兩縣も、故道縣に接續す、斄、タイと續む、好畤、縣名なり、今の陝西乾州の東北に在り、壤、高櫟、共に好畤縣中の鄕名なり、櫟、レキと讀む、咸陽、漢の高祖は之を新城と稱し、武帝は之を渭城と稱す、

參將兵守景陵二十日、三秦使章平等攻參、參出擊大破之、賜食邑於寧秦、參以將軍引兵圍章邯於廢丘、以中尉從漢王、出臨晉關、至河內、下脩武、渡圍津、東擊龍且、項他定陶、破之、東取碭、蕭、彭城、擊項籍軍、漢軍大敗走、

【講義】曹參は兵に將とし、景陵を守る、二十日に及ぶ、雍、塞、翟の三秦は、章平等をして曹參を攻めしむ、曹參は出で擊ち、大に之を破る、漢王は其の功を賞し、曹參に寧秦の地を賜ふ、曹參は乃ち將軍として兵を引き、章邯を廢丘に圍む、遂に中尉として漢王に從ひ、臨晉關より出でて、河內に至り、脩武を取り、白馬津を渡り、東進して、楚の龍且、項他を定陶に擊破し、尚東征して、碭縣、蕭縣及び項王の首都彭城を取る、因て項王の軍を擊つ、漢軍は大に敗走す、

【字解】景陵、新城の近縣なり、寧秦、縣名なり、今の

田南、又夜擊其北、秦軍大破、遂至咸陽、滅秦、

【講義】曹參は沛公に從ひ、河南の陽武縣を攻め、轘轅道の緱氏縣を取り、孟津の渡口を絕ち、兵を旋して秦將趙賁の軍を尸鄕の北に擊破し、沛公に從ひ南進し、南陽の犨縣を攻め、南陽の太守齮と陽城の東に戰ひ、其の陣營を打ち破り、宛城を取り、遂に太守齮を虜にし、悉く南陽郡を平定し、沛公に從ひ西進し、秦の武關嶢關を攻め、之を取り、尙進みて秦軍を藍田の南に攻め、夜に乘じ藍田の北を擊ち、大に秦軍を破り、遂に咸陽に至り、秦を滅するを得たり、

【字解】陽武、今の河南懷慶府陽武縣なり、轘轅、關塞の道なり、緱氏縣の南に在り、緱氏、今の河南の偃師縣なり、河津、今の河南の孟津縣に於ける渡口なり、下、取るなり、尸、鄕名なり、緱氏縣に屬す、犨、南陽郡に屬す、今の河南汝州魯山縣の東南に在り、陽城、南陽郡の縣名なり、今の河南汝寧府に屬す、陳、陣なり、陣營をいふ、宛、陽城の隣縣とす、今の河南の南陽縣なり、武關、嶢關、共に秦の南關なり、嶢關は武關より西北に在り、藍田關と稱するもの是なり、武關は今の陝西商州に屬し、嶢關は今の藍田縣なり、

項羽至、以沛公爲漢王、漢王封參爲建成侯、從至漢中、遷爲將軍、從還定三秦、

【講義】既にして、項羽は咸陽に至る、沛公を以て漢王と爲す、漢王は曹參を封じて建成侯とす、曹參は漢王に從ひ、漢中に至る、乃ち遷りて將軍と爲り、漢王に從ひ兵を旋して、雍、塞、翟の三秦を平定す、

【字解】建成、漢の沛郡に於ける縣なり、今の河南歸德府永城縣に屬す、漢中、今の陝西漢中府南鄭縣なり、

初攻下辯故道雍斄、擊章平軍於好時南、破之、圍好時、取壤鄕、擊三秦軍壤東及高櫟、破之、復圍章平、章平出好時走、因擊趙

屬碭郡、

【講義】秦の將軍章邯が楚軍を破り項梁を殺すに及び、沛公は項羽と共に、兵を引きて東に還る、楚の懷王は沛公を以て、碭郡の長と爲し、碭郡の兵に將たらしむ、是に於て、沛公は曹參を執帛の位に置き、建成君と號し、之を遷して、戚縣の令と爲し、碭郡に從屬せしむ、

【字解】碭、前段に解せり、執、帛、楚の爵位なり、戚、公、爰戚縣の令なり、爰戚は、前章に在り、

其後、從攻東郡尉軍、破之成武南、擊王離軍成陽南、復攻之杠里、大破之、追北西至開封、擊趙賁軍、破之、圍趙賁開封城中、西擊秦將楊熊軍於曲遇、破之、虜秦司馬及御史各一人、遷爲執珪、

【講義】其の後、曹參は沛公に從ひ、秦の東郡の尉を攻め、其の軍を成武縣の南に破り、秦の王離が軍を成陽縣の南に擊ち、復た之を河南の杠里に攻め、大に之を破り、其の敗走を追擊して西進し、遂に開封に至り、秦の將趙賁が軍を擊破し、趙賁を開封城に攻圍し、尙進みて西征し、秦將楊熊が軍を曲遇縣に擊ち、之を破り、秦の司馬及び御史各一人を虜にす、功を以て執珪の位に遷る、

【字解】成武、今の山東曹州府城武縣なり、成陽、成武に近し、濮州に在り、曲遇、クグと讀む、今の河南開封府の中牟縣に屬す、執珪、執帛の上位に在る爵なり、

從攻陽武、下轘轅緱氏、絕河津、還擊趙賁軍尸北、破之、從南攻犨、與南陽守齮戰陽城郭東、陷陳、取宛、虜齮、盡定南陽郡、從西攻武關嶢關、取之、前攻秦軍藍

擊秦司馬尼軍碭東、破之、取碭、狐父、祁善置、又攻下邑、以西至虞、擊章邯車騎、攻爰戚及亢父、先登、遷爲五大夫、

【講義】曹參は兵を進めて、秦の司馬尼が軍を碭の東に擊ち之を破り、碭、狐父の兩縣を取り、更に祁縣の善置を取る、遂に下邑城を攻め、西に進みて、虞縣に至る、因て秦の章邯が車騎を擊ち、爰戚、亢父の兩縣を攻む、先登の功有り、爵は五大夫に進む、

【字解】尼、イと讀む、碭、今の江蘇徐州府碭山縣に屬す、狐父、祁、兩縣共に碭に接近す、祁はチと讀む、置、驛といふ意なり、下邑、秦の縣名なり、碭の東に在り、虞、今の河南歸德府虞城縣に屬す、爰戚、今の山東濟寧州嘉祥縣の西南に在り、亢父、爰戚に接近す、

北救東阿、擊章邯軍、陷陳、追至濮陽、攻定陶、取臨濟、南救雍丘、擊李由軍、破之、殺李由、虜秦侯一人、

【講義】曹參は更に北に進みて、齊の東阿を救ひ、章邯の軍を擊ち、其の陣營を奪ひ、秦兵を追ひて濮陽に至り、定陶を攻め臨濟を取り、南に進みて河南の雍丘を救ひ、秦の李由が軍を擊破して、李由を殺し、秦の侯一人を虜にす、

【字解】陳、陣なり、陣營をいふ、東阿、今の山東泰安府東阿縣なり、濮陽、今の山東曹州府濮州の東に在り、定陶、濮陽に接近す、臨濟、今の山東青州府高苑縣の西北に在り、雍丘、今の河南開封府に屬す、侯、候に作るべし、

秦將章邯破殺項梁也、沛公與項羽引而東、楚懷王以沛公爲碭郡長、將碭郡兵、於是、乃封參爲執帛、號曰建成君、遷爲戚公、

なる貌をいふ、管籥、鍵なり、政府の樞要をいふ、關中に於ける財政の取締を指す、閎夭、散宜生、周の兩功臣なり、周の本紀に詳なり、

曹相國世家第二十四

平陽侯曹參者、沛人也、秦時爲沛獄掾、而蕭何爲主吏、居縣爲豪吏矣、

【講義】平陽侯曹參は、沛郡の人なり、秦の時に沛の獄掾たり、而して蕭何は沛の主吏たり、其の沛に居るに當りては、蕭何と共に豪吏たり、

【字解】平陽、今山西平陽府に屬す、沛獄掾、主吏、縣、皆蕭相國の世家に詳解せり、

高祖爲沛公而初起也、參以中涓從將擊胡陵、方與、攻秦監公軍、大破之、東下薛、擊泗水守軍薛郭西、復攻胡陵、取之、徙守方與、方與反爲魏、擊之、豐反、爲魏、攻之、賜爵七大夫、

【講義】漢の高祖が、沛公と爲りて起るに當り、曹參は侍從職として高祖に從ひ、遂に兵に將として、齊の胡陵及び方與を擊ち、秦の泗川の郡監が軍を攻めて、大に之を破り、東進して薛城を取り、泗川の太守の軍を薛城の西方に擊ち、復た胡陵を攻めて之を取り、乃ち徙りて方與を守る、方與は楚に背きて魏に屬す、曹參は乃ち方與を擊つ、此の時に豐も亦楚背きて魏に屬す、曹參乃ち豐を攻む、是に於て、參に爵七大夫を授けらる、

【字解】中涓、侍從職の如きもの、胡陵、方與、齊の兩縣の名なり、兩縣共に今の山東兗州府に屬す、監公、秦の泗川郡の監察官なり、其人名は平と曰ふ、故に公と曰ふは尊稱のみ、下、取るなり、薛、齊の要地なり、胡陵に近し、田敬仲完の世家に詳なり、

何置田宅、必居窮處、爲家不治垣屋、曰、後世賢、師吾儉、不賢毋爲勢家所奪、孝惠二年、相國何卒、謚爲文終侯、後嗣以罪失侯者、四世絕、天子輒復求何後、封續酇侯、臣莫得比焉、

【講義】蕭何は田宅を置くに、必らず窮陋の地を用ふ、其の家を整ふるに、垣も家根も裝飾せず、曰く、我の子孫にして賢ならば、我の儉素を師範とせん、若し愚なる子孫出づるも、此の家を權勢の人に奪はるゝ無からんと、孝惠帝の二年に、相國蕭何卒す、謚して文終侯と曰ふ、其の後嗣は罪を以て侯を失ふもの有り、四代にして斷絕す、天子は復た其の子孫を求め、之を封じて酇侯を續がしむ、他の臣は比するを得るもの無し、

太史公曰、蕭相國何、於秦時爲刀筆吏、錄錄未有奇節、及漢興、依日月之末光、何謹守管籥、因民之疾、奉法順流、與之更始、淮陰黥布等、皆以誅滅、而何之勳爛焉、位冠羣臣、聲施後世、與閎夭散宜生等、爭烈矣、

【講義】太史公曰く、漢の相國蕭何は、秦の時に於て、僅に刀筆の小吏たり、碌碌として凡庸の中に在り、未だ奇異の節行有らず、漢の興るに及び、蕭何は日月の如き、帝德の餘光に由り、謹みて財政を整へ、民庶の患苦したるに就き、之を撫育し、國法を奉じ、時勢に順ひ、民庶と共に更始維新の政事に從ふ、彼の淮陰黥布等の如き功臣は、皆相踵ぎて誅滅せらる、斯くして蕭何の勳功は、爛然光彩を揚げたり、其の位は群臣に冠絕し、其の名は後世に施き聞ゆ、周の閎夭、散宜生等に比して、遜色無し、

【字解】刀筆吏、書記の吏なり、錄錄、碌碌なり、凡庸

分に引き受けたるは、何ぞ學ぶに足らんや、吾君は何ぞ其れ相國を疑ふことの淺慮なるやと、高祖は之を聽きて悅ばず、

【字解】距、防ぐなり、利、貪るなり、懌、悅ぶなり、

是日、使使持節、赦出相國、相國年老、素恭謹、入徒跣謝、高帝曰、相國休矣、相國爲民請苑、吾不許、我不過爲桀紂主、而相國爲賢相、吾故繫相國、欲令百姓聞吾過也、

【講義】高祖は王衞尉の言を悅ばざるも、其の理有るを以て、是の日、直に使を遣り、節旄を持し、赦令を傳へて、相國を出さしむ、相國は年老いたり、恭謹なり、乃ち宮に入り、履を脫ぎ、徒跣にて謝禮す、高祖曰く、相國休息せよ、相國は民の爲めに苑を請ふ、我は之を許さず、斯くすれば、我は桀紂の如き暴王と爲るに過ぎず、而して相國は賢相の名を得ん、是の故に、我は相國を械繫し、人民をして吾の過失を聞かしめんと欲せしのみ、

何素不與曹參相能、及何病、孝惠自臨視相國病、因問曰、君卽百歲後、誰可代君者、對曰、知臣莫如主、孝惠曰、曹參何如、何頓首曰、帝得之矣、臣死不恨矣、

【講義】蕭何は本來曹參と親善ならず、蕭何が病に臥したる時に、孝惠帝は親臨して、其の病を慰問し、且つ曰く、君が死去の後に於て、誰か代りて相國と爲るべきものぞと、蕭何曰く、臣を知るは君に如くもの無し、孝惠帝曰く、曹參は如何、蕭何は頓首して曰く、吾君は其の適當なる相國を得たり、臣は死すとも恨み無し、

【字解】能、善の意義に用ふ、卽、若しもなり、何如、如何の强き意とす、

ち問ひ曰く、相國は何の大罪有りて、吾君が之を繫ぐこと急劇なるかと、高祖曰く、余は嘗て聞く、李斯が秦の皇帝に宰相たるときに、善有れば之を君主に歸せしめ、惡有れば之を自分に歸せしめたりと、宰相は斯く有るべきものなり、然るに、今や相國は多く賈人の金を受けて、人民の爲めに吾苑を請ひ、以て自から民に媚びんとす、故に、之を繫ぎ處分を期す、

【字解】廷尉、裁判の最上官なり、前、進むより、賈豎、コジュと讀む、商人といふ意を鄙しみたる稱なり、

王衞尉曰、夫職事、苟有便於民而請之、眞宰相事、陛下奈何、乃疑相國受賈人錢乎、且陛下距楚數歲、陳豨黥布反、陛下自將而往、當是時、相國守關中、搖足則關以西、非陛下有也、相國不以此時爲利、今乃利賈人之金乎、且秦以不聞其過亡天下、李斯之分過、又何足法哉、陛下何疑宰相之淺也、高帝不懌、

【講義】王衞尉曰く、夫れ相國の職として事を行ふに、苟も民に便利なるもの有れば、之を請ふ、是れ當然の事なり、吾が君は何ぞ相國が賈人の金錢を受けたるを疑はん、且つ夫れ、相國が利益を貪らざることは、既往の行爲に照して明なり、吾君が楚を距ぐ數年に彌り、之に續きて陳豨、黥布の叛亂有り、吾が君は親ら將として出征す、是の時に當り、相國は關中を守り、獨り政事を行へり、若しも一たび其の足を搖かせば、函谷關以西の地は、皆相國に歸せん、復た吾君の領に非ず、然るに、相國が此の好時機に於て、利益を圖らず、今に及びて、賈人の金錢を受くとは、理に於て信ずるを得ず、故に、賈人の關係は論ずるに足らず、且つ秦の皇帝は、自分の惡を聞かざるに由り、天下を失ふに至れり、李斯が其の君の過失を分ちて、自

至、相國謁、上笑曰、夫相國乃利民、民所上書、皆以與相國曰、君自謝民、相國因爲民請曰、長安地狹、上林中多空地棄、願令民得入田、毋收稾、爲禽獸食、

【講義】高祖が黥布を誅滅し、其の軍を罷めて歸るに及び、人民は其道を遮り、上書して曰く、相國蕭何は、卑劣なる行爲を爲し、無理に人民の田宅を買ひ取ること、萬金に近しと、既にして高祖還御す、相國謁見す、高祖笑ひ曰く、相國は民に由りて自から利益を取るかと、乃ち人民の奏上したる書類を取り、皆之を相國に與へて曰く、君自から民に謝せよと、是に於て、相國は人民の爲めに請ひて曰く、長安は地狹し、然るに、天子の御苑の中には、空地の棄たれたるもの多し、願くは人民をして此の空地に入り、耕作することを得しめ、其の稾を持ち去ること無く、之を遺して鳥獸の食と爲さしめん、と

【字解】數千萬、數千金より萬金に達するまでをいふ、蓋し萬金程といふが如し、長安、漢の首都なり、謂はゆる關中の帝京なり、上林、天子の御苑なり、

上大怒曰、相國多受賈人財物、乃爲請吾苑、乃下相國廷尉、械繫之、數日、王衞尉侍、前問曰、相國何大罪、陛下繫之暴也、上曰、吾聞李斯相秦皇帝、有善歸主、有惡自與、今相國多受賈豎金、而爲民請吾苑、以自媚於民、故繫治之、

【講義】高祖は大に怒り曰く、相國は多く賈人の財物を受け、因て人民の爲めに吾苑を請ふ、是れ民に媚びて自から利するなりと、乃ち相國を裁判官の手に下し、之を獄中に械繫す、後數日、王衞尉は近侍す、乃

所有、佐軍、如陳豨時、

【講義】漢の十二年秋、淮南王黥布叛亂す、高祖自から將として、之を擊つ、其の兵馬多忙の間に、屢使を發し、相國何を爲すかを問はしむ、相國は高祖が軍に在る爲めに、人民を撫養し、之を勉强せしめ、關中の民力及ぶ所を擧げて、出征軍を佐く、曩に陳豨の時に於けるが如し、

【字解】拊循、撫で從はしむること、所有、兵卒糧食等の民力に相當する徵發をいふ、

客有說相國曰、君滅族不久矣、夫君位爲相國、功第一、可復加哉、然君初入關中、得百姓心、十餘年矣、皆附君、常復孳孳得民和、上所爲數問君者、畏君傾動關中、今君胡不多買田地、賤貰貸以自汙、上心乃安、於是、相國從其計、上乃大說、

【講義】客有り、相國蕭何に說きて曰く、吁危いかな、君は宗族の誅滅に遭ふこと近し、夫れ君は相國の位に在り、功は第一なり、此の上に出づるもの無し、然れども、君は關中に入り、衆民の心を得たること十餘年なり、衆民は皆君に服從す、君復た孳孳として心を盡し、民の和を得るを勉む、故に、皇上が屢君を問ふは、君が關中を傾動するを畏るゝなり、今や君が爲めに計るに、自身を鄙陋に處するに若かず、多く田地を買ふべし、卑陋なる貸附を行ふべし、斯くして自分を汚し鄙くすべし、皇上必らず安心せんと、是に於て相國蕭何は、此の客の計に從ふ、高祖乃ち大に悅ぶ、

【字解】孳孳、心を盡して勉むること、賤貰貸、卑劣なる貸附の方法にて、利殖を圖ること、貰、シヤと讀む、現金取引に非ずして、延取引を以て金利を取ること、

上罷布軍歸、民道遮行、上書言相國賤彊買民田宅、數千萬、上

諸君皆賀す、召平は獨り之を弔す、

【字解】 相國、丞相の上に在り、

召平者、故秦東陵侯、秦破爲布衣、貧種瓜於長安城東、瓜美、故世俗謂之東陵瓜、從召平以爲名也、

【講義】 召平は、故の秦の東陵侯なり、秦破れて無官の民と爲る、家貧なり、瓜を長安の城東に種う、瓜甚だ美味なり、故に、世俗に美瓜を東陵瓜と曰ふ、是れ召平より以て名と爲すなり、

召平謂相國曰、禍自此始矣、上暴露於外、而君守於中、非被矢石之事、而益君封、置衞者、以今者淮陰侯新反於中、疑君心矣、夫置衞衞君、非以寵君也、願君讓封、勿受、悉以家私財佐軍、則上心說、相國從其計、高帝乃大喜、

【講義】 召平は相國蕭何に謂ひ曰く、禍は此より始る、夫れ皇上は外に暴露して、戰場に勞す、而して君は、中に在りて守るのみ、矢石を被る事無し、然るに、皇上が君の封を增し、護衞を置くは、何の故ぞや、淮陰侯が新に中に於て、叛亂を企てたるを以て、君が淮陰に倣はんことを疑懼すればなり、夫れ護衞兵を置きて、君を護るは、以て君を寵遇するに非ず、願くは君が封の增したるを辭謝して、之を受くる無からんことを、且つ君は家の私財を以て、軍を佐けよ、斯くすれば、皇上は心悅ばんと、相國蕭何は、乃ち此の召平の計に從ふ、高祖は果して大に滿足す、

漢十二年秋、黥布反、上自將擊之、數使使問相國何爲、相國爲上在軍、乃拊循勉力百姓、悉以

何二千戶、以帝嘗繇咸陽時、何送我、獨贏奉錢二也、

【講義】是に於て、高祖は蕭何を特待し、劍を帶び履を穿ちながら、殿上に至ることを許し、其の朝廷に於ける步行も、趨らずして普通に步むことを許されたり、高祖曰く、吾聞く、賢者を推擧したるものは、上賞を受くと、蕭何は其の功高しと雖も、鄂君の說を得て、益〻明なりと、乃ち鄂君が故の領地なる關內侯の邑を存して、更に鄂君を封じ、安平侯と爲す、是の日、悉く蕭何の父子兄弟十餘人を封ず、皆領邑有り、蕭何に二千戶を增封す、蓋し高祖が嘗て咸陽に繇役せし時に、蕭何が他人よりも、二百錢多く餞せしを以て、今之に酬ひたるなり、

【字解】劍履不趨、是れ特別の優遇なり、安平、今の山西澤州府沁水縣に屬す、鄂君が關中に於ける食邑の外に、此の地を加へたるなり、我、高祖なり、是れ高祖の語を用ひたるに由る、贏、餘るなり、他人に比して多く餞したるを以て、斯くいふなり、

漢十一年、陳豨反、高祖自將至邯鄲、未罷、淮陰侯謀反關中、呂后用蕭何計、誅淮陰侯、語在淮陰事中、

【講義】漢の十一年、陳豨は代國に據り叛亂す、高祖は自から將として邯鄲に至る、其の軍は未だ罷まず、淮陰侯韓信は關中に謀反す、呂后は蕭何の計を用ひ、淮陰侯を誅殺す、其の事は淮陰侯の傳中に載す、

上已聞淮陰侯誅、使使拜丞相何爲相國、益封五千戶、令卒五百人、一都尉爲相國衞、諸君皆賀、召平獨弔、

【講義】高祖は既に淮陰侯の誅死を聞き、特使を發し、宰相蕭何を進めて首相と爲し、五千戶を增封す、且つ卒五百人一都尉をして、首相の護衞と爲らしむ、

東、蕭何常全關中、以待陛下、此萬世之功也、今雖亡曹參等百數、何缺於漢、漢得之、不必待以全、奈何欲以一旦之功、而加萬世之功哉、蕭何第一、曹參次之、高祖曰善、

【講義】關內侯鄂千秋は進みて曰く、群臣の議は皆誤れり、夫れ曹參は野戰略地の功有りと雖も、是れ唯一時の事のみ、蕭何が萬世の功に比すべきに非ず、夫れ皇上は楚と相距ぐ五年に彌り、常に軍を失ひ衆を亡ひ、身を以て遁れたること屢なり、然れども、蕭何は常に關中より軍を發遣して、其の缺乏を補充す、皇上が詔令の召に由るに非ずして、數萬の衆卒は、皇上が乏絶の處に來會すること屢なり、是れ蕭何が一大功に非ずや、且つ夫れ漢が楚と相對して、河南の滎陽に防守すること、數年なり、軍中には現實の糧食無し、此の間に蕭何は關中より糧食を轉漕して、支給の乏しからざるを得たり、此れ亦蕭何が一大功に非ずや、且つ皇上が屢山東を亡ふと雖も、蕭何は常に關中を安全にし、以て皇上の還御を待つ、此れ亦蕭何が一大功に非ずや、是等の大勳偉績は、實に萬世の功なり、今や曹參等を亡ふこと百餘人の多數に及ぶとも、何ぞ漢に缺く所有らん、漢は是等の百餘人を得るとも、以て安全なるを期待するに足らず、何ぞ此の一朝の功を以て、萬世の功の上に置くを得んや、蕭何は第一なり、曹參は之に次ぐと、高祖は此の鄂千秋の說を聽きて曰く、善し、

於是、乃令蕭何賜帶劍履上殿、入朝不趨、上曰、吾聞進賢受上賞、蕭何功雖高、得鄂君乃益明、於是、因鄂君故所食關內侯邑、封爲安平侯、是日悉封何父子兄弟十餘人、皆有食邑、乃益封

知る、高祖曰く、夫れ獵に於て、獸兎を追ひ殺すものは、狗なり、然れども、狗を使ひ、之を放ち遣り、獸の居處を指示するは、人なり、今や諸君は唯能く走獸を獲たるのみ、是れ功狗なり、蕭何の如きに至りては、發縱し指示す、是れ功人なり、且つ諸君は獨其の身を以て、我に隨ふ、其の多きものも兩三人を伴ふに過ぎず、蕭何は其の宗族數十人、皆我に隨ふ、其の功は忘るべからずと、群臣皆服し、敢て復た言はず、

【字解】徒、唯なり、蹤、縱に通ず、放ちて馳せ行かしむること、擧宗、宗族皆揃ふこと、

列侯畢已受封、及奏位次、皆曰、平陽侯曹參、身被七十創、攻城略地、功最多、宜第一、上已撓功臣、多封蕭何、至位次、未有以復難之、然心欲何第一、

【講義】列侯は既に悉く封土を受けたり、其の席位の階級を奏するに及び、群臣皆曰く、平陽侯曹參は、身に七十個處の創傷を被り、城を攻取し、地を侵略す、其の功は最も多し、第一に相當すと、高祖は既に諸功臣を抑へて、蕭何の封土を多くしたり、故に、位階の順序に至りては、未だ群臣を反駁せず、然れども、其の心中には蕭何を第一に置く希望なり、

【字解】撓、抑へて屈せしむること、

關內侯鄂君進曰、群臣議皆誤、夫曹參雖有野戰略地之功、此特一時之事、夫上與楚相距、五歲、常失軍亡衆、逃身遁者數矣、然蕭何常從關中、遣軍補其處、非上所詔令召、而數萬衆、會上之乏絕者數矣、夫漢與楚相守滎陽數年、軍無見糧、蕭何轉漕關中、給食不乏、陛下雖數亡山

祖以蕭何功最盛、封爲鄼侯、所食邑多、

【講義】漢の五年、高祖は既に項羽を殺し、天下を定む、因て功を論じ、封を行ふ、群臣は功を爭ふ、一年を超ゆるも、論功は未だ決せず、高祖は蕭何の功最も盛なるを以て、之を封じ、鄼侯とす、其の領邑甚だ多し、

【字解】鄼、今の河南南陽府に屬す、

功臣皆曰、臣等身被堅執銳、多者百餘戰、少者數十合、攻城略地大小各有差、今蕭何未嘗有汗馬之勞、徒持文墨議論不戰、顧反居臣等上、何也、

【講義】功臣皆曰く、臣等は身に堅甲を被り、銳兵を執り、多きは百餘戰に及び、少きも數十合に及び、其の城を攻取し、地を侵略したることは、大小の等差有るも、各功勞有り、然るに、蕭何は未だ嘗て汗馬の勞に就かず、徒に法文を持して議論し、敢て戰鬪せず、今や却て臣等の上に居る、是れ何の故ぞや、

【字解】合、小戰なり、差、シナと訓ず、等級をいふ、顧、然るにといふ意なり、オモフニと訓ず、

高帝曰、諸君知獵乎、曰知之、知獵狗乎、曰知之、高帝曰、夫獵追殺獸兎者、狗也、而發蹤指示獸處者、人也、今諸君徒能得走獸耳、功狗也、至如蕭何、發蹤指示、功人也、且諸君獨以身隨我、多者兩三人、今蕭何擧宗數十人、皆隨我、功不可忘也、羣臣皆莫敢言、

【講義】高祖は乃ち、諸功臣に謂ひ曰く、諸君は獵を知るか、曰く之を知る、曰く獵狗を知るか、曰く之を

を設け、之を漢王に奏上す、漢王は之を裁可し、特に蕭何に許すに、適宜の處置を以てし、事は直に奏上するを要せず、便に應じて施行し、漢王が關中に歸來したる時に、言上するを例としたり、是に於て、蕭何は關中を治め、戶口を計り、兵馬糧食を運漕して、漢軍に支給す、故に、漢王が屢其の軍を失ひ、遁れ去りたるも、蕭何は常に關中の兵卒を興して、其の缺乏を補充す、漢王は此に由り、專ら關中の要務を蕭何に委任したり、

【字解】治、修理して都市を成すこと、櫟陽、ヤクヤウと讀む、今の陝西西安府臨潼縣に屬す、漢の長安の一部なり、可、聞き屆けること、聞、申上ぐること、輒、其の度每に何時もといふ意なり、スナハチと訓ず、

漢三年、漢王與項羽、相距京索之間、上數使使勞苦丞相、

【講義】漢の三年、漢王は項羽と相距ぎ、河南滎陽の南なる京縣索邑の間に交戰す、而して漢王は關中を憂慮し、屢使を發し、宰相蕭何を慰勞せしむ、

鮑生謂丞相曰、王暴衣露蓋、數使使勞苦君者、有疑君心也、爲君計、莫若遣君子孫昆弟能勝兵者、悉詣軍所、上必益信君、於是、何從其計、漢王大說、

【講義】鮑生は漢相蕭何に謂ひ曰く、今や吾王は戰場に在り、衣服を風日に曝し、車蓋を雨露に濕し、自身勞苦の間に、屢使を發し、以て君を慰勞せしむ、是れ其の實際に於て、君の心を疑ふに由るなり、故に、君が爲めに計るに、君の子孫兄弟の能く兵役に勝ふるものをして、悉く軍所に至らしむるに若かず、斯くすれば、漢王必ず益、君を信ぜんと、是に於て、蕭何は此の計に從ふ、漢王大に悅ぶ、

【字解】昆弟、兄弟なり、說、悅ぶなり、

漢五年、既殺項羽、定天下、論功行封、羣臣爭功、歲餘功不決、高

王所以具知天下阨塞、戸口多少、彊弱之處、民所疾苦者、以何具得秦圖書也、何進言韓信、漢王以信爲大將軍、語在淮陰侯事中、

【講義】項王は諸侯と共に、咸陽を燒き、其の吏民を殺して去る、然れども、漢王が其の殘破の秦京に在りて、猶能く天下の要塞人口の多少及び强弱の場所を知悉することを得て、尙現在に人民が困苦する所以をも了解するを得たるは、實に蕭何が秦の圖書を收め得たるに由るなり、既にして、蕭何は韓信を推擧す、漢王は韓信を以て、大將軍と爲す、其の事跡は淮陰侯の傳中に掲載す、

漢王引兵、東定三秦、何以丞相、留收巴蜀、塡撫諭告、使給軍食、

【講義】漢王は兵を引き、東進して、雍、塞、翟の三王を征服す、蕭何は宰相職に在り、關中に留り、南方巴蜀兩郡の租税を徵收し、人民を鎭撫し、之に諭告し、兵糧を支給するに務めたり、

【字解】塡、鎭なり、使給、使其民給の意なり、

漢二年、漢王與諸侯擊楚、何守關中、侍太子、治櫟陽、爲法令約束、立宗廟、社稷、宮室、縣邑、輒奏上、可許以從事、即不及奏上、輒以便宜施行、上來以聞、關中事、計戸口、轉漕給軍、漢王數失軍遁去、何常興關中卒、輒補缺、上以此、專屬任何關中事、

【講義】漢の二年、漢王は諸侯と楚を擊つ、蕭何は關中を守り、太子に侍し、櫟陽の地を修理して、法令規約を制定し、宗廟及び社稷を建て、宮殿を造り、縣邑

て、郡と解すれども、文中には沛の令有り、蕭何の屬したるは沛縣の事務なり、文無害、文は法律なり、無害は公平なり、法を執ることの穩當なるをいふ、主吏掾、主吏は法を行ふ吏なり、掾は牢獄に關する事務官なり、主吏掾は主吏にして、掾を兼ねたるものなり、布衣、無官の民なり、亭、宿驛なり、左右、援助すること、繇、人夫の出張役なり、奉錢、餞別の贈金なり、三、當百の大錢三枚なり、相國、丞相、相、相國を最高とす、

秦御史監郡者、與從事、常辨之、何乃給泗水卒史事、第一、秦御史欲入言徵何、何固請得毋行、

【講義】秦の法官にして、郡を監督するものが、蕭何と共に事務を執る、蕭何は常に善く之を處辨す、蕭何は更に泗水郡の卒史を命ぜられ、其の事務の成績は、第一等たり、故に、秦の法官は、秦廷に入り、上申して、蕭何を召し用ひんと欲す、然れども、蕭何は堅く辭退して、行くを免れたり。

【字解】御史、執法の長官なり、卒史、事務官なり、給、執り行ふこと、泗水、秦の郡なり、漢の沛郡を置きたる地なり、蕭何は沛縣の事務に兼ねて、泗水郡の事務を執りたるなり、

及高祖起爲沛公、何常爲丞督事、沛公至咸陽、諸將皆爭走金帛財物之府分之、何獨先入收秦丞相御史律令圖書藏之、沛公爲漢王、以何爲丞相、

【講義】既にして高祖は起ちて、沛公と爲る、蕭何は常に事務官と爲り、庶務を監督す、沛公が咸陽に至るときに、諸將は皆爭ひて金帛財物の府に走り、之を分ち取る、然れども、蕭何は獨り先づ宮に入り、秦の宰相法官の律令圖書を收めて、之を藏す、沛公が漢王と爲るに及び、蕭何を以て宰相とす、

項王與諸侯、屠燒咸陽而去、漢

白石侯たり、孝文帝の十六年に、膠東王と爲る、膠東王立ちて十一年、吳楚と同盟し叛亂す、漢は之を擊破し、劉雄渠を誅殺す、其の地は漢に入り、膠東郡と爲る、

太史公曰、諸侯大國、無過齊悼惠王、以海內初定、子弟少、激秦之無尺土封、故大封同姓、以塡萬民之心、及後分裂、固其理也、

【講義】 太史公曰く、漢に於ける諸侯の大國は、齊の悼惠王の領域に勝るもの無し、蓋し謂ふに、海內始めて定りたるや、漢の子弟少數なりと、因て秦の皇族に狹小の領地を有するもの無かりしを觀て、之に感動し、其の弊害を防がんとしたり、故に、漢は大に同姓を封じ、之を王と爲し、以て萬民の心を鎭撫したり、其の後に至りて、大封の分裂するに至れるも、亦自然の理勢なり、

【字解】 以、思考するなり、尺土、狹小なる領地なり、塡、鎭撫すること、

蕭相國世家第二十三

蕭相國何者、沛豐人也、以文無害、爲沛主吏掾、高祖爲布衣時、何數以吏事護高祖、高祖爲亭長、常左右之、高祖以吏繇咸陽、吏皆送奉錢三、何獨以五、

【講義】 漢の首相蕭何は、沛郡豐縣の人なり、法を執ること公平なるを以て、沛の事務官たり、漢の高祖が無官の時に、蕭何は屢法治の事を以て、高祖の罪を救護したり、高祖が驛長と爲るに及び、蕭何は常に之を輔佐す、既にして高祖は吏務を以て、咸陽に繇役す、沛の吏は皆之を送りて、餞するに、各三百錢を以てす、蕭何は獨り五百錢を餞す、

【字解】 沛、今の江蘇徐州府沛縣なり、是れ秦の縣にして、漢の郡なり、史記を書する時には、郡なるを以

爲懿王、子建代立、是爲靖王、二十年卒、子遺代立、是爲頃王、三十六年卒、子終古立、是爲思王、二十八年卒、子尙立、是爲孝王、五年卒、子橫立、至建始三年、十一歲卒、

【講義】劉志は齊の悼惠王の子にして安都侯たり、遂に濟北に王と爲る、既にして菑川王は叛を以て死し、後嗣無し、漢は乃ち濟北王を徙し、菑川に王とす、其の立つこと三十五年にして卒す、謚して懿王と曰ふ、子建は代り立つ、之を靖王と曰ふ、立ちて二十年に卒す、子遺は代り立つ、是を頃王と曰ふ、立ちて三十六年卒す、子終古立つ、是を思王と曰ふ、立ちて二十八年卒す、子尙立つ、是を孝王と曰ふ、立ちて五年卒す、子橫立つ、橫は孝成帝の建始三年に至る、其の位に在ること十一年にして卒す、

【字解】此の一段は安都侯の終始を敍す、蓋し褚少孫の補作したるものなり、

膠西王卬、齊悼惠王子、以昌平侯、文帝十六年爲膠西王、十一年與吳楚反、漢擊破殺卬、地入于漢、爲膠西郡、

【講義】膠西王劉卬は、齊の悼惠王の子なり、曩に昌平侯たり、孝文帝の十六年に、膠西王と爲る、膠西王立ちて十一年に、吳楚と謀を通じ、漢に叛く、漢は之を擊破し、劉卬を誅殺す、其の地は漢に入り、膠西郡と爲る、

膠東王雄渠、齊悼惠王子、以白石侯、文帝十六年、爲膠東王、十一年與吳楚反、漢擊破、殺雄渠、地入于漢、爲膠東郡、

【講義】膠東王劉雄渠は、齊の悼惠王の子なり、曩に

悼惠王子安都侯志、爲濟北王、十一年、吳楚反時、志堅守、不與諸侯合謀、吳楚已平、徙志王菑川、

【講義】 其の後十二年を過ぎ、孝文帝の十六年に至り、漢は復た齊の悼惠王の子なる安都侯劉志を以て濟北王と爲す、濟北王立ちて十一年に、吳魏の叛亂有り、此の時に、劉志は堅く城守し、叛亂の諸侯と謀を通ぜず、既にして吳楚は平定す、漢は劉志を徙して、菑川に王とす、

濟南王辟光、齊悼惠王子、以勒侯、孝文十六年、爲濟南王、十一年、與吳楚反、漢擊破、殺辟光、以濟南爲郡、地入于漢、

【講義】 濟南王劉辟光は、齊の悼惠王の子なり、曩に勒侯たり、孝文帝の十六年に、濟南王と爲る、濟南王立ちて十一年に、吳楚と同盟して、漢に叛く、漢は之を擊破し、劉辟光を殺し、濟南を以て、郡と爲し、其の地は漢に入る、

菑川王賢、齊悼惠王子、以武城侯、文帝十六年爲菑川王、十一年、與吳楚反、漢擊破殺賢、天子因徙濟北王志、王菑川、

【講義】 菑川王劉賢は、齊の悼惠王の子なり、曩に武城侯たり、孝文帝の十六年に、菑川王と爲る、菑川王立ちて十一年に、吳楚と相謀り、漢に叛く、漢は之を擊破し、劉賢を誅殺す、孝景帝は乃ち濟北王劉志を徙し菑川に王とす、

志以齊悼惠王子、以安都侯王濟北、菑川王反、毋後、乃徙濟北王、王菑川、凡立三十五年卒、諡

朱虛、東牟之初欲立齊王、故絀其功、及二年、王諸子、乃割齊二郡、以王章、興居、章、興居自以失職、奪功、

【講義】是より先に、漢廷の大臣が呂氏を誅するに當り、朱虛侯劉章は功勞尤も大なり、故に、盡く趙の地を以て、朱虛侯劉章を王とし、盡く梁の地を以て、東牟侯劉興居を王とし、此兩人の功に酬いんとする議有り、然るに、孝文帝の立つに及び、朱虛、東牟が初志は、齊王を天子とするに在りしを聞き、漢廷の議は、此の兩人の功を斥けたり、孝文帝の二年に至りて、諸子を王とす、乃ち齊の城陽、濟北二郡を割き、以て章と興居とを王とす、兩人は自から謂ふ、遂に職を失ひ、功を奪はれたりと、

【字解】絀、斥くること、自以、自分にて考思すること、

章死、而興居聞匈奴大入漢、漢多發兵、使丞相灌嬰擊之、文帝親幸太原、以爲天子自擊胡、遂發兵反於濟北、天子聞之、罷丞相及行兵、皆歸長安、使棘蒲侯柴將軍擊破、虜濟北王、王自殺、地入于漢、爲郡、

【講義】既にして城陽王劉章死す、濟北王劉興居は獨り欝抑して、志を得ず、忽ち聞く、匈奴が大に漢に入寇し、漢は多く兵を發し、宰相灌嬰等をして之を擊たしめ、孝文帝は親から山西の太原に行幸すと、興居乃ち謂ふ、天子自から胡を擊つ、其の隙乘ずべしと、遂に兵を發し、濟北に於て叛亂す、孝文帝は之を聞き、宰相及び親兵の出張を罷め、皆長安に歸らしめ、棘蒲侯柴武を將軍と爲し、濟北王を擊破せしめ、之を虜にす、濟北王自殺す、其の地は漢に入り、郡と爲る、

後十二年、文帝十六年、復以齊

未央宮に斬る、孝文帝立ちて、章に二千戸を増封す、且つ金千斤を賜ふ、孝文帝の二年、齊の城陽郡を以て、章を立て城陽王とす、其の立つこと二年にして卒す、子喜立つ、是を共王とす、共王の八年徙りて淮南に王たり、四年を經て、復た還り、城陽に王たり、凡そ三十三年にして卒す、子建延立つ、是を頃王とす、頃王は二十八年にして卒す、子義立つ、是を敬王とす、敬王は九年にして卒す、子武立つ、是を惠王とす、惠王は十一年にして卒す、子順立つ、是を荒王とす、荒王は四十六年にして卒す、子恢立つ、是を戴王とす、戴王は八年にして卒す、子景立つ、景は孝成帝の建始三年に至る、其の位に在る十五年にして卒す、

【字解】此の段は朱虛侯の終始を叙す、蓋し褚少孫の補作したるものなり、

濟北王興居、齊悼惠王子、以東牟侯、助大臣、誅諸呂、功少、及文帝從代來、興居曰、請與太僕嬰、入淸宮、廢少帝、共與大臣、尊立孝文帝、孝文帝二年、以齊之濟北郡、立興居、爲濟北王、與城陽王倶立、立二年反、

【講義】濟北王劉興居は、齊の悼惠王の子なり、其の東牟侯たる時に、漢廷の大臣を助けて、諸呂を誅す、其の功少し、孝文帝が代國より來るに及び、興居曰く、請ふ太僕夏侯嬰と共に、帝宮に入り、掃除せんと、遂に入りて、少帝を廢し、大臣と共に、孝文帝を尊び立つ、孝文帝の二年、齊の濟北郡を以て、興居を立て、濟北王とす、城陽王劉章と倶に立つ、然れども、興居は立つこと二年にして、漢に叛くに至れり、

【字解】太僕、宮内官なり、侍從の長官にして、禮式を掌る、

始大臣誅呂氏時、朱虛侯功尤大、許盡以趙地王朱虛侯、盡以梁地王東牟侯、及孝文帝立、聞

環悼惠王冢園邑、盡以予菑川、以奉悼惠王祭祀、

【講義】齊の厲王は立ちて五年に死し、後嗣無し、國は漢に入る、是に於て、曩に孝文帝の建てたる齊の悼惠王の子七國は、五國亡びたり、然れども尚二國有り、曰く城陽王、曰く菑川王是れなり、而して菑川の地は齊の臨菑に接近す、天子は齊の亡びたるを憐み、悼惠王の塚園が漢の郡に在るに由り、臨菑の東方を割きて、悼惠王の塚園を環らし封ひ、盡く其の地を擧げて、菑川王に與へ、以て悼惠王の祭祀を奉ぜしめたり、

【字解】比、近きなり、冢、塚なり、予、與ふなり、

城陽景王章、齊悼惠王子、以朱虛侯、與大臣共誅諸呂、而章身首先斬相國呂王產於未央宮、孝文帝既立、益封章二千戶、賜金千斤、孝文二年、以齊之城陽郡、立章爲城陽王、立二年卒、子喜立、是爲共王、共王八年、徙王淮南、四年、復還、王城陽、凡三十三年卒、子建延立、是爲頃王、頃王二十八年卒、子義立、是爲敬王、敬王九年卒、子武立、是爲惠王、惠王十一年卒、子順立、是爲荒王、荒王四十六年卒、子恢立、是爲戴王、戴王八年卒、子景立、至建始三年十五歲卒、

【講義】城陽の景王劉章は、齊の悼惠王の子なり、其の朱虛侯たる時に、漢廷の大臣と共に、諸呂を誅殺す、而して劉章は親から首として先づ相國呂王產を

主父偃既至齊、乃急治王後宮宦者、爲王通於姉翁主所者、令其辭證、皆引王、王年少、懼大罪、爲吏所執誅、乃飮藥自殺、絕無後、

【講義】 主父偃は齊に至り、急速に取調を行ひ、齊王の後宮姫妾及び內侍者、齊王の爲めに其の姉なる紀翁主の所に交通したるもの等を處分し、其の言辭の證據として、皆齊王に關聯せしむ、是の時に、齊王は年少なり、大罪を懼れ、吏に執はれ誅戮せられんことを恐る、因て藥を飮み自殺す、家絕えて後嗣無し、

是時、趙王懼主父偃一出廢齊、恐其漸疏骨肉、乃上書、言偃受金及輕重之短、天子亦既囚偃、公孫弘言、齊王以憂死、毋後、國入漢、非誅偃、無以塞天下之望、遂誅偃、

【講義】 是の時に當り、趙王は主父偃一たび出で丶、齊國を廢したるを懼れ、其の漸次に、天子の骨肉を疏遠にするを恐る、乃ち上書して、主父偃が收賄の事實及び其の財政論の缺點を陳述す、天子も既に偃を囚へたり、宰相公孫弘曰く、齊王は主父偃の事に由り、憂を以て死し後嗣無し、國は漢に入る、故に、偃を誅殺するに非ざるときは、以て天下の希望に副ふに足らずと、天子は遂に偃を誅す、

【字解】 輕重、財政の論議なり、臨菑の宮を論じたる如きを指す、輕重は金穀の價をいふ、塞、充たすなり、滿足せしむるをいふ、

齊厲王立五年、死、毋後、國入于漢、齊悼惠王後、尙有二國、城陽及菑川、菑川地比齊、天子憐齊、爲悼惠王家園在郡、割臨菑東、

父偃由此、亦與齊有郤、

【講義】徐甲は乃ち還り、皇太后王氏に報告して曰く、齊王は既に脩成君の女娥を后とすることを願ふ、然れども、一害有り、或は燕王の如くならんことを恐ると、蓋し燕王は其の子兄弟等と姦淫し、新に其の罪に當り、死して國を亡ひしものなり、故に、徐甲は燕を以て皇太后を感ぜしめたり、皇太后曰く、復た女を齊に嫁することを言ふ勿れ、此の事情漸く深く染まるときは、其の罪加りて、天子に奏するを得ざるに至らんと、而して主父偃は、此に由り、亦齊との情交絶えたり、

【字解】尙、天子の女を迎へて吾が妻とすること、昆弟、兄弟なり、浸潯、事情の漸次に深く結びて、込み入ること、郤、隙なり、

主父偃方幸於天子、用事、因言、齊臨菑十萬戶、市租千金、人衆殷富、巨於長安、此非天子親弟愛子、不得王此、今齊王於親屬益疏、乃從容言、呂太后時、齊欲反、吳楚時、孝王幾爲亂、今聞齊王與其姊亂、於是、天子乃拜主父偃爲齊相、且正其事、

【講義】是の時に當り、主父偃は天子に寵幸せられ、權勢を振ふ、因て言ふ、齊王の居城なる臨菑は、十萬戶有り、市租として上納する稅金は、一日に千金有り、衆庶は殷富なり、長安よりも巨大なり、此の如き要地は、天子の實弟及び愛子に非れば、以て王と爲すを得ず、然るに、今日の齊王は、親屬に於て益、疏遠なりと、乃ち從容として心靜に天子に奏し曰く、呂太后の時に、齊は漢に叛かんと欲し、吳楚の叛亂の時は、齊の孝王は此の亂に參加せんとしたり、而して今聞く所に依れば、齊王は其の姊と姦淫して亂ると、是に於て、天子は主父偃を齊の宰相と爲し、其の姦淫の取り糺しを命じたり、

喜び、徐甲をして齊に往かしむ、

是時、齊人主父偃、知甲之使齊、以取后事、亦因謂甲、卽事成、幸言偃女、願得充王後宮、甲既至齊、風以此事、

【講義】 是の時に當り、齊人主父偃は、漢廷に仕官す、徐甲が齊に使するは、齊王の后を定むる事なるを知る、因て徐甲に謂ひ曰く、若しも事成らば、幸に偃の女を推擧せよ、願くは以て齊王の後宮に入らしむるを得んと、既にして徐甲は齊に至り、暗に諷するに此の事を以てす、

【字解】 卽、若しなり、風、諷なり、暗に知らしむるなり、

紀太后大怒曰、王有后、後宮具備、且甲齊貧人、急、乃爲宦者、入事漢、無補益、乃欲亂吾王家、且主父偃何爲者、乃欲以女充後宮、徐甲大窮、

【講義】 紀太后は徐甲の言を聞き、大に怒り曰く、齊王は既に后有り、後宮の姫妾も皆完備す、別に之を問ふを要せず、且つ徐甲は齊の貧人にして、生活に急なり、乃ち內侍者と爲り、漢に事ふるも、國家に補益する所無し、然るに、吾齊王の家を亂さんと欲するは、何事ぞや、且つ主父偃は何物ぞ、敢て其の女を以て齊王の後宮に入らしめんと欲す、甚だ其の意を得ずと、是に於て、徐甲は大に閉口したり、

【字解】 急、生計の窮迫なること、補益、功績なり、

還報皇太后曰、王已願尚娥、然有一害、恐如燕王、燕王者與其子昆弟姦、新坐以死、亡國、故以燕感太后、太后曰、無復言嫁女齊事、事浸潯、不得聞於天子、主

齊懿王立、二十二年卒、子次景立、是爲厲王、齊厲王、其母曰紀太后、太后取其弟紀氏女、爲厲王后、王不愛紀氏女、太后欲其家重寵、令其長女紀翁主入王宮、正其後宮、毋令得近王、欲令愛紀氏女、王因與其姊翁主姦、

【講義】齊の懿王は、立つこと二十二年にして卒す、子次景立つ、是を厲王と曰ふ、齊の厲王は、其の母を紀太后と曰ふ、太后は其の弟紀氏の女を取り、厲王の后とす、然るに、厲王は紀氏の女を愛せず、太后は紀氏の家が君寵に由りて貴くならんことを希望し、其の長女紀翁主をして王宮に入らしめ、以て齊王の後宮を取り締り、他の姬妾が王に接近することを抑止せしむ、蓋し王をして紀氏の女を愛せしめんと欲したるなり、齊王は却て其の后なる紀氏の女を愛せず、自分の姉なる紀翁主と姦淫するに至れり、

【字解】翁主、諸王の女を稱す、紀翁主は父を齊の懿王とす、母を紀太后とす、故に此の稱有り、重、貴重なり、正、矯正して其の監督を嚴にするなり、

齊有宦者徐甲、入事漢皇太后、太后有愛女、曰脩成君、脩成君、非劉氏、太后憐之、脩成君有女、名娥、太后欲嫁之於諸侯、宦者甲、乃請使齊、必令王上書請娥、皇太后喜、使甲之齊、

【講義】齊に内侍者徐甲有り、漢廷に入り、皇太后王氏に事ふ、皇太后王氏は愛女有り、脩成君と曰ふ、是れ王氏が金王孫に嫁して生みたる女なり、故に、劉氏に非ず、皇太后は之を憐む、脩成君は女有り、娥と命名す、太后は之を諸侯王に嫁せしめんと欲す、徐甲は乃ち皇太后に請ひ曰く、臣を齊に使せしめよ、必らず齊王をして上書し、娥を請はしめんと、皇太后は之を

途中に在り、齊必らず堅守せよ、三國に降參する勿れと、三國の將軍は怒りて路卬を誅殺す、

【字解】劫、脅迫なり、若、汝なり、趣、疾なり、不、否なり、然らざればに同じ、且、將なり、太尉、兵馬の長官なり、陸軍大臣に似たり、

齊初圍急、陰與三國通謀、約未定、會聞路中大夫從漢來喜、及其大臣、乃復勸王、毋下三國、

【講義】是より先に、齊は其の攻圍の急なるに恐れ、内密に三國と謀を通じ、其の契約は未だ定らず、是の時に、其の中大夫路卬が漢より歸來したる言を聞き、齊の城中皆喜ぶ、其の大臣復た齊王に勸め、三國に降參すること無からしむ、

居無何、漢將欒布、平陽侯等兵至齊、擊破三國兵、解齊圍、已而復聞齊初與三國有謀、將欲移兵伐齊、齊孝王懼、乃飮藥自殺、

【講義】其の後、數日にして、漢の將軍欒布、平陽侯等の兵は、齊に至り、三國の軍を擊破し、齊の攻圍を解除したり、既にして、欒布等は復た齊が初めに於て、三國と通謀せしを聞き、兵を移して齊を伐たんと欲す、齊の孝王恐懼し、藥を飮みて自殺す、

景帝聞之、以爲齊首善、以迫劫有謀、非其罪也、乃立孝王太子壽、爲齊王、是爲懿王、續齊後、而膠西、膠東、濟南、菑川王咸誅滅、地入于漢、徙濟北王、王菑川、

【講義】孝景帝は、之を聞きて謂ふ、齊は首として善し、其の脅迫に由りて、謀に加りたるのみ、其の罪に非ずと、乃ち孝王の太子壽を立て、齊王と爲す、是を懿王と曰ふ、以て齊の後を續がしむ、而して膠西、膠東、濟南、菑川の四王は、皆誅滅せられ、其の地は漢に入る、因て濟北王を徙し、菑川に王とす、

兵共圍齊、

【講義】齊の孝王の十一年、吳王濞、楚王戊は、漢に叛き、兵を興して西に向ひ、諸侯に告げて曰く、我輩は漢の賊臣晁錯を誅戮し、以て漢の宗廟を安泰にせんと欲すと、是に於て、膠西、膠東、菑川、濟南の四王は、皆擅に兵を發して、吳楚に應じ、齊と共にせんと欲す、然るに、齊の孝王は狐疑して城守し、之を聽かず、膠西、菑川、濟南三國の兵は、共に齊を攻圍す、

齊王使路中大夫告於天子、天子復令路中大夫還告齊王善堅守、吾兵今破吳楚矣、路中大夫至、三國兵圍臨菑數重、無從入、

【講義】齊の孝王は、其の中大夫路卬を長安に遣り、叛亂を孝景帝に告げしむ、孝景帝は復た路卬をして、孝王に告げしめ曰く、善く城守せよ、吾兵は今正に吳楚を破ると、路卬乃ち齊に還り至る、是の時に當り、膠西、菑川、濟南三國の兵は、齊の首都臨菑を圍むこと數重なり、故に、路卬は齊城に入るを得ず、

三國將、劫與路中大夫盟曰、若反言、漢已破矣、齊輙下三國、不且見屠、路中大夫既許之、至城下、望見齊王曰、漢已發兵百萬、使太尉周亞夫擊破吳楚、方引兵救齊、齊必堅守、無下、三國將、誅路中大夫、

【講義】是に於て、膠西、菑川、濟南三國の將軍は、齊の中大夫路卬を捕へて、之を脅迫し、要盟して曰く、汝は齊王に反言せよ、漢は既に破れたり、齊は速に三國に降參せよ、否らざれば齊は屠られんとすと、路卬は之を承諾す、既にして路卬は齊城の下に至り、齊王を望見して曰く、漢は既に兵百萬を發し、太尉周亞夫をして吳楚を擊破せしめ、今正に兵を引き齊を救ふ

立十四年卒、無子、國除、地入于漢、

【講義】齊の文王元年、漢は齊の城陽郡を以て、朱虛侯を立て、城陽王とす、齊の濟北郡を以て、東牟侯を立て、濟北王とす、齊の文王の二年、濟北王は漢に叛く、漢は之を誅殺す、其の地は漢に入る、其の後二年、孝文帝は齊の悼惠王の子罷軍等七人を盡く封じて、皆列侯とす、齊の文王は十四年に卒す、其の子無きに由り、國は廢せられ、其の地は皆漢に入る、

後一歲、孝文帝以所封悼惠王子、分齊爲王、

【講義】其の後一年、孝文帝は曩に封じて列侯と爲したる悼惠王の子六人を以て齊を分ち六王とす、

齊孝王將閭、以悼惠王子楊虛侯、爲齊王、故齊別郡、盡以王悼惠王子、子志爲濟北王、子辟光爲濟南王、子賢爲菑川王、子卭爲膠西王、子雄渠爲膠東王、與城陽、齊凡七王、

【講義】六王の第一は、齊の孝王將閭なり、是れ悼惠王の子にして、曩に楊虛侯に封ぜられ、今改めて齊王と爲りたるなり、此の外に、故の齊の別郡五國は、皆均しく悼惠王の子を以て、其の王とす、曰く子志は濟北王たり、曰く子辟光は濟南王たり、曰く子賢は菑川王たり、曰く子卭は膠西王たり、曰く子雄渠は膠東王たり、之に城陽王なる章を加へて、齊は總計七國の王立つ、

齊孝王十一年、吳王濞、楚王戊反、興兵西、告諸侯曰、將誅漢賊臣鼂錯、以安宗廟、膠西、膠東、菑川、濟南、皆擅發兵、應吳楚、欲與齊、齊孝王狐疑、城守不聽、三國

ども緣故無し、故に子が爲めに掃除す、以て謁見の便を求めんと欲するなりと、是に於て、家令は勃を相公に謁せしむ、曹參は乃ち擧げて、其の邸の執事役とす、勃は一たび曹參の爲めに車を御して、事を言ふ、曹參は之を賢なりと認め、勃を齊の悼惠王に推擧す、悼惠王は召し見て、之を內史に任用す、是より先に、悼惠王は自から隨意に高官を置くことを漢廷より許されたり、故に勃を顯要に用ひたるなり、悼惠王の卒して、哀王立つに及び、勃は齊に於て權勢を振ひ、其の地位は宰相よりも重く見られたり、

【字解】 二千石、郡守の年俸なり、高官の俸祿を概稱す、此の段の記事は、魏勃が妄庸人に非ざるを反證したるものなり、故に、前段の股慄の事は、魏勃が灌將軍を欺きたるものと見るべし、

王既罷兵歸、而代王來立、是爲孝文帝、孝文帝元年、盡以高后時所割齊之城陽、琅邪、濟南郡、復與齊、而徙琅邪王王燕、益封朱虛侯東牟侯各二千戶、是歲、齊哀王卒、太子側立、是爲文王、

【講義】 齊の哀王は、既に兵を罷め國に歸る、而して代王は長安に來り立つ、是を孝文帝とす、孝文帝の元年、齊王の舊領地を盡く返還す、蓋し呂太后の時に割き取りたる城陽、琅邪、濟南の三郡を擧げて、復た之を齊王の領域と爲したるなり、而して琅邪王劉澤を徙し、之を燕に王とし、朱虛侯劉章、東牟侯劉興居に各二千戶を益し封ず、是の年に、齊の哀王卒す、太子劉側立つ、是を齊の文王と曰ふ、

齊文王元年、漢以齊之城陽郡、立朱虛侯、爲城陽王、以齊濟北郡、立東牟侯、爲濟北王、二年、濟北王反、漢誅殺之、地入于漢、後二年、孝文帝盡封齊悼惠王子罷軍等七人、皆爲列侯、齊文王

し、魏勃を召す、勃至る、乃ち之を責め問ふ、勃曰く、火災に罹りたる家は、之を救ふに急なり、何の暇あつて能く主人に告げて、後に之を救ふことを爲さんやと、蓋し漢國の大事焦眉の急なるに當り、之を朝廷に上申する餘暇無きを言ふなり、勃は此の一語を陳べて退き立つ、股慄して畏懼し、復た言ふ能はざるものの如く、終に他の語無し、灌嬰は之を熟視して笑ひ曰く、人は魏勃を勇者と曰ふ、然れども、其の實は虚妄なる凡庸人のみ、何ぞ能く爲さんやと、乃ち魏勃を放還す、

【字解】 股戰而栗、股慄の兩字に同じ、股が戰へて栗る、こと、恐不能言者、若不能言者の意なり、

魏勃父、以善鼓琴、見秦皇帝、及魏勃少時、欲求見齊相曹參、家貧、無以自通、乃常獨早夜掃齊相舍人門外、相舍人怪之、以爲物、而伺之、得勃、

【講義】 魏勃の父は彈琴に妙なるを以て、秦の皇帝に謁見す、勃は年少の時に、齊の宰相曹參に面謁を求めんと欲す、然れども、家貧なり、手蔓を得難し、故に、晨夕獨り往き、常に齊の宰相の家令の門外を掃除す、家令は之を怪みて、怪物なりと思惟し、之を伺ひて勃を捕へ得たり、

【字解】 舍人、顯官の家に仕ふる執事役なり、物、物怪なり、

勃曰、願見相君、無因、故爲子掃、欲以求見、於是、舍人見勃、曹參因以爲舍人、一爲參御言事、參以爲賢、言之齊悼惠王、悼惠王召見、則拜爲內史、始悼惠王得自置二千石、及悼惠王卒、而哀王立、勃用事、重於齊相、

【講義】 勃曰く相公に謁見せんことを志願す、然れ

代王又親高帝子、於今見在、且最爲長、以子則順、以善人則大臣安、

【講義】漢廷の大臣は議して、齊王を皇帝に立てんと欲す、然るに、琅邪王及び其の意見を賛する大臣曰く、齊王を皇帝に立つるは、不可なり、齊王の母家駟鈞は、其の性質惡戾なり、是れ虎にして冠を着けたる如し、既に呂氏の故を以て、殆んど天下を亂さんとしたり、更に齊王を皇帝に立つるは、再び呂氏を生ぜんと欲するなり、之に反して、代王の母家薄氏は君子なり、仁厚の風有り、且つ代王は高祖の實子なり、今に於て現存す、而して最も年長者なり、夫れ帝位を嗣ぐに、高祖の子を以てすれば順當なり、善人を以てすれば、大臣は安心なりと、

【字解】幾亂、殆んど亂るなり、亂れんとするをいふ、長者、仁厚の風有ること、親高帝子、高帝の實子といふ意なり、親は實なり、見、現なり、

於是、大臣乃謀、迎立代王、而遣朱虛侯、以誅呂氏事、告齊王、令罷兵、

【講義】是に於て、漢廷の大臣は相謀り、代王劉恒を迎へ、之を孝文帝とす、而して朱虛侯を遣り、呂氏を誅したる事を齊王に告げ、其の兵を罷めしむ、

灌嬰在滎陽、聞魏勃本教齊王反、既誅呂氏、罷齊兵、使使召責問魏勃、勃曰、失火之家、豈暇先言大人、而後救火乎、因退立、股戰而栗、恐不能言者、終無他語、灌將軍熟視、笑曰、人謂魏勃勇、安庸人耳、何能爲乎、乃罷魏勃、

【講義】漢の大將軍灌嬰は、河南の滎陽に在り、魏勃が齊王に叛亂を敎へしとの事を聞き知れり、今や漢が呂氏を誅し、齊の兵を罷むるに當り、灌嬰は使を發

を伐たしむ、灌嬰は河南の滎陽に至る、乃ち其の將佐と謀りて曰く、諸呂は兵に將として關中に在り、是れ劉氏を危くして、呂氏自から代り立たんと欲するなり、故に、我輩が齊を破り、還り報ずるは、是れ呂氏の爲めに、自立の資料を增すのみ、害有りて益無しと、因て進討せず、兵を留めて滎陽に屯し、使を發し齊王及び諸侯に喩して曰く、請ふ相共に連和せん、以て呂氏が事を起すを待ち、相共に呂氏を誅夷せんと、

齊王聞レ之、乃西取二其故濟南郡一、亦屯二兵於齊西界一、以待レ約、

【講義】齊王は之を聞き、敢て長安に向はず、西征して、齊の舊領なる濟南郡を呂氏の手より取り戻し、齊の西界に於て兵を屯し、以て灌嬰の契約の成果を待つ、

呂祿、呂產、欲レ作二亂關中一、朱虛侯與二太尉勃、丞相平等一誅レ之、朱虛侯首先斬二呂產一於レ是、太尉勃等、乃得三盡誅二諸呂一、而琅邪王、亦從レ齊至二長安一、

【講義】呂祿、呂產は、將相の權勢を以て、亂を長安に作さんと欲す、朱虛侯劉章は、太尉周勃、丞相陳平等と共に、之を誅す、蓋し朱虛侯が、首として先づ呂產を斬り、此に由り、太尉勃等が盡く諸呂を誅するを得たるなり、此の時に、琅邪王劉澤も亦齊より關中に至る、

【字解】太尉、兵馬の長官なり、今日の謂はゆる大尉に非ず、丞相、相公なり、此の段の記事は、呂后の本紀に詳なり、

大臣議、欲レ立二齊王一、而琅邪王及大臣曰、齊王母家駟鈞、惡戾、虎而冠者也、方以二呂氏一故、幾亂二天下一、今又立二齊王一、是欲三復爲二呂氏一、也、代王母家薄氏、君子長者、且

富、未能治天下、固恃大臣諸將、今諸呂又擅自尊官、聚兵嚴威、刼列侯忠臣、矯制以令天下、宗廟所以危、今寡人率兵入誅不當爲王者、

【講義】是に於て、齊の哀王は諸侯王に書を贈り、曰く、高祖は天下を平定して、諸子弟を王とす、悼惠王は齊に王たり、悼惠王薨ず、孝惠帝は留侯張良をして、臣を立て、齊王と爲らしむ、孝惠帝崩御し、呂太后は、政事を行ふ、然れども、太后年老いたるを以て、諸呂の爲す所に任せ、擅に高祖の立てたる王侯を廢し、趙の隱王如意、幽王友、共王恢を殺し、梁、燕、趙を滅し、以て諸呂を王とす、更に齊を分ちて四と爲し、齊の外に、琅邪、濟南、城陽の三國を建てたり、忠臣は進み諫むるも、皇帝は惑亂して、之を聽かず、今や呂太后崩御し、皇帝は幼少なり、未だ天下を治むる能はず、固に大臣諸將を恃む、然るに、諸呂は擅に自から尊貴に居り、兵を聚め威を嚴にし、列侯忠臣を脅迫し、皇帝の制令を曲げて、自分の意思に任せ、天下に號令す、漢の宗廟の危き所以なり、余は今より兵を率ゐて、長安に入り、其の王となるべからざる呂氏の族を誅夷せんとす、

【字解】春秋高、年老いたること、春秋富、年少きこと、不當爲王、呂氏なり、是れ高祖の語より出づ、

漢聞齊發兵而西、相國呂產、乃遣大將軍灌嬰、東擊之、灌嬰至滎陽、乃謀曰、諸呂將兵居關中、欲危劉氏而自立、我今破齊還報、是益呂氏資也、乃留兵屯滎陽、使使喩齊王及諸侯、與連和、以待呂氏之變、而共誅之、

【講義】漢は齊が兵を發して西征すと聞く、是に於て、漢の宰相呂產は、大將軍灌嬰を遣り、東征して齊

長子、推本言之、而大王高皇帝適長孫也、當立、今諸大臣狐疑、未有所定、而澤於劉氏最爲長年、大臣固待澤決計、今大王留臣、無爲也、不如使我入關計事、齊王以爲然、乃益具車、送琅邪王、琅邪王既行、齊遂擧兵、西攻呂國之濟南、

【講義】琅邪王劉澤は既に欺かれ、國に還るを得ず、乃ち齊王に說きて曰く、齊の悼惠王は高祖の長子なり、故に、本を推して之を言へば、大王は高祖の嫡長孫なり、必らず皇帝として立つべし、今や漢廷の諸大臣は、皆狐疑して、未だ決定せず、然るに、澤は劉氏に於て、最も老人なり、諸大臣は固に澤が裁決を待つ、此の時に、大王が臣澤を抑留するは、無用の事なり、我をして長安に入り、事を計らしむるに若かずと、齊王は之を聽きて理有りと考へ、乃ち車を增し具へ、琅邪王を送り出す、琅邪王既に去る、齊は遂に兵を擧げて西征し、呂氏の國なる濟南を攻む、

【字解】適、嫡なり、關、函谷關なり、濟南、齊の西郡なり、今の山東濟南府なり、呂國、呂后本紀に詳なり、此の段の劉澤事跡は、荊燕世家と異同有り、併せ看るべし、

於是、齊哀王遺諸侯王書曰、高帝平定天下、王諸子弟、悼惠王於齊、悼惠王薨、惠帝使留侯張良立臣爲齊王、惠帝崩、高后用事、春秋高、聽諸呂、擅廢高帝所立、又殺三趙王、滅梁燕趙、以王諸呂、分齊國爲四、忠臣進諫、上惑亂不聽、今高后崩、皇帝春秋

給、欺くなり、

於是、齊王以駟鈞爲相、魏勃爲將軍、祝午爲內史、悉發國中兵、使祝午東詐琅邪王曰、呂氏作亂、齊王發兵、欲西誅之、齊王自以兒子年少不習兵革之事、願擧國委大王、大王自高帝將也、習戰事、齊王不敢離兵、使臣請大王、幸之臨菑、見齊王計事、幷將齊兵以西、平關中之亂、琅邪王信之、以爲然、西馳見齊王、齊王與魏勃等、因留琅邪王、而使祝午盡發琅邪國、而幷將其兵、

【講義】是に於て、齊王は駟鈞を宰相とし、魏勃を將軍とし、祝午を內史とす、乃ち悉く國中の兵を發し、祝午をして東に赴き、琅邪王劉澤を詐らしめて曰く、今や呂氏は亂を作す、齊王は兵を發し西征して、之を誅殺せんと欲す、然るに、齊王は自から謂ふ、身は年少にして、兵事に習はずと、故に、齊國を擧げて、大王に委任せんことを願ふ、大王は高祖の時より將軍たり、戰事に習熟す、齊王は自から大王を訪はんと欲すれども、兵を離るゝ能はず、故に、臣をして大王を迎へしむ、願はくは大王臨菑に往き、齊王に面會して、事を計り、且つ齊兵に將として西征し、關中の亂を平げよと、琅邪王劉澤は之を信じ、西に馳せて齊王に面會す、齊王は魏勃等と謀りて、琅邪王を抑留す、而して祝午を琅邪に遣り、悉く其の兵を發せしめ、且つ之に將たらしむ、

【字解】兒子年少、自から謙して小兒といふなり、兵革、劍類と鎧類となり、臨菑、齊王の首都なり、今の山東靑州府臨菑縣なり、

琅邪王劉澤、旣見欺、不得反國、乃說齊王曰、齊悼惠王、高皇帝

【講義】其の明年、呂太后崩御す、趙王呂祿は上將軍たり、呂王產は相國たり、皆長安の中に居る、因て兵を聚め、以て他の大臣を威嚇し、亂を作さんと欲す、朱虛侯劉章は、呂祿の女を婦とす、故に、呂祿等の逆謀を知る、因て內密に使を發し、長安を出でて其の兄なる齊王に告げしめ、一策を建てたり、蓋し齊王をして、兵を發し西征せしめ、長安に於ては、朱虛侯と東牟侯とが、內應を爲し、以て諸呂を誅殺し、因て齊王を立て、之を皇帝と爲すに在り、

齊王既聞此計、乃與其舅父駟鈞、郎中令祝午、中尉魏勃、陰謀發兵、齊相召平聞之、乃發卒衞王宮、魏勃紿召平曰、王欲發兵、非有漢虎符驗也、而相君圍王、固善、勃請爲君將兵衞衞王、召平信之、乃使魏勃將兵圍王宮、勃既將兵、使圍相府、召平曰、嗟呼道家之言、當斷不斷、反受其亂、乃是也、遂自殺、

【講義】齊王は朱虛侯の計畫を聞き、其の舅氏駟鈞、宮中諸郎官の長祝午及び兵事取締魏勃と共に、密議して、兵を發せんことを謀る、齊の宰相召平は、之を聞き、卒を發して王宮を衞る、魏勃は召平を欺きて曰く、齊王が兵を發せんと欲するも、漢の將軍たる證券を持するに非ず、宰相が王を圍むは、固に善し、勃は請ふ君が爲めに兵衞に將として、王を衞らんと、召平は之を信じ、魏勃に兵を授け、王宮を圍ましむ、勃は既に兵に將たり、乃ち宰相の府を圍む、召平曰く、嗟呼我は誤れり、道家の言に曰く、斷行すべき時に斷行せざれば、却て其の亂を受くと、乃ち是れなりと、遂に自殺す、

【字解】舅父、舅氏なり、母の兄弟なり、郎中令、宮中事務官の長なり、中尉、兵事の取締を爲すものにて、今の中尉と異なり、顯職なり、虎符、將軍の割符なり、

へ、劉章乃ち謳ひて曰く、深く耕して種を繁くす、苗を立つるは疏きを欲む、其の種に非るものは、鋤きて之を去ると、蓋し是れ太后が、呂氏の一族を養成して、呂氏に非るものを除き去ることをいふなり、苗を疏く立つるは、其の成長し易きを圖るなり、太后は之を聞きて默然たり、

【字解】 頤、意なり、而、汝なり、若、汝なり、穊、繁くすること、多く蒔くをいふ、疏、苗と苗との間を廣くして、成長に便ならしむること、

頃之、諸呂有一人醉亡酒、章追、拔劍斬之、而還報曰、有亡酒一人、臣謹行法斬之、太后左右皆大驚、業已許其軍法、無以罪也、因罷、自是之後、諸呂憚朱虛侯、雖大臣、皆依朱虛侯、劉氏爲益彊、

【講義】 時稍移りて、諸呂の中に、醉に勝へず酒を逃れ去るもの一人有り、劉章は之を追ひ、劍を拔きて斬殺す、乃ち宴席に還り、報告して曰く、酒を逃るゝ者一人有り、臣は謹みて法を行ひ、之を斬ると、呂太后及び左右の侍臣は、之を聞きて、皆大に驚く、然れども、既に其の軍法の取締を許可せり、故に、劉章を罰するを得ず、宴席は終れり、是より後に、諸呂は朱虛侯劉章を憚り、大臣も皆劉章に依賴す、劉氏は是に由り强きを加へたり、

其明年、高后崩、趙王呂祿爲上將軍、呂王產爲相國、皆居長安中、聚兵以威大臣、欲爲亂、朱虛侯章、以呂祿女爲婦、知其謀、乃使人陰出告其兄齊王、欲令發兵西、朱虛侯、東牟侯爲內應、以誅諸呂、因立齊王爲帝、

【講義】齊の哀王八年、呂太后は齊の琅邪郡を割き、營陵侯劉澤を立て、琅邪王と爲す、其の明年、趙王劉友は入朝し、其の邸に幽囚せられて死す、三趙王は前後相繼ぎて廢す、呂太后は乃ち諸呂を立て、燕、趙、梁の三王と爲し、三王は權勢を擅にして政事を執りたり、

【字解】三趙王、趙の隱王劉如意、趙の共王劉恢、及び趙の幽王劉友を三趙王と曰ふ、皆高祖の男子なり、

朱虛侯、年二十、有氣力、忿劉氏不得職、嘗入侍高后燕飮、高后令朱虛侯劉章爲酒吏、章自請曰、臣將種也、請得以軍法行酒、高后曰可、

【講義】朱虛侯劉章は、年二十なり、氣力有り、劉氏が顯職を得ざるを忿る、嘗て宮に入り、呂太后に侍して宴飮す、太后は劉章をして、宴席の取締りを爲さしむ、劉章は乃ち請ひて曰く、臣は將軍の家筋なり、故に、軍法を以て酒宴の取締を爲さんと、太后は之を許す、

【字解】燕、宴なり、酒吏、宴席の取締なり、

酒酣、章進飮、歌舞、已而曰、請爲太后言耕田歌、高后兒子畜之、笑曰、顧而父知田耳、若生而爲王子、安知田乎、章曰、臣知之、太后曰、試爲我言田、章曰、深耕穊種、立苗欲疏、非其種者、鉏而去之、呂后默然、

【講義】既にして宴闌なり、劉章は酒を進めて歌舞し、因て呂太后に請ひ曰く、臣は耕田の歌を奏せんと、然るに、太后は本來劉章を小兒として之を養へり、故に、笑ひて曰く意ふに汝の父は田を知るのみ、汝は生れて王の子たり、何ぞ田を知らんや、劉章曰く、臣は之を知る、太后曰く、試に我の爲めに田を言

なり、湯沐邑、其の收入を以て自分の隨意の費用に供する地なり、

悼惠王卽位十三年、以惠帝六年卒、子襄立、是爲哀王、哀王元年、孝惠帝崩、呂太后稱制、天下事皆決於高后、二年、高后立其兄子酈侯呂台、爲呂王、割齊之濟南郡、爲呂王奉邑、

【講義】齊の悼惠王は、其の卽位の十三年、卽ち漢の孝惠帝の六年を以て卒す、子襄立つ、是を哀王と曰ふ、哀王の元年、孝惠帝崩御し、呂太后は制令を行ふ、天下の事は皆呂太后に由りて裁決せらる、哀王の二年、呂太后は其の兄の子酈侯呂台を立てゝ、呂王と爲し、齊王の領分より濟南郡を割き取り、之を呂王の食邑と爲す、

哀王三年、其弟章、入宿衞於漢、呂太后封爲朱虛侯、以呂祿女妻之、後四年、封章弟興居、爲東牟侯、皆宿衞長安中、

【講義】齊の哀王八年、其の弟劉章は、漢宮の宿衞官と爲る、呂太后は之を封じて、朱虛侯と爲し、呂祿の女を以て、其の妻と爲す、其の後四年を經て、劉章の弟齊興居を封じ、東牟侯と爲し、皆長安の中に宿衞たらしむ、

【字解】朱虛、今の山東青州府臨朐縣の東に在り、東牟、今の山東登州府文登縣の西北に在り、宿衞、宮廷を守護する武官なり、

哀王八年、高后割齊琅邪郡、立營陵侯劉澤、爲琅邪王、其明年、趙王友入朝、幽死于邸、三趙王皆廢、高后立諸呂、爲三王、擅權用事、

ざらんや、

【字解】塡、鎭撫するなり、稱孤、王と爲ること、孤は諸侯王の自ら稱する謙語なり、南面、人君の坐位なり、

齊悼惠王世家第二十二

齊悼惠王劉肥者、高祖長庶男也、其母外婦也、曰曹氏、高祖六年、立肥爲齊王、食七十城、諸民能齊言者、皆予齊王、齊王孝惠帝兄也、

【講義】齊の悼惠王劉肥は、漢の高祖の庶子にして、長男なり、其の母は外妾なり、曹氏と曰ふ、高祖の六年に、肥を立て齊王と爲し、七十城を領せしむ、諸民の能く齊國の言語を使ふものは、皆之を齊王に屬せしむ、劉肥は漢の孝惠帝の兄なり、

【字解】外婦、俗に言ふ圍ひ者の類なり、予、與ふなり、

孝惠帝二年、齊王入朝、惠帝與齊王燕飮、亢禮如家人、呂太后怒、且誅齊王、齊王懼不得脫、乃用其內史勳計、獻城陽郡、以爲魯元公主湯沐邑、呂太后喜、乃得辭就國、

【講義】孝惠帝の二年、齊王入朝す、帝は齊王と宴飮す、其の對等の禮は、家人の兄弟の如し、呂太后怒り、齊王を誅殺せんとす、齊王は長安より脫出するを得ざるを恐る、乃ち齊の內史勳の計を以て、其の領分の城陽郡を獻納し、之を呂太后の女なる魯元公主が私有地と爲す、呂太后喜ぶ、齊王乃ち告別して國に就くを得たり、

【字解】燕、宴なり、亢禮、抗禮に同じ、對等の禮なり、君臣の禮に非ること、城陽、今の山東沂州府莒州

以此發覺、詔下公卿、皆議曰、定國禽獸行、亂人倫、逆天、當誅、上許之、定國自殺、國除爲郡、

【講義】 劉澤は燕に王たる二年にして薨ず、諡して敬王と曰ふ、子嘉に傳ふ、嘉を康王と曰ふ、孫定國は位を嗣ぎて、父康王の姫と姦通し、子男一人を生み、弟の妻を奪ひて、姫と爲し、更に子女三人と姦淫す、定國に臣有り、肥如と曰ふ、定國は之を誅殺せんと欲す、肥如の家宰郢人等は定國の荒淫を漢廷に告ぐ、定國は漢宮の地方巡視官に委囑し、他法を以て、郢人を彈劾し、捕縛し、之を撲殺せしめ、以て其の口を滅す、然るに、孝武帝の元朔元年に至り、前年撲殺せられたる郢人の兄弟は、復た漢廷に上書し、委細に定國の陰事を言ふ、是に於て、其の祕密皆發覺す、孝武帝乃ち詔して、其の議を公卿に下す、皆議して曰く、定國は禽獸の如し、其の行ふ所は人倫を亂し、天に逆ひ誅に當ると、帝は之を許す、定國自殺す、燕國は廢せられ、郡と爲る、

【字解】 謁者、宮廷より特に命じて地方を巡視せしめたる謁者なり、是は宮中の近侍なる謁者と異なり、格、撲つなり、

太史公曰、荊王王也、由漢初定天下未集、故劉賈雖屬疎、然以策爲王、塡江淮之間、劉澤之王權激呂氏、然劉澤卒南面稱孤者三世、事發相重、豈不爲偉乎、

【講義】 太史公曰く、荊王劉賈の王たるや、其の功に由るに非ず、漢の帝業始めて成り、天下の人心未だ安集せざるを以てなり、是の故に、劉賈は疏遠なる眷屬なれども、其の時の政策として、之を王に封じ、江淮の間を鎭撫せしめたるなり、燕王劉澤の王たるや、是亦其功に由るに非ず、其時の權宜を以て、呂氏を激せしめ、呂氏の王たる方便に供へたるのみ、然れども、劉澤は竟に南面して、王位に在るもの三世に及ぶ、其の事は呂氏と共に相發して相重んず、豈に偉と爲さ

【字解】 琅邪、今の山東青州府諸城縣なり、

及太后崩、琅邪王澤、乃曰、帝少、諸呂用事、劉氏孤弱、乃引兵與齊王合謀、西欲誅諸呂、至梁、聞漢遣灌將軍屯滎陽、澤還兵備西界、遂跳驅至長安、代王亦從代至、諸將相與琅邪王、共立代王爲天子、天子乃徙澤爲燕王、乃復以琅邪予齊、復故地、

【講義】 既にして呂太后崩御す、琅邪王劉澤曰く、皇帝は幼少なり、呂氏の諸族は政權を執る、劉氏は孤弱なりと、乃ち齊王劉襄と謀を合せて、西征し、諸呂を誅せんと欲し、梁に至る、是の時に當り、漢は將軍灌嬰を遣り、河南の滎陽に屯す、琅邪王劉澤は之を聞き、兵を還して齊の西界に備へ、其の身は長驅して、長安に至る、代王劉恒も代より至る、漢の諸將相は、琅邪王と共に、代王劉恒を立て、孝文帝とす、孝文帝は、乃ち劉澤を徙して、燕王と爲す、琅邪は本來齊王の領地を割きたるものなるを以て、此に至り、復た之を齊王に與へ、其の故の領地を恢復せしむ、

【字解】 跳驅、長驅なり、晝夜を兼ねて急行すること、此の段の記事は、齊の悼惠王世家に對照すれば、異同有り、併せ考察すべし、

澤王燕、二年薨、謚爲敬王、傳子嘉、爲康王、至孫定國、與父康王姬姦、生子男一人、奪弟妻爲姬、與子女三人姦、定國有所欲誅殺臣肥如令郢人、郢人等告定國、定國使謁者以他法劾捕、格殺郢人、以滅口、至元朔元年、郢人昆弟、復上書、具言定國陰事、

后賜張卿千斤金、張卿以其半、與田生、田生弗受、

【講義】張子卿は乃ち呂產を呂王と爲すことに就きて、大臣に暗告し、之を太后に語る、太后は朝に臨みて、之を大臣に問ふ、大臣は呂產を以て呂王に立てんことを請ふ、太后は金千斤を張子卿に賜ふ、張子卿は其の金の半額を割きて、田生に與ふ、然れども田生は之を受けず、

因說之曰、呂產王也、諸大臣未大服、今營陵侯澤、諸劉爲大將軍、獨此尙觖望、今卿言太后、列十餘縣王之、彼得王喜去、諸呂王益固矣、

【講義】田生は其の金を辭謝し、因て張子卿に說きて曰く、呂產は既に王たるも、諸大臣は未だ大に服せず、且つ營陵侯劉澤は、諸劉の中に在れども。大將軍たるのみ、未だ王たらず、獨り此れ觖望す、卿は太后に言ひ、十餘縣を列ねて之を王と爲せよ、劉澤は王たるを得ば、喜びて長安を去り、其の國に就かん、然る時は、諸呂王益〻安全なり、

【字解】觖、缺くるなり、觖望は不平の貌なり、

張卿入言、太后然之、乃以營陵侯劉澤、爲琅邪王、琅邪王乃與田生之國、田生勸澤、急行毋留、出關、太后果使人追止之、已出、卽還、

【講義】張子卿は乃ち宮に入り、之を太后に言上す、太后は之を善しとす、因て營陵侯劉澤を琅邪王に封ず、琅邪王は田生と共に國に就かんとす、田生は澤に勸め急行せしめ、滯留すること無からしむ、劉澤田生は既に函谷關を出でたり、田生の豫想に違はず、太后は人をして劉澤を追ひ止めしむ、然れども、既に遠く去りたるを以て、太后の使は空しく引き還したり、

太后春秋長、諸呂弱、太后欲立呂産、爲呂王、王代、太后又重發之、恐大臣不聽、今卿最幸、大臣所敬、何不風大臣、以聞太后、太后必喜、諸呂已王、萬戸侯亦卿之有、太后心欲之、而卿爲内臣、不急發、恐禍及身矣、張卿大然之、

【講義】既にして宴闌なり、田生は酒席の侍者を退去せしめ、内密に張子卿に説きて曰く、臣は長安に入りて、諸侯王の邸宅を観るに、百餘有り、皆高祖の一樣なる功臣なり、然れども、呂氏は關係尤も深し、呂氏は本來高祖の微賤なる時より、之を推し進めて、天下の大業を成さしめたり、其の功は甚だ大なり、且つ呂太后に親戚としての尊き家筋なり、今や呂太后は年老いて、呂氏の諸族は微弱なり、故に、太后は呂産を立て、呂王と爲し、代國を領ぜしめんと欲す、而して太后は之を發言するを憚る、蓋し大臣が之を聽かざるを心配すればなり、是の時に當り、卿は最も太后に寵幸せられ、大臣に敬畏せらる、故に卿は何ぞ此の呂産を代王に封ずる事を以て、大臣に知らしめ、之を太后に奏上せざるか、卿が之を計畫せば、太后は必らず喜ばん、斯くして、呂氏の諸家が既に王と爲らば、萬戸侯の榮爵も、卿の手中に歸せん、今や太后は心中に之を希望するも、卿は内侍の臣たり、太后は卿に顧慮して發せざるのみ、卿が急に此の事を發表せざるときは、卿の身に禍の至らんことを恐ると、張子卿は傾聽して、大に之を道理有る言と思惟したり、

【字解】屏、遠く斥くるなり、一切、一樣といふ如し、同樣の意なり、雅故、素なり、推轂、車を推して前進せしむること、就、成なり、親戚、父母なり、重、憚なり、風、暗に告げて之を知らしむること、

乃風大臣、語太后、太后朝、因問大臣、大臣請立呂産爲呂王、太

干營陵侯澤、澤大說之、用金二百斤、爲田生壽、田生已得金、卽歸齊、

【講義】呂后が政を行ふ時に、營陵侯劉澤は長安に在り、齊人田生は、長安に游學して資金に窮す、乃ち計畫の術を以て、劉澤の採用を求む、劉澤は大に之を悅び、金二百斤を以て、田生の壽を爲す、田生は既に金を得たり、直に齊に歸り去る、

【字解】畫、畫策して事を成すこと、說、悅ぶなり、斤、十六兩の目方なり、二百斤は三千二百兩の目方となる、卽、直になり、田生、名を春秋と曰ふ、

二年、澤使人謂田生曰、弗與矣、田生如長安、不見澤、而假大宅、令其子求事呂后所幸大謁者張子卿、居數月、田生子請張卿臨、親修具、張卿許往、田生盛帷帳共具、譬如列侯、張卿驚、

【講義】既にして二年を過ぐ、田生の消息無し、劉澤は人をして田生に謂はしめて曰く、復た我と交らざるかと、田生は之を聽き、直に長安に往き、劉澤を訪はずして、廣大なる邸宅を借り、之に住居し、吾子をして緣故を求め、呂后の寵幸する大侍從張子卿に事へしむ、其の後、兩三月を經て、田生の子は、張子卿に來臨を請ひ、親から接待の具を整ふ、張子卿は往くことを許す、田生乃ち帷帳供具を盛に飾る、其の華美は列侯の邸の如し、張子卿は驚嘆す、

【講義】弗與、黨與に爲らずといふ意なり、汝は我と交誼を絕つかといふが如し、大謁者、近侍の頭役なり、居、其の後なり、

酒酣、乃屏人、說張卿曰、臣觀諸侯王邸第、百餘、皆高祖一切功臣、今呂氏雅故本推轂高帝、就天下、功至大、又親戚太后之重、

との兩國と爲す、是の時に當り、高祖は其の子幼少なり、其の兄弟多からず、且つ賢ならず、因て同姓の人を王と爲して、天下を鎭撫せんと欲す、乃ち詔して曰く、將軍劉賈は功有り、尙此の外に、劉氏の子弟にして王と爲すべきものを選定せよと、群臣皆曰く、劉賈を立て、荊王と爲し、淮東五十二城に王とせん、高祖の弟交を立て、楚王と爲し、淮西三十六城に王とせんと、因て其の言の如くす、更に高祖の長庶子肥を立て、齊王と爲す、此に始めて、兄弟劉氏を王と爲したるなり、

【字解】 荊王、吳に都す、楚王、彭城に都す、昆弟、兄弟なり、

高祖十一年秋、淮南王黥布反、東擊荊、荊王賈與戰不勝、走富陵、爲布軍所殺、高祖自擊破布、十二年、立沛侯劉濞、爲吳王、王故荊地、

【講義】 漢の十一年秋、淮南王黥布は亂を作し、東に進みて荊王劉賈を擊つ、劉賈は戰ひて勝たず、楚の富陵に走る、遂に黥布の軍に殺されたり、漢の高祖は親征して、黥布を擊破し、明年沛侯劉濞を立て、吳王と爲し、故の荊王劉賈の領地に王たらしむ、

〇燕王劉澤者、諸劉遠屬也、高帝三年、澤爲郎中、

【講義】 燕王劉澤は、諸劉の中に在り、疎遠なる眷屬なり、漢の高祖の三年、劉澤は郎中の官たり、宮中に事務を執り、未だ顯れず、

高帝十一年、澤以將軍擊陳豨、得王黃、爲營陵侯、

【講義】 漢の高祖の十一年、劉澤は將軍と爲り、陳豨を擊ち、其の將王黃を獲たり、功を以て、齊の營陵に侯と爲る、

【字解】 營陵、今の山東靑州府昌樂縣に屬す、

高后時、齊人田生游之資、以畫

間招楚大司馬周殷、周殷反楚、佐劉賈、擧九江、迎武王黥布兵、皆會垓下、共擊項籍、

【講義】漢の五年、漢王は項籍を追ひ、陳州の固陵に至り、劉賈をして南征し、淮水を渡り、壽春を攻め圍ましむ、既にして劉賈は還り至る、漢は更に人をして、內密に楚の大司馬周殷を招かしむ、周殷は乃ち楚に叛き、劉賈を佐けて、九江郡を取り、淮南の武王黥布が兵を迎へ、皆沛郡の垓下に會し、相共に項籍を擊つ、

【字解】固陵、今の河南陳州淮寧縣に屬す、壽春、今の安徽鳳陽府壽州に在り、大司馬、將軍なり、九江、今の安徽鳳陽府に屬す、垓下、沛郡の洨縣に在り、今の江蘇徐州府沛縣に屬す、

漢王因使劉賈將九江兵、與太尉盧綰、西南擊臨江王共尉、共尉已死、以臨江爲南郡、

【講義】漢王乃ち劉賈をして九江郡の兵に將とし、太尉盧綰と共に西南に進み、臨江王共尉を擊たしむ、共尉は敗死す、因て臨江を以て南郡と爲す、

【字解】臨江、今の江西臨江府に屬す、

漢六年春、會諸侯於陳、廢楚王信、囚之、分其地、爲二國、當是時也、高祖子幼、昆弟少、又不賢、欲王同姓、以鎭天下、乃詔曰、將軍劉賈有功、及擇子弟可以爲王者、群臣皆曰、立劉賈爲荊王、王淮東五十二城、高祖弟交爲楚王、王淮西三十六城、因立子肥爲齊王、始王昆弟劉氏也、

【講義】漢の六年春に、高祖は諸侯を陳に會す、遂に楚王韓信を囚へて之を廢し、其の地を分ちて、荊と楚

荊燕世家第二十一

荊王劉賈、諸劉者不知其何屬、初起時、漢王元年、還定三秦、劉賈爲將軍、定塞地、從東擊項籍、

【講義】荊王劉賈は、諸劉の中に在り、其の何れの眷屬なるかを詳にせず、初めて起りたる時は、漢王の元年に當る、漢王が南鄭より還りて、雍、塞、翟の三王を征服する時に、劉賈は將軍と爲り、塞王の地を平定し、遂に漢王に從ひて東征し、項籍を擊つ、

【字解】荊王、淮東五十二城の王にして、吳に都す、

漢四年、漢王之敗成皐、北渡河、得張耳韓信軍、軍脩武、深溝高壘、使劉賈將二萬人騎數百、渡白馬津、入楚地、燒其積聚、以破其業、無以給項王軍食、已而楚兵擊劉賈、賈輒壁、不肯與戰、而與彭越相保、

【講義】漢の四年に、漢王は成皐に敗れ、北に去り、黃河を渡り、張耳、韓信の軍を得て、脩武に陣し、溝を深くし、壘を高くし、以て自から防守す、乃ち劉賈をして步卒二萬人、騎兵數百を引率し、白馬津を渡り、楚地に入り、楚の畜積したる穀物を燒き、楚の民業を破り、以て項王に糧食を供給するを得ざらしむ、既にして、楚兵は劉賈を擊つ、劉賈は壁を堅く守りて、戰ふことを爲さず、彭越と相依りて、楚を防ぎ、自から保つ、

【字解】成皐、今の河南開封府汜水縣なり、脩武、今の河南懷慶府修武縣なり、白馬津、河南衞輝府滑縣の北に在り、

漢五年、漢王追項籍、至固陵、使劉賈南渡淮、圍壽春、還至、使人

月に及ぶ、吳楚の兵は梁に於て敗走し、遂に西進する能はず、匈奴は之を聞きて軍を止め、漢の國境に入ることを承諾せず、趙は孤立と爲る、

欒布自破齊還、乃幷兵引水灌趙城、趙城壞、趙王自殺、邯鄲遂降、趙幽王絕後、

【講義】漢の將軍欒布は、齊を破りて還り、趙に至る、乃ち酈寄と兵を合せ、水を引きて趙城に灌ぐ、城壞れ、劉遂自殺し、邯鄲降る、是に於て、趙の幽王は其の後を絕ちたり、

太史公曰、國之將興、必有禎祥、君子用而小人退、國之將亡、賢人隱、亂臣貴、使楚王戊毋刑申公、遵其言、趙任防與先生、豈有簒殺之謀、爲天下僇哉、賢人乎、賢人乎、非質有其內、惡能用之哉、甚矣、安危在出令、存亡在所任、誠哉是言也、

【講義】太史公曰く、國の興らんとするときには、必らず吉瑞有り、君子は用ひられて、小人は退く、之に反して國の亡びんとするときには、賢人隱れ去り、亂臣貴く進む、若しも楚王茂をして申公を罪せず、申公の言ふ所に遵はしめ、趙王遂をして防與先生に委任せしめば、豈に簒殺の逆謀を起さんや、豈に天下の誅戮に遭ふこと有らんや、賢人なるかな、賢人なるかな、國は賢人を要す、然れども、其の國君が自身に於て、其の賢人の質を備ふるに非ざる時は、何ぞ能く賢人を用ひんや、甚しいかな、昔人の語に、安危は政令を發するに由りて分れ、存亡は任用する所に由りて判ると曰ふ、此の言は誠に至當なり、

【字解】禎祥、吉瑞なり、簒、君の位を奪ふこと、僇、戮なり、誅殺をいふ、質、身の本質なり、內、心なり、惡、何ぞなり、

孝文帝即位、二年立遂弟辟彊、取趙之河間郡、爲河間王、以爲文王、立十三年卒、子哀王福立、一年卒、無子、絶後、國除、入于漢、

【講義】漢の孝文帝即位の二年、趙王遂の弟辟彊を立て、趙の河間郡を取り、河間王と爲す、是を河間の文王と曰ふ、其の立つ十三年にして卒す、子無し、後を絶つ、河間の國は除かれ、漢に入る、

遂既王趙、二十六年、孝景帝時坐晁錯、以適削趙王常山之郡、呉楚反、趙王遂與合謀起兵、其相建德、内史王悍諫、不聽、遂燒殺建德、王悍、發兵、屯其西界、欲待呉與倶西、北使匈奴與連和、攻漢、

【講義】劉遂は既に趙に王たり、二十六年にして、孝景帝の時に至る、内史晁錯の計策に罹り、法の適用を以て、趙の常山郡を削らる、此の時に、呉楚の叛亂有り、劉遂は乃ち呉楚と謀を合せ、兵を起す、趙の宰相建德趙の内史王悍は、之を諫む、然れども劉遂は聽かず、建德、王悍を燒殺し、兵を發して趙の西界に屯し、呉兵の來るを待ち、共に西征せんと欲す、且つ北方に於ては、匈奴と連和し、以て漢を攻めんと欲す、

【字解】坐、計策に罹ること、適、法の適用なり、罪過有るものとして、之を法に問ふこと、

漢使曲周侯酈寄擊之、趙王遂還城守邯鄲、相距七月、呉楚敗於梁、不能西、匈奴聞之、亦止、不肯入漢邊、

【講義】漢は曲周侯酈寄をして趙を擊たしむ、趙王劉遂は乃ち西界より還り、邯鄲を城守すること七個

弟なる德侯の子を以て、吳を續がしめんと欲し、且つ楚の元王の子禮を以て、楚を續がしめんと欲す、然るに、竇太后曰く、吳王は老人なり、漢の宗家の爲めに從順なるべき身分なり、今や首魁と爲り、七國を率ゐて、天下を攪亂す、何ぞ其の後を續ぐを要せんと、竟に吳を許さず、獨り楚の後を立つるを許す、是の時に、元王の子禮は、漢廷に仕へて宗正の官たり、乃ち禮を擧げて楚王と爲し、元王の宗廟を奉ぜしむ、是を楚の文王といふ、

【字解】七國、吳、楚、趙の三王、及び齊に於ける膠西、膠東、菑川、濟南の四王是れなり、宗正、皇族の取締り官なり、

文王立三年卒、子安王道立、安王二十二年卒、子襄王經立、襄王立十四年卒、子王純代立、王純立、地節二年中、人上書、告楚王謀反、王自殺、國除、入漢、爲彭城郡、

【講義】楚の文王は三年にして卒す、子安王道立つ、二十二年にして卒す、子襄王經立つ、十四年にして卒す、子王純は代り立つ、孝宣帝の地節二年中に、人有り上書して、楚王謀反すと告ぐ、王純自殺し、楚國は廢せられ、漢に入り、彭城郡と爲る、

○趙王劉遂者、其父高祖中子、名友、謚曰幽、幽王以憂死、故爲幽、高后王呂祿於趙、一歲而高后崩、大臣誅諸呂呂祿等、乃立幽王子遂、爲趙王、

【講義】趙王劉遂は、漢の高祖の中子劉友の子なり、劉友は謚して幽王といふ、其の幽囚せられ、憂を以て死したるに由るなり、呂后は呂祿を趙に王とす、一年にして呂后崩御す、漢廷の大臣は呂祿等諸呂を誅殺す、乃ち幽王劉友の子遂を立てゝ趙王と爲す、

海郡、春、戊與吳王合謀反、其相張尙、太傅趙夷吾諫、不聽、

【講義】漢の高祖の六年、既に陳に於て楚王韓信を虜にす、乃ち高祖の季弟劉交を以て、楚王と爲し、彭城に都す、楚王交は二十三年にして卒す、子夷王郢立つ、四年にして卒す、子王茂立つ、王茂の二十年冬に、王茂は薄太后の喪に服しながら、內密に姦淫を行ひ、無禮なりとの罪に當り、東海郡を削られたり、其の明年春に、王茂は吳王と謀を合せて叛亂す、其の宰相張尙、及び太傅趙夷吾は、之を諫む、然れども、王茂は聽かず、

戊則殺尙、夷吾、起兵、與吳西攻梁、破棘壁、至昌邑南、與漢將周亞夫戰、漢絕吳楚糧道、士卒飢、吳王走、楚王戊自殺、軍遂降漢、

【講義】楚王茂は、遂に其の宰相張尙、及び其の太傅趙夷吾を殺して、兵を起し、吳軍と共と西征して、梁を攻め、棘壁を破り、昌邑の南に至る、乃ち漢の將軍周亞夫と戰ふ、漢は吳楚の糧道を絕つ、吳楚の士卒皆飢ゆ、吳王敗走し、楚王戊自殺す、吳楚の軍は漢に降る、

【字解】棘壁、今の河南歸德府寧陵縣に在り、昌邑、今の山東曹州府城武縣の東北に在り、今の昌邑縣に非ず、

漢已平吳楚、孝景帝、欲以德侯子續吳、以元王子禮續楚、竇太后曰、吳王老人也、宜爲宗室順善、今乃首率七國、紛亂天下、奈何續其後、不許吳、許立楚後、是時、禮爲漢宗正、乃拜禮爲楚王、奉元王宗廟、是爲楚文王、

【講義】漢は既に吳楚を平定す、孝景帝は吳王濞の

怨其嫂、

【講義】漢の高祖は兄弟四人なり、高兄を伯と曰ふ、伯は早く卒す、是より先に、高祖は微賤なる時に、嘗て事を避け出遊し、時時賓客と共に、嫂丘氏を訪ひて食す、嫂は高祖を厭ふ、或る日高祖が客を伴ひ來る、嫂は佯りて羹盡きたるが如くし、釜を摩り鳴す、此に由り、賓客皆去る、既にして高祖は釜中を視れば、羹猶存す、高祖は此の故を以て嫂を怨む、

【字解】蚤、早くなり、辟、避くるなり、巨、丘に作るべし、丘は嫂の氏なり、嫂、長兄伯の妻なり、叔、高祖なり、伯仲叔季の序にて、高祖を指す、詳、佯なり、櫟、杓を以て釜を摩り鳴すこと、

及高祖爲帝、封昆弟、而伯子獨不得封、太上皇以爲言、高祖曰、某非忘封之也、爲其母不長者耳、於是乃封其子信、爲羹頡侯、而王次兄仲於代、

【講義】既にして高祖は帝と爲り、兄弟を封じ王侯とす、然るに、長兄伯の子は獨り封を得ず、太上皇は之が爲めに言ふ、高祖曰く、邦は之を封ずるを忘れたるに非ず、其の母の無慈悲なるが爲めのみと、是に於て、長兄伯の子信を封じて、羹頡侯と爲す、而して次兄劉仲を代國に王とす、

【字解】昆弟、兄弟なり、某、高祖の答ふるには、自分の實名を稱したることとなれども、史臣の記するときに、之を避けて某の字を用ひたるのみ、故に邦と見るべし、長者、徳厚きものなり、不長者、無慈悲なるものをいふ、羹頡、山の名なり、高祖が羹の事を思ひて、此の稱を與へたるのみ、

高祖六年、已禽楚王韓信於陳、乃以弟交爲楚王、都彭城、卽位二十三年卒、子夷王郢立、夷王四年卒、子王戊立、王戊立二十年冬、坐爲薄太后服私姦、削東

【講義】其の後、孝武帝は閒暇の時に、侍臣に問ひ曰く、鉤弋に就て、人の評判は如何と、侍臣對へて曰く、人は言ふ、帝は其の子を立てんとす、何ぞ其の母を去つるかと、帝曰く、其の疑問は一理有り、然れども、是れ兒輩愚人の能く知る所に非ず、往古國家の亂れたる所以は、何ぞや、蓋し其の時の人主が幼少にして、其の母が壯健なり、女主が獨身にして驕傲なり、自から淫亂を恣にし、之を能く禁制するもの無し、是れ國家の亂れたる所以なり、汝は呂后の事を聞かざるかと、

【字解】云何、如何なり、蹇、傲なり、

故諸爲武帝生子者、無男女、其母無不譴死、豈可謂非賢聖哉、昭然遠見、爲後世計慮、固非淺聞愚儒之所及也、謚爲武、豈虛哉、

【講義】是の故に、孝武帝の爲めに子を生みたる諸姫は、其の子の男なると女なるとに拘らず、皆譴責せられて死す、孝武帝は此の如く國亂を防ぐことに意を用ひたり、豈に賢聖に非ずと謂ふべけんや、蓋し昭然として遠く察し、後世の爲めに計慮す、固に淺聞なる愚儒の及ぶ所に非ず、其の謚して孝武と曰ふ、豈に虛ならんや、

楚元王世家第二十

楚元王劉交者、高祖之同母少弟也、字游、

【講義】楚の元王劉交は、漢の高祖の同母季弟なり、字を游と曰ふ、

高祖兄弟四人、長兄伯、伯蚤卒、始高祖微時、嘗辟事、時時與賓客過巨嫂食、嫂厭叔、叔與客來、嫂詳爲羹盡、櫟釜、賓客以故去、已而視釜中、尚有羹、高祖由此、

武帝意欲立少子也、

【講義】衞太子據の廢せられたる後、未だ太子を立てず、然るに、燕王旦は孝武帝の第二子なるを以て、上書し曰く、願くは國に歸り宮に入り、宿衞せんと、孝武帝怒り、直に其の使者を北闕の下に斬る、既にして帝は甘泉宮に居り、畫工を召し之に命じて周公が周の幼君成王を負ふ所の圖畫を作らしめたり、是に於て、左右の侍臣及び群臣は、帝の意が末子を立つるに在るを知れり、

【字解】燕王旦、衞太子據の外に、齊王閎、昌邑王賀、廣陵王胥等有り、皆孝武帝の子なり、而して燕王旦は衞太子據の次に當る、北闕、漢の宮城の正門なり、少子、末子なり、

後數日、帝譴責鉤弋夫人、夫人脫簪珥、叩頭、帝曰、引持去、送掖庭獄、夫人還顧、帝曰、趣行、女不得活、夫人死雲陽宮、時暴風揚塵、百姓感傷、使者夜持棺往葬之、封識其處、

【講義】成王の圖成りて、後數日、孝武帝は鉤弋夫人を譴責す、夫人は簪珥を脫ぎ棄て、叩頭し、謝罪す、帝は侍臣に命じて曰く、引き持し去れ、此の女を後庭の牢獄に送れと、夫人は去らんとして顧視す、帝曰く、疾く行け、汝は生存するを許さずと、夫人は竟に雲陽宮に死す、是の時に當り、暴風は塵を吹き揚げ、衆民は感傷す、使者は夜中に棺を持し、往きて之を葬り、土を封ひて其の塚を表したり、

【字解】簪珥、髮挿と耳飾となり、掖庭、宮殿の後庭なり、趣、疾なり、女、汝なり、

其後、帝閒居、問左右曰、人言云何、左右對曰、人言且立其子、何去其母乎、帝曰、然、是非兒曹愚人所知也、往古國家所以亂也、由主少母壯也、女主獨居、驕蹇、淫亂、自恣、莫能禁也、女不聞呂后耶、

ら其の及ばざるを痛嘆したり、故に、諺に曰く、美女が室に入るは、醜女の仇なり、

【字解】 俛、俯なり、諺、世俗の語なり、惡、醜なり、

褚先生曰、浴不必江海、要之去垢、馬不必騏驥、要之善走、士不必賢世、要之知道、女不必貴種、要之貞好、傳曰、女無美惡、入室見妒、士無賢不肖、入朝見疾、美女者、惡女之仇、豈不然哉、

【講義】 褚先生曰く、浴は江海を必要とせず、其の要は垢を去るに在り、馬は千里の駿足を必要とせず、其の要は善く走るに在り、士は賢智なるを必要とせず、其の要は道義を知るに在り、女は貴種を必要とせず、其の要は貞好なるに在り、書傳に曰く、女は其の美なると醜なるとに拘らず、室に入れば、他の女に妬まる、而して士は其の賢なると愚なるとに拘らず、官に就けば疾まる、蓋し美女は、惡女の仇なりと、豈に然らざらんや、

【字解】 不必、或はなり、或は江海を要する こと有り、或は江海を要せざること有り、是れ不必江海なり、必不と異なり、之、浴なり、以下の之は、皆此の例に従ふ、騏驥、一日に千里を走る馬なり、

鉤弋夫人、姓趙氏、河間人也、得幸武帝、生子一人、昭帝是也、武帝年七十、乃生昭帝、昭帝立、時年五歳耳、

【講義】 鉤弋夫人は、姓趙氏なり、趙の河間の人なり、孝武帝に寵幸せられ、一男を生む、孝昭帝是なり、孝武帝は年七十にして、孝昭帝を生む、孝昭帝は僅に五歳にして即位す、

【字解】 鉤弋、此の夫人は生れて後に、其の握りたる手を披けば、玉鉤有り、遂に其の居る所の宮を鉤弋と稱す、河間、今の直隷河間府河間縣なり、

衛太子廢後、未復立太子、而燕王旦上書、願歸國入宿衛、武帝怒、立斬其使者於北闕、上居甘泉宮、召畫工、圖畫周公負成王也、於是左右羣臣、知

石、容華秩比二千石、婕妤秩比列侯、常從婕妤遷爲皇后、

【講義】孝武帝の時に、夫人尹婕妤を寵愛す、別に邢夫人有り、娙娥と號す、衆人は之を娙何と稱す、娙何の秩祿は中二千石に比す、容華の秩祿は眞二千石に比す、是れ郡守に同じ、娙何の上に在り、而して婕妤の秩祿は、列侯に比す、是れ容華の上に在り、女官は常に婕妤より遷りて、皇后となる、

【字解】婕妤、容華、娙何、皆宮女の官名なり、

尹夫人與邢夫人同時、並幸、有詔不得相見、尹夫人自請武帝、願望見邢夫人、帝許之、卽令他夫人、飾從御者數十人、爲邢夫人、來前、尹夫人前見之曰、此非邢夫人身也、

【講義】尹夫人は邢夫人と時を同くす、並びに寵幸せらる、然れども、詔有り、兩夫人の相見るを許さず、尹夫人は自から孝武帝に請ひ、邢夫人を望見せんことを願ふ、帝は之を許し、卽ち他の夫人をして盛裝せしめ、侍者數十人を從へ、邢夫人として來り進ましむ、尹夫人は進み之を見て曰く、此れ邢夫人の實物に非ずと、

【字解】爲、擬ぬる意味なり、前、進むなり、

帝曰、何以言之、對曰、視其身貌形狀、不足以當人主矣、於是、帝乃詔、使邢夫人衣故衣、獨身來前、尹夫人望見之曰、此眞是也、於是、乃低頭俛而泣、自痛其不如也、諺曰、美女入室、惡女之仇、

【講義】孝武帝曰く、何を以て其の實物に非るを知るかと、尹夫人對へて曰く、其の身貌形狀を視るに、以て人主の愛に當るに足らずと、是に於て帝は詔し、邢夫人をして舊く汚れたる衣を着け、從者無く、獨身にて來り進ましむ、尹夫人は之を望見して曰く、此れ眞に邢夫人なりと、乃ち頭を低れ、俯して泣き、自か

に長安在住の諸侯中より、其の夫と爲るべきものを選び議す、侍臣皆曰く、大將軍可ならん、

【字解】 尙、天子の女を迎へて、臣下の妻とすること、

主笑曰、此出吾家、常使令騎從我出入耳、奈何用爲夫乎、左右侍御者曰、今大將軍姊爲皇后、三子爲侯、富貴振動天下、主何以易之乎、

【講義】 平陽公主は之を聞き笑ひて曰く、大將軍衞青は我家より出身したり、常に騎兵を使令し、我に從ひ出入したるのみ、何ぞ夫と爲すに足らんやと、左右の侍臣曰く、然りと雖も、今や大將軍は顯要に在り、其の姊は皇后たり、其の三子は列侯たり、其の富貴は天下を振動す、公主は何を以て之を輕視するを得んと、

於是、主乃許之、言之皇后、令白之武帝、乃詔衞將軍、尙平陽公主焉、

【講義】 是に於て、平陽公主は之を許す、之を皇后に言ひ、皇后より孝武帝に言上せしむ、帝乃ち衞將軍に詔し、平陽公主を娶らしむ、

褚先生曰、丈夫龍變傳曰、蛇化爲龍、不變其文、家化爲國、不變其姓、丈夫當時富貴、百惡滅除、光耀榮華、貧賤之時、何足累之哉、

【講義】 褚先生曰く、丈夫龍變傳に云ふ、蛇は化して龍と爲るも、其の文彩を變ぜず、家は化して國と爲るも、其の姓氏を變ぜずと、蓋し丈夫は、其の時に於て富貴なれば、百惡は滅び除かれ、榮華に耀くを得べし、其の貧賤の時の如きは、何ぞ其の富貴の時の價を減ずるに足らんや、

【字解】 累之、其の價値を減損することなり、累は煩し害すること、

武帝時、幸夫人尹婕妤、邢夫人號娙娥、衆人謂之娙何、娙何秩比中二千

禮待し、平陽、南宮、林慮の三公主を召し、共に來りて長姊に謁見せしむ、因て長姊を修成君と號す、修成君には、一男一女有り、男は修成子仲と稱す、女は諸侯王の王后と爲る、此の男女は劉氏に非ず、此の故を以て、太后は之を憐む、而して修成子仲は驕恣なり、吏民を凌辱す、故に吏民は之を厄介者として憂苦したり、

【字解】　陵折、凌辱なり、犯し挫きて、之を辱しむること、

衞子夫立爲皇后、后弟衞靑字仲卿、以大將軍封爲長平侯、四子、長子伉爲侯世子、侯世子常侍中、貴幸、其三弟皆封爲侯、各千三百戶、一曰陰安侯、二曰發干侯、三曰宜春侯、貴震天下、天下歌之曰、生男無喜、生女無怒、獨不見衞子夫霸天下、

【講義】　衞子夫は皇后と爲る、其の弟衞靑は字を仲卿と曰ふ、大將軍に任ぜられ、長平侯に封ぜらる、衞靑は四子有り、長子伉は其の嗣子と爲る、常に宮中に侍して、貴幸せらる、其の三弟は皆封ぜられて、侯と爲り、各千三百戶を領す、第二子を陰安侯と曰ひ、第三子を發干侯と曰ひ、第四子を宜春侯と曰ふ、其の尊貴なることは、天下に震ふ、故に、天下の士民は之を歌ひ曰く、男を生むも喜ぶ勿れ、女を生むも怒る勿れ、獨り衞子夫が天下に霸たるを見ざるかと、

【字解】　世子、華族の嗣子なり、一、第二子なり、以下此の順序にして下る、長平、前段に解せり、陰安、今の直隸大名府淸豐縣の北に在り、發干、今の山東東昌府堂邑縣の西南に在り、宜春、今の河南汝寧府汝陽縣の西南に在り、是れ江西の宜春に非ず、

是時、平陽主寡居、當用列侯尙主、主與左右議長安中列侯可爲夫者、皆言大將軍可、

【講義】　是の時に當り、平陽公主は獨身なり、諸侯をして其の夫と爲らしむべし、公主は左右の侍臣と共

宮、行詔門、著引籍、通到謁太后、太后曰、帝倦矣、何從來、帝曰、今者至長陵、得臣姊、與俱來、顧曰、謁太后、

【講義】　孝武帝は車を下り泣きて曰く、嗟大姊何ぞ其れ隱るゝことの深きやと、乃ち詔して之を副車に乘らしめ、共に馳せ還りて、長樂宮に入る、其の途中より守門者に詔し、通行券を着けしめ、遂に到りて太后に謁見す、太后曰く、帝疲勞したり、何處より來ると、孝武帝曰く、今日長陵に至り、臣の姊を得て、共に來ると、乃ち其の伴ひ來れる金氏の女を顧みて曰く、太后に拜謁せよと、

【字解】　嚄、嗟なり、驚き嘆ずる貌なり、廻車、歸路に向ふこと、引籍、通行の門券なり、

太后曰、女某邪、曰是也、太后爲下泣、女亦伏地泣、武帝奉酒前爲壽、奉錢千萬、奴婢三百人、公田百頃、甲第以賜姊、太后謝曰、爲帝費焉、

【講義】　太后は其の女を視て曰く、吾女某かと、女對へて曰く、是れなり、太后は爲めに堂を下り泣く、女も地に伏し泣く、孝武帝は酒を奉じ進みて、壽賀を爲し、錢千萬、奴婢三百人、公田一萬坪及び上等の邸を以て、金氏の女に賜ふ、太后謝して曰く、洵に帝の費を致せりと、

【字解】　某、其の女の實名を呼びたるものなれども、臣の記するときに、之を避けて某の字を用ひたるのみ、頃、一百畝なり、故に、一萬坪となる、甲第、城下に於ける上等の邸なり、

於是、召平陽主、南宮主、林慮主三人、俱來謁見姊、因號曰修成君、有子、男一人、女一人、男號爲修成子仲、女爲諸侯王王后、此二子非劉氏、以故、太后憐之、修成子仲、驕恣陵折吏民、皆患苦之、

【講義】　是に於て、孝武帝は金氏の女を長姊として

之、在其家、

【講義】王太后が民間に在る時に生みたる女有り、其の女の父を金王孫と曰ふ、金王孫は既に死す、孝景帝崩御の後に、孝武帝立つ、而して王太后は獨り居る、未だ其の女を推擧するもの有らず、韓王孫嫣と曰ふもの有り、素より孝武帝に寵愛せらる、故に、韓王は帝の閒暇の時を伺ひ、奏して曰く、太后は女有り、長陵に居ると、帝曰く何ぞ早く之を告げざるかと、乃ち使臣を發遣し、先づ之を視察せしむ、其の女が家に居るを確め得たり、

武帝乃自往迎取之、蹕道、先驅旄騎、出橫城門、乘輿馳至長陵、當小市西、入里、里門閉、暴開門、乘輿直入此里、通至金氏門外、止、使武騎圍其宅、爲其亡走身自往取不得也、卽使左右羣臣入呼求之、家人驚恐、女亡匿內中牀下、扶持出門、令拜謁、

【講義】孝武帝は乃ち自から往き迎へて之を取らんとす、其の道筋は人民の通行を止め、先驅の騎兵は大旗を建てゝ、渭水に臨める橫城門を出づ、天子の車は馳せて長陵に至り、小市の西に當り、金氏の里に入る、里門閉ぢたり、俄に之を推し開き、天子の車は直に此の里に入る、遂に通過して、金氏の門外に至り止る、乃ち武騎をして金氏の宅を圍ましむ、是れ其の女が逃げ走らんことを恐れ、且つ天子親から往きながら取るを得ざるを掛念したればなり、卽ち左右の侍者群臣をして、金氏の宅に入り、呼びて之を求めしむ、家人驚き恐る、其の女は逃げ隱れ、其の室內の牀下に潛む、因て之を扶け出し、門外に來り、孝武帝に拜謁せしむ、

【字解】蹕道、人民の通行を止むるなり、旄騎、天子の旗を建て行く騎兵なり、橫城門、漢の北西に向ひたる宮門にして、此より渭水の橋に進むなり、乘輿、天子の車駕なり、

武帝下車泣曰、嚄大姊何藏之深也、詔副車載之、廻車馳還、而直入長樂

族滅し、後に其の家を憐む、乃ち李廣利を海西侯に封ず、

【字解】 昌邑、今の山東萊州府昌邑縣なり、族、父母妻の三族夷滅なり、夷と稱するに同じ、大宛、西南夷中の一國なり、大宛傳に詳なり、海西、大宛に近き地を指す、是れ江蘇の海西は非ず、

他姫子二人、爲燕王、廣陵王、其母無寵、以憂死、及李夫人卒、則有尹婕妤之屬、更有寵、然皆以倡見、非王侯有土之女士、不可以配人主也、

【講義】 孝武帝の姫妾の中にて、前に記したるものの、外に、兩皇子を生みたる李姫有り、一男を旦といふ、燕王と爲り、一男を胥といふ、廣陵王と爲る、此兩王の母は寵無く、憂を以て死す、李夫人の歿後に、尹婕妤の輩有り、更に寵有り、然れども皆俳優を以て謁見す、是れ王侯有土の女士に非ず、人主の配遇と爲すに足らざるなり、

【字解】 廣陵、今の江蘇揚州府に屬す、婕妤、女官の名なり、以上の文を以て、薄太后、竇太后、王太后、衞皇后及び他姫を錄す、是れ太史公の筆とす、以下の文は、褚少孫の增補に係る、

褚先生曰、臣爲郎時、問習漢家故事者鍾離生、曰、

【講義】 褚先生曰く、臣は嘗て郎官たる時に、漢家の故事に習熟したる鍾離生といふものより聞くを得たり、其の言は左の如し、

【字解】 郎、郎官なり、宮中の事務官なり、曰、鍾離生の言なり、

王太后在民間時所生子女者、父爲金王孫、王孫已死、景帝崩後、武帝已立、王太后獨在、而韓王孫名嫣、素得幸武帝、承間白、言太后有女、在長陵也、武帝曰、何不早言、乃使使往先視

侯と爲る、

【字解】長平、今の河南汝寧府に屬す、趙の名高き長平に非ず、襁褓、幼兒の寢衣なり、

及衞皇后所謂姊衞少兒、少兒生子霍去病、以軍功封冠軍侯、號驃騎將軍、靑號大將軍、立衞皇后子據爲太子、衞氏枝屬、以軍功起家、五人爲侯、

【講義】其の外に衞皇后の稱する所の姊衞少兒といふもの有り、少兒は子霍去病を生む、去病は軍功を以て、冠軍侯に封ぜられ、驃騎將軍と號す、衞靑は大將軍と號す、衞皇后の子據は太子と爲る、衞氏の支族は、軍功を以て家を起し、侯と爲るもの五人有り、

【字解】冠軍、今の河南南陽府に屬す、

及衞后色衰、趙之王夫人幸、有子、爲齊王、王夫人早卒、而中山李夫人有寵、有男一人、爲昌邑王、李夫人早卒、其兄李延年以音幸、號協律、協律者故倡也、兄弟皆坐姦族、是時其長兄廣利爲貳師將軍、伐大宛、不及誅、還、而上既夷李氏、後憐其家、乃封爲海西侯、

【講義】衞皇后の色衰へたる後に、趙の王夫人は寵幸せられ、子有り齊王と爲る、王夫人は早く卒す、而して中山の李夫人寵幸せられ、男子一人有り、昌邑王と爲る、李夫人早く卒す、其の兄なる李延年音樂を以て寵幸せられ、協律と號す、協律とは故の俳優なり、然れども李延年は、其の弟と共に姦の罪を以て、宗族皆殺されたり、是の時に唯獨り其の長兄李廣利は、貳師將軍と爲り、大宛を伐ち出征中にして誅殺を免れたり、既にして李廣利還り至る、孝武帝は既に李氏を

皇后とす、皇后の姓は陳氏なり、子無し、然れども、孝武帝が皇嗣と爲るを得たるは、長公主の力に依ること多し、此の故を以て、陳皇后は子無しと雖も、驕傲なり、衞子夫が寵幸の厚きを聞き、陳皇后は怒りて死せんとすること屢なり、帝愈怒る、既にして陳皇后は、婦人の呪詛の術を行ひ、衞子夫を害せんと圖る、其の事頗る發覺す、是に於て、陳皇后は廢せられ、衞子夫は皇后と爲る、

【字解】 大長公主、長公主嫖なり、孝武帝より見れば、大長公主となる、媚道、婦人が他の婦人を呪詛すること、恚、怒るなり、

陳皇后母大長公主、景帝姊也、數讓武帝姊平陽公主曰、帝非我不得立、已而棄捐吾女、壹何不自喜、而倍本乎、平陽公主曰、用無子故廢耳、陳皇后求子、與醫錢凡九千萬、然竟無子、

【講義】 陳皇后の母なる大長公主嫖は、孝景帝の姊なり、幾度も孝武帝の姊なる平陽公主を責めて曰く、帝は我力に依るに非れば立つを得ず、然るに、既に即位して吾女を棄つ、何ぞ其れ自から喜ばずして、本に背くことの甚しきやと、平陽公主曰く、子無きを以て廢せられたるのみと、是より先に陳皇后は、子を求め、醫に錢を與ふること凡そ九千萬に及べり、然れども、竟に子を得ずして廢せらるゝに至れり、

【字解】 讓、責むるなり、捐、捨つるなり、倍、背くなり、用、以てなり、

衞子夫已立爲皇后、先是衞長君死、乃以衞青爲將軍、擊胡有功、封爲長平侯、青三子在襁褓中、皆封爲列侯、

【講義】 衞子夫は既に立ちて皇后と爲る、是より先に皇后の兄なる衞長君は死せり、乃ち其の弟なる衞青を以て將軍と爲す、青は胡を伐ち功有り、長平侯に封ぜらる、青の三子は皆幼少なれども、封ぜられて列

車に上る、公主は子夫の背を拊ちて曰く、好く行け、善く飯せよ、之を勉めよ、若しも貴くならば、我を忘るゝ勿れと、遂に宮に入る、然れども、一年餘を過ぎて、竟に復た寵幸せられず、

【字解】尙衣、衣を掌る女官なり、軒、車なり、驩、歡ぶなり、千斤、一萬六千兩の目方なり、彊飯、健康にして善く食すること、

武帝擇宮人不中用者、斥出歸之、衞子夫得見涕泣、請出、上憐之、復幸、遂有身、尊寵日隆、召其兄衞長君弟靑、爲侍中、而子夫後大幸有寵、凡生三女一男、男名據、

【講義】孝武帝は後宮の姬妾の中に就きて、其の用に適せざるものを擇び、之を斥け出して、家に歸らしむ、衞子夫は謁見するを得て涕泣し、出で去らんことを請ふ、帝は之を憐み、復た寵幸し、遂に懷妊す、尊寵せらるゝこと日に隆し、衞子夫の兄なる衞長君、及び其の弟なる衞靑は、竝びに召し出されて、侍從長たり、而して子夫は、其後大に寵幸せられ、三女一男を生む、其の男を據と命名す、

初上爲太子時、娶長公主女爲妃、立爲帝、妃立爲皇后、姓陳氏無子、上之得爲嗣、大長公主有力焉、以故陳皇后驕貴、聞衞子夫大幸、恚幾死者數矣、上愈怒、陳皇后挾婦人媚道、其事頗覺、於是廢陳皇后、而立衞子夫爲皇后、

【講義】是より先に、孝武帝は太子として長公主嫖の女を娶り、妃と爲す、其の帝位に卽くに及び、妃を

家號曰衞氏、出平陽侯邑、子夫爲平陽主謳者、

【講義】衞皇后は字を子夫と曰ふ、其の出身は微賤なり、蓋し其の家は衞氏と號す、平陽侯の領邑より出づ、而して子夫は平陽公主に侍する歌姬たり、

【字解】平陽公主、王太后の長女なり、故に孝武帝の姉なり、其の夫を平陽侯曹壽と曰ふ、平陽は今の山西平陽府に屬す、

武帝初卽位、數歲無子、平陽主求諸良家子女十餘人、飾置家、武帝祓霸上還、因過平陽主、主見所侍美人、上弗說、既飮、謳者進、上望見、獨說衞子夫、

【講義】孝武帝は位に卽きて數年、未だ子を得ず、平陽公主は諸良家の子女十餘人を求め、之を飾りて家に置く、一日孝武帝は霸水に臨みて、三月上巳の祭を行ひ、其の歸途平陽公主の家に至る、公主は近侍の美人を進む、然れども、帝は悅ばず、宴酣なり、歌姬出で來る、帝望見して獨り衞子夫を悅ぶ、

【字解】祓、水に臨みて邪を祓ふ、三月上巳の祭儀なり、說、悅ぶなり、

是日、武帝起更衣、子夫侍尙衣、軒中得幸、上還坐、驩甚、賜平陽主金千斤、主因奏子夫、奉送入宮、子夫上車、平陽主拊其背曰、行矣、彊飯、勉之、卽貴無相忘、入宮、歲餘竟不復幸、

【講義】是の日、孝武帝は宴席より起ちて衣を改む、衞子夫は衣を掌る爲めに帝に侍し、其の衣車の中に於て寵幸せられたり、帝は宴席に復り坐し、歡ぶこと甚し、乃ち平陽公主に金千斤を賜ふ、是に由り、公主は衞子夫を奏し進む、遂に奉送して宮に入る、子夫は

【字解】蓋、カフと讀む、今の山東沂州府沂水縣の西北に在り、平原、今の山東濟南府平原縣なり、武安、今の河南彰德府武安縣なり、周陽、今の山西絳州に屬す、

景帝十三男、一男爲帝、十二男皆爲王、而兒姁早卒、其四子皆爲王、

【講義】孝景帝に男子十三人有り、一男は孝武帝と爲す、十二男は皆王と爲る、而して王太后の妹なる兒姁は早く卒す、其の四子は皆王と爲る、

王太后長女、號曰平陽公主、次爲南宮公主、次爲林慮公主、蓋侯信好酒、田蚡、勝貪、巧於文辭、

【講義】王太后の長女は平陽公主と號す、第二女を南宮公主と曰ひ、第三女を林慮公主と曰ふ、王太后の兄なる蓋侯王信は酒を好む、王太后の弟なる田蚡、田勝は、財物を貪る、然れども、文辭に巧なり、

王仲早死、葬槐里、追尊爲共侯、置園邑二百家、及平原君卒、從田氏、葬長陵、置園、比共侯園、而王太后後孝景帝十六歲、以元朔四年崩、合葬陽陵、王太后家、凡三人爲侯、

【講義】王太后の父なる王仲は早く死し、槐里に葬る、追尊して共侯と曰ふ、其の塚に附屬の園邑二百家を置く、其の後王太后の母なる平原君臧兒卒す、乃ち田氏の塚に從ひ、長陵に葬る、其の園邑を置くこと共侯に於ける如し、而して王太后は孝景帝に後るゝ十六年、孝武帝の元朔四年を以て崩御す、孝景帝の陽陵に合葬す、王太后の家は、侯と爲るもの三人なり、

○衞皇后、字子夫、生微矣、蓋其

んと欲す、然れども、其の計は未だ定らず、

王夫人知帝望栗姬、因怒未解、陰使人趣大臣立栗姬爲皇后、大行奏事、畢曰、子以母貴、母以子貴、今太子母無號、宜立爲皇后、景帝怒曰、是而所宜言邪、遂案誅大行、而廢太子、爲臨江王、

【講義】王夫人は孝景帝が栗姬を怨みて、其の怒りの未だ解けざるを知り、乃ち內密に人をして大臣を催促せしめ、栗姬を皇后に立てしめんと圖る、是に於て、大禮の長官は宮中の大事を奏上し畢り曰く、子は母を以て貴し、母は子を以て貴し、今や太子の母は尊號無し、之を立て皇后と爲すべしと、孝景帝は之を聞きて怒り曰く、是れ汝の言ふべき所ならんやと、遂に其の罪を問ひ調べて、大禮の長官を誅殺し、太子榮を廢して江西の臨江王と爲す、

【字解】趣、ウナガスと訓ず、催促すること、大行、大禮執行の長官なり、而、汝なり、案、取調ぶるなり、

栗姬愈恚恨、不得見、以憂死、卒立王夫人爲皇后、其男爲太子、封皇后兄信爲蓋侯、景帝崩、太子襲號爲皇帝、尊皇太后母臧兒爲平原君、封田蚡爲武安侯、勝爲周陽侯、

【講義】太子榮の廢せられたるに及びて、栗姬は愈怒り恨む、然れども、帝に謁するを得ず、遂に憂を以て死す、帝乃ち王夫人を皇后と爲し、其の男子を太子と爲す、皇后の兄なる王信を封じて蓋侯とす、孝景帝崩御し、太子は號を襲ぎ皇帝と爲る、是に於て、天日の夢は其の實現を致せり、孝武皇帝は、王太后の母臧兒を尊びて、之を平原君とす、而して臧兒の子田蚡を封じ、武安侯とし、蚡の弟田勝を周陽侯とす、

の時に當り、孝景帝の後宮に於ける諸美人は、皆長公主に因り、帝に謁し、其の貴幸を得たることは、栗姫よりも過ぎたり、故に栗姫は日に怨怒し、遂に長公主に謝絕したり、是に於て、長公主は其の女を王夫人の男子に與へんと欲す、王夫人は之を承諾したり、

【字解】 過、踰ゆるなり、勝る意味なり、予、與ふるなり、

長公主怒、而日讒栗姫短於景帝、曰、栗姫與諸貴夫人幸姫會、常使侍者祝唾其背、挾邪媚道、景帝以故望之、

【講義】 長公主は栗姫の拒絕を怒りて、日に栗姫の缺點を孝景帝に讒言す、曰く、栗姫は諸貴夫人及び寵幸の姫と相會合し、侍者をして木像を祭らしめ、其の木像の背に唾し、以て邪なる媚ぶる事を行ひ、人を呪詛すと、孝景帝は此の故を以て、栗姫を怨望したり、

【字解】 媚道、婦人が他の婦人を呪詛すること、

景帝、常體不安、心不樂、屬諸子爲王者於栗姫、曰、百歲後善視之、栗姫怒、不肯應、言不遜、景帝恚、心嗛之、而未發也、

【講義】 孝景帝は病身にして、常に樂まず、諸子にして王と爲りたるものを、栗姫に囑托して曰く、我の死後には、汝善く之を視よと、栗姫は之を聞きて怒り、應答するを嫌ひ、其の言甚だ不敬なり、帝は忿恚し、心中に之を銜み、未だ其の怒を發表せず、

【字解】 恚、憤怒なり、嗛、銜むなり、

長公主日譽王夫人男之美、景帝亦賢之、又有曩者所夢日符、計未有所定、

【講義】 長公主は日に王夫人の男子の美なるを譽む、孝景帝も此の兒を賢なりと思惟す、且つ前年王夫人が天日を夢みたる符驗有り、故に、此の兒を引立て

【講義】王夫人が懷妊して未だ男子を生まざるに當り、王夫人は天日が其の懷に入ることを夢みたり、乃ち太子に告ぐ、太子曰く、此れ貴き徵驗なりと、其の兒の未だ生れざる時に孝文帝崩御し、太子即位して孝景帝と爲る、王夫人は男を生む、是れ異日の孝武帝なり、

先是、臧兒又入其少女兒姁、兒姁生四男、

【講義】臧兒の長女なる王夫人が孝武帝を生むに先だちて、臧兒は別に其の次女兒姁を太子の宮に入らしむ、兒姁は四男を生む、

景帝爲太子時、薄太后以薄氏女爲妃、及景帝立、立妃曰薄皇后、皇后無子、無寵、薄太后崩、廢薄皇后、

【講義】孝景帝が太子たりし時に、薄太后は薄氏の女を以て妃と爲す、帝位に即くに及び、妃を立て皇后とす、然れども、此の薄皇后は子無く、寵を得ず、既にして薄太后崩御し、薄皇后は廢せられたり、

景帝長男榮、其母栗姬、栗姬齊人也、立榮爲太子、

【講義】孝景帝に長男有り、榮と曰ふ、榮の母を栗姬と曰ふ、栗姬は齊人なり、孝景帝は榮を立てゝ太子と爲す、

長公主嫖有女、欲予爲妃、栗姬妬、而景帝諸美人、皆因長公主見景帝、得貴幸、皆過栗姬、栗姬日怨怒、謝長公主、不許、長公主欲予王夫人、王夫人許之、

【講義】竇太后の女なる長公主嫖は女有り、之を太子に與へて妃と爲さんと欲す、然るに、太子の母なる栗姬は、長公主の貴幸なるを妬みて、之を許さず、是

【字解】東宮、竇太后の宮なり、太子の宮に非ず、竇太后、竇后、竇姬、皆同一の人なり、

○王太后、槐里人、母曰臧兒、臧兒者、故燕王臧荼孫也、臧兒嫁爲槐里王仲妻、生男、曰信、與兩女、而仲死、臧兒更嫁長陵田氏、生男蚡勝、臧兒長女、嫁爲金王孫婦、生一女矣、

【講義】王太后は秦の槐里の人なり、母を臧兒と曰ふ、臧兒は故の燕王臧荼の孫なり、臧兒は嫁して槐里の王仲が妻と爲り、一男と兩女とを生む、男を信と命名す、而して王仲死す、臧兒は更に咸陽長陵の田氏に嫁し、兩男を生む、蚡と曰ひ、勝と曰ふ、臧兒の長女は嫁して金王孫の婦と爲り、一女を生む、

【字解】槐里、今の陝西西安府興平縣の東南に在り、長陵、今の陝西西安府咸陽縣の東北に在り、兩女、長は王太后なり、次は兒姁と曰ふ、

而臧兒卜筮之、曰、兩女皆當貴、因欲奇兩女、乃奪金氏、金氏怒、不肯予決、乃內之太子宮、太子幸愛之、生三女一男、

【講義】然るに、臧兒は卜筮に問ひて、兩女の貴くなるべきを知り、兩女を奇貨として我の手に握らんと欲し、曩に金王孫に嫁したる長女を奪ひ還さんと圖る、金王孫は之を怒りて承諾せず、因て其の婦卽ち臧兒の長女なる王夫人を、太子の宮に入らしむ、太子は之を寵愛し、三女一男を生む、

【字解】予、與ふるなり、婦を還す意味なり、

男方在身時、王美人夢日入其懷、以告太子、太子曰、此貴徵也、未生、而孝文帝崩、孝景帝卽位、王夫人生男、

り、效、倣ふなり、長者、德行高き人なり、

竇皇后病失明、文帝幸邯鄲愼夫人尹姫、皆毋子、孝文帝崩、孝景帝立、乃封廣國、爲章武侯、長君前死、封其子彭祖、爲南皮侯、

【講義】竇皇后は病みて盲者と爲り、孝文帝は邯鄲の愼夫人及び尹姫を寵愛す、然れども、皆子無し、既にして孝文帝崩御し、孝景帝立つ、乃ち竇少君を封じて章武侯と爲す、竇長君は曩に死せり、因て其の子彭祖を封じて、南皮侯と爲す、

【字解】章武、南皮、共に趙の一地なり、竇氏は趙人なるを以て、趙の地方に封ぜられたるなり、章武は、今の直隷天津府滄州の東北に在り、南皮は、今の直隷天津府南皮縣なり、

吳楚反時、竇太后從昆弟子竇嬰、任俠自喜、將兵以軍功、爲魏其侯、竇氏凡三人爲侯、

【講義】吳楚七國叛亂の時に、竇太后の從昆弟の子なる竇嬰は、任俠の行を以て自から得意とし、兵に將と爲り、軍功有り、魏其侯に封ぜらる、故に、竇氏の宗族は侯と爲るもの、凡そ三人有り、

【字解】從昆弟、從兄及び從弟なり、

竇太后好黃帝老子言、帝及太子諸竇、不得不讀黃帝老子、尊其術、竇太后後孝景帝六歲、建元六年崩、合葬霸陵、遺詔盡以東宮金錢財物、賜長公主嫖、

【講義】竇太后は黃帝老子の言を好む、故に、孝景帝及び太子諸竇は、皆黃老の書を讀まざるを得ず、黃老の術を尊ばざるを得ず、竇太后は孝景帝崩御より後るゝこと六年、孝武帝の建元六年を以て崩御す、孝文帝の霸陵に合葬す、遺詔して盡く東宮の金錢財物を長公主嫖に賜ふ、

持之而泣、泣涕交横下、侍御左右、皆伏地泣、助皇后悲哀、乃厚賜田宅金錢、封公昆弟、家於長安、

【講義】孝文帝は又復た問ひ曰く、其の外には何を以て驗と爲すかと、竇少君對へて曰く、姉は我を去て西行する時に、驛舍の中に於て、我と訣別したり、別に臨みて、姉は驛吏に水を乞ひ、我を沐せしめ、食を乞ひ、我に飯せしめ、然る後に出立したりと、是に於て、竇皇后は少君を抱持して泣き、涕涙横流す、左右の侍御者も、皆地に伏して泣き、皇后の悲哀を助く、乃ち厚く田宅金錢を賜ひ、竇皇后の兄弟を封侯として、長安に家せしむ、

【字解】決、訣なり、傳、テンと讀む、驛なり、丏沐、丐沐に作るべし、水を乞ふこと、沐、頭及び面を洗ふなり、公昆弟、皇后の兄弟なり、

絳侯灌將軍等曰、吾屬不死、命乃且縣此兩人、兩人所出微、不可不爲擇師傅賓客、又復效呂氏大事也、於是、乃選長者、士之有節行者、與居、竇長君、少君、由此爲退讓君子、不敢以尊貴驕人、

【講義】漢廷の元勳なる絳侯周勃灌將軍等は、外戚の權勢を憂慮して曰く、吾輩が生存する間は、此の竇長君竇少君兩人に依りて運命を制せられんとす、兩人の出身は微賤なり、其の師傅賓客となるべきものを擇びて、之を敎導せざるべからず、苟くも此に意を用ひざるときは、復た呂氏の如き大事を生ずるに至らんと、是に於て、德行高きもの、及び士の節義を守るものを選び、竇氏の兄弟と共に居らしむ、此に由り、此の兄弟兩人は、退讓の君子と爲り、敢て外戚の尊貴を以て、人に驕ることを爲さず、

【字解】且、將なり、縣、懸るなり、傳、附き添の役な

十餘家、至宜陽、爲其主入山作炭、寒臥岸下、百餘人、岸崩、盡壓殺臥者、少君獨得脫、不死、自卜、數日當爲侯、從其家之長安、

【講義】竇皇后に兄弟有り、兄を竇長君と曰ひ、弟を竇廣國字少君と曰ふ、竇少君齡四五歳の時に、貧窮なるに由り、人に掠め取られ、奴隷の如く轉賣せらる、竇氏の家にては、竇少君の居處を知らず、少君は十餘家を轉旋して、河南の宜陽に至り、其の主人の爲めに、山に入り炭を作る、嚴寒に遭ひ、岸下に臥す、忽ち岸崩れて、臥者百餘人盡く壓殺せらる、少君獨り脫出するを得て死せず、因て試に卜筮したるに、數日の中に封侯を獲べしと云ふ、乃ち其の主人の家族に從ひ、長安に往く、

【字解】略、掠め取るなり、自、因てなり、

聞竇皇后新立、家在觀津、姓竇氏、廣國去時雖小、識其縣名及姓、又常與其姊、採桑墮、用爲符信、上書自陳、竇皇后言之於文帝、召見問之、具言其故、果是、

【講義】竇少君は曩に觀津の地を去るに當り、幼少なれども、其の縣名及び自分の姓氏を識る、又其の觀津に在りて、姊と共に桑の葉を採り、樹上より落ちたる事有り、是れ記憶の驗たり、今や長安に來りて、聞く所に依れば、竇皇后は新に立ち、其の故の家は觀津に在り、姓は竇氏なりと、因て我姊なるを知り、書を獻じ自から陳述す、竇后皇は之を孝文帝に言上す、孝文帝乃ち之を召し見て、尋問す、竇少君は委細に其の事情を奏上す、果して皇后の弟なり、

【字解】常、嘗なり、用、以てなり、具、詳悉なり、

又復問他何以爲驗、對曰、姊去我西時、與我決於傳舍中、丐沐沐我、請食飯我、乃去、於是竇后

【講義】代王は漢廷より來れる宮女五人を見て、獨り竇姬を寵愛す、遂に女嫖を生み、後に兩男子を生む、而して代王の王后は男四人を生む、代王が未だ帝と爲らざる時に、王后は先づ卒す、其の生みたる男子四人も、皆病死す、

孝文帝立數月、公卿請立太子、而竇姬長男最長、立爲太子、立竇姬爲皇后、女嫖爲長公主、其明年、立少子武爲代王、已而又徙梁、是爲梁孝王、

【講義】代王は漢宮に入り、孝文帝と爲る、既に數月を經たり公卿は太子を立てんと請ふ、此の時に、竇姬の長男は、年最も長じたり、乃ち立てゝ太子と爲し、竇姬を皇后とし、女嫖を長公主とす、其の明年、末子武を立て代王とす、既にして武は梁に遷る、是を梁の孝王と曰ふ、

【字解】長公主、天子の長女を稱す、徙、遷るなり、

竇皇后親早卒、葬觀津、於是薄太后乃詔有司、追尊竇后父爲安成侯、母曰安成夫人、令清河置園邑二百家、長丞奉守、比靈文園法、

【講義】竇皇后の父母は早く卒し、趙の清河郡觀津に葬る、其の皇后と爲るに及びて、薄太后は當該の官吏に詔し、竇皇后の父を追尊して、安成侯と爲し、其の母を安成夫人と曰ふ、趙の清河の郡に命じて、竇氏の園邑二百家を置き、其の郡の長官次官等をして、安成侯夫妻の塚を奉守せしむ、薄太后の父母なる靈文侯夫妻の園法と同一にす、

竇皇后兄竇長君、弟曰竇廣國、字少君、少君年四五歲時、家貧、爲人所略賣、其家不知其處、傳

○竇太后、趙之清河觀津人也、呂太后時、竇姬以良家子入宮、侍太后、太后出宮人、以賜諸王、各五人、竇姬與在行中、

【講義】竇太后は、趙の清河郡觀津の人なり、呂太后が政事を行ふ時に當り、竇姬は良家の子なるに由り、漢宮に入り、呂太后に侍す、太后は諸國の王に宮女を賜ふ、毎國五人なり、竇姬は其の人數の中に在り、

竇姬家在清河、欲如趙近家、請其主遣宦者吏、必置我籍趙之伍中、宦者忘之、誤置其籍代伍中、籍奏、詔可、當行、竇姬涕泣、怨其宦者、不欲往、相彊、乃肯行、至代、

【講義】竇姬の家は趙の清河に在り、故に趙に往きて家に近かんことを希望す、乃ち宮女發遣の掛り役なる內侍者に請ひ、曰く、必らず我の名を趙へ出發する人數の中に置けよと、然るに、內侍者は之を忘れ、誤りて竇姬の名を代國出張の簿中に列したり、其の名簿は奏聞を經て裁可せられ、出發に臨む、竇姬は涕泣し、其の掛り役なる內侍者を怨みて、往くを嫌ふ、然れども、强ひて勸められ、之を承諾し、遂に代國に至る、

【字解】主遣、宮女出張の事を取り扱ふこと、宦者吏、宮內の侍從職にして吏務を取るもの、彊、無理に勸めること、

代王獨幸竇姬、生女嫖、後生兩男、而代王王后生四男、先代王未入立爲帝、而王后卒、後代王立爲帝、而王后所生四男、更病死、

陽北亦置靈文侯夫人園、如靈文侯園儀、

【講義】 薄太后の母なる魏媼も、亦曩に死し、陝西櫟陽縣の北に葬る、今や魏媼の孫は天子なるを以て、薄太后は薄父を追尊し、靈文侯と爲す、會稽郡には園邑三百家を置き、其の郡の長官次官以下の諸吏をして、會稽縣檝山に於ける薄父の塚を奉守せしめ、其の靈廟に物を供へて祭ること、法の如くす、而して櫟陽に於ける魏媼の塚も、靈文侯夫人の園邑と稱するものを置き、薄父の園邑に於ける儀式の如くす、

薄太后以爲母家魏王後、早失父母、其奉薄太后、諸魏有力者、於是召復魏氏、及尊賞賜、各以親疏受之、薄氏侯者凡一人、

【講義】 薄太后は自から謂ふ、我母の家は魏王の裔なり、然るに、早く父母を失ひ、流離艱難せりと、是に於て、魏氏の諸族多年薄太后を奉じ力を盡したるものは、皆之を召し出し、魏氏に復姓せしめ、之を尊貴にし、且つ賞賜を加ふ、其の親近と疎遠との區別に從ひて、之を待遇す、薄氏にして侯と爲りたるは、凡そ一人なり、

薄太后後文帝二年、以孝景帝前二年崩、葬南陵、以呂后會葬長陵、故特自起陵、近孝文皇帝霸陵、

【講義】 薄太后は孝文帝の崩御より後るゝこと二年、孝景帝の第二年を以て崩御す、南陵に葬る、曩に呂后が高祖の長陵に合葬したるを以て、薄太后は特に自から陵を起し、孝文帝の霸陵に近き南方に之を造りたり、

【字解】 前二年、孝景の第二年なり、孝景は一代の中に改元すること兩度有りしを以て、初度の第二年を前二年と稱したるなり、

せられて、男子を生む、是を代王とす、其の後、薄姫は漢王に謁見すること稀なり、

【字解】 漢王、高帝、高祖、皆漢高を稱す、徵、兆驗なり、女、汝なり、

高祖崩、諸御幸姫戚夫人之屬、呂太后怒、皆幽之、不得出宮、而薄姬以希見故、得出、從子之代、爲代王太后、太后弟薄昭、從如代、

【講義】 高祖崩御の後に於て、其の寵幸を蒙りたる諸姫戚夫人の類は、呂太后の怒りに遭ひ、皆幽閉せられ、宮を出づるを得ず、然るに、薄姫は高祖に謁見すること稀なりしに由り、宮を出づるを得たり、因て其の子に從ひ、代國に往き、代王の太后と爲る、而して此の薄太后の弟薄昭も、從ひ代國に往きたり、

代王立十七年、高后崩、大臣議立後、疾外家呂氏彊、皆稱薄氏仁善、故迎代王、立爲孝文皇帝、而太后改號、曰皇太后、弟薄昭封爲軹侯、

【講義】 代王立ちて十七年に、呂后崩御す、漢廷の大臣は、天子を立てんことを議す、從來外戚呂氏の強きを惡む、故に皆薄氏の仁にして善きを稱す、是に於て、代王を迎へ立てゝ孝文皇帝とす、而して薄太后を皇太后と稱す、薄太后の弟薄昭は、軹侯に封ぜらる、

【字解】 軹、故の魏の領内に在り、今の河南懷慶府濟源縣の南に在り、薄太后は、魏王の血筋なるを以て、此に弟を封じたるなり、

薄太后母亦前死、葬櫟陽北、於是、乃追尊薄父、爲靈文侯、會稽郡置園邑三百家、長丞已下吏、奉守冢、寢廟上食、祠如法、而櫟

豹已死、漢王入織室、見薄姬有色、詔内後宮、歲餘不得幸、

【講義】魏王豹は既に國を失ひて、後に死す、漢王は織物の室に入り、薄姬を見て、其の容色有るを喜び、乃ち詔して薄姬を後宮に入らしむ、一年餘を經て、未だ寵幸せられず、

始姬少時、與管夫人、趙子兒相愛、約曰、先貴無相忘、已而管夫人、趙子兒、先幸漢王、漢王坐河南宮成皐臺、此兩美人相與笑薄姬初時約、漢王聞之、問其故、兩人具以實告漢王、

【講義】是より先に、薄姬は年若き時に於て、管夫人及び趙子兒と相親しむ、薄姬は此兩女に約して曰く、先づ貴くなるも、相互に舊交を忘るゝ無からんと、蓋し薄姬が自身先づ貴くなりて、此の兩女を援助せんとする意なり、然るに、其の後、管夫人及び趙子兒は、薄姬を超えて、先づ漢王に寵幸せられたり、一夕、漢王は河南宮の成皐臺に坐す、管夫人趙子兒の兩美人は、相共に薄姬が當初の約を笑ふ、漢王は之を聞き、其の故を問ふ、兩美人は委細に其の事實を漢王に告げたり、

漢王心慘然憐薄姬、是日召而幸之、薄姬曰、昨暮夜、妾夢蒼龍據吾腹、高帝曰、此貴徵也、吾爲女遂成之、一幸生男、是爲代王、其後薄姬、希見高祖、

【講義】漢王は兩美人の言を聞き、心中慘然として薄姬の不遇を憐む、此の日直に召して、之を寵愛す、薄姬曰く、昨夕、妾は夢に蒼龍來りて、吾腹に據ると感じたりと、漢王曰く、貴き兆驗の夢なり、余は汝の爲に遂に其の夢を成就せしめんと、乃ち一たび寵幸

【字解】 誘、祐くるなり、導き援くること、

○薄太后父、呉人、姓薄氏、秦時與故魏王宗家女魏媼通、生薄姫、而薄父死山陰、因葬焉、及諸侯畔秦、魏豹立爲魏王、而魏媼内其女於魏宮、

【講義】 薄太后の父は、呉人なり、姓を薄氏と曰ふ、秦の時に故の魏王の宗家の女なる魏媼と私通し、薄姫を生む、而して薄父死す、山陰會稽縣の檝山に葬る、既にして、諸侯は秦に叛き、魏豹は立ちて魏王と爲る、魏媼乃ち薄姫を魏宮に入らしむ、

【字解】 宗家、本家筋なり、媼、老女なり、

媼之許負所、相、相薄姫、云、當生天子、是時項羽方與漢王、相距滎陽、天下未有所定、豹初與漢撃楚、及聞許負言、心獨喜、因背漢而畔、中立、更與楚連和、漢使曹參等撃虜魏王豹、以其國爲郡、而薄姫輸織室、

【講義】 魏媼は、許老婦の家に往き、薄姫の人相を問ふ、許老婦曰く、薄姫は天子を生むべしと、是の時に當り、項羽は漢王と滎陽に對陣し、天下未だ定る所有らず、魏王豹は初に於て、漢と結び楚を撃ちしも、許老婦が薄姫を鑑定したる言を聞くに及び、豹自身が天子の父たるべきを想ひ、其の心中獨り喜ぶ、因て漢に背きて中立し、更に楚と連和す、既にして漢は曹參等を發遣し、魏王豹を撃ちて之を捕虜にし、其の國を以て郡と爲す、而して薄姫は、織物の室に入り、女工を勤む、

【字解】 許負、許氏の老婦なり、此の時代の異女なり、負は老婦を稱す、輸、イタスと讀む、往きて務に服するなり、

女爲孝惠皇后、呂太后以重親故、欲其生子、萬方終無子、詐取後宮人子爲子、

【講義】呂后の長女は、宣平侯張敖の妻と爲り、張敖の女は孝惠皇后と爲る、呂后は重ねたる緣組の故を以て、孝惠皇后が子を生むことを希望し、其の思慮を萬方に盡せども、終に子無し、乃ち詐りて宮中姬妾の子を取り、孝惠の子と稱したり、

及孝惠帝崩、天下初定、未久繼嗣不明、於是貴外家、王諸呂、以爲輔、而以呂祿女爲少帝后、欲連固根本、牢甚、然無益也、

【講義】既にして、孝惠帝崩御す、此の時に當り、天下平定の後、未だ久しからず、帝位の繼嗣、未だ明ならず、是に於て、外戚の家を貴くし、諸の呂氏を王と爲し、以て天子の輔佐とし、呂祿の女を以て、少帝の后と爲し、根本を連結して、堅牢なるを致さんと企畫したり、然れども、竟に其の效果を得ず、

【字解】少帝、前段に孝惠の子と詐り稱したるもの、

高后崩、合葬長陵、祿産等懼誅、謀作亂、大臣征之、天誘其統、卒滅呂氏、唯獨置孝惠皇后居北宮、迎立代王、是爲孝文帝、奉漢宗廟、此豈非天邪、非天命孰能當之、

【講義】呂后崩御し、高祖の長陵に合葬す、呂祿、呂産等は誅を懼れ、亂を作すを謀る、大臣は之を征討す、天は漢の皇統を祐けて、竟に呂氏を滅す、唯獨り孝惠皇后を置きて、北宮に居らしめ、代王を迎へ立て、是を孝文帝と爲し、漢の宗廟を奉ぜしむ、此れ豈に天命に非ずや、天命に非ずんば、誰か能く之を當らん、

【字解】妃匹、ハイヒツと讀む、配偶なり、夫婦を指す、驩、歡なり、情愛をいふ、子姓、子孫なり、

孔子罕稱命、蓋難言之也、非通幽明之變、惡能識乎性命哉、

【講義】孔子は性命の理を言ふこと稀なり、蓋し之を述ぶることを愼みたればなり、天地幽明の理に精通するに非ずんば、何ぞ性命の玄微を語るを得んや、

【字解】罕、稀なり、難、憚るなり、惡、何ぞなり、

太史公曰、秦以前尚略矣、其詳靡得而記焉、

【講義】太史公曰く、秦より以前は、事古し、史傳に略す、其の詳細は記識するを得べからず、漢に就きて、后妃の事跡を視るに、以て天命の理を知るに足る、

【字解】尙、ヒサシと訓す、古きこと、靡、無しなり、

○漢興、呂娥姁爲高祖正后、男爲太子、及晩節、色衰愛弛、而戚夫人有寵、其子如意、幾代太子者數矣、及高祖崩、呂氏夷戚氏、誅趙王、而高祖後宮、唯獨無寵疏遠者、得無恙、

【講義】漢興りて、呂娥姁は高祖の正后たり、其の男子は太子たり、然れども、呂娥姁は年老いて、色衰へ愛弛ぶ、而して戚夫人は高祖の寵愛を蒙り、其の子なる趙王如意は、殆んど太子に代らんとすること屢なり、既にして高祖崩御し、呂氏は戚夫人を殺し、其の族を夷滅し、趙王如意を誅殺す、是に於て、高祖後宮の姫妾は、唯獨り寵幸を承けざるもの、及び疏遠なるものが、無事なるを得たり、

【字解】娥姁、呂后の字なり、晩節、晩年なり、弛、弛に同じ、

呂后長女、爲宣平侯張敖妻、敖

故易基乾坤、詩始關雎、書美釐降、春秋譏不親迎、夫婦之際、人道之大倫也、禮之用、唯婚姻爲兢兢、夫樂調而四時和、陰陽之變、萬物之統也、可不愼與、

【講義】是の故に、六經に於ても、男女陰陽の關係を重んず、易經は天地陰陽を根本とし、詩經は關雎の篇を以て、周の王妃の德化を詠歌するより始る、書經は帝堯の女が、匹夫の舜に釐降して嫁したるを賛稱す、春秋經は、紀國の君が其の婦を娶るときに、自身出迎へざることを刺る、蓋し夫婦の關係は、人道の大義なり、故に、禮經の用は唯婚姻を以て、之を戒め愼むこと兢兢たり、且つ夫れ、樂經の用は、其の音律相調ひて、春夏秋冬の氣節が和順を保つに在り、之を要するに、陰陽夫婦の德化は、萬物の統治の根本なり、愼まざるべけんや、

【字解】關雎、關は水鳥の鳴く聲なり、雎は水鳥なり、關關として雎鳩の鳴くは、夫婦の相親しむ德化に喩ふ、釐降、釐は治むなり、其の德を修めて、女の禮を愼むなり、降は上の身分より下の身分へ下り嫁するなり、兢、愼むこと、

人能弘道、無如命何、甚哉妃匹之愛、君不能得之於臣、父不能得之於子、況卑下乎、既驩合矣、或不能成子姓、能成子姓矣、或不能要其終、豈非命也哉、

【講義】人は能く道義を弘め行ふも、天命を逃れ難し、甚しいかな、夫婦の情愛は、君も之を臣より得る能はず、父も之を子より得る能はず、況んや卑しき下の身分よりは、尊き上の情愛を望むに於てをや、是れ其の得るに難きを知るべし、而して夫婦の情愛は、既に和合するも、或は子孫を生ずる能はず、幸に能く子孫を生ずるも、或は其の終局の美を期待する能はず、豈に天命に非ずや、

を結ぶ、故に秦始皇本紀を參看すべし、固塞、險要なり、文法、刑法なり、

外戚世家第十九

自古受命帝王、及繼體守文之君、非獨內德茂也、蓋亦有外戚之助焉、

【講義】古來天命を受けて、人民を統治する帝者王者及び其の帝者王者の體を繼ぎ其の遺法を守りて國を治むる君は、皆其の自身の德行隆盛なるに由ると雖も、獨り此の內德のみを賴むべからず、蓋し亦其の后妃の家より援助を得るに由るなり、

【字解】受命、聖人が天の命を受けて民を治むること、繼體、相續者なり、先帝或は先王の遺業を繼承すること、守文、既に制定せられたる法規を守ること、內德、其の本人自身の德行なり、外戚、后妃の生れたる家なり、

夏之興也、以塗山、而桀之放也、以末喜、殷之興也、以有娀、紂之殺也、嬖妲己、周之興也、以姜原及大任、而幽王之禽也、淫於褒姒、

【講義】故に、國家の盛衰興亡は、后妃の家に由る、昔時夏の興りたるは、禹王の妃の生れたる塗山氏に由る、其の末世に至り、桀王の追放せられたるは、其の妃なる末喜に由る、殷の興るや、有娀國の女が其の高祖を生みしに由る、其の末世に至り、紂王の誅殺せられたるは、有蘇氏の女なる妲己を寵愛したるに由る、周の興るや、有邰氏の女姜原が遠祖を生み、摯仲氏の女大任が文王を生みしに由る、其の末世に至り、幽王の捕へられて死せしは、褒國の女なる褒姒に溺れしに由る、其の興亡の分る所は此の如く明なり、

【字解】末、妹とも書す、バツと讀む、禽、捕獲なり、淫、色に溺るなり、襃、褒に同じ、褎に非ず、

ら苛察を以て主旨と爲す、而して朱房、胡武等は、其の自身平生相惡みたるものを視れば、法吏に任さず、自から之を處置す、然れども、陳王は此の朱房、胡武等を信用す、是に由り、諸將軍は陳王に親附せず、此れ陳王が敗亡したる所以なり、

【字解】中正、司過、司法の長官及び次官なり、至、陳に歸り至るなり、不善、仲惡しきなり、輒、何時にてもといふ意なり、スナハチと訓ず、

陳勝雖已死、其所置遣侯王將相竟亡秦、由涉首事也、高祖時爲陳涉置守冢三十家、碭至今血食、

【講義】陳勝は既に死せりと雖も、其の任命し發遣したる侯王將相等は、竟に秦を滅せり、是れ陳勝が首唱の功勞に由るなり、故に漢の高祖の時に、陳勝の爲めに其の塚を守る三十家を設け置きたり、其の碭に於ける遺廟は、今日に至るも祭祀を絕たず、

【字解】置遣、任用すること、發遣することゝなり、碭、今の江蘇徐州碭山縣なり、

褚先生曰、地形險阻、所以爲固也、兵革刑罰、所以爲治也、猶未足恃也、夫先王以仁義爲本、而以固塞文法爲枝葉、豈不然哉、吾聞賈生之稱曰、秦孝公據殽函之固、云云、

【講義】褚先生曰く、地形險阻は要害の堅固を致す所以なり、甲兵刑罰は、國家の治安を成す所以なり、然れども、是れ枝葉なり、未だ恃むに足らず、夫れ先王は仁義を以て本根と爲し、險要と刑法とを以て、枝葉と爲す、是れ至當なり、豈然らざらんや、余は之を賈誼の言に聞く、曰く、秦の孝公は殽函の要害に據る、云云、

【字解】此の論賛は、漢の褚少孫が、太史公の闕文を補作したるものなり、秦孝公據殽函之固以下、凡そ九百字の文は、賈誼の過秦論を錄し、秦始皇本紀の論賛と相同じ、仁義不施而攻守之勢異也を以て、之

【講義】既にして陳王は宮門を出づ、曩に門官に拒絶せられたる傭耕者の徒は、道路を遮りて陳涉と呼ぶ、陳王は之を聞き、乃ち召し見て、其の車に載せ、共に歸り宮に入る、其の來客は陳王の殿屋帷帳を觀て嘆じ曰く、嗟夥しく大なるかな、陳涉の王たることや、實に沈沈として奥深きものなりと、蓋し楚人は多を夥と稱す、故に天下の人は之を傳へて、驕奢の貌を稱し、夥しきかな涉の王たることやと曰ふ、此の語は陳涉より始りたるなり、

【字解】夥頤、夥賾に同じ、多くして大なること、宮殿及び裝飾品の驕奢なる貌なり、沈沈、談談に同じ、潭潭とも書す、宮殿の奥深くして、限り無き貌なり、

客出入愈益發舒、言陳王故情、或說陳王曰、客愚無知、顓妄言輕威、陳王斬之、諸陳王故人、皆自引去、由是無親陳王者、

【講義】斯くして陳宮に來客の出入すること、愈々益々頻繁なり、皆陳王が舊日の情態を詳說す、或る者は陳王に謂ひ曰く、來客は皆愚昧無知の輩なり、專ら妄言して王の威嚴を損ふと、陳王乃ち其の妄言したる客を斬殺す、是に於て、陳王の舊交者は、皆自身より引き去る、復た陳王に親しむもの無し、

【字解】發舒、意に任せて振舞ふこと、顓、專なり、故人、舊交なり、

陳王以朱房為中正、胡武為司過、主司群臣、諸將徇地至、令之不是者、繫而罪之、以苛察為忠、其所不善者、弗下吏、輒自治之、陳王信用之、諸將以其故不親附、此其所以敗也、

【講義】陳王は法を執ること苛酷なり、朱房を中正に任じ、胡武を司過に任ず、以て群臣の罪責を處分せしむ、諸將軍が地を略取して歸るも、其の制令の良からざるものは、將軍と雖も捕へ繫ぎて、之を罰す、專

秦左右校、復攻陳下之、呂將軍走、收兵復聚、鄱盜當陽君黥布之兵、相收復擊秦左右校、破之青波、復以陳爲楚、會項梁立懷王孫心爲楚王、

【講義】秦の將軍の命を受けたる左右の校尉は、復た陳を攻めて之を取る、楚の將軍呂臣は、陳を出で走り、兵を收めて復た聚る、江西鄱陽の賊徒黥布の兵も相會す、因て復た秦の左右校尉を擊ち、之を青波に破り、陳を恢復して楚領と爲す、此の時に項梁は山東の薛に在り、楚の懷王の孫にして心と曰ふものを迎へ、立て楚王と爲したり、

【字解】鄱、ハと讀む、鄱陽なり、番の字をも用ふ、今の江西饒州府に屬す、當陽君、黥布が後に獲たる封爵なり、青波、陳城に近き地なり、

陳勝王凡六月、已爲王王陳、其故人嘗與傭耕者、聞之之陳、扣宮門曰、吾欲見涉、宮門令欲縛之、自辨數、乃置、不肯爲通、

【講義】陳勝は王位に居ること凡そ六月なり、其の既に王たる時に、其の舊交有り、嘗て共に傭はれ耕作したる者は、皆傳へ聞きて陳に往き、宮門を叩き曰く、我輩は陳涉に面會せんと欲すと、宮門の官吏は、之を捕縛せんと欲す、傭耕者の徒は、自から其の事情を辯明すること屢なり、門官は乃ち之を捨て置き、王に通告せず、

【字解】故人、舊交有る人なり、扣、叩に同じ、

陳王出、遮道而呼涉、陳王聞之、乃召見、載與俱歸、入宮、見殿屋帷帳、客曰、夥頤涉之爲王、沈沈者、楚人謂多爲夥、故天下傳之、夥涉爲王、由陳涉始、

【講義】是より先に、陳王が陳に至りし時に、沛郡銍の人宋留を將軍として、之に命ずるに河南の南陽を取ること、武關に入ること、を以てしたり、既にして、宋留は南陽を侵畧したるも、陳王死せりと聞き、南陽は復た秦の領有に歸す、宋留は武關に入る能はず、乃ち東に遷りて新蔡に至り、秦軍に遇ふ、宋留は秦に降る、秦は傳車を以て宋留を咸陽に送り、之を車裂の刑に行ひ、以て衆民に公示したり、

【字解】武關、秦の南關なり、東の函谷關、西の散關、及び北の蕭關と共に、秦の四塞たり、新蔡、管蔡世家に詳なり、傳、テンと讀む、宿送りの車にて、平民の乘るもの、徇、衆人に示すなり、

秦嘉等、聞陳王軍破出走、乃立景駒爲楚王、引兵之方與、欲擊秦軍定陶下、使公孫慶使齊王、欲與并力俱進、齊王曰、聞陳王戰敗、不知其死生、楚安得不請而立王、公孫慶曰、齊不請楚而立王、楚何故請齊而立王、且楚首事、當令於天下、田儋誅殺公孫慶、

【講義】秦嘉等は、陳王の軍破れ出で走りて死すと聞く、乃ち景駒を立て楚王と爲し、兵を引きて方與に往き、秦軍を定陶の城下に擊たんと欲す、因て公孫慶を使節として齊に至らしめ、齊楚の兩軍が、力を併せて俱に進まんことを請ふ、齊王曰く、陳王が戰ひて敗れたるを聞く、然れども、未だ其の死生を知らず、楚は何ぞ齊に請はずして王を立つるを得んと、公孫慶曰く、齊は楚に請はずして王を立てたり、楚は王を立つるに、何ぞ齊に請ふを要せん、且つ夫れ楚は此の大事の首唱者なり、天下に號令するを至當とすと、田儋怒りて公孫慶を誅殺す、

【字解】方與定陶、共に山東の地なり、方與は兗州に在り、定陶は曹州に屬す、首、首唱なり、

死、章邯又進兵、擊陳西張賀軍、陳王出監戰、軍破張賀死、

【講義】章邯は既に伍徐を破り、兵を進めて陳を擊つ、陳の大臣房君死す、章邯は更に進みて、張賀の軍を陳の西に擊つ、陳王出でゝ戰を監督す、然れども、楚軍破れて張賀死す、

臘月、陳王之汝陰、還至下城父、其御莊賈殺、以降秦、陳勝葬碭、謚曰陰王、陳王故涓人將軍呂臣、爲蒼頭軍、起新陽、攻陳下之、殺莊賈、復以陳爲楚、

【講義】其の年の十二月に、陳王は汝陰に往き、其の歸途下城父に至り、再び陳に入らんとす、其の御者莊賈は、陳王を殺して秦に降る、陳王は碭に葬られ、謚して陰王と曰ふ、既にして陳王の故の式部官呂臣は、新に一軍を編成し、其の士卒は皆青帽を被り、蒼頭軍と稱して、新陽より起り、陳を攻めて、之を秦より取り戻し、莊賈を殺し、再び陳を以て楚の領域と爲したり、

【字解】臘月、十二月なり、臘は臈に同じ、十二月の祭の名なり、汝陰、今の安徽潁州府に屬す、下城父、汝陰の東に在り、城父の東邊なり、城父は楚世家に詳なり、碭、タウと讀む、今の江蘇徐州碭山縣なり、涓人、今の式部官の如く、侍者にして賓客の接待役を兼ねたる者、將軍呂臣、將軍の兩字は、此の時の官に非ず、後に任命したるを以て、此に記したるのみ、新陽、今の安徽潁州府大和縣の西北に在り、

初陳王至陳、令銍人宋留、將兵定南陽、入武關、留已徇南陽、聞陳王死、南陽復爲秦、宋留不能入武關、乃東至新蔡、遇秦軍、宋留以軍降秦、秦傳留至咸陽、車裂留、以徇、

徐將兵居許、章邯擊破之、伍徐軍皆散走陳、陳王誅鄧說、

【講義】河南陽城の人鄧說は、兵に將として河南の郟に居る、章邯の別將は擊ちて之を破る、鄧說の軍は陳に走る、沛郡銍縣の人伍徐は、兵に將として河南の許に居る、章邯は之を擊破し、伍徐の軍は皆散じ、陳に走る、陳王は鄧說を誅殺す、

【字解】郯、郟の誤りなり、郟は今の河南汝州郟縣なり、陽城に近き地とす、郯は東海の縣にして、是は誤りなり、

陳王初立時、陵人秦嘉、銍人董緤、符離人朱雞石、取慮人鄭布、徐人丁疾等、皆特起、將兵圍東海守慶於郯、陳王聞、乃使武平君畔、爲將軍、監郯下軍、秦嘉不受命、嘉自立爲大司馬、惡屬武平君、告軍吏曰、武平君年少、不知兵事、勿聽、因矯以王命、殺武平君畔、

【講義】是より先に、陳王が始めて立ちたる時に、濟南陵縣の人秦嘉、沛郡銍縣の人董緤、沛郡符離縣の人朱雞石、安徽取慮縣の人鄭布、江蘇徐州の人丁疾等、皆其の自己の力を以て、新に崛起し、兵に將として、東海の太守慶を山東の郯城に攻圍す、陳王は之を聞き、武平君畔を將軍に任命し、郯城下の軍を監督せしむ、然るに秦嘉は陳王の命を受けず、自立して大司馬と爲り、武平君に屬するを嫌ふ、乃ち軍吏に告げて曰く、武平君は少年なり、兵事を知らず、其の命令を聽く勿れと、因て陳王の命令なりと詐稱し、武平君を誅殺す、

【字解】特起、自分の獨力を以て崛起すること、郯、今の山東沂州府郯城縣なり、畔、武平君の名なり、矯、詐るなり、

章邯已破伍徐、擊陳、柱國房君

秦軍、今假王驕、不知兵權、不可與計、非誅之、事恐敗、

【講義】 將軍田臧等は相共に謀りて曰く、周章の軍は既に敗れたり、秦兵の來ることは旦夕に迫れり、我輩は今や滎陽城を攻圍すれども、未だ之を取る能はず、秦軍至らば、我兵は必らず大に敗れん、此の危急に際しては、少しく兵を留めて滎陽を守るに足らしめ、我精兵を盡く發して、秦軍を逆へ擊つべし、今の計としては此に勝るもの無し、假王吳廣は驕恣なり、用兵の權宜を知らず、共に計るに足らず、假王を誅殺せざるときは、大事恐くは敗れん、

【字解】 周章、前節に於ける周文なり、遺、遺に作るべし、留め置くこと、

因相與矯王令、以誅吳叔、獻其首於陳王、陳王使使賜田臧楚令尹印、使爲上將、

【講義】 田臧等は乃ち相共に、陳王の命令なりと詐稱して、吳廣を誅殺し、其の首を陳王に獻ず、陳王は因て使を發し、楚の首相たる印を以て、田臧に賜ひ、之をして上將たらしむ、

【字解】 矯、詐り稱するなり、曲げる意なり、令尹、楚の首相なり、

田臧乃使諸將李歸等守滎陽城、自以精兵、西迎秦軍於敖倉、與戰、田臧死、軍破、章邯進兵、擊李歸等滎陽下、破之、李歸等死、

【講義】 田臧は乃ち李歸等諸將を留めて、滎陽城を守らしめ、自身は精兵を引率して、秦軍を敖倉に逆へ擊ち、田臧戰死し、楚軍敗走す、章邯は兵を進めて、李歸等を滎陽の城下に擊ち、之を破る、李歸等皆死す、

【字解】 敖倉、滎陽の西に在り、秦の米倉を置きたる要所なり、今の河南開封府に屬す、

陽城人鄧說將兵、居郯、章別將擊破之、鄧說軍散走陳、銍人伍

禁制する能はず、且つ夫れ楚の强きを以てするも、趙王及び其の將軍宰相の家族を害する能はず、趙獨り何ぞ將軍の家族を害するを得んやと、韓廣は此の說に從ひ、自立して燕王と爲る、其後數月を經て、趙は燕王の母及び家族を燕に送り屆けたり、

當此之時、諸將之徇地、不可勝數、周市北徇地至狄、狄人田儋殺狄令、自立爲齊王、以齊反、擊周市、市軍散、還至魏地、欲立魏後故甯陵君咎爲魏王、時咎在陳王所、不得之魏、魏地已定、欲相與立周市爲魏王、周市不肯、使者五反、陳王乃立甯陵君咎爲魏王、遣之國、周市卒爲相、

【講義】此の時に當り、諸將の出征して地を畧取するものは、甚だ多し、周市は陳王の命を奉じて、先づ魏を取り、北進して山東の狄に至る、狄は秦より置きたる縣令有りて、之を守る、狄人田儋は其の縣令を殺し、自立して齊王と爲り、齊國に據り、楚に叛きて、周市を擊つ、周市は軍散じ、魏に還る、乃ち魏の後裔なる故の甯陵君魏咎を魏王に立てんと欲す、此の時に、魏咎は陳王の所に在り、魏に往くを得ず、然るに、魏の地は既に平定す、故に魏人は相共に周市を立てんと欲す、周市は承諾せず、使者五たび往復す、陳王乃ち甯陵君魏咎を立て、之を魏王と爲して、其の國に赴かしむ、周市は竟に之に相たり、

【字解】狄、齊の地なり、今の山東靑州府高苑縣の西北に在り、

將軍田臧等相與謀曰、周章軍已破矣、秦兵旦暮至、我圍滎陽城、弗能下、秦軍至必大敗、不如少遺兵足以守滎陽、悉精兵迎

兵北徇燕地、

【講義】 趙王の將相等は、相共に謀り、趙王に謂ひ曰く、王が趙に王たるは張楚の意に非ず、秦を伐たんとする計畧のみ、張楚が秦を滅したる後には、必らず來り趙を攻めん、今の計としては、兵を西向せしむる勿れ、使を發して北に赴き、燕の地を畧取せしめよ、斯くして、趙が自分の領域を廣大するを圖るべし、是を最上の策とす、夫れ趙は南に於て大河に據り、北に於て燕代の兩國を領す、要害堅固なり、張楚秦に勝つも趙を制する能はざらん、而して若しも張楚が秦に勝たざるときは、必らず趙を尊重せん、此の時に至りて、趙は秦の疲弊したるに乘じ、之を伐たば、必らず志を天下に展ぶるを得んと、趙王は之を聽きて然るべしと思惟す、因て兵を西向せしめず、故の燕の上谷の郡史韓廣を擧げて、將軍と爲し、之をして北征し、燕の地を侵畧せしむ、

【字解】 秦之弊、秦が楚に勝ちて疲れたること、卒史、秦制に於ける郡の事務官なり、

燕故貴人豪傑、謂韓廣曰、楚已立王、趙又已立王、燕雖小、亦萬乘之國也、願將軍立爲燕王、韓廣曰、廣母在趙、不可、燕人曰、趙方西憂秦、南憂楚、其力不能禁我、且以楚之彊、不敢害趙王將相之家、趙獨安敢害將軍之家、韓廣以爲然、乃自立爲燕王、居數月、趙奉燕王母及家屬歸之燕、

【講義】 燕の故の貴人豪傑は、相共に謀りて、韓廣に謂ひ曰く、楚は既に王を立て、趙も既に王を立つ、燕は小なりと雖も、亦萬乘の王國なり、願くは將軍が立ちて燕王と爲らんことをと、韓廣曰く、廣は母を趙に留む、故に趙に背くを得ずと、燕人曰く、趙は現在に於て西に秦を心配し、南に楚を心配す、其の力は燕を

相、陳王怒、捕繫武臣等家室、欲誅之。柱國曰、秦未亡、而誅趙王將相家屬、此生一秦也、不如因而立之。陳王乃遣使者賀趙、而徙繫武臣等家屬宮中、而封其子張敖爲成都君、趣趙兵、亟入關、

【講義】 武臣は曩に陳王の命を受けて、趙を侵畧し、遂に邯鄲に到りて自立し、趙王と爲り、陳餘を大將軍と爲し、張耳、召騷を左右の丞相と爲す、陳王は之を聞きて怒り、武臣等の家族を捕へ繫ぎ、之を誅殺せんと欲す、大臣蔡賜曰く、秦未だ亡びざるに、趙王及び其の將相の家族を殺すは、是れ一の强敵を生ずるなり、其の既に王たるに因り、之を立つるに若かずと、陳王乃ち使者を遣り、趙を賀し、武臣等の家族を陳の宮中に徙し繫ぎ、張耳の子張敖を封じて、成都君と爲し、以て趙の軍隊が速に函谷關に入ることを催促したり、

【字解】 邯鄲、戰國に於ける趙の首都たりし地なり、今の直隷廣平 邯鄲縣なり、柱國、上柱國なり、前節に解せり、成都、蜀の成都府は秦の領地なれども、先づ封じて趙に媚びたるなり、亟、速なり、趣、催促すること、

趙王將相相與謀曰、王王趙、非楚意也、楚已誅秦、必加兵於趙、計莫如毋西兵、使使北徇燕地、以自廣也、趙南據大河、北有燕代、楚雖勝秦、不敢制趙、若楚不勝秦、必重趙、趙乘秦之弊、可以得志於天下、趙王以爲然、因不西兵、而遣故上谷卒史韓廣、將

【講義】陳王は國中の豪傑を召し出し、共に事を謀議す、乃ち河南上蔡の人蔡賜を以て大臣と爲す、蔡賜は河南の吳房縣に封ぜられ、房君と稱す、陳王は更に周文を擧げて將軍と爲す、周文は陳の賢人なり、戰國の時に楚將項燕の軍中に在り、吉凶視察の官たり、且つ楚相春申君に事へたり、自から言ふ兵事に習熟すと、故に陳王は之に將軍の印を授けたるなり、周文は乃ち西擊して、其の沿道に兵馬を取り聚めながら進征す、其の函谷關に至る時に、車千輛有り、卒二三十萬有り、遂に關を破り入りて、咸京の東邑なる戲亭に陣取りす、

【字解】上柱國、楚の大臣なり、陳勝は陳に王たるも國を張楚と號す、故に大臣も楚の官名を稱す、視日、日時の吉凶を判定する官なり、周文、周章と同一人なり、

秦令少府章邯免酈山徒人奴產子、悉發以擊楚大軍、盡敗之、周文敗走、出關止次曹陽、二三月、章邯追敗之、復走次澠池、十餘日、章邯擊大破之、周文自剄、軍遂不戰、

【講義】秦は楚の大軍來り迫るに由り、酈山の囚徒及び各家の奴隷を放免し、以て大軍隊を編成し、御料局の長官章邯を大將と爲し、悉く此の新兵隊を發遣して、楚軍を擊ち、大に之を敗る、周文は走り、函谷關を出で、河南の曹陽に陣す、二三個月の間に、章邯は追擊して之を敗る、周文は復た走りて、河南の澠池に陣す、十餘日にして、章邯は復た擊ち、大に之を破る、周文は遂に自殺す、楚軍は戰鬪力を失へり、

【字解】酈山、驪山に同じ、渭水の南に於ける秦帝の御苑なり、此處に阿房宮を建築するに由り、宮刑、徒刑等の囚徒七十萬人を使役す、剄、刎に同じ、刺すことに通じ用ふ、少府、今の御料局なり、

武臣到邯鄲、自立爲趙王、陳餘爲大將軍、張耳、召騷爲左右丞

郡、當是時、楚兵數千人爲聚者、不可勝數、葛嬰至東城、立襄彊爲楚王、嬰後聞陳王已立、因殺襄彊還報、至陳、陳王誅殺葛嬰、

【講義】是に於て、陳王涉は吳廣を以て假王と爲し、諸將を監督せしめ、以て西征し、河南滎陽を擊たしむ、別に陳人武臣及び梁人張耳、陳餘をして、趙の地を侵畧せしめ、更に河南汝陰の人鄧宗をして九江郡を畧取せしむ、是の時に當り、楚國の中に於ては、數千の兵卒相聚り、團結するもの各處に起り、數ふるに勝ふべからず、葛嬰は曩に陳王の命を受けて、東方を經畧し、九江の東城に至る、乃ち襄彊を立てゝ楚王と爲す、既にして嬰は陳王の既に立つを聞く、因て襄彊を殺し、陳に還り、之を報ず、陳王乃ち葛嬰を誅殺す、

陳王令魏人周市、北徇魏地、吳廣圍滎陽、李由爲三川守、守滎陽、吳叔弗能下、

【講義】陳王は魏人周市をして北征し、魏の地を侵畧せしめ、吳廣をして滎陽を圍ましむ、是の時に當り、秦の宰相李斯の子李由は、三川郡の太守と爲りて滎陽を守り居たり、吳廣は之を攻めて、未だ取る能はず、

【字解】三川、伊、洛、河の三川交會の地なるを以て、三川と曰ふ、秦制の郡なり、漢に至りては、河南郡といふ、今の河南汝寧府に屬す、滎陽、三川郡の治下に在り、

陳王徵國之豪傑、與計、以上蔡人房君蔡賜、爲上柱國、周文陳之賢人也、嘗爲項燕軍視日、事春申君、自言習兵、陳王與之將軍印、西擊、行收兵至關、車千乘、卒數十萬、至戲軍焉、

太守も、縣令も、皆既に逃げ去れり、守丞獨り城門に據りて防戰し、遂に敗死す、陳勝は直に入り、陳に據り、日を累ねたり、

【字解】 符離、蘄の隣邑なり、今の安徽鳳陽府宿州に屬す、銍、酇、譙、三縣の名なり、此の時の沛郡に屬す、今の安徽鳳陽府に在り、苦、柘、兩縣の名なり、此の時の陳州に屬す、今の河南歸德府鹿邑縣及び柘城縣の地方なり、陳、陳杞世家に詳なり、守丞、太守の次席に居る官なり、與、敵に對すといふ意なり、與敵の兩字を約めたるものと見るべし、譙門、城樓の下に在る門なり、譙は物見櫓なり、徇、侵略すること、

號令、召三老豪桀、與皆來會計事、三老豪桀皆曰、將軍身被堅執銳、伐無道、誅暴秦、復立楚國之社稷、功宜爲王、陳涉乃立爲王、號爲張楚、當是時、諸郡縣苦秦吏者、皆刑其長吏、殺之、以應陳涉、

【講義】 陳勝乃ち號令し、陳城の下に在る取締役及び豪傑の徒を召集す、皆來會して事を計る、取締役及び豪傑の徒は、皆陳勝に謂ひ曰く、將軍は親から甲を被り兵を執り、無道を伐ち、暴秦を誅し、以て楚の國家を恢復す、其の功は王と爲るに足ると、陳勝は遂に立ちて陳に王たり、然れども、楚國を張り大にするを以て主旨とす、故に、國を號して張楚と曰ふ、是の時に當り諸郡縣は秦の吏に苦しむ、故に、皆其の長吏たる守令を殺し、以て陳勝に應じたり、

【字解】 三老、秦の制度に於ける鄉邑の風敎取締役なり、今の町村長或は學務取締の如きものなり、陳城の下には多數の三老有り、桀、傑なり、堅、甲なり、銳、兵なり、社稷、國土の神を祭ること、

乃以吳叔爲假王、監諸將、以西擊滎陽、令陳人武臣、張耳、陳餘徇趙地、令汝陰人鄧宗徇九江

【講義】　陳勝、呉廣は、乃ち徒屬を召し、之に命令して曰く、公等は雨に阻てられ、皆既に漁陽到着の期限を後れたり、秦の法に據れば、期限を後れたる士卒は、斬罪に當る、若しも斬罪を免るとも、遠地の守備を勤むるものは、其の十中の六七死せん、故に死は公等に迫り至る、壯士は死せずんば已まん、死するならば大名を擧げて死せんのみ、王侯と爲り、將相と爲るも何ぞ其の種族の區別有らんや、力を以て之を取らんのみと、徒屬皆踊躍して曰く、敬みて命を受くと、

【字解】　藉第、若しも唯なり、且、願なり、卽、則に通じ用ふ、寧、何ぞなり、

乃詐稱公子扶蘇、項燕、從民欲也、袒右稱大楚、爲壇而盟、祭以尉首、陳勝自立爲將軍、呉廣爲都尉、攻大澤鄕、收而攻蘄、蘄下、

【講義】　陳勝、呉廣は、乃ち詐りて公子扶蘇、項燕と稱す、蓋し民衆の意嚮に從ふなり、遂に楚國の風俗に據り、右の肩衣を脱ぎ、壇を設けて誓盟を爲し、國を大楚と號し、其の供物には尉官の首を用ひ、陳勝は自立して將軍と爲り、呉廣は都尉と爲り、以て大澤の鄕を攻め、之を略取し、進みて蘄を攻む、蘄城降參す、

【字解】　袒右、楚國の風俗にて、誓盟の時に、右の肩の衣を脱ぎ、肉を露すこと、大澤、前章に解せり、蘄縣の下鄕なり、蘄、今の安徽鳳陽府宿州に屬す、

乃令符離人葛嬰、將兵、徇蘄以東、攻銍、酇、苦、柘、譙、皆下之、行收兵、比至陳、車六七百乘、騎千餘、卒數萬人、攻陳、陳守令皆不在、獨守丞與戰譙門中、弗勝、守丞死、乃入據陳、數日、

【講義】　陳勝は乃ち沛郡符離の人葛嬰をして、兵に將とし蘄以東の諸縣を侵略せしめ、沛の銍、酇、譙及び陳の苦、柘を攻め、皆之を取る、陳勝は沿道の諸縣より兵を聚め、陳に達したる時に於て、車六七百輛、騎兵千餘、歩卒六七萬人有り、乃ち陳城を攻む、陳の

く、陳勝は王たりと、乃ち人を遣り、新に網に入りたる魚の腹中へ、此の赤書を置かしむ、既にして、滯留の兵卒は魚を買ひ、之を烹て食ひ、其の魚腹中の書を得たり、皆洵に之を怪む、陳勝は更に內密に吳廣をして、陣營の近傍なる叢林の神祠に入り潛伏せしむ、每夜陣營の篝火燃ゆる時に、神祠の中より狐の如く鳴き呼びて曰く、大楚は興らん、陳勝は王たらんと、兵卒は每夜皆驚き恐る、晝に至れば、兵卒の中に往往相語りて、陳勝を指し之を視る、

【字解】 罾、網なり、亭、烹るなり、次、露次なり、野陣を張りたる處なり、恠、怪しむなり、旦日、朝なり、

吳廣素愛レ人、士卒多爲レ用者、將尉醉、廣故數言レ欲レ亡、忿二恚尉一、令レ辱レ之、以激二怒其衆一、尉果笞レ廣、尉劍挺、廣起奪而殺レ尉、陳勝佐レ之、幷殺二兩尉一、

【講義】 吳廣は素より人を愛す、士卒は其の用と爲るもの多し、尉官の醉ひたる時に、廣は故意に逃亡せんと欲すと言ふこと屢なり、以て尉官を忿怒せしめ、尉官が吳廣を侮辱するに由り、其の衆卒を激怒せしめ、以て吳廣が自家の志を遂せんと欲す、然るに尉官等は此の計略を知らず、吳廣の言を聞き、忽ち之を笞つ、尉官の劍拔けんとするときに、吳廣は起ち奪ひ、尉官の劍を以て尉官を殺す、陳勝は之を佐け、兩尉官を幷せ殺したり、

【字解】 將尉、尉官なり、此の時に九百人を引率したるを以て、將尉といふのみ、恚、イと讀む、憤るなり、果、吳廣の豫期したる如くといふ意なり、挺、拔くなり、

召レ令二徒屬一曰、公等遇レ雨、皆已失レ期、失レ期當レ斬、藉第令レ毋レ斬、而戍死者固十六七、且壯士不レ死、卽已、死卽擧二大名一耳、王侯將相寧有レ種乎、徒屬皆曰、敬受レ命、

【講義】陳勝曰く、天下萬民は秦の法に苦しむこと久し、余は聞く、今の二世皇帝は、先帝の末子なり、卽位すべからず、卽位すべきものは、公子扶蘇なり、然るに、扶蘇は先帝に諫言を進むること屢なりしを以て、兵に將と爲り、外征するを命ぜられ、國に居らず、或は聞く所に依れば、罪無くして今の皇帝に殺されたりと云ふ、天下萬民は、多く扶蘇の賢なるを聞き、未だ其の死を知らず、項燕は楚の將と爲り、數度の戰功有り、士卒を愛し、楚人に憐まる、然れども、其の生死を詳にせず、或は死せりと曰ひ、或は亡げたりと曰ふ、故に此の兩人の名を借るを便とす、今や吾引率する役徒を以て、自身は公子扶蘇、項燕なりと稱し、天下の首唱を爲さば、必らず來り應ずるもの多からん、

【字解】少子、末子なり、誠、若しもなり、唱、首唱なり、率先して事を起すこと、

吳廣以爲然、乃行卜、卜者知其指意、曰、足下事皆成有功、然足下卜之鬼乎、陳勝、吳廣喜、念鬼曰、此教我先威衆耳、

【講義】吳廣は之を聞きて然るべしと思惟す、乃ち往きて之を卜す、卜者は其の眞意を察して曰く、足下の計畫は、皆成就せん、且つ功有らん、然れども、足下の卜したる事は、竟に鬼神に依りて成らんと、陳勝、吳廣は大に喜び、鬼神を祈念して曰く、此れ我に教ふるに、先づ衆人を威服せしむることを以てするのみ、

乃丹書帛曰、陳勝王、置人所罾魚腹中、卒買魚亨食、得魚腹中書、固以怪之矣、又間令吳廣之次近所旁叢祠中、夜篝火、狐鳴呼曰、大楚興、陳勝王、卒皆夜驚恐、旦日卒中、往往語、皆指目陳勝、

【講義】是に於て、朱砂を以て白絹に赤書にして曰

不通、度已失期、失期、法皆斬、

【講義】秦の二世皇帝の元年七月に、秦は遠戍の兵卒を増す爲め、里門の左側に住居する貧困者を徴發して、之を漁陽に赴かしむ、其の戍卒九百人は、今や派遣の途中に在りて、故の楚の大澤の郷に駐り屯す、此の出兵には、陳勝、呉廣も、皆役番に當りて、行役の中に在り、其の屯長たり、雨天長く續き、道路の通ぜざる季節に遭ひ、其の日程を計れば、漁陽に到着するには、期限を後る、果して期限を後るゝに至らば、軍法に據り、斬罪に處せられんとす、

【字解】閭左、貧困者なり、秦時に於て、富者及び强壯者は、里門の右に住み、貧者及び老弱者は、里門の左に居る、而して强壯者先づ出發して、猶其の兵の足らざるときは、更に貧者及び老弱者を派遣す、適戍、タクジウと讀む、適は謫に通ず、刑徒が遠地へ行役するなり、戍、守備兵なり、大澤、戰國時代に於ける楚の領地なり、今の安徽鳳陽府宿州地方なり、度、計るなり、漁陽、今の直隷順天府密雲縣に屬す、

陳勝、呉廣、乃謀曰、今亡亦死、擧大計亦死、等死、死國可乎、

【講義】陳勝、呉廣は、乃ち相謀りて曰く、今や秦の法に觸れたり、逃亡するも死せん、兵を擧ぐるも死せん、均しく死を免れず、寧ろ秦に叛き國を建てゝ死せん、是れ可ならんか、

陳勝曰、天下苦秦久矣、吾聞、二世、少子也、不當立、當立者、乃公子扶蘇、扶蘇以數諫故、上使外將兵、今或聞無罪、二世殺之、百姓多聞其賢、未知其死也、項燕爲楚將、數有功、愛士卒、楚人憐之、或以爲死、或以爲亡、今誠以吾衆、詐自稱公子扶蘇、項燕、爲天下唱、宜多應者、

陳勝者、陽城人也、字涉、吳廣者、陽夏人也、字叔、

【講義】陳勝は河南の陽城の人なり、其の字を涉と曰ふ、吳廣は河南の陽夏の人なり、其の字を叔と曰ふ、

【字解】陽城、今の河南汝寧府汝陽縣に屬す、陽夏、今の河南陳州府太康縣なり、此の篇は陳涉の世家なれども、陳勝と吳廣とは、一身分體の如き關係有り、世に騷動の首唱者を稱して、山東の陳吳と曰ふ、太史公が合傳の如く、兩人を幷せて書き起したるも、宜なり、

陳涉少時、嘗與人傭耕、輟耕之壟上、悵恨久之、曰、苟富貴、無相忘、傭者笑而應曰、若爲傭耕、何富貴也、陳涉太息曰、嗟乎、燕雀安知鴻鵠之志哉、

【講義】陳涉は年若き時に貧賤なり、人に傭はれて耕作す、其の休息の時に、鋤を止め丘に上り、嘆息して自身の不遇を恨み、傭主に謂ひ曰く、假りに富貴と爲ること有るも、相共に忘る無からんと、傭主は笑ひながら之に答へて曰く、汝は人に傭はれて耕作する身分なり、何ぞ富貴なるを得んやと、陳涉は之を聞き太息して曰く、嗟燕雀の如き小鳥は、何ぞ能く鴻鵠の大志を知らんや、

【字解】少時、少年の日なり、與、爲めになり、輟、止むること、壟、ロウと讀む、丘なり、悵、自から顧みて感傷する貌なり、苟、假りになり、若、汝なり、鴻鵠之志、鴻鵠といふ大鳥は、其の雛にて羽翼の揃はざる時にも、既に四海を横飛する大志有り、陳涉は今や貧賤なれども、鴻鵠の雛なり、燕雀の如き傭主の知る所に非ず、

二世元年七月、發閭左、適戍漁陽、九百人、屯大澤鄕、陳勝、吳廣、皆次當行、爲屯長、會天大雨、道

時習禮其家、余低回留之、不能去云、天下君王、至于賢人衆矣、當時則榮、沒則已焉、孔子布衣、傳十餘世、學者宗之、自天子王侯、中國言六藝者、折中於夫子、可謂至聖矣、

【講義】　太史公曰く、高山は仰ぐべし、大道は行くべしと、是れ周の詩の語なり、蓋し我は其の地に至る能はずと雖も、心は之に嚮ひ往くを謂ふなり、余は孔氏の書を讀み、其の人物を想ひ見る、遂に魯に赴き、孔子の廟堂、車服、禮器を觀る、且つ魯の諸生が其の相當なる時節に於て、孔子の舊宅に就き、禮を學習するを知る、因て徘徊し、留滯し、孔子の塚の側を去る能はず、夫れ天下の君王より賢人に至るまで、其の數は衆多なり、然れども、其の生存の時に於て、顯榮なるのみ、其の死歿の後に至れば、之を問ふもの無し、孔子は無官の民なり、然れども、其の家道は十餘世に傳へて、天下の學者皆之を推戴す、今や天子王侯より、以下中國に於て、禮、樂、射、御、書、數の六藝を說くものは、皆孔夫子を標準として、其の取捨を定む、孔子は最上の聖人と謂ふべきなり、

【字解】　景行、大道なり、景は大なり、行は通行する道路なり、鄉、嚮ふなり、低回、徘徊なり、云、云云を略したるなり、已、榮華絕えて衰滅するなり、布衣、賤者なり、折中、折衷に同じ、衆多のものを比較して其の中正を取ること、

陳涉世家第十八

【講義】　是れ亦孔子世家に類して、世家の異例なり、陳涉は其の立つこと數月にして、忽ち滅亡し、子孫無し、之を世家に列するは不倫なるに似たり、然れども、陳涉が派遣したる王侯將相は、竟に能く秦を滅し、而して其の首唱の功は、陳涉に在り、故に、太史公の見識を以て、之を世家の文中に編入したり、

穿、字子高、年五十一、子高生子愼、年五十七、嘗爲魏相、子愼生鮒、年五十七、爲陳王涉博士、死於陳下、鮒弟子襄、年五十七、嘗爲孝惠皇帝博士、遷爲長沙太守、長九尺六寸、子襄生忠、年五十七、忠生武、武生延年及安國、安國爲今皇帝博士、至臨淮太守、蚤卒、安國生卬、卬生驩、

【講義】孔子の子を鯉と曰ふ、其の字を伯魚と曰ふ、孔子に先だち歿す、年五十なり、伯魚の子を伋と曰ふ、其の字を子思と曰ふ、中庸の書を著作す、年六十二の時に、宋に於て困厄に遭ひたり、子思の子を白と曰ふ、其の字を子上と曰ふ、年四十七にして歿す、子上の子求、其の字は子家、歿したる年四十五なり、子家の子箕、其の字は子京、歿したる年四十六なり、子京の子穿、其の字は子高、歿したる年五十一なり、子高の子愼は、嘗て魏の宰相となる、其の歿したる年五十七なり、子愼の子鮒は、陳王涉に聘せられ、其の博士と爲り、陳の城下に死す、年五十七なり、鮒の弟を子襄と曰ふ、嘗て孝惠皇帝の博士と爲り、長沙の太守に遷る、其の身の長九尺六寸有り、遠祖孔夫子に同じ、其の歿したる年は五十七なり、子襄の子忠は、年五十七にして歿す、忠は武を生む、武は延年及び安國を生む、安國は今の皇帝に仕へて博士と爲り、臨淮の太守に至る、然れども、蚤く卒す、安國の子を卬と曰ふ、卬の子を驩と曰ふ、

【字解】長沙、今の湖南長沙府長沙縣なり、臨淮、今の安徽泗州盱眙縣に屬す、

太史公曰、詩有之、高山仰止、景行行止、雖不能至、然心鄕往之、余讀孔氏書、想見其爲人、適魯、觀仲尼廟堂、車服、禮器、諸生以

魯世世相傳、以歲時奉祠孔子冢、而諸儒亦講禮鄉飮大射孔子冢、

【講義】魯は後世相傳へ、毎年の祭祀期節を以て、孔子の塚を奉祠す、而して儒者の諸家、皆孔子の塚に就きて、禮を講じ、郷校の優等生を國都に送るときの宴會も、此處に開き、郷人の弓術試驗も此處に行ひたり、

孔子冢、大一頃、故所居堂、弟子內、後世因廟、藏孔子衣冠琴車書、至于漢二百餘年不絕、

【講義】孔子の塚は、凡そ一萬坪の域を成す、其の舊來住居したる堂は、門人が之を塚の側に遷す、後世に至り、此の堂を孔子廟と爲し、孔子の平生使用したる衣、冠、琴、書及び車を廟中に藏む、孔子歿してより漢室の起るまで二百餘年、廟祭の絶ゆること無し、

【字解】頃、一萬坪なり、蓋し六尺を一歩とし、一百歩を一畝とし、一百畝を一頃とするなり、內、イルと訓ず、其の域内へ遷し入るゝなり、

高皇帝過魯、以太牢祠焉、諸侯卿相至、常先謁、然後從政、

【講義】漢の高祖皇帝は、魯に至り、牛、羊、豕の鄭重なる供物を以て、孔子を祭る、諸侯卿相等の魯に至るものは、常に先づ孔子の廟に謁し、然る後に政事を行ふ、

【字解】太牢、牛、羊、豕の供物にして、丁寧なる祭奠なり、

孔子生鯉、字伯魚、伯魚年五十、先孔子死、伯魚生伋、字子思、年六十二、嘗困於宋、子思作中庸、子思生白、字子上、年四十七、子上生求、字子家、年四十五、子家生箕、字子京、年四十六、子京生

余一人、哀公自身を指す、疚、ケイと讀む、孤獨の貌なり、疚、心中の病患なり、尼父、孔子を稱す、父といふは大夫の顯稱なり、律、模範なり、

子貢曰、君其不沒於魯乎、夫子之言曰、禮失則昏、名失則愆、失志爲昏、失所爲愆、生不能用、死而誄之、非禮也、稱余一人、非名也、

【講義】子貢は哀公の弔辭を聞きて曰く、君は其れ魯に歿するを得ざらんか、孔夫子の言に曰く、禮を失へば昏し、名を失へば愆つ、志を失へば昏と爲り、所を失へば愆と爲ると、今や君は此の孔夫子の言ひし所の如し、孔子が生存中に於て、之を登用する能はず、其の死に及びて、之を弔するに哀辭を以てす、是れ禮に非ず、且つ余一人と稱するは、天子の號する所なり、諸侯の名とすべき所に非ず、

【字解】沒、歿なり、愆、罪過なり、名失、諸侯にして余一人と稱し、天子に擬する如き類をいふ、

孔子葬魯城北泗上、弟子皆服三年、三年心喪畢、相訣而去、則哭、各復盡哀、或復留、唯子貢廬冢上、凡六年、然後去、弟子及魯人往從冢而家者、百有餘室、因命曰孔里、

【講義】孔子は魯の城北なる泗水の上に葬る、門人皆其の喪に服する三年、其の三年畢りて、更に喪服を着けざる三年の心喪を終り、相訣別して去る、其の去るに臨み、相哭して各復た哀を盡し、或は去らずして復た留るもの有り、唯子貢は孔子の塚の側に廬を構へて居ること凡そ六年、然る後に去る、孔門の弟子及び魯人の往きて、孔子の塚に就き家居するもの百餘家有り、因て此の地を命じて、孔里と曰ふ、

【字解】心喪、喪服を着けずして、心の中に喪の禮を行ふこと、室、家なり、軒數を稱したるなり、

す、子貢を見て曰く、賜よ、汝の來る何ぞ其れ遲きや、と、孔子乃ち歎息し、歌ひ曰く、泰山壞れんか、梁柱摧けんか、哲人萎れんかと、因て涕下る、

【字解】賜、子貢の名なり、晩、遲きなり、太山、山東の名嶽泰山なり、

謂子貢曰、天下無道久矣、莫能宗予、夏人殯於東階、周人於西階、殷人兩柱間、昨暮予夢坐奠兩柱之間、予殆殷人也、後七日卒、孔子年七十三、以魯哀公十六年四月己丑卒、

【講義】孔子乃ち子貢に謂ひ曰く、天下は道を失ふこと久、我獨り其の道を知る、然れども、天下は能く余を尊戴するもの無し、余は竟に此の道を行ふこと無くして死せん、夏人は死すれば、東階に殯し、周人は死すれば、西階に殯す、而して殷人は死すれば、東西兩柱の間に殯す、昨夜余は兩柱の間に坐して供物を受けたる夢を見たり、余は殆んど殷人として死せんかと、後七日にして孔子卒す、年七十三なり、蓋し魯の哀公十六年四月己丑の日に死去したるなり、

【字解】殯、遺骸を棺に收めて、堂上に置くこと、カリモガリと訓す、奠、テンと讀む、靈前に供物を進むること、

哀公誄之曰、旻天不弔、不憖遺一老、俾屏余一人以在位、煢煢余在疚、嗚呼哀哉、尼父、毋自律、

【講義】哀公は孔子を弔ひ曰く、天は我を憐まず、此の一老人を存在せしめず、余一人を輔佐せしめず、其の相當の位に居らしめず、煢煢として孤獨なる余は心の病に在り、嗚呼哀しいかな、孔子既に亡し、余は自から法として遵ふべきもの無し、

【字解】誄、ルヰと讀む、弔辭なり、旻天、天は萬物を覆ひ憐れむ、故に旻天と稱す、旻は憫なり、弔、憐れむなり、憖、強ひてなり、遺、存在なり、一老、孔子を指す、俾、使むなり、屏、輔佐すること、覆ひ助くるなり、

の禮に非るを諱みて、天王狩二于河陽一と書せり、此の類を推して見るに、其の時代の僭越姦邪の徒を誅責矯正する文字は、貶損の大義を示す、春秋の成りてより後に、王道を行ふ者有りて、此の一字褒貶の意を擧げ用ふるに至らば、春秋の義は、大に世に行はれん、此の時には、天下の亂臣賊子は皆恐懼せん、

【字解】 訟、終るなり、親、宗家なり、約、簡單にして要を得たるなり、指、意義なり、貶、其の位を下げること、繩、正すなり、貶、損、姦邪を誅責する爲めに、其の身分を卑く下ぐること、

孔子在レ位、聽レ訟、文辭有下可二與レ人共一者上、弗二獨有一也、至下於爲二春秋一、筆則筆、削則削、子夏之徒、不レ能レ贊二一辭一、弟子受二春秋一、孔子曰、後世知レ丘者、以二春秋一、而罪レ丘者、亦以二春秋一、

【講義】 孔子は嘗て大臣の位に在り、訴訟を聽きて之を裁決せり、其の當時の官用文辭は、他の官僚と共にすべきもの有り、獨り專有したるに非ず、然れども春秋を作成する事に至りては、孔子獨斷の見識を以て、筆すべきものを必らず筆し、削るべきものを必らず削る、其の門人の中にて、文學の英達なる子夏の徒と雖も、此の春秋の書に就きて、一辭をも贊助する能はず、孔門の諸弟子は、皆此の春秋の旨義を受けたり、孔子曰く、後世に至り余を知るものは、春秋を以て之を知らん、然れども、余を罪するものも、春秋を以て之を罪せん、

明歳、子路死二於衞一、孔子病、子貢請レ見、孔子方負レ杖逍二遙於門一、曰、賜、汝來何其晚也、孔子因歎、歌曰、太山壞乎、梁柱摧乎、哲人萎乎、因以涕下、

【講義】 其の明年に、子路は衞に死す、孔子は病重し、子貢來り謁す、孔子は方に杖に倚り門の邊に逍遙

子曰、弗乎弗乎、君子病沒世而名不稱焉、吾道不行矣、吾何以自見於後世哉、乃因史記作春秋、

【講義】孔子は至聖なり、名を求むるものに非ず、然れども、名は實有るに由りて生ず、名無きは實無き所以なり、故に、孔子曰く、否否、君子は其の一生の中に、君子としての名を得るに至らざるを耻辱とす、吾道は世に行はれず、我は君子としての名を成すに足らず、吾は何を以て自身を後世に現はすを得んやと、乃ち魯國の史記に據りて、春秋を作成す、

【字解】弗、否なり、春秋、史と曰ふが如し、春と秋とは、朝聘の大禮有るを以て、國史を春秋と稱す、獨り魯史の特稱といふに非ず、然れども、孔子の筆削したる春秋、獨り今日に存するを以て、魯史の特稱の如く成りたり、

上至隱公、下訖哀公十四年、十二公、據魯親周、故殷運之三代、約其文辭、而指博、故吳楚之君、自稱王、而春秋貶之曰子、踐土之會、實召周天子、而春秋諱之、曰天王狩于河陽、推此類以繩當世、貶損之義、後有王者、擧而開之、春秋之義行、則天下亂臣賊子懼焉、

【講義】春秋の書は、魯の隱公より哀公十四年に至る、十二公の史なり、魯を根據にして周を宗親と爲し、夏と周との中間なる故の殷より推して、夏、殷、周三代の事に論及し、其の文辭を簡約にして、其の旨意を博く深くす、是の故に、吳楚の君は自から僭して王と稱するも、春秋は之を貶し下げて、吳子と曰ひ、或は楚子と曰ふ、河陽の踐土に於ける會盟は、晉の文公が周の天子を召し寄せたる事實なれども、春秋は其

曰、不怨天、不尤人、下學而上達、
知我者、其天乎、

【講義】顏淵死す、孔子曰く、噫天は余の輔佐を亡ふ、是れ余を亡はんとするなりと、既にして魯の西邑に於ける冬の獵に麟を獲たるに及ぶ、乃ち曰く、吾道窮す、終に世を濟ふ能はずと、嘗て喟然嘆じて曰く、我を知るもの無しと、子貢曰く、何ぞ夫子を知るもの無しと爲さんと、孔子曰く、余は天に得る所無くして、天を怨まず、人に合ふを得ずして人を責めず、下に於て人事を學び、竟に上に於て天命を達するを期す、我を知るものは獨り天有るのみ、

不降其志、不辱其身、伯夷叔齊乎、謂柳下惠少連、降志辱身矣、謂虞仲夷逸、隱居放言、行中清、廢中權、我則異於是、無可無不可、

【講義】孔子は出處進退を論じて曰く、古の逸民には伯夷、叔齊、柳下惠、少連、虞仲、夷逸有り、伯夷と叔齊とは、其の志を降さず、其の身を辱めず、天子も之を臣とするを得ず、諸侯も之を友とするを得ず、此れ其の最も高きものなり、柳下惠と少連とは、志を降し身を辱めたり、然れども、自己を枉ぐるに非ず、他に合ふを求むるに非ず、此れ伯夷、叔齊に次ぐものなり、虞仲と夷逸とは、隱居して放言す、其の言行は、先王の法に合はざるもの有り、然れども、其の行ふ所は清くして汙れず、其の放言を以て自己を廢棄するも、能く時に處する道の宜しきに適へり、此れ亦逸民の特異なるものなり、而して我は此の六人に異なり、我の出處進退は、義に遵ひて、之を決す、可として就くこと無し、不可として去ること無し、唯義の在る所に從ふのみ、

【字解】放言、自己の信ずる所を主張して、他を顧みざるなり、廢、放言の結果にて、其の身は廢棄するものなり、權、其の時に應じて宜しきに適ひたる事行なり、中、適當すること、

ども、謙遜して斯く述べたるなり、門人牢曰く、嘗て夫子の言を聞く、其の言に云ふ、我は政道が實務に試用せられず、故に六藝を學びて、政道を知るを得たりと、

【字解】 達巷、黨名なり、黨、小區域の地なり、五百家の在所とす、無所成名、孔子が泰伯の至德を稱して、民無得而稱焉と云ひしと同一の語氣にして、其の博く學び得たる智識の稱呼し難きをいふ、童子、此の文に童子と稱するも、論語子罕の篇には、童子の兩字無し、是れ衍字と見るべし、

魯哀公十四年春、狩大野、叔孫氏車子鉏商、獲獸、以爲不祥、仲尼視之曰、麟也、取之、曰、河不出圖、雒不出書、吾已矣夫、

【講義】 魯の哀公の十四年春に哀公は魯の西なる大野に遊獵し、叔孫氏の車役人鉏商は怪獸を獲たり、皆之を不吉のものと思惟す、孔子は之を視て曰く、嗟麟なりと、乃ち嘆じて曰く、黃河より龍馬が靈圖を負ひ出づること無し、洛水より神龜が文字を負ひ出づること無し、是れ聖道の世に行はれざる兆驗なり、吁我道は廢る、

【字解】 狩、冬の獵を狩と曰ふ、此の時は周曆の春なれども、夏曆の冬に當る時候なるを以て、冬の獵の字を用ひたるなり、大野、今の山東曹州府鉅野縣に屬す、車子、車の役人なり、鉏、商、人名なり、不祥、不吉なり、取之、麟なりと聞きて、叔孫氏の徒が其の獸を取りたるなり、曰、孔子の語なり、河圖雒書、周易の繫辭の語なり、伏羲氏の時に龍馬有り、黃河の邊より出づ、其の背の毛色に據りて、易理の數字を發見す、禹王の時に、神龜有り、洛水の邊より出づ、其の背の甲紋に據りて、洪範の文字を構成す、皆是れ聖德の靈瑞なり、此の靈瑞の現れ來らざるは、聖道の行はれざる兆驗なり、

顏淵死、孔子曰、天喪予、及西狩見麟、曰、吾道窮矣、喟然歎曰、莫知我夫、子貢曰、何爲莫知子、子

夫子循循然、善誘レ人、博レ我以レ文、約レ我以レ禮、欲レ罷不レ能、既竭二吾才一、如レ有二所レ立卓爾一、雖レ欲レ從レ之、蔑レ由也已、

【講義】子貢は孔子を評して曰く、夫子の詩、書、禮、樂は之を聞くを得べし、然れども、天道及び人の性命の理に至りては、夫子が之を言ふこと稀なるを以て、聞くを得べからずと、蓋し天道と性命の理とは、易學の奥義なり、孔子は周易の十翼に於て之を述ぶ、然れども、孔子は人道を先にし、天道を後にす、其の世を治むるに急なるを以てなり、子貢の此の評は、顏淵の語と均しく、孔子の道の深きを嘆稱したるなり、顏淵は喟然として嘆じ曰く、夫子の道は窮極する所無し、之を仰ぎ見れば、愈高くして及ぶべからず、之を鑽り刺せば、愈堅くして入るべからず、之を視て我の前に在るかと思へば、早く既に我の後に在り、蓋し夫子は循循として敎ふるに順序有り、善く人を誘掖し、指導す、我の智識を博くするに文學を以てし、我の行動を整ふるに禮節を以てす、我は罷まんと欲するも、罷む能はず、既に我の才能の及ぶ限りを盡くして之を學べり、然れども、夫子の立つ所は、卓然として尙愈高處に在るが如し、之に從はんと欲するも從ふに由る所無きのみ、

【字解】鑽、錐にて刺し透すこと、瞻、仰ぎ視るなり、循循、順序の正しきこと、約、整へ治むるなり、竭、盡すなり、卓爾、高く秀でたる貌なり、蔑、無しなり、

達巷黨人童子曰、大哉孔子、博學而無レ所レ成レ名、子聞レ之曰、我何執、執レ御乎、執レ射乎、我執レ御矣、牢曰、子云、不レ試、故藝、

【講義】達巷の黨に童子有り、孔子の德を嘆稱して曰く、大なるかな孔子、其の學ぶ所は博くして、一個の藝に名を成すこと無しと、孔子は之を聞き曰く、我は何を執りて名を成さん、車馬を御する藝を執らんか、弓矢を使ふ藝を執らんか、我は車馬を御する藝を執らんと、蓋し孔子は至聖なり、萬事に通曉す、然れ

く、孔子は魚の腐爛して肉敗れたるものを食はず、肉を割くことの正しからざるものを食はず、席の正しからざるときに坐せず、喪中の人の坐側に食するときには、飽食せず、人を弔ひ哭したる日には、歌ふこと無し、喪服の人を見るとき、或は盲目の人を見るとき、其の喪服者盲目者が童子なりとも、孔子は顏色を變じて之を憐む、

【字解】儐、ヒンと讀む、賓客を接待する役なり、俟駕、車の支度を待つなり、餒、タヾル、と訓ず、腐敗したること、割、キリメと訓ず、齊衰、シサイと讀む、喪服をいふ、

三人行、必得我師、德之不脩、學之不講、聞義不能徙、不善不能改、是吾憂也、

【講義】孔子曰く、我輩三人行動するときには、兩人の賢愚善惡を見て、其の善き所を學ぶ、故に必らず我の師と爲すべきものを得べし、我は德の未だ修らざるを憂ふ、學の未だ究めざるを憂ふ、義を聞きて未だ之に從ふ能はざるを憂ふ、不善を知りながら未だ之を改むる能はざるを憂ふと、蓋し此の四憂は、孔子の進修して已まざる所以なり、

使人歌、善則使復之、然後和之、

子不語怪、力、亂、神、

【講義】孔子は人の歌ふを聞き、其の調子善ければ、再び之を歌はしめ、之を會得したる後に、我も其の調子に合せて歌ふ、蓋し一事の微小なるも、其の善を學ぶを勉むるなり、孔子は常を語るのみ、怪を語らず、德を語るのみ、力を語らず、治を語るのみ、亂を語らず、人を語るのみ、神を語らず、蓋し怪異と、勇力と、悖亂と、鬼神とは、常理を以て律すべからず、之を語るを謹む所以なり、

子貢曰、夫子之文章、可得聞也、夫子言天道與性命、弗可得聞也已、顏淵喟然歎曰、仰之彌高、鑽之彌堅、瞻之在前、忽焉在後、

曰く命、曰く仁、蓋し利を計れば、義を害ふこと有り、天命は微妙にして言ひ難し、仁は道大にして語り難し、故に之を述ぶること稀なり、孔子は門人に教ふるに、其の自ら進み學ぶを待つ、故に門人か憤發して問を起すに非れば、之を啓き導くこと無し、例へば四隅有るものを把り、其の一隅を擧げて教へたる時に、他の三隅を以て反問せざるものは、其の憤發の見えざるものなり、故に斯の如きものには復た教へず、

其於郷黨、恂恂似不能言者、其於宗廟朝廷、辯辯言、唯謹爾、朝與上大夫言、誾誾如也、與下大夫言、侃侃如也、入公門、鞠躬如也、趨進、翼如也、

【講義】 孔子は其の宗族の居所なる郷黨に於ては、恂恂として謙遜し、言ふ能はざるものに似たり、孔子は宗廟朝廷に出づれば、辯辯として多く言ふ、然れども放語するに非ず、唯謹みて言ふ、孔子は朝廷に於て、上大夫と言ふ、誾誾として和悅の貌有り、下大夫と言ふ、侃侃として剛直の風有り、孔子は官門に入るときに、其の門は高大なるも、身を曲めて愼む、其の趨り進むときは、拱禮したる袖張ること端正にして、鳥の翼を張るか如し、

【字解】 郷、一萬二千五百家の地なり、黨、五百家の地なり、辯辯、使便に同じ、多く言ふ貌なり、鞠躬、身を曲げて愼むこと、如、然に似たり、形容するときの副詞なり、

君召使儐、色勃如也、君命召、不俟駕行矣、魚餒肉敗、割不正、不食、席不正、不坐、食於有喪者之側、未嘗飽也、是日哭、則不歌、見齊衰瞽者、雖童子必變、

【講義】 孔子は君の召に應じ、賓客を接待する役に當れば、顏色勃然として常時と異り、其の君命を以て召されたるときには、車を待たずして、直に之に赴

年、若是、我於易則彬彬矣、

【講義】孔子は老年に至りて周易を喜び、序、彖、繫、象、說卦、文言等の文を作り、以て易學を說き、其の道理を明にしたり、蓋し易を讀むに當りて、反覆熟誦したるを以て、其の章の綴紐は、三度も斷ち切れたり、孔子乃ち曰く、天命が今より數年間を我に與へ、我をして此の如く易學の勉强を繼續せしめんか、我は易理を討究するに於て、完美を極むるを得ん、

【字解】序、彖、繫、象、說卦、文言、是は謂はゆる十翼なり、孔子が周易の理義を說明したる序卦、上彖傳、繫辭上傳、繫辭下傳、上象傳、下象傳、說卦、文言及び雜卦の文十篇を概稱す、韋編、韋を以て綴ぢたる竹簡の書なり、彬彬、ヒンピンと讀む、諸色の兼ね揃ひて、文理の明なること、

孔子以詩書禮樂敎、弟子蓋三千焉、身通六藝者、七十有二人、如顏濁鄒之徒、頗受業者甚衆、

【講義】孔子は詩、書、禮、樂を以て敎訓し指導す、其の門人は殆んど三千人有り、其の中に於て身に禮、樂、射、御、書、數の六藝を兼ね修めたるものは、七十二人有り、此の外に顏濁、鄒の如き學者有り、孔子の業を受けたるもの甚だ多し、

孔子以四敎、文、行、忠、信、絕四、毋意、毋必、毋固、毋我、所愼、齋、戰、疾、

【講義】孔子は敎ふるに四個の要件を以てす、曰く、文を學ぶこと、曰く行を愼むこと、曰く心を盡して忠なること、曰く言を守りて信なること、孔子は四を絕つ、曰く私意を用ふること無し、曰く自から敢て必すること無し、天命に從ひ行藏進退す、曰く物に固着滋滯すること無し、曰く我無し道行るのみ、孔子は其の愼む所のもの三有り、曰く齋戒して鬼神を祭ること、曰く戰鬪に臨むこと、曰く疾病に罹ること、

子罕言利與命與仁、不憤不啓、擧一隅、不以三隅反、則弗復也、

【講義】孔子は容易に言はざるもの三有り、曰く利、

べきものを取る、即ち上世に於て、契、后稷より採り、中世に於て、殷、周の盛時を述べ、終に幽、厲の荒亂したる時代に及ぶ、其の詩意は、卑近なるものより始まり、高遠なるものに至る、

【字解】 重、重複なり、采、採用するなり、契、后稷、堯舜時代の兩賢相たり、幽、厲、周の兩王なり、缺、政道の荒廢なり、衽席、人に近く解し易き意味を指す、

故曰、關雎之亂、以爲風始、鹿鳴爲小雅始、文王爲大雅始、清廟爲頌始、三百五篇、

【講義】 故に、其の詩は風、雅、頌に分つ、關雎といふを風の始とす、鹿鳴といふを小雅の始とす、文王といふを大雅の始とす、清廟といふを頌の始とす、總て三百五篇有り、

【字解】 風、雅、頌、詩の大體に於ける區別なり、風は列國の民風民情を歌ふものなり、雅は、王者の政事に於ける儀を歌ふ、其の小大の別を見るは、政事の大小及び音律の清濁高下に由るなり、而して頌は、宗廟祭祀の時に、其の君の功德を稱揚するものなり、關雎、鹿鳴、文王、清廟、皆是れ詩の篇名なり、亂、詩の終末の章を稱す、曲といふ意に通じ用ふ、

孔子皆弦歌之、以求合韶武雅頌之音、禮樂自此可得而述、以備王道、成六藝、

【講義】 孔子は此の三百五篇を把りて、之を絃歌し、其の調子が虞、舜、周武時代の雅頌に合ふことを求めたり、王者の禮樂は此よりして世に稱述するを得べきに至り、以て王道に備ふべし、以て禮樂射御書數の六藝を完成するに足る、

【字解】 弦、絃なり、韶、セウと讀む、虞舜の作りたる樂なり、武、周の武王の作りたる樂なり、六藝、禮樂射御書數なり、

孔子晩而喜易、序彖繫象說卦文言、讀易韋編三絕、曰、假我數

る所を損し、其の足らざる所を益し、以て政道を理めたるを知り、乃ち曰く、今後百世の變遷と雖も推して知るべきなり、政事の要は、殷の如く質實を貴び、周の如く文華を尙ぶ、其の取捨損益の間に在り、周は夏、殷の二代に照し視て、其の損益する要を得たり、故に郁郁として文華の盛を見る、我は周の政道に從はんと、斯の如く、孔子は夏、殷周三代の政事に於ける要道を討究したり、故に、書傳禮記は孔氏より起る、

【字解】 徵、證據を立つること、郁郁、文物の盛なる貌なり、

孔子語魯太師、樂其可知也、始作翕如、縱之純如、皦如繹如也、以成、吾自衞反魯、然後樂正、雅頌各得其所、

【講義】 孔子は、魯の樂官に語りて曰く、音樂の道は知るを得べきなり、其の始に於ては翕如として盛に起り、之を縱ち揚ぐれば、純如として五音六律相和す、之に次ぐに皦如として、其の淸濁高下の音律相分れて、明なるを致す、其の終に至りて、繹如たる連貫の調子を奏し、以て完成す、余は衞より魯に歸りて、然る後に、此の荒廢したる周の音樂を正すことを得たり、是に於て、詩の雅音も、頌聲も、各其の正當の調子を得たり、

【字解】 太師、樂官なり、翕、五音六律の相合して起る貌なり、其の聲の盛なるをいふ、純、音律の多きもの相和して調ふ貌なり、皦、音律の各其の特別なる調子を明にすること、繹、相連りて絶えざる意なり、雅頌、此の次の節に見ゆ、

古者詩三千餘篇、及至孔子、去其重、取可施於禮義、上采契后稷、中述殷周之盛、至幽厲之缺、始於袵席、

【講義】 古昔に於て、詩は三千餘篇有り、孔子に至りて、其の詩中の重複したるを削り、其の禮義に施行す

【講義】魯の哀公は政事を問ふ、孔子對へて曰く、政事の要は臣を選ぶに在り、季康子は政事を問ふ、孔子對へて曰く、正直のものを擧用し、邪枉のものを廢棄すれば、邪枉のものは正直と爲ると、是の時に當り、季康子は盜を治むるに苦しむ、孔子曰く、苟も子が利慾の念を去らば、盜を賞すと雖も、民は物を竊まざるに至らんと然れども、魯は終に孔子を用ふる能はず、孔子も仕を求めず、

【字解】諸、衆多なり、

孔子之時、周室微、而禮樂廢、詩書缺、追迹三代之禮、序書傳、上紀唐虞之際、下至秦繆、編次其事、

【講義】孔子の時に當り、周の王室は衰頽し、禮樂は荒廢し、詩書は殘缺したり、孔子は乃ち夏、殷、周三代の禮を追ひ尋ね、古書の傳記を整理し、上は堯舜の際より、下は秦の繆公時代に至るまで、其の事迹を編成して、記述したり、

【字解】迹、尋ね求むるなり、序、ツイヅと訓ず、順次に整へて列ぶるなり、紀、記述なり、唐虞、堯舜なり、

曰、夏禮吾能言之、杞不足徵也、殷禮吾能言之、宋不足徵也、足則吾能徵之矣、觀殷夏所損益、曰、後雖百世可知也、以一文、一質、周監二代、郁郁乎文哉、吾從周、故書傳禮記、自孔氏、

【講義】孔子曰く、夏の禮は知るべし、我は能く之を言ふ、然れども、夏の後裔なる杞國は我言の證據を擧ぐるに足らず、殷の禮は知るべし、我は能く之を言ふ、然れども、殷の後裔なる宋國は我言の證據を擧ぐるに足らず、若しも此の兩國にして證據を擧ぐるに足らば、我は能く我言の誤らざるを證明せんと、孔子は夏、殷の際を觀て、殷が夏の禮制を承けて、其の餘

召之、則毋以小人固之、則可矣、

【講義】季康子曰く、我は孔子を召さんと欲す、可ならんか、冉有曰く、孔子を召さんと欲せば、小人を以て孔子を鄙むる勿れ、斯くすれば、之を召し來らしむるを得ん、

【字解】以小人固之、政府に小人を列して、孔子を鄙しむるなり、

而衞孔文子將攻太叔、問策於仲尼、仲尼辭不知、退而命載而行、曰、鳥能擇木、木豈能擇鳥乎、文子固止、

【講義】既にして、衞の孔文子は太叔を攻めんと欲し、其の策を孔子に問ふ、孔子は辭して曰く、知らずと、乃ち退出して車を命じ、衞を去らんとす、曰く、鳥は能く木を擇ぶ、然れども、木は豈能く鳥を擇ばんやと、蓋し鳥は我に比す、木は國に比す、我は吾意の向ふ所に去らんとの語なり、文子は固く孔子を挽き留む、

【字解】載、車をいふ、蓋し荷物を支度することなり、

會季康子逐公華、公賓、公林、以幣迎孔子、孔子歸魯、孔子之去魯、凡十四歲而反乎魯、

【講義】是の時に當り、季康子は冉有の言に從ひ、小人なる公華、公賓、公林を逐ひ掃ひ、幣禮を以て、孔子を迎ふ、孔子乃ち魯に歸る、其の魯を去りてより十四年を經たり、

魯哀公問政、對曰、政在選臣、季康子問政、曰、擧直錯諸枉、則枉者直、康子患盜、孔子曰、苟子之不欲、雖賞之不竊、然魯終不能用孔子、孔子亦不求仕、

ず、刑罰が其の當を失へば、人民は安息する能はず、手足を置く所無きに至らん、蓋し君子は事を成せば、必らず其の事に相當なる名有り、言を發すれば、必らず其の言に相當して之を行ふ、故に君子は其の言ふ所に於て、苟且にする所無きのみ、總て名を正すより始る、

【字解】由、子路の名なり、門人なるを以て、之を呼びたるなり、錯手足、安息する貌なり、錯は置くなり、苟、苟且なり、一時の間に合せなり、

其明年、冉有爲季氏將師、與齊戰於郎、克之、季康子曰、子之於軍旅、學之乎、性之乎、冉有曰、學之於孔子、

【講義】其の明年に、冉有は季氏の爲めに軍に將たり、齊兵と郎に戰ひ、之に克つ、季康子曰く、子が軍事に於ける謀略は、學びて得たるか、天性に由りて得たるか、冉有曰く、孔子に學びて之を得たり、

【字解】郎、魯の邑なり、今の山東兗州府魚臺縣の東北に在り、旅、五百人の隊なれども、大衆にも通じ用ふ、

季康子曰、孔子何如人哉、對曰、用之有名、播之百姓、質諸鬼神而無憾、求之至於此道、雖累千社、夫子不利也、

【講義】季康子曰く、孔子は如何なる人ぞや、冉有曰く、之を用ふれば其の國の名譽を揚ぐ、其の行ふ所の政事は、之を人民に播き、之を鬼神に質して、遺憾無し、之を孔子に求むれば、此の至善の政道を行ふに至る、然れども、孔子は利慾を望まず、之に與ふるに二萬五千家の大封を以てするも、之れが爲めには來ること無し、

【字解】諸、之於の兩字と見るべし、累、重ね合すなり、千社、二十五家を一社とす、之を千倍したる封土なり、

康子曰、我欲召之、可乎、對曰、欲

に、此の百牢の徵發を拒み、其の事は止むを得たり、

【字解】 此の一節は、吳魯の兩世家を參看すべし、

孔子曰、魯衛之政兄弟也、是時衛君輒父不得立、在外、諸侯數以爲讓、而孔子弟子多仕於衛、衛君欲得孔子爲政、子路曰、衛君待子而爲政、子將奚先、

【講義】 孔子曰く、魯衛兩國の政事は殆んど優劣を見ずと、是の時に當り、衛君輒の父蒯聵は立つを得ず、國外に在り、諸侯は此の事を以て衛を責むること屢なり、而して孔子の門人は多く衛に仕ふ、衛君輒は孔子をして政事を行はしめんと欲す、子路乃ち孔子に謂ひ曰く、衛君は夫子を用ひて政事を行はしめんとす、敢て問ふ、夫子が其の先づ行はんとするは何事ぞ、

【字解】 讓、責むるなり、奚、何なり、

孔子曰、必也正名乎、子路曰、有是哉、子之迂也、何其正也、孔子曰、野哉由也、夫名不正、則言不順、言不順、則事不成、事不成、則禮樂不興、禮樂不興、則刑罰不中、刑罰不中、則民無所錯手足、矣、夫君子爲之、必可名、言之必可行、君子於其言、無所苟而已矣、

【講義】 孔子曰く、余が政を執るに當りては、必らずや先づ萬事に就きて、其の名を正さんか、子路曰く、此の理有るかな、嗟夫子は迂遠なり、何をか其れ正さん、孔子曰く、野鄙なるかな、由や、夫れ事に就きて其の名の正當ならざるときは、其の言ふ所が、其の行ふ所に順適なるを得ず、其の言が其の行に順適ならざれば、事業は成就せず、事業が成就せざれば、禮樂は興起せず、禮樂が興起せざれば、刑罰は罪過に的中せ

楚狂接輿、歌而過孔子曰、鳳兮鳳兮、何德之衰、往者不可諫兮、來者猶可追也、已而、已而、今之從政者殆而、孔子下欲與之言、趨而去、弗得與之言、於是、孔子自楚反乎衛、是歲也孔子年六十三、而魯哀公六年、

【講義】楚の佯狂者接輿は高歌して、孔子の前を過す、其の歌に曰く、鳳や鳳や、何ぞ其の德の衰へたるや、既に行ひし所は、之を諫止するを得ず、然れども、今後に來る行動は、之を追ひ止むるを得ん、吁嗟已まんかな、今の亂れたる世に於て、政事に從ふものは危しと、孔子は之を聞き、車より下りて、共に語らんと欲す、佯狂者は歩を疾くして去り、竟に語るを得ず、是に於て、孔子は楚より衛に還る、此の年に孔子は六十三歳なり、魯の哀公の六年に當る、

【字解】鳳、仁德を備へたる鳥なり、孔子に喩ふ、德衰、聖王出づれば鳳至る、今の時は聖王出でず、鳳獨り彷徨す、故に德衰ふといふ、往者、既往の行動なり、孔子が亂世に出遊するは誤なり、是れ鳳が無益に飛翔する如しとの意なり、來者、今後の行動なり、追、追ひて止むるなり、既往の如く無益に出遊すること有らば、之を追ひ止めて、今後は隱遁し、其の鳳の德を完くすべしとの意なり、已而、已而、已矣に同じ、亂世を嘆き、匕を投げて、退き去る意なり、已矣已矣とは、繰返して嘆息したるなり、殆而、危矣に同じ、蓋し接輿は孔子が亂世に道を行はんとして焦慮することの無益なるを慨嘆し、其の隱遁を勸告したるなり、

其明年、吳與魯會繒、徵百牢、太宰嚭召季康子、康子使子貢往、然後得已、

【講義】其の明年に、吳は魯と繒に會す、吳は魯に向ひて、百組の牛羊豕を請求す、吳の太宰嚭は、魯の季康子を召す、季康子は子貢をして往かしめ、然る後

將率、有如子路者乎、曰無有、王之官尹、有如宰予者乎、曰無有、

【講義】 楚相子西は、孔子に地を與ふることの危險を論じて、昭王に謂ひ曰く、楚國に於て、大王が公使と爲し、諸侯に派遣するものは、子貢の如き賢才有るか、昭王曰く、有らず、子西曰く、大王の輔佐の大臣は、顏回の如き賢才有るか、昭王曰く、有らず、子西曰く、大王の將帥は、子路の如き賢才有るか、昭王曰く、有らず、子西曰く、大王の行政官は、宰予の如き賢才有るか、昭王曰く、有らず、

【字解】 令尹、宰相なり、率、帥なり、

且楚之祖、封於周、號爲子男五十里、今孔丘述三王之法、明周召之業、王若用之、則楚安得世世堂堂方數千里乎、夫文王在豐、武王在鎬、百里之君、卒王天下、今孔丘得據土壤、賢弟子爲佐、非楚之福也、昭王乃止、其秋楚昭王卒于城父、

【講義】 楚相子西曰く、且つ夫れ楚國の始祖が周より封土を受けたるは、其の爵號を子男の班とす、地方五十里のみ、今や孔子は七百里の地に據り、夏、殷、周三代王者の法を述べ、周公召公の業を明にせんとす、大王が若しも之を用ふること有らば、其の危險は楚に迫らん、楚は何ぞ世世堂堂として地方數千里を領するを得んや、夫れ文王は豐に居り、武王は鎬に居る、是れ地方一百里の君たるに過ぎず、然れども、竟に能く周の王業を成して、天下列國に君臨するに至れり、今や孔子は封土を占むるを得て、其の門人の賢才なるものが輔佐たり、是れ楚の福に非ずと、是に於て、昭王は孔子を封ずることを止む、其の年の秋に昭王は城父に卒す、

【字解】 豐鎬、共に周の本紀に詳なり、卒、竟になり、城父、楚の世家に解す、

修、而不用、是有國者之醜也、不容何病、不容然後見君子、孔子欣然而笑曰、有是哉、顏氏之子、使爾多財、吾爲爾宰、

【講義】孔子は乃ち顏回に問ふに詩を以てす、子路及び子貢に問ひしが如くす、顏回曰く、夫子の道は甚だ大なり、故に天下列國能く夫子を容るゝもの無し、然りと雖も、夫子は推して其の道を行ふべし、世人が之を容れざるも何をか憂へん、世人が其の道を容れざるに至りて、然る後に我の君子たるを見るのみ、夫れ道の修らざるは我の恥なり、然れども、我の道が既に大に修りて、之を用ふるもの無きは、我の恥に非す、是れ國家の政權を執るものゝ恥なり、世人が我を容れざるも、何をか憂へん、世人が我を容れざる時に、我の君子たるを見るのみと、孔子は曩に子路子貢の説を斥けたれども、此の顏回の答を聽き、欣然として悅び笑ふ、曰く、此の理有るかな、顏氏の子よ、汝は我と志を同くす、汝の家に多く財を有するならば、我は汝の家の番頭として事へん、

【字解】回、顏淵の名なり、門人なるを以て、其の名を呼びたるなり、醜、恥辱なり、爾、汝なり、

於是、使子貢至楚、楚昭王興師迎孔子、然後得免、昭王將以書社地七百里封孔子、

【講義】是に於て、孔子は子貢をして楚に至らしむ、楚の昭王は軍を興し、孔子を迎ふ、然る後に、孔子は陳蔡の困厄を免るゝを得たり、昭王は楚の領内にて社を立て、國籍に記錄したる地方七百里の區域を割きて、孔子を封ぜんと欲す、

【字解】書社、二十五軒の人家を一組として、社を建て、國の記錄に載せたる地なり、七百里、書社の七百組を合したるもの、

楚令尹子西曰、王之使使諸侯、有如子貢者乎、曰無有、王之輔相、有如顏回者乎、曰無有、王之

良工能巧、而不能爲順、君子能脩其道、綱而紀之、統而理之、而不能爲容、今爾不脩爾道、而求爲容、賜而志不遠矣、子貢出、顏回入見、

【講義】孔子は乃ち子貢に問ふに、先づ子路に問ひし詩の意を以てす、子貢答へて曰く、夫子の道は甚だ大なり、故に天下列國能く夫子を容るゝもの無し、夫子何ぞ少しく卑くせざるか、孔子曰く、賜よ、汝の言は誤れり、良農は能く種を蒔くも、之をして實を結ばしむる能はず、良工は能く器物を造るも、之をして人の好む所に順はしむる能はず、君子は能く其の自から信ずる道を修め、法に由りて之を正し、要を取りて之を整ふ、然れども、世人の容るゝ所と爲る能はず、今や汝の信ずる道を修むる能はずして、世人に容れらんことを求む、是れ誤れり、賜よ、汝の志慮は遠大ならずと、子貢退出す、顏回來り謁す、

【字解】賜、子貢の名なり、門人なる故に名を呼びたるなり、詩、前節に詳解せり、人なれども、虎の如く野に居る、其の困厄の狀態を嘆息す、蓋少貶、字の如く讀むも解するを得べし、然れども、盍少貶に作るを可とす、貶は卑くすると、夫子の道が大に過ぐるを以て、之を小に縮めて世の用に便ならしむるなり、稼穡、稼は種を播くなり、穡は實を取るなり、種は人力にて蒔くを得べし、然れども、實は人力にて作るを得ず、巧、器物の製作なり、順、人の好みに適合すること、製作は我の力に屬す、然れども適合は他人の意思に在り、

孔子曰、回、詩云、匪兕匪虎、率彼曠野、吾道非耶、吾何爲於此、顏回曰、夫子之道至大、故天下莫能容、雖然、夫子推而行之、不容何病、不容然後見君子、夫道之不修也、是吾醜也、夫道既已大

而問曰、詩云、匪兕匪虎、率彼曠野、吾道非耶、吾何爲於此、

【講義】孔子は此の陳蔡の厄に遭ひ、門人が皆憤激の心を生じたるを知る、乃ち子路を召し問ひ曰く、余は兕に非ず、虎に非ず、人なり、然るに兕虎の如く、荒野に居ると、是れ古き詩の語なり、今や余は此の詩中の意の如く、人にして荒野に在り、余の道は邪なるか、余は何の故に此の困厄に罹りたるか、

【字解】慍、憤慨すること、匪、非ずなり、兕、ジと讀む、牛に似たる猛獸なり、率、從ふなり、居るといふ意なり、曠、荒漠なり、

子路曰、意者吾未仁耶、人之不我信也、意者吾未知耶、人之不我行也、孔子曰、有是乎、由譬使仁者而必信、安有伯夷叔齊、使智者而必行、安有王子比干、子路出、子貢入見、

【講義】子路曰く、余は惟ふ、余は未だ仁ならざるか、他人が我を信ぜざるなり、余は惟ふ、余は未だ智ならざるか、他人は我を行かしめざるなり、孔子曰く、此の理有るかな、然れども由よ、汝は試に再思せよ、仁者必らず他人の信用を得るものならば、何ぞ伯夷叔齊の如く窮死するもの有らんや、智者必らず行くを得るものならば、何ぞ王子比干の如く虐殺に遭ふもの有らんやと、子路退出す、子貢來り謁す、

【字解】意者、思ふなり、思量すること、由、子路の名を呼びたるなり、安、何ぞなり、

孔子曰、賜、詩云、匪兕匪虎、率彼曠野、吾道非耶、吾何爲於此、子貢曰、夫子之道至大也、故天下莫能容夫子、夫子蓋少貶焉、孔子曰、賜、良農能稼、而不能爲穡、

【講義】陳蔡兩國の大夫は相謀りて曰く、孔子は賢者なり、其の察して議する所は皆諸侯の病處に的中す、今や孔子は久しく陳蔡の間に滯留す、然るに陳蔡諸大夫の施設する所は皆孔子の意に非ず、楚は大國にして孔子を召聘す、孔子が果して楚に用ひられたる時には、陳蔡の政權を執行する大夫皆危し、

【字解】刺譏、精察して之を論議するなり、刺譏兩字拘しく、ソシルと訓ず、

於是、乃相與發徒役、圍孔子於野、不得行、絕糧、從者病、莫能興、孔子講誦弦歌不衰、

【講義】是に於て、陳蔡兩國の大夫は、相共に役夫を發し、郊野に於て孔子を圍み、其の糧を絕ちて行かしめず、孔子の從者皆病み、能く興起するもの無し、然れども孔子は獨り詩書を講誦し、琴を彈じて歌ふ、平日に異ならず、

子路慍見、曰、君子亦有窮乎、孔子曰、君子固窮、小人窮斯濫矣、子貢色作、孔子曰、賜爾以予爲多學而識之者與、曰然、非與、孔子曰、非也、予一以貫之、

【講義】子路は憤慨して孔子に謁し曰く、君子も小人の如く窮すること有るか、孔子曰く、君子は誠に窮す、小人は窮に處する能はず、窮すれば玆に濫りに道に背きて邪を爲す、子貢は奮慨して色に現る、孔子曰く、汝は余を以て多く學び之を識るものと思惟するか、子貢曰く、然り、斯の如く思惟す、然れども是れ誤れるか、孔子曰く、汝の思惟する所は誤れり、余は多學の結果として理義を知り得たるに非ず、余は一理を以て萬物を推し、之を貫穿して知るのみ、

【字解】慍、憤なり、固窮、善く窮に處して亂れざるなり、賜、子貢の名なり、濫、窮に愼む能はず、行溢れて邪惡を爲すこと、

孔子知弟子有慍心、乃召子路

穀不分、孰爲夫子、植其杖而芸、子路以告、孔子曰、隱者也、復往則亡、

【講義】 他日、子路は孔子に從ひ、其の途に後れたり、忽ち老人が土籠を擔ひて來るを見る、乃ち問ひ曰く、子は夫子を見たるか、老人曰く、子は手足を勞せず、豆と麥とをも辨別せず、徒に行遊を事とす、何ぞ夫子を問ふを要せんと、其の土籠を擔ひたる杖を立て置き、草を刈りて更に答へず、子路は途に孔子に出會ひて此の事を告ぐ、孔子曰く、是れ隱者なりと、子路乃ち復た往きて老人を尋ぬ、老人既に去りて見えず、

【字解】 荷、擔ふなり、蓧、土を運ぶ籠なり、アジカ、と訓ず、丈人、老人なり、四體、手足なり、五穀、黍、稷、麻、麥、豆なれども、五穀不分は、農事を勸めずして、穀類の區別をも知らざること、孰、誰なり、芸、草を掃ひ去るなり、

孔子遷于蔡三歲、吳伐陳、楚救陳、軍于城父、聞孔子在陳蔡之間、楚使人聘孔子、孔子將往拜禮、

【講義】 孔子が蔡に遷りて三年、吳は陳を伐つ、楚は陳を救ひ城父に軍す、孔子が陳蔡の間に滯在するを聞き、楚王は使を以て孔子を召聘す、孔子は乃ち楚に往き拜禮せんと欲す、

【字解】 城父、楚の世家に詳なり、聘、禮物を贈りて人を召すなり、

陳蔡大夫謀曰、孔子賢者、所刺譏、皆中諸侯之疾、今者久留陳蔡之間、諸大夫所設行、皆非仲尼之意、今楚大國也、來聘孔子、孔子用於楚、則陳蔡用事大夫危矣、

桀溺謂子路曰、子爲誰、曰、爲仲由、曰子孔丘之徒與、曰然、桀溺曰、悠悠者天下皆是也、而誰以易之、且與其從辟人之士、豈若從辟世之士哉、耰而不輟、

【講義】桀溺は子路に謂ひ曰く、子は誰ぞ、子路曰く余は仲由なり、桀溺曰く、子は孔丘の徒なるか、子路曰く然り、桀溺曰く、悠悠として流れ去り、世俗の風に從ふものは、天下皆是れなり、誰か能く之を變ぜん、今日に王道を行はんとするは、無用の事なり、且つ孔子の如く、小人を避けて君子を求めんとする士に從ふは、余の如く、世を避けて獨り樂む所の士に從ふに如かずと、乃ち耜を揮ひ土を以て種を覆ひ、復た休息せず、

【字解】悠悠、滔滔に似たり、流れ去りて息まざる貌なり、以、共になり、易、邪より正に改むるなり、與、比較すること、ヨリと訓ず、避人、避レ人なり、孔子の如く小人を避けて君子を求め、未だ世を避くる能はざる行爲を指す、若、勝るなり、辟世、避レ世なり、獨り樂むなり、桀溺の流を指す、耰、イウと讀む土を以て種を埋めること、輟、耕を止むるなり、

子路以告孔子、孔子憮然曰、鳥獸不可與同羣、天下有道、丘不與易也、

【講義】是に於て、子路は長沮桀溺兩人の渡口を語らざる狀態を孔子に告ぐ、孔子は悵然嘆息して曰く、鳥獸は世を避けて山林に隱る、然れども人は鳥獸と群を同じくするを得ず、故に余は世を治めて正に歸せしめんと欲す、天下の人が既に正道に從はゞ、余は何ぞ之を變ぜん、

【字解】憮然、失意の貌なり、長沮桀溺の徒が、鳥獸の如く、世を避けて獨り樂むを嘆息したるなり、

他日子路行、遇荷蓧丈人、曰、子見夫子乎、丈人曰、四體不勤、五

きものを親しみ附かしむるに在りと、他日、葉公は孔子の人物を子路に問ふ、子路は答へず、

【字解】 如、往くなり、葉、セフと讀む、今の河南南陽府葉縣なり、此の時には、楚の屬邑たり、邇、近き處の人民を指す、

孔子聞之曰、由爾何不對曰、其爲人也、學道不倦、誨人不厭、發憤忘食、樂以忘憂、不知老之將至云爾、去葉反于蔡、

【講義】 孔子は之を聞きて子路に謂ひ曰く、汝は何ぞ下の如く答へざりしぞ、曰く、孔子の人物は、道を學びて倦まず、人に誨へて厭はず、憤を發して食を忘れ、道を樂みて身の憂を忘る、總て心を用ふる所は道に在り、老衰の身に逼り至るを知らずと、斯くして孔子は葉の爲すに足らざるを知り、復た蔡に還る、

【字解】 由、子路の名なり、誨、敎訓なり、厭、倦に似たり、不厭は嫌はず倦まずして心を盡すなり、發憤、事物に感激して理義に進むこと、樂、道義を樂むなり、葉、前節に解す、

長沮桀溺耦而耕、孔子以爲隱者、使子路問津焉、長沮曰、彼執輿者爲誰、子路曰、爲孔丘、曰、是魯孔丘與、曰、然、曰、是知津矣、

【講義】 孔子は葉より蔡に還る、途中に於て、長沮と桀溺との兩人が相併びて耕作するを見る、因て此の兩人を隱者なりと認め、子路を使として河水の渡口を問はしむ、長沮曰く、彼の車上に於て轡を執るものは何人ぞ、子路は是れ孔丘なり、長沮曰く、是れ魯の孔丘なるか、子路曰く然り、長沮曰く、孔丘は天下を周遊す、是れ渡口を問ふを要せず、自から能く之を知らん、

【字解】 耦、グウと讀む、兩人併びて耜を揮ふなり、津、渡口なり、輿、車なれども、輿を執るとは、轡を執りて車を御すること、

在るものは、皆志慮高遠にして、其の材能は明に見るべし、余は如何に之を指導して、道に進ましめんか、余は之を思ふ深し、

【字解】小子、門人を指して稱す、狂簡、志慮の高遠なるをいふ、斐然、燦然に似たり、文理の明に見ゆる貌なり、章、其の人の才藝成就したる狀態を稱す、裁、裁制して敎導すること、

子貢知孔子思歸、送冉求因誡曰、卽用以孔子爲招云、冉求既去、明年、孔子自陳遷于蔡、

【講義】是に於て、子貢は孔子が魯に歸る心の動きたるを知る、因て冉求を送り之を誡めて曰く、子が魯に用ひられたる時には、孔子を招くことを爲せよと、冉求は既に去る、其の明年に孔子は陳を去り蔡に入る、

【字解】誡、注意するなり、卽、若なり、云、云云の如し、倘其の外に言有るを略したるなり、

蔡昭公將如吳、吳召之也、前昭公欺其臣遷州來、後將往、大夫懼復遷、公孫翩射殺昭公、楚侵蔡、秋、齊景公卒、

【講義】是の時に當り、蔡の昭公は吳に往かんとす、吳の召に應じたるなり、蓋し前年昭公は其の臣を欺きて吳と約し、國を吳の新領地なる州來に遷し、其の後に於て、親から往かんとす、蔡の大夫は再び他の地に遷されんことを憂懼し、昭公を除かんと欲す、公孫翩は遂に昭公を射殺したり、楚兵來りて蔡を侵す、是の年の秋に、齊の景公卒す、

【字解】州來、今の安徽鳳陽府壽州に屬す、如、往くなり、

明年、孔子自蔡如葉、葉公問政、孔子曰、政在來遠附邇、他日、葉公問孔子於子路、子路不對、

【講義】其の明年に、孔子は蔡より葉に往く、葉公は政を問ふ、孔子曰政道は遠きものを懷け來らしめ、近

召仲尼、

【講義】是の年の秋に、季桓子病む、閑車にて出遊し、魯の城を觀て、喟然歎息す、曰く、前年此の國は殆んど隆興せんとしたり、然るに余の行爲が惡しくして孔子の意に背きたり、故に魯は隆興せずと、乃ち顧みて其の嗣子なる季康子に謂ひ曰く、我死せば汝は必らず魯に宰相たらん、其の時には必らず孔子を召し用ひよ、

【字解】輦、人の手を以て挽く車なり、儀式に由らずして閑遊するときの乘物をいふ、喟然、歎聲なり、獲罪、機嫌を損ずること、即、若なり、若、汝なり、

後數日、桓子卒、康子代立、已葬、欲召仲尼、公之魚曰、昔吾先君用之不終、終爲諸侯笑、今又用之不能終、是再爲諸侯笑、

【講義】其の後、數日にして季桓子卒す、季康子は代り立つ、既に桓子を葬る、乃ち孔子を召さんと欲す、公之魚曰く、前年我先君定公は孔子を用ひ、中途にして罷み、終に諸侯に嘲笑せられたり、今再び孔子を用ひて中途に罷むること有らば、再び諸侯の嘲笑を速かん、

康子曰、則誰召而可、曰必召冉求、於是使使召冉求、冉求將行、孔子曰、魯人召求、非小用之、將大用之也、是日孔子曰、歸乎歸乎、吾黨之小子狂簡斐然成章、吾不知所以裁之、

【講義】季康子曰く、然らば誰を召して可ならんか、公之魚曰く、必らず冉求を召し用ひよと、是に於て康子は使を發し冉求を召す、冉求は乃ち魯に往かんとす、孔子は之を送り曰く、魯人が求を召すとは小く用ふるに非ず、大に用ひんとするなりと、孔子は是に由り歸思動きて曰く、嗟魯に歸らんかな、吾門人の魯に

に在らず、孔子は遂に衞を去り、復た陳に徃く、是の年夏衞の靈公卒す、孫輒立つ、是を衞の出公といふ、
【字解】蜚、飛ぶなり、行、去るなり、

六月、趙鞅內太子蒯聵于戚、陽虎使太子絻、八人衰絰、僞自衞迎者、哭而入遂居焉、冬、蔡遷于州來、是歲魯哀公三年、而孔子年六十矣、

【講義】其の六月に、晉の趙鞅は衞の太子蒯聵を戚城に入らしむ、蓋し趙鞅の命を受けたる陽虎は、太子蒯聵に喪服を被せ、別に從者八人に喪服せしめ、以て衞より來り迎へたるものゝ如く僞り、靈公の薨去の爲めに哭して戚城に入りたるなり、蒯聵は遂に戚城に居る、其の冬に蔡は國を州來に遷す、是の年は魯の哀公の三年に當る、孔子は正に齡六十歲なり、
【字解】戚、衞の屬邑なり、絻、ブンと讀む、喪服なり、衰絰、サイテツと讀む、喪服にて麻の帶を爲すこと、州來、蔡の世家に詳なり、

齊助衞圍戚、以衞太子蒯聵在故也、夏、魯桓釐廟燔、南宮敬叔救火、孔子在陳、聞之曰、災必於桓釐廟乎、已而果然、

【講義】齊は衞の出公を相けて戚城を圍む、蓋し衞の太子蒯聵が戚城に據るを以てなり、是の年の夏に、魯の桓公釐公の兩廟燒けたり、孔子の門人なる南宮敬叔は往きて火を救ひ書類を取り出せり、孔子は陳に在り、魯の火事を聞き曰く、火災は必らず桓公釐公の兩廟に出らんかと、既にして其の言の如し、蓋し此の兩廟は之を祭ること其の禮に超えたればなり、

秋、季桓子病、輦而見魯城、喟然歎曰、昔此國幾興矣、以吾獲罪於孔子、故不興也、顧謂其嗣康子曰、我卽死、若必相魯、相魯、必

て飛翔せず、何となれば、物は其の類を傷ふことを忌み懼る、君子の心は此に在り、夫れ鳥獸も不義の事を觀るに於ては、尙之を避くるを知る、況んや余に於てをや、賢者の殺されしを聞きて、何ぞ其の地に入るを得んや、

【字解】刳、割くなり、貽、腹中の子なり、夭、幼兒なり、麒麟、今日の麒麟と稱する獸に非ず、是れ仁獸にして聖德に感じ世に現はるゝものなり、竭レ澤、湖沼を乾すなり、涸レ漁、魚類を取り盡すなり、蛟龍、雲雨を生ずる靈物なり、合、調和なり、鳳皇、仁鳥なり、辟、避くるなり、

乃還息二乎陬郷一、作二爲陬操一以哀レ之、而反二乎衞一、入二主蘧伯玉家一、

【講義】是に於て、孔子は黃河を渡らず、還りて陬郷に休息し、陬操と稱する琴歌を作り、以て天命の窮したるを悲む、既にして復た衞に還り、蘧伯玉の家に寓居す、

【字解】陬郷、衞の下邑なり、魯の陬に非ず、操、琴の曲譜なり、

他日、靈公問二兵陳一、孔子曰、俎豆之事、則嘗聞レ之、軍旅之事、未二之學一也、

【講義】或る日、衞の靈公は孔子を召して兵馬の事を問ふ、孔子曰く、朝廷の禮制の事は、嘗て之を聞く、行軍用兵の事は、未だ之を學ばずと、蓋し孔子は王道を行はんと欲す、故に軍事を言はざるなり、

【字解】兵陳、戰陣なり、軍事なり、俎豆、朝廷の禮制なり、軍旅、壹萬貳千五百人を軍といひ、五百人を旅といふ、軍旅は兵陣と同意なり、

明日、與二孔子一語、見二蜚鴈一、仰視レ之、色不レ在二孔子一、孔子遂行、復如レ陳、夏、衞靈公卒、立二孫輒一、是爲二衞出公一、

【講義】明日、靈公は復た孔子と語る、忽ち飛鴈有り、靈公は仰ぎて之を視る、其の心は鳥に在り、孔子

を參看すべし、

孔子既不得用於衞、將西見趙簡子、至于河、而聞竇鳴犢舜華之死也、臨河而歎曰、美哉水、洋洋乎、丘之不濟、此命也夫、

【講義】孔子は既に衞に用ひられず、西行して晋の趙簡子に面會せんと欲し、黄河に至る、此の時に、晋の賢大夫なる竇鳴犢と舜華とが殺されたるを聞き、黄河に臨み歎息して曰く、嗟美なるかな水や、洋洋として廣大なり、余が之を渡らざるも、是れ天命なるかな、

子貢趨而進曰、敢問何謂也、孔子曰、竇鳴犢、舜華、晉國之賢大夫也、趙簡子未得志之時、須此兩人而後從政、及其已得志、殺之乃從政、

【講義】子貢は趨り進み曰く、敢て問ふ夫子の歎息は何の故ぞや、孔子曰く、竇鳴犢と舜華とは、晋國の賢大夫なり、趙簡子が未だ志を得ざる時に、此の兩人を用ひて、後に政事を行へり、然るに簡子は志を得たる後に、此の兩人を殺して、政事を行ひ、復た賢者を顧みず、

丘聞之也、刳胎殺夭、則麒麟不至郊、竭澤涸漁、則蛟龍不合陰陽、覆巢毀卵、則鳳皇不翔、何則君子諱傷其類也、夫鳥獸之於不義也、尙知辟之、而況乎丘哉、

【講義】孔子は尙其の語を續けて曰く、余は之を聞く、腹中の子を割き取り幼少の兒を殺すときには、麒麟遠く去りて近郊に來らず、沼澤を乾して魚類を取り盡すときには、蛟龍逃げ隱れて陰陽を調和せず、鳥の巢を覆して卵を毀るときには、鳳凰其の姿を潛め

【講義】之を頃くして襄子曰く、子は既に其の曲に就きて數理を習へり、更に益して他の曲に進むべし、孔子曰く、余は未だ其の曲中の志す所を解するを得ず、

有間曰、已習其志、可以益矣、孔子曰、丘未得其爲人也、

【講義】之を頃くして、襄子曰く、子は既に其の曲中の志す所を習へり、更に益して他の曲に進むべし、孔子曰く、余は未だ其の曲中の人物を解するを得ず、

有間曰、有所穆然深思焉、有所怡然高望而遠志焉、曰丘得其爲人、黯然而黑、幾然而長、眼如望羊、心如王四國、非文王其誰能爲此也、

【講義】之を頃くして、襄子曰く、子は穆然自から靜なり、深く思ふ所有るが如し、怡然自から樂しみ、高く望み遠く志す所有るが如し、必らず其の曲中の人物を解し得たるならん、孔子曰く、余は其の曲中の人物を解し得たり、其の人は黯然として色黑し、幾然として身長し、眼は遠く視るが如し、心は四方の萬國に君臨するが如し、周の文王に非れば、誰か能く此の曲を成さん、

【字解】穆然、心靜なる貌なり、怡然、心樂しむ貌なり、黯然、黑き貌なり、幾然、頎然に同じ、身の長大なる貌なり、望羊、望洋に同じ、遠方を廣く望み視ること、

師襄子辟席、再拜曰、師蓋云、文王操也、

【講義】樂師の襄子は、此の孔子の語を聞き感歎し、席を避け再拜して曰く、洵に子の言の如し、吾師も蓋し此の曲を傳へて、周の文王の作曲なりと云へり、

【字解】辟、避くるなり、師蓋云、師は師襄子が學びたる先師を指す、先師が蓋し襄子を告げて云ふとの意なり、操、曲譜なり、此の師襄子の數節は、孔子家語

も、余は嘗て曰はずや、物甚だ堅ければ、之を磨するも薄くならず、物甚だ白ければ、之を染むるも黑くならずと、君子は濁亂の地に入るも、決して汚辱を受けず、故に、余は中年に往かんと欲す、是れ時に應じ道を行はんとする心より出づるなり、余は豈に壹處に留る瓜の如きものならんや、何ぞ能く壹個の場所に繫り、飮食せずして死を待たんや、

【字解】不曰堅乎、堅と曰はざらんやと訓ず、甚だ堅しとの意なり、磨、琢くなり、磨るなり、磷、薄く磨れて減るなり、不曰白乎、白と曰はざらんやと訓ず、甚だ白しとの意なり、涅、染むるなり、緇、黑きなり、瓠瓜、匏瓜に作るべし、匏と瓠とは通じ用ふ、匏瓜は瓢の類なり、壹定の場所に繫りて動かず、自ら飮食する能はず、是れ時に處して變通を知らざる固陋の人に譬ふ、

孔子擊磬、有荷蕢而過門者、曰有心哉擊磬乎、硜硜乎莫己知也、夫而已矣、

【講義】孔子は閑居して、磬を鳴し獨り樂しむ、忽ち門前に土籠を擔ひて通行するもの有り、磬聲を聞き、之を評して曰く、心有るかな、磬を打つ人は何物ぞ、硜硜として自ら守り、其の信ずる所の道に從ふ、他人は其の德を知る無きのみ、

【字解】磬、石にて造りたる樂器なり、蕢、アジカ、と訓ず、土を盛る籠なり、硜硜、カウカウと讀む小く道を守りて未だ大に展びざる貌なり、

孔子學鼓琴師襄子、十日不進、師襄子曰、可以益矣、孔子曰、丘已習其曲矣、未得其數也、

【講義】孔子は樂師の襄子に就きて、琴を彈くことを學ぶ、十日にして未だ他の曲に進まず、襄子曰く、更に益して進むべし、孔子曰く、余は既に其の曲譜を習へり、然れども、未だ其の數理を解するを得ず、

有間曰、已習其數、可以益矣、孔子曰、丘未得其志也、

孔子、孔子喟然歎曰、苟有用我者、朞月而已、三年有成、孔子行、

【講義】然れども、衞は竟に蒲を伐たず、靈公は老いて政事に怠り、孔子を用ひず、孔子は喟然歎息して曰く、苟も我を用ふるもの有らば、朞月にして政敎を行ふを得べし、三年にして其の功績を完くするを得んと、孔子は遂に衞を去る、

【字解】喟然、歎聲を發する貌なり、朞、滿壹箇月なり、

佛肸爲中牟宰、趙簡子攻范中行、伐中牟、佛肸畔、使人召孔子、孔子欲往、

【講義】晉の佛肸は、趙氏の領邑なる中牟の長官たり、趙簡子は范、中行を攻め、中牟を伐つ、佛肸は中牟に據りて、趙氏に叛き、使を發して孔子を招く、孔子は往かんと欲す、

【字解】佛肸、ヒツキツと讀む、范、中行、晉の世家に詳なり、中牟、今の河南開封府中牟縣なり、

子路曰、由聞諸夫子、其身親爲不善者、君子不入也、今佛肸親以中牟畔、子欲往、如之何、

【講義】子路曰く、余は之を夫子に聞く、其の身にて親から不善を爲すもの有るとき、君子は其の國に入らずと、今や佛肸は中牟の人を率ゐて、趙氏に叛く、是れ其の身親から不善を爲すものに非ずや、然るに夫子は往きて之を佐けんと欲す、何の故ぞや、

【字解】由、子路の名なり、諸、之なり、中牟、前節に解せり、如之何、之を奈何せんと訓ず、何を爲さんとするかといふ如し、

孔子曰、有是言也、不曰堅乎、磨而不磷、不曰白乎、涅而不淄、我豈匏瓜也哉、焉能繋而不食、

【講義】孔子曰く、洵に汝の言ふ所の如し、然れど

謂ひ曰く、苟も衞に往くこと無きを期せば、吾は子を釋さんと、乃ち盟を定め、孔子を東門より出したり、

孔子遂適衞、子貢曰、盟可負耶、孔子曰、要盟也、神不聽、

【講義】孔子は蒲より逃れて遂に衞に往く、子貢曰く、蒲人との盟は、衞に往かざるを定めたり、之を破るを得べきかと、孔子曰く、是れ强ひて要求したる盟なり、神は之を聽かず、背くも可なり、

【字解】負、背くなり、要、强ふるなり、無理に求むるなり、

衞靈公聞孔子來、喜郊迎問曰、蒲可伐乎、對曰可、靈公曰、吾大夫以爲不可、今蒲衞之所以待晉楚也、以衞伐之、無乃不可乎、

【講義】衞の靈公は孔子來ると聞き、喜びて郊外に出で、之を迎ふ、因て問ひ曰く、蒲は伐つを得べきか、孔子曰く可なり、靈公曰く、吾大夫は伐つことを不可なりと曰ふ、今や蒲は衞の藩屏の如し、晉楚が衞を侵さんとすれば、先づ蒲を攻む、故に蒲は衞より觀れば、晉楚を待ち受くる要地たり、衞が之を伐つは却て不可ならんか、

【字解】無乃、寧なり、却てといふ意なり、

孔子曰、其男子有死之志、婦人有保西河之志、吾所伐者不過四五人、靈公曰善、

【講義】孔子曰く、今や蒲城の男子は、衞の爲めに死せんと欲し、蒲城の婦人は、衞の爲めに西河を防守せんと欲す、故に衞が今に當りて伐つ所は、蒲城の士民に非ず、公叔氏等の四五人を伐つに過ぎず、心配を要せずと、衞の靈公は之を聽きて曰く、善し、

【字解】西河、衞の西河なり、魏の西河に非ず、

然不伐蒲、靈公老、怠於政、不用

【講義】是に於て、孔子は列國を周遊するも、亂世にして吾道の行はれざるを慨き、魯の門人を懷ふ、乃ち曰く、吾は魯に歸らんかな、吾門人の魯に在るものは、皆其の志慮高遠にして、進取の氣有り、吾は歸りて之を敎導し、之を道に進ましめん、是れ吾本來の志を忘れざる所以なり、

【字解】小子、門人なり、狂簡、志慮の高遠なる貌なり、其初、本來の志望なり、

於是孔子去陳過蒲、會公叔氏以蒲畔、蒲人止孔子、

【講義】是に於て、孔子は陳を去り蒲を通過す、此の時に、衞の公叔氏は蒲の城に據り、衞に叛く、故に蒲人は孔子を遮り止む、

【字解】蒲、匡の隣に在り、衞の邑なり、今の直隷大名府長垣縣に屬す、

弟子有公良孺者、以私車五乘、從孔子、其爲人長賢有勇力、謂曰、吾昔從夫子、遇難於匡、今又遇難於此、命也已、吾與夫子再罹難、寧鬬而死、鬬甚疾、

【講義】孔子の門人に公良孺といふもの有り、其の私徒を率ゐて車五臺有り、以て孔子を護衞す、公良孺は年長者にして賢なり、勇力有り、今や蒲人の來り迫るを覩て、奮激す、乃ち曰く、吾は曩に夫子に從ひ、匡に於て患難に遭遇せり、今復た此に來りて患に遭ふ、是れ天命なるのみ、吾は夫子と共に再び患害を受くるに堪へず、却て奮鬪し死を決せんのみと、其の鬪ふこと甚だ疾し、

【字解】長賢、孔子家語には賢長に作る、賢は才をいひ、長は齢をいふ、寧、生存するよりも却てといふ意なり、

蒲人懼、謂孔子曰、苟毋適衞、吾出子、與之盟、出孔子東門、

【講義】蒲人は公良孺の激鬪に遭ひて懼れ、孔子に

蠻をして其の地方の產物を來貢せしめ、其の職業を忘る無からしむ、是に於て、肅愼國は、楛の矢を貢獻す、其の矢には石の鏃有り、矢の長は壹尺八寸なり、

【字解】 肅愼、寧古塔なり、今の滿洲長白山の地方とす、此の地に松の化石有り、以て鏃を造る、是を石砮といふ、商、殷なり、方賄、地方の物產なり、楛、木の名なり、

先王欲昭其令德、以肅愼矢、分大姬、配虞胡公、而封諸陳、分同姓、以珍玉展親、分異姓、以遠方職、使無忘服、故分陳以肅愼矢、

【講義】 孔子は尙其の言を續けて曰く、是に於て、武王は周の聖德を明にせんと欲し、肅愼の矢を以て長女に賜ひ、此の矢を持ちて虞の胡公に嫁せしむ、而して胡公は陳國に封ぜられ、諸侯に列す、周は遂に同姓の國に分賜するに、珍玉を以てして、其の親睦を重ねしめ、異姓の國に分賜するに、遠夷の貢物を以てして、其の服從を忘る無からしむ、故に肅愼の矢は、嘗て陳國に賜ひし物なり、

【字解】 先王、武王なり、昭、明なり、令、善なり、大姬、長女なり、周の武王の長女にして、陳の始祖の夫人なり、諸、コレヲと訓ず、之於の兩字と見るべし、展、重ぬるなり、

試求之故府、果得之、

【講義】 陳の湣公は此の孔子の言を聞き、試に其の矢を舊庫に求めたるに、果して之を得たり、

孔子居陳三歲、會晉楚爭彊更伐陳、及吳侵陳、陳常被寇、

【講義】 孔子は陳に居ること三年を重ねたり、此の時に當り、晉楚は强を爭ひ、相代りて陳を伐つ、吳も來りて陳を侵し、陳は常に外國の兵に苦しみたり、

孔子曰、歸與歸與、吾黨之小子、狂簡進取、不忘其初、

なり、洵に然るかな、

【字解】欣然、喜びたる貌なり、末、未に作るべし、喪家、前節に解せり、

孔子遂至陳、主於司城貞子家、歳餘、呉王夫差伐陳、取三邑而去、趙鞅伐朝歌、楚圍蔡、蔡遷于呉、呉敗越王勾踐會稽、

【講義】孔子は遂に陳に至り、司城貞子の家に寓居すること壹年を過ぎたり、是の時に當り、呉王夫差は陳を伐ち、三縣を取りて去る、晉の趙鞅は范、中行の亂に由り、朝歌を伐つ、楚は蔡を圍む、蔡は呉の州來に遷る、呉は越王句踐を會稽山に敗る、諸國の騷亂相接したり、

【字解】朝歌、本來、衞の都なれども、此の時には、既に晉の邑たり、

有隼、集于陳廷而死、楛矢貫之、石砮、矢長尺有咫、陳湣公使使問仲尼、

【講義】隼有り、陳君の庭前に集りて死す、楛の矢を以て貫かれ居たり、其の鏃は石なり、而して矢は壹尺八寸の長なり、陳の湣公は使を以て、此の矢の事を孔子に問はしむ、

【字解】楛、コと讀む、矢を造る木の名なり、砮、ドと讀む、鏃なり、咫、八寸なり、有、又なり、

仲尼曰、隼來遠矣、此肅愼之矢也、昔武王克商、通道九夷百蠻、使各以其方賄來貢、使無忘職業、於是肅愼貢楛矢、石砮、長尺有咫、

【講義】孔子曰く、隼は遠方より來る鳥なり、此の矢は東北夷なる肅愼國の製する所なり、古昔周の武王が殷を征服して、道を九夷百蠻に通じたる時に、各夷

樹下、宋司馬桓魋、欲殺孔子、拔其樹、孔子去、弟子曰、可以速矣、孔子曰、天生德於予、桓魋其如予何、

【講義】孔子は曹を去り宋に往き、大樹の蔭に於て門人と共に禮を講習す、宋の司馬桓魋は、孔子を殺さんと欲し、其の大樹を斫り倒す、孔子は乃ち宋を去る、門人曰く危し、速に去るべし、孔子曰く、天は德を我に生ず、桓魋は何ぞ我を害するを得んや、

【字解】曹宋、兩國の世家に詳なり、如予何、我を奈何せんと訓ず、我を害する能はずといふが如し、

孔子適鄭、與弟子相失、孔子獨立郭東門、鄭人或謂子貢曰、東門有人、其顙似堯、其項類皐陶、其肩類子產、然自要以下、不及禹三寸、纍纍若喪家之狗、

【講義】孔子は遂に鄭に往き、門人と相失ひて離る、孔子は獨り城郭の東門に立つ、鄭人の或る者は子貢に謂ひ曰く、東門に人有り、其の額は帝堯に似たり、其の首筋は皐陶に似たり、其の肩は子產に似たり、總て聖賢に類す、然れども、其の腰より以下は、禹王に及ばざること三寸なり、其の疲勞したる貌は、宿無しの迷ひ犬の如し、

【字解】相失、相遇はざるなり、顙、額なり、項、首筋なり、要、腰なり、纍纍、疲勞して志を得ざる貌なり、喪家之狗、主家を離れて宿無しと爲り、迷ひ疲れたる犬なり、喪は失ふなり、

子貢以實告孔子、孔子欣然笑曰、形狀未也、而似喪家之狗、然哉、然哉、

【講義】子貢は東門に至り、孔子に謁して、鄭人の評語を告ぐ、孔子は欣然として笑ひ曰く、形狀の評語は未だ當らず、然れども、喪家の狗に似たりとは、適評

拜す、夫人の環珮は玉聲璆然として響きたり、
【字解】 絺、チと讀む、細く薄き葛布の織物なり、稽首、首を下げて暫く上げざるなり、稽は止むと訓ず、環珮、輪に造りたる玉にて、腰に帶びたる飾りなり、璆、清き響きなり、

孔子曰、吾鄉爲弗見、見之禮答焉、子路不說、孔子矢之曰、予所不者、天厭之、天厭之、

【講義】 孔子は退出して門人に謂ひ曰く、余は曩に謁見を辭謝したり、然れども、夫人の現はれたるに由り、之に答禮したるなりと、子路は之を聞きて悅ばず、孔子は乃ち天命を陳べて曰く、余の已むを得ずして爲す所は、天の厭ふ所なり、豈再び此の事有らんや、
【字解】 鄉、曩なり、見之、現於此なり、此の處に南子の現れ出たるをいふ、說、悅ぶなり、矢、陳ぶなり、天命の在る所を告ぐるなり、

居衞月餘、靈公與夫人同車、宦者雍渠參乘出、使孔子爲次乘、招搖市過之、

【講義】 孔子は衞に居ること壹月餘に及ぶ、此の時に靈公は夫人南子と同車して出遊す、宮內の侍者雍渠は其の車に陪乘す、而して孔子を後車に乘らしめ、市中を逍遙して通行す、
【字解】 宦者、侍從官なり、參乘、陪乘なり、招搖、逍遙なり、遊び廻るなり、

孔子曰、吾未見好德如好色者也、於是醜之、去衞過曹、是歲魯定公卒、

【講義】 孔子は此の衞の靈公の行ふ所を觀て、其の德を賤しみ色を尊ぶを慨き、曰く、余は未だ德を好むことの色を好むが如くするものを見ずと、遂に靈公を醜陋なりとして、衞を去り曹に至る、是の年に、魯の定公卒す、

孔子去曹適宋、與弟子習禮大

るも、其の暴を行ふ能はざるべし、何ぞ懼るゝに足らんや、

【字解】文、聖人の道なり、玆、孔子の身なり、與、知るなり、如予何、我を奈何ともする能はず、我を殺さんとするも殺す能はず、

孔子使從者爲甯武子臣於衛、然後得去、去卽過蒲、月餘反乎衛、主遽伯玉家、

【講義】然れども、匡人の圍は解けず、孔子は從者をして、衛の權臣甯武子に由り、衛の臣たらしむ、然る後に、匡を去るを得たり、斯くして蒲を經過し、月餘にして衛に還り、衛の大臣遽伯玉の家に寓居したり、

【字解】蒲、匡の隣に在り、衛の邑なり、晉の蒲に非ず、今の直隸大名府長垣縣に屬す、

靈公夫人有南子者、使人謂孔子曰、四方之君子不辱、欲與寡君爲兄弟者、必見寡小君、寡小君願見、孔子辭謝、不得已而見之、

【講義】衛の靈公の夫人を南子と曰ふ、南子は人をして孔子に謂はしめて曰く、四方の君子にして、此の衛國に來るを厭はず、吾君に親交を結ばんと欲する人は、必らず吾夫人に謁見す、吾夫人は孔子に面會することを願ふと、孔子は之を辭謝したるも、遂に已むを得ずして謁見す、

【字解】不辱、厭はざるなり、寡君、自國の君を稱する語なり、兄弟、親交なり、寡小君、自國の君の夫人を稱する語なり、

夫人在絺帷中、孔子入門、北面稽首、夫人自帷中再拜、環珮玉聲璆然、

【講義】夫人南子は薄き布の帷中に在り、孔子は門に入り、北面して稽首す、夫人は帷中に居りながら再

刻は孔子の車を御し、其の鞭を揚げ指示して曰く、前年余は此の地に入る、是れ彼の處の缺けたる城垣より進入したるなりと、蓋し其の囊に陽虎に隨行したる時の事を語りたるなり、

【字解】匡、宋の邑なり、今の直隷大名府長垣縣に屬す、僕、御車の役なり、策、鞭なり、

匡人聞之、以爲魯之陽虎、陽虎嘗暴匡人、匡人於是遂止孔子、孔子狀類陽虎、拘焉五日、

【講義】匡人は此の顏刻の言を聞き、孔子を以て魯の陽虎ならんと誤認したり、陽虎は嘗て匡人を迫害せしに由り、匡人は遂に孔子を遮り止め、孔子の狀貌が陽虎に類似したるを以て、之を拘留すること五日に及べり、

顏淵後、子曰、吾以汝爲死矣、顏淵曰、子在、回何敢死、匡人拘孔子益急、弟子懼、

【講義】顏淵は後れて至る、孔子は顏淵に謂ひ曰く、余は汝を死せりと思へり、顏淵曰く、夫子存在す、余何ぞ死を敢てせんやと、是の時に當り、匡人は孔子を拘ふること益〻迫る、門人皆懼る、

孔子曰、文王既沒、文不在玆乎、天之將喪斯文也、後死者不得與於斯文也、天之未喪斯文也、匡人其如予何、

【講義】孔子は門人の懼れたるを觀て、天命の在る所を告ぐ曰く、周の文王は道を行ひて死したるも、其の道は今日に現存して、我の身に在らずや、若しも天が此道を滅亡せしめんと欲するならば、文王に後れて死する余の如きものは、此の道を知る能はざらん、然れども、余は既に此の文王の道を知り得たり、故に天が此の道を保存するを信ずるに足るなり、天が既に此の道を保存するならば、匡人は余を害せんとす

諷す、謁、請謁の兩字を略したる語にして、情弊を指す、歳、一生なり、

師已反、桓子曰、孔子亦何言、師已以實告、桓子喟然歎曰、夫子罪我、以羣婢故也夫、

【講義】魯の樂師の己は還り至る、季桓子は問ひ曰く、孔子は何をか言ふ、樂師の己は答ふるに實際の情態を以てす、季桓子は喟然嘆息して曰く、夫子は我を罪有りとす、是れ齊の群婢に由るなりと、

【字解】已、樂師の名なり、喟、歎く聲なり、

孔子遂適衛、主於子路妻兄顏濁鄒家、衛靈公問孔子、居魯得祿幾何、對曰、奉粟六萬、衛人亦致粟六萬、

【講義】孔子は遂に衛に往き、子路の妻の兄なる顏濁鄒の家に寄寓す、衛の靈公は孔子に問ひ曰く、魯に於て祿を獲たる幾何ぞと、孔子對へて曰く、米六萬斗を賜ふと、衛人乃ち米六萬斗を支給したり、

【字解】奉粟、官祿の玄米なり、六萬、六萬斗なり、

居頃之、或譖孔子於衛靈公、靈公使公孫余假、一出一入、孔子恐獲罪焉、

【講義】其の後數月を經て、或る者は孔子を衛の靈公に讒言す、靈公は乃ち公孫余假に命じ、孔子の出入する每に、兵器を以て劫さしむ、是に由り孔子は罪を獲んことを恐れたり、

【字解】譖、譖なり、讒言することなり、

居十月去衛、將適陳、過匡、顏刻爲僕、以其策指之曰、昔吾入此由彼缺也、

【講義】孔子は衛に居ること十個月にして、衛を去り陳に往かんとす、其の途は匡を過ぐ、此の時に、顏

馬を觀ること再三に及び、遂に此の齊の贈り物を受けんとす、乃ち魯君に說き勸めて、城下を周遊せしめ、女樂文馬を觀ること終日、政事を顧みず、

【字解】周道游、城下の諸衢を周遊して、物を觀る便利に供するなり、

子路曰、夫子可以行矣、孔子曰、魯今且郊、如致膰乎大夫、則吾猶可以止、

【講義】子路曰く、夫子去るべしと、孔子曰く、魯は今や郊祭の時期に當る、其の祭に供へたる肉を大夫に分つこと有らば、余は猶止りて仕ふべし、

【字解】且、將なり、郊、城下の郊に於て、天地の靈を祭る儀式なり、致、分ち賜ふなり、膰、ハンと讀み、ヒモロギと訓ず、祭に供へたる肉なり、

桓子卒受齊女樂、三日不聽政、郊又不致膰俎於大夫、孔子遂行、宿乎屯、

【講義】季桓子は終に齊の女樂を受け、三日に彌りて、政事を聽かず、且つ其の郊祭の肉も、大夫に分賜せず、孔子は遂に魯の都を去り、南鄙の屯に宿す、

【字解】膰俎、臺に盛りたる祭肉なり、俎は臺なり、膰は前節に解せり、

而師己送曰、夫子則非罪、孔子曰、吾歌可夫、歌曰、彼婦之口、可以出走、彼婦之謁、可以死敗、蓋優哉游哉、維以卒歲、

【講義】孔子の去るに當り、魯の樂師の己は、送りて曰く、夫子は罪無し、何を以て去るか、孔子曰く、余は吾意中を歌ふ可ならんかと、乃ち歌ひて曰く、彼の婦の口舌有り、人を害するに足る、君子以て出で走るべし、彼の婦の情弊有り、國を亂すに足る、君子は以て死し敗るべし、故に余は去るべきのみ、蓋し優遊して性を養ひ、以て一生を終らんと欲す、

【字解】彼婦、表面に女樂を指して、裏面に季桓子を

【字解】羖、賣るなり、羔、カウと讀む、羊の子なり、飾賈、懸直なり、有司、官吏なり、

齊人聞而懼曰、孔子爲政、必霸、霸則吾地近焉、我之爲先幷矣、盍致地焉、

【講義】齊人は魯國の新政を聞きて懼る、乃ち曰く、孔子が政事を續け行はゞ、必ず霸を成さん、吾が齊の地は魯に近し、魯が霸を成さば、齊は先づ魯に倂合せられん、何ぞ魯に向ひて、地を贈與せざる、

【字解】盍、何不なり、致、贈り與ふるなり、

犂鉏曰、請先嘗沮之、沮之而不可、則致地、庸遲乎、

【講義】齊の大夫黎鉏曰く、請ふ先づ試に魯の霸業を沮止せん、沮止の計成らざるときに、地を贈與するも、何ぞ遲しと謂はん、

【字解】犂、黎に通じ用ふ、嘗、試むなり、致、贈るなり、庸、何ぞなり、

於是選齊國中女子好者八十人、皆衣文衣、而舞康樂、文馬三十駟、遺魯君、陳女樂文馬於魯城南高門外、

【講義】是に於て、齊は其の國中の女子美麗なるもの八十人を選拔し、皆被するに錦繡を以てし、康樂の舞曲を演奏せしめ、此に美麗なる裝飾の馬一百二十頭を添へて、魯君に贈呈す、因て此の美麗なる女樂と馬匹とを魯の城南なる高門の外に陳列す、

【字解】好、美麗なり、文衣、飾りたる衣服なり、錦繡の類をいふ、康樂、女樂の曲名なり、文馬、美しく飾りたる馬なり、駟、馬四頭なり、

季桓子微服往觀再三、將受、乃語魯君爲周道游、往觀終日、怠於政事、

【講義】季桓子は微賤の服裝を爲し、往きて女樂文

【字解】 歛、斂に作るべし、保障、要塞なり、根據地なり、

定公十四年、孔子年五十六、由大司寇行攝相事、有喜色、門人曰、聞君子禍至不懼、福至不喜、

【講義】 魯の定公の十四年に、孔子は五十六歳なり、官は司法大臣に在りて、宰相の事務を取扱ひたり、既に魯國の政權を執り、其の顏に喜ぶ色有り、門人曰く、蓋し聞く、君子は禍至るも懼れず、福至るも喜ばずと、然るに夫子の喜ぶは何ぞや、

【字解】 大司寇、司法大臣の如きもの、行攝、攝行に同じ、假に取り扱ふなり、

孔子曰、有是言也、不曰樂其以貴下人乎、於是、誅魯大夫亂政者少正卯、與聞國政、

【講義】 孔子曰く、洵に汝の言の如し、君子は此の事有り、然れども別に言はずや、君子は貴き身を以て人に下り、謙讓するを樂むと、今や余は之を喜ぶなりと、是に於て、魯の大夫少正卯が政事を亂すを誅責して、之を殺し、親しく魯國の大政を執りたり、

【字解】 與聞、國君が政事を聞くに參與する意味にて、卽ち大臣が政事を執行するをいふ、

三月、粥羔豚者、弗飾賈、男女行者、別於塗、塗不拾遺、四方之客、至乎邑者、不求有司、皆予之以歸、

【講義】 孔子が魯の政事を執ること、僅に三個月にして、其の德化は普及し、羊豕等を賣るものは、懸直を言はず、正價を以て取引し、男女の步行するものは、途を別にして相亂れず、其の途上に遺失の物品有るも、之を拾ふもの無し、四方の國の旅人が、魯の邑に至るも、官吏に請求するを要せず、市民より物品を與へ、旅人をして滿足せしむ、

魯、公與三子、入于季氏之宮、登武子之臺、費人攻之弗克、入及公側、

【講義】是に於て、叔孫氏は先づ其の都城なる郈を毀つ、季孫氏は其の都城なる費を毀たんとす、公山不狃は叔孫輒と共に、費人を率ゐて魯を襲ふ、定公乃ち孟、叔、季三子と共に季孫氏の宮に入り、季武子の臺に登る、費人は之を攻めたるも克たず、然れども、費人の或る者は襲ひ入りて、定公の近傍なる臺下に至れり、

【字解】郈、今の山東沂州府に屬す、費、今の山東沂州費縣なり、

孔子命申句須樂頎、下伐之、費人北、國人追之、敗諸姑蔑、二子奔齊、遂墮費、將墮成、

【講義】孔子乃ち申句須と樂頎とに命じ、臺を下りて費人を擊たしむ、費人遂に敗走す、魯國の士民は追擊して、費人を姑蔑に敗る、孟叔兩子は齊に奔る、因て費を毀ち、更に進みて孟氏の都城なる成を毀たんとす、

【字解】姑蔑、魯の下邑なり、今の山東兗州泗水縣の東に在り、費、前節に解す、成、今の山東兗州寧陽縣の北に在り、

公歛處父謂孟孫曰、墮成、齊人必至于北門、且成孟氏之保鄣、無成是無孟氏也、我將弗墮、十二月、公圍成、弗克、

【講義】成の邑宰公歛處父は孟孫氏に謂ひ曰く、成の城を毀るときは、齊人來り侵して必らず魯の北門に迫らん、且つ夫れ成は孟孫氏の根據地なり、成無ければ孟孫氏無し、我は之を毀たざらんとすと、其の年の十二月に、定公は成を圍み、之を攻めたるも克を得ず、

を以て、其の君を輔佐す、然るに子は獨り夷狄の道を以て、余を敎導す、遂に魯君より罪を受くるに至れり、之を奈何せん、

有司進對曰、君子有過、則謝以質、小人有過、則謝以文、君若悼之、則謝以實、於是齊侯乃歸所侵魯之鄆、汶陽、龜陰之田、以謝過、

【講義】 齊の官吏は乃ち進み對へて曰く、君子は過失有れば、謝するに實質を以てす、小人は過失有れば、謝するに文飾を以てす、吾君は若しも魯に對して悼む所有らば、請ふ謝するに實質を以てせよと、是に於て、景公は前年侵略したる魯の鄆、汶陽、龜陰三邑の田を返還し、以て過失を魯に謝したり、

【字解】 質、實物なり、文飾の反對なり、文、外面の飾りなり、鄆、今の山東泰安府東平州に屬す、汶陽、汶水の北なり、龜陰、龜山の北なり、水の北を陽と曰ひ、山の北を陰と曰ふ、汶水龜山、共に齊魯の間に在り、今の山東省泰安府に屬す、

定公十三年夏、孔子言於定公曰、臣無藏甲、大夫毋百雉之城、使仲由爲季氏宰、將墮三都、

【講義】 魯の定公の十三年夏に、孔子は定公に言ひ曰く、人臣は甲兵を藏すべきものに非ず、大夫は百雉の大城を有すべきものに非ずと、因て子路をして季氏の家臣の總理と爲らしめ、以て孟、叔、季三家の都城を毀らしめんとす、

【字解】 甲、武具なり、甲兵を略稱す、雉、長三丈高一丈なり、諸侯の城の牆は、三百雉を過ぎず、其の大夫の都城は、一百雉に達するを得ず、仲由、子路なり、墮、毀つなり、

於是、叔孫氏先墮郈、季氏將墮費、公山不狃、叔孫輒、率費人襲

ん、請ふ當該の吏に命じ、之を處置せんと、吏は乃ち樂隊を斥けんとす、然れども、樂隊は去らず、是に於て、孔子は左右に晏嬰と景公とを視る、景公は心に慚ぢ、樂隊を指麾して、退去せしめたり、

【字解】 歷階、兩足を揃へず、片足を以て一段を踏み、急ぎ上ること、好會、平和の會なり、怍、愧ぢて赤面すること、麾、指揮すること、

有頃、齊有司趨而進曰、請奏宮中之樂、景公曰諾、優倡侏儒爲戲而前、

【講義】 之を頃くして、齊の事務官は復た趨り進み曰く、請ふ宮中の樂を奏せんと、景公曰く諾すと、是に於て、俳優及び短人は、戲れながら出で來る、

【字解】 優倡、俳優なり、侏儒、シユジユと讀む、短小の人なり、前、進むなり、

孔子趨而進、歷階而登、不盡一等、曰、匹夫而熒惑諸侯者、罪當誅、請命有司、有司加法焉、手足異處、景公懼而動、知義不若、歸而大恐、

【講義】 孔子は趨り進み、階を歷りて急ぎ登り、二段に達して、最上の一段を登らず、乃ち曰く、鄙賤の徒にして諸侯を惑はしむる者は、其罪として誅殺に當る、請ふ當該の吏に命じて、之を處分せんと、吏は乃ち此の俳優短人に刑を加へ、其の手足は斬られて、位地を異にしたり、景公は恐懼して感動し、義に於て及ばざるを知り、國に歸りて大に恐れたり、

【字解】 歷階、急ぎ上る貌なり、前節に詳解せり、匹夫、鄙賤の徒なり、熒惑、惑はすこと、熒も惑の意なり、

告其群臣曰、魯以君子之道輔其君、而子獨以夷狄之道教寡人、使得罪於魯君、爲之奈何、

【講義】 景公乃ち群臣に告げて曰く、魯は君子の道

事有るものは、必らず文備有りと、故に古昔諸侯が、其の國境を出づる時には、必らず文武の官を備へて、之を隨行せしめたり、請ふ左右の司馬を具へ、武備を完くして往かんと、定公曰く、諾す、

【字解】 攝、假りに取扱ふなり、疆、國の境なり、夾谷は齊に屬するを以て出疆といふ、

具左右司馬、會齊侯夾谷、爲壇位、土階三等、以會遇之禮相見、揖讓而登、獻酬之禮畢、

【講義】 定公は乃ち左右の司馬を備へて、夾谷に至り、齊侯に會見す、其の會場は壇位を設け、土階三段を爲す、簡略なる會禮を以て相見ゆ、兩者立禮し、相讓りて登り、獻酬の儀は畢る、

【字解】 會遇、簡略なる對面なり、

齊有司趨而進曰、請奏四方之樂、景公曰、諾、於是旍旄羽袚、矛戟劍撥、鼓譟而至、

【講義】 齊の事務官は趨り進み曰く、請ふ四方の舞樂を奏せんと、景公曰く諾すと、是に於て、大旄、羽飾、長戟、巨楯を以て、鼓を鳴し譟ぎながら、舞樂の隊出で來る、

【字解】 有司、吏僚なり、趨、足疾く歩むなり、旍、旌に同じ、旍旄は大旗に毛を下げて飾りたるもの、羽袚、雉の羽を以て飾りたる袚の具なり、矛戟、長き槍なり、戟は矛の枝有るもの、劍撥、撥は長き盾なり、劍は兩刄の刀なり、

孔子趨而進、歷階而登、不盡一等、擧袂而言曰、吾兩君爲好會、夷狄之樂、何爲於此、請命有司、有司却之、不去、則左右視晏子與景公、景公心怍、麾而去之、

【講義】 孔子は趨り進み、階を歷り、一段を登り、最上の一段を登らず、袂を擧げて言ひ曰く、吾兩君が平和の會を爲すに、夷狄の舞樂は、何ぞ此に奏するを得

然れども、孔子も終に往くを果さず、

其後定公以孔子、爲中都宰、一年四方皆則之、由中都宰、爲司空、由司空、爲大司寇、

【講義】其の後、魯の定公は孔子を以て中都の長官と爲す、一年にして四方の諸侯は、皆之を模範としたり、以て其の施政の善良なるを知るべし、既にして孔子は中都の長官より進みて、内務大臣と爲り、遂に司法大臣に轉じたり、

【字解】中都、魯の邑なり、今の山東兗州府汶上縣なり、宰、長官なり、司空、内務大臣の如きもの、大司寇、司法大臣の如きもの、

定公十年春、及齊平、夏齊大夫黎鉏、言於景公曰、魯用孔丘、其勢危齊、

【講義】魯の定公の十年春に、魯は齊と和親す、其の年夏に、齊の大夫黎鉏は、其の君なる景公に言ひ曰く、魯は孔丘を用ふ、其の勢は齊を危くするに至らん、

乃使使告魯爲好會、會於夾谷、魯定公且以乘車好往、

【講義】是に於て、齊の景公は使をして魯に告げしめて曰く、親睦の會を爲さん、其の會を夾谷に開かんと、魯の定公は乃ち平和の車騎を以て、好く往かんと欲す、

【字解】好會、平和の會なり、夾谷、今の山東泰安府萊蕪縣に屬す、乘車、平和の時に用ふる車なり、且、將なり、

孔子攝相事、曰、臣聞、有文事者、必有武備、有武事者、必有文備、古者諸侯出疆、必具官以從、請具左右司馬、定公曰、諾、

【講義】孔子は宰相の事務を執行す、因て定公に謂ひ曰く、臣聞く、文事有るものは、必らず武備有り、武

子を立てんと欲す、遂に季桓子を捕ふ、桓子は詐りて脱け出るを得たり、

【字解】 三桓、桓公の三子なる孟孫、叔孫、季孫なり、適、嫡子なり、庶孼、嫡子に非る諸子なり、

定公九年、陽虎不勝、奔于齊、是時孔子年五十、公山不狃以費畔季氏、使人召孔子、

【講義】 魯の定公の九年に、陽虎は勝を得ず、遂に齊に奔る、是の時に孔子は五十歳なり、公山不狃は費の城に據り、季氏に叛く、因て孔子を用ひんと欲し、之を召す、

【字解】 費、季氏の邑なり、今の山東沂州府費縣なり、畔、叛に同じ

孔子循道彌久、温温無所試、莫能己用、曰、蓋周文武起豐鎬而王、今費雖小、儻庶幾乎、欲往、子路不説、止孔子、

【講義】 是の時に當り、孔子は道を修むること既に久しきに彌る、其の養ふ所の徳は、温温として深きも、未だ之を試むる機會を得ず、能く自己を用ふるもの無し、故に鬱勃たる雄志は抑ふべからず、自から奮ひて曰く、蓋し聞く、周の文王武王は、豐鎬の小邑より起りて、遂に能く王業を成せりと、今や費は小邑なれども、或は吾志を試むるに近からんかと、乃ち往かんと欲す、然るに門人子路は之を悦ばず、孔子の出立を止めたり、

【字解】 温温、徳の備りたる貌なり、豐鎬、周の王室發祥の地なり、周の本紀に詳なり、儻、或はなり、庶幾、近きなり、説、悦ぶなり、

孔子曰、夫召我者、豈徒哉、如用我、其爲東周乎、然亦卒不行、

【講義】 孔子は子路を喩して曰く、夫れ我を召すものは、豈に徒に然らんや、若しも我を用ふるもの有らば、我は之を助けて周道を東方に興起せしめんかと、

は之を止む、

其秋、懷益驕、陽虎執懷、桓子怒、陽虎因囚桓子、與盟而醳之、陽虎由此、益輕季氏、

【講義】其の年の秋に、仲梁懷は益驕る、陽虎は懷を捕ふ、季桓子怒る、陽虎乃ち桓子を囚ふ、既にして共に盟ひ、桓子を放免す、陽虎は此に由り益季氏を輕視す、

【字解】執、捕ふなり、醳、放免なり、

季氏亦僭於公室、陪臣執國政、是以魯自大夫以下、皆僭離於正道、

【講義】季氏も臣下たる身分を越えて、魯の公室に擬似し、季氏の臣も身分を越えて、魯の國政を執行す、是を以て魯は大夫より以下の官僚は、皆其の身分を越えて、權勢を恣にし、總て正道より離れたり、

【字解】僭、身分を越えて、地位權勢を竊むこと、陪臣、臣の臣なり、

故、孔子不仕、退而脩詩書禮樂、弟子彌衆、至自遠方、莫不受業焉、

【講義】魯國は斯くの如く、臣下の權勢を竊むもの多きを以て、孔子は仕へず、退隱して詩書禮樂の經籍を修め整へ、門人は益多し、遠方より至りて、皆其の業を受けたり、

定公八年、公山不狃不得意於季氏、因陽虎爲亂、欲廢三桓之適、更立其庶孽陽虎素所善者、遂執季桓子、桓子詐之、得脫、

【講義】魯の定公八年に、公山不狃は季氏と相善からず、陽虎に從ひて亂を作し、孟、叔、季三家の嫡子を廢せんと欲し、更に陽虎の平生親交する所の三家庶

【講義】呉の使曰く、誰をか神と爲す、孔子曰く、名山大川の神は、能く雲雨を起し、生物を養ひ、以て天下を整へ治むるに足る、其祭祀を守る所の諸侯を神と稱す、名山大川の祭祀を行はずして、單に其の國土の神を奉祠するものを、公侯と稱す、是れ皆王者に從屬す、

【字解】綱紀、整へ治むること、社稷、其の國土の神を奉祀すること、名山大川の祭と異なる、

客曰、防風何守、仲尼曰、汪罔氏之君、守封禺之山、爲釐姓、在虞夏商、爲汪罔、於周爲長翟、今謂之大人、

【講義】呉の使曰く、防風氏は何をか守る、孔子曰く、防風氏は古昔に於て、呉の封山及び禺山を守り、釐姓たり、虞、夏、殷の三代に在りて、汪罔と稱す、周の世に入りて、長狄と稱す、今の時に於て、大人と稱す、

【字解】汪罔氏、防風氏なり、封禺、兩山の名なり、今の浙江湖州府武康縣に屬す、商、殷なり、翟、狄なり、

客曰、人長幾何、仲尼曰、僬僥氏三尺、短之至也、長者不過十之、數之極也、於是呉客曰、善哉聖人、

【講義】呉の使曰く、其の大人の身長幾尺か、孔子曰く、僬僥氏は身長三尺なり、是を短の極度とす、大人も僬僥氏を十倍して、三丈と爲るに過ぎず、是れ數の極度なりと、是に於て、呉の使は感嘆して曰く、善いかな、孔子は聖人なり、

【字解】僬僥氏　西南蠻の別種にして、小人國の族なり、三尺、日本の二尺餘なり、

桓子嬖臣、曰仲梁懷、與陽虎有隙、陽虎欲逐懷、公山不狃止之、

【講義】季桓子に寵愛の臣有り、仲梁懷と曰ふ、懷は陽虎と相惡む、虎は懷を逐ひ掃はんと欲す、公山不狃

仲尼云、得狗、仲尼曰、以丘所聞、羊也、丘聞之、木石之恠、夔、罔閬、水之恠、龍、罔象、土之恠、墳羊、

【講義】孔桓子は井を穿ちて、土の缶を得たり、其の缶の中に羊の如きもの有り、因て孔子に問ひ曰く、土の中より狗を得たり、何ぞやと、蓋し孔子の博識を試みんが爲めに、故意に狗と言ひしなり、孔子曰く、余の學び知る所に依れば、土中より獲たるものは、羊なり、余は之を聞く、木石の怪物を夔と曰ひ、罔閬と曰ふ、水の怪物を龍と曰ひ、罔象と曰ふ、而して土の怪物を墳羊と曰ふ、

【字解】缶、口の小なる瓶なり、恠、怪に同じ、夔、キと讀む、片足の怪物なり、罔閬、魍魎に同じ、人聲を學びて人を迷はしむる怪物なり、罔象、人を食ふ怪物なり、墳羊、雌雄の未だ分れざる怪物なり、

呉伐越、墮會稽、得骨節、專車、呉使使問仲尼、骨何者最大、

【講義】呉は越を伐ち、會稽山の壘を毀り、骨の一節を得たり、其の形大にして一車に滿つ、是に於て、呉は使をして孔子に問はしめて曰く、骨は何物か最も大なると、

【字解】墮、隳なり、掘り崩すこと、專、滿つるなり、

仲尼曰、禹致羣神於會稽山、防風氏後至、禹殺而戮之、其節專車、此爲大矣、

【講義】孔子は呉の使に對へて曰く、禹王は群神を會稽山に招集す、防風氏は其の會期に後れて至る、禹王は之を殺して衆に示す、其の骨は車に滿ちたり、此れを骨の大なるものとす、

【字解】群神、群后なり、天下の諸侯なり、節、骨節なり、

呉客曰、誰爲神、仲尼曰、山川之神、足以綱紀天下、其守爲神、社稷爲公侯、皆屬於王者、

に當りて、其禮を究むる能はず、然るに、吾君は孔子を用ひ、以て齊國の風俗を改めんと欲す、是れ虚禮を尚ぶものなり、細民を先にする所以に非ず、遂に政事の實用を失はん、

【字解】 趨詳、趨翔なり、詳は翔に通ず、歩する禮なり、殫、盡すなり、究むること、移、改むるなり、

後、景公敬見孔子、不問其禮、

【講義】 其の後に於て、景公は敬みて孔子に面會したるも、既に晏嬰の説を聽きたるに由り、復た禮を問ふこと無し、

異日、景公止孔子、曰、奉子以季氏、吾不能、以季孟之間待之、齊大夫欲害孔子、孔子聞之、景公曰、吾老矣、弗能用也、孔子遂行、反乎魯、

【講義】 異日、景公は孔子を止めて曰く、子を待遇するに魯の季氏の如くせんとするも、吾は之を爲す能はず、魯の季氏と孟氏との間を以て、子を待遇せんと、蓋し魯に於ては、季氏が最も優待せられ、勢位高きを以てなり、齊の大夫は、景公が孔子を敬するを視て、孔子を害せんと欲す、孔子は之を聞き知る、景公曰く、吾年老いたり、孔子を用ふる能はずと、孔子は遂に齊を去り、魯に歸る、

【字解】 奉、官祿を授くること、待、待遇なり、行、去るなり、

孔子年四十二、魯昭公卒於乾侯、定公立、定公立五年、夏季平子卒、桓子嗣立、

【講義】 孔子の年四十二の時に、魯の昭公は乾侯に卒す、魯の定公乃ち立つ、定公の五年夏に、季平子卒す、季桓子は嗣ぎ立つ、

【字解】 乾侯、晉の地なり、前節に詳解す、

季桓子穿井、得土缶中若羊、問

政在節財、景公說、將欲以尼谿田封孔子、

【講義】 他日景公は再び政事を孔子に問ふ、孔子曰く、政事は財用を節約するに在りと、景公悅ぶ、因て尼谿の田を授け、此に孔子を封ぜんと欲す、

【字解】 尼谿、齊の地なり、今の山東青州府に屬す、

晏嬰進曰、夫儒者滑稽、而不可軌法、倨傲自順、不可以爲下、崇喪遂哀、破產厚葬、不可以爲俗、游說乞貸、不可以爲國、自大賢之息、周室既衰、禮樂缺有間、

【講義】 晏嬰は進みて曰く、孔丘を用ふるは不可なり、夫儒者は多辯にして制するに法令を以てするを得ず、倨傲にして自ら隨意にす、之を下の身分に置くを得ず、喪に服するを崇び、悲哀を遂げ、家產を破り、葬儀を厚くす、之を民俗と爲すを得ず、諸國を遊說して、物を乞ひ借る、之をして國を治めしむるを得ず、要するに、儒者は今日に用ふべからず、昔時大賢の政事を行ふに當りては、儒者の說く所を施すを得たり、大賢既に滅して、周の王室衰頹し、禮樂も殘缺して間斷したり、此の時に於て、儒者たる孔子を任用するは難し、

【字解】 滑稽、多辯なり、圓轉滑脫にして議論の涌き出づること、軌、制するなり、之を正し治むるをいふ、倨傲、驕慢にして不遜なる貌なり、乞貸、乞貣に作るべし、貣は借ること、爲國、治國なり、息、絕滅なり、間、隔り斷ゆるなり、

今孔子盛容飾、繁登降之禮趨詳之節、累世不能殫其學、當年不能究其禮、君欲用之以移齊俗、非所以先細民也、

【講義】 晏嬰は尙其の說を續けて曰く、今や孔子は容儀の裝飾を盛にし、登降の禮を繁くし、步趨の節を細にす、是れ世を累ぬるも、其の學を総る能はず、今

孫氏三家共攻昭公、昭公師敗、奔於齊、齊處昭公乾侯、

【講義】孔子は三十五歳の時に魯亂る、季平子は郈昭伯と雞を闘し、其の故を以て、平子は罪を魯の昭公に得たり、昭公は師を率ゐて、平子を撃つ、平子は孟氏叔孫氏と相結び、孟、叔、季三家の聯合軍は昭公を攻む、昭公は師敗れて齊に奔る、齊は昭公を乾侯に居らしむ、

【字解】乾侯、晉の邑なり、今の直隷廣平府成安縣の東南に在り、是れ齊より昭公を處きたるに非ず、昭公自ら之に赴きたるなり、

其後頃之魯亂、孔子適齊、爲高昭子家臣、欲以通乎景公、與齊太師語樂、聞韶音學之、三月不知肉味、齊人稱之、

【講義】其の後之を頃くして、魯は復た亂る、孔子は齊に往き、高昭子の家臣と爲り、以て齊君景公に親しく接せんと欲す、因て齊の太師と樂を談ず、虞舜の樂なる韶音を聞きて之を學ぶ、三月の久しきに彌るも、肉の味を忘れたり、齊人は其の古道を喜ぶことの深きを稱したり、

【字解】太師、樂官なり、韶、舜帝の作りたる音樂なり、

景公問政孔子、孔子曰、君君、臣臣、父父、子子、景公曰、善哉、信如君不君、臣不臣、父不父、子不子、雖有粟、吾豈得而食諸、

【講義】齊の景公は政事を孔子に問ふ、孔子對へて曰く、政事の要は人倫を正すに在り、君は君たり、臣は臣たり、父は父たり、子は子たり、以て其の序を保つと、景公曰く、善いかな、信に君臣父子が各其の本分を失ふ如き有らば、穀物有りとも、余は豈之を食ふを得んや、

他日又復問政於孔子、孔子曰、

【字解】彊、强なり、陵轢、輘轢に同じ、侵犯することなり、陵は凌ぐなり、轢は踏み荒すなり、

齊景公與晏嬰來適魯、景公問孔子曰、昔秦穆公國小處辟、其霸何也、

【講義】齊の景公は其の宰相晏嬰と共に魯に來る、景公は孔子に問ひ曰く、昔時秦の穆公は其の國小なり、其の處は僻陋なり、然るに能く霸業を成したるは、何の故ぞや、

【字解】辟、僻なり、霸、諸侯の長なり、

對曰、秦國雖小、其志大、處雖辟、行中正、身擧五羖、爵之大夫、起纍紲之中、與語三日、授之以政、以此取之、雖王可也、其霸小矣、景公說、

【講義】孔子は景公に對へて曰く、秦國は小なるも、穆公の志は大なり、其の居處は僻陋なるも、其の行爲は中庸にして、正直なり、穆公は親から賢士を察し、五枚の羊皮を以て、之を買ひ受け、之を罪囚の中より擧げ用ひて、爵するに大夫の官を以てし、此の新任の賢士と語ること三日にして、之を授くるに秦國の政事を以てしたり、此の如き志慮を以て、其の效果を取る、穆公は王業を成すと雖も可なり、其の霸業に止りたるは、猶小なりと、景公は之を聽きて、滿悅したり、

【字解】辟、僻なり、五羖、賢士百里奚を指す、羖は牡羊なり、穆公は百里奚が罪囚の中に居るを、五枚の羊皮にて買ひ受けたり、故に、五羖と稱す、纍紲、罪囚の縛られて居るをいふ、纍は繫ぐなり、紲は繩なり、說、悅ぶなり、

孔子年三十五、而季平子與郈昭伯、以鬪雞故、得罪魯昭公、昭公率師、擊平子、平子與孟氏叔

【講義】 老子乃ち孔子に告げて曰く、當今の世に、智明にして能く事理を察するも、自から死地に近く陷るもの有り、是れ他人を誹り議する事を好むに由るなり、或は辯論博く渉りて屈せざるも、自から其の身を危くするもの有り、是れ他人の惡を發き露すに由るなり、此の兩者は皆誤れり、蓋し人は子として親に事ふるには、自己を顧みること勿れ、總て親に奉ずべし、臣として君に事ふるには、自己を惡くすること勿れ、君が我の說を容れたるときは仕ふべし、容れざるときは去るべし、

【字解】 聰明、智の明なるなり、深察、事理を識別して詳悉なること、議、誹るなり、大危、大而危の誤りなり、上句の察而近と對して見るべし、爲人臣者、毋以有己、是は爲人臣者、毋以惡己の誤りなり、毋以有己は、自亡を捨て他に事ふるなり、毋以惡己は、自己を本位として去ると就くとを決するなり、此の章は、孔子家語の觀周篇を參看すべし、

孔子自周、反于魯、弟子稍益進焉、

【講義】 孔子は老子の贈言を受けて、周より魯に歸る、其の門人稍益、進み至る、

是時也、晋平公淫、六卿擅權、東伐諸侯、楚靈王兵彊、陵轢中國、齊大而近於魯、魯小弱、附於楚則晋怒、附於晋則楚來伐、不備於齊、齊師侵魯、魯昭公之二十年、而孔子蓋年三十矣、

【講義】 孔子の魯に歸りたる時に當り、晋の平公は酒色に荒淫し、范、中行、知、趙、魏、韓の六卿は、晋の政權を擅にし、東に向ひて諸侯を伐つ、楚の靈王は兵強し、中原の諸國を淩犯す、齊は大國にして魯に近し、魯は小弱なり、楚に附けば晋怒る、晋に附けば楚來り伐つ、齊に備へざれば、齊に侵さる、故に魯は三強國の間に苦悶したり、魯の昭公の二十年に於て、孔子は蓋し齡三十なり、

長人而異之、魯復善待、由是反魯、

【講義】孔子は身の長九尺六寸有り、世人は皆之を長人と稱して、其の奇異なるを傳ふ、魯は孔子の去りたる後に於て、復た善く之を待遇す、是に由り孔子は魯に歸れり、

【字解】有、又なり、九尺六寸、日本の尺度に依れば、七尺强なり、

魯南宮敬叔言魯君曰、請與孔子適周、魯君與之一乘車兩馬一豎子、俱適周問禮、蓋見老子云、

【講義】魯の南宮敬叔は魯君に言ひ曰く、請ふ孔子と共に周に往かんと、魯君は乃ち一乘車と兩馬と一侍者とを與ふ、是に於て、敬叔は孔子と共に周に往き禮を問ふ、蓋し此の時を以て、孔子は老子に面會したりと言ひ傳ふ、

【字解】適、往くなり、豎子、侍者なり、

辭去、而老子送之曰、吾聞富貴者送人以財、仁人者送人以言、吾不能富貴、竊仁人之號、送子以言、

【講義】孔子の辭し去る時に於て、老子は之を送り曰く、余は聞く、富貴なれば人を送るに財を以てす、仁人なれば人を送るに言を以てす、余は富貴なる能はず、唯仁人としての名を竊む、請ふ子を送るに言を以てせん、

【字解】竊、妄りに取るなり、號、名なり、

曰、聰明深察、而近於死者、好議人者也、博辯廣大、危其身者、發人之惡者也、爲人子者、毋以有己、爲人臣者、毋以有己、

【講義】孟釐子は終に孟懿に命じて曰く、孔丘の祖先は此の如し、余は聞く、聖人の後裔は、其の當時に國君と爲らざるも、其の世に卓越したる人を生ずと、今や孔丘は少年なれども、禮を好む、是れ當世に卓越したる人ならん、余の歿後に於て、汝は必らず孔丘を師とせよ、

【字解】沒、歿なり、若、汝なり、

及釐子卒、懿子與魯人南宮敬叔往學禮焉、是歲季武子卒、平子代立、

【講義】既にして釐子歿し、懿子は魯人南宮叔敬と共に往きて、禮を孔子に學ぶ、是の年に季武子卒す、季平子は武子に嗣ぎて立つ、

孔子貧且賤、及長、嘗爲季氏史、料量平、嘗爲司職吏、而畜蕃息、由是爲司空、已而去魯、斥乎齊、逐乎宋衞、困於陳蔡之間、於是反魯、

【講義】孔子は幼少の時に貧賤なり、年長じて季氏に事へ、倉庫の取締り役を勤む、其の收納は公平にして、穀物の量は常に充實したり、更に牧畜の役を勤む、牛馬皆能く育ちて殖えたり、斯く吏務に功績を擧げたるを以て、遂に陞りて魯國の內務大臣と爲り、既にして魯を去り、齊に往きて斥けられ、宋衞に入りて逐はれ、陳蔡に至りて困められ、列國の周遊も、大志を行ふを得ず、終に魯に歸りたり、

【字解】史、委吏に作るべし、委吏は倉庫の穀物を取締る吏なり、料、穀物なり、量、分量なり、平、平均して適當に充實するなり、司職、司樴なり、職は同音の樴に通じ用ふ、樴は牛馬を牧養する場所の杙なり、故に司樴は牛馬を牧養することなり、畜、キウと讀む、馬、牛、羊、鷄、犬、豕の六畜を略稱す、蕃息、蕃く多く生育するをいふ、司空、民事を取締る大臣なり、

孔子長九尺有六寸、人皆謂之

茲益恭、

【講義】孟釐子は尚其の訓誨を續けて曰く、孔丘の祖なる弗父何は、宋の湣公の長子なり、始に於て宋國の君位を嗣ぎたるも、其の弟なる厲公に讓れり、弗父何の曾孫正考父に至りて、宋の戴公武公宣公の三君に事へ、其の宰相たり、三度の任命を受けて、滋す益す恭敬の禮を守れり、

【字解】戴武宣、宋の三君なり、宋の世家に在り、三命、三君の任命なり、茲益、滋益なり、益の一字と見るべし、

故鼎銘云、一命而僂、再命而傴、三命而俯、循牆而走、亦莫敢余侮、饘於是、粥於是、以餬余口、其恭如是、

【講義】孟釐子は尚進みて孔氏の恭敬を述ぶ、曰く、故に正考父の靈廟に供へたる鼎に銘記有り、其の恭敬の狀態を寫して云ふ、一たび戴公の命を拜したる時には、身を屈め、第二回に、武公の命を受けたる時には、益、身を屈め、第三回に、宣公の命を蒙りたる時には、更に大に身を屈む、同一の大臣たる任命も、之を重ぬる度に、其の恭敬を加へたり、平生の步行も、正道を横行せず、垣根に沿ひて往來せり、然れども、人は敢て正考父を輕侮せず、此の鼎の中に濃き粥を作り、或は薄き粥を作り、纔に粥を以て口を養ふ、大臣の身にして、尚此の如く恭敬を守り、儉素を持したり、

【字解】僂、傴、俯、三字均しく身を屈むることなり、其の屈む程度は、僂よりも傴を強くし、更に俯を強くす、次第に恐縮して恭敬の加るをいふ、循、沿ひて就くなり、饘、粥の濃きもの、余、兩字とも正考父を指す、鼎の銘記は、其の人が自ら戒めたる意味を寫す、故に、余の字を用ふ、

吾聞、聖人之後、雖不當世、必有達者、今孔丘年少好禮、其達者歟、吾卽沒、若必師之、

したる時に、未だ父の墓所を知らざるを以て、母の遺骸を五父の衢に假祭し、深く其の禮を愼みたり、

【字解】嬉、樂むなり、陳、列ぶるなり、俎豆、祭壇にて物を供ふる大小の臺なり、殯、カリモガリと訓ず、遺骸を葬らずして、假りに祭るなり、五父、魯の城下の街の名なり、

郰人輓父之母、誨孔子父墓、然後往合葬於防焉、孔子要絰、

【講義】此の時に、陬邑の人にて葬儀の車を挽くものゝ母は、孔子に說き示すに、叔梁紇の墓所を以てす、然る後に孔子は防山に往きて、父の墓に謁し、母を合葬したり、孔子は腰に麻の喪服して、此の葬儀を謹み行へり、

【字解】郰、陬に同じ、輓父、挽夫なり、葬車を挽く人なり、誨、說き示すなり、要絰、腰の喪服なり、要は腰なり、

季氏饗士、孔子與往、陽虎絀曰、季氏饗士、非敢饗子也、孔子由是退、孔子年十七、

【講義】魯の權臣季氏は、士を饗應す、孔子は其の招に與りて往く、陽虎は孔子を斥けて曰く、季氏は士を饗應するも、子の如き年少の賤者を饗應するに非ずと、孔子は乃ち退き去る、時に十七歲なり、

【字解】絀、斥くるなり、季氏、陽虎、魯の世家に詳なり、

魯大夫孟釐子病且死、誡其嗣懿子曰、孔丘聖人之後、滅於宋、

【講義】孔子は年少より既に德行有り、魯の大夫孟釐子病に死するに臨み、其の嗣子なる孟懿子を訓戒して曰く、孔丘は聖人の後裔なり、宋に滅して魯に存す、

【字解】且、將なり、誡、戒むなり、

其祖弗父何、始有宋而嗣、讓厲公、及正考父、佐戴、武、宣公、三命

而生孔子、禱於尼丘得孔子、

【講義】孔子は魯の昌平郷の陬邑に生れたり、其の祖先は宋の人なり、孔防叔と曰ふ、防叔は伯夏を生み、伯夏は叔梁紇を生む、叔梁紇は年老いて、顏氏の年少き女を妻とし、孔子を生む、蓋し尼丘の山靈に禱りて、孔子を生み得たるなり、

【字解】魯、魯の世家に詳なり、野合、夫婦の年齡が、大に差ひて結婚することなり、私通に非ず、尼丘、山の名なり、今の山東の兗州に在り、

魯襄公二十二年、而孔子生、生而首上圩頂、故因名曰丘云、

【講義】相傳ふ、魯の襄公二十二年に當りて、孔子生る、其の生れたるや、首の腦天は中凹し、故に名けて丘と曰ふ、

【字解】圩頂、腦大の中央が凹みて、四邊が高くなりたる首なり、圩は凹むなり、云、上の文の如く傳へ來れりとの意を示す爲めに、云の字を加へたるなり、

字仲尼、姓孔氏、丘生而叔梁紇死、葬於防山、防山在魯東、由是孔子疑其父墓處、母諱之也、

【講義】孔子は字を仲尼と曰ふ、姓は孔氏なり、孔子生れて後に、間も無く、其の父叔梁紇は死せり、之を防山に葬る、防山は魯の東邊に在り、陬邑を距る遠し、是に由り孔子は少年にして、父の墓所を知らず、之を疑惑したり、蓋し母顏氏が諱みて告げざればなり、

【字解】字、アザナと訓ず、實名の外に命けて、他人より呼稱するに用ふ、仲尼、仲は伯仲叔季の兄弟順を以て、字に添へたるなり、尼は尼丘を分ちて、名と字とに命けたるなり、

孔子爲兒嬉戲、常陳俎豆、設禮容、孔子母死、乃殯五父之衢、蓋其愼也、

【講義】孔子は幼時に於て、遊戲の間にも、常に祭器を陳列して、禮式に適へる容姿有り、其の母顏氏の歿

太史公曰、蓋孔子晩而喜易、易之爲術、幽明遠矣、非通人達才、孰能注意焉、故周太史之卦田敬仲完、占至十世之後、及完奔齊、懿仲卜之、亦云、田乞及常所以比犯二君、專齊國之政、非必事勢之漸然也、蓋若遵厭兆祥云、

【講義】太史公曰く、蓋し惟ふに、孔子の聖と雖も、年老いて後に易を喜ぶ、易の術たるや幽にして明なり、其の理は遠く通ず、故に事理に通曉したる達識の賢才に非るときは、誰か能く意を易に注ぐを得ん、是の故に、周の太史が田敬仲完を卜するや、其の卦は占兆を十世の後に現す、田完が齊に奔るに及び、懿仲も之を卜筮して、其の遠裔を判斷せり、此の兩度の卜兆の如く、田乞田常が悼公簡公の二君を竝び犯して、齊國の政權を獨專したる所以は、必らずしも事勢の漸次に然るを致したるに非ず、蓋し天命の定る所にして、占兆の示す所に遵ふが如しと云ふ、

【字解】比、並びなり、二君、悼公簡公を指す、厭、エフと讀む、遵ふなり、遵厭は遵據といふが如し、兆祥、占筮の象なり、

孔子世家第十七

【講義】世家は、諸侯王が累世の家傳を叙す、孔子は諸侯王に非ず、此の篇中に列すべからざるに似たり、然れども、孔子は敎化の本源なり、帝王の儀表なり、人倫の標準なり、故に太史公の見識を以て、此に掲げたり、

孔子生魯昌平鄕陬邑、其先宋人也、曰孔防叔、防叔生伯夏、伯夏生叔梁紇、紇與顏氏女野合、

客、皆爲反間、勸王去從朝秦、不脩攻戰之備、不助五國攻秦、秦以故得滅五國、五國已亡、秦兵卒入臨淄、民莫敢格者、王建遂降、遷於共、

【講義】然るに、君王后の歿後に至り、后勝は齊に宰相たり、多く秦の祕密なる贈金を受け、多く賓客をして秦に入らしむ、秦は多く齊の賓客に金を與ふ、是に於て、齊の賓客は秦の爲めに間諜と爲り、王に勸め、山東諸國の同盟より離れて、秦に入朝せしめ、攻戰の備を整へず、趙、魏、韓、燕、楚の五國を助けず、秦を攻めず、以て秦軍が中原を横行するに任せたり、是の故を以て、秦は五國を滅するを得たり、五國既に亡ぶ、秦兵は忽ち齊の首都臨淄に入る、齊の民は敢て抵抗するもの無し、王建は遂に降り、遠く離れたる河南の小邑共に遷さるゝに至れり、

【字解】間金、祕密の贈り物なり、予、與ふ也、反間、間諜なり、從、南北の同盟なり、山東の列國が秦に抵抗する結合なり、格、抵抗なり、

故、齊人怨王建不蚤與諸侯合從攻秦、聽姦臣賓客、以亡其國、歌之曰、松耶柏耶、住建共者客耶、疾建用客之不詳也、

【講義】是の故に、齊の民は王建が早く山東の諸侯と同盟せざるを怨み、其の秦を攻めざるを怨み、其の姦臣賓客に聽きて、其の國を亡すに至れるを怨む、因て之を歌ひ曰く、王建を共に住ましめたるものは、松か、柏か、抑も客かと、蓋し秦は王建を共に遷し、之を松柏の茂りたる荒地に棲ましめたり、故に齊民は、此の禍を速きたる王建の不明を怨みて、松か柏か客かと、重ねて問を起し、其の實は、松にも非ず、柏にも非ず、客にも非ず、要するに王建が客を用ふるに、其の正邪を觀ることの詳明ならざるに由るとの意を以て、王建を怨み疾みたるなり、

王嘉、滅燕王喜、

【講義】 王建の十六年、秦は周を滅す、是の年、君王后卒す、二十三年、秦は東郡を設置す、二十八年、王建は秦に入朝す、秦王政は王建を迎へて、咸陽に置酒す、三十五年、秦は韓を滅す、三十七年、秦は趙を滅す、三十八年、燕は荊軻をして秦王を刺さしむ、秦王は之を察して、軻を殺す、三十九年、秦は燕を破り、燕王は遼東に逃げ走る、四十年、秦は魏を滅す、秦兵は齊に入り、歴城の下に陣す、四十二年、秦は楚を滅す、四十三年、秦は代王嘉を虜にし、燕王喜を滅す、

四十四年、秦兵撃齊、齊王聽相后勝計、不戰、以兵降秦、秦虜王建、遷之共、遂滅齊爲郡、天下壹幷於秦、秦王政立號、爲皇帝、

【講義】 王建の四十四年、秦兵は齊を撃つ、王建は其の首相なる后勝の計を用ひ、秦に抵抗せず、兵を以て秦に降る、秦は王建を虜にし、之を共に遷す、遂に齊を滅し郡と爲し、天下は一統して、秦に併合せらる、秦王政は號を立て、皇帝と爲る、

【字解】 共、今の河南衞輝府輝縣なり、

始君王后賢、事秦謹、與諸侯信、齊亦東邊海上、秦日夜攻三晉燕楚、五國各自救於秦、以故王建立四十餘年、不受兵、

【講義】 是より先に、君王后は賢なり、秦に事へて謹み、諸侯に交りて信なり、而して齊は東方に在り、海上を邊境とす、中原の諸國と相關渉すること少し、秦は日夜に趙、韓、魏、燕、楚の五國を攻め、五國は各自に秦の禍より免れんことを務めて、他を顧るに暇無し、是等の事情に由り、王建立ちて四十餘年間、外國の兵禍を受けず、

君王后死、后勝相齊、多受秦間金、多使賓客入秦、秦又多予金、

義救亡國、威却彊秦之兵、不務爲此、而務愛粟、爲國計者過矣、齊王弗聽、秦破趙於長平、四十餘萬、遂圍邯鄲、

【講義】齊の謀臣周子は、王建に說き曰く、趙の請ふ所を聽き、米を輸りて秦兵を退けよ、趙に聽かざれば、秦兵は退かず、秦兵が退かざるときは、是れ秦の計略が適中して、齊楚の計略が過ち敗れん、且つ夫れ趙の齊楚に於けるは、藩屏なり、之を齒の脣あるに譬ふ、脣亡ぶれば齒寒し、今日に於て、趙を亡ふときは、明日に於て、患害は齊楚に至らん、且つ趙は今や危急なり、之を救援する務は、漏斗を以て焦げたる釜に灌ぐが如く、速なるを要す、夫れ趙を救ふは高義なり、秦兵を退かしむるは名譽なり、義は趙の滅亡を救ひ、威は強秦の兵を退く、是れ齊の大計なり、此を爲すを務めずして、米を愛惜することを務む、其の齊國の爲めに計ることと誤れりと、然れども王建は之を聽かず、是に於て、秦は豫定の計に從ひ、其の兵を進め、趙を長平に破り、卒四十餘萬を殺し、遂に趙の首都邯鄲を圍むに至れり、

【字解】却、退なり、扞蔽、敵を防ぎて、自から蔽ふ具なり、藩屏といふが如し、謂はゆる垣根なり、漏甕、漏斗の類なり、水を灌ぐ具なり、沃、灌注すること、彊、强なり、愛、惜み吝むなり、長平、今の山西澤州府高平縣に屬す、

十六年、秦滅周、君王后卒、二十三年、秦置東郡、二十八年、王入朝秦、秦王政置酒咸陽、三十五年、秦滅韓、三十七年、秦滅趙、三十八年、燕使荊軻刺秦王、秦王覺殺軻、明年、秦破燕、燕王亡走遼東、明年、秦滅魏、秦兵次於歷下、四十二年、秦滅楚、明年、虜代

は媒を用ひずして自から嫁す、是れ吾の種に非ず、吾の世を汚すと、其の身を終るまで、君王后を観ず、然れども君王后は賢なり、父子の面會無き故を以て、人子たる禮を失ふこと無し、

襄王在莒五年、田單以卽墨、攻破燕軍、迎襄王於莒、入臨淄、齊故地盡復屬齊、齊封田單、爲安平君、十四年、秦擊我剛壽、十九年、襄王卒、子建立、

【講義】襄王は莒に在る五年、田單は卽墨の城に據り、燕軍を攻め破り、襄王を莒より迎へ、臨淄の舊都に入らしめ、齊の故の領地は盡く恢復して、齊に屬す、齊は田單を封じて、安平君と爲す、十四年、秦は齊の剛壽を擊つ、十九年、襄王卒す、子建立つ、

【字解】剛壽、今の安徽鳳陽府に屬す、

王建立六年、秦攻趙、齊楚救之、秦計、曰、齊楚救趙、親則退兵、不親遂攻之、趙無食、請粟於齊、齊不聽、

【講義】王建立つ六年、秦は趙を攻む、齊楚は之を救ふ、秦は計り曰く、齊楚兩國は趙を救ふ、此の三國相親まば、秦は兵を退けん、相親まざるときは秦兵を進めんと、是の時に當り、趙は糧食無し、因て米を齊に乞ふ、然れども齊は之を聽かず、

周子曰、聽之、以退秦兵、不聽、則秦兵不却、是秦之計中、而齊楚之計過也、且趙之於齊楚、扞蔽也、猶齒之有脣也、脣亡則齒寒、今日亡趙、明日患及齊楚、且救趙之務、宜若奉漏甕沃焦釜也、夫救趙高義也、却秦兵顯名也、

他國より奪ひ取りたる器なり、鹵は奪ふなり、

湣王之遇レ殺、其子法章變二名姓一、爲二莒太史敫家庸一、太史敫女、奇二法章狀貌一、以爲レ非二恒人一、憐而常竊衣二食之一、而與私通焉、

【講義】湣王の殺されたる時に、其の子法章は姓名を變じ、莒の太史敫が家の傭人と爲る、敫の女は法章の風容を視て、尋常の人に非ずと思惟し、之を愛憐し、常に竊に衣食を與へ、遂に情を以て私通す、

【字解】莒、今の山東沂州府莒州なり、庸、傭なり、恒人、普通の民なり、

淖齒既以去レ莒、莒中人及齊亡臣、相聚求二湣王子一、欲レ立レ之、法章懼二其誅一己也、久レ之乃敢自言、我湣王子也、於レ是莒人共立二法章一、是爲二襄王一、以保二莒城一、而布二告齊國中一、王已立在レ莒矣、

【講義】既にして淖齒は莒を去る、莒人及び齊より逃れ來る臣は、相聚り湣王の子を求めて、之を立てんと欲す、法章は其の自己を殺すを恐れ、猶伏し匿る、之を久くして自ら言ふ、我は湣王の子なりと、是に於て莒人相依り、法章を立つ、是を襄王といふ、因て莒の城を守り、齊の國中に布告して曰く、齊王は既に立ちて、莒に在りと、

襄王既立、立二太史氏女一、爲二王后一、是爲二君王后一、生二子建一、太史敫曰、女不レ取レ媒、因自嫁、非二吾種一也、汙二吾世一、終身不レ覩二君王后一、君王后賢、不下以二不レ覩故一、失中人子之禮上、

【講義】襄王は既に立つ、乃ち太子敫の女を以て、王后とす、是を君王后といふ、子建を生む、敫曰く、吾女

諸侯乃ち恐懼す、

【字解】 溫、今の河南懷慶府溫縣なり、

三十九年、秦來伐拔我列城九、四十年燕秦楚三晉合謀、各出銳師、以伐敗我濟西、王解而却、燕將樂毅遂入臨淄、盡取齊之寶藏器、湣王出亡之衞、衞君辟宮舍之、稱臣而共具、湣王不遜、衞人侵之、湣王去走鄒魯、有驕色、鄒魯君不內、遂走莒、

【講義】 湣王の三十九年に、秦兵は來り伐ち、齊の列城を拔く、九城の多きに至る、四十年に、燕、秦、楚、趙、魏、韓の六國は謀を合せ、各其の精銳の兵を出して來り伐ち、齊を濟西に敗る、湣王は敵と和解して退却す、燕の將軍樂毅は、獨り兵を率ゐて進み、遂に齊の首都なる臨淄に入り、盡く齊の藏蓄したる珍寶器物を取り、之を燕に輸る、湣王は出奔して、衞に往く、衞君は公宮を開きて、湣王を迎へ入れ、臣と稱して飲膳を供具す、然るに、湣王は傲慢なり、衞人は怒りて之を侵犯す、湣王は逃げ、鄒魯に走る、猶驕恣の色有り、鄒魯の君は怒りて、其の入るを許さず、湣王は遂に莒に走る、

【字解】 解、和解なり、辟、開くなり、自から其の居所を去りて、他人を之に入らしむるなり、共、供ふなり、遜、讓るなり、

楚使淖齒將兵救齊、因相齊湣王、淖齒遂殺湣王、而與燕共分齊之侵地鹵器、

【講義】 楚は淖齒をして兵に將とし、齊を救はしむ、淖齒は因て齊の湣王に相たり、遂に湣王を殺し、燕と共に齊より割きたる地及び奪ひたる寶器を分ち取る、

【字解】 侵地、他國より侵し取りたる地なり、鹵器、

之智、而齊秦之愚也、晉楚合、必議齊秦、齊秦合、必圖晉楚、請以此決事、秦王曰、諾、

【講義】蘇代は乃ち昭王に對へて、齊の知り易きを說き曰く、今や天下の國勢は齊の眞意をして知るべきに至らしめんか、齊は宋を攻め取りたる結果として、秦を事ふるを知らん、夫れ齊は宋を併せたるときには、萬乘の大國を以て自から輔佐とす、西向して秦に事へざれば、宋の政治は安穩なるを得ず、今や中國に於て白頭遊說の士は、皆其の年を經たる智を積みて、齊秦の相交るを離隔せんとす、其の車を整へて西に馳する說客は多しと雖も、秦に說くに齊に交ることを以てするものは、一人も有らず、其の車を整へて東に馳する說客は多しと雖も、齊に說くに秦に交ることを以てするものは、一人も有らず、何となれば皆齊秦の相交るを希望せざればなり、何ぞ其れ晉楚の智にして齊秦の愚なるや、然れども、晉楚合體すれは、必らず齊秦を議すると均しく、齊秦合體すれば、必らず晉楚を圖るを得るなり、故に臣は願ふ、大王が此の觀察を以て、此の事件を裁決せんことをと、秦の昭王曰く諾す、

【字解】齊以攻宋、齊既攻宋といふ意なり、白頭游敖、遊遨なり、自分の意に任せて、列國を巡遊し、老年に至りたるをいふ、伏式結軼、伏軾結靷に同じ、車に乘り馬を繫ぎ馳せ行くことなり、軾は車上の橫木にして、之に凭り禮式するなり、軼は靷と同義なり、車と馬とを繫ぐ紐なり、

於是、齊遂伐宋、宋王出亡、死於溫、齊南割楚之淮北、西侵三晉、欲以幷周室、爲天子、泗上諸侯鄒魯之君、皆稱臣、諸侯恐懼、

【講義】是に於て、齊は遂に宋を伐つ、宋王は出奔し、溫に死す、齊は南征して楚の淮北を割き取り、西征して趙、魏、韓を侵し、以て周の王室を幷せ取らんと欲し、天子と爲らんと欲し、泗水の邊の諸侯及び鄒魯の君をして皆齊の臣と稱せしめんと欲す、天下の

怒り曰く、吾は宋を愛す、新城及び陽晉を愛すると同じ、齊の將たる韓聶は我と友たり、而るに我の愛する所を攻むるは、何ぞや、

【字解】 新城、今の河南洛陽縣の南に在り、陽晉、今の山東曹州に屬す、

蘇代爲齊謂秦王曰、韓聶之攻宋、所以爲王也、齊彊輔之以宋、楚魏必恐、恐必西事秦、是王不煩一兵、不傷一士、無事而割安邑也、此韓聶之所禱於王也、秦王曰、吾患齊之難知、一從一衡、其說何也、

【講義】 是に於て、蘇代は西行し、齊の爲めに秦の昭王に謂ひ曰く、韓聶が宋を攻むるは、大王の爲めに秦を利する所以なり、夫れ齊は強し、之を輔くるに宋を以てせば、楚魏は必らず恐れん、恐るゝときは必らず西向して秦に事へん、是れ大王が一兵を煩はさず、一士を傷はず、事無くして魏の安邑を割き取る道なり、此れ韓聶が大王に禱る所なりと、秦の昭王曰く、吾は齊の眞意を知り難きに苦しむ、齊は或るときに合從し、或るときに連衡す、其の故は何ぞや、

【字解】 彊、强きなり、安邑、今の山西解州安邑縣なり、禱、祈り求むるなり、從衡、南北同盟の合從と、東西同盟の連衡となり、

對曰、天下國、令齊可知乎、齊以攻宋、其知事秦、以萬乘之國自輔、不西事秦、則宋治不安、中國白頭游敖之士、皆積智欲離齊秦之交、伏式結軼西馳者、未有一人言善齊者也、伏式結軼東馳者、未有一人言善秦者也、何則皆不欲齊秦之合也、何晉楚

之阿東國危、有淮北、楚之東國危、有陶平陸、梁門不開、釋帝而貸之、以伐桀宋之事、國重而名尊、燕楚所以形服、天下莫敢不聽、此湯武之舉也、敬秦以爲名、而後使天下憎之、此所謂以卑爲尊者也、願王熟慮之、於是齊去帝、復爲王、秦亦去帝位、

【講義】蘇代は猶其の説を進めて曰く、夫れ齊が宋を領取するときは、衞の濮陽の地は危し、齊が濟西を占有するときは、趙の東邊なる東阿は危し、齊が淮北を占有するときは、楚の東邊は危し、齊が定陶及び平陸を占有するときは、魏の大梁は危し、其の城門を開くを得ず、斯の如く齊の形勢は雄大となる、故に今の計として、齊は帝號を去て、其の代りに暴虐なる宋を伐つことを取る、斯くすれば國勢は重きを加へ、名譽は尊きを加へ、燕楚兩國は齊に服從し、天下敢て齊に聽從せざるもの無きに至らん、此れ殷湯周武が王業を成したる盛擧なり、齊が秦を敬ひ、之に帝號を讓るを名と爲し、而る後に天下をして秦を憎ましむ、此れ謂はゆる卑きを以て尊きものと爲し、始めに與へて終りに取るものなり、臣願ふ大王が之を熟慮せんことを、是に於て、齊は帝號を去て、復た王と爲る、秦も遂に帝位を退き、王に復す、

【字解】陽地、濮陽の地方を指す、今の山東曹州府濮州に屬す、阿東國、東阿地方なり、東國は趙の東邊を稱す、今の山東泰安府東阿縣地方をいふ、陶、平陸、今の山東曹州定陶縣及び山東兗州汶上縣地方を指す、貸、交易して取るなり、形服、形勢に於て自然に屈服するなり、

三十八年、伐宋、秦昭王怒曰、吾愛宋、與愛新城陽晉同、韓聶與吾友也、而攻吾所愛、何也、

【講義】湣王の三十八年に、齊は宋を伐つ、秦の昭王

曰、釋帝、天下愛齊乎、愛秦乎、王曰、愛齊而憎秦、曰、兩帝立、約伐趙、孰與伐桀宋之利、王曰、伐桀宋利、

【講義】 蘇代曰く、帝號を棄つるときは、天下が齊を愛するか、秦を愛するか、湣王曰く、齊が帝號を棄てて、秦獨り帝號を稱するときは、天下皆齊を愛して、秦を憎む、蘇代曰く、齊秦の兩帝立ち、相盟約して趙を伐つは、之を齊獨り桀宋を伐つに比較して、何れか利なるや、湣王曰く、齊獨り桀宋を伐つを利とす、

【字解】 桀宋、宋の康王偃は暴虐なるに由り、桀宋と稱せられたり、桀は古の暴君なるを以て、之に比したるなり、

對曰、夫約鈞、然與秦爲帝、而天下獨尊秦而輕齊、釋帝、則天下愛齊而憎秦、伐趙不如伐桀宋之利、故願王明釋帝、以收天下、倍約賓秦、無爭重、而王以其間舉宋、

【講義】 蘇代は乃ち湣王に答ふるに、宋を伐つことの便利なる所以を以てす、曰く、夫れ齊秦の盟約は同等なり、然れども齊が秦と共に帝と爲れば、天下列國は獨り秦を尊びて齊を輕んず、齊が帝號を去れば、天下列國は齊を愛して、秦を憎む、而して今日の國勢に依れば、趙を伐つことは、暴虐なる宋を伐つことの便利なるに如かず、故に臣は願ふ、大王は明白に帝號を去て以て天下の人心を收攬し、兩帝たる盟約に背き、齊は秦に謙讓し、勢位を爭ふこと無く、大王は此の間隙に於て、宋を攻め之を領取せよ、

【字解】 鈞、同等なり、均しと訓ず、桀宋、前節に詳解せり、倍、背くなり、改むる意に用ふ、賓、從ふなり、其の下たるを甘んずる意に用ふ、重、勢位なり、舉、取るなり、

夫有宋、衞之陽地危、有濟西、趙

西帝、蘇代自燕來入齊、見於章華東門、齊王曰、嘻善子來、秦使魏冉致帝、子以爲何如、

【講義】 湣王の三十六年に、齊の湣王は東帝と爲り、秦の昭王は西帝と爲る、蘇代は燕より來り、齊に入り、章華宮の東門に於ける客殿に謁見を許さる、湣王曰く、嗟子は善く來る、秦は魏冉を使節として、齊に來らしめ、余に帝號を贈る、子は之を何如に思惟するか、

【字解】 嘻、嗟なり、致、贈呈するなり、何如、如何の意强きときに用ふ、

對曰、王之問臣也卒、而患之所從來微、願王受之而勿備稱也、秦稱之、天下安之、王乃稱之無後也、且讓爭帝名、無傷也、秦稱之、天下惡之、王因勿稱、以收天下、此大資也、且天下立兩帝、王以天下爲尊齊乎、尊秦乎、王曰、尊秦、

【講義】 蘇代は對へて曰く、大王の臣に問ふに倉卒なれども、其の患害の由り來る所は、微にして深し、願くは大王其の帝號を受くるも、現實に之を稱することを止めよ、秦が之を稱して、天下列國が之を悦ぶときに至り、大王乃ち帝號を稱するも、遲きに非ず、且つ秦齊の間に、帝號を讓らんとして、相爭ふも可なり、或は秦が帝號を稱して、天下が之を惡むときは、大王乃ち帝號を稱せず、以て天下の人心を收攬す、此れ帝業を現實にすべき大なる根本の資力なり、且つ今の時に天下は兩帝を立つ、大王は天下が齊を尊ぶと思惟するか、或は天下が秦を尊ぶと思量するか、湣王曰く、余は天下が秦を尊ぶと思考す、

【字解】 卒、倉卒なり、微、深きなり、微妙にして深遠なるをいふ、無後、時期に後れざるなり、無傷、我に害無きなり、資、根本の依るべき力なり、

秦韓に一大恩德を施したるものと謂ふを得ん、此の結果は、卽ち冒頭に述べたる事成りて公に禍有る狀態なり、更に事の成らざる場合を陳べんか、秦韓の王が、張儀韓嫣に脅迫せられて、軍隊を東進せしめ、以て魏の請求に服從したるものと假定せよ、此の時に於て、公は楚王より得たる秦韓に地を與ふる所の證據を執り、以て秦韓に責めよ、然るときは、其の事態は公に善くして、張儀に惡し、秦は張儀を斥けて、禍は公に歸せん、其の資る所多し、

【字解】徇、遵ふなり、左劵、證據なり、證書を左右に分ち、貸借の兩者に分有するを以て、左劵を執り、借手を責むるなり、資、前章に解せり、

十三年、秦惠王卒、二十三年、與秦擊敗楚於重丘、二十四年、秦使涇陽君質於齊、二十五年、歸涇陽君於秦、孟嘗君薛文入秦、卽相秦、文亡去、

【講義】湣王の十三年に、秦の惠王卒す、二十三年に、齊は秦と共に楚を擊ち、之を重丘に敗る、二十四年に、秦は涇陽君をして齊に質たらしむ、二十五年に、齊は涇陽君を秦に還す、齊の孟嘗君薛文は秦に入り、卽ち秦の相と爲る、而して忽ち逃げ去る、

【字解】重丘、今の山東武定府霑化縣なり、

二十六年、齊與韓魏共攻秦、至函谷軍焉、二十八年、秦與韓河外以和、兵罷、二十九年、趙殺其主父、齊佐趙滅中山、

【講義】湣王の二十六年に、齊は韓魏と共に秦を攻め、函谷關に至りて軍す、二十八年に、秦は韓に河北の地を與へて和睦し、兵を罷む、二十九年に、趙は武靈王を殺す、是の年に齊は趙を佐けて、中山を滅す、

【字解】主父、趙の武靈王なり、趙の世家に詳なり、中山、國名なり、趙の世家に細錄す、

三十六年、王爲東帝、秦昭王爲

韓馮之東兵之辭、且謂秦何、曰、秦兵不用而得三川、伐楚韓以窘魏、魏氏不敢東、是孤齊也、張儀之東兵之辭、且謂何、曰、秦韓欲地、而兵有案、聲威發於魏、魏氏之欲不失齊楚者、有資矣、

【講義】蘇代は更に進みて、韓馮と張儀とが相互に他國に告ぐる言辭を推斷して曰く、韓馮が韓兵を東進せしむるに當り、秦に向ひて何事を言はんとするか、其の言は蓋し下の如くならん、曰く、秦は兵を用ひずして韓の三川を得ん、因て楚韓を伐ちて、魏を困めん、魏の敢て東進せざるは、是れ其の軍が、齊に孤立なればなりと、而して張儀が秦兵を東進せしむるに當り、韓に向ひて何事を言はんとするか、其の言は蓋し下の如くならん、曰く、秦韓兩國は地を得んことを望む、然れども兵を按へて未だ遽に出でず、聲威は魏より發す、魏が齊楚を攻めて之を失はざるを期するは、援軍に資る所有りと、

【字解】窘、迫ひ窘めて困むるなり、且謂何、且謂韓何の意なり、且、將なり、案、按なり、引き止めて置くこと、資、本として依る所なり、孤齊、孤於齊の意なり、

魏氏轉秦韓、爭事齊楚、楚王欲而無與地、公令秦韓之兵不用而得地、有一大德也、秦韓之王、劫於韓馮張儀、而東兵、以徇服魏、公常執左券、以責於秦韓、此其善於公、而惡張子、多資矣、

【講義】蘇代は遂に自說の結果を田軫の前に述べて曰く、秦韓の事情は前に陳じたる如し、故に兩國の兵が東進せずして、魏が方向を一轉し、秦韓と共に齊楚に事ふることを爭ふに至り、楚王が貪りて地を秦韓に與ふること無き時に於て、公が楚王に說き、秦韓をして兵を用ひず、地を得ること有らしめば、是れ公は

る餘弊に乘じ、南侵して地を楚より割き取らんとす、斯くすれば韓は故の領地を盡く恢復すること確なりと、韓馮は斯く說き、以て韓王に出兵を求むるならん、

【字解】 却、擊退するをいふ、摶、握り持つなり、故地、舊來の領地にして、現在は敵に奪はれたるもの、

張儀救魏之辭、必不謂秦王曰、儀以爲魏、必曰儀且以秦韓之兵、東距齊宋、儀將摶三國之兵、乘屈丐之弊、南割於楚、名存亡國、實伐三川而歸、此王業也、

【講義】 蘇代は更に張儀の秦に說くを推測して曰く、張儀が魏を救ふ爲めに用ふる言辭は、秦王に向ひて必らず魏の爲めにすとは云はず、必らず曰はん、臣は秦韓の兵を以て東征し、齊宋を防ぎ制せんとす、臣は因て秦韓魏三國の兵を握り、楚の將軍屈丐の敗走したる餘弊に乘じ、南侵して地を楚より割き取らんとす、斯くすれば秦は名義に於て、滅亡に迫りたる國を保存し、實利に於て韓の三川を征服し、以て凱旋するを得ん、是れ秦に取りて王業なりと、張儀は斯く說き、以て秦王に出兵を求むるならん、

【字解】 距、防ぐなり、摶、握り持つなり、三川、今の河南汝寧府なり、

公令楚王與韓氏地、使秦制和、謂秦王曰、請與韓地、而王以施三川、韓氏之兵、不用而得地於楚、

【講義】 斯の如く蘇代は韓馮張儀の兩策を考量し、因て田軫に說きて曰く、公は楚王をして地を韓に與へしめよ、因て秦をして楚と和することを定めしめよ、乃ち秦王に謂ひて曰へ、楚は韓に地を與へん、秦王は韓の三川に於て適宜に施設せよと、斯くすれば韓は兵を用ひずして、地を楚より得るなり、秦も三川の利を占む、公は恩德を秦韓に施すこと洽し、

則可矣、不救寡人、寡人弗能拔、此特轉辭也、秦韓之兵、毋東旬餘、則魏氏轉韓從秦、秦逐張儀、交臂而事齊楚、此公之事成也、田軫曰、奈何使無東、

【講義】是の時に當り、遊說の士蘇代は、楚の權臣田軫に謂ひ曰く、臣願くは公に告ぐる所有らん、其の事たるや甚だ完く、楚をして公を利せしめん、事成らば公の福とならん、成らざるも公の福とならん、此の頃、臣は門に立ちたる時に、客有り語り曰く、魏王は韓の相なる韓馮と秦の相なる張儀とに謂ひて、今や魏兵が齊の煮棗を攻め、其の城は拔けんとす、然るに齊兵進み來れり、若しも子が來りて我を救ふときは可なり、來援せざるときは、我に於て此の城を拔く能はずと云へりと、此の客の言に依れば、魏王の語る所は、是れ特に魏が方向を一轉せんとする口實に過ぎず、蓋し秦、韓の兵が、東方の齊に向ひて進まざること十日餘に及ばゞ、魏は方向を韓に轉じて秦に從はん、秦は乃ち張儀を逐ひ斥け、秦、魏が臂を交へて、齊、楚に事ふるに至らん、此れ公の事成るなり、田軫曰く、然らば何の計を以て、秦韓の兵の東進を止めん、

【字解】煮棗、今の山東曹州府曹縣に屬す、謁、告ぐるなり、

對曰、韓馮之救魏之辭、必不謂韓王曰、馮以爲魏、必曰、馮將以秦韓之兵、東却齊宋、馮因摶三國之兵、乘屈丐之弊、南割於楚、故地必盡得之矣、

【講義】蘇代對へて曰く、臣の察する所に依れば、韓馮が魏を救ふ爲めに用ふる言辭は、韓王に向ひて必らず魏の爲めにすとは云はず、必らず曰はん、臣は秦韓の兵を以て、東征し、齊宋を擊退せんとす、臣は因て秦韓魏三國の兵を握り、楚の將軍屈丐の敗走した

之徒、七十六人、皆賜列第、爲上大夫、不治而議論、是以齊稷下學士復盛、且數百千人、

【講義】 宣王は文學遊說の士を喜ぶ、故に、騶衍、淳于髡、田駢、接予、愼到、環淵の徒より七十六人の多きに至るまで、皆官邸を列べて賜ひ、上大夫と爲る、此の徒は事務を執らずして、唯議論を力む、是を以て、齊の稷門下の學士復た盛なり、殆んど千人に達せんとす、

【字解】 列第、列びたる官邸なり、治、事務なり、稷、齊の城門の名なり、學士の邸有る地なり、數百千人、殆んど千人に達せんとするをいふ、

十九年、宣王卒、子湣王地立、湣王元年、秦使張儀與諸侯執政、會于齧桑、三年、封田嬰於薛、四年、迎婦于秦、七年、與宋攻魏、敗之觀澤、十二年、攻魏、楚圍雍氏、秦敗屈丐、

【講義】 宣王の十九年に、王卒す、其の子湣王地立つ、湣王の元年に、秦は張儀をして、諸侯の首相と齧桑に會せしむ、三年に、齊は田嬰を薛に封ず、四年に、湣王は婦を秦より娶る、七年に、齊は宋と共に魏を攻め、之を觀澤に敗る、十二年に、齊は魏を攻む、楚は韓の雍氏を圍む、秦は楚の將軍屈丐を敗る、

【字解】 齧桑、楚の彭城と魏の大梁との中間に在り、薛、今の山東兗州府滕縣に屬す、觀澤、今の河南許州に屬す、

蘇代謂田軫曰、臣願有謁於公、其爲事甚完、使楚利公、成爲福、不成亦爲福、今者臣立於門、客有言曰、魏王謂韓馮、張儀曰、煮棗將拔、齊兵又進、子來救寡人、

齊因起兵、使田忌田嬰將、孫子爲師、救韓趙、以擊魏、大敗之馬陵、殺其將龐涓、虜魏太子申、

【講義】宣王は乃ち韓の使者に告ぐるに、內密の意を以てす、使者歸り去る、韓は因て齊を恃み、五たび魏と戰ひしも勝たず、遂に東面して國を齊に委任す、齊は因て兵を起し、田忌と田嬰とを將軍と爲し、孫子を軍師と爲し、以て韓、趙を救ふが爲めに、魏を擊ち、大に之を馬陵に敗り、魏の將軍龐涓を殺し、魏の太子申を虜にす、

【字解】馬陵、魏の要害なり、今の山東濮州に在り、

其後、三晉之王、皆因田嬰、朝齊王於博望、盟而去、七年、與魏王會平阿南、明年、復會甄、魏惠王卒、明年、與魏襄王會徐州、諸侯相王也、十年、楚圍我徐州、十一年、與魏伐趙、趙決河水、灌齊魏兵、罷、十八年、秦惠王稱王、

【講義】其の後、趙、魏、韓の王は皆田嬰に因り、河南の博望に於て、齊王に朝見し、盟を成して去る、七年、宣王は平阿の南に於て、魏王と會す、八年、再び魏王と甄に會す、是の年、魏の惠王卒す、九年、宣王は魏の襄王と徐州に會す、是の年、諸侯は皆王と稱するに至れり、十年、楚は齊を攻めて、徐州を圍む、十一年、齊は魏と共に趙を伐つ、趙は河水を決して、之を齊魏の兵に灌ぐ、兵は遂に退き去る、十八年、秦の惠王は王と稱す、

【字解】博望、今の河南の南陽縣に屬す、平阿、今の安徽鳳陽府懷遠縣の西南に在り、甄、今の山東曹州府濮州の東に在り、徐州、今の江蘇徐州府なり、罷、兵退くなり、

宣王喜文學游說之士、自如騶衍、淳于髡、田駢、接予、愼到、環淵

復り居らしむ、

【字解】　南梁、今の河南汝州に屬す、

韓氏請救於齊、宣王召大臣而謀曰、蚤救孰與晩救、騶忌子曰、不如勿救、田忌曰、不救則韓且折而入於魏、不如蚤救之、

【講義】　既にして、韓は救を齊に乞ふ、宣王は大臣を召し謀り曰く、早く救ふと晩く救ふと何れが可なるや、騶忌子曰く、救はざるを可とす、田忌曰く、救はざるときは、韓必らず折れて魏の有に歸せん、早く救ふを要す、

【字解】　蚤、早くなり、且、將なり、

孫子曰、夫韓魏之兵未弊、而救之、是吾代韓受魏之兵、顧反聽命於韓也、且魏有破國之志、韓見亡、必東面而愬於齊矣、吾因深結韓之親、而晩承魏之弊、則可重利而得尊名也、宣王曰、善、

【講義】　宣王の諮問に應じ、孫子は別に說を立て丶曰く、今の時に於ては、韓、魏兩國を疲弊せしむるを可とす、夫れ韓、魏の兵が未だ疲弊せざるに、之を救ふは齊の不利なり、是れ齊が韓に代りて魏の兵を受け、却て命令を韓に聽くなり、齊の不利も亦甚し、且つ夫れ魏は列國を破る志望有り、魏の亡びたる後に、魏は必らず東面して齊に逼らん、故に齊は此の機會を利用して、漫に韓を救はず、深く韓の親交を結び置き、魏が韓を攻めて疲弊する時を待ち、晩く其の利を受け取るべし、斯くすれば、齊は利を多くして名を尊くするを得べきなりと、宣王曰く善し、

【字解】　弊、疲れ弊ふなり、顧反、却てなり、愬、遡に通ず、逼り來るなり、吾、齊なり、

乃陰告韓之使者、而遣之、韓因恃齊、五戰不勝、而東委國於齊、

何不令人操十金卜於市曰、我田忌之人也、吾三戰而三勝、聲威天下、欲爲大事、亦吉乎、不吉乎、卜者出、因令人捕爲之卜者、驗其辭於王之所、田忌聞之、因遂率其徒、襲攻臨淄、求成侯、不勝而犇、

【講義】 威王の三十三年、齊は其の大夫牟辛を殺す、三十五年、公孫閱は成侯騶忌に謂ひ曰く、公何ぞ田忌を斥くる計を爲さゞるや、其の計として人を遣り、十金を以て市上の卜者に判斷を乞はしめよ、其の判斷を乞ふ言として、我は田忌の家人なり、我は三戰して三勝し、我の聲威は天下に振ふ、今や起ちて大事を爲さんと欲す、此の大事を起すは、吉か、不吉かと、斯く言はしめて、其の卜者の出で來りたるときに、更に別人を遣り、此の事の爲めに其の卜者を捕へしめ、其の判斷を求め來れる者の言辭を、王宮に於て取調べしめよと、成侯騶忌は、此の計に從ふ、田忌は之を聞き、自分の徒黨を率ゐて、齊の首都なる臨淄を襲ひ攻め、成侯騶忌を求む、然れども勝を得ず、田忌は遂に出奔す、

【字解】 臨淄、今の山東青州府臨淄縣なり、犇、奔るなり、大事、反逆なり、

三十六年、威王卒、子宣王辟彊立、宣王元年、秦用商鞅、周致伯於秦孝公、二年、魏伐趙、趙與韓親、共擊魏、趙不利、戰於南梁、宣王召田忌、復故位、

【講義】 威王の三十六年に、王卒す、其の子宣王辟彊立つ、宣王の元年に、秦は商鞅を用ふ、周は伯爵の號を秦の孝公に授く、二年に魏は趙を伐つ、趙は韓と親交して共に魏を擊つ、然れども、趙は南梁に戰ひて利を得ず、是の年に、宣王は田忌を召して、故の位地に

に在り、其の手段は先づ南方に魏の襄陵を攻めて、魏を疲弊せしめ、魏が趙の邯鄲を取りたるときに、魏の疲弊に乘じ、以て魏を敗るに在り、今の策としては之に勝るもの無しと、威王乃ち之に從ふ、

【字解】 襄陵、今の山西平陽府襄陵縣なり、

其後、成侯騶忌、與田忌不善、公孫閱謂成侯忌曰、公何不謀伐魏、田忌必將、戰勝有功、則公之謀中也、戰不勝、非前死、則後北、而命在公矣、

【講義】 曩に成侯と爲りたる騶忌は、其の後に田忌と交惡し、今や趙、魏の問題起るに當り、公孫閱は成侯騶忌に謂ひ曰く、公何ぞ魏を伐つを謀らざるや、公が魏を伐つことを君に勸むるときは、田忌必らず其の軍の將とならん、其の戰勝ちて功有るときは、公の謀が適中したるものとなる、若しも其の戰勝たざるときは、田忌が進みて死するか、或は退きて逃げん、斯くして田忌を斥くるを得ん、其の結果の利は公に歸せん、

於是、成侯言威王、使田忌南攻襄陵、十月、邯鄲拔、齊因起兵擊魏、大敗之桂陵、於是齊最彊於諸侯、自稱爲王、以令天下、

【講義】 是に於て、成侯騶忌は威王に言ひ、田忌をして南征し、魏の襄陵を攻めしむ、其の年の十月、魏は趙の首都なる邯鄲を攻め取る、齊は因て兵を起し、魏を擊ち、大に之を桂陵に敗る、是に於て、齊は諸侯の中に於て最も強し、自から王と稱し、以て天下に號令するに至れり、

【字解】 襄陵、前章に解す、桂陵、或は桂林に作る、今の山東の曹州に屬す、此の章は魏の世家を參看すべし、

三十三年、殺其大夫牟辛、三十五年、公孫閱、又謂成侯忌曰、公

來ること無し、泗水の邊の十二諸侯は皆齊に來朝す、吾臣に盼子といふもの有り、之に命じて高唐を守らしむるときは、趙人敢て東侵せず、河水に漁すること無し、吾吏に黔夫といふもの有り、之に命じて徐州を守らしむるときは、燕、趙の兩國、共に齊より侵伐せられんことを恐れ、燕人は來りて齊の北門に祭り、趙人は來りて齊の西門に祭り、皆齊より福を受けんことを祈る、因りて燕、趙より徙り來りて從ふもの七千餘家に及ぶ、吾臣に種首といふもの有り、之に命じて盜賊に備へしむるときは、道路に遺棄したるものを拾ふもの無し、民は貪る心を生ぜず、此の四人の者は千里の外をも照さんとす、豈唯車十二乘の短距離にして止まんやと、魏王慙ぢて悅ばず、遂に去る、

【字解】寡人、諸侯の自ら稱する謙辭なり、梁惠王、魏王なり、魏の世家に詳なり、徐州、齊の北邊なり、今の順天府大城縣なり、江蘇の徐州に非ず、懌、悅ぶなり、特、唯なり、

二十六年、魏惠王圍邯鄲、趙求救於齊、齊威王召大臣而謀曰、救趙孰與勿救、騶忌子曰、不如勿救、段干朋曰、不救則不義、且不利、威王曰、何也、對曰、夫魏氏幷邯鄲、其於齊何利哉、且夫救趙而軍其郊、是趙不伐而魏全也、故不如南攻襄陵以弊魏、邯鄲拔而乘魏之弊、威王從其計、

【講義】威王の二十六年に、魏の惠王は趙の首都なる邯鄲を圍む、趙は救を齊に求む、威王は大臣を召して謀り曰く、趙を救ふと救はざると何れか可なると、騶忌子曰く、救はざるを可とす、段干朋曰く、救はざれば不義なり、且つ齊に取りて不利なり、威王曰く、何ぞや、段干朋對へて曰く、夫れ魏氏が邯鄲を幷せ取る、是れ齊に於て何の利か有らん、且つ夫れ齊兵が趙を救ひて趙の郊に陣取すれば、趙は伐たずして魏は全し、故に齊に取りての良計は、趙、魏の兩國を損ふ

二十四年、與魏王會田于郊、魏王問曰、王亦有寶乎、威王曰、無有、梁王曰、若寡人國小也、尚有徑寸之珠、照車前後各十二乘者十枚、奈何以萬乘之國而無寶乎、

【講義】 威王の二十三年に、趙王と平陸に會す、二十四年に、魏王と會して、郊野に遊獵す、魏王は問ひ曰く、齊王も寶有るか、威王曰く寶無し、魏王曰く、我の國の如きは地小なれども、直徑一寸の明球十個有り、此の球は一個にして、車の前後十二乘を照し、夜の光を成す、然るに何事ぞ、齊は萬乘の大國を以て、一の寶無きか、

【字解】 平陸、今の山西解州平陸縣なり、田、獵なり、梁、魏の首都なり、珠、水中に產する圓形の明珠なり、枚、個なり、萬乘之國、千里四方の大國なり、車兵萬乘を有する國なり、

威王曰、寡人之所以爲寶、與王異、吾臣有檀子者、使守南城、則楚人不敢爲寇東取、泗上十二諸侯皆來朝、吾臣有肦子者、使守高唐、則趙人不敢東漁於河、吾吏有黔夫者、使守徐州、則燕人祭北門、趙人祭西門、徙而從者七千餘家、吾臣有種首者、使備盜賊、則道不拾遺、將以照千里、豈特十二乘哉、梁惠王慙、不懌而去、

【講義】 威王曰く、我の寶と爲す所以は、魏王と異なり、吾臣に檀子といふもの有り、之に命じて南方の城を守らしむるときは、楚人敢て寇を爲さず、東に侵し

謹擇君子、毋雜小人其間、淳于髡曰、大車不較、不能載其常任、琴瑟不較、不能成其五音、鄒忌子曰、謹受令、請謹修法律、而督姦吏、

【講義】淳于髡は第四說を擧げて曰く、白狐の裘は敝れ損ふと雖も、之を補ふに黃狗の皮を以てすべからずと、鄒忌子曰く、謹んで敎令を奉ぜん、任用するには君子を擇ばん、小人を君子の間に雜ふると無からんと、淳于髡は終に第五說に及びて曰く、大車も其の製作を校量せざるときは、其の常用の貨物を運搬する能はず、琴瑟も其の絲桐を校量せざるときは、其の宮商角徵羽の五音を完成する能はずと、鄒忌子曰く、謹みて敎令を奉ぜん、必らず法律を修め行ひて、姦吏を戒め制せん、

【字解】較、量るなり、其の制を整ふるをいふ、瑟、大琴なり、

淳于髡說畢、趨出、至門而面其僕曰、是人者、吾語之微言五、其應我若響之應聲、是人必封不久矣、居朞年、封以下邳、號曰成侯、

【講義】淳于髡は五說を畢りて、鄒忌子の前を辭し、趨り出で門に至り、自分の御車の僕に謂ひ曰く、是の新大臣は智者なり、吾は之に微妙の解し難き言五を語りしに、其の我に答ふることの機敏なるは、響が聲に應じて起る如し、是の新大臣は必らず封土を得ん、其の日は遠からずと、其の後滿一年にして、鄒忌子は下邳に封ぜられ、成侯と號す

【字解】微言、暗に示す玄妙の言なり、久、遠きなり、居、其の後なり、朞年、滿一年なり、下邳、今の江蘇徐州府邳州なり、此の時に齊の領なり、

威王二十三年、與趙王會平陸、

相公の前に陳逃せん、騶忌子曰く、謹みて敎を受けん、

【字解】髡、自身に名を稱したるなり、我といふが如し、諸、之をなり、

淳于髡曰、得全全昌、失全全亡、騶忌子曰、謹受令、請謹毋離前、淳于髡曰、豨膏棘軸、所以爲滑也、然而不能運方穿、騶忌子曰、謹受令、請謹事左右、淳于髡曰、弓膠昔幹、所以爲合也、然而不能傅合疏罅、騶忌子曰、謹受令、請謹自附於萬民、

【講義】淳于髡は第一説を進めて曰く、全を得れば全く昌ゆるも、全を失へば全く亡ぶと、騶忌子曰く、謹みて敎令を奉ぜん、君に事ふる禮の全きを期し、謹みて君の前を離るゝこと無からんと、淳于髡は乃ち第二説を陳べて曰く、山豬の脂膏を以て、棘木の車軸を塗るは、堅きものを滑にする所以なり、然れども、其の車の孔穴四角なるときには、運轉すること能はずと、騶忌子曰く、謹みて敎令を奉ぜん、事は順從を要す、必らず君の左右に於ける侍臣に事へて、萬端の圓滑を圖らんと、淳于髡は更に第三説を述べて曰く、弓は膠を以て舊き木幹を塗る、是れ其の結合を善くする所以なり、然れども疏き隙は膠を用ふるも、之を附け合す能はずと、騶忌子曰く、謹みて敎令を奉ぜん、君臣の間は隙を生ずるを戒む、必らず萬民を附け合せて、隙の無きを期せん、

【字解】全、臣禮の全く備るをいふ、前、君の座前なり、豨、キと讀む、山猪なり、方穿、四角なる孔穴なり、昔幹、舊き幹なり、久しく乾したる弓の材なり、傅、附なり、疏罅、疏き隙なり、罅、カと讀む、隙間なり、

淳于髡曰、狐裘雖弊、不可補以黃狗之皮、騶忌子曰、謹受令、請

なり、說、悅なり、五音、宮商角徵羽の五聲調なり、紀、道なり、法なり、絲桐、琴なり、

騶忌子曰、夫大弦濁以春溫者、君也、小弦廉折以淸者、相也、攫之深、而醳之愉者、政令也、鈞諧以鳴、大小相益、回邪而不相害者、四時也、夫復而不亂者、所以治昌也、連而徑者、所以存亡也、故曰、琴音調而天下治、夫治國家、而弭人民者、無若乎五音者、王曰、善、

【講義】騶忌子曰く、夫れ大絃の緩に舒びて、春の溫和なる如き音調は、君主の象なり、小絃の鋭く急にして、淸く澄みたるは、宰相の象なり、之を持し彈ずること深く密にして、之を置き靜にすること寬に樂むは、政令の象なり、均しく調ひて鳴り、大小の兩絃相助け、緩音と急調とが、互に邪なるも相害せざるは、春夏秋冬の相應ずる象なり、夫れ往復して亂れざる音調は、盛なるを治むる所以なり、連接して度り通ずる聲律は、亡びたるを存する所以なり、故に曰く、琴音調和すれば天下治まると、夫れ國家を治めて人民を安寧にするは、宮商角徵羽の五音を調和するに在り、政事の要道は、此に勝るもの無しと、威王は之を聞きて曰く、善し、

【字解】濁、緩なる音なり、淸、急なる音なり、昌、盛なり、徑、度り通ずるなり、此の章の詳解は、前章に在り、

騶忌子見三月、而受相印、淳于髡見之曰、善說哉、髡有愚志、願陳諸前、騶忌子曰、謹受敎、

【講義】斯くして、騶忌子は威王に謁見したる後、三月にして宰相の印を受けたり、淳于髡は乃ち新宰相に見えて曰く、善く說かん、余は愚意有り、請ふ之を

夫子、先生といふが如し、

騶忌子曰、夫大弦濁以春温者、君也、小弦廉折所清者、相也、攫之深、醳之愉者、政令也、鈞諧以鳴、大小相益、回邪而不相害者、四時也、吾是以知其善也、王曰、善語音、

【講義】 騶忌子曰く、夫れ大絃の緩くして、春の如く温和なる音は、君主の象なり、小絃の鋭く急にして、清く澄みたる音は、宰相の象なり、而して之を取ること深く、之を舎くこと寛なるは、政令の象なり、其の均しく調ひて鳴り、大小の兩絃相助け、緩音と急調とが、互に邪なるも相害すること無きは、春夏秋冬相應する象なり、吾は是を以て其の善きを知るなりと、威王曰く、汝の音を語ること洵に善し、

【字解】 弦、絃なり、濁、緩和なり、廉折、鋭く急なる貌なり、攫、絃を執り彈ずるをいふ、深、行届くなり、醳、舎くなり、絃を靜にするをいふ、愉、寛なり、鈞、均しきなり、諧、調ふなり、益、助くるなり、回邪、邪なり、大小の絃が各自に其の音調を張るなり、

騶忌子曰、何獨語音、夫治國家、而弭人民、皆在其中、王又勃然不説曰、若夫語五音之紀、信未有如夫子者也、若夫治國家、而弭人民、又何爲乎絲桐之間、

【講義】 騶忌子曰く、何ぞ獨り音を語るのみならんや、夫れ國家を治めて、人民を安寧にすることは、皆此琴の音を語る中に在りと、威王は之を聞き、勃然悅ばずして曰く、宮商角徵羽の五音に就て、其の道を語ることは、信に未だ先生の如きもの有らず、然れども、國家を治めて人民を安寧にすることは、何ぞ琴音の間に爲さんや、

【字解】 弭、安く穩に治むることなり、勃然、怒る貌

を求めて、我の近侍の臣に賄賂を厚くする故なりと、是の日、直に阿の大夫を烹殺す、近侍の臣にして嚢に阿大夫を譽めしものは、皆幷せて烹殺せらる、

【字解】 阿、今の山東泰安府東阿縣なり、甄、薛陵、前章に解せり、幣、賄の物なり、

遂起兵、西擊趙衞、敗魏於濁澤、而圍惠王、惠王請獻觀以和解、趙人歸我長城、於是齊國震懼、人人不敢飾非、務盡其誠、齊國大治、諸侯聞之、莫敢致兵於齊、二十餘年、

【講義】 威王は遂に兵を起し、西征して趙衞を伐ち、魏を濁澤に敗りて、魏の惠王を圍む、惠王は請ひて魏の觀を齊に獻じ、以て和解す、趙は嚢に侵略したる長城を齊に還附す、是に於て、齊國は士民皆震恐し、敢て非を飾るもの無し、務めて其の誠を盡すに至り、齊國は大に治る、諸侯は之を聞き、敢て兵を齊に致すもの無し、斯くして二十餘年を經たり、

【字解】 濁澤、前章に解せり、觀、今の山西澤州に屬する地なり、長城、齊の北境に於ける要塞なり、

騶忌子以鼓琴、見威王、威王說而舍之右室、須臾、王鼓琴、騶忌子推戶入、曰、善哉鼓琴、王勃然不說、去琴按劍曰、夫子見容、未察、何以知其善也、

【講義】 騶忌子は琴を彈ずる技を以て威王に謁見す、威王は悅びて之を右室に舍く、暫時を經て威王は琴を彈ず、騶忌子は忽ち戶を推し開きて入り曰く、王の彈ずること洵に善しと、威王は之を聞き、勃然悅ばず、琴を去て劍を執り曰く、先生我の容を觀たるのみ、未だ之を察せず、何を以て其の善きを知るか、

【字解】 鼓、彈ずるなり、說、悅ぶなり、須臾、暫時なり、勃然、怒る貌なり、按、執りて拔かんとするなり、

大夫、九年之間、諸侯竝伐、國人不治、

【講義】 威王は卽位以來、親から國を治めず、政事を卿大夫に委託す、故に九年の間に、諸侯は竝び來りて、地を侵略し、齊國の士民は治らず、

於是、威王召卽墨大夫而語之曰、自子之居卽墨也、毀言日至、然吾使人視卽墨、田野闢、民人給、官無留事、東方以寧、是子不事吾左右、以求譽也、封之萬家、

【講義】 是に於て、威王は蹶然奮起し、卽墨の大夫を召して、之に語げて曰く、汝の卽墨に在任してより、誹毀の言は、日に聞ゆ、然れども、余は人を遣り、卽墨を視察す、汝の治下は、田野開墾せられ、人民富み給り、官務行屆きて、留滯せず、東方の領域寧靜なり、是れ汝が聲譽を求めず、我近侍の臣に諂びざる故なりと、乃ち卽墨の大夫を封ずるに、萬家の邑を以てす、

【字解】 毀、誹りなり、闢、開け擴まるなり、給、豐にて物足るなり、留、停滯なり、荒廢なり、寧、安く靜なり、左右、侍臣なり、卽墨、今の山東萊州卽墨縣なり、

召阿大夫語曰、自子之守阿、譽言日聞、然使使視阿、田野不闢、民貧苦、昔日趙攻甄、子弗能救、衞取薛陵、子弗知、是子以幣厚吾左右以求譽也、是日烹阿大夫、及左右嘗譽者、皆幷烹之、

【講義】 威王は更に阿の大夫を召し之に語げて曰く、汝が阿に在任してより、稱譽の言は日に聞ゆ、然れども余は人を遣り、阿を視察せしむ、汝の治下は、田野荒廢し、人民窮困す、前年趙が來りて、我領內の甄を攻むるも、汝は之を救ふ能はず、衞が來りて、我領內の薛陵を取るも、汝は之を知らず、是れ汝が聲譽

乃陰告韓使者而遣之、韓自以爲得齊之救、因與秦、魏戰、楚、趙聞之、果起兵而救之、齊因起兵、襲燕國、取桑丘、六年、救衞、

【講義】是に於て、齊は陰に韓の使者に告げて、之を還す、韓は自から齊の救を得んと思惟す、因て秦、魏と戰ふ、楚、趙は之を聞き田臣忌の推測したる如く、兵を起して韓を救援す、齊は因て兵を發し、孤立の燕を襲ひて、桑丘を攻取す、桓公の六年、齊は衞を救ふ、

【字解】果、豫想したる如く、竟にといふ意なり、桑丘、今の直隷易州に在り、

桓公卒、子威王因齊立、是歲、故齊康公卒、絕無後、奉邑皆入田氏、

【講義】桓公卒す、子威王因齊立つ、是の年に、故の齊の康公卒す、子孫絕えて後嗣無し、其の食邑は皆田氏に歸す、

齊威王元年、三晉因齊喪、來伐我靈丘、三年、三晉滅晉後、而分其地、六年、魯伐我入陽關、晉伐我、至博陵、七年、衞伐我、取薛陵、九年、趙伐我、取甄、

【講義】齊の威王の元年、趙、魏、韓三國は齊の喪に乘じ來りて、齊の靈丘を伐つ、三年、趙、魏、韓は晉君の後嗣を滅して、其の領地を分ち取る、六年、魯は齊を伐ち、陽關に入る、趙、魏、韓は齊を伐ち博陵に至る、七年衞は齊を伐ち、薛陵を取る、九年趙は齊を伐ち、甄を取る、

【字解】靈丘、今の山西大同府靈丘縣なり、陽關、今の山東泰安府泰安縣東南に在り、博陵、今の山東兗州府陽穀縣に近し、薛陵、今の山東兗州府滕縣なり、甄、鄄に通ず、今の山東曹州に近し、

威王初卽位、以來不治、委政卿

年、

【講義】 齊の康公の十八年に、田太公は魏の文侯と濁澤に會し、諸侯と爲るを求む、魏の文侯は乃ち使を發し、周の天子及び諸侯に言はしめ、齊の宰相田和を立て、諸侯と爲さんことを請ふ、周の天子は之を許す、康公の十九年に、田太公和は遂に立ちて、齊君と爲り、周室の諸侯に列し、是の歳を齊侯田太公の元年と定む、

【字解】 三年、康公の十八年なり、蓋し十四年及び明年及び三年、故に十八年と解すべし、濁澤、今の山西澤州に屬す、紀、條理を立てゝ定むること、

齊侯太公和立、二年、和卒、子桓公午立、桓公午五年、秦魏攻韓、韓求救於齊、

【講義】 齊侯田太公和立ちて二年に卒す、子田桓公午立つ、桓公の五年に、秦、魏兩國は韓を攻む、韓は救を齊に求む、

齊桓公召大臣而謀曰、蚤救之、孰與晩救之、騶忌曰、不若勿救、段干朋曰、不救則韓且折而入於魏、不若救之、田臣思曰、過矣君之謀也、秦魏攻韓、楚趙必救之、是天以燕予齊也、桓公曰、善、

【講義】 齊侯田桓公は大臣を召して謀り曰く、韓は來り援兵を乞ふ、我は早く之を救ふと、晩く之を救ふと、何れか利なるぞと、騶忌曰く、救はざるを利とすと、段干朋曰く、之を救ふを利とす、若も救はざらんか、韓は折れて魏に入らん、魏を大にするは、齊の利に非ずと、田臣忌曰く、君の謀る所は誤れり、秦、魏が韓を攻むれば、楚、趙は必らず之を救はん、燕は孤立す、是れ天が燕を以て齊に授くるなりと、桓公曰く善し、

【字解】 蚤、早くなり、晩、遲くなり、且、將なり、予、與ふなり、

を毀り、陽狐を圍む、其の明年齊は魯の葛及び安陵を伐つ、其の明年魯の一城を取る、既にして莊子卒す、子田太公和立つ、

【字解】黃城、今の直隸大名府元城縣に屬す、陽狐、黃城に近き縣なり、葛、今の河南許州長葛縣に屬す、蓋し魯より王室に朝禮するときの宿邑なり、安陵、今の河南開封府に屬す、

田太公相齊宣公、宣公四十八年、取魯之郕、明年、宣公與鄭人會西城、伐衞、取毋丘、宣公五十一年卒、田會自廩丘反、

【講義】田太公は齊の宣公に宰相たり、宣公の四十八年に、齊は魯の郕を取る、明年宣公は鄭人と西城に會し、衞を伐ち毋丘を取る、宣公の五十一年に、宣公卒す、是の年田會は、廩丘に據り叛亂す、

【字解】郕、今の山東泰安府東平州に屬す、毋丘、貫丘なり、毋は貫の殘缺したる字なり、故にクワンと讀む、今の山東曹州府荷澤縣に屬す、廩丘、今の山東曹州府范縣の近地なり、

宣公卒、子康公貸立、貸立十四年、淫於酒婦人、不聽政、太公乃遷康公於海上、食一城、以奉其先祀、明年、魯敗齊平陸、

【講義】齊君宣公卒す、子康公貸立つ、貸立ちて十四年酒色に荒淫して、政事を聽かず、田太公は康公を海邊の地に遷し、一城を以て其の食邑と爲し、呂氏の父祖を奉祀せしむ、其の明年魯は齊の平陸を敗る、

【字解】平陸、今の山東兗州府汶上縣なり、

三年、太公與魏文侯、會濁澤、求爲諸侯、魏文侯乃使使言周天子及諸侯、請立齊相田和爲諸侯、周天子許之、康公之十九年、田和立爲齊侯、列於周室、紀元

城なり、

田常乃選齊國中女子、長七尺以上、爲後宮、後宮以百數、而使賓客舍人、出入後宮者不禁、及田常卒、有七十餘男、

【講義】田常は乃ち齊國中の女子にして身の長七尺以上のものを選び、後宮の姬妾と爲す、姬妾は百を以て數ふるに至る、田常の賓客及び邸內の事務官は後宮に出入するも、之を禁ずること無し、故に田常の歿後には、後宮に生れたる男子七十餘人有り、

【字解】後宮、姬妾を置く所を指す、舍人、邸內の事務官なり、所謂執事なり、

田常卒、子襄子盤代立、相齊、常謚爲成子、田襄子既相齊宣公、三晉殺知伯、分其地、襄子使其兄弟宗人、盡爲齊都邑大夫、與三晉通使、且以有齊國、

【講義】田常卒す、其の子田襄子盤は代り立つ、齊に宰相たり、常は成子と謚す、襄子が齊の宣公に相たるに當り、三晉は知伯を殺して、其の領地を韓、魏、趙の三家に分ちたり、襄子は自分の兄弟及び田氏の本宗に於ける人々を擧げて、盡く齊の都府の大夫に任命し、韓、魏、趙三家と使を通じ、以て齊國を領有せんと圖れり、

【字解】知伯、三晉、晉趙の兩世家に詳なり、且、將なり、

襄子卒、子莊子白立、田莊子相齊宣公、宣公四十三年、伐晉毀黃城、圍陽狐、明年、伐魯葛及安陵、明年、取魯之一城、莊子卒、子太公和立、

【講義】襄子卒す、子田莊子白立つ、田莊子は齊の宣公に相たり、宣公の四十三年に、齊は晉を伐ち、黃城

殺簡公、懼諸侯共誅己、乃盡歸魯、衛侵地、西約晉、韓、魏、趙氏、南通吳、越之使、脩功行賞、親於百姓、以故齊復定、

【講義】是に於て、田常は簡公の弟驁を立つ、是を平公と曰ふ、平公卽位し、田常は首相たり、田常は既に簡公を殺したるを以て、諸侯が共に起ちて自己を誅せんことを恐る、因て侵略したる土地を魯衛兩國に還附し、西方には晉國、韓、魏、趙三氏に盟約を結び、南方には公使を吳、越兩國に通じ、功勞を取調べ、褒賞を授け行ひ、以て人民に親む、是の故に、齊國は平和を恢復したり、

【字解】侵地、侵略して我の領有と爲したる地なり、

田常言於齊平公曰、德施人之所欲、君其行之、刑罰人之所惡、臣請行之、行之五年、齊國之政、皆歸田常、

【講義】田常は齊の平公に言ひ曰く、恩德の施行は、衆人の希望する所なり、君其れ之を行へ、刑罰の執行は、衆人の憎惡する所なり、臣請ふ之を行はんと、斯くして田常は刑罰の權を執ること五年、齊國の政事は總て田常の手に歸したり、

田常於是、盡誅鮑、晏、監止及公族之彊者、而割齊自安平以東至琅邪、自爲封邑、封邑大於平公之所食、

【講義】田常は既に政權を專有したるを以て、鮑氏、晏氏、監止及び公族の强きものを誅滅し、遂に齊國を割きて、安平より東方琅邪に至るまでを、自己の領土と爲したり、田氏の領土は、平公の食む所よりも廣大と爲れり、

【字解】彊、强なり、安平、今の山東青州府臨淄縣の東方なり、琅邪、今の山東青州府諸城縣なり、封邑、領

我は門を閉づ、簡公は檀臺に在り、正に婦人と酒を飮む、田常の亂を聞きて之を擊たんと欲す、太史子餘曰く、田常は敢て亂を作すに非ず、君側の害を除かんと欲するのみと、簡公は乃ち田常を擊つことを止めたり、

【字解】 如、往くなり、檀臺、臺の名なり、公宮の構内に在り、此の一節は、齊の世家と多少の異同有り、參看すべし、

田常出、聞簡公怒、恐誅、將出亡、田子行曰、需事之賊也、田常於是擊子我、子我率其徒、攻田氏、不勝出亡、田氏之徒、追殺子我及監止、簡公出奔、

【講義】 田常は遂に公宮を出づ、簡公の怒るを聞き其の誅殺を恐れ、出奔せんと欲す、田子行曰く、疑惑は事業の害を成す、必ず斷行すべしと、田常は乃ち子我を擊つ、子我は其の徒を率ゐて田氏を攻め、其の勝を得ず、子我は遂に出奔す、田氏の徒は之を追擊し、子我及び監止を殺す、是に於て簡公出奔す、

【字解】 需、疑惑なり、賊、害なり、

田氏之徒、追執簡公于徐州、簡公曰、蚤從御鞅之言、不及此難、田氏之徒、恐簡公復立而誅己、遂弑簡公、簡公立、四年而殺、

【講義】 田氏の徒は簡公を追躡して、之を徐州に捕ふ、簡公曰く、余は早く御者鞅の言に從はゞ、此の禍害に遭はずと、田氏の徒は簡公の復び立ちて自己を誅するを恐る、因て簡公を弑す、簡公は立ちて、僅に四年乃ち殺さる、

【字解】 徐州、齊の北邊なり、今の順天府大城縣なり、今の江蘇徐州に非ず、御鞅、前章に在り、

於是田常立簡公弟驁、是爲平公、平公卽位、田常爲相、田常既

齊大夫朝、御鞅諫簡公曰、田監不可竝也、君其擇焉、君弗聽、

【講義】齊の諸大夫參朝す、簡公の御者鞅は簡公を諫めて曰く、田常監止の兩相は竝び用ふべからず、君其れ一人を擇び用ひよと、然れども簡公は聽かず、

子我者、監止之宗人也、常與田氏有郤、田氏疏族田豹、事子我有寵、子我曰、吾欲盡滅田氏適、以豹代田氏宗、豹曰、臣於田氏疏矣、不聽、

【講義】爰に子我といふもの有り、監止の宗家なり、嘗て田氏と相惡し、田氏の緣遠き族人田豹は、子我に事へて寵愛せらる、故に子我は田豹に謂ひ曰く、吾は田氏の嫡宗を全滅せしめ、汝を以て田氏の宗家に代らしめんと欲すと、田豹は之を辭謝して曰く、臣は田氏に於て緣遠し、以て代るに足らずと、然れども子我は聽かず、

【字解】宗人、本家なり、嫡宗なり、常、嘗なり、郤、隙なり、相惡しきなり、疏族、緣の遠き族人なり、適、嫡宗なり、

已而豹謂田氏曰、子我將誅田氏、田氏弗先、禍及矣、

【講義】既にして田豹は、田氏に謂ひ曰く、子我は田氏を誅せんと圖れり、田氏は先づ起たずんば、禍至らんと、

子我舍公宮、田常兄弟四人、乘如公宮、欲殺子我、子我閉門、簡公與婦人飮檀臺、將欲擊田常、太史子餘曰、田常非敢爲亂、將除害、簡公乃止、

【講義】是の時に當り、子我は公宮に舍る、田常は兄弟四人乘車して公宮に往き、子我を殺さんと欲す、子

乃使人遷晏孺子於駘、而殺孺子荼、悼公既立、田乞爲相、專齊政、四年田乞卒、子常代立、是爲田成子、鮑牧與齊悼公有郤、弑悼公、齊人共立其子壬、是爲簡公、

【講義】是に於て、人を遣り晏孺子を駘に遷さしめ、遂に之を殺す、悼公は既に立つ、田乞は宰相たり、專權を以て齊の政事を行ふ、四年にして卒す、田常は父に嗣ぎて立つ、是を田成子と曰ふ、鮑牧は齊の悼公と相惡し、遂に悼公を弑す、齊人相共に謀議して、悼公の子壬を立つ、是を簡公と曰ふ、

【字解】孺子荼、晏孺子なり、前章に在り、郤、ゲキと讀む、隙に同じ、意思の阻隔して相惡しきなり、

田常成子與監止、俱爲左右相、相簡公、田常心害監止、監止幸於簡公、權弗能去、於是田常復修釐子之政、以大斗出貸、以小斗收、齊人歌之曰、嫗乎采芑、歸乎田成子、

【講義】田成子常は、監止と共に左右の大臣たり、簡公を輔佐す、田成子常は心中に監止を嫌惡し、之を障害とす、然るに、監止は簡公に寵愛せられ、權勢有り、之を除去すること難し、是に於て、田成子常は復び田釐子乞の政策を修め行ひ、米を出し貸すには、大斗を用ひ、之を收め納るには、小斗を用ひ、利澤を民に施す、齊人は之を歌ひ曰く、老婦の芑菜を摘むものは、皆歸りて田成子に入ると、蓋し民心の田氏に歸依するを謂ふなり、

【字解】監止、闞止なり、悼公以來の寵臣なり、嫗、ウと讀む、老女を汎稱す、芑、キと讀む、芑菜なり、野菜を略稱す、

田乞使人之魯迎陽生、陽生至齊、匿田乞家、請諸大夫曰、常之母有魚菽之祭、幸而來會飮、會飮田氏、田乞盛陽生橐中、置坐中央、發橐出陽生曰、此乃齊君矣、大夫皆伏謁、將盟立之、

【講義】　田乞は乃ち使を發し、公子陽生を魯國より迎へしむ、陽生は齊に至り、田乞の家に匿る、田乞は諸大夫を招請して曰く、敝宅に祭事有り、賤息常の母は魚と豆との粗饌を供ふ、幸に來り會飮せよと、是に於て、諸大夫は田氏に往き會飮す、田乞は陽生を皮嚢に包みて、之を坐敷の中央に置き、酒宴の酣なるに及び、其の皮嚢を啓き、陽生を出して曰く、此れは齊國の君なりと、諸大夫は皆伏謁し、盟誓して之を立てんとす、

【字解】　常、田常なり、田乞の子なり、菽、豆なり、祭、家の祭事なり、橐、皮嚢の底無きもの、

田乞誣曰、吾與鮑牧謀共立陽生也、鮑牧怒曰、大夫忘景公之命乎、諸大夫欲悔、

【講義】　田乞は誣ひて曰く、吾は鮑牧と共に陽生を立つることを謀れりと、鮑牧怒り曰く、大夫は景公の命を忘れたるかと、諸大夫は相視て悔いんと欲す、

陽生乃頓首曰、可則立之、不可則已、鮑牧恐禍及己、乃復曰、皆景公之子、何爲不可、遂立陽生於田乞之家、是爲悼公、

【講義】　陽生は乃ち頓首して曰く、可なれば立てよ、不可なれば止めよと、鮑牧は禍の自己に及ぶを恐れ、乃ち復申して曰く、皆景公の子なり、何ぞ不可と曰はんと、遂に陽生を田乞の家に立て、齊國の君と爲す、是を悼公と曰ふ、

ちたるに出り、陽生は魯國に奔りたり、

【字解】 荼、ショと讀む、說、悅ぶなり、佗、他なり、歡、親しむなり、

田乞僞事高昭子國惠子者、每朝代參乘、言曰、始諸大夫不欲立孺子、孺子既立、君相之、大夫皆自危謀作亂、

【講義】 田釐子乞は、兩大臣高昭子國惠子に服事するものゝ如く僞りて、參朝する每に、兩大臣の僕御に代りて陪乘し、車上に於て、兩大臣に告げ曰く、諸大夫は始より孺子を立つるを希望せず、孺子は既に立ちて、君は之に相公たり、故に諸大夫は皆自から危み、相謀りて亂を作さんとすと、

【字解】 參乘、其の車に陪乘して、僕御の役を勤むるなり、

又紿大夫曰、高昭子可畏也、及未發、先之、諸大夫從之、

【講義】 田釐子乞は、斯くして兩相を欺き、更に諸大夫を欺きて曰く、高昭子は畏るべし、彼の未だ發せざるに先きだちて、之を伐たんと、諸大夫は之に從ふ、

【字解】 紿、欺くなり、

田乞鮑牧與大夫以兵入公室、攻高昭子、昭子聞之、與國惠子救公、公師敗、田乞之衆追國惠子、惠子奔莒、遂反殺高昭子、晏孺子奔魯、

【講義】 是に於て田乞鮑牧は、諸大夫と共に兵を率ゐて、公室に入り、高昭子を攻む、高昭子は之を聞き、國惠子と共に公を救ふ、公の軍は敗走す、田乞の兵は國惠子を追擊す、國惠子は莒に奔る、田乞の徒は遂に兵を旋して、高昭子を攻殺す、晏孺子は魯に奔る、

【字解】 莒、今の山東莒州なり、魯、魯世家に詳なり、

已而使於晉、與叔向私語曰、齊國之政、其卒歸於田氏矣、晏嬰卒後、范、中行氏反晉、晉攻之急、范、中行請粟於齊、田乞欲爲亂樹黨於諸侯、乃說景公曰、范、中行數有德於齊、齊不可不救、齊使田乞救之、而輸之粟、

【講義】既にして、晏嬰は公使として晉に赴き、晉の大夫叔向と私語して曰く、齊國の政權は、其れ竟に田氏の手に歸せんと、晏嬰の死去したる後に、晉の范氏中行氏は晉に反きて亂を作す、晉は之を攻むる急なり、范氏中行氏は米の輸送を齊に乞ふ、田釐子乞は、齊に於て亂を作さんと欲し、其の黨を諸侯に樹てんと圖る、因て景公に說き曰く、范氏中行氏は屢齊に德惠を行へり、齊は必らず之を救ふべしと、是に於て、景公は田釐子乞をして、范氏中行氏を救はしめ、且つ米を輸送して之に與へたり、

【字解】此の一節は、齊晉の兩世家を參看すべし、

景公太子死、後有寵姬、曰芮子、生子荼、景公病、命其相國惠子與高昭子、以子荼爲太子、景公卒、兩相高國立荼、是爲晏孺子、而田乞不說、欲立景公佗子陽生、陽生素與乞歡、晏孺子之立也、陽生奔魯、

【講義】景公は太子死したる後に、寵愛の姬妾有り、芮子といふ、景公の子荼を生む、景公は病に臥し、其大臣國惠子と高昭子とに命じ、子荼を以て、太子と爲さしむ、既にして景公卒す、高氏國氏兩大臣は太子荼を立て、齊君とす、是を晏孺子といふ、然るに、田釐子乞は之を悅ばず、景公の他の子陽生を立てんと欲す、陽生は素より田釐子乞と相親しむ、今や晏孺子の立

晉之大夫欒逞作亂於晉、來奔齊、齊莊公厚客之、晏嬰與田文子諫、莊公弗聽、

【講義】　田穉孟夷は、田湣孟莊を生む、田湣孟莊は、田文子須無を生む、田文子は、齊の莊公に事ふ、是の時に當り、晉の大夫欒逞は、亂逆を晉に作して、齊に逃げ入る、莊公は厚く之を客遇す、齊の大臣晏嬰と田文子とは、欒逞の事に關して、莊公を諫む、莊公は聽かず、

【字解】　欒逞、欒盈なり、逞をエイと讀む、

文子卒、生桓子無宇、田桓子無宇、有力、事齊莊公、甚有寵、無宇卒、生武子開與釐子乞、

【講義】　田文子死去し、其の子を田桓子無宇といふ、田桓子無宇は力量強し、齊の莊公に事へて、甚だ寵遇せられたり、田桓子無宇死去す、其の子兩人有り、田武子開といひ、田釐子乞といふ、

田釐子乞、事齊景公、爲大夫、其收賦稅於民、以小斗受之、其粟予民、以大斗、行陰德於民、而景公弗禁、由此田氏得齊衆心、宗族益彊、民思田氏、晏子數諫景公、景公弗聽、

【講義】　田釐子乞は、齊の景公に事へて、大夫と爲る、田釐子は輿望を收めんと欲して、大に心を用ひたり、其の貢米を民より取るときには、小斗を以て之を受け、其の穀物を民に與ふるときには、大斗を以て之を授く、斯くして陰德を民に行ふ、然れども景公は之を禁止せず、此に由り田氏は齊の衆心を得たり、宗家も支族も、共に益〻強く盛なり、齊の民は田氏を思ふこと深し、晏嬰は屢景公を諫むるに、田氏の事を以てす、然れども、景公は聽かず、

【字解】　粟、米穀なり、宗、本家なり、彊、強なり、

臣、幸得免負擔、君之惠也、不敢當高位、桓公使爲工正、

【講義】齊の桓公は陳完をして卿の位に居らしめんと欲す、陳完は辭謝して曰く、臣は他國より流寓の身なり、幸に荷物を背負ふことの苦勞を免れたるは、君の惠なり、恩澤は既に多し、敢て高位に當るを望まずと、桓公は乃ち之を擧用して、工藝の長官とす、

【字解】羈、旅行流寓なり、負擔、荷物を負ひ行く勞役なり、工正、工部局長の如きものなり、

齊懿仲欲妻完、卜之、占曰、是謂鳳皇于蜚、和鳴鏘鏘、有嬀之後、將育于姜、五世其昌、並于正卿、八世之後、莫之與京、卒妻完、

【講義】齊の大夫懿仲は、其の女を以て陳完に嫁せんと欲す、因て之を卜筮す、其の占兆の判斷に曰く、是れを雄鳳雌凰飛翔し、雄雌相和して鳴く、其の音の鏘鏘として、淸高なるに比す、蓋し有嬀氏の後裔は姜氏に育てられんとす、五世に及びて、其れ繁昌して正卿に並ばん、八世の後は、之に競爭するもの無からんと、竟に完に嫁したり、

【字解】鳳皇、鳳凰なり、雄を鳳といひ、雌を凰といふ、于蜚、于飛なり、爰に飛翔すといふが如し、鏘鏘、金石を打つ淸高の音なり、有嬀、帝舜の氏は嬀なり、有は大なる意とす、京、大なり、競爭する勢を指す、

完之奔齊、齊桓公立十四年矣、完卒、謚爲敬仲、仲生穉孟夷、敬仲之如齊、以陳氏爲田氏、

【講義】陳完が齊に逃げ入りたるは、齊の桓公が即位の第十四年なり、既にして陳完は死去し、敬仲と謚す、其の子を田穉孟夷といふ、蓋し陳完は齊に往きて後に、陳氏を改めて田氏と爲したるなり、

田穉孟夷、生湣孟莊、田湣孟莊生文子須無、田文子事齊莊公、

殺し、厲公を立てゝ、陳國に君臨せしむ、

【字解】 少子、末子なり、佗、他に同じ、厲公の名なり、

厲公既立、娶蔡女、蔡女淫於蔡人、數歸、厲公亦數如蔡、桓公之少子林、怨厲公殺其父與兄、乃令蔡人誘厲公而殺之、林自立、是爲莊公、故陳完不得立、爲陳大夫、

【講義】 厲公は既に即位して、蔡國の女を娶る、然るに、蔡國の女は蔡人に密通して、屢蔡に還る、厲公も屢蔡に往く、是の時に當り、桓公の末子林は、厲公が其の父と兄とを殺したるを怨み、其の報復を圖る、因て蔡人をして厲公を誘ひ、之を殺さしむ、林は自立して陳君と爲る、是を莊公といふ、故に厲公の子なる陳完は、君と爲るを得ず、陳國の大夫たり、

【字解】 淫、密通なり、如、往くなり、少子、末子なり、

厲公之殺、以淫出國、故春秋曰、蔡人殺陳佗、罪之也、莊公卒、立弟杵臼、是爲宣公、

【講義】 厲公の殺されたるや、淫亂を以て他國に往きたるに由る、故に春秋の文に曰く、蔡人は陳佗を殺すと、蓋し之を罪有るものとして、賤しみたるなり、莊公卒して、其の弟杵臼即位す、是を宣公といふ、

宣公十一年、殺其太子禦寇、禦寇與完相愛、恐禍及己、完故奔齊、

【講義】 宣公の十一年に、宣公は末子を愛して、太子禦寇を殺す、禦寇は陳完と相親愛したり、故に陳完は禍の自己に及ぶを恐れて、齊に逃げ入る、

齊桓公欲使爲卿、辭曰、羈旅之

べたる貌を稱す、觀、䷓の卦名なり、風地觀と稱す、之、適き變ずるなり、否、䷋の卦名なり、天地否と稱す、

是爲觀國之光、利用賓于王、此其代陳有國乎、不在此而在異國乎、非此其身也、在其子孫、若在異國、必姜姓、姜姓四嶽之後、物莫能兩大、陳衰、此其昌乎、

【講義】周の史官は乃ち判斷して曰く、是れ出仕して顯榮を得る前兆なり、其の易の文に依れば、出でて他の國家の文光を觀る、因て王者より大賓として禮遇せらるゝ事を用ふるに利有りと曰ふなり、故に此の公子完は、其れ陳國に代りて、別に國を建て、之を領有せんか、其の顯榮は、此の陳國に在らずして、異國に於てせんか、此れ其の自身の時に非ずして、其の子孫の時に在らん、果して異國に在らば、必らず姜姓の國ならん、姜姓は堯帝の大臣たる四嶽の後裔なり、嶽は聳えて天に配す、以て顯榮を占めん、蓋し物は兩者共に大なること能はず、一者大なれば、他の者は小なり、故に陳國衰微に至れば、此の公子完の子孫は、盛大を加へんか、

【字解】賓、賓禮を以て、王者より優遇せらるゝをいふ、姜姓、暗に齊國を指す、四嶽、唐堯時代の內務大臣に似たる官名なり、昌、盛なり、此の一節は、左傳の莊公二十二年を參看すべし、

厲公者、陳文公少子也、其母蔡女、文公卒、厲公兄鮑立、是爲桓公、桓公與佗異母、及桓公病、蔡人爲佗殺桓公鮑及太子免、而立佗、爲厲公、

【講義】厲公は陳の文公の末子なり、其の母は蔡國の女なり、文公卒して、厲公の兄なる鮑卽位す、是を桓公といふ、桓公は厲公と母を異にす、故に桓公の病むに及び、蔡人は厲公の爲めに桓公鮑及び太子免を

り、因て韓非を公使として秦に入らしむ、秦は韓非を抑留して之を殺す、九年に、秦は王安を虜にし、韓の殘存したる地を總て取り、之を潁川郡と爲し、韓は遂に滅亡したり、

太史公曰、韓厥之感晋景公、紹趙孤之子武、以成程嬰公孫杵臼之義、此天下之陰德也、韓氏之功、於晋未觀其大者也、然與趙、魏、終爲諸侯、十餘世、宜乎哉、

【講義】 太史公曰く、韓厥が晉の景公を感動せしめ、趙氏の遺孤なる趙武を立て、是に由りて趙の世家を存續せしめ、以て程嬰公孫杵臼兩人が趙家に盡したる節義を完成したるは、是れ天下に稀なる陰德なり、韓氏の功は、晉國に於て未だ其の大なるものを見ずと雖も、此の隱れたる德は、顯れたる功に勝るを知るべし、其の趙、魏兩家と共に、諸侯と爲り十餘世を累ぬるに至りたるも、理有りと謂ふべし、

【字解】 紹、繼ぎ承くるなり、家督を相續する意なり、宜、其の道理有りと謂ふ如し、

田敬仲完世家第十六

陳完者、陳厲公佗之子也、完生、周太史過陳、陳厲公使卜完、卦得觀之否、

【講義】 田齊の始祖なる陳完は、陳の厲公佗の子なり、陳完の生れたる時に、周の史官は陳に至る、厲公は史官をして陳完の運命を卜筮せしむ、其の卜筮の封は、風地觀より天地否に適くを得たり、

【字解】 佗、他に同じ、厲公の名なり、太史、史官なり、天文卜筮のことを掌る、過、至るなり、卜、龜の甲を灼きて、吉凶を判斷することなれども、卜筮として、龜卜蓍筮の兩者に通じ解す、故に、此の章も他の書には筮の字を用ふ、封、易に於ける算木六個を列

四年、秦拔趙上黨、殺馬服子卒四十餘萬於長平、

【講義】 桓惠王の元年に、韓は燕を伐つ、九年に秦は韓を汾水の傍に敗り、陘城を取る、十年に、秦は韓を太行山に擊つ、韓の上黨郡の長官は、其の群を率ゐて趙に降る、十四年に、秦は曩に韓より降りたる上黨を攻めて、之を趙より取る、遂に趙の馬服子の卒四十餘萬を長平に殺したり、

【字解】 陘城、今の山西平陽府曲沃縣に在り、太行、上黨の名山なり、上黨、今の山西澤州府潞安府等の地方にして、韓の要地なり、長平、今の山西澤州府高平縣なり、此の一節は、趙の世家に詳なり、馬服、馬服君趙奢の子といふを略稱したるなり、

十七年、秦拔我陽城、負黍、二十二年、秦昭王卒、二十四年、秦拔我城皐、滎陽、二十六年、秦悉拔我上黨、二十九年、秦拔我十三城、二十四年、桓惠王卒、子王安立、

【講義】 桓惠王の十七年に、秦は韓の陽城及び負黍を取る、二十二年に、秦の昭王卒す、二十四年に、秦は韓の城皐及び滎陽を取る、二十六年に、秦は韓の上黨の殘在したる地方を總て取る、二十九年に、秦は韓の十三城を取る、三十四年に桓惠王卒す、子王安卽位す、

【字解】 陽城、今の河南登封縣に屬す、負黍、陽城に近き地なり、城皐、今の河南開封府汜水縣に屬す、成皐に同じ、滎陽、今の河南滎陽縣なり、上黨、前章に解す、趙の世家に詳なり、

王安五年、秦攻韓、韓急、使韓非使秦、秦留非因殺之、九年、秦虜王安、盡入其地、爲潁川郡、韓遂亡、

【講義】 王安の五年に、秦は韓を攻む、韓は危急な

使公來、陳筮曰、未急也、穰侯怒曰、是可以爲公之主使乎、夫冠蓋相望、告敝邑甚急、公來言未急、何也、

【講義】 陳筮は乃ち秦に赴き、秦の首相穰侯に面會す、穰侯曰く、韓の國事は危急なるか、其の故に、公をして來らしめたるかと、陳筮曰く、韓國は未だ危急ならずと、穰侯怒り曰く、公の言ふ所の如きは以て主使の意と爲すを得ず、夫れ韓國は既に使臣を秦に派出すること多し、前使も後使も相接して、援兵を秦に乞ふこと甚だ急なり、竟に公を要するに至れり、然るに公は來りて韓國未だ危急ならずと曰ふ、是れ何の意ぞと、

【字解】 公之主使、公之使命と謂ふが如し、公は陳筮なり、主使は韓王より使臣として受けたる主意なり、冠蓋相望、使臣の乘車前後相接するなり、冠蓋は車の大蓋なり、敝邑、秦を指して曰ふなり、小邦と稱する如し、

陳筮曰、彼韓急、則將變而佗從、以未急故、復來耳、穰侯曰、公無見王、請令發兵救韓、八日而至、敗趙魏於華陽之下、是歲釐王卒、子桓惠王立、

【講義】 陳筮は對へて曰く、彼の韓國は危急ならば、忽ち一變して他國に服從せんとす、幸に未だ危急ならず、故に重ねて來り兵を乞ふのみと、穰侯曰く、公は王に謁見する勿れ、余は直に兵を發し韓を救はしめんと、其の後八日を經て、秦兵は韓に至り、趙、魏兩國の軍を華陽の城下に擊破したり、是の歲に、釐王卒し、子桓惠王即位す、

【字解】 佗、他なり、華陽、前章に解したり、

桓惠王元年、伐燕、九年、秦拔我陘城汾旁、十年、秦擊我於太行、我上黨郡守以上黨郡降趙、十

地二百里、十年、敗我師于夏山、十二年、與秦昭王會西周、而佐秦攻齊、齊敗、湣王出亡、

【講義】釐王の三年に、韓は公孫喜をして、周魏兩國の兵を率ゐ秦を攻めしむ、秦は韓兵二十四萬を伊闕に敗り、公孫喜を虜へたり、五年に秦は韓の宛城を取る、六年に韓は秦に與ふるに、武遂の地二百里を以てす、十年に秦は韓軍を夏山に敗る、十二年に釐王は秦の昭王と西周に會見して、秦を佐け齊を攻む、齊兵は敗走し、齊の湣王は出奔したり、

【字解】伊闕、今の河南洛陽縣の南に在り、宛、今の河南南陽縣なり、武遂、今の河南宜陽縣に近接の地なり、夏山、今の河南南陽府に屬す、

十四年、與秦會兩周間、二十一年、使暴鳶救魏、爲秦所敗、鳶走開封、二十三年、趙魏攻我華陽、韓告急於秦、秦不救、韓相國謂陳筮曰、事急、願公雖病、爲一宿之行、

【講義】釐王の十四年に、韓は秦と東西兩周の間に會す、二十一年に、韓は將軍暴鳶をして魏を救はしむ、然れども其の兵は秦軍に擊破せられ、鳶は開封に逃走したり、二十三年に、趙、魏兩國は韓の華陽を攻む、韓は危急を秦に告ぐ、然れども秦の援兵は來らず、是に於て韓の首相は陳筮に謂ひ曰く、事危し、公は病中なれども、願くは韓國の爲めに、兩日の旅行を爲せよと、

【字解】暴鳶、韓將の氏名なり、鳶はエンと讀む、鳶に同じ、開封、今の河南開封府に屬す、華陽、今の河南開封府鄭州なり、一宿之行、韓城より秦城に至る旅行に兩日を要して、中間に一宿す、故に一宿の行といふ、

陳筮見穰侯、穰侯曰、事急乎、故

て公の利とす、公は何ぞ韓の爲めに質子を楚に求めざるか、楚王が之を聽きて質子を韓に送るときは、伯嬰安心して秦楚が蟣虱を助けざるを知り、必らず韓を以て秦、楚に結合せん、是に於て秦、楚は韓を挾み、以て魏に逼らん、魏は齊に合する能はず、秦、楚、韓に從はん、是れ齊を孤立にするなり、此の場合に於て、公は更に秦の爲めに質子を楚に求めよ、若しも楚が之を聽かざるときは、蟣虱を助くるものとして韓より疑はれん、因て怨は韓に生ぜん、韓は遂に齊、魏を挾み、以て楚を圍まん、此の事情に由り、楚は必らず公を尊重せん、公は秦楚の力を挾持し、以て恩德を韓に積む、伯嬰必らず感佩し、韓國を以て公の命に從はん、

【字解】 窘、逐ひ逼るなり、待、其の命に從ふ貌、

於是、蟣虱竟不得歸韓、韓立咎爲太子、齊魏王來、

【講義】 蘇代の説に由り、秦、楚、韓相親む、是に於て韓の公子蟣虱は楚の寄寓を久しくし、竟に韓に歸るを得ず、韓は公子咎を立てゝ太子と爲す、是の年に齊、魏兩國の王は韓に來る、

十四年、與齊魏王共擊秦、至函谷而軍焉、十六年、秦與我河外及武遂、襄王卒、太子咎立、是爲釐王、

【講義】 襄王の十四年に、韓は齊、魏兩國と共に秦を擊ち、函谷關に至りて軍す、十六年に、秦は韓に河北の地及び武遂を與ふ、是の年に襄王卒す、太子咎立つ、是を釐王といふ、

【字解】 函谷、秦の東關なり、今の河南省陝州に屬す、河外、河北なり、武遂、今の直隸深州武强縣に屬す、

釐王三年、使公孫喜率周魏攻秦、秦敗我二十四萬、虜喜伊闕、五年、秦拔我宛、六年、與秦武遂

韓而後秦、先身而後張儀、公不如亟以國合於齊楚、齊楚必委國於公、公之所惡者張儀也、其實猶不無秦也、於是楚解雍氏圍、

【講義】公仲は之を聽き恐れて曰く、果して子の如くならば、何の計を以て之を處せんかと、昧曰く、公必らず韓を先にして秦を後にせよ、身を先にして張儀を後にせよ、其の計として、公は速に韓國を以て齊楚に合するに若かず、齊楚は必らず韓國を公の手に一任せん、顧ふに公の惡む所は張儀なり、齊楚に結べば張儀を排するを得ん、而も其の實際に於て猶秦の威情を失はず、此の難處を凌ぐを得べしと、公仲は之に從ふ、是に於て楚は雍氏の圍を解き去れり、

【字解】亟、疾くなり、無、失ふなり、此の雍氏の一段は、戰國策の文を參看すべし、秦齊楚等の數字に轉換有りて、意義の異るを認むるに足る、

蘇代又謂秦太后弟芈戎曰、公叔伯嬰恐秦楚之內蟣虱也、公何不爲韓求質於楚、楚王聽入質子於韓、則公叔伯嬰知秦楚之不以蟣虱爲事、必以韓合於秦楚、秦楚挾韓以窘魏、魏氏不敢合於齊、是齊孤也、公又爲秦求質子於楚、楚不聽、怨結於韓、韓挾齊魏以圍楚、楚必重公、公挾秦楚之重、以積德於韓、公叔伯嬰必以國待公、

【講義】蘇代は秦の太后の弟芈戎に謂ひ曰く、韓の公叔伯嬰は秦楚が韓の公子蟣虱を楚より韓に入らしめんとするを恐る、故に今に於て伯嬰を助くるを以

るなり、故に秦の爲めに計れば、秦は兵を出して魏を欺くに若かずと、秦王乃ち此の策を用ふ、魏は楚と大戰す、秦は此の隙に乘じ、西河の外を魏より略取して歸り去れり、今や其の狀は此の舊態に似たり、秦王は表面に於て韓を助くと言ふ、然れども、其の實は裏面に於て、楚に親しむのみ、

【字解】 入、一致するなり、與國、同盟國なり、到、欺くなり、

公待秦而到、必輕與楚戰、楚陰得秦之不用也、必易與公相支也、公戰而勝楚、遂與公乘楚、施三川而歸、公戰不勝楚、楚塞三川守之、公不能救也、竊爲公患之、司馬庚三反於郢、甘茂與昭魚遇於商於、其言收璽、實類有約也、

【講義】 公孫昧は更に韓の危急を論じて曰く、公は秦の援助を待ちて秦に欺かれ、必らず輕率に楚と戰はん、楚は陰に秦が韓を助けざることを知り、必らず公と相敵對することを易しとせん、是に於て楚韓の大戰と爲らん、公が楚に勝たば、秦は公と共に楚の疲弊に乘じて、之を制し、遂に韓の三川を開きて、秦の支配に歸せしめ凱旋せん、公が楚に勝たざる場合には、楚軍進みて韓の三川を塞ぎ、之を守らん、公は之を救ふ能はざらん、故に余は竊に公の爲めに之を憂慮す、頃者、秦の使司馬庚は三たび楚の首都なる郢に往復せり、秦の將軍甘茂は楚相昭魚と商於の地に面會せり、昭魚が功勞の賞として、秦より印章を獲んと言ひしは、實に秦と契約有るもの丶如し、

【字解】 到、欺くなり、用、韓の用なり、韓を助くること、施、施設するなり、秦の支配を行ふをいふ、三川、韓の要地なり、今の河南汝寧府に屬す、商於、秦の邑なり、今の陝西商州に屬す、其、昭魚なり、璽、印章なり、

公仲恐曰、然則奈何、曰、公必先

公に授けんと、公子咎は此の計に從ふ、

【字解】 韓咎、公子咎なり、方城、今の河南許州の西南に於ける山名なれども、楚の東北の境を概稱す、雍氏、今の河南開封府禹州に屬す、

楚圍雍氏、韓求救於秦、秦未爲發、使公孫昧入韓、公仲曰、子以秦爲且救韓乎、對曰、秦王之言曰、請道南鄭藍田、出兵於楚、以待公、殆不合矣、

【講義】 然れども、蘇代公子咎の計は成らずして、楚は兵を進め韓を伐ち、雍氏を圍む、韓は救を秦に求む、秦は未だ韓の爲に兵を發せず、先づ公孫昧をして韓に入らしむ、韓の宰相公仲は昧に謂ひ曰く、子は秦を視て韓を救ふものと思惟するかと、昧對へて曰く、秦王は請ふ南鄭、藍田を通過して兵を楚に出し、以て公を待たんと言へり、斯く秦兵が南方を迂廻して出づるときは、殆んど雍氏の軍に合はざらん、

【字解】 道、通過することなり、南鄭、今の陝西漢中府南鄭縣なり、藍田、今の陝西西安府藍田縣なり、

公仲曰、子以爲果乎、對曰、秦王必祖張儀之故智、楚威王攻梁也、張儀謂秦王曰、與楚攻魏、魏折而入於楚、韓固其與國也、是孤秦也、不如出兵以到之、魏楚大戰、秦取西河之外以歸、今其狀陽言與韓、其實陰善楚、

【講義】 公仲曰く、子は果して其の言の如くならんと思惟するかと、昧對へて曰く、余は斯くならんと思惟す、蓋し秦王は必らず張儀が前日畫策したる智謀を繼承するならん、楚の威王が梁を攻るに當り、張儀は秦王に謂ひ曰く、秦が楚と共に魏を攻むるときは、魏折れて楚に結合せん、韓は本來魏の同盟國なり、是に於て楚、魏、韓は一團と爲らん、是れ秦を孤立にす

取我武遂、十年、太子嬰朝秦而歸、十一年、秦伐我取穰、與秦伐楚、敗楚將唐昧、

【講義】襄王の四年に、襄王は秦の武王と臨晉に會す、其の年の秋秦は甘茂をして韓の宜陽を攻めしめ、五年に之を略取し、首六萬を斬る、是の年に、秦の武王卒す、六年に秦は韓に武遂を與ふ、九年に秦は復武遂を取る、十年に韓の太子嬰は秦に入朝して歸る、十一年に秦は韓を伐ち穰を取る、是の年に韓は秦と共に楚を伐ち、楚將唐昧を敗る、

【字解】臨晉、今の山西蒲州臨晉縣なり、宜陽、今の河南宜陽縣なり、武遂、今の直隷深州武强縣東北に在り、穰、今の河南南陽府鄧州の東南に在り、

十二年、太子嬰死、公子咎、公子蟣虱、爭爲太子、時蟣虱質於楚、蘇代謂韓咎曰、蟣虱亡在楚、楚王欲內之甚、今楚兵十餘萬在方城之外、公何不令楚王築萬室之都、雍氏之旁、韓必起兵以救之、公必將矣、公因以韓楚之兵、奉蟣虱而內之、其聽公必矣、必以楚韓封公也、韓咎從其計、

【講義】襄王の十二年に、韓の太子嬰死す、公子咎と公子蟣虱とは太子たるを爭ふ、此の時に蟣虱は質子と爲りて楚に在り、蘇代は公子咎に謂ひ曰く、蟣虱は亡げて楚に在り、楚王は之を韓に入らしめんとする意切なり、今や楚兵十餘萬は楚國北境の外に在り、公は何ぞ楚王をして萬家の都を韓の雍氏の傍に築かしめざるか、之を築くに至らば、韓は必らず兵を起して雍氏を救はん、此の軍に公は必らず將たらん、公は此に因り、韓楚の兵を以て蟣虱を奉じ、之を韓に入らしめよ、韓は公に聽くこと必定なり、公子蟣虱は此の恩德に感じ、韓は必らず楚、韓の兩地中に於て、封土を

韓王不聽、遂絕於秦、

【講義】公仲曰く、楚に聽くは不可なり、夫れ實力を以て韓を伐つものは秦なり、虛名を以て韓を救ふものは楚なり、大王は楚の虛名を恃みて、輕しく强秦に絕交して、之を敵とす、大王は必らず天下列國の大笑を速かん、且つ夫れ楚と韓とは、本來兄弟の國に非ず、更に秦を伐つことを謀るに於て、從來の契約有るに非ず、既に侵伐の形有るを視て、卽ち兵を發し韓を救ふと言ふ、此れ必らず陳軫の謀ならん、且つ大王は既に人をして講和を秦に通報せしめたり、今に至りて其の使節の行かざるは、是れ秦を欺くなり、夫れ輕卒に强秦を欺きて、楚の詭謀を信ずるは、不可なり、臣は大王の必らず後悔せんことを恐ると、然れども、韓王は之を聽かず、遂に秦に絕つ、

【字解】素約、本來相定め置きたる契約なり、

秦因大怒、益甲伐韓、大戰、楚救不至、韓十九年、大破我岸門、太子倉質於秦以和、二十一年、與秦共攻楚、敗楚將屈丐、斬首八萬於丹陽、是歲宣惠王卒、太子倉立、是爲襄王、

【講義】秦は之に因り大に怒り、兵を增し韓を伐つ、秦韓大に戰ふ、然れども楚の援兵は來らず、宣惠王の十九年に、秦兵は大に韓の岸門を破る、是に於て、韓は太子倉を秦に質子たらしめ、以て講和す、二十一年に韓は秦と共に楚を攻め、楚將屈丐を敗り、首八萬を丹陽に斬る、是の年に、宣惠王卒す、太子倉立つ、是を襄王とす、

【字解】岸門、韓の要地なり、今の河南許州に屬す、丹陽、今の江蘇鎭江府丹陽縣なり、

襄王四年、與秦武王會臨晉、其秋秦使甘茂攻我宜陽、五年秦拔我宜陽、斬首六萬、秦武王卒、六年、秦復與我武遂、九年、秦復

兵を利用して、楚國の患害を免るゝなりと、楚王は之を聽きて曰く、善し、

乃警四境之內、興師、言救韓、命戰車滿道路、發信臣、多其車、重其幣、

【講義】 楚王は乃ち陳軫の計に從ひ、四境の內に警告して、軍隊を用意せしめ、韓を救ふと宣言し、戰車に命じ、道路に滿ちて列せしめ、信任したる重臣を韓に派遣して、其の車を多くし、其の贈り物を丁寧にしたり、

謂韓王曰、不穀國雖小、已悉發之矣、願大國遂肆志於秦、不穀將以楚徇韓、韓王聞之大說、乃止公仲之行、

【講義】 是に於て、楚は韓王に謂ひ曰く、余は國小なりと雖も、既に悉く其の兵を發したり、願くは大王憚る所無く、秦に對して雄志を恣にせよ、余は楚國を以て韓の爲めに殉死することを期すと、韓王は之を聞きて大に悅び、乃ち公仲を止めて秦に往かしめず、

【字解】 不穀、諸侯が自ら稱する謙語なり、肆、恣なり、徇、殉なり、從ひ死すること、

公仲曰、不可、夫以實伐我者、秦也、以虛名救我者、楚也、王恃楚之虛名、而輕絕彊秦之敵、王必爲天下大笑、且楚、韓非兄弟之國也、又非素約而謀伐秦也、已有伐形、因發兵言救韓、此必陳軫之謀也、且王已使人報於秦矣、今不行是欺秦也、夫輕欺彊秦、而信楚之謀臣、恐王必悔之、

馬を用意し、秦韓兩國は兵を幷せ楚を伐たんとす、是れ秦が禱り祀りて求めたる所なり、今や既に之を得たり、楚國は必らず伐たれん、

王聽臣、爲之警四境之內、起師言救韓、命戰車、滿道路、發信臣、多其車、重其幣、使信王之救己也、縱韓不能聽我、韓必德王也、必不爲鴈行以來、是秦韓不和也、兵雖至、楚不大病也、

【講義】 陳軫は尙其の說を進めて曰く、是の故に大王は宜しく臣の計を用ふべし、其の計は他に非ず、大王は此の秦韓の兵を制するが爲めに、楚の四境の內に警告して、軍隊を用意せしめ、韓を救ふと宣言し、戰車に命じ、道路に滿ちて列せしめ、信任したる重臣を韓に派遣して、其の車を多くし、其の贈り物を丁寧にし、以て大王が韓を救ふことを信賴せしめよ、斯くすれば萬一韓が楚に聽從すること能はざるも、韓は必らず大王を恩惠有るものとして喜ばん、必らず秦と相伴ひ楚を伐つことを爲さざらん、是れ秦、韓相和せざるなり、相和せざる兵は來侵すとも、楚は大患無し、

【字解】 幣、贈り物なり、縱、若しもなり、鴈行、相伴ひ隨ふなり、

爲能聽我、絕和於秦、秦必大怒、以厚怨韓、韓之南交楚、必輕秦、輕秦其應秦、必不敬、是因秦韓之兵、而免楚國之患也、楚王曰善、

【講義】 陳軫は更に其の計の利を推論して曰く、韓が楚の使命を信じて、爲めに能く楚に聽從し、和を絕たば、秦必らず大に怒り、以て厚く韓を怨まん、蓋し韓は南の楚に交るに於て、必らず西の秦を輕視せん、秦を輕視するに於て不敬なるに至らん、是れ秦、韓の

將鯫及び申差を捕へ獲たり、韓國危急なり、

【字解】區鼠、オウソと讀む、當時韓、趙の界に在り、今の山西路安府に屬す、鄢、當時韓の領地なり、今の河南開封府鄢陵縣なり、脩魚、濁澤、並に韓に屬す、兩地ともに、今の河南許州に在り、鯫、申差、兩人の名なり、鯫は韓鯫なり、

公仲謂韓王曰、與國非可恃也、今秦之欲伐楚久矣、王不如因張儀爲和於秦、賂以一名都、具甲、與之南伐楚、此以一易二之計也、韓王曰、善、乃警公仲之行、將西購於秦、

【講義】韓の宰相公仲は韓王に謂ひ曰く、現在の同盟國は、我の危急を觀るも來援せず、是れ恃むべきに非ず、今や秦は楚を伐たんと欲すること久し、故に大王は張儀に因り和親を秦に結ぶに若かず、秦に賂ふに一の名都を以てし、兵馬を用意し、秦と共に南征して楚を攻むることを必要とす、此は一利を捨て兩益を取る計なりと、韓王は此の言を嘉納し、乃ち公仲の特派を命じ、之を西行せしめ、秦に講和せんとす、

【字解】與國、同盟國なり、趙、魏を指して云ふ、甲、鎧なり、兵隊を稱す、一、秦に名都を贈ること、二、秦の韓を攻むるを止むること、及び楚を伐ち地を取ること、警、用意するなり、出立の仕度を意味す、購、講なり、

楚王聞之大恐、召陳軫告之、陳軫曰、秦之欲伐楚久矣、今又得韓之名都一、而具甲、秦韓并兵而伐楚、此秦所禱祀而求也、今已得之矣、楚國必伐矣、

【講義】楚王は韓の計を聞きて大に恐れ、陳軫を召して之を告ぐ、陳軫曰く、秦は楚を伐たんと欲すること久し、今や更に韓の名都一を得たり、而して韓は兵

昭侯不出此門、何也、不時、吾所謂時者、非時日也、人固有利不利時、昭侯嘗利矣、不作高門、往年秦拔宜陽、今年旱、昭侯不以此時卹民之急、而顧益奢、此謂時絀擧贏、二十六年、高門成、昭侯卒、果不出此門、子宣惠王立、

【講義】昭侯の二十五年に、旱害有り、然れども昭侯は高門を造る、此の時に楚の大夫屈宜臼は魏に在り、之を聞きて曰く、昭侯は此の門を出でずと、或者は問ひ曰く、何の故ぞやと、屈宜臼曰く、時に適はざるなり、蓋し吾の謂はゆる時とは、時日を稱するに非ず、人は固に利なる時有り、利ならざる時有り、昭侯は嘗て利を獲たり、其の時に當りて高門を造らず、今や韓は禍多し、前年には秦より侵されて宜陽を奪はれ、本年は旱害に遭ふ、然るに昭侯は此の時を以て、民の危急を賑恤せず、却て自ら奢侈を增す、此を時衰へて行驕ると謂ふ、豈に無事に此の門を出づるを得んやと、二十六年に高門成る、而して昭侯卒す、竟に此の門より出でず、屈宜臼の言の如し、子宣惠王立つ、

【字解】宜陽、上文に在り、卹、恤むなり、顧、却てなり、絀、屈み縮みて衰ふるなり、擧、行爲なり、贏、贏に通ず、餘るなり、奢りて驕るなり、果、豫定したる如く、其の事の現はれたるをいふ、

宣惠王五年、張儀相秦、八年、魏敗我將韓擧、十一年、君號爲王、與趙會區鼠、十四年、秦伐敗我鄢、十六年、秦敗我脩魚、虜得韓將鰒、申差於濁澤、韓氏急、

【講義】宣惠王の五年に、張儀は秦に宰相たり、八年に魏は韓の將軍韓擧を敗る、十一年に韓國の君は、號して王と爲り、趙と區鼠に會す、十四年に秦は伐ちて韓軍を鄢に敗る、十六年に秦は韓軍を脩魚に敗り、韓

魏惠王會宅陽、九年、魏敗我澮、十二年、懿侯卒、子昭侯立、

【講義】韓の懿侯二年に、魏は韓を馬陵に敗る、五年に魏の惠王と宅陽に會す、九年に魏は韓を澮に敗る、十二年に懿侯卒す、子昭侯立つ、

【字解】馬陵、魏の地なり、今の直隷大名府元城縣の東南に在り、宅陽、今の河南開封府に屬す、澮、韓の地なり、今の河南平陽府に屬す、

昭侯元年、秦敗我西山、二年、宋取我黃池、魏取宋、六年、伐東周、取陵觀邢丘、

【講義】韓の昭侯元年に、秦は韓の西山を敗る、二年に宋は韓の黃池を取る、魏は宋を取る、六年に韓は東周を伐ちて、陵觀及び邢丘を取る、

【字解】西山、韓の地なり、今の山西平陽府に屬す、黃池、黃溝とも稱す、今の河南杞縣の西に在り、考城縣に近し、陵觀、邢丘、兩邑の名なり、共に今の河南懷慶府に屬す、

八年、申不害相韓、脩術行道、國內以治、諸侯不來侵伐、十年、韓姬弑其君悼公、十一年、昭侯如秦、二十二年、申不害死、二十四年、秦來、拔我宜陽、

【講義】韓の昭侯八年に、申不害は韓に宰相たり、法術を修め、政道を行ふ、韓國は是に由りて治り、諸侯の來り侵すもの無し、十年に韓姬は其の君なる悼公を弑す、十一年に昭侯は秦に赴く、二十二年に申不害死す、二十四年に秦軍來侵して、韓の宜陽を取る、

【字解】申不害、列傳に詳なり、韓姬、悼公、韓姬は韓の大夫なりといふ、悼公は何の君なるかを知らず、蓋し韓史は殘缺して、世系詳ならざればなり、宜陽、上文に解せり、

二十五年旱、作高門、屈宜臼曰、

の領邑なり、陽翟、今の河南開封府禹州なり、取、列侯の名なり、

列侯三年、聶政殺韓相俠累、九年、秦伐我宜陽、取六邑、十三年、列侯卒、子文侯立、是歳、魏文侯卒、

【講義】韓の列侯の三年に、聶政は韓の宰相俠累を殺す、九年に秦は韓の宜陽を伐ち、六縣を取る、十三年に列侯卒す、子文侯立つ、是の年に魏の文侯卒す、

【字解】聶政、本書の刺客傳に詳なり、宜陽、今の河南宜陽縣なり、

文侯二年、伐鄭取陽城、伐宋到彭城、執宋君、七年、伐齊、至桑丘、鄭反晉、九年、伐齊、至靈丘、十年、文侯卒、子哀侯立、

【講義】韓の文侯二年に、韓は鄭を伐ちて陽城を取り、宋を伐ちて彭城に到る、遂に宋君を執ふ、七年に韓は齊を伐ちて、桑丘に至る、鄭は晉に背く、九年に韓は齊を伐ちて、靈丘に至る、十年に文侯卒す、子哀公立つ、

【字解】陽城、今の河南汝寧府に屬す、彭城、今の江蘇徐州府銅山縣なり、桑丘、靈丘に近き地なり、靈丘、今の山西大同府靈丘縣なり、此の時には燕の領地なり、

哀侯元年、與趙魏分晉國、二年、滅鄭、因徙都鄭、六年、韓嚴弑其君哀侯、而子懿侯立、

【講義】韓の哀侯元年に、趙魏と共に晉國を分ち取る、二年に鄭を滅す、因て徙り鄭に都す、六年に韓嚴は其の君なる哀侯を弑す、哀侯の子懿侯立つ、

【字解】鄭、今の河南開封府新鄭縣なり、

懿侯二年、魏敗我馬陵、五年、與

中行氏、宣子卒、子貞子代立、

【講義】晉の頃公の十二年に、韓宣子は趙魏兩家と共謀して、祁氏及び羊舌氏の所領なる十縣を分ち取る、晉の定公の十五年に、宣子は趙簡子と共に范、中行兩氏を侵し伐つ、宣子卒し、子貞子は代り立つ、

貞子徙居平陽、貞子卒、子簡子代、簡子卒、子莊子代、莊子卒、子康子代、康子與趙襄子魏桓子、共敗知伯、分其地、地益大、大於諸侯、

【講義】韓貞子は州より徙りて平陽に居る、貞子卒し、子簡子代り立つ、簡子卒し、子莊子代り立つ、莊子卒し、子康子立つ、康子は趙襄子趙桓子と共に知伯を敗り、其地を分ち取る、是に於て、韓氏の領地は、益、大なり、諸侯よりも廣大と爲る、

【字解】平陽、今の山西平陽府に屬す、

康子卒、子武子代、武子二年、伐鄭、殺其君幽公、十六年、武子卒、子景侯立、

【講義】韓康子卒す、子武子代り立つ、武子二年に、鄭を伐ち、其の君幽公を殺す、十六年に、武子卒す、子景侯立つ、

景侯虔元年、伐鄭取雍丘、二年、鄭敗我負黍、六年、與趙魏倶得列爲諸侯、九年、鄭圍我陽翟、景侯卒、子列侯取立、

【講義】韓の景侯虔元年に、鄭を伐ち雍丘を取る、二年に鄭は韓を侵し、負黍を敗る、六年に、韓は趙魏と共に列して、諸侯と爲るを得たり、九年に、鄭は韓の陽翟を圍む、景侯卒す、子列侯取立つ、

【字解】雍丘、今の河南開封府杞縣なり、虔、ケンと讀む、景侯の名なり、負黍、今の河南開封府に屬す、韓

一卿の位に列し、號して獻子と曰ふ、
【講義】八百乘、車兵八萬なり、鞍、今の山東泰安府平陰縣に屬す、

晉景公十七年病、卜、大業之不遂者爲祟、韓厥稱趙成季之功、今後無祀、以感景公、景公問曰、尙有世乎、厥於是言趙武、而復與故趙氏田邑、續趙氏祀、

【講義】晉の景公の十七年に、景公は病有り、之を龜卜に問ふ、其の兆に曰く、堯帝の功臣大業といふものの子孫にして、未だ其の褒賞を遂げざるものが、祟を爲すと、是に於て、韓厥は稱す、趙衰は、堯帝の功臣大業の子孫にして、晉に大功有り、今や其の後裔は祭祀を絕つと、以て景公を感動せしむ、景公は問ひ曰く、趙は子孫の尙存するもの有るかと、韓厥は乃ち趙武を言上し、復た趙氏に舊領の田邑を與へ、趙の祭祀を續がしめたり、

【字解】趙成季、趙衰なり、世、子孫なり、大業、人名なり、趙の祖なり、

晉悼公之十年、韓獻子老、獻子卒、子宣子代、宣子徙居州、晉平公十四年、吳季札使晉曰、晉國之政、卒歸於韓魏趙矣、

【講義】晉の悼公の十年に、韓獻子は退職す、獻子卒し、子宣子は代り立つ、宣子は韓原より徙りて州に居る、晉の平公の十四年に、吳の季札は公使として晉に赴き、評して曰く、晉國の政は竟に韓、魏、趙の三家に歸せんと、

【字解】老、隱居するなり、州、晉の邑なり、今の河南懷慶府河內縣の東南に在り、

晉頃公十二年、韓宣子與趙魏共分祁氏羊舌氏十縣、晉定公十五年、宣子與趙簡子侵伐范、

とするに至る、

【講義】 苗裔、子孫なり、韓原、晉の地なり、今の山西平陽府に屬す、

韓厥、晉景公之三年、晉司寇屠岸賈將作亂、誅靈公之賊趙盾、趙盾已死矣、欲誅其子趙朔、韓厥止賈、賈不聽、厥告趙朔、令亡、朔曰、子必能不絕趙祀、死不恨矣、韓厥許之、

【講義】 晉の景公の三年に、晉の司寇屠岸賈は、叛亂を謀り、曩に晉の靈公を弑したる賊徒の趙盾を誅せんとす、是より先に趙盾は死せり、屠岸賈は乃ち盾の子なる朔を誅せんと欲す、韓厥は賈を止む、然れども賈は之を聽かず、是に於て、厥は之を朔に告げて逃亡せしめんとす、朔曰く、子は必らず能く趙の祭祀を絕たざることに盡力せん、吾は死すとも恨まずと、厥は之を承諾す、

【字解】 司寇、司法の長官なり、

及賈誅趙氏、厥稱疾不出、程嬰、公孫杵臼之藏趙孤趙武也、厥知之、

【講義】 既にして、屠岸賈は趙氏を誅滅す、韓厥は病と稱して出でず、程嬰と公孫杵臼とが相謀りて、趙氏の遺孤なる趙武を匿し養ふに當り、韓厥は獨り之を知り居たり、

景公十一年、厥與郤克、將兵八百乘伐齊、敗齊頃公于鞍、獲逢丑父、於是晉作六卿、而韓厥在一卿之位、號爲獻子、

【講義】 晉の景公の十一年に、韓厥は郤克と共に兵八萬を率ゐて齊を伐ち、齊の頃公を鞍に敗り、逢丑父を捕へ獲たり、是に於て晉は六卿を置き、韓厥は其の

【字解】朝歌、野王、衞の世家を視るべし、汲、前節に在り、垣、蒲陽、衍、皆大梁に近き縣城なり、

太史公曰、吾適故大梁之墟、墟中人曰、秦之破梁、引河溝而灌大梁、三月城壞、王請降、遂滅魏、說者皆曰、魏以不用信陵君故國削弱至於亡、余以爲不然、天方令秦平海內、其業未成、魏雖得阿衡之佐、曷益乎、

【講義】太史公曰く、余は故の魏の首都なる大梁の城墟に遊びし時に、墟中の住人は云へり、秦の大梁を破るや河溝を引きて、其の水を大梁に灌ぐこと三月に及び、城壞れ、王は請ひて降虜と爲り、秦は遂に魏を滅せりと、此の魏の末路に就きて、說者は皆曰く、魏は信陵君を用ひざりしを以ての故に、國は削られて弱く爲り、遂に滅亡に至れりと、然れども余は此の說に贊せず、魏の滅亡は天命なりと思惟す、蓋し天は方に秦をして海內を平定せしむ、其業未だ成らず、魏は賢相の輔佐を得と雖も、何ぞ其の滅亡を救ふに益するを得んや、

【字解】阿衡、殷の賢相たりし伊尹の官名なり、曷、何なり、

韓世家第十五

韓之先與周同姓、姓姬氏、其後苗裔事晉、得封於韓原、曰韓武子、武子後三世、有韓厥、從封姓爲韓氏、

【講義】韓國の先祖は、周の天子と同姓なり、姬氏を姓とす、其の後の遠孫は、晉國に事へて領地を韓原に得たり、之を韓武子と曰ふ、韓武子より後三世にして、韓厥と曰ふもの有り、其の領地に從ひ、韓氏を姓

んと欲す、或る人は增の爲めに秦王に說きて曰く、增を囚ふるは魏の策に陷るなり、公孫喜は固より魏の宰相に告げて云へり、請ふ魏を以て疾く秦を擊てよ、秦王必らず怒りて增を囚へん、魏王も怒りて秦を擊たん、秦必らず傷害せられんと、今や大王は魏の太子增を囚へんとす、是れ公孫喜の計略が成功するなり、故に增を囚ふるは增を貴くするに如かず、增を貴く待遇して魏を和せしめ、以て魏の內情を齊、韓に疑はしむべしと、秦王は因て增を囚ふることを止めたり、

三十一年、秦王政初立、三十四年、安釐王卒、太子增立、是爲景湣王、信陵君無忌卒、

【講義】 安釐王の三十一年に、秦王政は始めて立つ、三十四年に安釐王卒す、太子增立つ、是を景湣王と爲す、此の年に信陵君無忌卒す、

【字解】 無忌、信陵君の本傳を參看すべし、

景湣王元年、秦拔我二十城、以爲秦東郡、二年、秦拔我朝歌、衞徙野王、三年、秦拔我汲、五年、秦拔我垣、蒲陽、衍、十五年、景湣王卒、子王假立、王假元年、燕太子丹使荊軻刺秦王、秦王覺之、三年、秦灌大梁、虜王假、遂滅魏、以爲郡縣、

【講義】 景湣王の元年に、秦は魏の二十城を拔き、之を秦の東郡と爲す、二年に秦は魏の朝歌を拔く、衞は濮陽を歷て、野王縣に徙る、三年に秦は魏の汲を拔く五年に秦は魏の垣、蒲陽及び衍を拔く、十五年に景湣王卒す、子王假立つ、王假の元年に、燕の太子丹は荊軻をして秦王を刺さしむ、秦王はこれを覺り、軻を誅す、三年に秦は水を引きて魏の大梁を攻め、王假を虜にし、遂に魏を滅し、之を秦の郡縣と爲す、

大破、衞齊甚畏、天下西鄉而馳秦、入朝而爲臣、不久矣、

【講義】無忌は天下の大勢を推斷して本論を結び曰く、今や韓を保存せざれば、東西兩周及び安陵の地は必らず危し、楚趙は大に破れ、衞齊は甚だ畏れ、天下の列國は西向して秦に馳せ入朝して秦の臣と爲ること近し、

【字解】鄉、向なり、信陵君の此の雄論卓説は、其の文字の異同を戰國策と對照して視るべし、

二十年、秦圍邯鄲、信陵君無忌矯奪將軍晉鄙兵、以救趙、趙得全、無忌因留趙、二十六年、秦昭王卒、三十年無忌歸魏、率五國兵攻秦、敗之河內、走蒙驁、

【講義】安釐王の二十年に、秦は趙の首都なる邯鄲を圍む、信陵君無忌は王の命令を矯げて、魏の將軍晉鄙の兵を奪ひ、以て趙を救ひ、趙は全きを得たり、無忌は因て趙に滯留す、二十六年に、秦の昭王卒す、三十年に、無忌は魏に歸り、魏、趙、韓、齊、楚五國の兵を率ゐて秦を攻め、之を河內に敗り、秦の將軍蒙驁を走らしたり、

【字解】矯、詐るなり、此の一節は信陵君の本傳に詳なり、

魏太子增質於秦、秦怒欲囚魏太子增、或爲增謂秦王曰、公孫喜固謂魏相曰、請以魏疾擊秦、秦王怒、必囚增、魏王又怒擊秦、秦必傷、今王囚增、是喜之計中也、故不若貴增而合魏、以疑之於齊韓、秦乃止增、

【講義】是の時に當り、魏の太子增は秦に在りて質子たり、秦は魏が秦軍を破りしを怒り、太子增を囚へ

韓、而又與彊秦鄰之禍也、夫存韓安魏、而利天下、此亦王之天時已、

【講義】無忌は益、進み合從の利を擧げて曰く、前陳の次第なるを以て、臣は合從を以て大王に事へんことを願ふ、大王は速に楚趙の約を受けよ、趙は既に韓の質子を挾み有す、故に趙、魏相結びて韓を保存する條件に由り、魏の舊領地を韓に請求せば、韓は必らず之を返還せん、此れ魏の士民が勞せずして舊領地を得るなり、其の功は秦と共に韓を伐つよりも多し、更に强秦と相隣接することの禍よりも利なり、夫れ韓を保存し、魏を安定し、以て天下を利す、此れ亦大王が天與の好時機を得たるものなり、

【字解】從、合從同盟なり、效、上納するなり、多、勝るなり、

通韓上黨於共甯、使道安成出入賦之、是魏重質韓以其上黨也、今有其賦、足以富國、韓必德魏、愛魏、重魏、畏魏、韓必不敢反魏、是韓則魏之縣也、魏得韓以爲縣、衞大梁河外必安矣、

【講義】無忌は終に韓を制する方略を說きて曰く、魏、韓相親みたる時に、魏は韓の上黨を魏の共、甯兩邑に通ぜしめ、其の路筋は魏の安成を經て、兩國相往來せしむ、其の出入のものには通行税を賦課せしむ、斯の如くすれば、魏は質子を取りたる上に、重ねて上黨を韓より抵當とせしむるものなり、韓は今や魏と共に此の兩國通路の税を有するを以て、其の國を富饒にするに足る、故に韓は必らず魏を德とし、魏を愛し、魏を重んじ、魏を畏れん、是に於て韓は必らず敢て魏に背かず、是れ韓は魏の領する縣邑と爲るなり、斯の如く魏は韓を得て縣邑と爲せば、衞も大梁も河北も皆必らず安全と爲る、

今不存韓、二周安陵必危、楚趙

に境を有する時に於て、而も秦禍の迫り至ること是の如し、何ぞ況んや秦境が魏に接近したる日に於てをや、若しも韓が鄭の地を有すること無く、秦が直に魏に接し巨水高山が秦を阻つること無く、周、韓兩國が秦を隔つること無く、秦境が魏の大梁を距る百里なるに至らば、秦禍の迫り及ぶこと、必らず此の理に由りて増加せん、

【字解】 闌、阻隔すること、閒、遮斷なり、囿、遊苑なり、國都の城中を指す、文臺、魏の臺名なり、墮、隳なり、垂都、魏の名邑なり、陶、山東の定陶なり、平監、山東省東平州の監亭なり、山南、山北、華山の南北なり、

異日者、從之不成也、楚魏疑而而不可得也、今韓受兵三年、秦撓之以講、識亡不聽、投質於趙、請爲天下鴈行頓刃、楚趙必集兵、皆識秦之欲無窮也、非盡亡天下之國而臣海內、必不休矣、

【講義】 無忌は遂に合從の必要を述べて曰く、前年山東諸國の合從同盟が成立せざりしは、楚魏兩國が相疑ひ韓が合從するを得ざりしを以てなり、今や韓は秦兵を受くる三年なり、秦は韓を撓すに講和を以てし、其の士氣を挫折せしめんとす、然るに韓は其の滅亡を識るも秦に聽かず、質子を趙に納れ、天下の爲めに竝び行きて、刄を折るまで秦に抗戰せんとす、楚、趙も必らず兵を集めて韓に與せん、蓋し是等諸國は皆秦の慾望が無窮なるを知ればなり、秦は天下の國を滅し盡し、海內を總て之を臣下に服從せしむるに非れば、必らず休息せざるなり、

【字解】 撓、攪すなり、鴈行、順序を逐ひて進み行くなり、他の者と共に進むをいふ、頓、鈍し折るなり、使用することの甚しきをいふ、

是故、臣願以從事王、王速受楚趙之約、趙挾韓之質、以存韓、而求故地、韓必效之、此士民不勞、而故地得、其功多於與秦共伐、

東向し許國に臨まば、南方の諸國は必らず危からん、是れ直接に於て魏國に害無きのみ、竟に魏を害すること恐るべし、夫れ魏が韓を惜みて、此の韓に通ずる安陵の領主を愛せざるは可なり、然れども魏が秦の南方諸國を愛せざるを視て、之を憂慮せざるは不可なり、秦が南方の諸國を威壓するは、是れ終に北方の魏國を迫害する所以なり、

【字解】 過、過失なり、武陽、舞陽なり、

異日者秦在河西、晉國去梁千里、有河山以闌之、有周韓以閒之、從林鄕軍以至于今、秦七攻魏、五入囿中、邊城盡拔、文臺墮、垂都焚、林木伐、麋鹿盡、而國繼以圍、又長驅梁北、東至陶衞之郊、北至平監、所亡於秦者、山南山北、河外河內、大縣數十、名都數百、秦乃在河西、晉去梁千里、而禍若是矣、又況於使秦無韓有鄭地、無河山而闌之、無周韓而閒之、去大梁百里、禍必由此矣、

【講義】 無忌は更に秦禍の迫るを證して曰く、昔時秦は河西に在り、晉國は廣大にして、大梁の地を距る千里の外に邊境を有し、巨水高山有りて秦を阻て、周韓兩國有りて秦を隔てたり、然れども秦が晉の林鄕を攻めてより今に至るまで、秦は七たび魏を伐ち、五たび魏の國都を犯し、邊城は盡く拔け、文臺は墮れ、垂都は焚け、林木は伐られ、麋鹿は盡き、魏の國都は遂に圍まれたり、秦は更に長驅して、大梁の北を過ぎ、東に進みて陶衞の郊に至り、北に轉じて平監に達す、是に於て魏が秦に由り失ふ所は、山南、山北、河外、河內の地に於て、大縣數十より名都數百に至れり、夫れ秦は河西に在り、晉國は大梁を距る千里の外

なり、

【字解】絶、通過するなり、上黨、韓の要地なり、閼與、趙の要塞なり、倍、背後にするなり、通り越して進み行くこと、渉山谷、秦の軍が西方より楚に入る道筋なり、渉山、渉谷なり、

夫韓亡之後、兵出之日、非魏無攻已、秦固有懷茅、邢丘、城垝津、以臨河內、河內、共汲必危、有鄭地、得垣雍、決熒澤、水灌大梁、大梁必亡、

【講義】無忌は遂に秦兵至るを斷言して曰く、前述の如く秦は楚、趙、齊、衞を攻めず、故に韓の亡びたる後に、秦兵の出づる日は、魏を除きて攻むる所無し、而して其の魏を攻むる方畧は如何、蓋し秦は固より懷茅、邢丘の兩城有り、更に垝津に築城し、以て魏の河內に臨み之を窺はん、斯くなれば河內の共、汲兩縣は必らず危し、秦は鄭の地を領し、垣雍を得て、熒澤の水を決し流して、之を魏の首都なる大梁に灌がん、斯くなれば大梁は必らず亡びん、

王之使者出、過而惡安陵氏於秦、秦之欲誅之久矣、秦葉陽、昆陽與武陽鄰、聽使者之惡之、隨安陵氏而亡之、繞舞陽之北、以東臨許、南國必危、國無害已、夫憎韓不愛安陵氏可也、夫不患秦之不愛南國非也、

【講義】無忌は更に魏の非計を戒めて曰く、大王の使者出づるときに、秦に到りて魏の附屬なる安陵の領主を惡く言ふ、秦は固より安陵の領主を誅せんと欲すること久し、蓋し秦の領地なる葉陽、昆陽の兩縣は、魏の武陽と隣接す、故に秦は魏の使者が安陵を誹るを聽き、因て安陵を滅するに隨ひ、其の勢に乘じて武陽を亡さん、斯くして秦兵は武陽の北を繞り、以て

針に就かん、利を取るに易き方針に就くときは、必らず楚趙を伐たず、

【字解】 弱、幼なり、更、更なり、更事は改めて新事件を生ずるなり、

是何也、夫越山、踰河、絶韓上黨而攻彊趙、是復閼與之事、秦必不爲也、若道河內、倍鄴朝歌、絕漳滏水、與趙兵決於邯鄲之郊、是知伯之禍也、秦又不敢伐楚、道涉山谷、行三千里、而攻冥阨之塞、所行甚遠、所攻甚難、秦又不爲也、若道河外、倍大梁、右蔡、左召陵、與楚兵決於陳郊、秦又不敢、故曰、秦必不伐楚與趙矣、又不攻衞與齊矣、

【講義】 無忌は秦の方針を推論して曰く、秦は楚趙を伐たずといふ、其の故は何ぞや、夫れ山を越え河を踰え、韓の上黨を通過して强趙を攻む、是れ復閼與に於ける前年の敗跡を踏むのみ、秦は必らず此を爲さず、或は河內を通過し、鄴、朝歌の兩名城を背にし、漳水、滏水を渡り、邯鄲の郊に於て、趙兵と決戰す、是れ知伯の滅亡したる禍なり、秦は必らず此を爲さず、故に其の趙を伐たざるを知るべし、更に楚に就きて察するも、秦は必らず敢て楚を伐たず、夫れ涉山の谷間を通過し、行く三千里にして、冥阨の要塞を攻む、其の行く甚だ遠し、其の攻むる甚だ難し、故に此の西方より楚を攻むることは、秦に取りて不便なり、秦は必らず此を爲さず、若しも東方より進みて、河北を通過し、大梁を背にし、蔡を右にし、召陵を左にし、陳國の郊に於て、楚兵と決戰せんか、是れ秦に取りて更に危し、秦は必らず此を敢てせず、故に曰く、秦は楚趙を伐たずと、更に齊衞に就きて視るも、此れ皆韓、趙、魏より東に在り、秦が齊、衞兩國を攻めざること明か

ども、竟に逐ひ斥けられたり、秦王の兩弟は罪無きも、再び其の領地を奪はれたり、此れ父母兄弟に就ても此の如し、而るを況んや仇讎の國に於てをや、秦の魏に對する殘忍の暴戾は、以て測り知るを得べし、

【字解】翟、狄なり、親戚、父母なり、莫大焉、此れよりも大なる無しと訓ず、尤も大なりといふに同じ、

今王與秦共伐韓、而益近秦患、臣甚惑之、而王不識則不明、群臣莫以聞則不忠、

【講義】無忌は猶其の説を進めて曰く、然るに、今や大王は、此の殘忍暴戾なる秦と共に韓を伐ちて、益秦の患害を魏に近づけんとす、臣は甚だ之に惑ふ、而も大王が之を識らざれば不明なり、群臣が之を奏上する無ければ不忠なり、

【字解】莫、無なり、聞、秦上するなり、

今韓氏以一女子、奉一弱主、內有大亂、外交彊秦魏之兵、王以爲不亡乎、韓亡、秦有鄭地、與大梁鄰、王以爲安乎、王欲得故地、今負彊秦之親、王以爲利乎、秦非無事之國也、韓亡之後、必將更事、更事必就易與利、就易與利、必不伐楚與趙矣、

【講義】無忌は其の危害を述べて曰く、今や韓國は一個の婦人を以て、一個の幼主を奉じ、內に大亂有り、外に秦魏の雄兵と對戰す、大王は韓を以て亡びずと思惟するか、韓は必ず滅亡せん、其の滅亡の後には魏危し、何となれば秦は既に鄭の地を有し、魏の大梁と隣接すればなり、大王は此を以て安全と思惟するか、大王は舊領の地を得んと欲して、今や强暴の秦に就き其の親交を恃む、是れ恃むべからざるを恃むなり、大王は此を以て利と思惟するか、秦は無事の國に非ず、韓の亡びたる後に於て、秦は必らず更に事を作さん、其の事を作すには、必らず利を取るに易き方

之、有如彊秦亦將襲趙之欲、則君且奈何、信陵君言於王而出之、

【講義】 范痤は乃ち信陵君に上書して曰く、痤は本來魏の免官したる宰相なり、趙は地を獻じて痤を殺すことを求む、魏王は之を承諾したり、若しも強秦にして亦趙の慾望を繼承し信陵君を殺すことを求むる有らば、君は之を奈何せんとするかと、信陵君は之を魏王に言ひ、遂に范痤を釋し出したり、

【字解】 如、若しもなり、襲、繼ぎ承くるなり、

魏王以秦救之故、欲親秦而伐韓、以求故地、

【講義】 魏王は秦の援兵を得たる故を以て、秦に親交せんと欲し、韓を伐たんと欲し、斯くして舊領の地を求めんと欲す、

無忌謂魏王曰、秦與戎翟同俗、有虎狼之心、貪戾好利、無信、不識禮義德行、苟有利焉、不顧親戚兄弟、若禽獸耳、此天下之所識也、非有所施厚積德也、故太后母也、而以憂死、穰侯舅也、功莫大焉、而竟逐之、兩弟無罪、而再奪之國、此於親戚若此、而況於仇讐之國乎、

【講義】 信陵君無忌は秦に親交することの危險を恐れ、魏王に謂ひ曰く、秦は戎狄と風俗を同くし、虎狼の心有り、貪慾にして背戾なり、利を好みて信無し、禮義を知らず、德行を識らず、苟くも利有るを見れば、父母兄弟を顧みず其の行爲は禽獸の如きのみ、此れ天下の識る所なり、蓋し秦は厚きを施すに非ず、德を積むに非ず、故に太后は秦王の母なれども、憂を以て死し、穰侯は秦王の舅にして、功勞の大なる人なれ

や、秦の强大なる魏の交親國と爲るに足るを以てなり、今や齊楚の兵は、既に魏都の近郊に逼り合ふ、然るに秦の援兵は未だ發せず、蓋し亦魏の未だ危急ならざるに賴らんとするなり、若しも魏をして甚だ危急ならしめんか、魏は其の領地を割讓して、齊楚と合從を約せんとす、大王は竟に何をか救はん、必らず魏の危急を待ちて之を救ふ、是れ一東藩の魏を失ひて、二敵の齊楚を强くするのみ、斯の如くなれば、大王は何の利する所か有らん、

【字解】與、與國なり、交親の國を稱す、太、過度なり、且、將なり、從、合從の同盟なり、

於是、秦昭王遽爲發兵救魏、魏氏復定、

【講義】是に於て、秦の昭王は俄に魏の爲めに兵を發し之を救ふ、魏氏は因て復其の國を保つを得たり、

趙使人謂魏王曰、爲我殺范痤、吾請獻七十里之地、魏王曰、諾、使吏捕之、圍而未殺、痤因上屋騎危、謂使者曰、與其以死痤市、不如以生痤市、有如痤死趙不予王地、則王將奈何、故不若與先有割地、然後殺痤、魏王曰善、

【講義】趙は人をして魏王に謂はしめ曰く、我の爲めに范痤を殺せ、吾は七十里の地を獻ぜんと、魏王曰く諾と、乃ち吏をして痤を捕へしむ、之を圍みて未だ殺さず、痤は因て屋に上り危棟に跨り、使者に謂ひ曰く、其の死痤を以て賣るに比すれば、生痤を以て賣るに如かず、若しも痤の死したる後に、趙が王に地を與へざる有らば、王は之を奈何せんとする、故に趙と先づ談じて割地を定め、然る後に痤を殺すに如かずと、魏王曰く善し、

【字解】危、高き棟なり、與、ヨリと訓ず、比ぶることなり、市、賣るなり、

痤因上書信陵君曰、痤故魏之免相也、趙以地殺痤、而魏王聽

と、魏王は再拜して、遂に車を整へ之を派遣す、唐雎は秦に到る、乃ち城に入り、秦王に見す、

【字解】冠蓋、カブリヤネと訓す、車の上の人を蓋ふもの、望、前後相接するなり、

秦王曰、丈人芒然、乃遠至、此甚苦矣、夫魏之來、求救數矣、寡人知魏之急已、唐雎對曰、大王已知魏之急、而救不發者、臣竊以爲用策之臣無任矣、

【講義】秦王曰く、先生芒然として疲勞しながら遠く至る、此れ甚だ困苦す、彼の魏より救援を求めて來るものは屢なり、然れども余は魏の危急を知るのみ、之を救援する理由を知らずと、唐雎は之に對へて曰く、大王は既に魏の危急を知る、然るに其の救援を發せざるは何ぞや、臣は竊に謂ふ、是れ策を用ふる臣が其の利害を知るに足らざればなり、

【字解】丈人、先生といふが如し、尊稱なり、芒然、疲れたる貌なり、以爲、謂なり、思量するなり、任、其の事に適ふなり、

夫魏一萬乘之國也、然所以西面而事秦、稱東藩、受冠帶、祠春秋者、以秦之彊足以爲與也、今齊楚之兵、已合於魏郊矣、而秦救不發、亦將賴其未急也、使之太急、彼且割地而約從、王尚何救焉、必待其急而救之、是失一東藩之魏、而彊二敵之齊楚、則王何利焉、

【講義】唐雎は尙其の說を進めて曰く、夫れ魏は一個萬乘の大國なり、然れども其の權勢を振はず、西に向ひて秦に事へ、東藩と稱し、秦より冠帶を受け、秦の爲めに春秋の祭祀を怠らず、然る所以の者は何ぞ

滅し、更に韓、魏の兵を率ゐて、趙襄子を晉陽に圍み、晉水を決り流して、之を晉陽の城に灌ぐ、城は水に沒し、其浸さざるは僅に二十四尺の高處有るのみ、是に於て、知伯は水を巡視す、魏桓子は其車に御者たり、韓康子は陪乘す、知伯は韓、魏兩子に謂ひ曰く、吾は始に於て水の能く人の國を亡すを知らず、乃ち今に至り之を知るを得たり、汾水は之を決すれば、魏の首都なる安邑に灌ぐを得べし、絳水は之を決すれば、韓の首都なる平陽に灌ぐを得べしと、此言を聽きたる韓、魏兩子は驚けり、魏桓子は乃ち肘を以て韓康子を衝き、韓康子は乃ち足を以て魏桓子を履み、肘と足とは車上に相接して、互に警戒の意を通じたり、此結果として、知氏の領地は韓、魏、趙の三國に分割せられ、知伯は身死し國亡び、天下の笑種と爲れり、今や秦兵は强しと雖も、知氏に過ぐる能はず、韓魏は弱しと雖も、晉陽の城下に在りし當時に比すれば、猶優勢なり、是れ正に韓、魏が肘と足とを以て相警戒し相謀議する時なり、願くは大王の必ず之を輕視せざることを、

【字解】 馮、倚るなり、料、思ひ量るなり、湛、浸すなり、版、二尺とも用ひ、八尺とも用ふ、要するに三版は水に沒せざる處の少きをいふなり、行、巡視なり、參乘、陪乘なり、肘足、顏色言辭を用ひずして、隱密の間に意思を通ずる形容なり、易、輕視なり、

於是、秦王恐、齊楚相約而攻魏、魏使人求救於秦、冠蓋相望也、而秦救不至、魏人有唐雎者、年九十餘矣、謂魏王曰、老臣請西說秦王、令兵先臣出、魏王再拜、遂約車而遣之、唐雎到、入見秦王、

【講義】 是に於て、秦王恐る、既にして齊、楚兩國相盟約し、魏を攻む、魏は人をして救を秦に求めしむ、冠蓋相接して、使者の車頻りに至る、然れども秦の援兵は出でず、魏人に唐雎といふもの有り、年齡九十餘なり、魏王に謂ひ曰く、老臣は請ふ西行して秦王に說き、秦兵をして臣が秦を去るよりも先に出でしめん

魏、以攻齊、猶無奈寡人何也、今以無能之如耳、魏齊、而率弱韓、魏、以伐秦、其無奈寡人何亦明矣、左右皆曰、甚然、

【講義】昭王曰く、孟嘗芒卯の賢を以て、強き韓魏を率ゐ來り、秦を攻めたるも、余を奈何ともする能はず、然るに、今や如耳、魏齊の無能を以て、弱き韓魏を率ゐ來り、秦を伐つ、彼等が余を奈何ともする能はざるは明なりと、侍臣皆曰く、甚だ然り、

中旗馮琴而對曰、王之料天下過矣、當晉六卿之時、知氏最彊、滅范中行、又率韓魏之兵、以圍趙襄子於晉陽、決晉水以灌晉陽之城、不湛者三版、知伯行水、魏桓子御、韓康子爲參乘、知伯曰、吾始不知水之可以亡人之國也、乃今知之、汾水可以灌安邑、絳水可以灌平陽、魏桓子肘韓康子、韓康子履魏桓子、肘足接於車上、而知氏地分、身死國亡、爲天下笑、今秦兵雖彊、不能過知氏、韓魏雖弱、尚賢其在晉陽之下也、此方其用肘足之時也、願王之必勿易也、

【講義】侍臣の中に、中旗といふ人有り、其の彈を罷め琴に馮り、昭王に對へて曰く、大王の天下を思量すると誤れり、晉の知、范、中行、趙、韓、魏六卿が政を執る時に當り、知氏は最も强し、遂に范、中行の兩氏を

王曰、是則然也、雖然事始已行、不可更矣、對曰、王獨不見夫博之所以貴梟者、便則食、不便則止矣、今王曰事始已行不可更、是何王之用智、不如用梟也、

【講義】魏王曰く、是の事は卿の說の如く然り、然れども是の事は始に於て既に決行を期す、今に及びて之を變改するを得ず、蘇代は對へて曰く、大王は彼の博奕者が梟形の骰子を貴ぶ理由を知らざるか、彼等は此の骰子を持し自分に便利なるときに之を用ひて、其の子を食はしめ、便利ならざれば之を用ひずして止む、然るに、今や大王は曰く、是の事は始に於て決行を期し、變改するを得ずと、是れ大王が博奕者に劣るものなり、何ぞ其の智を用ふることの梟骰を用ふるに如かざるや、

【字解】梟、梟の形を刻みたる骰子なり、此の骰子を使用して、梟が其の子を食ふ如くす、

九年、秦拔我懷、十年、秦太子外質於魏死、十一年、秦拔我郪丘、秦昭王謂左右曰、今時韓魏與始孰彊、對曰、不如始彊、王曰、今時如耳、魏齊與孟嘗芒卯孰賢、對曰不如、

【講義】安釐王の九年に、秦は魏の懷を拔く、十年に秦の太子外は魏に質と爲りて死す、十一年に秦は魏の郪丘を取る、秦の昭王は左右の侍臣に謂ひ曰く、韓魏は今の時と曩の時と孰か强きと、侍臣對へて曰く、曩の時の强きに如かずと、昭王曰く、今時の如耳魏齊兩人は、曩時の孟嘗芒卯二人と孰か賢なると、侍臣對へて曰く、今は昔に如かず、

【字解】懷、今の河南懷慶府に屬す、郪丘、今の河南汝寧府汝陽縣東南なり、

王曰、以孟嘗芒卯之賢、率彊韓、

安釐王元年、秦拔我兩城、二年、又拔我二城、軍大梁下、韓來救、予秦溫以和、三年、秦拔我四城、斬首四萬、

【講義】安釐王の元年に、秦は魏の兩城を取る、二年に、秦は魏の二城を拔き、大梁の城下に軍す、韓兵は來りて魏を救ふ、魏は秦に溫縣を與へて和睦す、三年に秦は魏の四城を取り、首四萬を斬る、

四年、秦破我及韓趙、殺十五萬人、走我將芒卯、魏將段干子請予秦南陽以和、

【講義】安釐王の四年に、秦は魏及び韓、趙を破り十五萬人を殺し、魏將芒卯を走らす、魏將段干子は魏の南陽を秦に與へて講和せんと欲し、之を魏王に請ふ、

蘇代謂魏王曰、欲璽者段干子也、欲地者秦也、今王使欲地者制璽、使欲璽者制地、魏氏地不盡則不知已、且夫以地事秦、譬猶抱薪救火、薪不盡火不滅、

【講義】蘇代は段干子が講和の策を聞き、魏王に謂ひ曰く、今や講和して褒賞の官印を得んと希望する者は段干子なり、講和して割讓の土地を得んと希望するものは秦なり、然るに、大王は彼の土地を希望する秦をして褒賞の官印を取り扱はしめ、此の官印を希望する段干子をして割讓の土地を取り扱はしむ、斯の如くすれば、秦は地を多く得んと欲し、段干子は印を多く得んと欲す、魏國は地の盡くるを見るに至らん、魏氏の領土が盡きざる迄は、此の割讓の止むこと無からん、且つ夫れ地を以て秦に事ふるは、薪を抱きて火を救ふが如し、薪の盡きざる間は其の火の滅すること無し、

【字解】璽、ジと讀む、玉印なり、封爵の官印を指す、制、取り扱ひて其の事を定むるなり、

河南洛陽府の南に在り、兩山相對して、伊水を挾む門の如し、故に伊闕といふ、

六年予秦河東地方四百里、芒卯以詐重、七年秦拔我城大小六十一、八年秦昭王爲西帝、齊湣王爲東帝、月餘皆復稱王歸帝、

【講義】　昭王の六年に、魏は秦に河東の地四百方里を與ふ、智辯の士芒卯は其の詐術を以て魏に重く用ひらる、七年に、秦は魏の城大小六十一を取る、八年に秦の昭王は西帝と爲り、齊の湣王は東帝と爲る月餘にして皆復王と稱し、帝號を辭退す、

九年、秦拔我新垣、曲陽之城、十年齊滅宋、宋王死我溫、十二年與秦、趙、韓、燕、共伐齊敗之濟西、湣王出亡、燕獨入臨菑、與秦王會西周、

【講義】　昭王の九年に、秦は魏の新垣、曲陽の兩城を取る、十年に、齊は宋を滅す、宋王は魏の溫に死す、十二年に、魏は秦、趙、韓、燕と共に齊を伐ち、之を濟西に敗る、齊の湣王は出亡す、燕軍は獨り齊の首都臨菑に入る、魏王は秦王と西周に會見す、

【字解】　新垣、曲陽、河南に於ける兩城なり、溫、今の河南懷慶府溫縣なり、

十三年、秦拔我安城、兵到大梁去、十八年、秦拔郢、楚王徙陳、十九年、昭王卒、子安釐王立、

【講義】　昭王の十三年に、秦は魏の安城を取る、秦兵は魏の首都大梁に至りて去る、十八年に、秦は楚の首都郢を取る、楚王は陳に徙る、十九年に昭王卒す、子安釐王立つ、

【字解】　安城、今の河南汝寧府汝陽縣の東南に在り、

【講義】 哀王の十年に張儀死す、十一年に、哀王は秦の武王と應に會見す、十二年に、魏の太子は秦に入朝す、秦は來りて魏の皮氏縣を伐ち、未だ其の城を拔かずして兵を解き去る、十四年に、秦は來りて魏の女を迎へ、之を秦の武王の后とす、

【字解】 應、今の山西臨晉に近き地なり、皮氏、今の山西絳州河津縣の西に於ける地名なり、歸、娶ることなり、トツグと訓ず、

十六年、秦拔蒲反、陽晉、封陵、十七年、與秦會臨晉、秦予我蒲反、十八年、與秦伐楚、

【講義】 哀王の十六年に、秦は魏の蒲反、陽晉、封陵の三邑を取る、十七年に、秦と臨晉に會見す、秦は魏に蒲反を返還す、十八年に、魏は秦と軍を合せて楚を伐つ、

【字解】 蒲反、陽晉、封陵、今の山西に於ける三邑なり、蒲反は今の山西蒲州府永濟縣の東南に在り、他の二邑も之に近接す、臨晉、今の山西臨晉縣なり、

二十一年、與齊韓共敗秦軍函谷、二十三年、秦復予我河外及封陵爲和、哀王卒、子昭王立、

【講義】 哀王の二十一年に、魏は齊韓兩國と軍を合せて、秦兵を函谷關に敗る、二十三年に、秦は復魏に河北の地及び封陵の邑を與へて和親す、哀王卒し、子昭王立つ、

【字解】 河外、河北なり、魏より稱するを以て河外といふなり、封陵、前章に在り、

昭王元年、秦拔我襄城、二年與秦戰、我不利、三年、佐韓攻秦、秦將白起敗我軍伊闕、二十四萬、

【講義】 昭王の元年に、秦は魏の襄城を取る、二年に魏は秦と戰ひて利を獲ず、三年に韓を佐け秦を攻む、秦の將白起は魏軍二十四萬を伊闕に敗る、

【字解】 襄城、今の河南許州襄城縣なり、伊闕、今の

以魏之彊、而三萬乘之國輔之、魏必安矣、故曰、莫若太子之自相也、

【講義】昭魚曰く、其の言は如何、蘇代曰く、臣の魏王に說かんとする所は、下の如し、曰く、臣は楚に遊びて來る、楚相昭魚は甚だ憂慮して曰く、魏相田需死せり、吾は張儀、犀首、薛公の中に於て、一人の魏相を生ぜんことを恐ると、故に臣は之に謂ひ曰く、魏王は才德の秀でたる君なり、必ず張儀を相と爲さず、若しも張儀が魏相と爲らば、必らず秦を上にして、魏を下にせん、犀首が魏相と爲らば、必らず韓を上にして、魏を下にせん、薛公が魏相と爲らば、必らず齊を上にして、魏を下にせん、魏王は才德の秀でたる君なり、必らず此の如き宰相を便と爲さずと、斯く述ぶれば、魏王は必らず曰はん、然らば余は誰を宰相と爲さんかと、此の時に臣は乃ち言はん、魏の太子が自から魏相たるに若しくもの無し、太子が自から相たるときには、是の張儀、犀首、薛公の三人皆太子を視て、非常の相と思惟し、務めて其の各自の國を以て魏に事へ、魏相の印を獲んと希望するに至らん、今夫れ魏の彊き勢にして、此の秦、韓、齊三萬乘の國より輔佐を得ば、魏は必らず安からん、故に、臣は太子が自から魏相と爲るに若くもの無しと斷言すと、

【字解】長主、長者にして君主なり、才德の秀でたる君を稱す、右、上なり、尊ぶなり、左、下なり、卑しむなり、璽、玉製の印なり、彊、强なり、

遂北見梁王、以此告之、太子果相魏、

【講義】斯くして、蘇代は遂に北行し魏王に見え、此の昭魚に語りたる所を以て魏王に告ぐ、魏の太子は果して魏に宰相たり、

十年、張儀死、十一年、與秦武王會應、十二年、太子朝於秦、秦來伐我皮氏、未拔而解、十四年、秦來、歸武王后、

り、薛公、孟嘗君田文なり

楚相昭魚、謂蘇代曰、田需死、吾恐張儀犀首薛公有一人相魏者也、代曰然、相者欲誰而君便之、昭魚曰、吾欲太子之自相也、代曰、請爲君北必相之、昭魚曰、奈何、對曰、君其爲梁王、代請說君、

【講義】 楚の宰相昭魚は、說客蘇代に謂ひ曰く、魏相田需死せり、吾は張儀犀首薛公の三人中に於て、必らず一人の魏相を生ぜんことを憂慮すと、蘇代曰く、洵に貴說の如し、敢て問ふ、君は何人を魏相と爲して、之を便利と思惟するか、昭魚曰く、吾は魏の太子が自ら魏相と爲らんことを希望す、蘇代曰く、果して然らば、臣請ふ北行し必らず魏の太子を魏相と爲さん、昭魚曰く、其の說く所は如何、蘇代曰く、君其れ假りに魏王と爲れ、臣請ふ魏王は說くべき言を以て、君に說かん、

【字解】 便、便に同じ、梁王、魏王なり、

昭魚曰、奈何、對曰、代也從楚來、昭魚甚憂、曰、田需死、吾恐張儀犀首薛公有一人相魏者也、代曰、梁王長主也、必不相張儀、張儀相、必右秦而左魏、犀首相、必右齊而左魏、薛公相、必右齊而左魏、梁王長主也、必不便也、王曰、然則寡人孰相、代曰、莫若太子之自相、太子之自相、是三人者皆以太子爲非常相也、皆將務以其國事魏、欲得丞相璽也、

故周室之別也、其稱小國、多寶器、今國迫於難、而寶器不出者、其心以爲攻衞醳衞、不以王爲主、故寶器雖出、必不入於王也、臣竊料之、先言醳衞者、必受衞者也、

【講義】是に於て、如耳は魏王に見えて曰く、臣は衞に就きて請ふ事有り、夫れ衞は本來周室の別家なり、其の國は小と稱するも寶器多し、今や衞は患難に迫られて滅亡せんとす、然るに、其の寶器は國を出でず、是れ何の故ぞや、蓋し衞は其の心中に謂ふ、衞を攻むるも衞を釋すも、魏王を以て主と爲さずと、故に其の寶器は國を出でず、縱令ひ出づと雖も、其の寶器は必らず魏王の手に入らず、是の故に、臣は竊に之を思考するに、先づ衞を放免することを言ふものは、必らず衞の寶器を受くるものなり、

【字解】謁、請ひ求むるなり、醳、釋なりなり、主、其の事を裁決する主力者なり、

如耳出、成陵君入、以其言見魏王、魏王聽其說、罷其兵、免成陵君、終身不見、

【講義】如耳退出す、成陵君は乃ち宮に入り、魏王に見えて如耳の意見の如く陳述す、魏王は其の說を聽きて、衞を釋し兵を罷む、因て成陵君を免官す、成陵君は退隱して、終身魏王に見えず、

九年、與秦王會臨晉、張儀魏章皆歸于魏、魏相田需死、楚害張儀犀首薛公、

【講義】哀王の九年に、秦王と臨晉に會す、張儀魏章は皆魏に入る、此の時に當り、魏の宰相田需死す、楚は張儀犀首薛公三人の中に、魏の宰相と爲るべきものの有るを知り、之を害として畏る、

【字解】臨晉、魏の邑なり、今の山西蒲州府臨晉縣な

り、

八年伐衛、拔列城二、衛君患之、如耳見衛君曰、請罷魏兵、免成陵君可乎、衛君曰、先生果能、孤請世世以衛事先生、

【講義】　哀王の八年に、魏は衛を伐ち其の兩城を取る、衛君は之を憂慮す、魏の說客如耳は、衛君に見えて曰く、請ふ魏の兵を罷めしめん、而して魏の權臣成陵君を免官せしめん、可ならんか、衛君曰く、先生果して之を能くせば、余は世世此の衛國を以て先生に事へんことを請ふと、

【字解】　孤、諸侯の自から稱する謙語なり、寡人の如し、

如耳見成陵君曰、昔者魏伐趙、斷羊腸、拔閼與、約斬趙、趙分而爲二、所以不亡者、魏爲從主也、今衛已迫亡、將西請事于秦、與其以秦醳衛、不如以魏醳衛、衛之德魏、必終無窮、成陵君曰、諾、

【講義】　如耳は乃ち成陵君に見えて曰く、昔時魏は趙を伐ち、太行山の羊腸阪を斷ち截り、上黨の閼與城を取り、以て趙を縮め斬る、趙は乃ち東西に分れ、折れて二と爲れり、其の滅亡を免れたる所以は、魏が合從の主たるに由るなり、今や衛は既に滅亡に迫る、因て西に向ひ秦に事ふることを請はんとす、故に魏の爲めに計るに、秦の恩を以て衛を放免するは、魏の恩を以て衛を放免するに若かず、魏が果して衛を放免するときは、衛が魏の恩を感ずること、必らず終に窮り無からんと、成陵君曰く諾す、

【字解】　羊腸、閼與、趙の險要なる兩地なり、數章の前に解せり、約、其の要點を抑ふるなり、從主、合從の主盟なり、與、ヨリハと訓ず、比較することなり、其、計なり、醳、釋なり、放免することなり、

如耳見魏王曰、臣有謁於衛、衛

を敗る、諸侯の執政者は秦の宰相張儀と齧桑に會す、

【字解】上郡、河西に於ける魏の長城地方なり、今の陝西楡林府に屬す、蒲陽、今の山西隰州に屬す、焦、曲沃、前節に解せり、襄陵、今の山西平陽府襄陵縣なり、齧桑、楚の彭城と魏の大梁との中間に在り、

十三年、張儀相魏、魏有女子、化爲丈夫、秦取我曲沃平周、十六年襄王卒、子哀王立、張儀復歸秦、

【講義】襄王の十三年に張儀は、秦を去り、魏に入りて宰相たり、魏に女子有り、化して男子と爲る、秦は魏の曲沃平周の兩邑を取る、十六年に襄王卒す、子哀王立つ、張儀は復た秦に歸る、

【字解】曲沃、晉の世家に詳なり、平周、今の山西汾州府に屬す、

哀王元年、五國共攻秦、不勝而去、二年、齊敗我觀津、五年、秦使樗里子伐取我曲沃、走犀首岸門、

【講義】哀王の元年に、趙、韓、魏、楚、燕の五國は、共に秦を攻め、其勝を得ずして退き去る、二年に齊は魏の觀津を取る、五年に秦は樗里子を將として、魏の曲沃を伐ち取らしむ、秦軍は遂に魏の權臣犀首を逐ひ、之を岸門に走らしむ、

【字解】觀津、今の直隷冀州武邑縣の東南に在り、曲沃、前節に在り、岸門、魏の地なり、今の河南許州に屬す、

六年、秦求立公子政、爲太子、與秦會臨晉、七年、攻齊、與秦伐燕、

【講義】哀王の六年に、秦は求めて魏の公子政を立て、魏の太子と爲す、魏は秦と臨晉に會す、七年に魏は齊を攻め、遂に秦と共に燕を伐つ、

【字解】臨晉、魏の邑なり、今の山西蒲州府臨晉縣な

三十六年、復與齊王會甄、是歲惠王卒、子襄王立、襄王元年、與諸侯會徐州、相王也、追尊父惠王爲王、

【講義】惠王の三十六年に、復た齊王と甄に會す、是の年に惠王卒す、子襄王立つ、襄王の元年に、諸侯と徐州に會す、諸侯相互に王と稱するが爲めなり、是に於て襄王は、父惠王を追尊して、惠王とす、

【字解】甄、今の山東曹州府濮州の東に在り、徐州、今の江蘇徐州府に屬す、相王、相互に位を尊びて王と稱するなり、

五年、秦敗我龍賈軍四萬五千于雕陰、圍我焦、曲沃、予秦河西之地、六年、與秦會應、秦取我汾陰、皮氏、焦、魏伐楚、敗之陘山、

【講義】襄王の五年に、秦は魏の龍賈の軍四萬五千を雕陰に敗り、魏の焦及び曲沃を圍む、魏は河西の地を秦に與ふ、六年に秦と應に會す、秦は魏の汾陰、皮氏及び焦を取る、魏は楚を伐ち、之を陘山に敗る、

【字解】雕陰、今の陝西鄜州に屬す、焦、今の河南陝州に屬す、曲沃、晉の世家に詳なり、河西、魏の領地なり、今の陝西華州より同州の地方を指す、應、秦の領地なり、今の河南汝州に屬す、汾陰、今の山西蒲州府滎河縣の北を稱す、皮氏、今の山西絳州に屬す、陘山、楚の要塞なり、今の河南開封新鄭縣の南に在り、

七年、魏盡入上郡于秦、秦降我蒲陽、八年、秦歸我焦、曲沃、十二年、楚敗我襄陵、諸侯執政與秦相張儀、會齧桑、

【講義】襄王の七年に、魏は上郡を擧げて盡く之を秦に納る、秦は魏の蒲陽を降服せしむ、八年に秦は魏に焦、曲沃の兩邑を返還す、十二年に、楚は魏の襄陵

會見す、惠王は屢軍事に敗れたるを以て、自から謙讓して幣物を厚くし、天下の賢者を招聘す、是に於て、鄒衍、淳于髠、孟軻は、皆大梁に至る、

【字解】平阿、今の山東曹州府に屬す、軍旅、軍隊なり、軍事を稱す、卑禮、自分を卑下するなり、

梁惠王曰、寡人不佞、兵三折於外、太子虜、上將死、國以空虛、以羞先君宗廟社稷、寡人甚醜之、叟不遠千里、辱幸至弊邑之廷、將何以利吾國、

【講義】惠王乃ち孟軻を引見して曰く、余は不才なり、吾兵は三たび國外に敗北し、吾太子は捕虜と爲り、吾上將は戰死し、吾國は空虛なり、以て吾先君を羞しめ、吾祖宗の靈廟を辱しめ、吾國土の神祇を醜しむ、余は甚だ之を恥づ、今や叟は千里を遠しとせず、幸に敝邑の朝廷に至る、叟は何の術を以て吾國を利益ならしめんとするか、

【字解】梁、魏は都を大梁を移したるを以て、梁と稱するなり、寡人、諸侯の自から稱する謙語なり、不佞、愚なり、社稷、國土の神を祀ることなり、醜、辱なり、叟、老人を尊びて稱するなり、

孟軻曰、君不可以言利、若是、則大夫欲利、大夫欲利、則庶人欲利、上下爭利、國則危矣、爲人君、仁義而已矣、何以利爲、

【講義】孟軻乃ち對へて曰く、國君は利益を言ふこと是の如くなる可からず、國君が利益を取らんと欲すれば、大夫は之に倣ふ、大夫が利益を取らんと欲すれば、衆民は之に倣ふ、斯くして上下が利益を爭ひ取らんとするに至れば、其の國は危し、故に國君たるものは仁義を言ふべきのみ、何ぞ利益を言ふことを爲さん、

【講義】 徐子曰く、太子は還らんと欲するも還るを得ざるべし、彼の將士は皆太子に勸めて戰攻せしめ、以て恩賞を受けんと欲するもの多し、太子は還らんと欲するも、恐くは還るを得ざらんと、是に於て、太子は還らんと欲す、其の車の御者曰く、將軍の出征して、其の途中より還るは敗北と同じと、太子は終に齊人と戰ひて、馬陵に敗れたり、齊は太子を虜にし、魏將龐涓を殺し、魏軍遂に大に破れたり、

【字解】 啜汁、凱旋の賀宴を指す、馬陵、本來は衞の地にして、魏に屬したる險要なり、今の直隷大名府元城縣の東南に在り、

三十一年、秦趙齊共伐我、秦將商君詐我將軍公子卬、而襲奪其軍、破之、秦用商君、東地至河、而齊趙數破我、安邑近秦、於是徙治大梁、以公子赫為太子、三十三年、秦孝公卒、商君亡秦、歸魏、魏怒不入、

【講義】 惠王の三十一年に、秦、趙、齊三國は共に魏を伐つ、秦將商君は魏の將軍公子卬を詐き、遂に襲ひて其の軍を奪ひ之を破る、是の時に當り、秦は商君を用ひ、領地を東方に擴めて、黄河に至る、而して齊、趙は屢魏を破る、魏の首都安邑は秦に近し、是に於て魏は徙りて大梁に都す、公子赫を以て太子とす、三十三年に、秦の孝公卒す、商君は秦を亡げて、身を魏に託す、魏は曩に商君に欺かれたるを以て怒り、其の入るを許さず、

【字解】 安邑、今の山西解州安邑縣なり、大梁、今の河南開封府祥符縣なり、

三十五年、與齊宣王會平阿南、惠王數敗於軍旅、卑禮厚幣、以招賢者、鄒衍、淳于髡、孟軻、皆至梁、

【講義】 惠王の三十五年に、齊の宣王と平阿の南に

君は來りて魏に宰相たり、三十年に魏は趙を伐つ、趙は救を齊に乞ふ、齊の宣王は孫臏の計を用ひ、趙を救ふが爲めに、先づ魏を撃つ、魏は遂に大に軍を興し、龐涓を將軍とし、太子申を上將軍として、齊軍を逆へ撃たしむ、魏軍は外黃に到る、

【字解】外黃、宋の邑なり、今の河南開封府杞縣の東に在り、

外黃徐子、謂太子曰、臣有百戰百勝之術、太子曰、可得聞乎、客曰、固願效之、曰、太子自將攻齊、大勝幷莒、則富不過有魏、貴不益爲王、若戰不勝齊、則萬世無魏矣、此臣之百戰百勝之術也、太子曰、諾、請必從公之言而還矣、

【講義】此の時に宋の外黃に說客有り、徐子と曰ふ、來りて太子に謂ひ曰く、臣は百戰百勝の術を知ると、太子曰く、聞くを得べきか、徐子曰く、臣は固に其の術を獻ぜんことを願ふ、今や太子は自から將として齊を攻む、其の軍が大に勝ちて莒を竝せ取るも、其の富は魏を有つに過ぎず、其の貴は王と爲るより增すこと無し、若しも其の戰が齊に勝たざるときは、永く魏國を亡はん、此れ臣の謂はゆる百戰百勝の術なりと、太子は曰く諾す、請ふ必らず公の言に從ひて還らん、

【字解】效、呈するなり、莒、齊の世家に詳なり、

客曰、太子雖欲還不得矣、彼勸太子戰攻、欲啜汁者衆、太子雖欲還、恐不得矣、太子因欲還、其御曰、將出而還、與北同、太子果與齊人戰、敗於馬陵、齊虜魏太子申、殺將軍涓、軍遂大破、

【字解】皮牢、今の直隷趙州に屬す、鄗、今の直隷趙州柏鄕縣の北に在り、祉平、今の陝西同州府に屬す、黃池、吳の世家に詳解せり、

十七年、與秦戰元里、秦取我少梁、圍趙邯鄲、十八年、拔邯鄲、趙請救于齊、齊使田忌孫臏救趙、敗魏桂陵、

【講義】惠王の十七年に、魏は秦と元里に戰ふ、秦は魏の少梁を取る、此の年に魏は趙の邯鄲を圍む、十八年に、魏は遂に邯鄲を取る、趙は救を齊に請ふ、齊は田忌孫臏をして趙を救はしめ、魏を桂陵に敗る、

【字解】元里、魏の領地なり、今の陝西同州府に屬す、少梁、前節に解せり、圍、此の字の上に魏の字を加へて解すべし、桂陵、或は桂林に作る、今の山東の曹州に屬す、

十九年、諸侯圍我襄陵、築長城、塞固陽、二十年、歸趙邯鄲、與盟漳水上、二十一年、與秦會彤、趙成侯卒、

【講義】惠王の十九年に、諸侯は魏の襄陵を圍む、此の年に魏は長城を築きて、要塞を固陽に構ふ、二十年に、魏は邯鄲を趙に返還す、因て趙と漳水の上に會盟す、二十一年に魏は秦と彤に會す、此の年に趙の成侯卒す、

【字解】襄陵、今の山西平陽府襄陵縣なり、固陽、魏の黃河に臨みたる要塞なり、彤、今の陝西延安に屬す、

二十八年、齊威王卒、中山君相魏、三十年、魏伐趙、趙告急齊、齊宣王用孫子計、救趙擊魏、魏遂大興師、使龐涓將、而令太子申爲上將軍、過外黃、

【講義】惠王の二十八年に、齊の威王卒す、中山國の

のみ、若しも其の一家の謀に定るときは、必らず魏の分割を見ん、故に世に傳へたる語有り、曰く、君主が終に嫡子無きときは、其の國必らず破るを得べし、

【字解】且、將なり、彊、强なり、說、悅なり、適、嫡なり、

二年、魏敗韓于馬陵、敗趙于懷、三年、齊敗我觀、五年、與韓會宅陽城、武堵爲秦所敗、六年、伐取宋儀臺、九年、伐敗韓于澮、與秦戰少梁、虜我將公孫痤、取龐、秦獻公卒、子孝公立、

【講義】惠王の二年に、魏は韓を馬陵に敗り、趙を懷に敗る、三年に、齊は魏を觀に敗る、五年に魏は韓と宅陽城に會す、魏の武堵は秦に敗らる、六年に魏は伐ちて宋の儀臺を取る、九年に魏は伐ちて韓を澮に敗る、此の年に秦と少梁に戰ふ、秦は魏の將軍公孫痤を虜にし龐を取る、秦の獻公卒し、子孝公立つ、

【字解】馬陵、魏の地なり、今の山東濮州に在り、懷、魏の地なり、今の河南懷慶府に屬す、觀、今の山東濮州に屬す、宅陽城、魏の地なり、今の河南開封府滎陽縣に在り、武堵、河南に在り、魏の地なり、儀臺、一に義臺に作る、臺名なり、澮、前節に解せり、少梁、魏の領地なり、今の陝西同州府韓城縣の南に在り、龐、魏の領邑なり、少梁に近し、

十年、伐取趙皮牢、彗星見、十二年、星晝墜有聲、十四年、與趙會鄗、十五年、魯衞宋鄭君來朝、十六年、與秦孝公會杜平、侵宋黃池、宋復取之、

【講義】惠王の十年に、魏は伐ちて趙の皮牢を取る、此の年に彗星出づ、十二年に星有り、晝墜ちて聲を成す、十四年に魏は趙と鄗に會す、十五年に魯衞宋鄭四國の君は來朝す、十六年に秦の孝公と杜平に會す、此の年に魏は宋の黃池を侵略す、宋は復た之を取る、

公孫頎は宋より趙に入り、趙より韓に入り、韓の懿侯に告げて曰く、魏罃は公中緩と太子たるを爭ふ、君も之を聞くか、今や魏罃は王錯を臣とし、上黨の地を擁す、是れ魏の半國なり、故に今の時に於て、魏罃と王錯とを除くときは、必らず魏を破るを得ん、此の機を失ふべからずと、懿侯は之を聞きて悦び、乃ち趙の成侯と軍を合せ兵を併せ、以て魏を伐ち、濁澤に戰ふ、魏軍は大敗し、魏君は圍まれたり、

【字解】 公中緩、魏の公子仲緩なり、上黨、今の山西潞安府に屬す、此の時に韓、趙、魏の三國に分ち領せられたり、濁澤、魏の地なり、今の河南許州に屬す、魏君圍、或は魏君爲の三字に作る、何れも錯誤の文なり、圍の字は稍解するに便なり、

趙謂韓曰、除魏君、立公中緩、割地而退、我且利、韓曰、不可、殺魏君、人必曰暴、割地而退、人必曰貪、不如兩分之、魏分爲兩、不彊於宋衞、則我終無魏之患矣、趙不聽、韓不說、以其少卒夜去、惠王之所以身不死國不分者、二家謀不和也、若從一家之謀、則魏必分矣、故曰、君終無適子、其國可破也、

【講義】 是に於て、趙は韓に謂ひ曰く、魏君を除き去り、公中緩を立て、魏の地を割き取りて退くときは、我の利と爲らんと、韓曰く、不可なり、魏君を殺すときは、必らず世人より暴と謂はれん、魏の地を割き取りて退くときは、必らず世人より貪と謂はれん、故に魏を兩分するに如かず、魏は分れて兩と爲れば、宋衞よりも強からず、斯くすれば我は終に魏の患害を脫するを得んと、然れども趙は之を聽かず、韓は悦ばず、其の少數の兵を率ゐて、夜に乘じ退去す、是の時に、魏の惠王が其の身の殺されずして、其の國の分たれざる所以は趙韓兩家の謀議が和合せざるに由る

は安邑及び王垣に築城す、七年に、魏は齊を伐ち、桑丘に至る、九年に、狄は魏を澮に敗る、此の年に、魏は吳起を將軍として齊を伐ち、靈丘に至る、齊の威王始めて立つ、

【字解】安邑、今の山西解州安邑縣なり、王垣、今の山西絳州垣曲縣なり、此の地に王屋山有り、故に王垣と稱す、桑丘、今の直隷易州に屬す、此の時に魏は燕を救ふに由り、此に至りたるなり、澮、澮水の側に在り、今の山西絳州に屬す、靈丘、今の山西大同府靈丘縣なり、戰國の時に齊の領地たり、

十一年、與韓趙三分晉地、滅其後、十三年、秦獻公縣櫟陽、十五年、敗趙北藺、十六年、伐楚、取魯陽、武侯卒、子罃立、是爲惠王、

【講義】武侯の十一年に、魏は韓趙と共に晉の地を三分して、之を各自の領有と爲し、晉の後嗣を絕滅す、十三年に秦の獻公は櫟陽を縣にす、十五年に魏は趙の北藺を敗る、十六年に魏は楚を伐ち、魯陽を取る、此の年に武侯卒す、子罃立つ、是を惠王といふ、

【字解】櫟陽、ヤクヤウと讀む、今の陝西西安府臨潼縣なり、北藺、今の山西汾州府永寧州に在り、魯陽、楚の領地なり、今の河南汝州魯山縣なり、

惠王元年、初武侯卒也、子罃與公中緩、爭爲太子、公孫頎自宋入趙、自趙入韓、謂韓懿侯曰、魏罃與公中緩、爭爲太子、君亦聞之乎、今魏罃得王錯、挾上黨、固半國也、因而除之、破魏必矣、不可失也、懿侯說、乃與趙成侯合軍幷兵、以伐魏、戰于濁澤、魏氏大敗、魏君圍、

【講義】惠王の元年に、魏は大敗す、是より先に武侯の卒去に當り、子罃は公中緩と太子たるを爭ふ、魏の

成子と相匹ぶを得んやと、翟璜は之を聞き逡巡し再拜して曰く、璜は鄙人なり、對ふる所を誤れり、願くは終に弟子と爲らん、
【字解】安、何なり、鍾、六石四斗なり、然れども、千鍾は萬石の大祿を概稱す、惡、何なり、

二十六年、虢山崩、壅河、三十二年、伐鄭、城酸棗、敗秦于注、三十五年、齊伐取我襄陵、三十六年、秦侵我陰晉、三十八年、伐秦、敗我武下、得其將識、是歲文侯卒、子擊立、是爲武侯、

【講義】文侯の二十六年に、虢山は崩れて河流を塞ざ止む、三十二年に、魏は鄭を伐ち、酸棗に築城す、此の年に、魏は秦を注に敗る、三十五年に、齊は魏を伐ちて襄陵を取る、三十六年に、秦は魏の陰晉を侵す、三十八年に、魏は秦を伐ち之を武城の下に敗り、秦の將軍識を獲たり、此の年に文侯卒す、公子擊立つ、是を武侯といふ、
【字解】虢山、今の河南陝州に屬す、酸棗、今の河南衞輝府延津縣なり、注、魏の地なり、今の河南汝州に屬す、此の地に秦兵の來侵を擊ち破りたるなり、襄陵、今の山西平陽府襄陵縣なり、陰晉、今の陝西同州府華陰縣なり、武下、魏の地なり、武は今の山西寧武府に屬す、武城の下を武下と稱したるなり、識、秦將の名なり、

魏武侯元年、趙敬侯初立、公子朔爲亂、不勝奔魏、與魏襲邯鄲、魏敗而去、二年、城安邑王垣、七年、伐齊至桑丘、九年、翟敗我于澮、使吳起伐齊、至靈丘、齊威王初立、

【講義】魏の武侯の元年に、趙の敬侯始めて立つ、趙の公子朔は亂を作して勝を得ず、魏に奔り、魏軍と共に趙の邯鄲を襲ふ、魏軍は敗れて退去す、二年に、魏

其所不爲、貧視其所不取、五者足以定之矣、何待克哉、是以知魏成子之爲相也、

【講義】　李克は乃ち翟璜を諭して曰く、願ふに子が余を子の君に推薦したるは、豈に君に諂從して大官を求むるが爲めならんや、今回の事は君の問に由り、賢相を擧げたるなり、蓋し君は余に問ひて賢相を置かんとす、曰く、成に非るときは璜を擧げん、此の兩人は何れか賢ると、故に余は對へて曰く、君能く之を決するを得ん、其の之を臣に問ふは、未だ察せざる故なり、蓋し人を察するには五視を要す、居るには其の親む所を視る、富みたるときには其の與ふる所を視る、高官に進みたるときには其の擧げ用ふる所を視る、窮厄に陷りたるときには其の爲さざる所を視る、貧賤に處るときには其の取らざる所を視る、此の五者は以て賢相を選定するに足る、何ぞ臣の答を待たんやと、余は斯く奏上したるを以て、魏成子の宰相と爲るべきを知れり、

【字解】　比周、他人の言に附和し雷同することなり、

且子安得與魏成子比乎、魏成子以食祿千鍾、什九在外、什一在內、是以東得卜子夏、田子方、段干木、此三人者、君皆師之、子之所進五人者、君皆臣之、子惡得與魏成子比也、翟璜逡巡再拜曰、璜鄙人也、失對、願卒爲弟子、

【講義】　李克は尙其の說を進め、翟璜を戒めて曰く、且つ子は何ぞ魏成子と比するを得んや、魏成子は俸祿萬石なれども、其の十分の九を他人に散じ與へ、其の十分の一を自から取る、是を以て東方の國より卜子夏、田子方、段干木を聘し得たり、此の三人は皆賢者なり、吾君は之を師として尊敬す、然るに子の進めたる五人は、皆是れ君の臣たるに過ぎず、子は何ぞ魏

矣、李克趨而出、過翟璜之家、翟璜曰、今者聞、君召先生而卜相、果誰爲之、李克曰、魏成子爲相矣、

【講義】文侯曰く、先生退きて休息せよ、寡人の良相は定りたりと、李克乃ち趨り出づ、歸途に翟璜の家に至る、翟璜曰く、近く聞く、吾君は先生を召して良相を選定すと、果して誰か相公と爲る、李克曰く、魏成子は相公と爲らん、

翟璜忿然作色曰、以耳目之所覩記、臣何負於魏成子、西河之守、臣之所進也、君内以鄴爲憂、臣進西門豹、君謀欲伐中山、臣進樂羊、中山已拔、無使守之、臣進先生、君之子無傅、臣進屈侯鮒、臣何以負於魏成子、

【講義】翟璜は忿然として顏色を變じ曰く、耳目の視聽し記憶する所を以てするに、臣は何ぞ魏成子に劣らん、西河の太守は、臣が推薦したる所なり、吾君は國内に於て鄴の地を守るを憂ふ、臣は乃ち西門豹を進めて之を守らしむ、吾君は國外を謀りて中山を伐たんと欲す、臣は乃ち樂羊を進む、既にして中山は魏の有と爲る、然れども之を守らしむるもの無し、臣は乃ち先生を進む、吾君の子は傅無し、臣は乃ち屈侯鮒を進む、臣は何を以て魏成子に劣らん、

【字解】忿然、憤激したる貌なり、鄴、中山、前節に在り、

李克曰、且子之言克於子之君者、豈將比周以求大官哉、君問而置相、非成則璜、二子何如、克對曰、君不察故也、居視其所親、富視其所與、達視其所擧、窮視

人曰、家貧則思良妻、國亂則思良相、今所置非成則璜、二子何如、李克對曰、臣聞之、卑不謀尊、疏不謀戚、臣在闕門之外、不敢當命、

【講義】文侯は李克に謂ひ曰く、先生は嘗て寡人に教へて、家貧しければ良妻を思ひ、國亂るれば良相を思ふと云へり、今や良相として置かんとするは、成に非れば璜なり、此の兩子は如何、李克曰く、臣は之を聞く、卑賤のものは尊貴の事を謀らず、疏遠のものは親戚の事を論ぜずと、臣は公門の外に在り、卑賤にして疏遠なり、敢て命に當らず、

【字解】成、文侯の弟なる魏成子なり、璜、魏の良臣なる翟璜なり、何如、如何の強き意なり、兩子の中にて何れを用ふべきかと問ふ意なり、戚、親戚なり、骨肉の親近なり、闕門、宮門なり、

文侯曰、先生臨事勿讓、李克曰、

君不察故也、居視其所親、富視其所與、達視其所擧、窮視其所不爲、貧視其所不取、五者足以定之矣、何待克哉、

【講義】文侯曰く、先生此の事に就きて辭讓する無く、其の用ふべき人を答へよ、李克曰く、君能く之を決するを得ん、其の之を臣に問ふは、未だ察せざる故なり、蓋し人を察するには、五視を要す、居るには其の親む所を視る、富みたるときには其の與ふる所を視る、高官に進みたるときは其の擧げ用ふる所を視る、窮厄に陷りたるときには其の爲さざる所を視る、貧賤に處るときには其の取らざる所を視る、此の五者は以て良相を選定するに足る、何ぞ臣の答を待たんや、

【字解】達、身分の高貴なるをいふ、擧、官吏を登用するなり、

文侯曰、先生就舍、寡人之相定、

なり、

西攻秦、至鄭而還、築雒陰合陽、

二十二年、魏、趙、韓、列爲諸侯、

【講義】 魏軍は西征して秦を攻め鄭に至りて還り、洛水の南と郃水の北とに築城す、文侯の二十二年に、魏、趙、韓の三家は、列して諸侯と爲る、

【字解】 雒陰合陽、魏の領域なり、雒陰は洛水の南なり、合陽は郃水の北なり、

二十四年、秦伐我、至陽狐、二十五年、子擊生子罃、文侯受子夏經藝、客段干木、過其閭、未嘗不軾也、

【講義】 文侯の二十四年に、秦は魏を伐ち陽狐に至る、二十五年に、公子擊は子罃を生む、文侯は孔子の門人なる子夏より經學文藝を受け、段干木を待遇するに客禮を以てし、段干木の里門を通過するときには、必ず車上に於て、之に敬禮す、

【字解】 陽狐、今の直隸大名府元城縣なり、閭、村里の門なり、軾、車上の前部に在る橫木なり、此の橫木に伏して、車外の人に敬禮するを「軾す」といふ、

秦嘗欲伐魏、或曰、魏君賢人是禮、國人稱仁、上下和合、未可圖也、文侯由此、得譽於諸侯、任西門豹、守鄴、而河內稱治、

【講義】 秦は嘗て魏を伐たんと欲す、或る人は之を諫めて曰く、魏君は賢人を禮遇し、國人より其の仁德を稱せられ、魏は上下和合す、未だ伐つべからずと、文侯は此の賢士禮待の事に由り、名譽を諸侯に得たり、魏は西門豹を登用して、鄴を守らしむ、河內は治平の評判を得たり、

【字解】 鄴、今の河南彰德府臨漳縣の西南に在り、河內、鄴を中心としたる地方なり、

魏文侯謂李克曰、先生嘗敎寡

す、十六年に秦を伐ち、臨晉と元里とに築城す、十七年に中山國を伐ち、公子擊をして之を守らしむ、趙倉唐は公子擊に傅たり、

【字解】少梁、魏の領邑なり、今の陝西同州府韓城縣の南に在り、古の梁國の地なり、繁龐、臨晉に近き地なり、臨晉、今の陝西蒲州府臨晉縣なり、元里、臨晉の附近に在り、

子擊逢文侯之師田子方於朝歌、引車避下謁、田子方不爲禮、子擊因問曰、富貴者驕人乎、且貧賤者驕人乎、

【講義】公子擊は朝歌に於て、文侯の師なる田子方に逢ふ、乃ち車を引き路を避けて下り、子方に謁す、子方は禮を爲さず、擊は子方に問ひ曰く、富貴なるものは他人に驕るか、貧賤なるものは他人に驕るか、

【字解】朝歌、魏の地なり、今の河南衛輝府淇縣の東北に在り、且、將なり、抑といふが如し、

子方曰、亦貧賤者驕人耳、夫諸侯而驕人、則失其國、大夫而驕人、則失其家、貧賤者、行不合、言不用、則去之楚越、若脫躧然、奈何其同之哉、子擊不懌而去、

【講義】田子方曰く、貧賤なるものが他人に驕ることと有るのみ、夫れ諸侯にして他人に驕れば、其の國土を失ふ、大夫にして他人に驕れば、其の家祿を失ふ、故に富貴なるものは、他人に驕るを得ず、之に反して貧賤なるものは、其の行ふ所が、君の意に合はざれば去るのみ、其の言ふ所が、君の事に用ひられざれば去るのみ、去りて楚越の夷境に往くは、草履を脫ぐが如く容易なり、何ぞ其れ富貴なるものゝ窮屈なるに同じからんやと、公子擊は之を聽き、悅ばずして起ち去る、

【字解】躧、シと讀む、草履なり、敝れたる履き物なり、懌、少しく悅ぶなり、懌ばざるは不機嫌なること

氏は均しく頃公の嫌惡を受く、是に於て韓、趙、魏、范、中行、知の六卿は、祁、羊舌の兩氏を誅し、盡く其の領地を沒收し、之を十縣と爲し、六卿は各其の子をして之が大夫と爲らしむ、魏獻子は趙簡子、中行文子、范獻子と共に晉の卿たり、

【字解】相惡、相二惡於君一の四字を略したるなり、晉の世家を參看すべし、

其後十四歲、而孔子相レ魯、後四歲、趙簡子以二晉陽之亂一也、而與韓魏、共攻二范、中行氏一、魏獻子生二魏侈一、魏侈與二趙鞅一、共攻二范、中行氏一、

【講義】其の後十四年を經て、孔子は魯に宰相たり、後四年にして趙簡子は、晉陽の亂を以て、韓、魏と共に范、中行の兩氏を攻む、魏獻子は魏侈を生む、魏侈は趙鞅と共に范、中行の兩氏を攻む、

魏侈之孫曰二魏桓子一、與二韓康子、趙襄子一、共伐二滅知伯一、分二其地一、桓子之孫曰二文侯都一、魏文侯元年、秦靈公之元年也、與二韓武子、趙桓子、周威王一同時、

【講義】魏侈の孫を魏桓子と曰ふ、魏桓子は韓康子趙襄子と共に伐ちて知伯を滅し、其の地を分ちて之を取る、桓子の孫を文侯都と曰ふ、魏の文侯の元年は、秦の靈公の元年なり、韓武子趙桓子周の威王等と其の時を同くす、

六年、城二少粱一、十三年、使下子擊圍二繁龐一、出中其民上、十六年、伐レ秦、築二臨晉元里一、十七年、伐二中山一、使下子擊守上レ之、趙倉唐傅レ之、

【講義】魏の文侯の六年に、少粱に築城す、十三年に公子擊をして、繁龐を攻圍せしめ、其の民を救ひ出

吾晉國の光榮を開くなり、然るに、吾弟を辱むるは何ぞや、と、因て魏絳を誅せんとす、或る人は悼公に說きて之を諫む、悼公乃ち其の誅を止め、終に政事を魏絳に任じ、戎狄に和親せしむ、戎狄皆晉に從ふ、

【字解】翟、狄なり、戎狄は晉の西北の境に接したる夷國を概稱す、

悼公之十一年、曰、自吾用魏絳、八年之中、九合諸侯、戎翟和、子之力也、賜之樂、三讓、然後受之、徙治安邑、

【講義】悼公の十一年に、公曰く、吾は魏絳を用ひてより、八年の中に諸侯を九合し、戎狄皆從ふ、是れ魏子の力なりと、乃ち之を賜ふに舞樂の隊を以てす、魏絳は三たび辭謝して、後に之を拜受す、既にして霍より遷り、安邑に在り、其の領地を治む、

【字解】九合、諸侯を會盟したる數の多きをいふなり、翟、狄なり、安邑、今の山西解州安邑縣なり、

魏絳卒、謚爲昭子、生魏嬴、嬴生魏獻子、獻子事晉昭公、昭公卒、而六卿彊、公室卑、

【講義】魏絳卒す、謚して昭子と曰ふ、其の子を魏嬴と曰ふ、嬴は魏獻子を生む、獻子は晉の昭公に仕ふ、昭公卒す、此の時に當り、晉は其の卿たる韓、趙、魏、范、中行、智の六氏勢强く、公室衰微したり、

晉頃公之十二年、韓宣子老、魏獻子爲國政、晉宗室祁氏羊舌氏相惡、六卿誅之、盡取其邑、爲十縣、六卿各令其子爲之大夫、獻子與趙簡子、中行文子、范獻子、竝爲晉卿、

【講義】晉の頃公の十二年に、韓宣子は老を告げて退任す、魏獻子は國政を執る、晉の公族たる祁氏羊舌

爭叜立、晉亂、而畢萬之世彌大、從其國名、爲魏氏、生武子、魏武子以魏諸子、事晉公子重耳、

【講義】 畢萬が封を受けてより十一年に、晉の獻公卒す、獻公の四子は互に君と爲るを爭ふ、晉は乃ち騷亂す、而して畢萬の家聲は愈〻大なり、遂に其の國名に從ひ魏氏と爲る、畢萬の子を魏武子と曰ふ、魏武子は魏の嫡子に非ず、出でて晉の公子重耳に仕へたり、

【字解】 叜、更なり、諸子、嫡子の外を稱す、

晉獻公之二十一年、武子從重耳出亡、十九年反、重耳立爲晉文公、而令魏武子襲魏氏之後、封列爲大夫、治於魏、生悼子、

【講義】 晉の獻公の二十一年に、魏武子は公子重耳に從ひ出亡し、十九年を經て歸國す、重耳は立ちて晉の文公と爲る、乃ち魏武子をして魏氏の後嗣と爲らしめ、之を封じ、列して大夫と爲す、魏武子は魏に於て其の領地を治む、其の子を悼子といふ、

魏悼子徙治霍、生魏絳、魏絳事晉悼公、悼公三年、會諸侯、悼公弟楊干亂行、魏絳僇辱楊干、

【講義】 魏悼子は魏より霍に遷りて其の領地を治む、其の子を魏絳といふ、魏絳は晉の悼公に仕ふ、悼公の三年に、公は諸侯を會す、悼公の弟なる楊干は、會盟に於ける陣列を亂す、魏絳は乃ち楊干を辱めて、之を懲す、

【字解】 行、陣列の順序なり、僇、大に辱しむるなり、

悼公怒曰、合諸侯以爲榮、今辱吾弟、將誅魏絳、或說悼公、悼公止、卒任魏絳政、使和戎翟、戎翟親附、

【講義】 悼公怒り曰く、諸侯を會合せしむるは、以て

趙夙を封じ、魏を以て畢萬を封じ、此の兩人を晉の大夫と爲したり、

【字解】 霍、耿、魏、此の三國は姬姓の小邦なり、霍は今の山西平陽府霍州に在り、耿は今の山西絳州河津縣の東南に在り、魏は今の山西解州芮城縣の東北に在り、

卜偃曰、畢萬之後必大矣、萬滿數也、魏大名也、以是始賞、天開之矣、天子曰兆民、諸侯曰萬民、今命之大、以從萬數、其必有衆、

【講義】 晉の卜筮官なる郭偃は畢萬の前途を卜して曰く、畢萬の後裔は必らず大ならん、萬は滿數なり、魏は大名なり、此の大なる名を以て此の滿ちたる數を賞す、是れ天が其の端を開くなり、天子の有するものを兆民といひ、諸侯の有するものを萬民といふ、今や畢氏に大なる名を命じ、以て萬の數に從ふ、畢萬の子孫は、其れ必ず多數の民庶を有するに至らん、

【字解】 魏、大といふ意なり、兆、萬萬を億といひ、十億を兆と稱すれども、其の數に拘らず、非常なる多數を概稱して、兆といふなり、

初畢萬卜事晉、遇屯之比、辛廖占之曰、吉、屯固、比入、吉孰大焉、其必蕃昌、

【講義】 是れより先に、畢萬は晉に仕官せんと欲して、之を龜卜に問ふ、其の兆は水雷屯の一轉して、水地比と爲るを見たり、晉の大夫辛廖は之を判斷して曰く、吉瑞なり、水雷屯は堅實にして守るを得べし、水地比は親密にして進むを得べし、吉は何ぞ此より大なるもの有らんや、是れ進展の象なり、其れ必ず繁榮隆興せん、

【字解】 屯、䷂卦なり、比、䷇卦なり、屯より比に之くは、堅固なる形を以て、親密なる狀に進み入るなり、其の福運の開展するを知るべし、孰、何なり、焉、此なり、蕃、繁なり、

畢萬封十一年、晉獻公卒、四子

夫共立嘉爲王、王代六歲、秦進兵破嘉、遂滅趙、以爲郡、

【講義】 太史公曰く、吾は馮王孫に聞く、王孫曰く、趙王遷の母は賤妓なり、悼襄王に愛幸せられたり、故に悼襄王は、其の嫡子なる嘉を廢し、此の賤妓の子なる遷を立てたり、遷は素より品行無し、讒言を信ず、是の故に、其の良將李牧を誅し、郭開を用ふ、豈に謬ならずや、秦は既に趙王遷を虜にす、趙の亡大夫は共に嘉を立て代國の王とし、六歲を經たり、秦は兵を進め嘉を破り、遂に趙を滅し以て秦の郡と爲す、

【字解】 馮王孫、上黨の太守馮亭の後裔なり、倡、藝妓なり、適、嫡なり、

魏世家第十四

魏之先、畢公高之後也、畢公高與周同姓、武王之伐紂、而高封於畢、於是爲畢姓、其後絕封爲庶人、或在中國、或在夷狄、其苗裔曰畢萬、事晉獻公、

【講義】 魏國の先祖は畢公高より出でたり、畢公高は周と同姓なり、周の武王は殷紂を伐ちて、高は畢に封ぜらる、是に於て、畢姓と爲る、其の後裔に至り、封を絕ちて平民と爲り、中國に居るもの有り、夷狄に居るもの有り、其の遠孫を畢萬と曰ふ、晉の獻公に仕ふ、

【字解】 畢、今の陝西西安府臨潼縣に屬す、庶人、平民なり、

獻公之十六年、趙夙爲御、畢萬爲右、以伐霍耿魏、滅之、以耿封趙夙、以魏封畢萬、爲大夫、

【講義】 晉の獻公の十六年に、獻公は出征す、趙夙は公の車の御者と爲り、畢萬は其の右の護衛者と爲り、以て霍、耿、魏の三國を伐ち之を滅す、乃ち耿を以て

之、五年、代地大動、自樂徐以西、北至平陰、臺屋墻垣大半壞、地坼、東西百三十步、六年、大饑、民譌言曰、趙爲號、秦爲笑、以爲不信、視地之生毛、

【講義】幽繆王遷の四年に、秦は趙の番吾を攻む、趙の李牧は秦兵と戰ひ、之を擊ち退く、五年に代國の地は大に震動す、樂徐より西に亙り、北は平陰に至るまで、樓臺も屋舍も墻垣も、大概崩壞し、其の裂けたる地は、東西に百三十步の溝を成したり、六年に、趙は大に饑う、趙民は訛言を傳へて曰く、趙は號泣し、秦は歡笑す、若しも之を信ぜざるものは、地に毛を生ずるを觀よと、

【字解】番吾、ハゴと讀む、今の直隷正定府平山縣なり、樂徐、今の直隷正定府晉州に在り、平陰、今の山西汾州府に屬す、譌、訛に同じ、

七年、秦人攻趙、趙大將李牧、將軍司馬尙、將擊之、李牧誅、司馬尙免、趙忽及齊將顏聚代之、趙忽軍破、顏聚亡去、以王遷降、

【講義】幽繆王遷の七年に、秦人は趙を攻む、趙の大將李牧將軍司馬尙は、衆を率ゐて秦兵を擊つ、既にして李牧は誅殺せられ、司馬尙は免職す、趙忽及び齊の將顏聚は、代りて趙軍に將たり、趙忽は軍破れ、顏聚は亡げ去る、趙人は幽繆王遷を奉じて降る、八年の十月に、趙の首都邯鄲は、終に秦と爲る、

【字解】本文の末尾に、「八年十月、邯鄲爲秦」の九字を脫す、

太史公曰、吾聞馮王孫曰、趙王遷、其母倡也、嬖於悼襄王、悼襄王廢適子嘉、而立遷、遷素無行信讒、故誅其良將李牧、用郭開、豈不謬哉、秦既虜遷、趙之亡大

の邑なり、今の陝西西安府に屬す、饒安、今の直隸天津府滄州の東南なり、

五年、傅抵將居平邑、慶舍將東陽、河外師守河梁、六年、封長安君以饒、魏與趙鄴、九年、趙攻燕取貍陽城、兵未罷、秦攻鄴拔之、悼襄王卒、子幽繆王遷立、

【講義】悼襄王の五年に、傅抵は趙軍に將として平邑に居る、慶舍は趙軍に將として東陽に陣す、河外の趙軍は河橋を守る、六年に、趙は惠文后の末子なる長安君を饒安に封ず、此の年に、魏は趙に與ふるに鄴を以てす、九年に、趙は燕を攻め貍陽城を取る、趙燕の兵未だ罷まず、秦は鄴を攻め之を取る、悼襄王卒す、子幽繆王遷立つ、

【字解】平邑、東陽、趙魏の境に於ける河南河北の兩邑なり、梁、橋なり、饒、前節に叙したる饒安の略稱なり、鄴、今の河南彰德府臨漳縣の西南に在り、

幽繆王遷元年、城柏人、二年、秦攻武城、扈輒率師救之、軍敗死焉、三年、秦攻赤麗宜安、李牧率師與戰肥下、却之、封牧爲武安君、

【講義】幽繆王遷の元年に、趙は柏人に築城す、二年に秦は趙の武城を攻む、趙の扈輒は軍を率ゐて之を救ふ、然れども趙軍敗れて扈輒死す、三年に秦は趙の赤麗宜安を攻む、李牧は趙軍を率ゐて、秦兵と肥城の下に戰ひ、之を擊ち退く、趙は李牧を封じて、武安君と爲す、

【字解】柏人、今の直隸順德府唐山縣なり、武城、今の山西朔平府平魯縣の西北に在り、赤麗、宜安、兩邑の名なり、共に直隸正定府藁城の地方なり、肥、昔の肥子國なり、今の直隸正定府藁城縣の西に在り、

四年、秦攻番吾、李牧與之戰却

之、謂文信侯曰、春平君者、趙王甚愛之、而郎中妬之、故相與謀曰、春平君入秦、秦必留之、故相與謀而內之秦也、今君留之、是絕趙、而郎中之計中也、君不如遣春平君而留平都、春平君者、言行信於王、王必厚割趙而贖平都、文信侯曰、善因遣之、

【講義】此の年に、秦は趙の太子なる春平君を召し、遂に之を抑留す、泄鈞は之が爲めに、文信侯呂不韋に謂ひ曰く、春平君は甚だ趙王に愛せられ、宮中近侍の諸官に妬まる、故に近侍の諸官は、相共に謀りて曰く、春平君が秦に入るときは、秦必らず之を抑留せんと、故に相共に謀りて之を秦に入らしめたり、然るに、今や君は春平君を抑留す、是れ趙の國交を絕ちて、趙の宮內官の計を適中せしむるなり、君は春平君を放還するに如かず、而して趙の平都を占領せよ、春平君は言行皆趙王に信ぜらる、故に趙王は必らず厚く地を割き、之を秦に獻じて、平都を贖はんと、文信侯呂不韋は之を聞きて曰く、善しと、因て春平君を趙に還らしめたり、

【字解】郎中、宮內官にして、國王に近侍するものなり、平都、趙に於ける春平君の湯沐の邑なり、今の陝西延安府安定縣なり、文信侯、秦の權臣呂不韋なり、

城韓皐、三年、龐煖將攻燕、禽其將劇辛、四年、龐煖將趙楚魏燕之銳師、攻秦蕞、不拔、移攻齊、取饒安、

【講義】此の年に、趙は韓皐に築城す、悼襄王の三年に、龐煖は趙軍に將として燕を攻め、燕の將軍劇辛を虜にす、四年に、龐煖は趙楚魏燕四國の精兵を率ゐて、秦の蕞を攻め、之を取るを得ず、其の兵を轉じて齊を攻め、饒安を取る、

【字解】韓皐、趙の西南境なり、禽、捕虜なり、蕞、秦

【講義】 孝成王の十八年に、延陵鈞は趙軍を率ゐて、趙の宰相信平君に從ひ、魏を助けて燕を攻む、此の年に、秦は趙の楡次三十七城を取る、十九年に趙は燕と其の領地を交換す、趙は龍兌、汾門、臨樂の三城を以て燕に與ふ、燕は葛、武陽、平舒の三城を以て趙に與ふ、二十年に、秦王政は始めて立つ、秦は趙の晉陽を取る、

【字解】 楡次三十七城、今の山西大原地方なり、龍兌、汾門兩邑の名なり、共に今の直隷易州に屬す、臨樂、今の直隷順天府に屬す、葛、武陽、兩邑の名なり、共に今の直隷河閒府に屬す、平舒、今の山西大同府に屬す、晉陽、今の山西大原に在り、

二十一年、孝成王卒、廉頗將攻繁陽取之、使樂乘代之、廉頗攻樂乘、樂乘走、廉頗亡入魏、子偃立、是爲悼襄王、

【講義】 孝成王の二十一年に、王卒す、廉頗は將として魏の繁陽を攻め、之を取る、趙は樂乘をして廉頗に代らしむ、廉頗は樂乘を攻む、樂乘走る、廉頗は亡げて魏に入る、此の年に、孝成王の子偃立つ、是を悼襄王とす、

【字解】 繁陽、魏の領地なり、今の河南彰德府内黄縣の東北に在り、

悼襄王元年、大備魏欲通平邑中牟之道、不成、二年、李牧將攻燕、拔武遂方城、

【講義】 悼襄王の元年に、趙は大に四境の防禦を修む、此の年に、魏は黄河を渡るが爲めに、平邑、中牟兩縣の道路を開通せんと欲して成らず、二年に、李牧は趙軍に將として、燕を攻め、武遂、方城の兩邑を取る、

【字解】 平邑、中牟、魏の兩邑の名なり、共に今の河南に在り、武遂、方城、燕の二城なり、武遂は今の直隷深州安平縣に屬す、方城は今の直隷順天府固安縣なり

秦召春平君、因而留之、泄鈞爲

一可乎、對曰、不可、王曰、吾卽以五而伐一、可乎、對曰不可、燕王大怒、群臣皆以爲可、

【講義】燕王乃ち昌國君樂閒を召して、之を問ふ、樂閒曰く、趙は四方に敵境を控へて、戰鬪に慣れたる國なり、其の民は兵事に習熟す、之を伐つは不可なり、燕王曰く、吾は多數を以て少數を伐つ、卽ち二を以て一を伐つ可ならんか、樂閒曰く、不可なり、燕王曰く、吾は五を以て一を伐つ可ならんか、樂閒曰く、不可なり、燕王は大に怒る、群臣皆曰く、可なり、

燕卒起二軍、車二千乘、栗腹將而攻鄗、卿秦將而攻代、廉頗爲趙將、破殺栗腹、虜卿秦樂閒、十六年、廉頗圍燕、以樂乘爲武襄君、十七年、假相大將武襄君、攻燕圍其國、

【講義】燕は終に二軍を起す、車兵二十萬人有り、栗腹は之に將として趙の鄗を攻め、卿秦は之に將として、代國を攻む、是に於て、廉頗は趙の將と爲り、燕軍を破りて栗腹を殺し、卿秦樂閒を虜にす、孝成王の十六年に、廉頗は燕を圍む、此の年に趙は樂乘を以て武襄君とす、十七年に趙の假相にして大將なる武襄君は、燕を攻め其の首都を圍む、

【字解】乘、車兵一百人なり、鄗、今の直隸趙州高邑なり、國、其の國の首都なり、

十八年、延陵鈞率師、從相國信平君、助魏攻燕、秦拔我楡次三十七城、十九年、趙與燕易土、以龍兌、汾門、臨樂與燕、燕以葛武陽平舒與趙、二十年、秦王政初立、秦拔我晉陽、

年の五月に、之を取る、趙の將軍樂乘及び慶舍は、秦の信梁の軍を攻め、之を破る、此の年に、趙の太子死す、秦は西周を攻め、之を取る、徙父祺は趙軍を率ゐて、境を出で秦を制す、

【字解】昌壯、昌城なり、數章の前に解す、

十一年、城元氏、縣上原、武陽君鄭安平死、收其地、十二年、邯鄲廥燒、十四年、平原君趙勝死、十五年、以尉文封相國廉頗爲信平君、

【講義】孝成王の十一年に、趙は元氏縣に築城し、上原を縣にす、武陽君鄭安平死す、安平は秦の降將なるを以て、其の死したる後に、趙は其の領地を沒收したり、十二年に、趙の首都なる邯鄲の馬草倉燒失す、十四年に、平原君趙勝死す、十五年に、尉文を以て趙の宰相に封じ、廉頗を信平君とす、

【字解】元氏、今の直隷正定府元氏縣なり、上原、元氏縣に近き地方なり、廥、クワイと讀む、馬を飼ふ芻藁の貯藏所なり、

燕王令丞相栗腹約驩、以五百金、爲趙王酒、還歸報燕王曰、趙氏壯者、皆死長平、其孤未壯、可伐也、

【講義】燕王は宰相栗腹に命じ、趙に赴き平和を約せしめ、五百金を酒料に獻じ、趙王の壽を祝す、栗腹は還りて燕王に報じ曰く、趙の壯者は皆長平に死せり、其の孤兒は年未だ兵役に適せず、故に今の時に於て趙を伐つ可し、

【字解】驩、平和の歡なり、壯、年三十を壯といふ、然れども、是處にては兵丁を概稱す、

王召昌國君樂閒而問之、對曰、趙四戰之國也、其民習兵、伐之不可、王曰、吾以衆伐寡、二而伐

十餘萬皆阬之、王悔不聽趙豹之計、故有長平之禍焉、

【講義】 趙は遂に兵を發し、韓の上黨を取りて之を守る、廉頗は趙軍に將として、長平に陣す、孝成王の七年に、廉頗は免職し、趙括は代りて將たり、秦人は趙括を圍む、趙括は軍を率ゐて秦に降る、趙卒四十餘萬は皆不意に擊たれて、嶮崖より擠し殺されたり、是に於て、趙王は趙豹の計を聽かざるに由り、長平の禍を得たるを悔恨す、

【字解】 長平、今の山西澤州府高平縣なり、阬、不意に襲ひ擊ちて、之を鏖殺するなり、險崖より之を擠し陷して殺すが如し、

王還不聽秦、秦圍邯鄲、武垣令傅豹王容蘇射、率燕衆反燕地、趙以靈丘封楚相春申君、八年、平原君如楚請救、還、楚來救、及魏公子無忌亦來救、秦圍邯鄲乃解、

【講義】 趙王は敗軍を見たれども、猶秦の請求に應ぜず、秦軍は遂に趙の首都なる邯鄲を圍む、是に於て、趙燕の境なる武垣の縣令傅豹及び王容と蘇射とは、燕の地に據り、燕の士民を率ゐて、趙に叛く、此の年に、趙は靈丘を以て、楚相春申君を封ず、孝成王の八年に、平原君は楚に往き、救を請ひて還る、楚は來り救ふ、魏の公子無忌も亦來り救ふ、邯鄲の圍は乃ち解けたり、

【字解】 還、猶なり、武垣、今の直隸河間府に屬す、靈丘、今の山西大同府靈丘縣なり、

十年、燕攻昌壯、五月拔之、趙將樂乘慶舍、攻秦信梁軍、破之、太子死、而秦攻西周、拔之、徙父祺出、

【講義】 孝成王の十年に、燕は趙の昌城を攻む、其の

利不可失也、王曰、善、

【講義】趙王は乃ち平原君と趙禹とを召して、此の事を告ぐ、兩人對へて曰く、百萬の軍を發して攻め、其の歳を踰ゆるも一城を取る能はず、然るに今や坐して、城市邑十七を受く、此れ大利なりと、趙王曰く善し、

乃令趙勝受地、告馮亭曰、敝國、使者臣勝、敝國君使勝致命、以萬戶都三、封太守、千戶都三、封縣令、皆世世爲侯、吏民皆益爵三級、吏民能相安、皆賜之六金、

【講義】是に於て、趙王は平原君趙勝を使者として上黨の地を受けしむ、趙勝は馮亭に告げて曰く、敝國の使者臣勝言ふ、敝國の君は勝をして命を傳へむ、趙は萬戶の都三を以て上黨の太守を封ぜん、千戶の都三を以て上黨の縣令を封ぜん、其の太守縣令の子孫は、世世相繼ぎて、皆侯と爲さん、上黨の吏民には、皆爵三級を益し授けん、吏民能く相安んぜよ、皆之に六金を下賜せん、

馮亭垂涕、不見使者、曰、吾不處三不義也、爲主守地、不能死、固不義一矣、入之秦、不聽主令、不義二矣、賣主地而食之、不義三矣、

【講義】馮亭は涕を垂れて趙の使者趙勝に面會せず、自から責めて曰く、吾は三不義に處らず、吾は主の爲めに地を守りて、其の難に死する能はず、固に不義の一なり、吾は地を秦に入るゝ事に於て、主の命令を聽かず、是れ不義の二なり、吾は主の地を賣りて之に食む、是れ不義の三なり、

趙遂發兵、取上黨、廉頗將軍、軍長平、七年、廉頗免、而趙括代將、秦人圍趙括、趙括以軍降、卒四

之於彊大乎、豈可謂非無故之利哉、

【講義】趙豹は尙其の意見を陳べて曰く、夫れ秦は韓を征服せんとして其の勞を累ねたり、然るに趙は上黨の獻を受く、彼の秦は强大なれども、其の利を小弱の韓より取る能はず、此の趙は小弱なれども、却て能く其の利を强大の秦より取る、是れ、理由無き利獲に非ずと謂ふを得んや、

且夫秦以牛田之、水通糧、蠶食上乘倍戰者、裂上國之地、其政行、不可與爲難、必勿受也、

【講義】趙豹は終に上黨を受くることの害を斷言して曰く、且つ夫れ秦は牛を以て田を耕すが如く、必收の利獲を期して、韓を攻め、水運を以て兵糧を送り、上等にして戰に强き韓を侵略し、天子の都に近き韓を裂き、其の政事は既に韓に行はる、是れ趙に取りて畏るべき强敵なり、共に爭ふべからず、故に大王は必らず、上黨を受くる勿れ、

【字解】以牛田之、必收を期したる勞役を稱す、蠶食、前節に在り、上乘、上等なり、倍戰、普通の國に比して數倍の戰鬪力有るをいふ、上國、天子の都に近き國なり、

王曰、今發百萬之軍而攻、踰年歷歲、未得一城也、今以城市邑十七、幣吾國、此大利也、趙豹出、

【講義】趙王曰く、今や百萬の軍を發して攻め、年を踰え歲を歷るも、一城を取る能はず、然るに忽ち城市邑十七を以て、吾趙に贈り來る、此れ大利なりと、趙豹乃ち退出す、

【字解】幣、贈り物なり、獻上品の意なり、

王召平原君與趙禹而告之、對曰、發百萬之軍而攻、踰歲未得一城、今坐受城市邑十七、此大

【講義】其の後三日にして、韓の上黨の太守なる馮亭の使者至る、曰く、韓は上黨を守る能はず、之を秦に致さんとす、然るに上黨の吏民は皆趙と爲るに安心す、秦と爲るを望まず、現在韓の上黨には、城市邑十七有り、願くは再拜して之を趙に獻ぜん、以て大王が韓の上黨の吏民に賜ふ所以を聽かん、

【字解】上黨、數章の前に詳說せり、此の時代に於ける韓の上黨は、上黨の中の殘餘にして、今の山西澤州潞州の地方なり、

王大喜、召平陽君豹告之曰、馮亭入城市邑十七、受之何如、對曰、聖人甚禍無故之利、王曰、人懷吾德、何謂無故乎、

【講義】趙王は之を聞きて大に喜び、平陽君趙豹を召し、之に告げて曰く、韓の上黨の太守馮亭は、城市邑十七を獻ぜんと請ふ、之を受くる如何と、趙豹曰く、聖人は其の理由無くして得る所の利を觀れば、甚だ畏るべき禍と思惟す、今日上黨の利獲は是なりと、趙王曰く、韓人は吾の德を懷ひて、之を獻ず、何ぞ理由無しと謂ふか、

對曰、夫秦蠶食韓氏、地中絕、不令相通、固自以爲坐而受上黨之地也、韓氏所以不入於秦者、欲嫁其禍於趙也、

【講義】趙豹は趙王に對へて曰く、夫れ秦は連年韓國を侵略し、韓の領地は中斷して相通ずるを得ず、故に秦は固に自から謂ふ、坐して韓より獻ずる上黨の地を受けんと、然るに韓が之を秦に獻せざるは何ぞや、秦より來るべき禍を趙に轉嫁せんと欲すればなり、

【字解】蠶食、蠶が桑の葉を食ふが如く、漸次に侵略することなり、

秦服其勞、而趙受其利、雖彊大不能得之於小弱、小弱顧能得

中陽拔之、又攻韓注人拔之、二年惠文后卒、田單爲相、

【講義】此の年に、齊の安平君田單は趙の軍に將として、燕の中陽を攻め、之を取る、更に韓の注人を攻め、之を取る、孝成王の二年に、惠文后卒す、田單は趙の宰相と爲る、

【字解】中陽、故の中山國に屬したる縣名なり、今の直隷保定府唐縣の附近とす、注人、今の河南汝州に屬す、

四年、王夢衣偏裻之衣、乘飛龍上天、不至而墜、見金玉之積如山、明日王召筮史敢占之曰、夢衣偏裻之衣者殘也、乘飛龍上天、不至而墜者、有氣而無實也、見金玉之積如山者、憂也、

【講義】孝成王の四年に、王は怪夢を感ず、其の夢中に、左右の色を異にしたる衣を着て、飛龍に乘じ天に上り、未だ天に達せずして墜落す、金玉の積みたるものが、山の如くなるを見る、明日、王は筮史の敢といふものを召して、之を占はしむ、敢曰く、王の夢は禍の兆なり、左右の色を異にしたる衣を着るは、破損したる貌なり、飛龍に乘じ天に上り、未だ天に達せずして墜落するは、氣有るのみ、實無きなり、金玉の積りて山の如くなるを見るは、憂ふる思ひなり、

【字解】偏裻、ヘントクと讀む、左右の色を異にしたる衣なり、偏は片方なり、裻は衣の背の縫ひ合せなり、因て背より左右に色を分つなり、敢、其の筮史の名なり、殘、破れたることなり、

後三日、韓氏上黨守馮亭使者至、曰、韓不能守上黨、入之於秦、其吏民皆安爲趙、不欲爲秦、有城市邑十七、願再拜入之趙、聽王所以賜吏民、

【講義】觸龍は尙其の說を進めて曰く、此の如く、貴公子にして國家に功勞無きものは、其の身危し、然るに、今や太后は長安君の位を尊寵して、之を封ずるに肥沃の地を以てし、多く之に重要なる器物を授けながら、今に及び長安君をして此の趙國に功勞有らしめず、若しも一朝太后の崩御に遭はんか、長安君は何を以て自から其の身を趙に安んずるを得んや、其の位置甚だ危し、故に老臣は太后が長安君の爲めに計ることの短にして疎なるを見るなり、是の故に、老臣は謂ふ、太后が長安君を愛するは燕后を愛するに如かず、

【字解】媼、太后を指す、膏腴、肥沃の貌なり、山陵崩、太后の崩御を指す、

太后曰、諾、恣君之所使之、於是、爲長安君約車百乘、質於齊、齊兵乃出、

【講義】惠文后は觸龍の利害を明辨したるを聞きて曰く、諾す、余は長安君を以て汝の使ふ所に任すと、是に於て、長安君の爲めに車兵一萬人を附し、往きて齊に質たらしむ、齊兵乃ち出でて趙を助け、秦を制したり、

【字解】君、汝といふを尊び稱したるなり、恣、任すなり、約、整へ備ふるなり、

子義聞之曰、人主之子、骨肉之親也、猶不能持無功之尊、無勞之奉、而守金玉之重也、而況於予乎、

【講義】趙の賢人子義は此の長安君の事を聞きて曰く、人主の子は骨肉の親類なり、然れども其の國に功無くしては、尊位を持するを得ず、其の政に勞すること無くしては、高祿を受くるを得ず、其の功勞無き身を以ては、金玉の重器を守る能はず、忽ち敗亡の禍に接すべし、而るを況んや余の如き疏遠の賤者に於てをや、

齊安平君田單、將趙師、而攻燕

左師公曰、今三世以前、至於趙主之子孫爲侯者、其繼有在者乎、曰無有、曰徽獨趙、諸侯有在者乎、曰老婦不聞也、

【講義】觸龍曰く、今より三世以前を觀て、趙主の子孫が侯と爲るに至るまで、其の公族中の繼承者が、今日に存在するもの有るか、惠文后曰く有らず、觸龍曰く、獨り趙のみに非ず、他の諸侯中に於て、其の公族の子孫が、三世以前より現今に存續したるもの有るか、惠文后曰く、老婦未だ之を聞かず、

【字解】徽、微の誤りなり、無しといふ意なり、故にアラズと訓ず、

曰、此其近者、禍及其身、遠者、及其子孫、豈人主之子、侯則不善哉、位尊而無功、奉厚而無勞、而挾重器多也、

【講義】觸龍曰く、此の如く、其の近きは禍が其の身に及び、其の遠きは禍が其の子孫に及ぶ、以て其の滅亡を致し、三世以前よりの存續者を見る能はず、是れ人主の子は、其の身貴として、其の才德の之に伴はざるに由るか、決して然らず、蓋し其の位尊きも、其の國に功無く、其の祿厚きも、其の政に勞する無く、唯重要なる器物を領有すること多くして、士民の怨望を速くに由るのみ、

【字解】侯則不善哉、「貴くして善からざるか」といふが如し、奉、其の費用の支給なり、重器、珍寶、車馬、服飾等の重要なる器物を指す、

今媼尊長安君之位、而封之以膏腴之地、多與之重器、而不及今令有功於國、一旦山陵崩、長安君何以自託於趙、老臣以媼爲長安君之計短也、故以爲愛之、不若燕后、

【講義】 惠文后曰く、敬諾す、其の兒は齡幾歲ぞ、觸龍曰く、十五歲なり、賤兒は少年なれども、願くは老臣の未だ死に就かざる前に、其の出仕を定め置かん、惠文后曰く、男子も亦其の末子を愛憐するか、觸龍曰く、婦人よりも甚し、惠文后笑ひ曰く、婦人は末子を愛すること殊に甚し、

【字解】 塡溝壑、賤者の死することとなり、死して溝或は壑に埋沒するをいふ、塡、埋まるなり、異、殊になり、

對曰、老臣竊以爲媼之愛燕后、賢於長安君、太后曰、君過矣、不若長安君之甚、

【講義】 觸龍乃ち對へて曰く、老臣は竊に謂ふ、太后の愛を垂るゝ所は、燕后に厚くして長安君に薄しと、惠文后曰く、汝の言ふ所は誤りなり、余は燕后を愛するよりも、長安君を愛すること深し、

【字解】 媼、オウと讀む、親近の談話なるに由り、太后を指して媼と稱したるなり、媼は老婆なり、燕后、惠文后の女なり、燕王に嫁したるを以て燕后と稱す、賢、勝るなり、君、汝を尊びて稱したるなり、

左師公曰、父母愛子、則爲之計深遠、媼之送燕后也、持其踵爲之泣、念其遠也、亦哀之矣、已行非不思也、祭祀則祝之曰、必勿使反、豈非計長久爲子孫相繼爲王也哉、太后曰然、

【講義】 觸龍曰く、父母は其の子を愛すれば之が爲めに計ること深遠なり、前年太后が燕后の燕に嫁するを送るや、其の足を持ちて行くを止め、之が爲めに泣き、其の途の遠きを思ひて哀しみたり、燕后の既に行きたる後も、尙念はざるに非ず、祭祀には神に祈りて曰く、必らず燕后をして趙に還らしむる勿れと、是れ長く燕后の爲めに、子孫相繼ぎて王と爲るを計るものに非ずや、惠文后曰く、然り、

【字解】 踵、足なり、祝、神に祈り告ぐるなり、

つなり、趣、趨るなり、太后、惠文后なり、

太后曰、老婦恃輦而行、曰、食得毋衰乎、曰、恃粥耳、曰、老臣閒者殊不欲食、乃彊步日三四里、少益嗜食、和於身也、太后曰、老婦不能、太后不和之色少解、

【講義】惠文后曰く、老婦も足を病む、唯輦を恃みて行くのみ、觸龍曰く、食は衰ふること無きを得んや、惠文后曰く、粥を恃むのみ、觸龍曰く、老臣は近來殊に食を嗜まず、因て勉め步行すること日に三四里、以て少く食欲を進む、是れ身に血脈の和潤するを以てなり、惠文后曰く、老婦は深宮に在り、汝の如くする能はずと、是に於て其の激昂したる氣色は少しく解け和ぎたり、

【字解】閒者、近來なり、彊、勉めて爲すなり、

左師公曰、老臣賤息舒祺最少、不肖、而臣衰、竊憐愛之、願得補黑衣之缺、以衞王宮、昧死以聞、

【講義】觸龍曰く、老臣に賤兒有り、舒祺と曰ふ、是れ末子にして愚物なり、然れども、臣は老衰して竊に之を愛憐す、願くは宮中侍衞の缺員を補充して、王宮の衞士たるに採用せられんことを、老臣は自から死罪を忘れて之を言上す、

【字解】左師公、觸龍なり、不肖、愚なり、黑衣、宮中侍衞の服なり、昧死、死罪に遭ふことを顧みざるなり、昧は愚にして事を解せざる貌なり、聞、申上ぐるなり、

太后曰、敬諾、年幾何矣、對曰十五歲矣、雖少、願及未塡溝壑而託之、太后曰、丈夫亦愛憐少子乎、對曰、甚於婦人、太后笑曰、婦人異甚、

を賞し、之に號を賜ひ、馬服君とす、三十三年に、惠文王卒し、太子丹立つ、是を孝成王と爲す、

【字解】 閼與、エンヨと讀む、趙の城なり、今の山西沁州に屬す、

孝成王元年、秦伐我、拔三城、趙王新立、太后用事、秦急攻之、趙氏求救於齊、齊曰、必以長安君爲質、兵乃出、太后不肯、大臣彊諫、太后明謂左右曰、復言長安君爲質者、老婦必唾其面、

【講義】 孝成王の元年に、秦は趙を伐ち三城を取る、此の時に當り、趙王は新に立ちて政事を親せず、其の母なる惠文后は權を執る、秦は急に趙を攻む、趙は救を齊に求む、齊曰く、必ず長安君を以て質と爲せよ、斯くすれば齊兵は乃ち出でんと、蓋し長安君とは惠文后の末子なり、故に惠文后は之を聽かず、大臣强ひて諫む、惠文后は明に左右の侍臣に謂ひ曰く、復た長安君の質と爲るを言ふもの有らば、老婦必らず其の面に唾せん、

【字解】 長安君、太后の末子なり、太后は惠文后なり、彊、强なり、

左師觸龍言、願見太后、太后盛氣而胥之、入、徐趨而坐、自謝曰、老臣病足、曾不能疾走、不得見久矣、竊自恕而恐太后體之有所苦也、故願望見太后、

【講義】 趙の左師なる觸龍は之を聞きて、惠文后を諫めんと欲し、拜謁を願ふ、惠文后は氣を盛にし、激昂の色有り、觸龍の入るを待つ、觸龍は趨ること遲くして進み坐す、因て自から謝して曰く、老臣は足を病みて疾く走る能はず、拜謁する能はざる久し、竊に自から推し測り、太后の身に苦む所有らんことを憂慮す、故に拜謁を願出たり、

【字解】 左師、老臣を優待する閑散の官なり、胥、待

東胡、歐代地、

【講義】惠文王の二十五年に、燕周は趙軍に將として、齊の昌城及び高唐を攻め之を取る、此の年に、趙は魏と共に秦を擊つ、秦の將白起は、趙軍を華陽に破り、其の一將軍を捕へたり、二十六年に趙は東胡を攻め取り、代の地を擊ち定む、

【字解】昌城、高唐、兩邑の名なり、共に齊の領地なり、今の山東東昌府に屬す、華陽、今の河南開封府鄭州なり、歐代地、代國は趙の領有なれども、東胡が代を攪亂したるを以て、東胡を取り、代を鎭定したるなり、歐は、ウツと訓ず、

二十七年、徙漳水武平南、封趙豹爲平陽君、河水出、大潦、二十八年、藺相如伐齊、至平邑、罷城北九門大城、燕將成安君公孫操弑其王、

【講義】惠文王の二十七年に、趙は漳水を修堤して、其の流通を武平の南に移したり、此年に趙豹を封じて平陽君と爲す、河水溢れ出で、陸地には雨後の大水氾濫す、二十八年に、藺相如は趙軍に將として齊を伐ち、平邑に至り退軍す、此の年に、趙は其の北境なる九門縣に大城を築造す、燕の將軍成安君公孫操は燕王を弑す、

【字解】武平、前節に解せり、潦、前章に述べたり、平邑、齊の地なり、今の山東青州府に屬す、九門、趙の邑名なり、今の直隸正定府藁城縣の西北に在り、

二十九年、秦韓相攻而圍閼與、趙使趙奢將擊秦、大破秦軍閼與下、賜號爲馬服君、三十三年、惠文王卒、太子丹立、是爲孝成王、

【講義】惠文王の二十九年に、秦韓兩軍相共に來り攻めて、趙の閼與を圍む、趙は趙奢を將軍として、敵に當らしめ、大に秦軍を閼與の城下に破る、因て趙奢

【字解】石城、趙の領地中に於て、今の河南山西直隸三處に石城と稱するもの有り、是は今の河南彰德府の石城なり、東陽、今の河南に在り、貝州の東陽に非ず、是れ衞の領より趙の有に移りたるものなり、魏氏、魏國なり、潦、大水が陸地に流れ入るなり、伯陽、前節に解せり、麥丘、齊の北境なり、

二十年、廉頗將攻齊、王與秦昭王遇西河外、二十一年、趙徙漳水武平西、二十二年、大疫、置公子丹爲太子、

【講義】惠文王の二十年に、廉頗は趙軍に將として齊を攻む、趙王は秦の昭王と西河の外に會見す、二十一年に、趙は漳水を修堤して、其の流通を武平の西に移す、二十二年に、趙は大疫に苦む、此の年に、公子丹を立てゝ太子と爲す、

【字解】遇西河外、謂はゆる澠池の會見なり、西河を渡りて澠池に會したるものならん、道は甚だ迂回す、蓋し史傳に錯誤有るべし、澠池は河南に在り、武平、今の河南歸德府に屬す、

二十三年、樓昌將攻魏幾、不能取、十二月、廉頗將攻幾、取之、二十四年、廉頗將攻魏房子、拔之、因城而還、又攻安陽、取之、

【講義】惠文王の二十三年に、樓昌は趙軍に將として、魏の幾を攻め、之を取る能はず、其の年の十二月に廉頗は將として魏の幾を攻め之を取る、二十四年に廉頗は將として魏の房子を攻め、之を取る、因て築城し凱旋す、更に魏の安陽を攻め、之を取る、

【字解】幾、今の河南彰德府に屬す、魏の邑なり、房子、今の直隸趙州高邑縣なり、安陽、魏の邑なり、今の河南彰德府安陽縣なり、

二十五年、燕周將攻昌城高唐取之、與魏共擊秦、秦將白起破我華陽、得一將軍、二十六年、取

は天下と共に齊を攻むる勿れ、然る時は天下必らず趙王を義なりと謂はん、齊は其の國家を抱持して厚く趙王に事へん、天下列國皆必らず趙王の義を尊重せん、是に於て趙王は天下を率ゐて秦に交るを得べし、秦が暴行を爲すも、趙王は天下を率ゐて之を禁制するを得べし、是れ一世の名譽寵貴が、趙王に由りて制御せらるゝものなり、

於是、趙乃輟謝秦、不擊齊、王與燕王遇、廉頗將攻齊昔陽取之、

【講義】是に於て、趙は蘇厲の說に從ひ、兵を止めて秦に辭謝し、齊を擊たず、既にして趙王は燕王と會見す、趙の廉頗は兵に將として、秦の昔陽を攻め之を取る、

【字解】輟、止むるなり、昔陽、秦の領地なり、本文に齊と書したるは誤りなり、今の山西平定州に屬す、

十七年、樂毅將趙師、攻魏伯陽、而秦怨趙不與己擊齊、伐趙、拔我兩城、

【講義】惠文王の十七年に、樂毅は趙軍を率ゐて、魏の伯陽を攻む、而して秦は趙が齊を擊つに從はざるを怨み、來りて趙を伐ち、其の兩城を取る、

【字解】伯陽、今の河南彰德府安陽縣なり。

十八年、秦拔我石城、王再之衞、東陽決河水、伐魏氏、大潦、漳水出、魏冉來相趙、十九年、秦敗我二城、趙與魏伯陽、趙奢將攻齊麥丘、取之、

【講義】惠文王の十八年に、秦は趙の石城を取る、趙王は再び衞に往き、東陽より河水を決して魏を水攻にす、此の年に、趙は雨後の河水汎濫に遭ふ、漳水溢れ出づ、秦の權臣魏冉は來りて趙の宰相たり、十九年に、秦は趙の兩城を敗る、趙は前年攻取したる伯陽を魏に返還す、趙奢は將として齊の麥丘を攻め之を取る、

ん、願くは趙王の之を熟慮せんことを、
【字解】彊、强なり、孰、熟なり、屬、接續することとなり、有日、近く期日の逼りたるをいふ、

齊倍五國之約、而殉王之患、西兵以禁彊秦、秦廢帝請服、反高平根柔於魏、反巠分先兪於趙、齊之事王、宜爲上佼、而今乃抵辠、臣恐天下後事王者之不敢自必也、願王孰計之也、

【講義】蘇厲は終りに臨み、齊趙の相依るべきを勸めて曰く、之に反して、趙が齊を攻めざるときは、趙の大利となるを得ん、此の場合に於て、齊は燕秦魏韓楚の五國の盟約に反對し、趙王の患難に隨伴せん、齊は兵を西に進めて强秦を制せん、秦は帝號を廢めて降服を請はん、秦は乃ち高平、根柔の兩縣を魏に返還し、巠分、先兪の二城を趙に返還せん、斯くして齊が趙王に事ふることは、最上の親好と爲らん、然るに、今や趙は齊の眞情を察せず、攻伐して其の罪を問ふ、臣は之を觀て憂慮す、天下の人が他日趙王に事ふるときに、其の罪を得んことを畏れて、自から其の心を確定する能はざるに至らんことを、故に、趙王の此に熟計せんことを願ふ、

【字解】倍、背くなり、殉、隨ひ伴ふなり、禁、制するなり、高平、根柔、兩邑の名なり、共に今の河南懷慶府に屬す、巠分、先兪、兩地の名なり、趙の城塞なり、今の山西代州雁門の地方なり、上佼、親好の交なり、辠、罪なり、孰、熟なり、

今王毋與天下攻齊、天下必以王爲義、齊抱社稷而厚事王、天下必盡重王義、王以天下善秦、秦暴王以天下禁之、是一世之名寵制於王也、

【講義】蘇厲は本論を結ぶに、趙の大名譽を以てす曰く、今日の要策として、臣は趙の爲めに望む、趙王

の語有り、今の山西潞安府に屬する地方なり、邯鄲、趙の首都なり、今の直隷廣平府邯鄲縣なり、上郡、今の陝西延安府に屬す、挺關、趙の西邊の關塞なり、楡中、楡林を稱す、今の陝西楡林の地方を指す、斂、チヾムと訓ず、減少することなり、

秦以三郡攻王之上黨、羊腸之西、勾注之南、非王有已、踰勾注、斬常山而守之、三百里而通於燕、代馬胡犬不東下、昆山之玉不出、此三寶者、亦非王有已、

【講義】 蘇厲は倘秦の畏るべきを詳説して曰く、秦が三軍を以て趙の上黨を攻むるときは、太行山の險路なる羊腸阪より西方、及び勾注山より南方、總て趙王の領有たるを失はん、秦が更に勾注山を踰え、常山に據りて守るときは、三百里にして秦燕相通せん、然る時は、代國の駿馬も、胡地の良犬も、東方の趙に入らず、崑山の美玉も掘るを得ず、此の馬犬玉の三寶は、亦趙王の領有たるを失はん、

【字解】 三郡、三軍の誤りなり、斬、其の要害を斷ち截りて敵を制するなり、昆山、崑崙山なり、

王久伐齊、從彊秦攻韓、其禍必至於此、願王孰慮之、且齊之所以伐者、以事王也、天下屬行、以謀王也、燕秦之約成、而兵出有日矣、五國三分王之地、

【講義】 蘇厲は終に趙の滅亡を斷言して曰く、趙王は久しく齊を伐ち、强秦に從ひて韓を攻む、其の禍は必らず前述の如き西方領土の削滅を見るに至らん、且つ夫れ、現在齊の攻伐せらるゝ所以は、齊が趙王に事ふるを以てなり、天下列國は、齊の滅び趙の孤立するに至るを待ち、齊に繼ぎて攻伐を行ひ、以て趙王を滅すことを謀らん、燕秦の盟約は遂に成りて、此の兩國の兵出で、趙を挾み伐つ日は接近せん、其の結果として、燕秦魏韓楚の五國は、趙王の領土を分ち取ら

多し、何ぞ相比するを得んや、

【字解】擅、專有するなり、賦田、民田の租賦を收むるなり、孰與、イヅレゾと訓ず、何ぞ及ばんといふ意なり、若かずといふが如し、

説士之計曰、韓亡三川、魏亡晉國、市朝未變、而禍已及矣、

【講義】蘇厲は尙他說を擧げ、趙の危急を推斷して曰く、今日遊說の士の計策に云ふ、韓が三川を失ひ、魏が晉の故都を失ふときは、韓魏兩國の市朝が未だ變ぜざるも、其の禍は既に先づ趙に及び至らんと、此の說士の言ふ所に就きて、察するも、趙の危急を知るに足らん、

【字解】三川、韓の要地なり、今の河南汝寧府汝陽縣なり、晉國、魏の要地なり、故の晉の都なり、今の山西解州安邑縣なり、禍已及、秦の兵が趙に侵入するをいふなり、

燕盡齊之北地、去沙丘鉅鹿、歛三百里、韓之上黨、去邯鄲百里、

燕秦謀王之河山、閒三百里而通矣、秦之上郡近挺關、至於楡中者、千五百里、

【講義】蘇厲は更に趙の邊境を說き、其の禍の逼るを證して曰く、今や燕は齊の北境を略取し、趙の沙丘鉅鹿を距ること三百里よりも近し、而して韓の上黨は、趙の首都なる邯鄲を距ること一百里に過ぎず、燕秦の兩國は、趙王の河山を踰えんと謀るに、其の間三百里にして、兩國相通ずるを得べし、是れ韓の上黨が秦の支配に屬したるを以てなり、更に秦の上郡より見れば、上郡は趙の挺關に近し、是より千五百里にして趙の西北邊境なる楡中にも至るを得べし、故に燕秦の兩國より、趙を挾み伐つは甚だ易し、

【字解】盡、皆取るなり、沙丘、鉅鹿、兩地の名なり、趙の要衝とす、共に今の直隸平鄉縣に在り、上黨、澤潞、儀、沁、相の諸州を兼ねたる總稱也、本來は韓の領有なりしも、周末に至りては、趙に大半を奪はれ、秦に幾分を割かれたり、故に韓の上黨、或は趙の上黨等

不合、故出兵以劫魏趙、恐天下畏己也、故出質以爲信、恐天下亟反也、故徵兵於韓以威之、聲以德與國、而實伐空韓、臣以秦計、爲必出於此、

【講義】蘇厲は遂に秦の內情を述べて曰く、秦は趙を愛するに非ず、齊を憎むに非ず、韓を亡さんと欲し、東西兩周を呑まんと欲す、故に齊を以て天下に食はしめんとす、其の事の成らざるを恐る、故に兵を出し以て魏趙を劫かす、更に天下の人が秦を畏れんことを恐る、故に秦は列國に質を送りて信を表す、更に天下の人が遂に秦に背かんことを恐る、故に秦は兵を韓に徵し、以て之を威壓す、其空言は同盟なる趙を惠むに在り、其の實行は空虛なる韓を伐つに在り、察するに、秦の計は必ず此の方略に出でん、

【字解】食、食はしむるなり、利を以て人を誘ふなり、與國、同盟國なり、趙を稱す、

夫物固有勢異而患同者、楚久伐而中山亡、今齊久伐而韓必亡、破齊王與六國分其利也、亡韓秦獨擅之、收二周、西取祭器、秦獨私之、賦田計功、王之獲利、孰與秦多、

【講義】蘇厲は更に趙の利少きを論じて曰く、夫れ事物は形勢を異にするも、患害を同くすること有り、曩に楚は久しく伐たれて、楚の未だ亡びざるに中山は亡びたり、今や齊は久しく伐たれて、齊の未だ亡びざるに、韓は必らず亡びん、假りに齊を破りたりとするも、趙王は趙韓魏燕秦楚の六國相共に其の利を分け取るに過ぎず、之に反して、韓を亡したりと假定せよ、此の時には秦獨占して其の利を取らん、斯くなれば、秦は遂に東西の兩周を取り、西して先王の祭器を領收し、總て秦の私利に歸せん、其の結果として田租を取り事功を計るに、趙王の得る所少し、秦の獲る所

順非洽於民人也、祭祀時享非
數常於鬼神也、甘露降、時雨至、
年穀豐熟、民不疾疫、衆人善之、
然而賢主圖之、

【講義】是に於て、蘇厲は齊の爲めに書を趙王に贈り、其の出征を止めて曰く、臣聞く、古の賢君は、理由無くして至るものを憂ふ、蓋し其の德行未だ海內に布かず、其の敎化未だ民人に洽からず、其の時に應ずる祭禮も、供物も、未だ鬼神に常ならず、然るに、甘露降り、好雨至り、衆穀豐熟し、民は疫病に罹らず、是れ衆人の喜ぶ所なり、然れども、此の幸福は理由無くして至りたるものなり、故に賢主は之を憂慮す、

【字解】布、行き渡るなり、下句の洽に同じ、敎順、敎化なり、時享、其の時節に應じたる供物なり、時雨、其の時節に相當なる好き雨なり、草木を養ふ雨なり、年穀、其の年の穀物なり、圖、憂慮して其の反對の禍に備ふるなり、

今足下之賢行功力、非數加於
秦也、怨毒積怒、非素深於齊也、
秦趙與國、以彊徵兵於韓、秦誠
愛趙乎、其實憎齊乎、物之甚者、
賢主察之、

【講義】蘇厲は其の說を進めて秦の賴むべからざるを陳ぶ、曰く、今や趙王の賢行も功力も、未だ數秦に施さず、怨毒も積怒も、未だ素より齊に深からず、秦は何の故を以て趙を助け齊を攻むるか、秦は趙の同盟國と爲り、其の强き勢を以て兵を韓に徵す、秦は誠に趙を愛するか、實に齊を憎むか、其の內情を察せざるべからず、蓋し事物の理由に反する甚しきものは、賢主の考慮する所なり、

【字解】加、施し行ふなり、與國、同盟親交の國なり、

秦非愛趙而憎齊也、欲亡韓而
吞二周、故以齊餤天下、恐事之

闕の下に至る、十年に、秦は自から立ちて西帝と爲る、

【字解】 鄚易、バクエキと讀む、兩邑の名也、今の直隷省易州に在り、南行唐、今の直隷正定府行唐縣なり、魯關、韓の要塞なり、今の河南汝州魯山縣に在り、置、立つなり、

十一年、董叔與魏氏伐宋、得河陽於魏、秦取梗陽、十二年、趙梁將攻齊、十三年、韓徐爲將攻齊、公主死、十四年、相國樂毅將趙秦韓魏燕攻齊、取靈丘、與秦會中陽、

【講義】 惠文王の十一年に、董叔は魏氏と共に宋を伐ち、趙は河陽を魏より取り、秦は梗陽を趙より取る、十二年に趙梁は將として齊を攻む、十三年に韓徐はと將爲り齊を攻む、此の年に惠文王の妹なる公主死す、十四年に趙の宰相にして燕の上將軍なる樂毅は、趙秦韓魏燕の五國に將として齊を攻む、此の年に趙は靈丘を取り、秦と中陽に會す、

【字解】 河陽、今の河南懷慶府に屬す、梗陽、趙の地なり、今の山西太原に屬す、靈丘、今の山西大同府靈丘縣なり、中陽、今の山西汾州に屬す、

十五年、燕昭王來見、趙與韓魏秦共擊齊、齊王敗走、燕獨深入取臨菑、十六年、秦復與趙數擊齊、齊人患之、

【講義】 惠文王の十五年に、燕の昭王は來り見ゆ、趙は韓魏秦の三國と共に、燕を助けて齊を擊つ、齊王敗走す、燕は獨り深く攻め入り、齊の首都臨菑を取る、十六年に、秦は復た趙と共に屢〻齊を擊つ、齊人は之を憂患とす、

蘇厲爲齊遺趙王書曰、臣聞、古之賢君、其德行非布海內也、教

で去る、主父は出でんと欲するも出づるを得ず、居るも食を得ず、雀の子を取りて之を食ひ、三月餘にして、沙丘の宮に餓死したり、

【字解】卽、若しなり、夷、誅滅することなり、鷇、雀の子なり、親鳥より食物を含ませられて生育する雛を鷇といふ、沙丘、前節に解せり、

主父定死、乃發喪赴諸侯、是時王少、成兌專政、畏誅、故圍主父、

【講義】主父は確實に死す、趙は乃ち其の喪を發し之を諸侯に告ぐ、是の時に、惠文王は少年なり、公子成李兌は政を專にし、其の誅戮を畏る、故に主父を圍むに至れり、

【字解】定、確實なり、赴、告ぐなり、

主父初以長子章爲太子、後得吳娃、愛之、爲不出者數歲、生子何、乃廢太子章、而立何爲王、吳娃死、愛弛、憐故太子、欲兩王之、猶豫未決、故亂起、以至父子俱死、爲天下笑、豈不痛乎、

【講義】蓋し主父は其の始に於て、長子章を立て、之を太子とす、後に吳娃卽ち惠后を得て、之を愛し、之が爲めに宮を出でざること數年に及び、子何を生む、乃ち太子章を廢し、何を立て惠文王と爲す、然れども、吳娃死して愛衰ふ、因て故の太子章を憐み、惠文王と竝べて之を王に立てんと欲す、而も猶豫して未だ決定せず、故に亂起り、遂に父子共に殺されて天下の笑に遭ふに至る、豈に痛むべきに非ずや、

主父死、惠文王立、立五年、與燕鄚易、八年、城南行唐、九年、趙梁將、與齊合軍攻韓、至魯關下、及十年、秦自置爲西帝、

【講義】主父死し惠文王立つ、其の立つ五年に、鄚易の兩縣を燕に與ふ、八年に城塞を南行唐に造る、九年に趙梁は將と爲り、齊と共に軍を合せて、韓を攻め魯

の命令なるが如く稱し、以て王を召す、肥義は先づ其の召に應じて入る、忽ち殺されたり、信期は乃ち惠文王と共に賊を防ぎて戰鬪す、

【字解】沙丘、今の直隷省平鄉縣なり、高信、信期なり、

公子成與李兌自國至、乃起四邑之兵入距難、殺公子章及田不禮、滅其黨賊、而定王室、公子成爲相、號安平君、李兌爲司寇、

【講義】此の危急を聞きて、公子成は李兌と共に趙の都より馳せ至る、乃ち四縣の兵を起し、沙丘に於ける惠文王の宮に入り、賊徒を防ぎ、遂に安陽君なる公子章及び田不禮を殺し、其の黨賊を滅し、以て王室を安定したり、是に於て公子成は宰相と爲りて、安平君と號し、李兌は司寇たり、

【字解】國、其の國の首都を稱す、距、防ぐなり、司寇、司法大臣の如し、

公子章之敗、往走主父、主父開之、成兌因圍主父宮、公子章死、公子成李兌謀曰、以章故圍主父、卽解兵吾屬夷矣、乃遂圍主父、令宮中人後出者夷、宮中人悉出、主父欲出不得、又不得食、探爵鷇而食之、三月餘、而餓死沙丘宮、

【講義】是より先に安陽君なる公子章の敗れたるや、安陽君は主父の宮に走る、主父は宮を開きて之を引き入る、公子成李兌は因て主父の宮を圍み攻む、安陽君死す、成兌兩人相謀り曰く、公子章の故を以て主父を圍む、今若しも兵を解き去らば、吾輩は誅滅せられんと、乃ち遂に主父を圍み、令を發して曰く、主父の宮中に在る者は皆出でよ、其の出づるに後れたるものは之を誅滅せんと、是に於て宮中の人は悉く出

る、盜賊の出入には備へざるべからず、今日より後に、若しも吾王を召すもの有らば、必らず先づ吾面を見るを期せよ、我は先づ吾身を以て其の禍害に當らんと欲す、吾の無事なるを見たるときに、吾王は乃ち進み入るべし、

【字解】 矯、曲ぐるなり、詐るなり、擅、我の意思を恣に行ふなり、難、憚るなり、故、事なり、故障なり、

信期曰、善哉、吾得レ聞レ此也、

【講義】 信期は肥義の言を聽き滿足して曰く、善いかな、吾は此の忠烈なる決心を聞くを得たりと、

四年、朝二群臣一、安陽君亦來朝、主父令三王聽二朝一而自從レ旁觀二窺羣臣宗室之禮一、見三其長子章、傫然也反北面爲レ臣、詘二於其弟一、心憐レ之、於レ是、乃欲レ分レ趙而王二章於代一、計未レ決而輟、

【講義】 惠文王の四年に、群臣を參朝せしむ、安陽君なる公子章も代國より來朝す、主父は王をして朝政を聽かしめ、自分は王の側に在りて之を觀る、以て群臣公族の禮を窺ふ、其長子なる安陽君は疲勞したる姿を以て北面し臣位に就き、其の弟なる惠文王の前に屈す、主父は之を憐む、因て趙の領域を分ち、安陽君を立て代國の王と爲さんと欲す、然れども其の計未だ決定せずして止みたり、

【字解】 旁、其の側の坐なり、宗室、王の族人なり、傫、ライと讀む、疲勞したる貌なり、詘、クツと讀む、屈辱なり、輟、止むなり、

主父及王、游二沙丘一、異レ宮、公子章卽以二其徒一、與二田不禮一作レ亂、詐以二主父令一召レ王、肥義先入殺レ之、高信卽與レ王戰、

【講義】 既にして主父は惠文王と共に沙丘に遊び、其の居る所の宮を異にす、安陽君なる公子章は、卽ち其の徒を率ゐて田不禮と共に亂を作し、詐りて主父

子成、以備田不禮之事、

【講義】李兌は肥義の言を聞きて曰く諾す、子は之を勉めよ、吾の子を見るも今年にして已まんと、涕泣して退出す、其の後に李兌は屢公子成に會見し、以て田不禮の亂に備へたり、

異日、肥義謂信期曰、公子與田不禮甚可憂也、其於義也、聲善而實惡、此爲人也不子不臣、吾聞之也、姦臣在朝、國之殘也、讒臣在中、主之蠹也、

【講義】或る日、肥義は信期に謂ひ曰く、公子と田不禮とは甚だ憂ふべきなり、此の人が我に對するは、其の言善くして其の實惡し、是れ其の性質として親に背き君に背く、不子なり、不臣なり、吾は之を聞く、姦臣が朝廷に在るは國家の害なり、讒臣が宮中に在るは君主の禍なり、

【字解】義、我なり、肥義が自分の名を稱せるなり、聲、表面の言辭なり、實、內實の心術なり、殘、害なり、蠹、禍なり、書籍の中より生じて書籍を食ふ蟲なり、

此人貪而欲大、內得主而外爲暴、矯令爲慢、以擅一旦之命、不難爲也、禍且逮國、今吾憂之、夜而忘寐、饑而忘食、盜賊出入、不可不備、自今以來、若有召王者、必見吾面、我將先以身當之、無故而王乃入、

【講義】肥義は尙其の意を信期に告げて曰く、此の田不禮は貪る所多くして望むる所大なり、內に主の寵を得て、外に亂の暴を爲す、君主の命令を詐稱して、倨慢を敢てし、以て一時の寵命を專にすることは、此の人の性質として之を爲すを憚らず、其の凶行の方に猛進す、其の禍は必ず趙の國都に至らん、今や吾は之を憂慮し、夜にも寐るを忘れ、饑うるも食を忘

刑、

【講義】　肥義曰く、不可なり、前年主父は王を以て我に托して曰く、汝の節義を變ずる勿れ、汝の思慮を異にする勿れ、汝の一心を堅く守り、以て汝の身を終るを期せよと、余は乃ち再拜して命を受け、之を記錄せり、今や田不禮の亂を畏れて、吾記錄を忘る、是れ其の節義を變ずることの尤も大なるものなり、進みて嚴令を受けながら、退きて之を全くせず、是れ其の命令に背くことの甚しきものなり、節義を變じ、命令に背きたる臣は刑罰に堪へざる程の大罪なり、

【字解】　而度、而慮、而世、汝の節義、汝の思慮、汝の身命なり、籍、記錄なり、孰大焉、尤も大なりといふ意なり、何ぞ此より大ならんといふは、下句の孰甚焉と均しく見るべし、難、亂なり、負、背くなり、不容於刑、罪大にして何の刑罰を以てするも足らざる程の重きをいふ、

諺曰、死者復生、生者不愧、吾言已在前矣、吾欲全吾言、安得全吾身、且夫貞臣也、難至而節見、忠臣也、累至而行明、子則有賜而忠我矣、雖然吾有語在前者也、終不敢失、

【講義】　肥義は終に李兌に告ぐるに自分の決死を以てす、曰く、俗諺に曰はずや、死者が再び生じ來りて現在の生者を見るも、生者は其死者に對して愧づる所無き節義の一貫を要すと、此の言は我の意を獲たり、吾の言は既に前に在り、吾は吾の言を全くせんと欲す、何ぞ吾の身を全くするを得んや、且つ夫れ貞臣は、患難に遭ひて節義を現す、忠臣は、禍害に當りて操行を明にす、子は忠言を我に贈り、誠實を盡したり、然りと雖も、吾は誤有り、前に在り、我は終に敢て我言を棄てず、

【字解】　安、何なり、累、禍害なり、失、棄つるなり、

李兌曰、諾、子勉之矣、吾見子已今年耳、涕泣而出、李兌數見公

入禍門、以吾觀之、必不久矣、

【講義】李兌は肥義に謂ひ曰く、公子章は强壯にして志驕る、其の徒黨多くして慾望甚だ大なり、是れ私を圖るに近からんか、田不禮の性質は殺戮を敢行して驕恣なり、此の兩人が相結ぶときは、必らず謀有らん、陰賊乃ち起らん、一たび其の身を出して僥倖を求めん、夫れ小人は慾望有り、輕卒に慮るのみ、深謀する無し、徒に其の利を見て其の害を顧みず、同類相推し、倶に禍門に入る、故に、吾を以て之を觀れば、公子章の徒は必らず敗れん、其の久しきを保つ能はず、

【字解】徼幸、僥倖を求むるなり、徼は求むるなり、

子任重而勢大、亂之所始、禍之所集也、子必先患、仁者愛萬物、而智者備禍於未形、不仁不智、何以爲國、子奚不稱疾毋出、傳政於公子成、毋爲怨府、毋爲禍梯、

【講義】李兌は尙其の禍を說き、肥義を警戒して曰く、子は職任重くして勢力大なり、亂の始まる所なり、禍の集る所なり、子は必らず先づ患害を受けん、夫れ仁者は萬物を愛し、智者は禍を未發に備ふ、不仁不智は何を以て國を治めん、子は病を稱すべし、門を出づる勿れ、政權を公子成に傳へよ、怨の本と爲る勿れ、禍の始と爲る勿れ、

【字解】未形、未だ現はれざるなり、爲、治むなり、奚、何ぞなり、府、根本なり、梯、端緒なり、

肥義曰、不可、昔者主父以王屬義也、曰毋變而度、毋異而慮、堅守一心、以歿而世、義再拜受命而籍之、今畏不禮之難、而忘吾籍、變孰大焉、進受嚴命、退而不全、負孰甚焉、變負之臣、不容於

年、主父行新地、遂出代、西遇樓煩王於西河、而致其兵、

【講義】主父が自から使者と爲りて秦に入りしは、何ぞや、蓋し親しく秦の地形を巡察し、因て秦王の人物を觀んと欲したるなり、惠文王の二年に、主父は新領地を巡行し、遂に代國に出で、西に進みて樓煩王と西河に會見し、因て其の兵を徵集したり、

【字解】略、巡察することなり、西河、今の山西汾州府に屬す、

三年、滅中山、遷其王於膚施、起靈壽、北地方從、代道大通、還歸、行賞大赦、置酒酺五日、封長子章爲代安陽君、章素侈、心不服其弟所立、主父又使田不禮相章也、

【講義】惠文王の三年に、趙は中山を滅し、中山王を遠く陝西の膚施に遷す、是に於て常山の靈壽より北方に進み、代國に通ずる道路は、大に利便を開くに至れり、主父は乃ち還りて賞を行ひ、大赦して罪囚を釋き、置酒高會して、群臣に酒食を賜ふこと五日に及べり、此の年に長子なる章を封じて、代國の安陽君と爲す、章は素より驕傲なり、其の弟なる惠文王に由りて封土を得たることを喜ばず、主父は田不禮をして章に輔相たらしめたり、

【字解】膚施、今の陝西延安府膚施縣なり、靈壽、今の直隸正定府靈壽縣なり、酺、酒食を下賜することなり、

李兌謂肥義曰、公子章彊壯而志驕、黨衆而欲大、殆有私乎、田不禮之爲人也、忍殺而驕、二人相得、必有謀、陰賊起、一出身徼幸、夫小人有欲、輕慮淺謀、徒見其利、而不顧其害、同類相推、俱

り、今の山西大同府に屬す、

二十七年五月戊申、大朝於東宮、傳國、立王子何以爲王、王廟見禮畢、出臨朝、大夫悉爲臣、肥義爲相國、幷傅王、是爲惠文王、惠文王惠后吳娃子也、武靈王自號爲主父、

【講義】武靈王の二十七年五月、戊申の日に、王は大に群臣を東宮に引見して、國を傳ふる禮を擧げ、王子何を立て、之を趙王と爲す、趙王は宗廟謁見の禮畢り出でて、政事堂に臨む、大夫は悉く臣と爲る、肥義は宰相たり、兼ねて王の傅たり、此の趙王を惠文王といふ、惠文王は惠后卽ち吳娃の子なり、武靈王は乃ち自から主父と號す、

主父欲令子主治國、而身胡服將士大夫、西北略胡地、而欲從雲中九原直南襲秦、於是、詐自爲使者入秦、秦昭王不知、已而怪其狀甚偉、非人臣之度、使人逐之、而主父馳已脫關矣、審問之、乃主父也、秦人大驚、

【講義】主父は惠文王をして國を治むるに主たらしめんと欲し、其の身は胡服し士大夫を引率して、西北し胡地を略取す、遂に雲中九原より直に南し、秦を襲はんと欲す、是に於て、詐り自から使者と爲りて秦に入る、秦の昭王は之を知らず、既にして其の狀貌の偉大なるを怪しむ、人臣の態度に非るを疑ひ、其の歸去するに當り、人をして之を追跡せしむ、而るに主父は馳せて既に關を脫出せり、昭王は後に之を審問して、其の主父なるを知る、秦人は大に驚きたり、

主父所以入秦者、欲自略地形、因觀秦王之爲人也、惠文王二

は乃ち歸り、使を列國に發す、樓緩を秦に、仇液を韓に、王賁を楚に、富丁を魏に、趙爵を齊に、皆往きて國交を結ばしむ、而して代國の相たる趙固に命じ、胡を治めて其の兵を徴集せしむ、

二十一年、攻中山、趙紹爲右軍、許鈞爲左軍、公子章爲中軍、王幷將之、牛翦將車騎、趙希幷將胡代趙、與之陘、合軍曲陽、攻取丹丘華陽鴟之塞、王軍取鄗石邑封龍東垣、中山獻四邑和、王許之、罷兵、

【講義】 武靈王の二十一年に、趙は中山を攻む、趙紹は右軍たり、許鈞は左軍たり、公子章は中軍たり、而して王は此の三軍に幷せ將たり、牛翦は車騎に將たり、趙希は胡代趙の混成軍に將たり、全軍は陘山に往き、曲陽に軍し、丹丘、華陽、及び鴟塞を攻め取る、而して王の軍は鄗城、石邑、封龍、東垣の四縣を取る、中山は四縣を獻じて和を乞ふ、王は之を許して兵を罷む、

【字解】 陘、陘山なり、今の直隸正定府井陘縣に屬す、曲陽、今の直隸定州曲陽縣なり、丹丘、華陽、鴟之塞、皆中山の要地なり、曲陽に近し、今の直隸定州に在り、鄗、石邑、封龍、東垣、皆趙の邊境に接する要衝の邑なり、東垣は河南の東垣と異なり、

二十三年、攻中山、二十五年、惠后卒、使周紹胡服傅王子何、二十六年、復攻中山、攘地、北至燕代、西至雲中九原、

【講義】 武靈王の二十三年に、趙は中山を攻む、二十五年に武靈王の妃なる惠后卒す、王は周紹をして胡服し、王子何に傅たらしむ、二十六年に復た中山を攻む、遂に遠く敵を擊攘して、北は燕代に至り、西は雲中九原に至る、

【字解】 攘、掃ひ除くなり、雲中、九原、並に胡地な

才傑士の輩出したる有り、且夫れ聖人の制は、身に便利ならしむるを服といひ、事に便利ならしむるを禮といふ、蓋し進退の禮と衣服の制とは、普通の民を治むる爲めに、之を設くるのみ、博識の賢者に向ひて論ずる所以に非ず、

【字解】 淫、邪なり、則、果して然らばなり、無奇行、下句の無秀士と同一の語法なり、奇行無き筈といふ意なり、實際には奇行の士有るを以て、他の說に對する反證と爲すなり、辟、僻なり、便、便利なり、齊、治むるなり、

故、齊民與俗流、賢者與變俱、故諺曰、以書御者、不盡馬之情、以古制今者、不達事之變、循法之功、不足以高世、法古之學、不足以制今、子不及也、

【講義】 武靈王は終に新制の益を結論して曰く、是の故に、普通の民は風俗の習慣と共に行動し、賢明なる士は時勢の變化と共に推移す、故に俗諺に曰く、書中の法を以て馬を御するものは、馬の情を盡さず、古代の制を以て今を治むるものは事の變に達せずと、蓋し法に循ひて變通を知らざる功業は、其の世を隆興せしむるに足らず、古に遵ひて改進を勉めざる學術は、今の時を制馭するに足らず、願ふに子は未だ此に思ひ到らざるなり、

【字解】 齊民、平民なり、普通の民なり、

遂胡服招騎射、二十年、王略中山地、至寧葭、西略胡地、至楡中、林胡王獻馬、歸使樓緩之秦、仇液之韓、王賁之楚、富丁之魏、趙爵之齊、代相趙固主胡、致其兵、

【講義】 是に於て、群臣皆服從す、武靈王は遂に胡服して騎射の士を招集す、其の明年卽ち卽位の第二十年に、王は中山の地を侵略して寧葭に至り、西征して胡地を取り、楡中に至る、林胡王は馬を獻ず、武靈王

一ならず、然れども能く之に王たり、何ぞ其の先世の法に由ること有らんや、歷代の帝王は相承けずして興り立ちたり、何ぞ先代の禮に順ふこと有らんや、伏羲神農は教化を行ふのみ、誅罰せず、黃帝堯舜は、誅罰を行ふも忿怒せず、夏殷周の三王に至るに及びては、時に應じて法を定め、事に因りて禮を定む、法度制令は、各其の時勢民俗の宜しきに適はしめ、衣服器械は、各其の實用に便ならしむるを圖れり、

【字解】襲、ツグと訓ず、相傳へて承るなり、虙戲、伏羲なり、

故禮也不必一道、而便國不必古、聖人之興也、不相襲而王、夏殷之衰也、不易禮而滅、然則反古未可非、而循禮未足多也、

【講義】武靈王は尙其の說を進めて曰く、是の故に禮は一道なるを必要とするに非ず、國に便にするは古法を必要とするに非ず、聖人の興るときには、相傳承せずして、王業を成せり、夏殷兩朝の衰へたるときには、其の禮を改めずして滅亡したり、是に由りて觀れば、古制に反くも誹るべからず、舊禮に順ふも賞するに足らず、

且服奇者志淫、則是鄒魯無奇行也、俗辟者民易、則是吳越無秀士也、且聖人利身謂之服、便事謂之禮、夫進退之節、衣服之制者、所以齊常民也、非所以論賢者也、

【講義】武靈王は更に胡服の利便を陳べて曰く、服制の奇異なるものは、其の民の志が淫邪に赴くとの說有り、然れども、此の說の誤りなるは、鄒魯の實際に照して明なり、鄒魯は先聖の古制に依れる衣服を用ふ、而も其の國に奇異の行を爲すもの有り、或は民俗を鄙く僻らしめば、其の民情も變りて邪辟に赴くとの說有り、然れども、此の說の誤りなるは、吳越の實例に徵して知るべし、吳越は邊鄙の俗なり、而も秀

遠き處に於て、我の宿怨を中山に報復するを得べし、然るに、叔父は中國の民俗に順從し、簡襄兩君の宿志に背反し、胡服の名を惡みて、鄗城の恥辱を忘る、是れ先君に逆ひ國利を棄つるなり、余の望む所に非ず、

公子成再拜稽首曰、臣愚不達於王之義、敢道世俗之聞、臣之辠也、今王將繼簡襄之意、以順先王之志、臣敢不聽命乎、再拜稽首、乃賜胡服、明日服而朝、

【講義】 是に於て、公子成は再拜稽首して曰く、臣は愚なり、大王の胡服する意義に通達せず、敢て世俗の聞知する所を陳べたり、是れ臣の罪なり、今や大王は簡襄兩先君の意を繼がんとし、以て吾趙累世の宿志に順はんとす、臣は何ぞ大王の命に從はざるを得んやと、再拜稽首す、武靈王乃ち胡服を公子成に賜ふ、明日公子成は之を服して參朝す、

【字解】 稽首、頓首を丁寧にすることなり、道、言ふなり、辠、罪なり、敢不、不敢不の三字に同じ、敢てせざらんやと訓ず、敢てするなり、

於是、始出胡服令也、趙文趙造周袑趙俊、皆諫止、王毋胡服、如故法便、

【講義】 是に於て、武靈王は始めて胡服の令を發布す、趙文趙造周袑趙俊は皆諫止して曰く、大王胡服する勿れ、舊法に遵ふを便とす、

王曰、先王不同俗、何古之法、帝王不相襲、何禮之循、虙戲神農、教而不誅、黃帝堯舜、誅而不怒、及至三王、隨時制法、因事制禮、法度制令、各順其宜、衣服器械、各便其用、

【講義】 武靈王曰く、古來の王者は其の時の民俗同

得んや、服制を改め、胡俗に倣ひ、騎射するに非ざれば、何を以て燕三胡秦韓の邊境に備ふるを得んや、

【字解】薄洛、漳水なり、常山上黨、前節に解せり、樓煩、胡地なり、三胡、林胡、樓煩、東胡なり、

且昔者簡主不塞晉陽、以及上黨、而襄主幷戎取代、以攘諸胡、此愚知所明也、先時中山負齊之彊兵、侵暴吾地、係累吾民、引水圍鄗、微社稷之神靈、則鄗幾於不守也、先王醜之、而怨未能報也、

【講義】且つ夫れ吾趙は、進取を以て政策の方針とす、簡主は晉陽の險を塞がず、之を開きて韓の上黨に達する道程を便にし、襄主は戎狄の地を幷せ取り、代國を領し、遂に諸胡を打ち攘へり、是れ愚者も智者も共に知る所の事跡なり、故に、我は此の簡襄兩先主達の遺志を繼ぎ行はんとす、曩の時に中山は齊の强兵を力として、吾趙の地を侵し暴し、吾趙の民を捕へ繋ぎ、河水を引きて鄗の城を攻め圍みたり、此の危急に於て、吾趙が國家の神靈無ければ、鄗は守る能はず、纔に此の神靈に由りて今日に至れり、先君は久しく之を愧づ、而も其の怨は未だ中山に報復するを得ず、

【字解】晉陽上黨、前節に解せり、負、恃むなり、彊、强なり、係累、捕虜にするなり、微、無なり、幾、近なり、逼るなり、醜、恥辱なり、鄗、今の直隷趙州に在り、

今騎射之備、近可以便上黨之形、而遠可以報中山之怨、而叔順中國之俗、以逆簡襄之意、惡變服之名、以忘鄗事之醜、非寡人之所望也、

【講義】武靈王は終に胡服の利便を結論して曰く、今や吾趙が胡服騎射の備を完くせば、近き地に於て、上黨の形勢を便にし、我に有利ならしむるを得べし、

不非者、公焉而衆求、盡善也、今叔之所言者俗也、吾所言者所以制俗也、

【講義】武靈王は更に其の詳を述べて曰く、是の故に、其の去るべきを去り、其の就くべきに就くは、其の時勢の變遷に由るなり、智者と雖も、之を一定する能はず、國土の遠近に從ひて、服裝の相異なるは、聖主賢君と雖も、之を同一にする能はず、蓋し僻遠の地には怪異なること多し、一時の方略に用ふる學問は、辯論を要すること多し、故に、我の知らざることは、之を疑はず、我の意見に異なることは、之を誹らず、我の心を公平にして汎く衆に求むることは、善を盡す道なり、今や叔父の言ふ所は、民俗なり、吾の言ふ所は、民俗を制定する所以の要法なり、

【字解】窮鄕、僻遠の地なり、曲學、其の時に應じたる學問なり、永久の正道に非ざるを以て曲と稱す、

吾國、東有河薄洛之水、與齊中山同之、無舟楫之用、自常山以至代上黨、東有燕東胡之境、而西有樓煩秦韓之邊、今無騎射之備、故寡人無舟楫之用、夾水居之民、將何以守河薄洛之水、變服騎射、以備燕三胡秦韓之邊、

【講義】武靈王は更に趙の地勢より胡服の要を說きて曰く、今夫れ吾趙の國たるや、東に黃河及び薄洛の巨流を控ふ、是れ齊及び中山と其要害を同くす、然るに、舟楫の備りたるもの無し、陸地に於ては、常山より代國及び上黨の邊に至るまで、皆敵境に接す、即ち東には燕と東胡とに界し、西には樓煩及び秦韓に疆す、然るに、趙は騎射の備りたるもの無し、故に、余は舟楫の用ふるに足るものを設けざれば、此の水邊の民を治むるに、何を以て河水薄洛水の要地を守るを

【講義】武靈王乃ち陳べて曰く、夫れ服は用を便にする所以なり、禮は事を便にする所以なり、聖人は鄉國の狀態を觀て、其の宜しきに順ひ服裝を定む、民事の繁簡に因り、其の禮を設けて秩序を理む、是れ其の民を利便にし、其の國を富厚にする所以なり、夫れ髮を剪り身に入墨し、臂を交へて禮し、衽を左前にして着る、是れ東甌南越の民俗なり、齒を染め額に刺青し、野鄙なる冠を被て、大針の縫粗き衣を用ふ、是れ大吳の國風なり、故に、禮制及び服裝は、其の民に由りて相異なるも、其の便に就くは一に相同じ、

【字解】僂、便なり、翦、剪るなり、題、額なり、額に雕るは顏の刺青なり、却冠、鄙しき冠なり、一に鮭冠に作る、魚の皮には造りたる粗野なる冠なり、秫絀、秫は鉥なり、絀は縫なり、大針にて粗く縫ひたる野服なり、

鄉異而用變、事異而禮易、是以聖人、果可以利其國、不一其用、果可以便其事、不同其禮、儒者一師、而俗異、中國同禮、而敎離、況於山谷之便乎、

【講義】武靈王は尙其の說を進めて曰く、蓋し鄉土の異る有れば、其の用ふる所の服裝は變る、民事の異る有れば、其の行ふ所の禮制は易る、是を以て聖人は其の鄉國を利すべきを期す、其の服用を一にせず、其の民事を便にすべきを期す、其の禮制を同くせず、故に、儒者は諸家有りて其の師道を一にするも、其の道を受けたる民俗は、鄉土に由りて異り、中國は諸州有りて、其の禮制を同くするも、其の禮を行ひたる敎化は、民事に由りて改る、何ぞ況んや山谷僻遠の國民を利便にするに於てをや、其の異なるは勿論なり、

【字解】果、終局を期すること、なり、敎離、其の敎化の態が種々に分れて改るをいふ、

故、去就之變、智者不能一、遠近之服、賢聖不能同、窮鄉多異、曲學多辯、不知而不疑、異於己而

方之服、變古之敎、易古之道、逆人之心、而佛學者、離中國、故臣願王圖之也、使者以報、

【講義】 公子成乃ち其の意見を陳べて曰く、臣聞く、中國は耳目聰明にして智慮の普く通じたる人の居る所なり、萬物財用の總て聚る所なり、賢聖の敎を垂れたる所なり、仁義の道を行ふ所なり、詩書禮樂の用ひらる所なり、特異にして穎敏なる技術藝能の試みらるゝ所なり、遠國の人民が觀て之に倣ふ所なり、蠻夷の殊俗が義として之を學ぶ所なり、然るに、今や吾王は此の中國の美風を捨てゝ、遠夷の異服を着け、古聖の敎を變へ、先王の道を換へ、衆人の心に逆ひ、學者の意に悖り、中國を離れて胡狄に親しむ、故に、臣は竊に之を憂ふ、願くは吾王の之を熟慮せんことをと、是に於て使者王緤は、之を武靈王に報告したり、

【字解】 徇、普く達するなり、詩書禮樂、聖王六經の敎なり、政道の本なり、赴、就きて學ぶなり、行、倣ひて之を行ふをいふ、佛、悖るなり、離、背くなり、圖、熟慮するなり、

王曰、吾固聞叔之疾也、我將自往請之、王遂往之公子成家、因自請之、

【講義】 武靈王曰く、吾は固に叔父の疾を聞くなり、我は自から往きて之を請はんとすと、是に於て王は遂に公子成の家に至り、因て自から之に胡服せんことを請ふ、

曰、夫服者所以便用也、禮者所以便事也、聖人觀鄉而順宜、因事而制禮、所以利其民、而厚其國也、夫翦髮文身、錯臂左衽、甌越之民也、黑齒雕題、却冠秫絀、大吳之國也、故禮服莫同、其便一也、

願慕公叔之義、以成胡服之功、使緤謁之叔、請服焉、

【講義】王緤は更に君命を傳へて曰く、今や余は叔父が從政の常則に逆ひ、君命の施行に背き、以て叔父自己の意見を輔けんことを恐る、且つ余は之を聞く、事を成して國に利有るものは、其の行ふ所に邪無し、貴族にして官務に就くものは、其の名譽を傷ふ如き事を爲さずと、故に、余は叔父が必らず君命に從ふを知る、因て叔父の節義を慕ひ、胡服の效果を擧げんことを願ふ、乃ち緤をして之を叔父に告げしむ、請ふ胡服を用ひよ、

【字解】恐、憂慮するなり、從政之經、前節に解せり、貴戚、貴人及び國君の母方の親類なり、累、損傷するなり、ワヅラハスと訓ず、公叔、叔父公子成なり、謁、告ぐるなり、

公子成再拜稽首曰、臣固聞王之胡服也、臣不佞寢疾、未能趨走以滋進也、王命之、臣敢對、因竭其愚忠、

【講義】公子成は王緤の傳へたる君命を聽き、再拜稽首して曰く、臣は固に吾王の胡服することを聞くなり、但し臣は愚にして且つ疾に臥す、未だ趨り進む能はず、忽ち吾王よりの命を拜す、臣敢て之に答ふ、因て臣の愚忠を陳べ盡さんと期す、

【字解】稽首、首を下げて暫く平伏する貌なり、稽は止むるなり、首を地に下げて置くをいふ、不佞、愚なり、不肖なり、竭、盡なり、

曰、臣聞中國者、蓋聰明徇智之所居也、萬物財用之所聚也、賢聖之所教也、仁義之所施也、詩書禮樂之所用也、異敏技能之所試也、遠方之所觀赴也、蠻夷之所義行也、今王舍此而襲遠

義也、今寡人作教易服、而叔不服、吾恐天下議之也、

【講義】武靈王は乃ち王緤をして其の叔父なる公子成に告げしめ、胡服の必要を說く、曰く、余は既に胡服し以て朝見の禮を行はんとす、因て亦吾叔父が胡服を着けんことを希望す、蓋し家は親の命に聽き、國は君の命に從ふ、是れ古今の公行なり、子は親に反かず、臣は君に逆はず、是れ兄弟上下の通義なり、今や余は敎を作り服を改めたり、然るに叔父にして胡服を用ひざるときは、吾恐る天下の人が國制を私議するに至らんことを、

制國有常、利民爲本、從政有經、令行爲上、明德先論於賤、而行政先信於貴、今胡服之意、非以養欲而樂志也、事有所止而功有所出、事成功立、然後善也、

【講義】王緤は尙進みて君命を傳へて曰く、國を治むるには常道有り、然れども民を利するを以て、其の常道の根本とす、政に從ふには常法有り、然れども命令の善く行はるゝを以て最上とす、蓋し君の德を明にするは、先づ賤民より之を諭して、普く君德を知らしむるに在り、國の政を行ふには、先づ貴顯の人に其の制度を信用せられて、之を下に施すに便なるを要す、今や余が胡服する本意は、欲を養ひ志を樂しましむるに非ず、事功の成し遂ぐるを圖るなり、夫れ事は目的に達するを期し、功は端緒を發するを待つ、其の事成り其の功立ちて、然る後に始めて其の善きを見るなり、

【字解】此の一節は、戰國策に比較して其の文字の差異より生ずる意義の轉換を見るべし、止、達するなり、出、始むるなり、

今寡人恐叔之逆從政之經、以輔叔之議、且寡人聞之、事利國者行無邪、因貴戚者名不累、故

德を論ずるものは、民俗の意に和同せず、至大の功を成すものは、衆多の人に謀議せず、古昔舜帝は苗人を征せずして、之に舞樂し、禹王は南夷の裸國に至れば、袒して其の風俗に從ふ、是等は以て其の欲を養ひ其の志を樂しましむるに非ず、德化を論じ功業を完くせんことを務めたるなり、蓋し愚者は既に成れる事にも暗くして、之を知らず、智者は物の未だ形を現ぜざるに、先づ之を覩る、故に、君王は何ぞ胡服に遲疑すること要せん、之を斷行して可なり、

【字解】和、一致なり、有苗、苗人なり、南方の蠻族なり、裸國、南蠻の裸體にて居る國なり、袒、肩の衣を脫ぐなり、約、簡要に成し遂ぐるなり、覩、觀るなり、

王曰、吾不疑胡服也、吾恐天下笑我也、狂夫之樂、智者哀焉、愚者所笑、賢者察焉、世有順我者、胡服之功未可知也、雖驅世以笑我、胡地中山吾必有之、於是遂胡服矣、

【講義】武靈王曰く、吾は胡服に就きて遲疑するに非ず、吾は天下の人が我を嘲笑せんことを恐るゝなり、蓋し狂夫の樂しむ所は智者の悲む所なり、愚者の嘲る所は賢者の思ふ所なり、狂愚と賢智とは、必らず相反す、若しも世に於て、我の見る所に順ふ者有るも、胡服の效果は、未だ現在に知るを得ず、我は獨り其の功用を期するのみ、或は世を擧げて我を嘲るに至ると雖も、胡地中山の兩國を取ることは、我必らず能く之を成し遂げんと、是に於て、武靈王は遂に胡服を斷行したり、

【字解】察、明に視て知るなり、驅世、世を擧げてなり、衆多の人を指す、

使王緤告公子成曰、寡人胡服、將以朝也、亦欲叔服之、家聽於親、而國聽於君、古今之公行也、子不反親、臣不逆君、兄弟之通

寵顯にし、民の功を補ひ、主の德を益す程の事業有るものを通達せしむ、此の寵顯にし通達にする兩者は、臣の身分に對する主道なり、故に、今吾は此の主道を以て、簡襄兩先主の跡を繼ぎ、胡狄の地を開き取らんと欲す、然れども徒に進むときは、吾の世を卒ふるまで、其の成功を見る能はざるを恐る、故に、吾は胡服して敵を弱くせんと欲す、敵の弱きを爲すときは、力を用ふる少くして功を收むる多し、以て衆民の勞を盡さず、前古の功を成すを得べし、夫れ當世に傑出したる力を建つるものは、古來の民俗より譴責を受く、獨智の先見なる慮を行ふものは、傲民の舊習なる怨を生ずるに任す、是の故に、今や吾は胡服し、騎射し以て高世の功業を衆民に敎へんとす、然れども世は必らず我を誹り議せん、之を奈何せん、

【字解】㊂此の一節は、戰國策の文に比すれば、字句節減の間に、意義の差違を生じたるを見るべし、然れども史記は、史記として解釋するを要す、此の類は甚だ多し、讀者は仔細に點檢して可なり、簡襄、趙簡子趙襄子なり、翟、狄なり、寵、寵顯なり、寵愛して引立つるなり、悌、友愛の情義なり、通、通達なり、貴く用ふることなり、序、行ひ成すなり、遺俗之累、前節に詳解せり、鰲、傲に通ず、驕傲なり、

肥義曰、臣聞、疑事無功、疑行無名、王既定負遺俗之慮、殆無顧天下之議矣、

【講義】肥義曰く、臣聞く疑を挾みたる事は功無し、疑を含みたる行は名無しと、故に、事行は勇斷を要す、君王は既に古來の民俗より譴責を受くることを覺悟す、今は殆んど天下の物議を顧みるに足らず、

夫論至德者、不和於俗、成大功者、不謀於衆、昔者舜舞有苗、禹袒裸國、非以養欲而樂志也、務以論德而約功也、愚者闇成事、智者覩未形、則王何疑焉、

【講義】肥義は尙其の說を進めて曰く、夫れ至高の

險阻に據りて、長城を築き、更に藺郭狼を取り、林胡を荏に敗る、然れども其の功は未だ遂げず、今や中山は我の腹心に入り、我は北に於て燕を有ち、東に於て胡を有ち、西に於て林胡樓煩を有ち、秦韓の邊境に及ぶ、此の如く廣大なる領域なるも、强兵の以て救ふに足るもの無し、是れ竟に我の國家を亡ふに至らん、之を奈何せん、夫れ當世に傑出したる功を建つる者は、必らず古來の民俗より譴責を受く、故に、我は其の譴責を辭せずして、胡人の服裝を着けんと欲すと、

【字解】 障、漳に通ず、漳水なり、滏、滏水なり、藺、前節に在り、郭狼、荏、竝に戎狄の地なり、彊、强なり、林胡、樓煩、共に北狄なり、社稷、國家なり、遺俗、古來の民俗なり、累、譴責なり、遺俗之累、といふは、世俗より怪しまれ誹らるゝことなり、

樓緩曰善、群臣皆不レ欲、於レ是肥義侍、

【講義】 樓緩は此の武靈王の言を聽きて曰く、善しと、然れども群臣は皆之を欲せず、是に於て肥義は王に侍す、

王曰、簡襄主之烈、計二胡翟之利一、爲二人臣一者、寵レ有二孝悌長幼順明之節一、通レ有二補民益主之業一、此兩者臣之分也、今吾欲下繼二襄主之跡一、開中於胡翟之鄕上、而卒レ世不レ見也、爲二敵弱一、用レ力少而功多、可下以毋レ盡二百姓之勞一、而序中往古之勳上、夫有二高世之功一者、負二遺俗之累一、有二獨智之慮一者、任二驁民之怨一、今吾將三胡服騎射以敎二百姓一、而世必議二寡人一、奈何、

【講義】 武靈王曰く、簡主襄主の威烈は、胡狄の地に就きて、利獲の方略を建てたり、內國の臣に就きては、孝行友愛にして、長幼の道正しき節制有るものを

赤鼎、絶臏而死、趙王使代相趙固迎公子稷於燕送歸、立爲秦王、是爲昭王、

【講義】 武靈王の十八年に、秦の武王は力士孟説と共に、龍形の彫文有る赤鼎を擧げ、臏折れて死す、此の年に、武靈王は代國の相趙固をして、秦の公子稷を燕より迎へしめ、之を秦に送り歸し、立てゝ秦王と爲す、是を昭王といふ、

【字解】 臏、脛の骨なり、稷、秦の公子なり、曩に燕に質たり、

十九年春正月、大朝信宮、召肥義與議天下、五日而畢、王北略中山之地、至於房子、遂之代、北至無窮、西至河、登黄華之上、

【講義】 武靈王の十九年春正月、大に群臣を信宮に朝せしめ、肥義を召し共に天下の事を議す、五日にして畢る、王は遂に北征して、中山國の地を侵略し、房子縣に至り、遂に代國に往き、北して無窮に至り、西して黄河に至り、黄華山の上に登る、

【字解】 房子、今の直隷趙州に屬す、無窮、北の邊境なり、

召樓緩謀曰、我先王因世之變、以長南藩之地、屬阻漳滏之險、立長城、又取藺郭狼、敗林人於荏、而功未遂、今中山在我腹心、北有燕、東有胡、西有林胡樓煩秦韓之邊、而無彊兵之救、是亡社稷奈何、夫有高世之名、必有遺俗之累、吾欲胡服、

【講義】 武靈王乃ち樓緩を召し謀りて曰く、我先王は時勢の變に因りて、南藩の地に生長し、漳水滏水の

【講義】武靈王の十三年に、秦は趙の藺を拔き、趙の將軍莊を虜にす、此の年に、楚魏の兩王は邯鄲に來る、十四年に、趙の將軍何は魏を攻む、十六年に、齊の惠王卒す、武靈王は大陵に遊ぶ、

【字解】藺、邯鄲、大陵、三地は皆前節に解せり、

他日王夢見處女鼓琴而歌、詩曰、美人熒熒兮、顏若苕之榮、命乎命乎、曾無我嬴、異日王飲酒樂、數言所夢、想見其狀、

【講義】他日武靈王は夢中に於て、少女が琴を彈き歌ふを見たり、其歌に曰く、美人有り、熒熒として燿く、其の顏は苕の榮えたるが如し、嗚呼命なるかな、命なるかな、曾て我を美好なりとするもの無しと、其の後の或る日に、武靈王は酒を飲みて樂む、乃ち屢其の夢みたる所を言ひ、其の美人の狀貌を見るを想ふ、

【字解】處女、少女なり、苕、豆の花なり、嬴、美しき貌なり、

吳廣聞之、因夫人而內其女娃嬴孟姚也、孟姚甚有寵於王、是爲惠后、十七年、王出九門、爲野臺、以望齊中山之境、

【講義】趙の大夫吳廣は、武靈王の言を聞き、王の夫人に因り、其の女孟姚と稱する美人を宮に入らしむ、孟姚は甚だ王に寵愛せらる、是を惠后と爲す、十七年、に、王は九門の塞を出で、野望の臺を築き、以て齊と中山との國境を遠眺す、

【字解】娃嬴、美人を稱す、娃は美女なり、嬴は美なる容貌なり、孟姚、趙簡子に告げたる上帝の言中に於ける孟姚其の人なり、之を帝舜の後裔と稱したるは、吳廣が帝舜の遠孫なるを以てなり、蓋し舜の後裔は、虞國に封ぜられ、虞と吳と其音相通ずるを以て、虞氏を吳氏と稱するに至れるなり、上文の趙簡子病中の條を參看すべし、九門、常山に於ける要塞なり、

十八年、秦武王與孟說、舉龍文

五年娶韓女爲夫人、八年韓擊秦不勝而去、五國相王、趙獨否、曰無其實、敢處其名乎、令國人謂已曰君、

【講義】武靈王の三年に、趙は鄗に築城す、四年に韓と區鼠に會す、五年に韓の女を娶り夫人と爲す、八年に韓は秦を擊ち勝たずして去る、此の時に當り、韓魏齊楚燕の五國は皆王と稱す、趙は獨り然らず、曰く其の實無し、敢て其の名に處らんやと、乃ち趙の國人をして趙主を謂ひ、君と曰はしむ、

【字解】鄗、今の直隸趙州府高邑縣なり、區鼠、趙の地なり、河北に在り、

九年、與韓魏共擊秦、秦敗我、斬首八萬級、齊敗我觀澤、十年、秦取我西都及中陽、齊破燕、燕相子之爲君、君反爲臣、十一年、王召公子職於韓、立以爲燕王、使樂池送之、

【講義】武靈王の九年に、趙は韓魏と共に秦を擊つ、秦は趙を敗り首八萬を斬る、齊は趙を觀澤に敗る、十年に秦は趙の西都及び中陽を取る、齊は燕を破る、燕の宰相子之は燕君と爲り、燕君は却て臣と爲る、十一年に武靈王は公子職を韓より召し、立てて燕王と爲す、乃ち樂池をして燕王を送らしむ、

【字解】級、首一個なり、秦制に於て、敵の首一個に位一級を授けたるより、首の數を稱する陪伴字とす、觀澤、趙の地なり、今の直隸大名府に屬す、西都、今の山西汾州府孝義縣なり、中陽、西都の隣地なり、

十三年、秦拔我藺、虜將軍趙莊、楚魏王來過邯鄲、十四年、趙何攻魏、十六年、秦惠王卒、王遊大陵、

藺離石、

【講義】 肅侯の十八年に、齊魏兩國は趙を伐つ、趙は黄河の水を決じて敵に灌ぐ、兩國の兵は乃ち去る、二十二年に張儀は秦に相たり、趙の將軍疵は秦と戰ひて敗る、秦は疵を河西に殺し、趙の藺と離石とを取る、

【字解】 藺、前節に解せり、離石、今の山西汾州府永寧州に屬す、藺に接したる地なり、

二十三年、韓擧與齊魏戰、死于桑丘、二十四年、肅侯卒、秦楚燕齊魏出銳師各萬人、來會葬、子武靈王立、

【講義】 肅侯の二十三年に、韓の將軍擧は、齊魏兩國の兵と戰ひて桑丘に死す、二十四年に、肅侯卒す、秦楚燕齊魏の五國は、各萬人の銳師を出し來りて會葬す、子武靈王立つ、

【字解】 桑丘、燕の地なり、今の直隸易州に在り、

武靈王元年、陽文君趙豹相、梁襄王與太子嗣、韓宣王與太子倉來朝信宮、武靈王少、未能聽政、博聞師三人、左右司過三人、及聽政、先問先王貴臣肥義、加其秩、國三老年八十、月致其禮、

【講義】 武靈王の元年に、陽文君趙豹は趙に宰相たり、魏の襄王は其の太子嗣と共に、韓の宣王は其の太子倉と共に、皆來りて趙の信宮に朝す、武靈王は幼少にして政を聽く能はず、博聞の師三人有り、左右の司過三人有り、既にして武靈王は政を聽くに及び、先づ先王の貴臣肥義を存問し、其の秩祿を加賜し、國の三老にして年齡八十のものには、毎月其の禮待を致す、

【字解】 司過、補佐の官なり、三老、一鄕の長者にして敎導の事を執るものなり、

三年、城鄗、四年與韓會于區鼠、

會見す、三年に、公子范は邯鄲を襲ひ、勝たずして死す、四年に、肅侯は天子に朝す、六年に齊を攻め、高唐を拔く、七年に公子刻は魏の首垣を攻む、

【字解】端氏、今の山西平陽府臨汾縣に屬する地なり、屯留、趙の地なり、今の山西安潞府屯留縣なり、陰晉、趙魏の界なり、今の陝西同州府華陰縣なり、高唐、齊の地なり、今の山東東昌府高唐州なり、首垣、河北に在り、

十一年、秦孝公使商君伐魏、虜其將公子卬、趙伐魏、十二年、秦孝公卒、商君死、十五年、起壽陵、魏惠王卒、

【講義】肅侯の十一年に、秦の孝公は商君をして魏を伐たしめ、其の將軍公子卬を虜にす、趙は魏を伐つ、十二年に秦の孝公卒す、商君死す、十五年に趙は壽陵を築く、此の年に魏の惠王卒す、

【字解】壽陵、山西に於ける國境の長城なり、

十六年、肅侯游大陵、出於鹿門、大戊午扣馬曰、耕事方急、一日不作、百日不食、肅侯下車謝、十七年、圍魏黃不克、築長城、

【講義】肅侯の十六年に、肅侯は大陵に遊び、鹿門に出づ、宰相大戊午は肅侯の馬を控へ諫めて曰く、今や農事の急なる時節なり、一日の耕作を廢すれば、百日の食を失ふと、肅侯は車を下りて之を謝す、十七年に、魏の黃を圍みて克たず、此の年に、國境の西北なる長城を築造す、

【字解】大陵、趙の長城の中の要處なり、今の山西大原府文水縣の東北に在り、鹿門、大陵より西北の要塞なり、黃、今の河南懷慶府に屬す、

十八年、齊魏伐我、我決河水灌之、兵去、二十二年、張儀相秦、趙疵與秦戰敗、秦殺疵河西、取我

十七年、成侯與魏惠王遇葛孽、十九年、與齊宋會平陸、與燕會阿、二十年、魏獻榮椽、因以爲檀臺、二十一年、魏圍我邯鄲、

【講義】成侯の十七年に、成侯は魏の惠王と葛孽に會見す、十九年に齊宋の兩國と平陸に會し、燕と阿に會す、二十年に魏は榮椽を趙に獻ず、趙は此の良材を以て檀臺を造りたり、二十一年に魏は趙を邯鄲に圍む、

【字解】葛孽、河南に在り、魏の地なり、平陸、山東の平陸なり、山西の平陸に非ず、今の山東兗州府汶上縣なり、阿、西阿と稱す、燕趙の界なり、今の直隸保定府高陽縣に屬す、榮椽、精良なる材木なり、

二十二年、魏惠王拔我邯鄲、齊亦敗魏於桂陵、二十四年、魏歸我邯鄲、與魏盟漳水上、秦攻我藺、二十五年、成侯卒、公子緤與太子肅侯爭立、緤敗亡奔韓、

【講義】成侯の二十二年に、魏の惠王は趙の邯鄲を拔く、齊は魏を桂陵に敗る、二十四年に魏は邯鄲を趙に返還す、趙は魏と漳水の上に盟ふ、秦は趙の藺を攻む、二十五年に成侯卒す、公子緤は太子肅侯と立つを爭ふ、緤は遂に敗れ亡げて韓に奔る、

【字解】桂陵、今の山東曹州府に屬す、藺、今の山西汾州府永寧に在り、

肅侯元年、奪晉君端氏、徙處屯留、二年、與魏惠王遇於陰晉、三年、公子范襲邯鄲、不勝而死、四年、朝天子、六年、攻齊、拔高唐、七年、公子刻攻魏首垣、

【講義】肅侯の元年に、端氏縣を晉君より奪ひ、晉君を徙して屯留に處らしむ、二年に、魏の惠王と陰晉に

圍魏惠王、七年、侵齊至長城、與韓攻周、八年、與韓分周以爲兩、九年、與齊戰阿下、十年、攻衞取甄、十一年、秦攻魏、趙救之石阿、十二年、秦攻魏少梁、趙救之、

【講義】成侯の六年に、中山は長城を築く、趙は魏を伐ち、之を涿澤に敗り、魏の惠王を圍む、七年に趙は齊を侵し、長城に至る、遂に韓と共に周を攻む、八年に趙は韓と相謀り、周を分ちて之を兩國と爲す、九年に齊と阿下に戰ふ、十年に衞を攻め甄を取る、十一年に秦は魏を攻む、趙は之を石阿に救ふ、十二年に秦は魏の少梁を攻む、趙は之を救ふ、

【字解】涿澤、濁水と稱す、今の山西蒲州府臨晉縣に在り、阿下、東阿を指す、今の山東泰安府東阿縣なり、甄、今の河南衞輝府に屬す、石阿、今の山西汾州府に屬す、少梁、今の陝西同州府韓城縣なり、

十三年、秦獻公使庶長國伐魏少梁、虜其太子座、魏敗我澮、取皮牢、成侯與韓昭侯遇上黨、十四年與韓攻秦、十五年、助魏攻齊、十六年、與韓魏分晉、封晉君以端氏、

【講義】成侯の十三年に、秦の獻公は庶長國をして、魏の少梁を伐たしめ、魏の太子座を虜にす、此の年に魏は趙を澮に敗り、皮牢を取る、成侯は韓の昭侯と上黨に遇ふ、十四年に趙は韓と共に秦を攻む、十五年に魏を助けて齊を攻む、十六年に韓魏と共に晉を分ちて、其の地を取り、晉君を封ずるに端氏縣を以てす、

【字解】少梁、前節に解せり、澮、皮牢、共に趙の邑なり、今の山西平陽府翼城縣に近し、上黨、韓の地なり、今の山西潞安府潞城縣に屬す、端氏、晉の邑なり、今の山西平陽府臨汾縣に屬す、

爲めに、趙を攻めて趙の剛平を取る、六年に趙は兵を楚に借り、魏を伐ちて棘蒲を取る、八年に魏の黄城を拔く、九年に齊を伐つ、齊は燕を伐つ、趙は燕を救ふ、十年に趙は中山國と房子に戰ふ、

【字解】　靈丘、今の山西大同府靈邱縣なり、廩丘、今の山東曹州府范縣の東南に在り、鬼臺、剛平、共に河北に在り、趙の領地なり、棘蒲、今の直隷趙州に屬す、黄城、今の河南開封府に屬す、房子、今の直隷趙州高邑縣の西南に在り、

十一年、魏韓趙共滅晉、分其地、伐中山、又戰於中人、十二年、敬侯卒、子成侯種立、

【講義】　敬侯の十一年に、魏韓趙は共に晉を滅して、其の地を分ち取る、此の年に趙は中山を伐ちて、中人に戰ふ、十二年に敬侯卒す、子成侯種立つ、

【字解】　中人、中山國の邑なり、今の直隷保定府唐縣に屬す、

成侯元年、公子勝與成侯爭立、爲亂、二年六月雨雪、三年大戊午爲相、伐衛取鄉邑七十三、魏敗我藺、四年、與秦戰高安、敗之、五年、伐齊于鄄、魏敗我懷、攻鄭敗之、以與韓、韓與我長子、

【講義】　成侯の元年に、公子勝は成侯と立つを爭ひて亂を作す、二年六月に雪降る、三年に大戊午は宰相と爲る、衛を伐ち鄉邑七十三を取る、魏は趙を藺に敗る、四年に趙は秦と高安に戰ひて之を敗る、五年に齊を鄄に伐つ、魏は趙を懷に敗る、趙は鄭を攻めて之を敗り、以て韓に與ふ、韓は趙に長子縣を與ふ、

【字解】　藺、今の山西汾州府永寧州に屬す、高安、河東の地なり、鄄、今の山東曹州府濮州の東に在り、懷、今の河南懷慶府武陟縣の西南に在り、長子、今の山西潞安府長子縣なり、

六年、中山築長城、伐魏、敗涿澤、

なり、說、悅ぶなり、

烈侯使使謂相國曰、歌者之田且止、官牛畜爲師、荀欣爲中尉、徐越爲內史、賜相國衣二襲、

【講義】 烈侯は乃ち使をして宰相公仲に謂はしめ曰く、歌者に與ふる田は姑く之を止めよと、乃ち牛畜を官にして師と爲し、荀欣を中尉と爲し、徐越を內史と爲し、公仲に衣二揃を賜ふ、

【字解】 襲、單と複との一揃なり、中尉、首都の警護官なり、

九年、烈侯卒、弟武公立、武公十三年卒、趙復立烈侯太子章、是爲敬侯、是歲魏文侯卒、敬侯元年、武公子朝作亂不克、出奔魏、趙始都邯鄲、

【講義】 烈侯の九年に烈侯卒す、弟武公立つ、武公の十三年に武公卒す、趙は復た烈侯の太子章を立つ、是を敬侯とす、是の歲に魏の文侯卒す、敬侯の元年に武公の子朝は亂を作し克たず、魏に出奔す、趙始めて邯鄲に都す、

【字解】 邯鄲、今の直隸廣平府邯鄲縣なり、

二年、敗齊于靈丘、三年救魏于廩丘、大敗齊人、四年魏敗我兎臺、築剛平以侵衞、五年齊魏爲衞攻趙、取我剛平、六年借兵於楚伐魏、取棘蒲、八年拒魏黃城、九年伐齊、齊伐燕、趙救燕、十年與中山戰于房子、

【講義】 敬侯の二年に、齊を靈丘に敗る、三年に魏を廩丘に救ひ、大に齊人を敗る、四年に魏は趙を兎臺に敗る、趙は剛平に築きて衞を侵す、五年に齊魏は衞の

【講義】其の後一月を經て、烈侯は代國より來り、歌者の田を問ふ、公仲曰く、事を求めて未だ其の可なる者有らずと、之を頃くして、烈侯復た問ふ、公仲は終に與へず、乃ち疾と稱して入朝せず、

番吾君自代來、謂公仲曰、君實好善、而未知所持、今公仲相趙、於今四年、亦有進士乎、公仲曰未也、番吾君曰、牛畜、荀欣、徐越皆可、

【講義】番吾君は代國より來り、公仲に謂ひ曰く、君は實に善を好みて未だ持する所を知らず、今や公仲は趙に相公たり、今に於て四年なり、亦其の選拔を以て士を進むること有るか、公仲曰く、未だ有らず、番吾君曰く、牛畜、荀欣、徐越は皆可なり、

公仲乃進三人、及朝、烈侯復問歌者田何如、公仲曰、方使擇其善者、牛畜侍烈侯、以仁義、約以王道、烈侯逌然、明日荀欣侍、以選練擧賢、任官使能、明日徐越侍、以節財儉用、察度功德、所與無不充、君說、

【講義】公仲乃ち牛畜、荀欣、徐越の三士を推擧す、其の入朝するに及び、烈侯は復た公仲に問ふに歌者の田を以てす、曰く何如と、公仲曰く、方に其の善き者を擇ばしむと、此の日に、牛畜は烈侯に侍す、說くに仁義を以てし、其の要を摘むに王者の道を以てす、烈侯悠然たり、其の明日、荀欣侍す、君に說くに、選練して賢を擧げ、其の官に任ずるには才能の士を使用することを以てす、其の明日徐越は侍し、更に說くに、財用を節減し、費途を儉約し、功德を察し度り、其の與ふる所は充實ならざる無きを以てす、烈侯は之を聽きて悅びたり、

【字解】逌、イウと讀む、悠悠として心の寬なる貌

代國に自立し、一年にして卒す、趙の國人曰く、桓子の立ちたるは襄子の意に非ずと、乃ち共に謀りて桓子の子を殺し、復た獻侯を迎へ立てたり、

【字解】中牟、河北に於ける趙の邑なり、河南の中牟と異なり、

十年、中山武公初立、十三年城平邑、十五年、獻侯卒、子烈侯籍立、烈侯元年、魏文侯伐中山、使太子擊守之、

【講義】獻侯の十年に、中山國の武公は始めて立つ、獻侯の十三年に、平邑に築城す、十五年に獻侯卒す、子烈侯籍立つ、烈侯の元年に、魏の文侯は中山を伐ち太子擊をして之を守らしむ、

【字解】平邑、故の代國に於ける邑なり、

六年、魏韓趙皆相立、爲諸侯、追尊獻子、爲獻侯、烈侯好音、謂相國公仲連曰、寡人有愛、可以貴之乎、公仲曰、富之可、貴之則否、烈侯曰、然、夫鄭歌者槍石二人、吾賜之田人萬畝、公仲曰、諾、不與、

【講義】烈侯の六年に、魏韓趙皆相立ちて、諸侯と爲る、烈侯は乃ち獻子を追尊して、獻侯とす、烈侯は音を好む、因て宰相公仲連に謂ひ曰く、余は愛するもの有り、之を貴くするを得べきか、公仲曰く、之を富ますは可なり、之を貴くするは不可なり、烈侯曰く、然り、彼の鄭の歌者槍石二人有り、吾は之に田を賜ひ、其の一人に萬畝宛を與へんとす、公仲曰く諾と、然れども之を與へず、

居一月、烈侯從代來、問歌者田、公仲曰、求未有可者、有頃烈侯復問、公仲終不與、乃稱疾不朝、

敢失人臣禮、是以先之、

【講義】是に於て、襄子は賞を行ふ、高共を最上の賞とす、張孟同曰く、晉陽の危急に於て、唯高共は功無し、襄子曰く、晉陽の急難に當り、群臣皆懈る、唯共は敢て人臣の禮を失はず、是を以て之を先にす、

於是、趙北有代、南幷知氏、彊於韓魏、遂祠三神於百邑、使原過主霍泰山祠祀、

【講義】是に於て、趙は北に代國を領し、南に知氏を併せ、韓魏よりも強し、遂に三神を百邑に奉祠し、原過をして霍泰山の祠祀を掌らしめ、以て王澤の令旨に報じたり、

【字解】三神、霍泰山、共に前節に詳なり、

其後娶空同氏、生五子、襄子爲伯魯之不立也、不肯立子、且必欲傳位與伯魯子代成君、成君先死、乃取代成君子浣、立爲太子、

【講義】其の後襄子は、空同氏を娶り五子を生む、然れども其の兄伯魯の立たざりしが爲めに、吾子を立つるを肯んぜず、且必ず位を傳へて、伯魯の子なる代成君に與へんと欲す、然るに代成君は先に死せり、因て代成君の子なる浣を取り、之を立てゝ太子と爲したり、

襄子立三十三年卒、浣立、是爲獻侯、獻侯少卽位、治中牟、襄子弟桓子逐獻侯、自立於代、一年卒、國人曰桓子立、非襄子意、乃共殺其子、而復迎立獻侯、

【講義】襄子立ちて三十三年に卒す、浣立つ、是を獻侯とす、獻侯は少年にして位に卽き、河北の中牟に在りて政を行ふ、然るに襄子の弟桓子は、獻侯を逐ひて

貉の地に至り、南に於て晉の別邑を伐ち、北に於て黑姑を滅せんと、襄子乃ち再拜して、此の三神の令旨を受けたり、

【字解】 霍泰山、河東の靈山なり、伉王、伉行の王なり、伉は高きなり、英主を稱す、噣「チウ」と讀む、喙なり、麋、眉なり、䫉、髯なり、膺、胸の上部なり、脩、長きなり、馮、大なり、左衽、戎狄の衣なり、界、介なり、武裝なり、奄、掩ふなり、總てといふ意なり、河宗、黃河の上流の地を指す、休溷、戎狄の地名なり、貉、戎の一種なり、晉別、晉の別邑なり、韓魏の領地を指す、黑胡、戎國なり、

三國攻晉陽、歲餘引汾水、灌其城、城不浸者三版、城中懸釜而炊、易子而食、羣臣皆有外心、禮益慢、唯高共不敢失禮、襄子懼、乃夜使相張孟同私於韓魏、與合謀、以三月丙戌、三國反滅知氏、共分其地、

【講義】 既にして知韓魏の三國は、晉陽を攻むること一年を越えたり、汾水を引きて、晉陽の城に灌ぐ、城は二十四尺の高處を餘すのみ、其の他は水中に沒し、城中の士民は、釜を懸けて炊ぎ、子を易へて食ふ、群臣皆離畔の心有り、禮益〻慢る、唯獨り高共は敢て禮を失はず、襄子は城の危きを懼る、乃ち夜に乘じ、宰相張孟同をして韓魏に私通せしむ、韓魏は遂に共に謀を合す、三月丙戌の日を以て、趙韓魏の三國は、却て知氏を滅し、共に其の領地を分ち取りたり、

【字解】 版、八尺の高度なり、易子、我の子を彼に與へ、其の代りに彼の子を取る、蓋し互に之を食ふなり、宋の世家に詳なり、

於是、襄子行賞、高共為上、張孟同曰、晉陽之難、唯共無功、襄子曰、方晉陽急、群臣皆懈、唯共不

原過從後、至於王澤、見三人、自帶以上可見、自帶以下不可見、與原過竹二節莫通、曰、爲我以是遺趙毋卹、原過既至、以告襄子、

【講義】 原過は襄子に從ひ奔りて後れ、王澤に至る、三異人を澤畔に見る、其の人は帶より上を見るべきも、帶より下を見るべからず、忽ち來りて、原過に竹二節の相塞りたるものを與へ曰く、我の爲めに此の物を毋趙卹に遺れと、原過乃ち受けて、晉陽に至り、之を襄子に呈し、其の事を告げたり、

【字解】 王澤、今の山西絳州正平に在り、

襄子齊三日、親自剖竹、有朱書曰、趙毋卹、余霍泰山山陽侯天使也、三月丙戌、余將使女反滅知氏、女亦立我百邑、余將賜女林胡之地、至于後世、且有伉王、亦黑龍面而鳥噣、鬢麋髭頿、大膺大胷、脩下而馮、左衽界乘、奄有河宗、至于休溷諸貉、南伐晉別、北滅黑姑、襄子再拜、受三神之令、

【講義】 襄子乃ち齋戒する三日、手自から其の竹を剖く、竹中に朱書有り曰く、趙毋卹よ、余は霍泰山の神なる山陽侯の天使なり、三月丙戌の日に、余は汝をして却て知氏を滅せしめん、汝も我を百邑の主に立てよ、余は汝に林胡の地を賜はんとす、後世に至り、汝の家に英主有らん、其の人は黑龍の面にして、鳥の喙なり、鬢有り眉有り、髭有り髯有り、大膺大胷にして、身長く腰以下は大なり、左衽の戎服を着け、武裝したる車馬を用ひ、黃河の上流を領有して、休溷諸

代人憐之、所死地、名之爲摩笄之山、遂以代封伯魯子周、爲代成君、伯魯者襄子兄、故太子、太子蚤死、故封其子、

【講義】 襄子の姉は、之を聞き泣きて天に呼び、其の笄を磨きて自殺したり、代人は之を憐み、其の死したる地を名けて、摩笄の山と稱す、襄子は遂に代を以て伯魯の子周を封じ、代成君と爲す、伯魯は襄子の兄にして、故の太子なり、太子早く死せり、故に其の子を封じたり、

【字解】 摩、磨くなり、笄、ケイと讀む、簪なり、蚤、早くなり、

襄子立四年、知伯與趙韓魏、盡分其范中行故地、晉出公怒、告齊魯、欲以伐四卿、四卿恐、遂共攻出公、

【講義】 襄子立ちて四年に、知伯は趙韓と共に、范中行兩氏の舊領地を盡く分ち取りたり、晉の出公は之を怒り、齊魯に告げて知趙韓魏の四卿を伐たんと欲す、四卿恐れて、遂に共に出公を攻めたり、

出公奔齊、道死、知伯乃立昭公曾孫驕、是爲晉懿公、知伯益驕、請地韓魏、韓魏與之、請地趙、趙不與、以其圍鄭之辱、知伯怒、遂率韓魏攻趙、趙襄子懼、乃奔保晉陽、

【講義】 出公は齊に奔り、途中に死す、知伯乃ち昭公の曾孫驕を立つ、是を晉の懿公とす、知伯益〻驕り、地を韓魏に請ふ、韓魏は之を與ふ、乃ち地を趙に請ふ、趙は與へず、蓋し前年鄭を圍むに當り、知伯が襄子を辱めたる事有るを以てなり、知伯怒り、遂に韓魏を率ゐて趙を攻む、襄子懼れ、乃ち奔りて晉陽を城守す、

【講義】 晉の出公の十一年に、知伯は鄭を伐つ、趙簡子疾む、乃ち太子毋卹をして、兵に將とし鄭を圍ましむ、知伯は醉ひて、酒を擧げ毋卹に灌ぎ擊つ、毋卹の群臣は怒り、之が爲めに死せんと請ふ、毋卹曰く、吾君が毋卹を用ふる所以は、能く辱を忍ぶが爲めなりと、然れども其の心中には、知伯を慍りたり、既にして知伯は鄭より歸り、簡子に謂ひ、毋卹を廢せしめんとす、簡子は聽かず、毋卹は此に由り知伯を怨むに至れり、

【字解】 詬、辱なり、癈、廢なり、

晉出公十七年、簡子卒、太子毋卹代立、是爲襄子、趙襄子元年、越圍吳、襄子降喪食、使楚隆問吳王、

【講義】 晉の出公の十七年に、簡子卒す、太子毋卹は代り立つ、是を趙襄子とす、趙襄子の元年に、越は吳を圍む、襄子は簡子を祭る所の喪饌を減じて、憂思を表し、楚隆をして吳王を慰問せしめたり、

襄子姊、前爲代王夫人、簡子既葬、未除服、北登夏屋、請代王、使廚人操銅枓、以食代王及從者、行斟、陰令宰人各以枓擊殺代王及從官、遂興兵平代地、

【講義】 趙襄子の姊は、曩に代王の夫人たり、襄子は既に簡子を葬りて、未だ服を除かず、北行して夏屋山に登り、代王を招待したり、此の時に襄子は廚人をして銅製の酌器を持たしめ、以て代王及び其の從者に酒食を供へしめ、陰に其の饗應役に命じ、酌を行ふに當り、各其の酌器を以て、代王及び從者を擊殺せしめ、遂に兵を興し代國を平定したり、

【字解】 枓「ト」と讀む、酒を酌む器なり、斟、酌むなり、宰人、饗應役なり、代、今の直隸宣化府蔚州なり、

其姊聞之、泣而呼天、摩笄自殺、

竟有邯鄲柏人、范中行餘邑、入于晉、趙名晉卿、實專晉權、奉邑侔於諸侯、

【講義】晉の定公の二十一年に、簡子は邯鄲を拔く、中行文子は柏人に奔る、簡子は追撃して柏人を圍む、中行文子范昭子は、遂に齊に奔る、趙は竟に邯鄲柏人を併せ有つ、范中行の餘邑は皆晉に入る、是の時に當り、趙は名に於て晉の卿なれども、實に於て晉の權を專にす、其の領地は諸侯に均しく大なり、

【字解】邯鄲、晉の邑なり、今の直隸廣平府邯鄲縣なり、柏人、晉の邑なり、今の直隸順德府唐山縣に屬す、奉邑、領地なり、侔、均しきなり、

晉定公三十年、定公與吳王夫差、爭長於黃池、趙簡子從晉定公卒長吳、定公三十七年卒、而簡子除三年之喪、期而已、是歲越王勾踐滅吳、

【講義】晉の定公の三十年に、定公は吳王夫差と黃池に會して、其の盟の長を爭ふ、此の時に趙簡子は隨行す、定公は卒に吳を長とす、定公の三十七年に定公卒す、簡子は三年即ち再期の喪を除きて、一年即ち一期の喪のみを用ひたり、是の歲に越王勾踐は吳を滅せり、

【字解】黃池、吳晉の兩世家に詳なり、期、一年の喪なり、

晉出公十一年、知伯伐鄭、趙簡子疾、使太子毋卹將而圍鄭、知伯醉、以酒灌擊毋卹、毋卹羣臣請死之、毋卹曰、君所以置毋卹、爲能忍詢、然亦慍知伯、知伯歸、因謂簡子、使廢毋卹、簡子不聽、毋卹由之怨知伯、

知る、故に春秋に書して曰く、趙鞅は晉陽に據りて畔くと、

趙簡子有臣、曰周舍、好直諫、周舍死、簡子每聽朝、常不悅、大夫請皋、簡子曰、大夫無罪、吾聞千羊之皮、不如一狐之腋、諸大夫朝、徒聞唯唯、不聞周舍之鄂鄂、是以憂也、簡子由此、能附趙邑、而懷晉人、

【講義】 趙簡子は臣有り、周舍と曰ふ、直諫を好む、周舍の死したる後に、簡子は朝に臨み、政を聽く每に悅ばず、大夫は皆懼れて罪を請ふ、簡子曰く、大夫は罪無し、吾聞く、千羊の皮は一狐の腋に如かずと、今や諸大夫の參朝は、唯其の唯唯として聽從するを聞くのみ、周舍の鄂鄂として諫諍するを聞かざるなり、是を以て憂思すと、簡子は此の心に由り、能く趙邑の民を服從せしめ、晉國の人を懷け得たり、

【字解】 皋、罪なり、腋、狐の腋下に於ける純白の細毛を指す、鄂、諤なり、

晉定公十八年、趙簡子圍范中行于朝歌、中行文子奔邯鄲、明年衞靈公卒、簡子與陽虎送衞太子蒯聵于衞、衞不內、居戚、

【講義】 晉の定公の十八年に、趙簡子は范中行を朝歌に圍む、中行文子は邯鄲に奔る、其の明年に衞の靈公卒す、簡子は陽虎と共に衞の太子蒯聵を送りて、之を衞に入らしめんとす、衞に拒まれ、之を戚に居らしむ、

【字解】 中行文子、荀寅なり、戚、衞の世家に詳なり、

晉定公二十一年、簡子拔邯鄲、中行文子奔柏人、簡子又圍柏人、中行文子范昭子、遂奔齊、趙

丁未二子奔朝歌、韓魏以趙氏爲請、

【講義】其の年の十一月に、荀櫟韓不佞魏哆は、公命を奉じて范中行兩氏を伐つ、之に克つ能はず、范中行は反て公を伐つ、公は之を撃つ、范中行は敗走す、其の月の丁未の日に、范中行は朝歌に奔る、韓魏は趙氏の爲めに赦免を請ふ、

【字解】朝歌、晉の世家に詳なり、

十二月辛未、趙鞅入絳、盟于公宮、其明年、知伯文子謂趙鞅曰、范中行雖信爲亂、安于發之、是安于與謀也、晉國有法、始亂者死、夫二子已伏罪、而安于獨在、趙鞅患之、

【講義】其の年の十二月辛未の日に、趙鞅は絳に入り、公宮に盟ふ、其の明年に、荀櫟は趙鞅に謂ひ曰く、范中行は信に亂を作すと雖も、之を發したるは、董安于なり、是れ安于は其の謀に與りたるなり、晉國には法有り、亂を始めたるものは死に處す、今や范中行は既に罪に伏したり、然るに安于は獨り存在すと、趙鞅は之を憂慮す、

【字解】絳、晉の世家に詳なり、知伯文子、荀櫟なり、

安于曰、臣死趙氏定、晉國寧、吾死晚矣、遂自殺、趙氏以告知伯、然後趙氏寧、孔子聞趙簡子不請晉君、而執邯鄲午、保晉陽、故書春秋曰、趙鞅以晉陽畔、

【講義】董安于曰く、臣死して趙氏定り、晉國寧し、是れ臣の願ふ所なり、吾が死は後れたりと、乃ち自殺す、趙氏は以て知伯に告ぐ、然る後に、趙氏は安全なるを得たり、孔子は趙鞅が晉君に請はずして、邯鄲の大夫趙午を囚へ、晉陽に楯籠りたるを聞き、其の亂を

趙稷渉賓以邯鄲反、晉君使籍秦圍邯鄲、荀寅范吉射與午善、不肯助秦、而謀作亂、董安于知之、

【講義】 是に於て、趙午の子なる趙稷は、渉賓と共に邯鄲に據りて叛亂す、晉君は籍秦をして邯鄲を圍ましむ、中行寅范吉射は趙午と交深し、故に籍秦を助くるを承諾せず、遂に亂を作さんことを謀る、董安于は其の謀を與り知る、

【字解】 荀寅は中行寅なり、晉は曩に中軍を中行と改稱す、荀氏は中軍に將たりしを以て、之を氏とす、

十月、范中行氏伐趙鞅、鞅奔晉陽、晉人圍之、范吉射荀寅仇人魏襄等、謀逐荀寅、以梁嬰父代之、逐吉射、以范皐繹代之、

【講義】 其の年の十月に、范氏中行氏は、趙鞅を伐つ、鞅は其の邑なる晉陽に奔り、之に據る、晉人は之を圍む、中行范兩氏の仇なる魏襄等は相謀り、中行寅范吉射を逐斥し、梁嬰父を以て寅に代らしめ、范皐繹を以て吉射に代らしめたり、

荀躒言於晉侯曰、君命大臣始亂者死、今三臣始亂、而獨逐鞅、用刑不均、請皆逐之、

【講義】 荀躒は晉侯に言ひ曰く、大臣にして亂を始むるものは死刑とす、是れ君の命じたる所なり、今や范中行趙の三大臣は亂を始めたり、然るに獨り鞅を逐ふ、是れ刑を用ふる均しからざるなり、請ふ皆之を逐はんと、

十一月、荀躒韓不佞魏哆、奉公命、以伐范中行氏、不克、范中行氏反伐公、公撃之、范中行敗走、

還曰、已得符矣、簡子曰、奏之、毋卹曰、從常山上臨代、代可取也、

【講義】是より後に、簡子は盡く諸子を召して、共に語る、遂に毋卹の尤も賢なるを知る、乃ち諸子に告げて曰く、吾は寶符を常山の上に藏む、先づ之を得たるものに賞を與へんと、是に於て、諸子は馳せて常山の上に之き、寶符を求むれども、得る所無し、毋卹は還り曰く、既に符を得たりと、簡子曰く、之を奏上せよ、毋卹曰く、常山の上より代國に臨む、乃ち代國の取るべきを知ると、

簡子於是、知毋卹果賢、乃廢太子伯魯、而以毋卹爲太子、

【講義】簡子は是に於て、毋卹の果して賢なるを知り、太子伯魯を廢し、毋卹を以て太子と爲したり、

後二年、晉定公之十四年、范中行作亂、明年春、簡子謂邯鄲大夫午曰、歸我衞氏五百家、吾將置之晉陽、午許諾歸、而其父兄不聽倍言、趙鞅捕午、囚之晉陽、乃告邯鄲人曰、我私有誅午也、諸君欲誰立、遂殺午、

【講義】其の後二年即ち晉の定公の十四年に、范氏中行氏は晉の亂を作す、其の明年の春に、簡子は邯鄲の大夫趙午に謂ひ曰く、我に衞人五百家を贈れ、吾は此の五百家を晉陽に置かんとすと、趙午は之を承諾して邯鄲に歸る、然れども、其の父兄は之を許さず、遂に簡子の言に背けり、是に於て、簡子は午を捕へ、之を晉陽に拘禁し、邯鄲人に告げて曰く、我は吾の見る所を以て午を誅す、諸君は誰を立てんと欲するかと、遂に午を殺したり、

【字解】歸、贈るなり、衞氏、衞の民なり、往年趙簡子が、衞國より移住せしめたる民なり、倍、背くなり、趙鞅、簡子なり、

は主君の子なり、狄の犬は代國の先祖なり、主君の子は、必らず代國を有たんとす、主君の後裔は政を革め、胡人の服裝を爲し、狄の二國を併せ領するに至らんと、是に於て、簡子は其の姓を問ふ、且つ之を擧げて官に任ぜんとす、道に當るもの曰く、臣は野人なり、天帝の命を傳ふるのみと、遂に去りて見えず、簡子は其の言を書して、之を府に藏せしむ、

【字解】而、汝なり、二國、前節の二翟と異なり、此の二國は趙の武靈王が侵略したる中山及び樓煩等の地を指す、皆北狄の種なり、延、擧用するなり、

異日、姑布子卿見簡子、簡子徧召諸子相之、子卿曰、無爲將軍者、簡子曰、趙氏其滅乎、子卿曰、吾嘗見一子於路、殆君之子也、

【講義】地日趙の姑布子卿は簡子に謁見す、簡子は偏く諸子を召して、之を相せしむ、子卿曰く、此の諸子の中には將軍と爲るべきもの無し、簡子曰く、趙氏は其れ滅びんか、子卿曰く、吾は嘗て一子を路上に見たり、是れ君の子なるが如し、

簡子召子毋卹、毋卹至、則子卿起曰、此眞將軍矣、簡子曰、此其母賤、翟婢也、奚道貴哉、子卿曰、天所授、雖賤必貴、

【講義】簡子乃ち子毋卹を召す、毋卹至る、子卿は之を見て起ち曰く、此れ眞に將軍なり、簡子曰く、此れ其の母賤し、狄の婢なり、何ぞ貴しと謂はんや、子卿曰く、天の授けたる子は賤しと雖も、必らず貴し、

【字解】翟、狄なり、奚、何なり、

自是之後、簡子盡召諸子、與語、毋卹最賢、簡子乃告諸子曰、吾藏寶符於常山上、先得者賞、諸子馳之常山上求、無所得、毋卹

り、子の我を見たるときに、我は何を爲したるか、道に當るもの曰く、其の時に天帝は主君をして熊と羆とを射しめ、皆死せり、簡子曰く、是れなり、且つ子の今告げんとする所は何ぞや、

【字解】 譆、嗟なり、晰、明なり、屏、斥くなり、謁、告ぐるなり、

當道者曰、晉國且有大難、主君首之、帝令主君滅二卿、夫熊與羆皆其祖也、簡子曰、帝賜我二笥皆有副、何也、當道者曰、主君之子將克二國於翟、皆子姓也、

【講義】 道に當るもの曰く、晉國は大難有らんとす、主君は之に首たり、天帝は主君をして二卿を滅せしむ、彼の主君に殺されたる熊と羆とは、皆二卿の祖なりと、簡子曰く、天帝は我に二笥を賜ふ、皆其の副笥有り、何の故ぞやと、道に當るもの曰く、主君の子は狄に於て二國に克たんとす、其の國は皆子姓なり、

【字解】 二卿、范氏中行氏なり、二笥、二國なり、代國と智氏となり、副、子姓を指す、

簡子曰、吾見兒在帝側、帝屬我一翟犬、曰、及而子之長、以賜之、夫兒何謂以賜翟犬、當道者曰、兒主君之子也、翟犬者代之先也、主君之子且必有代、及主君之後嗣、且有革政而胡服、并二國於翟、簡子問其姓而延之以官、當道者曰、臣野人、致帝命耳、遂不見、簡子書藏之府、

【講義】 簡子曰く、吾は一兒が天帝の側に在るを觀たり、天帝は我に一の狄犬を託して曰く、汝の子の成長するを待ちて、此の犬を與へんと、彼の兒は、何に由りて狄の犬を賜ふか、道に當るもの曰く、彼の兒

はず、今や余は虞舜の勳を思ふ、余は虞舜の後裔なる女孟姚を以て汝が七代の孫に嫁せしめんとすと、

【字解】 鈞天、中央の天なり、翟、狄なり、而、汝なり、嬴姓、趙なり、范魁、趙の地なり、冑女、後裔の女なり、配、婦とするなり、余、天帝なり、孟姚、惠后なり、七世之孫、趙の武靈王なり、

董安于受言、而書藏之、以扁鵲言告簡子、簡子賜扁鵲田四萬畝、

【講義】 董安于は趙簡子の言を受けて書し、之を藏す、因て扁鵲の言を以て簡子に告ぐ、簡子は扁鵲を賞して、賜ふに田四萬畝を以てす、

他日簡子出、有人當道、辟之不去、從者怒、將刃之、當道者曰、吾欲有謁於主君、從者以聞、

【講義】 他日簡子は門を出づ、人有り道に當りて立つ、之を斥くるも去らず、簡子の從者怒り、之を殺さんとす、道に當るもの曰く、吾は主君に告ぐる所有らんと欲すと、從者は之を簡子に告ぐ、

【字解】 謁、告ぐるなり、聞、言上するなり、

簡子召之曰、譆吾有所見子晰也、當道者曰、屏左右、願有謁、簡子屏人、當道者曰、主君之疾、臣在帝側、簡子曰、然有之、子之見我、我何爲、當道者曰、帝令主君射熊與羆皆死、簡子曰是、且何也、

【講義】 簡子乃ち之を召し見て曰く、譆吾は子を見たること有り、明なり、道に當るもの曰く、願くは左右の侍臣を斥けよ、竊に告ぐること有らんと、簡子乃ち侍臣を退去せしむ、道に當るもの曰く、主君の疾むときに、臣は天帝の側に在り、簡子曰く然り、之れ有

公の霸を生じ、襄公は秦兵を殽に敗る、遂に襄公の歸りて淫を縱にするに至る、此れ子の聞く所なり、今や吾趙君の疾は、此の繆公と同じ、今より三日を出でず、疾必らず平復せん、平復すれば、必らず言ふ所有らん、

【字解】　昔、昔なり、而、汝なり、讖、豫言なり、間、平復なり、

居二日半、簡子寤、語大夫曰、我之帝所、甚樂、與百神游於鈞天、廣樂九奏萬舞、不類三代之樂、其聲動人心、有一熊、欲來援我、帝命我射之、中熊、熊死、又有一羆來、我又射之、中羆、羆死、帝甚喜、賜我二笥、皆有副、吾見兒在帝側、帝屬我一翟犬、曰、及而子之壯也、以賜之、帝告我、晉國且世衰、七世而亡、嬴姓將大敗周人於范魁之西、而亦不能有也、今余思虞舜之勳、適余將以其冑女孟姚配而七世之孫、

【講義】　其の後二日半にして、簡子寤む、乃ち大夫に語り曰く、我は天帝の宮に至り甚だ樂しむ、遂に百神と中央の天に遊ぶ、天上の廣樂は九奏萬舞す、夏殷周の樂に類せず、其の聲は人心を感動せしむ、忽ち一熊有り、來りて我を攫まんと欲す、天帝は我に命じ之を射る、熊死す、更に一羆來る有り、我は之を射る、羆死す、帝甚だ喜ぶ、我に二笥を賜ふ、皆副笥有り、吾は一兒が天帝の側に在るを見る、天帝は我に一の狄の犬を託して曰く、汝の子の壯年なるに及びて、此の犬を賜はんと、且つ天帝は我に告げて曰く、晉國は世を追ひて衰へんとす、七代を總て滅亡せん、嬴姓は大に周人を范魁の西に敗らん、而も嬴姓は之を領有する能

【講義】晉の頃公の十二年に、趙、韓、魏、范、中行、知の六卿は、法を以て晉の公族なる祁氏羊舌氏を誅す、遂に其の領地を分ちて十縣とす、六卿は各其の族をして、此の新縣の大夫と爲らしむ、此に由りて、晉の公室は益、弱し、其の後十三年に、魯の賊臣陽虎は出奔して晉に來る、趙簡子は賂を受け、之を厚遇す、

趙簡子疾、五日不知人、大夫皆懼、醫扁鵲視之出、董安于問、扁鵲曰、血脉治也、而何怪、在昔秦繆公嘗如此、七日而寤、寤之日、告公孫支與子輿曰、我之帝所甚樂、吾所以久者、適有學也、帝告我、晉國將大亂、五世不安、其後將霸、未老而死、霸者之子、且令而國男女無別、公孫支書而藏之、秦讖於是出矣、獻公之亂、文公之霸、而襄公敗秦師於殽、而歸縱淫、此子之所聞、今主君之疾與之同、不出三日、疾必閒、閒必有言也、

【講義】趙簡子疾む、五日昏睡して人を知らず、大夫皆懼る、醫の扁鵲は其の疾を視て出づ、趙の家臣董安于は之を問ふ、扁鵲曰く、血脉は治る、然るに其の疾むは何の怪物ぞ、昔時秦の繆公は嘗て此の如し、七日にして寤む、其の寤めたる日に、公孫支と子輿とに告げて曰く、我は天帝の宮に至り甚だ樂む、吾の久しく還らざりし所以は正に學ぶこと有ればなり、天帝は我に告げて曰く、晉國は大に亂れんとす、五代の間は安寧ならず、其の後は霸たらんとす、年未だ老いずして死せん、霸者の子は汝の國の男女に縱淫して男女の區別無きに至らしめんと、公孫支は書して之を藏す、秦の豫言は是に於て出でたり、獻公の亂より文

魏獻子之後矣、趙武死、謚爲文子、文子生景叔、

【講義】晉の平公の十二年に、趙武は正卿たり、十三年に吳の延陵の季子は晉に使す、季子曰く、晉國の政は、竟に趙武子韓宣子魏獻子の後裔に歸せんと、趙武死す、謚して文子と爲す、文子は景叔を生む、

景叔之時、齊景公使晏嬰於晉、晏嬰與晉叔向語、嬰曰、齊之政、後卒歸田氏、叔向亦曰、晉國之政、將歸六卿、六卿侈矣、而吾君不能恤也、

【講義】景叔の時に、齊の景公は晏嬰を晉に使す、晏嬰は晉の叔向と語る、嬰曰く、齊の政は後に竟に田氏に歸せん、叔向曰く、晉國の政は、趙、韓、魏、范、中行、知の六卿に歸せんとす、六卿は驕侈なり、然れども吾が晉君は之を恤ふる能はず、

趙景叔卒、生趙鞅、是爲簡子、趙簡子在位、晉頃公之九年、簡子將合諸侯戍于周、其明年、入周敬王于周、辟弟子朝之故也、

【講義】趙景叔卒す、趙鞅を生む、是を簡子とす、趙簡子は位に在り、晉の頃公の九年に、簡子は諸侯を合せ、周の王室を守護せんと欲す、其の明年に周の敬王を周に入らしむ、是れ敬王が其の弟なる子朝の亂を避けたるに由るなり、

晉頃公之十二年、六卿以法誅公族祁氏羊舌氏、分其邑、爲十縣、六卿各令其族爲之大夫、晉公室由此益弱、後十三年、魯賊臣陽虎來奔、趙簡子受賂、厚遇之、

趙武啼泣頓首、固請曰、武願苦筋骨以報子至死、而子忍去我死乎、程嬰曰、不可、彼以我爲能成事、故先我死、今我不報、是以我事爲不成、遂自殺、趙武服齊衰三年、爲之祭邑、春秋祠之、世世勿絶、

【講義】趙武は啼泣頓首し、固く請ひ曰く、武は筋骨を苦しめ以て子に報じ、死に至らんことを願ふ、然るに、子は我を棄てゝ死することを忍ぶか、程嬰曰く、我の死を止むるは不可なり、彼の公孫杵臼は我を以て能く事を成すものとす、故に我に先だちて死せり、今に於て、我は杵臼に報せずんば、是れ我事を以て成らずと爲すに同じからんと、遂に自殺す、趙武は乃ち其の喪に服する三年、其の祭祀を趙氏の邑に修め、春秋に之を祠り、世を累ねて絶えず、

【字解】齊衰、シサイと讀む、喪服なり、

趙氏復位十一年、而晉厲公殺其大夫三郤、欒書畏及、乃遂弑其君厲公、更立襄公曾孫周、是爲悼公、晉由此大夫稍彊、趙武續趙宗二十七年、晉平公立、

【講義】趙武が故位に復して十一年に及びたるとき、晉の厲公は其の大夫郤錡郤犨郤至を殺す、大夫欒書は其の禍の及ぶを畏れ、遂に其の君厲公を弑し、更に襄公の曾孫周を立つ、是を悼公とす、晉は此に由り大夫稍強し、趙武が趙氏の宗家を續ぎたる二十七年に、晉の平公立つ、

平公十二年、而趙武爲正卿、十三年、吳延陵季子、使於晉、曰、晉國之政、卒歸於趙武子、韓宣子、

屠岸賈爲之、矯以君命、幷命群臣、非然孰敢作難、微君之疾、群臣固且請立趙後、今君有命、羣臣之願也、

【講義】 諸將は已むを得ず、乃ち曰く、往時下宮の亂は、屠岸賈の爲す所なり、屠岸賈は君命を矯げ詐りて、群臣に命じたり、然らずんば誰か敢て亂を作さん、吾君の疾無きも、群臣は固に趙の後嗣を立つることを請はんとす、今や君は其の命を下す、是れ群臣の願なり、

【字解】 昝、昔なり、前年なり、下宮、前節に解せり、微、無きなり、

於是、召趙武程嬰、徧拜諸將、遂反與程嬰趙武、攻屠岸賈、滅其族、復與趙武田邑、如故、

【講義】 是に於て、景公は趙武程嬰を召し、徧く諸將を拜せしむ、諸將は遂に却て趙武程嬰と共に屠岸賈を攻めて、其の族を滅したり、景公は復た趙武に田邑を與ふること舊領の如し、

及趙武冠爲成人、程嬰乃辭諸大夫、謂趙武曰、昔下宮之難、皆能死、我非不能死、我思立趙氏之後、今趙武既立、爲成人、復故位、我將下報趙宣孟與公孫杵臼、

【講義】 既にして趙武は冠して成人と爲る、程嬰乃ち諸大夫に告別し、趙武に謂ひ曰く、往年下宮の亂に、皆能く死せり、我は死する能はざるに非ず、我は趙氏の後嗣を立てんことを思ひたり、今や趙武既に立ちて成人と爲り、趙氏の故位に復したり、我は地下に入りて趙宣孟及び公孫杵臼に報ぜんとす、

【字解】 成人、男子が丁年に達したるをいふ、昝、昔なり、

德、下及幽厲無道、而叔帶去周適晉、事先君文侯、至于成公、世有立功、未嘗絶祀、今吾君獨滅趙宗、國人哀之、故見龜策、唯君圖之、

【講義】韓厥は趙の孤兒の存在を知る、乃ち曰く、堯帝の時の功勞者たる大業の子孫にして、晉に在り祭祀を絶ちたるものは、其れ趙氏ならんか、夫れ趙氏は、其の遠祖中衍といふ者より、皆嬴姓なり、中衍は其の面を見れば、人にして、其の喙を見れば鳥の如し、其の子孫は、殷帝大戊及び周の天子を佐けて、皆明德有り、既にして周の幽王厲王が無道なるに及び、中衍の後裔叔帶は、周を去り晉に入り、吾先君文侯に事へて成公に至り、世を累ねて功を立てたり、未だ嘗て祭祀を絶たず、今や吾君は獨り趙氏の本宗を滅す、國人は之を哀む、故に龜卜に見れたり、唯君善く之に處せよ、

【字解】喝、喙なり、策、蓍なり、廣く占兆の意に用ふ、大業、趙の遠祖の名なり、舜の功臣なる伯翳の父なり、

景公問、趙尚有後子孫乎、韓厥具以實告、於是景公乃與韓厥謀立趙孤兒、召而匿之宮中、諸將入問疾、景公因韓厥之衆、以脅諸將、而見趙孤、趙孤名曰武、

【講義】景公は韓厥の言を聽き乃ち問ひ曰く、趙は尚其の後の子孫有るかと、韓厥は細に事實を以て告ぐ、是に於て景公は韓厥と謀り、趙の孤兒を立てんとす、乃ち趙孤を召し、之を宮中に匿し、諸將の公宮に入り疾を問ふを期として、景公は韓厥の士卒を用ひ、諸將を劫し、趙孤に面會せしめんとす、趙孤は名を武と曰ふ、

諸將不得已、乃曰、昔下宮之難、

之乎、抱兒呼曰、天乎、天乎、趙氏孤兒何罪、請活之、獨殺杵臼可也、

【講義】公孫杵臼は詐りて曰く、小人なるかな程嬰や、往時下宮の亂に於て趙氏に殉死する能はず、我と謀りて趙氏の孤兒を匿しながら、今に至り我を賣り、獨り利せんとす、縱令趙氏の孤を立つる能はざるも、舊誼に於て、豈に之を賣るに忍びんやと、乃ち兒を抱き呼びて曰く、天よ天よ、趙氏の孤兒は何の罪ぞ、請ふ之を活せ、獨り杵臼を殺せば可なりと、

【字解】答、昔なり、前日なり、下宮、前節に在り、縱、縱令なり、

諸將不許、遂殺杵臼與孤兒、諸將以爲趙氏孤兒良已死、皆喜、然趙氏眞孤乃反在、程嬰卒與倶匿山中、

【講義】諸將は之を許さず、遂に杵臼と孤兒とを殺す、諸將は趙氏の孤兒實に既に死せりと思惟し、皆喜びたり、然れども、趙氏の眞の孤兒は却て存在す、程嬰は竟に孤兒と共に山中に隱棲す、

居十五年、晉景公疾、卜之、大業之後不遂者爲祟、景公問韓厥、

【講義】其の後十五年にして、晉の景公疾む、乃ち之を卜せしむ、其の兆に曰く、堯帝の時の功勞者たる大業の子孫にして未だ其の褒賞を遂げざるものが祟を爲すと、景公は之を韓厥に問ふ、

【字解】大業、舜帝の功臣なる伯翳の父なり、趙の祖たり、

厥知趙孤在、乃曰、大業之後在晉絕祀者、其趙氏乎、夫自中衍者皆嬴姓也、中衍人面鳥噣、降佐殷帝大戊及周天子、皆有明

程嬰謂公孫杵臼曰、今一索不得、後必且復索之、奈何、公孫杵臼曰、立孤與死孰難、程嬰曰、死易、立孤難耳、

【講義】程嬰は公孫杵臼に謂ひ曰く、今一たび索めて得ず、後必らず復た之を索めん、之を奈何せん、公孫杵臼曰く、遺孤を立つると身死すると孰か難きや、程嬰曰く、遺孤を立つるは難し、身死するは易きのみ、

公孫杵臼曰、趙氏先君遇子厚、子彊爲其難者、吾爲其易者、請先死、乃二人謀、取他人嬰兒負之、衣以文葆、匿山中、

【講義】公孫杵臼曰く、趙氏の先君は子を待遇したること厚し、子は强ひて其の難き事を爲すべし、吾は其の易き事を爲さん、請ふ先づ死せんと、二人乃ち相謀り、他人の小兒を取りて之を負ひ、被するに美麗なる襁褓を以てして、山中に匿れたり、

【字解】嬰兒、小兒なり、嬰は胸なり、胸前に抱かるる小兒なり、文葆、美しき褓なり、葆は褓に通じ用ふ、

程嬰出、謬謂諸將軍曰、嬰不肖、不能立趙孤、誰能與我千金、吾告趙氏孤處、諸將皆喜許之、發師隨程嬰、攻公孫杵臼、

【講義】程嬰は獨り出で、詐りて諸將軍に謂ひ曰く、嬰は不肖なり、趙氏の遺孤を立つる能はず、誰か能く我に千金を與へん、吾は趙氏の遺孤の居處を告げんと、諸將軍皆喜び、之を許す、乃ち兵を發し、程嬰に隨行せしめ、公孫杵臼を攻めたり、

杵臼謬曰、小人哉程嬰、昔下宮之難不能死、與我謀、匿趙氏孤兒、今又賣我、縱不能立、而忍賣

將、攻趙氏於下宮、殺趙朔、趙同、趙括、趙嬰齊、皆滅其族、

【講義】韓厥は、趙朔に告げて曰く、速に亡げよと、朔は肯かずして曰く、子必らず趙の祭祀を絶さずんば、朔は死するも恨まずと、韓厥は許諾し、疾と稱して出でず、屠岸賈は、乃ち君に請はずして、擅に諸將と兵を發し、趙氏を下宮に攻め、趙朔趙同趙括趙嬰齊を殺し、盡く其の族を滅したり、

【字解】下宮、私邸なり、趣、速なり、

趙朔妻、成公姊、有遺腹、走公宮匿、趙朔客曰公孫杵臼、杵臼謂朔友人程嬰曰、胡不死、程嬰曰、朔之婦有遺腹、若幸而男、吾奉之、卽女也、吾徐死耳、

【講義】趙朔の妻は、成公の姊なり、其の腹中に朔の遺子有り、公宮に走り匿る、朔の客に公孫杵臼といふもの有り、杵臼は朔の友なる程嬰に謂ひ曰く、何ぞ死せざると、程嬰曰く、朔の婦に遺腹有り、若しも幸にして男を生まば、吾は之を奉ぜん、若しも女ならば、吾は徐に死せんのみと、

【字解】胡、何なり、卽、若しもなり、

居無何、而朔婦免身、生男、屠岸賈聞之、索於宮中、夫人置兒絝中、祝曰、趙宗滅乎、若號、卽不滅、若無聲、及索、兒竟無聲、已脫、

【講義】其の後久しからずして、朔の婦は分娩し男子を生む、屠岸賈は之を聞きて、宮中を搜索す、夫人は兒を絝の中に匿し、祈禱して曰く、趙の宗家滅亡の運命に在らば、汝は聲を發せよ、若しも滅びずんば、汝は沈默せよと、既にして搜索に遭ふ、兒は竟に聲無し、幸に難を免れたり、

【字解】居、其の後なり、無何、暫くなり、絝、袴なり、若、汝なり、卽、若しもなり、祝、神に告ぐるなり、

君の子に及ばん、然れども君の子の崇る害は、亦君の咎に由り、遂に孫に至らん、趙は世を累ねて益々衰へんとす、

【字解】要、腰なり、兆、卜の判斷なり、

屠岸賈者、始有寵於靈公、及至於景公、而賈爲司寇、將作難、乃治靈公之賊、以致趙盾、徧告諸將曰、盾雖不知、猶爲賊首、以臣弑君、子孫在朝、何以懲皐、請誅之、

【講義】屠岸賈は、初め靈公に寵愛せられ、景公の即位に及びて、賈は司寇たり、亂を作さんとす、乃ち靈公弑逆の徒を取り調べて、趙盾に及ぶ、因て徧く諸將に告げて曰く、盾は之を知らずと雖も、猶是れ賊首たり、臣を以て君を弑したるに、其の子孫は政府に在り、此の如きは何を以て犯罪者を懲すを得ん、請ふ趙盾の子孫を誅滅せんと、

【字解】治、處分するなり、到、及ぶなり、皐、罪なり、

韓厥曰、靈公遇賊、趙盾在外、吾先君以爲無罪、故不誅、今諸君將誅其後、是非先君之意、而今妄誅、妄誅謂之亂臣、有大事而君不聞、是無君也、屠岸賈不聽、

【講義】大夫韓厥曰く、靈公は賊に遇ふ、趙盾は外に在り、吾先君は以て罪無しとす、故に盾を誅せず、然るに今や諸君は其の子孫を誅せんとす、是れ先君の意に非ず、妄に誅を行ふなり、妄に誅を行ふは、之を亂臣と謂ふ、國に大事有るも、君は之を聞かず、是れ君無きに同じと、然れども屠岸賈は之を聽かず、

韓厥告趙朔、趣亡、朔不肯曰、子必不絕趙祀、朔死不恨、韓厥許諾、稱疾不出、賈不請、而擅與諸

ひ、盾は因て亡ぐるを得たり、然れども未だ晉の國境を出でず、此の時に趙穿は靈公を弑して、襄公の弟黑臀を立つ、是を成公と爲す、趙盾は復た還り、晉國の政事を執る、

【字解】扞、防禦するなり、反、餓人は公宮に仕へて公の兵を扞ぐ、故に「反て」といふなり、

君子譏盾爲正卿、亡不出境、反不討賊、故太史書曰、趙盾弑其君、晉景公時、而趙盾卒、諡爲宣孟、子朔嗣、

【講義】君子は趙盾が正卿の身分に居りながら、亡げて國境を出でず、還りて國賊を討ぜざるを譏る、故に太史は書して曰く、趙盾は其の君を弑すと、既にして晉の景公の時に至り、趙盾卒す、諡して宣孟とす、子朔は其の家を嗣ぎたり、

趙朔、晉景公之三年、朔爲晉將下軍救鄭、與楚莊王戰河上、朔娶晉成公姊爲夫人、晉景公之三年、大夫屠岸賈、欲誅趙氏、

【講義】趙朔は、晉の景公の三年に於て、晉の爲めに下軍に將たり、鄭を救ひ、楚の莊王と河上に戰ふ、朔は晉の成公の姊を娶り、夫人とす、晉の景公の三年に、大夫屠岸賈は、趙氏を誅せんと欲す、

初趙盾在時、夢見叔帶持要而哭甚悲、已而笑、拊手且歌、盾卜之、兆絕而後好、趙史援占之曰、此夢甚惡、非君之身、乃君之子、然亦君之咎、至孫趙將世益衰、

【講義】初め趙盾が在世の時に、其の先祖叔帶を夢む、叔帶は腰を擁して哭し、甚だ悲しみ、既にして笑ひ、手を拊ち且つ歌ふ、盾は此の夢をトす、其の兆に曰く、絕えて後に好しと、趙の史援は、之を占筮して曰く、此の夢甚だ惡し、害は君の身に及ぶに非るも、

【字解】成季、趙衰なり、

太子母、日夜啼泣頓首、謂趙盾曰、先君何罪、釋其適子、而更求君、趙盾患之、恐其宗與大夫襲誅之、迺遂立太子、是爲靈公、發兵距所迎襄公弟於秦者、

【講義】太子の母は、日夜に啼泣し頓首して、趙盾に謂ひ曰く、先君何の罪ぞ、其の嫡子を舍てゝ別に君を求むる、是何の故ぞと、趙盾は之を憂慮す、晉の宗室及び大夫が襲ひ來りて、我を誅せんことを恐る、乃ち遂に太子を立つ、是を靈公とす、因て兵を發して、襄公の弟雍を迎へたるものを距ぎ斥けたり、

【字解】適、嫡なり、迺、乃なり、

靈公既立、趙盾益專國政、靈公立十四年益驕、趙盾驟諫、靈公弗聽、及食熊蹯、胹不熟、殺宰人、持其尸出、趙盾見之、靈公由此、懼欲殺盾、

【講義】靈公は既に立つ、趙盾は益〻國政を專にす、靈公は立つ十四年にして、驕恣愈〻甚し、趙盾は驟諫むるも、靈公は之を聽かず、熊の蹯を食はんとす、之を烹て熟せず、乃ち割烹の吏を殺し、其の屍を擔ひ出さしむ、趙盾は之を觀る、靈公は此に由り懼れて、趙盾を殺さんと欲す、

【字解】驟、屢なり、蹯、掌の肉なり、胹、烹るなり、宰人、割烹の吏なり、

盾素仁愛人、嘗所食桑下餓人、反扞救盾、盾以得亡、未出境、而趙穿弑靈公、而立襄公弟黑臀、是爲成公、趙盾復反、任國政、

【講義】趙盾は素より仁なり、人を愛す、嘗て桑樹の下に餓人有るを見て、之に食を與へたり、今や盾の危急を見て、前年の餓人は、却て公の兵を扞ぎ盾を救

同、趙括、趙嬰齊、趙衰從重耳出亡、凡十九年、得反國、重耳爲晉文公、趙衰爲原大夫、居原、任國政、文公所以反國及霸、多趙衰計策、語在晉事中、

【講義】初め重耳の晉に在る時に、趙衰の妻は既に趙同趙括趙嬰齊を生む、趙衰は重耳に從ひ、出亡し、十九年を經て國に歸るを得たり、重耳は晉の文公と爲り、趙衰は原の大夫と爲る、其の原に居るも晉國の政務を執りたり、蓋し文公が晉國に歸りたる所以、及び其の霸業を成したる所以は、趙衰の計策に由ること多し、其の語は載せて晉の事跡の中に在り、

【字解】原、晉の世家に詳なり、語、傳記なり、晉事、晉の世家の事業を指す、

趙衰既反晉、晉之妻固要迎翟妻、而以其子盾爲適嗣、晉妻三子、皆下事之、晉襄公之六年、而趙衰卒、謚爲成季、

【講義】趙衰は既に晉に歸る、其の晉に留めたる妻は、固く衰に請ひて、其の狄に於ける妻を迎へ來らしむ、而して狄の妻の生みたる盾を以て、嫡嗣と爲す、晉に留りたる妻及び其の三子は皆下りて狄の妻子に事ふ、晉の襄公の六年に趙衰卒す、謚して成季といふ、

【字解】翟、狄なり、適、嫡なり、

趙盾代成季、任國政、二年而晉襄公卒、太子夷皐年少、盾爲國多難、欲立襄公弟雍、雍時在秦、使使迎之、

【講義】趙盾は趙衰に代り、國政を執る、二年にして晉の襄公卒す、太子夷皐猶少年なり、盾は國の多難なるが爲めに、襄公の弟なる雍を立てんと欲す、雍は此の時に秦に在り、使をして之を迎へしむ、

使趙夙召霍君於齊、復之、以奉霍太山之祀、晉復穰、

【講義】趙夙は晉の獻公に事ふ、獻公の十六年に、晉は霍、魏、耿を伐つ、而して趙夙は將たり、霍を伐つ、霍公求は齊に奔る、晉大旱す、之を卜すれば曰く、霍の太山は祟を爲すと、乃ち趙夙をして霍君を齊より召さしめ、之を其の國に復歸せしめ、以て霍の太山の祭祀を奉ぜしむ、晉復た豐熟す、

【字解】霍魏耿、皆晉に接近したる姫姓の小國なり、霍は今の山西平陽府霍州に屬す、魏は今の山西解州芮城縣なり、耿は今の山西絳州河津縣の東南なり、穰、穀物の豐熟なり、

晉獻公賜趙夙耿、夙生共孟、當魯閔公之元年也、共孟生趙衰、字子餘、趙衰卜事晉獻公及諸公子、莫吉、卜事公子重耳、吉、即事重耳、

【講義】晉の獻公は耿を滅して、其の地を趙夙に賜ふ、夙は共孟を生む、是れ魯の閔公の元年とす、共孟は趙衰を生む、衰は字を子餘といふ、嘗て晉の獻公及び諸公子に事へんことを卜す、吉ならず、公子重耳に事へんことを卜す、吉なり、即ち重耳に事ふ、

重耳以驪姫之亂、亡奔翟、趙衰從、翟伐廧咎如、得二女、翟以其少女、妻重耳、長女妻趙衰、而生盾、

【講義】重耳は驪姫の亂に由り、晉を亡げて狄に奔る、趙衰は之に從ふ、狄は廧咎如を伐ち、二女を得たり、其の少女を以て、重耳の妻とし、其の長女を以て趙衰の妻とす、既にして長女は趙盾を生む、

【字解】驪姫、廧咎如、共に晉の世家に詳なり、

初重耳在晉時、趙衰妻亦生趙

の良種を產す、盜驪、驊騮、騄耳、皆千里馬の名なり、

繆王使造父御、西巡狩、見西王母、樂之忘歸、而徐偃王反、繆王日馳千里馬、攻徐偃王、大破之、乃賜造父以趙城、由此爲趙氏、

【講義】繆王は造父を御者として、西方を巡狩し、仙女西王母に逢ひ、之を樂みて歸るを忘る、此の時に、徐の偃王は周に叛く、是に於て、繆王は日に千里馬を馳せ、徐の偃王を攻めて、大に之を破る、乃ち造父に賜ふに、趙城を以てす、此より趙氏と爲る、

【字解】徐、今の江蘇徐州府なり、趙城、今の山西霍州趙城縣なり、戰國の趙都に非ず、

自造父已下六世、至奄父、曰公仲、周宣王時伐戎、爲御、及千畝戰、奄父脫宣王、奄父生叔帶、

【講義】造父より以下六世にして、奄父に至る、公仲と曰ふ、周の宣王の時に、王師が戎を伐つに從ひ、其の御者と爲り、千畝の戰に於て、奄父は宣王を脫せしむ、其の子を叔帶とす、

【字解】已、以なり、千畝、今の山西平陽府岳陽の北に在り、

叔帶之時、周幽王無道、去周、如晉、事晉文侯、始建趙氏于晉國、自叔帶以下、趙宗益興、五世而生趙夙、

【講義】叔帶の時に、周の幽王は無道なり、叔帶は周を去り晉に往き、晉の文侯に事ふ、始めて趙氏を晉國に建つ、叔帶より以下、趙氏の宗族は、益〻興る、五世にして趙夙を生む、

趙夙、晉獻公之十六年、伐霍魏耿、而趙夙爲將、伐霍、霍公求奔齊、晉大旱、卜之曰、霍太山爲祟

史記國字解第四卷

晩香　菊池三九郎講述

趙世家第十三

趙氏之先、與秦共祖、至中衍、爲帝太戊御、其後世蜚廉、有子二人、而命其一子、曰惡來、事紂爲周所殺、其後爲秦、惡來弟曰季勝、其後爲趙、

【講義】趙氏の先祖は、秦と相同じ、堯舜時代の賢臣伯翳より出づ、中衍といふものに至り、殷帝太戊の御者と爲る、其の後世を蜚廉といふ、蜚廉は子二人有り、其の長子を惡來といふ、紂王に事へて周に殺さる、其の後裔は秦と爲る、而して惡來の弟を季勝といふ、其の後裔は趙となる、

季勝生孟增、孟增幸於周成王、是爲宅皐狼、皐狼生衡父、衡父生造父、造父幸於周繆王、造父取驥之乘匹、與桃林盜驪驊騮騄耳、獻之繆王、

【講義】季勝は孟增を生む、孟增は周の成王に寵愛せらる、是を宅皐狼と曰ふ、宅皐狼は衡父を生み、衡父は造父を生む、造父は周の繆王に寵愛せらる、乃ち良馬八頭及び桃林の野に産したる盜驪と驊騮と騄耳との神駿を取りて、之を繆王に獻上したり、

【字解】驥、良馬なり、一日に千里を走るといふ、乘匹、八馬なり、乘は四馬なり、匹は二なり、乘匹は四馬を二倍したるものなり、桃林、陝西の原野なり、牛馬

（目錄終）

史記國字解第四卷　目録

第四巻

世家下

趙世家第十三より三王世家第三十に至る

菊池晩香講述

史記國字解

四

史記國字解